**辰馬鎌藏**　從四位勳三等、内務技師、名古屋土木出張所長、兵庫縣在籍
妻　トヨ　明二七、一〇生、佐賀、士、大野吉利六女

君は大阪府人中尾又一郎の五男にして辰馬吉左衛門淺尾豐一の養弟なり明治十五年二月を以て生れ辰馬悦藏先々代悦叟の養子となり同四十五年分れて一家を創立す同四十年京都帝國大學理工科大學を卒業し同年内務技手となり次で内務技師に任じ東京第二土木出張所東京土木出張所各勤務を經て現時名古屋土木出張所長たり大正七年陸軍工兵少尉に任ぜられ同十三年歐米各國に出張す（名古屋、東、上堅杉ノ町四ノ一電東四五九一）
參照＝淺尾豐一、辰馬悦藏、辰馬吉左衛門※井上彌兵衛の項

**辰馬吉左衛門**　勳三等、辰馬海上火災保險(株)社長神戸海上運送火災保險各(株)取締役辰馬汽船、辰馬本家酒造、夙川土地、三十四銀行各(株)相談役兵庫縣在籍
妻　任男子　明一四、一二生、子爵松平直德姪
男　吉男　明三九、二生

君は兵庫縣人辰馬悦藏の長男にして當主悦藏の伯父淺尾豐一の兄辰馬鎌藏の養兄なり明治元年五月を以て生れ本家嗣子なきに依り先代たきの養子となり同三十年家督を相續し前名篤市を改む當家は代々酒造業を營み銘酒白鹿釀造元として著はる現時營業を辰馬本家酒造會社に移し其他辰馬汽船辰馬海上火災保險夙川土地各會社を創設して之が重役たり傍ら前掲銀行會社の重役に擧げられ明治四十五年貴族院議員に互選せらる又大正九年財團法人辰馬學院を設立し私立甲陽中學校を經營し其他公共に盡す處尠らず曩に紺綬褒章を昭和二年同飾版を賜ひ勳三等に敍せらる養妹ひろ（明八、八生）は分家して大阪府人金澤仁作弟六郎を迎へりA一五二六〇五（西宮、鞍掛町一二五電西宮三三三）
參照＝子爵松平直德、淺尾豐一、辰馬悦藏、辰馬鎌藏、辰馬吉男※子爵品川清太郎※井上彌兵衛※金澤仁兵衛の項

**辰馬半右衛門**　勳六等、鳴尾村長　兵庫縣在籍
妻　清子　明一七、八生、子爵水野忠顯叔母
男　明　明四一、四生

當家は舊くより兵庫縣鳴尾村に土着せる舊家なり君は先代半右衛門の二男にして明治十年八月を以て生れ同二十五年家督を相續し前名發藏を改め襲名す代々酒造業を營み現時鳴尾村長に擧げらる長女恭子（明三四、四生、金蘭會高女出身）は東京府人鍋島二郎に二女慶子（同三五、四生、梅田高女出身）は兵庫縣人辰馬半藏長男章藏に嫁せりA六九六（兵庫、武庫、鳴尾村電西宮七三七）
參照＝子爵水野忠顯の項

**辰馬半左衛門**　兵庫縣多額納税者、酒造業　兵庫縣在籍
父　市左衛門　嘉永三、五生
繼母　あい　慶應三、三生、大阪、濱田嘉治妹
妻　トキ　明二四、二生、京都、中澤利八妹

君は兵庫縣人辰馬市左衛門の二男にして明治二十年三月を以て生れ大正十一年兄半左衛門の後を承け家督を相續し前名脩藏を改め襲名す家代々酒造業を營み名聲あり現に直接國稅二千百六十五圓を納め兵庫縣多額納稅者たり家族は倚弟容藏（明二五、四生）妹艷（同二九、五生）弟程藏（同三五、五生、經濟學士）あり姉しな（同一四、一〇生）は同縣人山下孝介に同凉（同三一、二生、金蘭會高女出身）は同縣人辻眞太郎二男有之祐に嫁し弟厲藏（同三三、六生、大阪高商出身）は大阪府人岸本萬亂四女郁の入夫となれり（兵庫、武庫、鳴尾村）
參照＝岸本萬亂、中澤利八の項

**辰馬勇治郎**　辰馬汽船(株)社長、辰馬本家酒造(株)常務取締役、安治川土地、西宮礦業、辰馬海上火災保險各(株)取締役安治川興業、夙川土地、阪神電氣鐵道各(株)監查役、兵庫縣在籍
妻　潤　明元、四生、兵庫、辰馬利一養姉子爵大久保教尚叔母
男　龍　明三三、三生、大阪高商出身、米國ワシントン大學留學
婦　雅子　明四三、五生、長男龍妻、子爵大久保忠言妹
男　龍雄　明三六、七生、米國ワシントン大學留學
婦　米子　明四四、一生、二男龍雄妻、男爵本莊宗正叔母

君は奈良縣人辻政太郎の弟にして明治元年四月を以て生れ同二十九年先代潤の入夫となり家督を相續す現時辰馬汽船會社々長たる外前記諸會社の重役を兼ぬ曩に推されて西宮市會議長たりしことあり（西宮、濱町一一電西宮五三七）
參照＝子爵大久保忠言、子爵大久保教尚、男爵本莊宗正、辰馬利一の項

**辰馬吉男**　辰馬本家酒造(株)取締役　兵庫縣在籍
父　吉左衛門　明元、五生、現戸主

君は兵庫縣人辰馬吉左衛門の長男にして明治三十九年二月を以て生る昭和二年關西學院高等部文科を卒業し父を補佐し現時辰馬本家酒造會社取締役たりA三五五五（西宮、鞍掛町一二五）
參照＝辰馬吉左衛門の項

**辰馬利一**　惠美酒銀行(株)頭取、日本攝酒(株)社長、酒造業、兵庫縣在籍
妻　あい　明一〇、五生、故大審院長兒島惟謙二女
男　力　明二九、一生、慶大理財科出身
婦　美代子　明三九、四生、男爵毛利忠男姉、學習院女學部出身
男　俊夫　明三二、三生
男　猛　明三四、九生

君は兵庫縣人成瀬ゑいの弟にして明治四年十二月を以て生れ先代喜重郎の養子となり同二十九年家督を相續す同二十六年慶應義塾を卒業し家業を繼ぎて酒造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして曩に兵庫縣多額納稅者たり家族は倚孫貞子（昭三、七生、長男力長女）あり養姉潤（明元、四生）は分家し奈良縣人辻勇治郎を迎へり（西宮、濱町三二電西宮一一六）
參照＝男爵毛利忠男、辰馬勇治郎※子爵河瀬眞※井上準之助※西園寺龜次郎の項

**辰巳英一**　三井鑛山(株)臨時窒素工場建設部三池出張所長、石川縣在籍
妻　ツマ　明三一、六生、深川喜次郎四女

君は石川縣人辰巳和十郎の長男にして明治十九年七月を以て生れ同二十一年家督を相續す同四十二年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し現時三井鑛山臨時窒素工場建設部三池出張所長たり家族は倚ほ長女和子（大一二、三生）あり（大牟田、山上町二〇）





**辰巳宗太郎**　基隆劇場(株)代表取締役、臺灣水產、臺灣炭礦、臺北魚市場各(株)取締役基隆市協議會員、奈良縣在籍
繼母　ミネ　文久三、八生、大阪、樫村利平二女
妻　マサエ　明一九、一生、奈良、大門又三二女

君は奈良縣人辰巳宗二郎の長男にして明治八年四月を以て生れ大正七年家督を相續す先是東京私立商業學校を卒業し鑛山業に從事し臺灣炭礦會社取締役たる外前記會社の重役にして基隆市協議會員に推さる家族は倚弟眞藏（明二九、九生）同妻タカ（同三二、六生、京都柏木ハル姪）及其一子あり弟良三（同一七、二生）同妻エミ（同二三、一〇生、淺野庄次二女）は其子女を伴ひ分家せり（基隆、田寮港四八）

**辰巳楢太郎**　奈良縣多額納税者、農業　奈良縣在籍
妻　キクエ　明七、八生、奈良、橋本善太郎長女
男　平一郎　明二三、四生、早大法科出身
婦　共　明二六、一一生、長男平一郎妻、兵庫、松尾仁兵衛長女

辰巳家は奈良縣下法隆寺村土着の農家にして其始祖より既に三百年を經過せる舊家なり君は先代平四郎の長男にして慶應元年二月を以て生れ明治二十五年家督を相續す祖業を承けて農を營み現に縣下の多額納稅者にして直接國稅八百九十一圓を納む曩に貴族院議員に互選せらる閑暇漢詩を趣味とす家族は倚孫清德（大七、九生、長男平一郎長男）同豐子（同八、一一生、同長女）同清泰（同一一、二生、同二男）同俊子（同一五、一〇生、同二女）あり二男平次郎（明二七、七生、關大法科出身）は大阪府人大江萬助養母マスの養子となり長女リウ（同二五、二生）は同府人筧半兵衛養子傳に養子コウ（同一二、一二生、奈良、乾伊平三女）は奈良縣人乾奈良吉に嫁し二女清子（同四〇、四生）は分家せり（奈良、生駒、法隆寺村）
參照＝※小田仙太郎の項

**辰村米吉**　藥種商並土木建築請負業　石川縣士族
繼母　よれ　明一二、三生、石川、米田詮吉長女
妻　榮　明三八、九生、東京、山田忠一二女、雙葉高女出身
男　正治　大一二、五生

君は石川縣士族先代米吉の長男にして明治三十一年八月を以て生れ昭和三年家督を相續し前名豐治を改め襲名す父米吉は夙に實業界に入り土木建築請負業を營み金澤軌道興業會社長の外諸會社の重役に就任し石川縣多額納稅者に列し金澤商工會議所會頭に推され同地實業界に重きをなせり君其後を享け夙に早稻田大學理工學部を卒業し土木建築請負業並に藥種商龜田藥舗料亭望月を經營す家族は倚四男直治（昭二、六生）妹美代子（明四四、二生）同千代子（大二、九生）弟吉治（同六、一二生）妹愛子（同一〇、三生）あり弟榮治（明三三、三生）同國治（同三五年生）は各分家し同恒男（大七、一一生）は石川縣山本家の養子となり養姉外美（明二〇、二生、石川、士、島倉吉次姉）は同縣人畠山一清に妹喜代子は同縣人鶴谷外喜雄に同時子（同三七、三生）は福岡縣人神谷正男に嫁せりA一六六七B一七三（金澤、片町八七電五一四）
參照＝畠山一清の項

**龍居頼三**　從五位勳四等、服部時計店(株)監查役、東京府在籍
妻　あい　安政六、五生、大阪、奥田恒七長女
男　松之助　明一七、一生、現戸主、文學士、日本女子大學校教授
婦　道子　明三八、二生、長男松之助妻、大阪、近藤力藏三女
男　五郎　明三五、九生
婦　節子　明四四、二生、五男五郎妻、東京天谷知彰三女
孫　珠　明四五、二生、長男松之助長女

君は東京府人龍居泰兵衛の長男にして安政三年九月を以て生れ後家督を相續し大正十二年隱退す曾て職を内閣に奉ぜしが後辭して日報社に入り操觚の業に從事す明治三十一年農商務大臣秘書官となり幾何もなく之を辭し再び日報社に入り理事となり後南滿洲鐵道會社秘書役長を經て理事に進み大正十年滿期之を辭し現時服部時計店監查役たり家族は倚孫桂一郎（大三、三生、長男松之助長男）同明（昭四、一一生、五男五郎長男）あり長女小濱（明一一、四生）は東京府人佐伯安に二女栗子（同一四、二生）は愛知縣人大八木義雄に嫁し三男喜久三（同二二、一〇生）は大阪府人奥田うたの養子となれり（東京、赤坂、青山北町六ノ五七電青山六八一）
參照＝大八木義雄の項

**龍江義信**　海南產業(株)取締役會長、南米土地(株)代表取締役、海外興業(株)專務取締役、東印度起業、秘露棉花、墨國產業各(株)取締役、福井縣在籍
妻　清　明二一、六生、東京、五十嵐千代松二女
男　義知　明四二、一生、東京帝大在學
男　義明　明四四、五生、慶大在學

君は福井縣人龍江性信の長男にして明治七年三月を以て生れ同二十七年家督を相續し前名義丸を改む同二十九年京都文學寮大學部を卒業直ちに帝國大學理科大學に入り人類科を特修し後濠洲に航しニウギニアを探險し在留八ヶ年歸朝して日露戰役に從軍し尋で大連本願寺關東別院主任となる後東洋拓殖會社創立に際し朝鮮に赴任在鮮九ヶ年大正六年海外興業會社創立せらるゝや入りて專務取締役となり今日に至る倚海南產業會社取締役會長に推され傍ら前記各會社の重役たり（東京市外馬込町三八二七電高輪三三六八）

**龍岡榮吉**　國際信託、東京セルロイド加工所各(株)取締役、鹿兒島縣士族
妻　コウ　明一八、三生、鹿兒島、士、山下啓次郎妹

君は鹿兒島縣士族倉岡政利の三男にして明治六年五月を以て生れ先代毅右衛門の養子となり同十八年家督を相續す現時前記各會社の重役にして曩に滋賀縣農工北海道拓殖各銀行員及び十五銀行本店營業部長たりし事あり（東京市外千駄ヶ谷町原宿一一〇電青山二〇六七）
參照＝※大山綱昌の項

**龍口了信**　勳四等、高輪中學校、高輪商業學校各校主、東京府在籍
妻　玉枝　明三三、五生、廣島、山脇松太郎二女
男　健一　昭五、九生
婦　千代子　明三一、四生、亡養子護信妻、廣島、新見喜代槌長女

君は廣島縣人龍口了海の二男にして慶應三年十月を以て生れ大正九年兒了照方より分れて一家を創立す明治二十七年東京帝國大學文科大學國史學科を卒業し廣島縣立第一中學校教諭同縣立第三中學校長本派本願寺文

學寮教授同執行所幹事布教講究所長臺灣布教總督等を經て現時前記各學校の經營に當る義に衆議院議員に當選すること二回に及ぶ家族は倘養子多賀子（大一三、三生、廣島、岡田要倍孫）孫信義（同一〇、二生、亡養子護信長男）同信實（同一一、三生、同二男）同信宏（同一三、三生、同三男）同信光（同一五、六生、同四男）同昭子（昭二、八生、同長女）あり長女一枝（明三九、三生）は福井縣人勝山善讓四男數麿に嫁せりA八一二（東京市外蒲田町北蒲田九〇〇電蒲田七二九）

**龍野昌之**　住友別子鑛山(株)常務取締役　岡山縣在籍

妻　みち　明二〇、一二生、東京、太田淺吉長女

男　一彥　明四三、三生、成城高校在學

君は岡山縣人龍野五平の五男にして明治十八年三月を以て生れ同二十六年兄銈太の後を承け家督を相續す同四十二年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業し後米國マッサチユーセッツ・インスチチユート・オブ・テクノロヂーに學ぶ爾後外遊三回明治四十二年住友家に奉職し現時前記會社の重役たり家族は倘二男得三（大元、一二生）四男四郎（同四、一二生）あり二男昌二（明四四、六生）は岡山縣人安井勝次の養子となれりA一八〇〇（愛媛、新居、濱町惣開電三六）

**龍見千太郎**　奈良縣北葛城郡瀨南村長、大阪株式取引所一般取引員、奈良縣在籍

母　マツヱ　嘉永元、七生、奈良、藤本伊平三女

妻　トヨ　明一三、一生、奈良、中尾定四郎五女

男　佐舗　明三七、九生

男　吉雄　明四〇、七生

女　正子　大四、一〇生

君は奈良縣人龍見彌三平の長男にして明治十年一月を以て生れ同三十八年家督を相續す現時大阪株式取引所一般取引員にして瀨南村長の公職にあり家族は倘三男正夫（大元、一二生）四男幾三（同八、一〇生）あり長女幸野（明三四、五生）は奈良縣人松田三郎に嫁し弟佐太郎（同二〇、一二生）同妻スヱ（同二八、一〇生、奈良、吉川與十郎五女）は共に分家せりA一二四四B三八四（大阪、東、北濱二ノ二五電本局二〇九四）

**巽孝之丞**　横濱正金銀行、日佛銀行各(株)取締役、和歌山縣在籍

妻　シケ　明一八、六生、熊本、辻太姉

男　希平　明四四、五生

女　まさ　明四〇、九生、雙葉高女出身

女　いさ　明四二、四生、雙葉高女出身

女　ゆき　明四三、四生

女　ハナ　大二、三生、雙葉高女出身

君は和歌山縣士族吉川定之進の長男にして中村啓次郎の兄なり元治元年十二月を以て生れ先代啓吉の養子となり明治十七年家督を相續す夙に慶應義塾に學び後横濱正金銀行に入り同行倫敦支店支配人となり大正三年取締役に就任し傍ら日佛銀行取締役として今日に至る大正九年世界大戰及平和條約締結の功に依り勳三等に敍せらる家族は倘三男豐彥（大五、九生）五女やす（同一〇、一〇生）あり（東京、北多摩、府中町電府中六一）

參照＝中村啓次郎※長島毅※松山陽太郎の項

**巽精一**　日本晝夜銀行(株)新町支店長　大阪府在籍

母　ムツ　明三、七生、大阪、龜山宗二二女

妻　シヅ　明二八、七生、大阪、鎌田英藏養妹

男　清治　大八、一二生

女　喜代子　大五、四生

君は大阪府人巽定松の長男にして明治二十一年七月を以て生れ同年家督を相續す大正二年早稻田大學商科を卒業し現時日本晝夜銀行新町支店長たり家族は倘二女富美子（大七、一生）三女千賀子（同一一、一二生）あり（大阪、住吉、住吉町七九五ノ一電戎四四六八）

參照＝鎌田英藏の項

**立作太郎**　從三位勳一等、法學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學教授、法學部勤務、宮內省御用掛　東京府士族

妻　ヒサコ　明二〇、一〇生、山口、士、藤井三郎養母

男　正嘉　明三九、一二生、法學士、日本銀行員

男　武雄　明四一、六生、東大經濟學部在學

女　フミ　明四四、三生、自由學園出身

女　祥子　大三、三生、自由學園在學

君は東京府士族立嘉一の長男にして明治七年三月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し國際公法專攻の爲に大學院に入る同三十三年外交史研究の爲獨佛英各國に留學し歸朝後東京帝國大學法科大學助教授同教授に歷任し同三十八年法學博士の學位を受く同四十一年學術視察の爲歐米各國に差遣せられ同時に英國倫敦に於ける海戰法規會議開設の專門委員仰付けられ又大正九年學士院會員仰付けらる義に巴里媾和會議及華盛頓會議に際して全權委員隨員として出張す家族は倘三男明正（大元、一二生）四男壽彌（同五、一〇生）三女綾子（同一〇、三生）四女澄（同一二、一生）五男重文（同一四、一二生）あり（東京市外大崎町下大崎七〇電高輪一〇九）

**立石謙輔**　正四位勳三等、判事、名古屋控訴院長、東京府士族

妻　きん　明四、九生、東京、伊崎福松長女

君は東京府士族立石包正の長男にして同信郎の兄なり明治九年九月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十七年判事に任じ東京地方裁判所判事同部長東京控訴院部長横濱地方裁判所長札幌控訴院長司法省刑事局長等に歷補し昭和二年名古屋控訴院長に轉ず同年十月國際私法上の事項に關する萬國會議帝國委員として海牙に出張を命ぜらる家族は倘弟武三郎（明一五、一二生）同妻彰（同二二、四生、奈良、櫻井德義姉）及其子女あり姉ひさ（同六、二生）は愛知縣士族中川庄司に嫁せり（名古屋、東、東外堀一ノ三控訴院長官舍電東五一）

參照＝立石信郎の項

**立石善平**　福岡縣多額納稅者、海產物商　福岡縣在籍

妻　タキ　明二六、五生、福岡、高野寬次二女

男　善一　大一二、八生

女　悅子　大三、四生

女　雅子　大四、一〇生

君は福岡縣人先代善平の長男にして明治二十三年五月を以て生れ大正十年家督を相續し前名善五郎を改め襲名す海產物商を營み直接國稅三千四百六十圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は倘三女智惠子（大七、九生）四女博子（同九、九生）あり（福岡市對馬小路町二三電二二四五）





**立石種一**　從五位勳五等、判事、甲府地方裁判所長、佐賀縣士族

父　彌八　嘉永六、一生、現戶主

妻　すゑの　明一八、一生、福井、淺川隆妹

男　龍彥　大六、五生

女　芳枝　明四三、一〇生

養子　千代　明四〇、五生、東京、大竹信藏長女

君は佐賀縣士族立石彌八の長男にして明治十二年三月を以て生る同四十一年東京帝國大學獨法科を卒業し同四十三年判事に任じ長野區同地方那覇區同地方各裁判所判事を經て朝鮮總督府判事に轉じ平壤地方法院鎭南浦支廳平壤地方法院各判事朝鮮總督府事務官等を歷補し再び判事に任じ大阪區同地方各裁判所判事大阪控訴院判事大津地方裁判所部長京都區裁判所判事兼京都地方裁判所判事京都區裁判所監督判事東京區裁判所監督判事を經て現時前記官職に在り家族は倘弟今朝雄（明三二、一一生）あり妹シツ（同一七、一生）は佐賀縣士族高岡善太郎弟竹一に同ツヤ（同二〇、八生）は福岡縣人高倉三吾養子周藏に嫁し同ユキ（同二九、二生）は佐賀縣人山下內藏右衞門に同妻子（同三六、八生）は同縣士族高岡善太郎弟竹一に各養子となれり（東京四谷、花園町八六電四谷六〇三六）

**立石知滿**　東京府會議員、池上電氣鐵道(株)監查役、米穀商、東京府在籍

妻　すみ　明一九、一二生、千葉、平野仁右衞門叔母

養子　知正　大四、二生、生母、東京、柴崎富美

君は東京府人立石知周の長男にして明治七年十月を以て生れ同三十一年家督を相續す米穀商を營み傍ら前記會社の重役にして推されて東京府會議員たり家族は倘庶子清次（大九、三生、生母、千葉、竹內はな）甥數（同七、五生、亡弟清長男）あり亡弟清妻わさ（明二八、一一生、靜岡、前田龜吉妹）は長野縣人小林嘉重に嫁し姪秀子（大元、一一生、亡弟清長女）は靜岡縣人前田らくの養子となれりA二三〇五B一〇〇（東京市外大崎町下大崎四五八電高輪二七九）

參照＝※平野哲五郎の項

**立石信郎**　從四位勳三等、商工省貿易局長兼臨時產業合理局事務官　東京府在籍

妻　サツ　明二五、四生、東京、佐々木勇之助二女

男　正夫　明四五、五生

君は東京府士族立石包正の三男にして同謙輔の弟なり明治十七年十一月を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す同四十一年文官高等試驗に合格し翌四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同四十四年農商務書記官兼同省參事官に任じ爾來農商務大臣祕書官臨時產業調查局事務官戰時保險局事務官簡易保險局書記官農商務大臣官房文書課長東京鑛山監督局長製鐵所理事同販賣部長兼東京出張所長等に歷任し昭和五年現在の官職に轉任す家族は倘三男逢夫（大五、一生）四男義夫（同七、三生）長女貞（同一〇、一生）五男哲夫（同一一、八生）六男英夫（同一三、四生）あり（東京市外千駄ヶ谷町千駄ヶ谷八三四電四谷五六〇〇）

參照＝佐々木勇之助、立石謙輔※岡實※佐々木謙一郎※佐々木興一※佐々木修二郎※佐々木和三郎※鈴木重道※關原忠三の項

**立岩巖**　從五位、朝鮮總督府技師、朝鮮總督府地質調查所勤務、福島縣士族

父　震作　慶應二、九生、山形、士、宇津江清次二男、現戶主

母　フサ　元治元、三生、祖父一郎二女

妻　セツ　明三六、四生、神奈川、湯目吉十郎二女

男　寧　大一四、五生

君は福島縣士族立岩震作の二男にして明治二十七年十二月を以て生る大正八年東京帝國大學理學部地質學科を卒業し直ちに朝鮮總督府技手殖產局鑛務課兼地質調查所勤務となり同九年同技師に進み現時地質調查所勤務たり家族は倘長女ヨシ（大一二、九生）二女倚子（昭二、一生）二男彬（同四、七生）の外兄享（明二一、七生）同妻ツユ（同三二、三生、東京、西村新一郎二女）及其一男二女あり妹ノブ（同三二、一二生）は福島縣人鈴木常吉に嫁せり（京城、大和町二丁目官舍三四號）

參照＝西村新一郎の項

**立川伊三郎**　從五位勳五等、富山縣師範學校長　宮崎縣在籍

母　コト　安政二、九生、大阪、渡邊作兵衞長女

妻　オトセ　明二一、五生、宮崎、士、川名雄吉長女

養子　忍　明四四、一生、宮崎、山田晴雄弟

君は宮崎縣人立川和助の長男にして明治十三年二月を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す夙に東京高等師範學校を卒業し宮崎縣長野縣長崎縣鹿兒島縣第一各師範學校教諭を歷任し大正十一年師範學校長に陞任新潟縣高田師範學校長奈良縣女子師範學校長を經て昭和六年富山縣師範學校長に補せらる弟美夫（明二四、九生）は宮崎縣人兒玉モトの養子となり妹ケサ（同二一、一生）は同縣人黑木久平に嫁せり（富山市富山師範學校）

**立川二郎**　正五位勳四等、朝鮮總督府判事、新義州地方法院長、大分縣士族

妻　としゑ　明七、二生、和歌山、川口安之助妹

君は舊豐後杵築藩士立川正勝の長男にして明治八年二月を以て生れ同二十九年家督を相續す大阪區同地方福井地方東京區各裁判所書記となり同三十七年日本大學を卒業し同年判檢事登用試驗に合格し同三十九年判事に任じ山口區同地方各裁判所判事となり同四十二年朝鮮總督府判事に轉じ晉州地方大邱地方各裁判所判事大邱地方法院同覆審法院各判事京城地方法院部長光州地方法院木浦支廳判事大邱覆審法院部長平壤覆審法院部長公州地方法院長を經て昭和四年現職に轉ず（新義州本町、地方法院官舍）

**立川太郎**　從六位、衆議院議員（東京府選出）東京市街電燈(株)社長、辯護士　廣島縣在籍

母　マサ　元治元、二生、廣島、立川東太郎長女

男　正辰　大五、三生

君は廣島縣人立川斧太郎の長男にして明治十七年四月を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し次で文官高等試驗に合格し警視廳警部同監察官に歷任し後官を辭し辯護士を開業し今日に至る義に牛込區會議員東京市會議員に擧げられ又日東紡績會社取締役たりしことあり現に前記會社の重役にして昭和三年以來衆議院議員に當選すること二回立憲政友會所屬たり家族は倘二女慶子（大七、一一生）三女伸子（同九、一生）姉タメ（明一三、一〇生）妹壽子（同三六、二生）あり長女清子（大六、七生）は群馬縣人細谷源四郎の養子となり妹品子（明二四、一一生）は廣島縣人金尾知之に嫁せり（東京、牛込、市

谷柳町二五電牛込二五三五)

## 立川廣
揖斐川電氣㈱常務取締役、揖斐川電力㈱取締役、立川㈴無限責任社員
東京府在籍

妻 芳子 明二七、三生、大阪、壺井久孫
庶子 盛夫 大六、一生、生母、京都、清水つゆ
庶子 榮子 大二、一〇生、生母、京都、清水つゆ

君は東京府人立川勇次郎の二男にして同龍の弟なり明治十八年一月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す先是同二年東京帝國大學法科大學商學科を卒業し現時前記會社の重役たり(東京市外千駄谷町千駄ヶ谷九一六電四谷四二四)
參照=立川龍の項

## 立川利平
茨城縣多額納稅者、農業
茨城縣在籍

妻 せむ 明一〇、一〇生、養父利平長女
男 巖 明四四、八生
養子 隆 明三三、九生、三女その夫、茨城 佐藤儀兵衞三男
女 その 明三八、三生、養子隆妻
女 安佐 大五、一二生

君は茨城縣人佐藤儀兵衞の弟にして明治四年五月を以て生れ先代利平の養子となり大正九年家督を相續し後前名定吉を改め襲名す農業を營み直接國稅二千三百四十三圓を納めて縣下の多額納稅者たり家族は倚四男憲造(大三、四生)孫悅子(同一三、七生、養子隆長女)同律子(同一五、八生、同二女)同裕子(昭四、九生、同三女)あり二女ます(明三三、一〇生)は茨城縣人立川龜次郎に四女千代(同四一、八生)は同縣人木下繁三郎長男繁一に嫁せり(茨城、西茨城、宍戸町)

## 立川龍
大正電球、聯合紙器、日本電球、川北殖産、東京電氣、日本電飾、關西聯合電球、揖斐川電氣、帝國聯合電球各㈱取締役、立川㈴代表社員、東京府士族

妻 香 明二三、一〇生、工學博士笠井愛次郎二女
男 龍郎 明四五、一生
女 智惠子 大二、一〇生
女 壽美子 大四、一生

君は故實業家立川勇次郎の長男にして同廣の兄なり明治十五年十二月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時立川合名會社代表社員の外前記諸會社の重役たり家族は倚二男虎郎(大五、三生)三女美枝子(同八、四生)三男正郎(同一二、三生)四男義郎(同一四、九生)あり(東京、赤坂、青山高樹町八電青山三二二)
參照=笠井愛次郎、立川廣※石川文吾※齋藤恒一※齋藤恒三※田原良純の項

## 立川六郎
勳八等、鎭南浦商業會議所常務員
鎭南浦倉庫㈱專務取締役
長崎縣在籍

妻 チセ 明一九、五生、大分、士、角恒吉妹
男 不二男 大九、六生

君は長崎縣人立川官平の庶子にして明治九年八月を以て生れ大正元年分れて一家を創立す長崎中學校を卒業し稅關支署長鎭南浦府協議員等の職に在りしが現時鎭南浦商業會議所常務員にして鎭南浦倉庫會社專務取締役たり二女貞子(明三六、二生)は長崎縣人岡部正治に嫁せり(鎭南浦、龍井町)

## 立木眞一
德島縣參事會員
德島縣士族

妻 傳 明一九、一〇生、德島、江口正一母
女 乃富子 大四、三生

君は德島縣士族立木信造の男にして明治十六年十月を以て生れ大正十年家督を相續す現時德島縣參事會員にして曩に德島商工會議所議員たりし事あり母ハナ(明六、二生、德島、士、緒子寒平叔母)は妹千代子(大二、八生)弟十十六(明四四、一〇生)を伴ひ分家し同蕃(同二二、一一生)は北海道人村田駒吉の養子となれり(德島市富田裏町)
參照=村田蕃の項

## 立澤剛
正五位勳六等、第一高等學校教授
福岡縣在籍

繼母 ヨシナ 明一〇、一一生、熊本、士、隈部直記從妹
妻 トシ 明二六、一一生、福岡、士、佐々木高長女
男 明 大六、七生
女 みは 大三、一一生
女 せつ 大四、一〇生

君は福岡縣人立澤久雄の長男にして明治二十一年九月を以て生れ昭和三年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學文科大學獨逸文學科を卒業し第六高等學校教授を經て現に第一高等學校教授たり曩に大正十二年英獨瑞墺各國に留學を命ぜらる家族は倚三女英(大八、一一生)四女是子(同一〇、一一生)五女淸子(昭二、五生)六女知惠子(同四、一〇生)妹ナホ(明四二、一二生)同イク(大四、七生)あり同ハツセ(明二四、七生)は茨城縣人小川秀吉に養妹唯(同三三、一一生、福岡、士、上原眞吉郎長女)は福岡縣人熊手普に嫁し弟正(同三七、七生)は同縣人吉田嘉作に同道也(同四五、四生)は同縣人吉田正に各養子となれり(東京市外瀧野川町西ヶ原七〇)

## 立野德治郎
正四位勳二等功五級、海軍中將
山口縣在籍

妻 千代野 明二一、九生、山口、兼淸光治郎長女、日本女大家政科出身

君は山口縣人立野吉兵衞の長男にして明治十二年二月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十三年海軍兵學校を卒業し同三十五年海軍少尉に任じ昭和三年海軍中將に陞進す其間海軍大學校を卒業し日向副長第二艦隊參謀第一艦隊參謀兼聯合艦隊參謀木曾艦長軍令部參謀吳海軍々需部長吳鎭守府參謀長第三艦隊司令官橫須賀海軍工廠長等に歷補し昭和五年豫備役編入被仰付家族は倚養子妙子(大九、一〇生、山口、兼淸光治郎孫)あり姉ウタ(明九、一二生)は山口縣人秋富久太郎に妹カメ(同二一、四生)は佐賀縣人金ヶ江鶴助に同ムメ(同二四、九生)は山口縣人有井恒造に嫁し弟芳兵衞(同一六、八生)は同縣人椎木和一の養子となり同豐作(同二七、一〇生)は同縣人兼淸光治郎二女龍の婿養子となれり(山口、都濃、富田町電一一二)

## 立野良藏
莫大小商
大阪府在籍

妻 あさ 明一八、六生、大阪、京崎久七二女
男 良平 明三九、一生、大阪高商出身
男 肇 明四一、一生、大阪高商出身
女 綾 大二、一生、相愛高女出身

君は大阪府人立野勇助の弟にして明治十二年十一月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す莫大小商を營む家族は倚三男良郎(大四、一〇生)あり A一八八九B





五八四(大阪、西、江戸堀南通三ノ二電土佐堀五六七・三四六〇)

## 立花鑑德
從四位、伯爵
舊筑後柳河藩

繼母 鐵子 明五、二生、男爵酒井忠精妹
妻 艷子 明二四、三生、伯爵德川達孝三女
養子 種勝 明三八、九生、子爵立花種忠長男 從五位
女 文子 明四三、六生

當家は鎭西の名族大友氏の支流にして世々筑前國立花城に居り立花と稱し相傳へて鑑連に至る鑑連子なく高橋鑑種の長男統虎を以て嗣とす統虎左近將監宗茂と改め天正年間島津氏と戰つて功あり秀吉之を嘉賞し筑後柳河十二萬石を賜ふ關ヶ原役後一時封を失ひしも後舊領に復し九世を經て鑑寛に至る先代寛治は鑑寛の二男にして立花寛正の兄に當る明治十七年伯爵を授けられ貴族院議員に選ばるゝ事二回又福岡縣多額納稅者に列す君は其長男にして明治十七年二月を以て生れ昭和四年家督を相續し襲爵仰付けらる曩に紺綬褒章を賜ふ家族は倚叔母トシ(慶應二、二生)同貞子(明元、八生)あり姉理子(同一三、七生)は子爵加納久朗先代久宜の養子となり更に子爵立花種忠に妹綱子(同二三、三生)は子爵山内豐英に叔母淸子(同八、一一生)は男爵細川興增長男興生に同春子(同一五、九生)は男爵西高辻信雅に嫁し叔父寛篤(同六、八生)は分家せり(東京、牛込、市ヶ谷仲之町一六電牛込二一七二)
參照=伯爵德川達孝、子爵加納久朗、子爵立花種忠 子爵山内豐英、男爵酒井忠精、男爵西高辻信雅 男爵細川興增、立花寛篤、立花寛正※伯爵溝口直亮※子爵土屋正直※子爵德川武定※子爵渡邊英綱※男爵淺野養長※男爵眞田幸世の項

## 立花馨
從五位、男爵、橫濱正金銀行員
福岡縣華族

養母 カン 慶應二、九生、貴族院議員伊澤多喜男姉
母 滿子 明七、九生、子爵曾我祐邦妹
妻 進子 明三三、一一生、養父小一郎二女 日本女大出身
男 健兒 大一一、七生

當家は先代小一郎より家名を揭ぐ小一郎は舊筑後三池立花藩の家老立花碩の長男に生れ夙に陸軍大學校を卒業し日清戰役に第一軍附參謀として從軍し明治二十八年墺國に留學歐洲各國を巡遊し北淸事變には北淸聯合軍總指揮官司令部補佐となり後淸國軍事顧問として袁世凱を補け日露戰役には第四軍參謀副長大本營附陸軍參謀として功三級に敍し同三十八年ポーツマス講和會議特派全權大使隨員として米國に派遣せらる後陸軍省副官近衞第一旅團長朝鮮軍參謀長朝鮮總督府警務總長同憲兵隊司令官第十九第四各師團長關東軍司令官浦潮派遣軍司令官軍事參議官等に歷補し陸軍大將に陞進す大正十二年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる又鄉里福岡市長となり後貴族院議員に互選さる君其後を享く君は先代小一郎の弟銑三郎の長男にして明治三十年八月を以て生れ後叔父小一郎の養子となり昭和四年家督を相續し襲爵被仰付大正十年東京帝國大學法學部獨法科を卒業し現時橫濱正金銀行に勤務し屢々海外に在勤す家族は倚長女澄子(大九、一一生)二男昭(昭三、六生)あり養兄日出男(明二四、三生)は分家し養姉富士(同二六、八生)は京都府人鴨脚光榮弟光弘に實妹蕃子(同三二、四生)は東京府士族渡邊保治弟正夫に嫁せり(東京市外代々幡町代々木三〇〇電四谷一五〇七)
參照=子爵曾我祐邦、伊澤多喜男※子爵谷儀一※男爵東三條實敏※伊澤勝麿呂※金杉英五郎※河井彌八※友田一郎の項

## 立花貫一郎
從五位、製鐵所技師、動力部電氣課長、福岡縣在籍

父 貫 安政三、一一生、現戶主
母 トヨ 慶應二、四生、福岡、生田直規長女
妻 とみ 明二八、四生、貴族院議員渡邊暢四女

君は福岡縣人立花貫の長男にして明治二十四年十一月を以て生る大正四年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し同七年製鐵所技手に任じ同八年同技師に進み現に動力部電氣課長たり曩に研究の爲め海外に出張す家族は倚長女あい(大八、二生)二女しん(同一〇、九生)三女のぞみ(同一三、一〇生)四女めぐみ(昭三、七生)の外弟俊三(明三六、八生)あり(八幡、製鐵所內)
參照=渡邊暢※石川千代松※中江種一の項

## 立花重次郎
立花商店㈱社長、羅紗商
東京府在籍

母 うた 文久三、四生、東京、町田紋次郎叔母
妻 つれ 明二六、七生、東京、山崎利助二女
男 英夫 大六、一〇生
女 玉枝 大四、六生

君は東京府人先代重次郎の長男にして明治十八年十一月を以て生れ大正三年家督相續と共に襲名して前名鉄之助を改む羅紗商を營み現時立花商店社長たり家族は倚三女滿里子(昭三、二生)あり弟實(明二一、三生)は其妻子を伴ひ妹みき(同三一、一一生)同夫安三郎(同二四、四生、栃木、橫塚作次郎甥、立花商店取締役)は其一女を伴ひ各分家せり(東京、神田、岩本町六電浪花一一二九)
參照=立花實の項

## 立花種忠
從三位勳三等、子爵、陸軍騎兵中尉、貴族院議員、舊筑後三池藩

妻 理子 明一三、七生、子爵加納久朗養姉 伯爵立花鑑德姉
男 忠輝 大三、二生
女 喜美子 明四三、九生

當家は中興の祖高橋入道紹運鎭種の長男立花左近將監宗茂の弟民部少輔直次の後なり直次慶長十八年德川氏に召されて常州柿岡の地五千石を賜り後筑後國三池一萬石を領す文化三年奧州下手渡に移り嘉永年間三池を合せて一萬石を食む先代從二位種恭は鎭種より十二代にして若年寄となり幕末外交の衝に當り明治十七年子爵を授けられ華族學校を興し其長に任ぜられ亞で學習院長貴族院議員等に歷任す君は其八男にして明治十三年一月を以て生れ舊名恭忠を改め同三十八年家督を相續し襲爵す同三十七年學習院を卒業し一年志願兵となり騎兵中尉に進み大正三年貴族院議員に選ばれ現に其任に在り研究會に屬す曩に入新井町長に推さる家族は倚四男忠保(大四、一二生)五男忠明(同八、一〇生)六男忠承(同一〇、一〇生)あり長男種勝(明三八、九生、從五位)は伯爵立花鑑德の養子となり二男忠惠(同四一、一生)は分家し姉敬子(同五、九生)は子爵渡邊英綱先代寛綱に養子喜子(同三四、一〇生)は男爵眞田幸世長男幸邦に嫁し伯父久宜(嘉永元、三生)は子爵加納家を繼ぎ其子久朗當主たり(東京市外入新井町新井宿於伊勢原二〇九三電大森一七二)
參照=伯爵立花鑑德、子爵加納久朗、子爵渡邊英綱、男爵眞田幸世※子爵山內豐英※男爵西高辻信雅※男爵細川興增※麻生太吉※河野秀忠※後

藤文夫※武田三郎※立花寛篤※立花寛正※野田勢次郎の項

## 立花寛篤(トモアツ)

従四位勳四等、掌典、澄宮御用掛　福岡縣在籍

妻　貴子　明一九、六生、子爵柳澤德忠長女
男　寛敬　明三七、三生
女　光子　明四三、三生
女　長子　明四四、一一生

君は伯爵立花鑑德の叔父にして立花寛正の弟なり明治六年八月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す現時掌典にして又澄宮御用掛の職に在り家族は尚二男寛英(大九、六生)ありA二四五(東京市外代々幡町代々木上原一一八九電四谷三二一〇)

參照＝伯爵立花鑑德、子爵柳澤德忠、立花寛正※子爵加納久朗※子爵米田國臣※子爵立花種忠※子爵山内豐英※男爵西高辻信雅※男爵細川興増の項

## 立花寛正

柳河銀行(株)取締役、福岡日々新聞(資)會長、福岡縣士族

妻　千代　元治元、六生、福岡、士、立花規德二女
男　正恕　明一五、一〇生、大阪高工出身
婦　シヅエ　明二七、三生、長男正恕妻、福岡廣橋貫長女

立花家は舊柳河藩主立花家の別家にして祿千石を食み立花大學と稱して家老上席に位せり君實は伯爵立花鑑德の叔父立花寛篤の兄にして安政六年五月を以て生れ明治七年入りて當家を繼ぐ園藝を業とし現時柳河銀行取締役及福岡日々新聞社の創立者にして現に出資者として會長の任にあり嚢に福岡農工銀行の重役に就任し又縣會議員に選ばる閑暇謠曲漁獵を嗜む家族は尚孫正長(大三、四生、長男正恕長男)同正平(同八、五生、同二男)同美代子(同一二、七生、同二女)同正常(同一四、一二生、同三男)あり三女彝(明二二、三生、柳河高女出身)は熊本縣人村津三郎長男才太に四女サト(同二四、二生、出身校同上)は東京府人海軍少將御堀傳造に六女ナカ(同二七、一一生、出身校同上)は熊本縣人出田琢磨兄衞門に七女豐(同三三、五生、出身校同上)は同縣人慶大出身村津重德に九女都磨子(同三九、一一生、出身校同上)は同縣人古田潔二男明大出身定俊に嫁し二男正吉(同三〇、六生)三男正典(同三二、一一生、北海道帝國大學附屬水産學校出身)は各分家せり(福岡、山門、城内村隅町二五合併地)

參照＝伯爵立花鑑德、出田琢磨、立花寛篤、御堀傳造※子爵加納久朗※子爵立花種忠※子爵山内豐英※男爵西高辻信雅※男爵細川興増の項

## 立花實

立花商店(株)專務取締役　東京府在籍

妻　ひで子　明二九、九生、東京、野本玉吉長女
男　淳　大三、二生

君は東京府人立花重次郎の弟にして明治二十一年三月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す現に立花商店專務取締役たり家族は尚二男二郎(大五、一生)三男三郎(同七、一一生)長女惠美子(同一一、一生)あり(東京、神田、駿河臺北甲賀町九電神田三〇六四)

參照＝立花重次郎の項

## 立原任

従七位、工學博士、日本電池、三菱電機、鉛粉塗料各(株)取締役　秋田縣士族

男　芳彦　明三七、八生
男　健彦　明四〇、一生

君は舊佐竹藩士立原甚藏の長男にして明治六年十一月を以て生れ同二十五年家督を相續す第一高等學校を經て東京帝國大學理科大學に入り田中館博士の薫陶を受け同二十八年卒業し第二高等學校教授に任ぜらる同三十年米國に航しゼネラル電氣會社に入り電氣學の大家スタインメッツ博士に就き電氣工學を研究する事一年有半更に獨逸瑞西佛蘭西英吉利等を歷遊して電氣事業を視察し歸朝後三菱合資會社に入り三菱造船會社副長三菱電機會社常務取締役等に擧げられ現時前記諸會社の重役たり明治四十年工學博士の學位を授けらる長女清(明三〇、一二生)は石川縣人時國武二郎に妹チイ(同一三、三生)は秋田縣士族稻川養太郎に嫁し三男正彦(同三六、一生)は高知縣人木村久壽彌太の養子となれりA一五〇〇(東京市外中野町高根八電中野二〇一七)

參照＝木村久壽彌太の項

## 立松省三

日本化學工材(株)取締役、東京株式取引所一般取引員、東京府在籍

母　こと　安政二、九生、愛知、佐藤清七長女
妻　ウタ　明二五、一〇生、神奈川、小幡延吉妹

君は愛知縣人立松文之助の長男にして明治十七年十月を以て生れ同四十年家督を相續す同四十三年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し爾來株式仲買角丸商店に勤務せしが大正八年富士信託會社を創立し自ら專務取締役となり株式現物の賣買に從事す後株式仲買店古谷商店を買收し業況頗る揚る現時東京株式取引所一般取引員にして日本化學工材會社取締役たり妹シゲ(明一九、九生、實踐女學校出身)は千葉縣人地方技師金近義之助に同和可子(同二一、八生、出身校同上)は福井縣人松田恒次郎に同花子(同二六、八生、出身校同上)は東京府人飯塚國三郎に嫁し弟於菟也(同二三、三生)同妻フサエ(同三四、四生、香川、長島房吉三女)は共に分家し弟靖(同二九、三生、法學士)は新潟縣人松田周平の養子となれり(東京、赤坂、新坂町六九電青山六二八〇)

## 立見豐丸

従三位勳三等、子爵、陸軍砲兵大佐、三重縣華族

母　みの　弘化三、一一生、祖父作十郎長女
妻　波子　明二三、八生、子爵毛利元秀妹
男　尚秀　明四三、八生
男　尚俊　明四四、一二生

當家は先代尚文より顯る尚文は舊桑名藩士にして夙に軍籍に入り明治十年陸軍少佐に任じ累進して陸軍大將に陞る其間步兵第一近衞步兵第三各聯隊長第三近衞各師團參謀第十旅團長臺灣總督府軍務局軍務局長第八師團長等に歷補し日清戰役の功に依り功三級を賜ひ特旨を以て華族に列し男爵を授けられ日露戰役の功に依り功二級に敍す君は其二男にして明治十三年一月を以て生れ同四十年家督を繼ぎ襲爵す同四十一年父尚文の勳功に依り子爵に陞さる先是同三十二年陸軍砲兵少尉に任じ大正十年同大佐に累進す其間陸軍士官學校教官東京灣要塞參謀兼横須賀鎭守府參謀山砲兵第一聯隊長野戰重砲兵第七聯隊長等に歷補し同十二年豫備役に編入せらる家族は尚三男辰雄(大五、二生)長女朝子(同六、八生)あり姉ユフ(明七、九生)は陸軍中將高橋義章に妹もと(同一七、五生)は陸軍大將鈴木孝雄に嫁せり(東京市外大久保町西大久保二八電四谷一四七七)

參照＝子爵毛利元秀、鈴木孝雄、高橋義章※子爵秋元春朝※子爵大岡忠量※子爵宍戸功男※子爵鍋島直縄※子爵細川利文の項

## 立山祐右衞門

鹿兒島縣多額納稅者、砂糖雜貨石油商、鹿兒島縣在籍





妻　サト　文久二、八生、鹿兒島、別府藤兵衞二女
男　榮藏　明一九、一生
婦　重　明二三、四生、長男榮藏妻、鹿兒島、藤安辰次郎長女
男　榮之輔　明二六、四生
婦　ツタ　明三六、五生、二男榮之輔妻、鹿兒島、原田覺次郎長女

君は鹿兒島縣人立山與兵衞の二男にして安政六年七月を以て生れ明治五年分れて一家を創立す砂糖雜貨石油商を營み縣下の多額納稅者たり家族は尚孫秀治(大三、四生、長男榮藏長男)同政治(同四、九生、同二男)同美智子(同六、一生、同長女)同美貴子(同一〇、一二生、同三女)同美重子(同一二、一〇生、同四女)同和賀子(昭三、四生、同五女)同富士雄(同二、一〇生、二男榮之輔長男)あり長女トメ(明二一、七生)は大阪府人桑田氏三郎に二女キミ(同二三、四生)は鹿兒島縣人元山藤太郎に三女ヒデ(同三〇、二生)は同縣人重信勇太郎長男勇一郎に四女サヨ(同三二、三生)は同縣人鶴田皎に五女ミヨ(同三四、三生)は同縣人淵上正藏に姉エイ(安政四、三生)は同縣人岩城清左衞門に嫁し三男興平(明二七、一〇生)は分家せり(鹿兒島市呉服町)

參照＝重信勇太郎、藤安辰次郎、元山藤太郎※藤武喜助の項

## 建川美次

正五位勳二等功四級、陸軍少將、參謀本部第二部長、新潟縣在籍

養母　チイ　萬延元、六生、新潟、士、渡邊三平三女
妻　敏　明二一、七生、高知、士、森岡正元四女
男　正美　明四三、八生

君は新潟縣人野崎美孝の三男にして明治十三年十月を以て生れ先代周平の養子となり同三十八年家督を相續す同三十五年陸軍騎兵少尉に任じ昭和三年陸軍少將に累進す其間騎兵第五聯隊長參謀本部課長兼陸軍大學校兵學教官支那在勤公使館附武官等に歷補し昭和四年參謀本部第二部長に補せらる家族は尚二男龍男(大五、一生)三男英男(同八、四生)四男瑞男(同一〇、三生)五男勇(同一二、一〇生)あり長女靜枝(明四一、六生)は愛知縣人陸軍步兵大尉鈴木廉に嫁せり(東京市外澁谷町大山一四電青山六〇〇二)

參照＝※鈴木莊六の項

## 建畠大夢(彌一郎)

従六位、帝國美術院會員、東京美術學校教授、彫刻家、東京府在籍

妻　しげよ　明一九、二生
男　覺造　大八、四生

君は和歌山縣人建畠喜助の四男にして明治十三年二月を以て生れ大正七年兄宇源方より分れて一家を創立す夙に東京美術學校を卒業し現時東京美術學校教授にして帝國美術院會員たり號を大夢と稱し彫刻を以て名あり家族は尚長女房子(大一〇、一〇生)二男惣彌(同一二、一二生)三男嘉門(昭二、一二生)あり(東京市外日暮里町渡邊町一〇四〇電下谷一四〇一)

## 建部秀隆

従二位、子爵、舊播州林田藩

男　光麿　明一三、九生、従四位、學習院高等科出身、第一國際證券(株)代表取締役、日本金剛砥石製作所(株)取締役
男　純夫　明一九、二生
婦　東　明三九、七生、二男純夫妻、東京外ノ池俊治長女

當家は日本武尊の子稻依別王十二世の孫建部益人の後胤にして世々近江に居り後佐々木氏に屬し源姓を冒し一門に列す高光に至り豐臣氏に從ひ尼崎城に居り孫丹波守政長德川氏に屬し播州林田一萬石に封ぜらる夫より十代政世を經て君に至る君實は舊丹波綾部藩主九鬼隆都の六男にして子爵九鬼隆治子爵九鬼隆輝の叔父なり安政四年四月を以て生れ明治十年當家を嗣ぎ同十七年子爵を授けらる家族は尚孫政昭(昭三、八生、二男純夫長男)あり長女淑子(明一六、一二生)は子爵九鬼家執事松尾生一に嫁し三男總(同二一、一二生)五男豪(同二七、一二生)六男亨(同二八、一〇生)は各分家せり(大阪、東、森之宮西之町六四二)

參照＝子爵九鬼隆輝、子爵九鬼隆治※子爵大田原鉉清※子爵一柳末幸※男爵到津公熈※野崎彥左衞門の項

## 館哲二

正五位勳四等、內閣書記官兼法制局參事官、內閣官房總務課長、富山縣在籍

妻　萩枝　明二四、七生、富山、寶田修德長女
男　龍一郎　大一〇、九生
女　靜　大四、五生

君は富山縣人木津太郎平の二男にして明治二十二年五月を以て生れ同四十四年先代萩枝の入夫となり家督を相續す大正三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業す現時內閣書記官兼法制局參事官として內閣官房總務課長たり家族は尚三女薫(大八、一二生)二男秀夫(同一二、九生)あり(東京、麴町、永田町二ノ一官舍電銀座一九四〇)

參照＝木津太郎平※荒野權四郎※木津正治※菅野傳右衞門※島田七郎右衞門※清水辰三郎※室崎間平の項

## 館野榮吉

日米石油(株)取締役、釜平、小麥粉及石油肥料商、東京府在籍

母　キク　慶應三、八生、栃木、伊藤芳次郎長女
妻　かめ　明二五、一生、東京、加藤松次郎長女
男　榮一　大三、一生

當家は舊幕時代より下野國栃木町に住し家號を釜平と稱す君は先代榮吉の長男にして明治十九年三月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名英治郎を改め襲名す明治四十一年東京高等商業學校を卒業す家業を繼承し小麥粉及石油肥料商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尚二男善次郎(大五、八生)三男孝吉(同一二、一二生)弟保之助(明三〇、七生)同妻ウメ(同三三、二生、東京、井戸武次郎妹)及其二子あり妹延(同三八、七生、日本橋高女出身)は東京府人加藤松次郎四男幸助に妹ヨシ(同二四、四生)は栃木縣人伊藤常三郎弟清に嫁せり(東京、日本橋、小網町一ノ五電浪花一一一四)

參照＝伊藤常三郎の項

## 蓼沼憲二

醫學博士、横濱市十全醫院醫員、胃腸科醫長、東京府在籍

妻　こまつ　明三三、一生、養父丈吉五女

君は栃木縣人田村力藏の二男にして明治二十二年二月を以て生れ蓼沼丈吉の養子となり大正十三年養兄丈吉方より分れて一家を創立す同五年東京帝國大學醫科大學を卒業し同十三年醫學博士の學位を受く現時横濱市十全醫院胃腸科醫長たり(東京市外大森町二二電大森七〇八)

參照＝蓼沼丈吉の項

### 蓼沼丈吉

栃木縣多額納稅者、帝國造林(株)取締役、栃木縣農工銀行(株)監査役、農業、栃木縣在籍

養母 コウ 元治元、三生、栃木、蓼沼直造三女
養子 恒吉 明二〇、五生、養子ヨシノ夫、栃木、島田嘉內弟、東京高商出身、日本綿縮製織(株)取締役
養子 ヨシノ 明二七、七生、養子恒吉妻、養父丈吉四女、山脇高女出身

君は栃木縣人蓼沼丈七の二男にして明治八年十二月を以て生れ先代丈吉の養子となり大正八年家督を相續し前名吉次郎を改め襲名す農業を營み前記銀行會社の重役たり財團法人三好園を組織し有爲の學生を援助す栃木縣多額納稅者に列し謠曲に趣味あり家族は倘孫勝三(大四、一〇生、養子恒吉二男)同正子(同六、一〇生、同長女)同芳惠(同九、二生、同二女)同莊治(同一二、九生、同三男)同茂夫(同一五、一生、同四男)同文子(昭三、九生、同三女)あり養妹タマ(明二一、六生)は栃木縣人酒造業島田嘉內に同テイ(同二三、九生)は同弟淸三に嫁し同こまつ(同三三、一生)同夫憲二(同二二、二生、醫學博士)は分家せりA三〇五〇(栃木、安蘇、三好村電田沼三)
參照=蓼沼憲二※天野源七の項

### 伊達翁記

札幌商工會議所副會頭、伊達水產(株)取締役社長、北海道士族

妻 タカ 明一四、八生、養父翁記養子、福島、山崎文三郎長女
男 秀廣 明三六、二生、慶大政治科出身
男 壽夫 明四二、二生
女 貞子 明四四、九生
女 都 大二、一一生
女 和 大四、一二生

君は北海道人岩田金右衞門の二男にして明治十一年八月を以て生れ先代翁記の養子となり同四十一年家督を相續し前名を改め襲名す現時伊達水產會社取締役社長にして推されて札幌商工會議所副會頭たり家族は倘五女福(大六、四生)あり(札幌、北一條西七丁目一)
參照=※岩田宙造の項

### 伊達興宗

正五位、伯爵、慶尙北道內務部長 舊仙臺藩

養祖母 都子 明二、三生、伯爵松浦厚妹
母 巨梅 明一三、一生、岩手、士、留守景福姪
妻 鞠子 明四三、八生、伯爵小笠原長幹四女

當家は左大臣藤原魚名の玄孫中納言山蔭九世の孫常陸介朝宗の後なり朝宗賴朝に從つて奧州伊達郡を賜ひ因つて氏とす十數世の後米澤に移り十七世權中納言政宗に至り豐臣氏の世四隣を平定して岩手山城に移り德川氏の世となりて仙臺城に移り六十二萬五千石を領す其子陸奧守忠宗より十世を經て慶邦に至り維新の際奧羽聯盟に與みして封を削られ二十八萬石となる其子宗基後を繼ぎ明治十七年伯爵を授けらる先代邦宗は其弟にして夙に英國に留學し歸朝後農園を經營す君は邦宗の長男にして明治三十九年十月を以て生れ大正十二年家督を相續し襲爵仰付けらる學習院を經て東京農業大學を修業朝鮮府道事務官を經て現職にあり家族は倘長女登美子(昭五、六生)の外弟宗英(明四一、二生)同宗文(同四四、一生)同宗武(大四、一二生)同宗美(同七、三生)あり姉昭子(明三二、二生)は伯爵酒井忠克弟五郎に同慶子(同三三、一二生)は子爵相馬孟胤弟廣胤に同秀子(同三五、四生)は伯爵堀田正恒に同琦子(同三八、三生)は子爵松井康昭に叔母惠以子(同二七、一生)は伯爵上野正雄に嫁し養伯父宗敦(嘉永五、五生、侯爵伊達宗彰養大叔父)は分家して男爵を授けられ其子宗經當主たり(東京市外大井町二四八電高輪三〇五八)
參照=侯爵伊達宗彰、伯爵上野正雄、伯爵小笠原長幹、伯爵酒井忠克、伯爵堀田正恒、伯爵松浦厚、子爵相馬孟胤、子爵松井康昭、男爵伊達宗經※侯爵大隈信常※侯爵尙裕※伯爵園基久※伯爵伊達興宗※伯爵津輕義孝※伯爵二荒芳德※伯爵松平賴壽※伯爵柳原義光※子爵井上勝純※子爵小笠原忠幸※子爵大久保忠春※子爵大久保敎尙※子爵戶澤正己※子爵丹羽長德※子爵一柳直德※子爵牧野忠良※子爵蒔田廣城※男爵多久龍三郎※男爵三井壽太郎※梅原逸太郎※安田善助光の項

### 伊達成勳

從五位、男爵 舊仙臺藩國老

母 昌 明一四、一〇生、宮城、石川小膳妹

當家は伊達政宗の曾祖父稙宗の第三子兵部大輔實元の後なり其子成實政宗を扶けて創業の功あり支藩亘理三萬石を領す夫より世々同藩國老として十餘世を經て先々代邦成に至り明治二十五年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる夙に北海道に移住して開墾に從事し北海道開拓御用掛有珠紋鼈學校長等に歷任し三男基其後を繼ぐ君は基の長男にして明治三十九年六月を以て生れ昭和三年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は倘妹敎子(明四三、六生、室蘭高女出身)同夫廉夫(同四〇、一二生、子爵加藤泰通弟)あり叔母成子(同一三、二生)は男爵佐竹義利の母にして同龜久子(同一六、一生)は宮城縣人亘理胤正に同佑子(同二四、一〇生)は北海道士族石川光親長男光輝に嫁せり(北海道、有珠、伊達町)
參照=子爵加藤泰通、男爵佐竹義利※伯爵土方久敬※子爵大久保忠言※子爵吉川元光※子爵西尾忠方※男爵吉川重國の項

### 伊達正人

正四位、男爵 舊仙臺藩國老

妻 トモ 明二四、八生、北海道、士、和田直衞二女
男 邦泰 大二、一〇生

當家は仙臺藩主伊達家の一門にして世々同藩の國老として岩出山一萬四千六百石を食み先々代邦直に至る邦直明治二年北海道に移住し同道開拓に努力す君は其孫にして明治十九年八月を以て生れ同二十四年父基理の家督を相續し同二十五年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる家族は倘二男宗篤(大五、一生)二女千代子(同八、一一生)五男邦敬(昭二、八生)六男壽之(同四、五生)弟直溫(明二一、五生)同妻ツル(同三二、八生、北海道、士、吉井政恒二女)及其二男一女あり妹興志(同二三、一生)は岩手縣人上郡山德爲長男德雄に同モリ(同二四、六生)は宮城縣人伊達宗夫に嫁せり(北海道、石狩、當別村)

### 伊達宗彰

正五位、侯爵、司稅官、長野稅務署長、舊宇和島藩

養母 孝子 明七、一一生、侯爵德川賴貞叔母

當家は中納言伊達政宗の長子遠江守秀宗の後なり秀宗慶長十九年伊豫國宇和島十萬石に封ぜられ夫より六世を經て從一位勳一等宗城に至る宗城維新の際國事に奔走して盛名あり明治初年外國知官事民部卿大藏卿に歷任して大に勳功あり宗德其後を承け明治十七年伯爵を授けられ同二十四年侯爵に陞さる先代宗陳は其長男にして夙に英國に留學し歸朝後式部官主獵官宮中顧問官等に歷任す君其後を嗣ぐ君實は先代宗陳の弟分家元式部官陸軍步兵中佐伊達紀隆の三男にして母智子は子爵北條雋八の姉なり明治三十八年三月を以て生れ伯父宗陳の養子となり大正十二年家督を相續し襲爵仰付けられ前名彰を改む松山高等學校を經て東京帝國大學法學部に入り在學中高等試驗に合格し昭和二年卒業と共に大藏屬に任ぜられ現時司稅官長野稅務署長たり家族は倘大叔母國子あり故北白川宮能久親王妃富子殿下は君の伯母にして伯父康虎は故子爵本多康穰の養子となり其子猶一郎當主たり叔父故武四郎は同妻閑(子伯爵松浦厚妹)を伴ひ分家し同十郎は其養子となり同剛吉郎は宇和島藩士土居通夫に同長德は故子爵丹羽長國に同直德は子爵一柳紹念に各養子となり同芳德は伯爵二荒家を相續し大叔父幸民は眞田幸敎の養子となり伯爵を授けられ其孫幸治當主たり同宗敦は伯爵伊達興宗曾祖父慶邦の養子となり後分家して男爵を授けられ其男宗經當主たり同昌邁は奧平昌服の養子となり伯爵を授けられ其子昌恭當主にして同信廣は子爵瀧脇信成の養子となり同忠良は牧野忠泰の後を繼ぎ子爵を授けられ同宗倫は分家し同宗曜其後を繼ぎ其子宗克當主たり同廣城は子爵蒔田廣孝の養子となり大伯母初子は伯爵柳原義光先代前光に同敏子は宇和島藩老臣松根圖書嫡男城臣に同照子は男爵三井壽太郎先代八郎次郎に同順子は宇和島藩老臣桑折紀望嫡男城方に嫁し同泰子は東京府人佐和正の養子となり後同府士族坂田春雄養子九郎に嫁せり(東京、芝、白金三光町五二〇電高輪六六〇〇・七七〇〇)
參照=侯爵德川賴貞、伯爵奧平昌恭、伯爵眞田幸治、伯爵伊達興宗、伯爵二荒芳德、子爵松浦厚、伯爵柳原義光、子爵丹羽長德、子爵蒔田廣城、子爵牧野忠良、子爵本田猶一郎、男爵一柳直德、男爵北條雋八、男爵伊達宗克、男爵伊達宗經、男爵三井壽太郎、土居剛吉郎※公爵德大寺公弘※侯爵大隈信常※伯爵園基久※伯爵松平賴壽※子爵井上勝純※子爵大久保敎尙※子爵大久保忠春※子爵戶澤正己※子爵堀田正路※子爵本多正復※子爵松井康昭※子爵松浦靖※大村鍋太郎※渡邊直達の項



### 伊達宗克

從五位、男爵、陸軍砲兵中尉 伊達侯爵家分家

母 富貴子 明一三、五生、子爵伊達宗定叔母

當家は舊宇和島藩主從一位勳一等伊達宗城の八男宗倫の立つる所なり宗倫明治二十五年養兄從三位侯爵宗德方より分れて一家を爲し父宗城の功に依り特旨を以て華族に列し男爵を授けらる宗曜宗光其の後を繼ぎ君に至る君は先代宗光の弟にして子爵牧野忠良の再甥侯爵伊達宗彰男爵伊達宗經の再從兄弟なり明治三十六年十二月を以て生れ兄宗光の養子となり昭和三年家督を相續し襲爵仰付けられ前名知次郎を改む大正十三年陸軍士官學校を卒業し陸軍砲兵少尉に任じ昭和二年中尉に進む其間陸軍野戰砲兵學校陸軍騎兵學校を卒業し近衞野砲兵聯隊附たりしも昭和五年乘馬術研究の爲め佛國に渡航し同地騎兵學校に在學す家族は倘弟城吉(明四〇、一生、九大在學)妹欽子(大二、七生、女子學習院出身)同美知子(同六、八生、同校在學)あり同宣子(明三八、六生、出身校同上)は東京府人藤澤威雄に同道子(同四一、七生、出身校同上)は侯爵松平康昌弟康信に同菊子(同四三、八生、出身校同上)は兵庫縣人高津奈良男に嫁し叔父新之助(同一四、八生)は子爵蒔田廣孝の養子となり廣城と改名し當主たり(東京、芝、白金臺町二ノ四二電高輪二一一八)
參照=侯爵伊達宗彰、侯爵松平康昌、子爵蒔田廣城、子爵牧野忠良、子爵伊達宗定、男爵伊達宗經※男爵片倉健吉の項

### 伊達宗定

正三位、子爵 舊豫州吉田藩

男 宗起 明三四、一一生、從五位
男 定 明三五、一二生

當家は豫州宇和島藩主伊達遠江守秀宗の三男宮內少輔宗純の後なり宗純父の所領を分たれ同國吉田三萬石の城主となる夫より七世を經て先代宗敬に至る君は其長男にして明治三年十一月を以て生れ同九年家督を相續し同十七年子爵を授けらる叔父健吉(明三、九生)は男爵片倉景光の後を繼ぎ叔母富貴子(同一三、五生)は男爵伊達宗克の母にして妹艷子(同九、二生)は東京府士族矢頭正懿長男正通に嫁し叔父五郎(同六、一〇生)同妻ふじ(同一八、五生、埼玉、士、柴田與一郎二女)は其一子を伴ひ分家せり(東京市外千駄ケ谷町千駄ケ谷四七五電靑山二六五)
參照=男爵片倉健吉、男爵伊達宗克の項

### 伊達宗經

從三位、男爵 伊達伯爵家分家

繼母 萬喜子 嘉永三、一一生、愛媛、士、松根權六妹
妻 たまき 明二六、一一生、宮城、坂英毅姉
男 宗直 大二、一二生
女 知子 大元、一二生

當家は先代從三位宗敦の建つる處なり宗敦は舊宇和島藩主故從一位伊達宗城の第二子にして明治元年舊仙臺藩主慶邦の養子となり同十七年分れて一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けられ貴族院議員に列す君は其長男にして子爵牧野忠良子爵蒔田廣城の甥侯爵伊達宗彰男爵伊達宗克の再從兄伯爵伊達興宗の從兄なり明治三年二月を以て生れ同四十四年家督を相續し前名直知を改め襲爵仰付けらる家族は倘二女純子(大九、三生)三男宗師(同一〇、三生)弟榮利(明一八、二生)あり同良春(同一一、三生)同順之助(同二五、一生)は各分家し妹正子(同二〇、四生)は東京府人井上文藏に嫁せり(仙臺、東九番丁五九)
參照=侯爵伊達宗彰、伯爵伊達興宗、子爵蒔田廣城、子爵牧野忠良、男爵伊達宗克※伯爵上野正雄※伯爵酒井忠克※伯爵二荒芳德※伯爵柳原義光※子爵相馬孟胤※子爵丹羽長德※子爵一柳直德※子爵松井康昭※男爵三井壽太郎※渡千城の項

### 伊達四雄

正五位勳六等、朝鮮總督府道事務官、江原道內務部長、兵庫縣在籍

妻 平野 明二五、五生、和歌山、中村三樹五女
男 卓郎 大五、七生

君は和歌山縣人伊達九一郎の四男にして明治十九年一月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す同元年文官高等試驗に合格し翌二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し兵庫縣屬同出石郡長同川邊郡長を經て同十年朝鮮總督府道理事官に任じ京畿道內務部地方課長となり次で同府道事務官に轉じ忠淸南道平安南道慶尙南道各警察部長平安北道內務部長を經て昭和四年現職江原道內務部長に轉ず家族は倘二男彰夫(大八、二生)長女和歌子(同一〇、一一生)二女夏子(同一三、七生)三男和光(昭二、三生)四男暢生(同四、七生)あり(朝鮮、江原道廳內務部內)

帶刀吉五郎　従五位勳六等、檢事、山口地方裁判所檢事兼山口區裁判所檢事
島根縣在籍
父　乙吉　明元、八生、現戸主
母　キク　明二、一〇生、島根、原茂市長女
妻　松子　明二三、一生、石川、士、渡邊二郎姉
男　正雄　大元、九生
女　美代子　大五、一生
君は島根縣人高田興四郎の五男にして明治十三年十一月を以て生れ同二十三年當主乙吉の養子となる同三十四年日本法律學校を卒業し同四十二年辯護士試驗に合格し大正六年檢事に任じ富山地方兼同區四日市區三次區兼廣島地方三次支部濱田區兼松江地方濱田支部松山地方兼同區各裁判所檢事に歴補し昭和四年現職に補せらる家族は尚二女悦子(大八、三生)三女美津子(同一一、一生)あり(山口市地方裁判所檢事局内)

棚木悦太郎　従四位勳四等、檢事、仙臺地方裁判所檢事正、宮城縣士族
父　萬佐次　安政元、一〇生、福島、士、佐藤吉之助二男、現戸主
母　キノ　萬延元、八生、祖父勇之進長女
妻　まつゑ　明一五、八生、青森、山川才登姉
男　義男　明四一、一一生
男　禮男　明四二、一一生
女　信子　大四、五生
君は福島縣士族棚木萬佐次の長男にして明治十年二月を以て生る同三十六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十八年檢事に任じ爾來神戸地方同區大阪地方各裁判所檢事大阪控訴院檢事大阪區飯塚區久留米區各裁判所檢事長崎控訴院檢事長崎地方兼同區横濱地方兼同區各裁判所檢事山口前橋各地方裁判所檢事正等に歴補し昭和四年現職仙臺地方裁判所檢事正に轉ず家族は尚五男忠男(大六、一一生)二女孝子(同九、六生)六男悌男(同一二、二生)の外弟剛(明二八、二生)同妻君(同三七、五生、福岡、税田谷五郎二女)及其二子あり(仙臺、片平丁一電一五八)

棚橋一郎　學校經營者　東京府在籍
母　あや　天保一〇、二生、大阪、牛尾田庄右衛門長女、勳五等、東京高等女學校長
男　勝太郎　明三七、二生
男　駿次郎　明三九、一一生
女　須惠　明四二、八生
君は岐阜縣人棚橋大作の長男にして文久二年十一月を以て生れ明治二十三年家督を相續す先代父大作は松郎と號し朱子學派の儒者として名あり母あやは東京高等女學校長として女子教育界に重きをなせり曩に教育界に盡したる功に依り勳六等寶冠章及勳五等瑞寶章を授けらる君は史學家にして竹莊と號す明治八年愛知英語學校に入り尋で東京英語學校に轉じ大學豫備門を經て東京大學に入り同十七年同大學和漢文科を卒業し直ちに東京大學豫備門御用掛となり同十九年第一高等學校教諭となり翌年職を辭す同二十二年私立郁文館中學校を創立し同三十一年私立史學館を開き又公私各學校に教鞭を執り育英家として知られ歴史其他の著書多し現時閑地に在り曾て衆議院議員東京市會議員等に擧げられし事あり四女紱(明三五、一一生)は東京府人高橋文雄に妹シヅエ(同三、三生)は工學博士横河民輔に嫁せり(東京、本郷、丸山新町一七電小石川四〇〇)
參照=横河民輔の項

棚橋金左衛門　井筒商會、砂糖小麥粉商　愛知縣在籍
養子　鐸一郎　明三一、二生、愛知、近藤やす私生子
婦　千代　明三四、三生、養子鐸一郎妻、岐阜、棚橋正平養子
庶子　歌子　明四三、一〇生、生母、愛知、棚橋やす
庶子　ふき　大二、一一生、生母、愛知、棚橋やす
君は岐阜縣人棚橋百三の二男同金之輔の兄にして慶應三年十一月を以て生れ同年分れて一家を創立す井筒商會と稱し砂糖小麥粉商を營み曩に名古屋商工會議所議員たり家族は尚孫千賀子(大一二、一生、養子鐸一郎長女)同紋子(昭三、九生)あり庶子みれ(明三八、四生、生母、愛知、棚橋やす)弟錄三郎(同五、二生)は各分家し妹まさ(同九、一〇生)は愛知縣人馬島幸雄に庶子のぶ(同四一、三生、生母、愛知、棚橋やす)は同縣人北畠現昭長男映に嫁せり(名古屋、西、茶屋町三ノ八六電本局三六〇六)
參照=棚橋金之輔、棚橋錄三郎※松井三治郎の項

棚橋金之輔　従七位勳六等、大阪砂糖取引所理事、井筒商會(資)代表社員、砂糖問屋業、大阪府在籍
妻　はる　明二六、四生、京都、淺田吉左衛門三女
男　弘之　大八、一〇生
女　紀久子　大元、九生
君は岐阜縣人棚橋百三の五男にして同金左衛門同錄三郎の弟なり明治十四年九月を以て生れ先代そうの養子となり同三十五年家督を相續す夙に名古屋商業學校に學び日露戰役に從軍して功を樹て從七位勳六等に敍せらる戰後歐米各國を歴遊し歸朝後大阪に於て砂糖卸商を始め漸次發展して今日に至る現に井筒商會を主宰し大阪砂糖取引所理事たり家族は尚二男信二(大一二、一生)三女淑(同一三、七生)あり(大阪、南、順慶町通二ノ四五電船場二九六七)
參照=棚橋金左衛門、棚橋錄三郎の項

棚橋啓三　正五位勳五等、工學博士、絹業試驗所技師兼京都高等工藝學校教授生絲檢査所技師、絹業試驗所第二部長、徳島縣在籍
妻　ツネ　明二三、一〇生、徳島、里見左平二女
男　肇　明四四、八生
君は徳島縣人棚橋常琢の三男にして明治十五年二月を以て生れ大正十四年家督を相續す先是明治四十二年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し島津製作所に入りしが同四十五年京都高等工藝學校講師となり次で教授に進む大正三年絲質學及機械學研究の爲め獨佛伊各國に留學を命ぜられ歸朝後同六年生絲檢査所技師兼絹業試驗所技師に任じ現に絹業試驗所第二部長たり曩に工學博士の學位を受け同十一年生絲格付調査並絹業視察の爲め再度歐米に出張す家族は尚二男賢二(大一四、八生)三女良子(昭五、一生)あり(横濱、鶴見、東寺尾町一七〇九)

棚橋琢之助　九州水力電氣(株)取締役副社長、杖立川水力電氣、九州保全、九州電氣工業、筑後電氣各(株)取締役、九州神都電氣興業、九州送電、富士瓦斯紡績、第二富士電力各(株)監査役、福岡縣士族
妻　てい　明三、二生、東京、淺田顯次郎養母
男　陽吉　明三一、一二生、醫學士、九州帝國大學生理學教室勤務
婦　美代　明三五、六生、長男陽吉妻、福島、鈴木元美長女
養子　和子　大五、八生、東京、淺田顯次郎長女
君は福岡縣士族棚橋朝政の長男にして明治四年十一月を以て生れ同十六年家督を相續す同二十六年專修大學理財科を卒業し現時九州水力電氣會社取締役副社長の外前記諸會社の重役たり家族は尚孫經明(大一三、三生、長男陽吉長男)同紀久子(昭三、三生、同二女)同朝子(同五、一一生、同三女)あり長女光枝は九州醫科大學講師醫學博士鈴木直光に二女節(同三九、一生)は山口巖に嫁せりA一一九一〇(福岡市土手町一九電二八四五)
參照=鈴木元美の項

棚橋寅五郎　工學博士、盤城電氣、日本製錬、木戸川水力電氣各(株)社長、日本化學工業、揖斐川電氣、旭電化工業、東京窒素工業各(株)取締役、日本醸造工業(株)顧問、棚橋(名)代表社員　東京府在籍
妻　タツ　明一〇、一一生、新潟、銀林綱男三女
男　幹一　大三、一生
女　つゆ子　明四五、二生
君は新潟縣人棚橋佐久太の三男にして慶應二年四月を以て生れ明治二十五年分れて一家を創立す同二十六年帝國大學工科大學應用化學科を卒業し嘗て歐米を視察し歸朝後工學博士の學位を授けらる現時日本製錬盤城電氣木戸川水力電氣各會社々長たる外前掲諸會社の重役を兼ぬ長女廣子(明三一、七生)は東京府人大塚寛治に二女蔦子(同三三、六生)は奈良縣人北岡惣太郎弟壽逸に三女英子(同三八、一〇生)は山梨縣人小澤正平三男儀明に四女浩子(同四二、三生)は茨城縣人貝塚徳之助二男正後に嫁せり(東京、本郷、駒込東片町一五七電小石川一八七八)
參照=大塚寛治、北岡壽逸の項

棚橋直馬　正五位勳四等、札幌税務監督局長　愛媛縣士族
父　長太郎　安政四、六生、現戸主
妻　嘉子　明二九、一〇生、靜岡、櫻井鐵太郎長女
男　精一　大七、五生
君は愛媛縣士族棚橋長太郎の二男にして明治十九年五月を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し大藏省に入り專賣局參事補司税官品川京橋各税務署長税務監督局事務官仙臺東京各税務監督局直税部長税關事務官横濱税關監視部長税務監督官札幌仙臺大阪各税務監督局勤務等を經て函館税關長となり更に轉じて現時札幌税務監督局長たり曩に歐洲に出張を命ぜらる家族は尚長女正子(大一〇、一生)二男泰二(同一一、一二生)三男敬三(昭三、五生)あり長兄吉徳は夭折し姉嘉久(明一六、八生)は愛媛縣士族池原利三郎孫正利に妹民(同二五、三生)は同縣士族土岐長藏三男定後に同文子(同三二、六生)は大阪府人大橋貞雄に嫁せり(札幌、大通西八丁目官舎電二一七〇)
參照=※清野謙次の項

棚橋錄三郎　正六位勳四等、退役陸軍三等軍醫正、醫師、愛媛縣在籍
妻　かい　明一一、一生、愛知、士、尾崎巖長女
男　貞雄　明三九、三生
男　文雄　明四一、一〇生
君は愛知縣人棚橋百三の三男同金之輔の兄にして明治五年二月を以て生れ同二十九年兄金左衛門方より分れて一家を創立す同二十五年愛知醫學專門學校を卒業し軍籍に入り同三十八年三等軍醫正に進み同四十一年豫備役に編入せらる夙に醫を開業し今日に至る長女智惠子(明三〇、四生)は鳥取縣人岡田實に二女多惠子(同三三、一一生)は岐阜縣人安藤守孝兄守義に三女美惠(同三五、一一生)は愛知縣人大隈榮一養子寅雄に嫁せりA六八〇(名古屋、西、上長者町二六電本局四九二)
參照=安藤守孝、棚橋金左衛門、棚橋金之輔の項

棚町丈四郎　従五位勳六等、檢事、東京控訴院檢事、福岡縣在籍
養父　五十吉　明八、四生、現戸主
養母　ヒサヲ　明八、一一生、養祖父正九郎二女
妻　ユキ　明二七、四生、養父五十吉長女、福岡高女出身
男　誠一郎　大一二、四生
女　正子　大三、一一生
君は福岡縣士族前衆議院議員佐々木正藏の四男にして明治二十一年十一月を以て生れ大正三年豫備海軍主計少將棚町五十吉の養子となる同年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同五年檢事に任じ大阪地方裁判所檢事東京地方裁判所檢事東京區裁判所上席檢事等に歴補し昭和四年東京控訴院檢事に補せられ現在に至る家族は尚二女道子(大七、二生)三女和子(同一〇、五生)二男知彊(同一四、八生)三男祥吉(昭五、八生)あり(東京市外武藏野町吉祥寺八八五電吉祥寺四六九)
參照=佐々木正藏の項

谷泉　邦樂座(株)取締役、東京肛門病院長、醫師、高知縣在籍
妻　久代　明七、一二生、高知、山中直誠長女
男　彊　明四一、三生
女　萬壽子　大元、八生
君は高知縣人谷虎平の三男にして明治四年十一月を以て生れ同二十年兄市太郎の死跡を相續し前名岩太を改む夙に濟生學舍に學び醫業に從ひ東京肛門病院を經營し其院長たる外前記會社の重役にして曩に湯河原回春園取締役たりし事あり家族は尚甥竹清(明二〇、六生、亡兄市太郎長男)同妻袈裟保(同二四、一二生、高知、森岡福次二女)及其子女あり長女喜代子(同三一、三生)は谷肛門病院長谷岩太に嫁し庶子敬之助(同四四、一二生、生母、東京、日向懿子)は高知縣人和田要の養子となれりA一〇〇四(東京、芝、西久保櫻川町三電二七六八)

谷菅太郎　阿波物産(株)社長、寶扇商事(株)取締役、阿波鐵道(株)監査役　徳島縣在籍
養母　ヨシ　嘉永三、九生、徳島、士、梯順三郎妹
妻　タマ　明二、一二生、徳島、鹿野利三郎二女
男　哲三　明二三、九生
婦　アヤノ　明三一、八生、長男哲三妻、徳島吹田儀平二女
君は徳島縣人古田綠平の三男にして文久三年六月を以て生れ先代ヨシの養子となり後家督を相續す現時阿波物産會社長たる外前記會社の重役たり家族は尚孫美奈子(大六、八生、長男哲三長女)同績二(同一一、二生

同二男)同信子(同一三、一一生、同二女)同京三(昭二八生、同三男)あり二女倭子(明二七、一二生)は大阪府人萬玉善七長男嘉平に三女文子(同三六、七生)は德島縣人近藤觀三郎養子市郎に嫁し二男菊治(同二六、一生)は同縣人西谷儀平の養子となれり(德島、板野、撫養町)

## 谷　勘藏

兵庫縣多額納稅者
兵庫縣在籍

男　熊二　明四二、一〇生

君は兵庫縣人谷熊次郎の長男にして明治八年十月を以て生れ大正十一年家督を相續す兵庫縣多額納稅者たり家族は尙三男八十一郎(大六、一生)あり三女花子(明三八、二生)は分家し弟良太郎(同一九、一生)も亦同妻しす(同二三、一〇生、兵庫、濱田常吉長女)及其四男二女を伴ひ分家せりA二六九五(神戸、楠町一ノ一一八電元町三五七一)

## 谷　儀一

正四位勳三等、子爵、陸軍步兵大佐、近衞師團司令部附、拓殖大學服務、東京府華族

妻　文　明二七、六生、子爵曾我祐邦養妹福岡、故曾我祐保長女
男　武夫　明四四、一二生
女　妙子　明四三、五生

當家は先代干城より顯る干城は舊土佐藩士にして安井息軒の門に學び後東奔西走國事に盡瘁す明治四年兵部權大丞陸軍大佐に任じ翌年少將に進み西南の役熊本鎭臺司令長官として熊本城を死守し偉功を奏す次で中將に任じ東部監軍部長陸軍士官學校長兼戸山學校長となり同十七年華族に列し子爵を授けらる後學習院長華族女學校長に歷任し學士會員被仰付農商務大臣に親任す次で歐洲を巡遊し貴族院議員に當選せり君は其孫にして乙猪の長男なり明治十四年八月を以て生れ同四十四年家督を相續し襲爵す同三十七年陸軍士官學校を卒業し陸軍步兵少尉に任じ累進して昭和四年同大佐に陞り第一師團副官を經て現時近衞師團司令部附にして拓殖大學服務を命ぜらる家族は尙三男正臣(大五、六生)四男直臣(同六、一二生)二女梅子(同九、一生)五男元臣(同一一、八生)六男斌臣(同一四、一生)弟守人(明一六、一一生)同妻千代(同二六、二生、東京、士、水谷章一姉)及其二男あり叔父猛熊(同二九、五生)は分家し妹まつ(同一九、八生)は京都府士族陸軍中將福井策三に嫁せり(東京市外落合町下落合一二一八電大塚六四四)

參照=子爵曾我祐邦、福井策三※男爵立花馨※男爵東三條實敏※金杉英五郎※友田一郎の項

## 谷　金吾

岐阜縣多額納稅者、大阪共立銀行㈱取締役、農業、岐阜縣在籍

妻　よれ　明二、三生、岐阜、伊藤加太夫三女
男　省吾　明二四、六生、現戸主
婦　のぶ　明二五、三生、二男省吾妻、愛知加藤彥三郎三女
女　つい　明四一、五生

君は愛知縣士族横江環の五男にして慶應三年五月を以て生れ先々代傳之衞の養子となり後家督を相續し昭和三年退隱す夙に碩學角田錦江林三益の門に學ぶ農業を營み傍ら前記銀行の取締役にして直接國稅二千七百九十七圓を納め縣下の多額納稅者に列し曩に郡會議長縣會議員たりし事あり三女とし(明二九、八生)は愛知縣士族横江八郎の養子となり五男五郎(同三四、一二生)六男謹也(同三九、一〇生)七男庫之助(同四三、七生)は各分家し五女ふう(同三七、一二生)は愛知縣人梶浦信之に六女千代(同三七、三生)は岐阜縣人法學士山田利貞に嫁せり(岐阜、養老、笠鄕村)

參照=加藤彥三郎の項

## 谷　欽太郎

從六位勳四等、富山縣多額納稅者、日本海電氣、黑部鐵道、小松電氣、黑部川電力、國產肥料各㈱取締役、農業、富山縣在籍

母　つき　安政六、三生、富山、櫻井傳三郎姉
妻　タミ　明二六、三生、富山、浮田總英姉
男　正雄　大一三、一生
養子　安正　明三一、三生、富山、石坂豐一二男、理學士、東京帝國大學工學部助教授

君は富山縣人谷平吉の長男にして明治十一年十二月を以て生れ先代順平の養子となり大正三年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し臺灣總督府に出仕して專賣局事務官となり同四十年歐米各國を漫遊す大正二年官を辭し衆議院議員に當選し後實業界に投じ現に前記諸會社の重役にして直接國稅二千九百九十五圓を納め富山縣多額納稅者たり曩に立山水力電氣越中電力中越水電荻生銀行魚津銀行富山縣農工銀行等諸銀行會社の重役富山縣農會長同縣山林會副會長等に擧げらる家族は尙三女和子(昭五、六生)孫郁郎(大一〇、三生、養子安正長男)同美枝(同一二、三生、同長女)同滿智子(同一四、三生、同二女)あり(富山、下新川、道下村電二三三)

## 谷　楠五郎

德島縣多額納稅者、工業
德島縣在籍

母　トミ　安政二、一一生、德島、田村藤平妹
妻　かれ　明二五、六生、德島、古川文次郎長女
男　和夫　明四五、二生
女　清　大二、一一生

君は德島縣人谷貞平の二男にして明治十五年十月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名兵次郎を改む工業を營み德島縣多額納稅者にして直接國稅千三百十二圓を納む家族は尙三男眞次(大五、二生)あり叔父益太郎(明一三、一一生)は分家せり(德島、那賀、見能林村電[illegible]五一)

## 谷　軍治郎

從五位勳三等功四級、退役陸軍一等軍醫正、池田回生病院長、醫師
大阪府在籍

妻　シカ　明一〇、一生、佐賀、持永秀貫五女
男　恒雄　明四三、五生、九州大學醫學部在學

君は熊本縣人谷恒太郎の長男にして明治元年三月を以て生れ同二十八年養兄勵太方より分れて一家を創立す夙に長崎醫學專門學校を卒業し陸軍に入り明治四十四年一等軍醫正に陞任す次で醫を開業し池田回生病院長として今日に及び池田師範學校及浪速高等學校醫を兼ぬ三女康子(明四〇、一生、大手前高女高等科出身)は長崎縣人星野助太郎三男行久に嫁せりA二九八(大阪、豐能、池田町一九七八電池田三一六)

## 谷　三治郎

岡本洋行㈱常務取締役、東京瓦斯電氣工業㈱取締役、東京府在籍

妻　いと　明二一、九生、東京、喜多ヨネ私生子
男　勳　大五、九生
女　信子　大三、二生





君は兵庫縣人谷杉松の三男岡本米藏の弟にして明治十六年十一月を以て生れ大正二年兄竹二郎方より分れて一家を創立す現時前記諸會社の重役にして曩に大日本電化精煉會社專務取締役たりし事あり家族は尙二女和子(大八、一生)二男明(同一〇、六生)三男篤(同一二、八生)三女佳子(同一四、一〇生)四女尙子(昭三、一一生)あり(東京市外荏原町洗足西臺南五)

參照=岡本米藏の項

## 谷　治郎吉

千疋屋、果實商
東京府在籍

妻　キヨ　明三、七生、東京、大島代次郎叔母
養子　善次郎　明二四、一生、長女アカ夫、東京竹內政治郎長男
女　アカ　明二一、二生、養子善次郎妻
女　仲　大五、九生
孫　次郎　明四四、九生、養子善次郎長男

君は靜岡縣人山崎甚平の二男にして安政元年二月を以て生れ谷源次郎の養子となり明治十六年分れて一家を創立す千疋屋と稱し果實商を營む家族は尙孫吉淸(大一三、一〇生、養子善次郎三男)あり(東京、京橋、中橋廣小路町八電京橋一〇五)

參照=大島代次郎の項

## 谷　重夫

國分銀行㈱頭取、阪南タクシー自動車㈱取締役、大阪府在籍

妻　惠津　明三〇、一生、大阪、西尾順次五女
男　重喜　大七、五生

君は大阪府人谷要の二男にして明治二十九年三月を以て生れ大正八年家督を相續す現時國分銀行頭取の外前記會社の重役たり家族は尙二男芳明(大一〇、一生)長女郁子(同一二、六生)あり(大阪、南河內、千早村)

## 谷　始太郎

金澤土地建築物、日本賣藥各㈱取締役、大阪藥學專門學校理事、靑藍軒、藥劑師、大阪府在籍

妻　りやう　明三、一一生、大阪、谷新助伯母

君は大阪府人小山家壽の長男にして文久三年八月を以て生れ明治二十五年先代りやうの入夫となり家督を相續す夙に藥劑師となり現時前記會社の重役たり家族は尙孫文子(大六、七生、養子博長女)あり二女あい(明二七、九生)同夫清一(同二一、一生、奈良、吉村清六四男)は其子女を伴ひ養子博(同二〇、一一生、石川、宮崎傚重二男)は其妻きみ(同二八、一二生、大阪、田中峯吉二女)と共に各分家せり(大阪、西成、姫松通一ノ七電戎一二五五)

參照=谷新助の項

## 谷　眞心

正五位勳四等、判事、名古屋地方裁判所部長、愛知縣士族

母　ゆき　安政五、一二生、愛知、士、齋藤似氏長女
妻　こう　明一七、七生、愛知、士、青山銀之丞長女
養子　隆夫　大一二、五生、愛知、士、青山繁二男

君は愛知縣士族谷忠重の長男にして同忠次の兄なり明治十一年十二月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治三十三年東京法學院を卒業し判檢事登用試驗及辯護士試驗に及第し判事に任ず爾來鶴岡區富山區福井地方高岡區四日市區安濃津地方名古屋地方木本區山田區各裁判所判事名古屋控訴院判事金澤地方裁判所部長に歷補し昭和四年名古屋地方裁判所部長に補せらる叔母すゝ(嘉永四、一〇生)は愛知縣人杉原重鄕に嫁せり(名古屋、東、杉村町舟付六四電東七六〇三)

參照=谷忠治の項

## 谷　新助

谷回春堂㈾出資社員、賣藥商
大阪府在籍

母　まさ　明八、一二生、祖父新助三女
妻　美代　明四一、九生、大阪、宮本利右衞門二女、大手前高女出身

當家は先代祖父新助より顯る新助大阪に住し谷商店と稱し賣藥を業とし同府多額納稅者にして貴族院議員に互選せらる父道太郎は日露の役に出征し旅順攻擊の際戰死す君は其二男にして明治三十七年一月を以て生れ大正七年祖父新助の後を享け家督を相續し前名新太郎を改め襲名す昭和四年慶應義塾大學法學部を卒業し遺業賣藥商を營み谷回春堂出資社員にして傍ら關西信託會社員たり家族は尙長女悅子(昭四、三生)あり伯母りやう(明三、一一生)は分家して小山始太郎を入夫に迎へりA四七二三(大阪、東、伏見町二ノ一電本局四五七)

參照=谷始太郎※池田仁左衞門の項

## 谷　甚四郎

奈良縣多額納稅者、農業
奈良縣在籍

繼母　キヌ　安政五、一〇生、奈良、谷正治大叔母
妻　ナチ　明一二、二生、奈良、岡橋淸左衞門養妹
男　敏夫　大三、三生

谷家は古くより奈良縣下王子町に住し農業に從事す君は先代甚右衞門の長男にして明治九年八月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名甚作を改む家業農を繼承し現に縣下の多額納稅者にして直接國稅四千百九圓を納む家族は尙長女育子(大六、一〇生)妹久惠(明三一、一一生、奈良高女出身)あり弟規矩治(同二四、九生、陸軍步兵少尉)同妻假(同三四、三生、八塚孝太郎長女)は共に大阪府人豐田宇左衞門の養子となり叔母テツ(安政六、八生)は同府人西尾兵一郎に嫁せり(奈良、北葛城、王子町)

參照=岡橋淸左衞門、豐田宇左衞門の項

## 谷　節太郎

開田商店㈱代表取締役、福井精練加工㈱取締役、上毛撚絲㈱監査役
福井縣士族

養母　ぎん　安政四、四生、石川、中村平藏長女
妻　すゞ　明二一、三生、養父米三郎長女

君は石川縣人豐田休四郎の六男にして明治十五年二月を以て生れ先代米三郎の養子となり同三十六年家督を相續す現時前記諸會社の重役にして曩に日本クロース工業會社取締役西村機業場豐田貿易各會社監査役たりしことあり(福井市湊上町三七ノ一)

## 谷　多喜磨

從四位勳三等、朝鮮火災海上保險㈱取締役社長、佐賀縣士族

父　又一郎　文久二、八生、現戸主
母　メツ　明元、一二生、佐賀、士、栗原重助長女
妻　きみ　明二六、一〇生、兵庫、藤本安兵衞三女
男　俊夫　大三、一二生

君は佐賀縣士族谷又一郎の長男にして明治十七年八月を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格す同年統監府判事となり爾來朝鮮總督府道事務官忠淸北道黃海道忠淸南道各財務部長同總督府事務官農商工部水產課長江原道內務部長京城府尹に歷任し大正十四年平安北道知事に任ぜられ昭和四年慶尙南道知事に轉じ昭和五年現職に轉ず家族は尙二

男昇(大五、一一生)長女和子(同八、二生)三男宏(同一〇、一二生)四男亨(同一四、一生)あり姉コマケサ(明一五、八生)は佐賀縣人合川平太郎養子助市に妹ツヤ(同二一、一〇生)は和歌山縣人松島種美に嫁せり(京城、明治町一ノ五九朝鮮火災海上保險會社內)

## 谷　孝信
日本體育用品(株)社長、正興公司(株)取締役、大正製藥(株)顧問
東京府士族

君は東京府士族谷讓一郎の二男にして明治二十年六月を以て生る大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し辯護士となり後川崎造船所に入り又大正製藥會社專務取締役に就任し現時其顧問となり傍ら前記會社の重役を兼ぬ圍碁謠曲庭球等に趣味を有す家族は兄敬信(明一八、一生、現戶主)同妻わか(同三三、二生、富山、坂井はつ私生子)及其三女弟貞信(同二七、七生、醫學士)あり同忠信(同二三、二生)は同妻豐(同二六、四生、熊本、上妻弘道姉)と共に分家し妹豐子(同二五、二生)は横濱生絲檢査所正量部長北尾富烈に嫁せり(東京市外世田ケ谷町若林五六八電世田ケ谷七五五)
參照＝北尾富烈の項

## 谷　高三郎
醫學博士、神戶衞生實驗所(株)取締役、谷病院長、醫師、岡山縣在籍

妻　らく　明一二、三生、大阪、長尾久兵衞四女
男　正男　明四二、六生、岡山醫大在學

君は岡山縣人谷千三の長男にして明治八年八月を以て生れ大正二年家督を相續す醫を業とし谷病院を經營し傍ら神戶衞生實驗所取締役たり曩に醫學博士の學位を授けらる家族は尙二男正志(明四五、一生、松江高校在學)あり長女富美(同三四、一一生)は兵庫縣人藥學士谷淸一に二女多嘉子(同三七、一二生)は同縣人天兒民憲長男醫學博士民博に三女志津子(同三九、一一生)は愛媛縣人進藤松一郎二男醫學博士直作に嫁し三男正彌(大三、一生)は妻の養家小西家を再興し四男正巳(同四、三生)は大阪府人坂井常治郎の養子となれりA二四九二(神戶、北長狹通五ノ七八ノ九電元町二八〇六)
參照＝天兒民憲の項

## 谷　忠治
從五位勳六等、判事、札幌控訴院判事、北海道帝國大學農學部講師
愛知縣士族

妻　こと　明三三、三生、岐阜、小森春吉二女
男　洋太郎　昭二、六生

君は愛知縣士族谷忠重の五男にして現戶主眞心の弟なり明治二十三年一月を以て生る大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し判事に任じ濱松區東京區兼同地方横濱地方各裁判所判事札幌控訴院判事札幌地方裁判所部長に歷補し其間歐米各國に出張す昭和五年再び札幌控訴院判事に轉じ傍ら北海道帝國大學農學部講師を囑託せらる家族は尙長女彰子(大一〇、一一生)二女圭子(同一四、五生)二男浩二(昭五、四生)あり(札幌南七條西十三丁目控訴院官舍)
參照＝谷眞心の項

## 谷　恒助
大垣商工會議所議員、運送相互保證(株)取締役、岐阜縣在籍

男　龍之介　明三〇、二生
婦　昌子　明三六、一生、長男龍之介妻、岐阜、加藤虎雄長女
女　幸子　明三六、三生

君は岐阜縣人古井貞太郎の弟にして明治四年十一月を以て生れ同二十七年先代ゑいの入夫となり家督を相續す現時前記會社の重役にして推されて大垣商工會議所議員たり家族は尙四男道也(大三、四生)孫龍男(同一二、五生、長男龍之介長男)同修自(同一三、九生、同二男)同信子(昭三、一生、同長女)あり長女すゞ子(明二八、六生)は宮城縣人長谷川浩三に嫁し二男後二(同三二、一生)は靜岡縣人石間惰一の養子となれり(大垣高屋町一五五九)

## 谷　德二郎
從五位、製鐵所醫官、製鐵所二瀨病院長、德島縣在籍

妻　ツルエ　明一四、九生、德島、武岡松平二女
男　太郎　大七、四生
女　信　大四、三生

君は德島縣人谷兵吉の伯父にして明治十三年六月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す先是明治四十三年京都帝國大學福岡醫科大學を卒業し同大學副手として留る大正五年製鐵所二瀨出張所囑託となり尋で製鐵所醫官に任じ歐米各國に出張す歸朝後製鐵所二瀨病院長に任ぜられ現在に至る家族は尙五女美(大一〇、八生)あり長女文(明三九、五生)は福岡縣人三原昇弟悟に嫁せり(福岡、嘉穗、製鐵所二瀨出張所官舍內)

## 谷　直次郎
谷健商店(株)社長、石原染工(株)監査役、愛知縣在籍

妻　多可　明二四、一〇生、滋賀、正野玄三二女
男　義太郎　大四、九生

君は愛知縣人谷健次郎の二男にして明治十八年十月を以て生れ大正二年家督を相續す現時谷健商店社長たる傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は尙二女とし子(大七、二生)三女ふみ子(同九、二生)二男宏次郎(同一〇、四生)の外弟順吉(明三三、三生)同妻ふみ(同三九、一一生、愛知、鈴木吉次郎三女)及其一男一女あり妹ゆき(同二六、一二生)は愛知縣人淺井忠七二男淸治に嫁し同つれ(同二八、一生)は分家し姉ぎん(同一五、九生)も亦其子女を伴ひ分家せり(名古屋、西、傳馬町七ノ七電本局一八二四)
參照＝鈴木吉次郎の項

## 谷　仲吉
宮崎縣多額納稅者、回漕業
宮崎縣在籍

妻　ナラ　明四、四生、宮崎、谷五兵衞長女
婦　レン　明二七、五生、亡長男秀一郎妻、宮崎、士、福島通四女
孫　正　大元、一二生、亡長男秀一郎長男
男　三郎　明二七、七生
婦　ミチ　明三四、三生、三男三郎妻、宮崎、寺尾虎三三女
孫　淸子　大三、一一生、亡長男秀一郎長女

君は宮崎縣人谷仲の長男にして明治三年三月を以て生れ同十七年家督を相續す回漕業並に材木輸出倉庫業書籍雜貨商を營み現時宮崎縣多額納稅者に列し直接國稅一萬二千百九十八圓を納む曩に延岡銀行取締役たりし事あり家族は尙孫百合子(大六、三生、亡長男秀一郎二女)同佐美子(同一二、一二生、三男三郎長女)あり二男次郎(明二五、一一生)同妻サダ(同三四、一二生、宮崎、士、綾部千平長女)は其子女を伴ひ分家し長女雪子(同二八、一二生)は宮崎縣人名村三郎に嫁せり(宮崎、東臼杵、延岡町)

## 谷　延次郎
日本商工產業(株)代表取締役、大阪汽船(株)取締役、大阪府在籍

妻　りう　明三二、八生、大阪、龜井留吉姪

君は大阪府人谷本藏の長男にして明治六年九月を以て生れ同三十九年家督を相續す現に日本商工產業會社代表取締役たる傍ら前記會社の重役たり弟國三郎(明八、九生)同和平(同一四、六生)同平七(同二二、九生)同宗興(同二七、九生)は各分家せり(大阪、西、本田三番町二七)







## 谷　治之助
鈴木商店、日本製粉、東神土地興業各(株)監査役、高知縣在籍

妻　鶴代　明一七、一二生、高知、谷楨藏長女
男　正藏　明三五、一〇生
男　次郎　明四〇、三生

君は高知縣人江淵喜三郎の三男にして明治十一年一月を以て生れ同四十年先代鶴代の入夫となり家督を相續す現時前記各會社の重役にして曩に支那樟腦會社長たりし事あり家族は尙養妹貞(明二二、九生)あり同辰(同二五、一一生)は高知縣人南久壽象に同春(同二七、四生)は德島縣人石原勝見に同シヅ(同三一、七生)は高知縣人國松末吉四男小兵衞に嫁せり(神戶、布引通一ノ三電葺合一六三)

## 谷　半兵衞
會津銀行(株)頭取
福島縣在籍

妻　ツル　明一一、八生、福島、松下佐太郎妹
男　淸助　明三二、六生
婦　スヾ　明四一、三生、長男淸助妻、福島、河野善助長女
養子　善彥　明二四、一一生、長女ノブ夫、福島、山中善右衞門二男
女　ノブ　明三〇、一一生、養子善彥妻
男　淸治　明三九、一生
婦　久子　明四四、一生、二男淸治妻、福島、遠藤五助三女
男　淸三　明四四、三生

君は福島縣人谷平吉の長男にして明治五年九月を以て生れ同四十三年先代祖父半兵衞の跡を承け家督を相續し前名淸八を改め襲名す現時會津銀行頭取たり家族は尙孫圭子(大一一、三生、養子善彥長女)同圭一(同一四、一生、同長男)亡弟治八妻ヨシ(明一五、四生、福島、吉川又三郎四女)及其一女あり(福島縣若松市大町一之町四)

## 谷　正之
正五位勳四等、外務省亞細亞局長
熊本縣士族

妻　澄子　明三八、四生、男爵島津忠丸姉
男　正一郎　大一五、一二生

君は熊本縣士族谷政一の弟にして明治二十二年二月を以て生る大正元年文官高等試驗に合格し同二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し外交官及領事官試驗に合格す爾來領事官補外交官補大使館三等書記官同二等書記官として多年歐洲に在勤す同十二年歸朝後外務省參事官兼外務大臣祕書官外務省書記官亞細亞局第一課長對支文化事業調查會幹事等に歷任し昭和二年大使館一等書記官に任ぜられ同四年外務書記官亞細亞局第一課長となり現に外務省亞細亞局長たり家族は尙二男昭二(昭三、五生)三男正久(同五、一生)兄政一(明五、一一生、現戶主)同妻ヤツ(同一五、二生、熊本、高松致雄妹)同正二(同一〇、七生)同妻ロク(同二二、二生、熊本、築山與平太長女)及其子女あり姉シツオ(同一七、四生)は熊本縣人楠田一光長男郁太郎に嫁せり(東京、小石川、仲町二三電小石川一九九〇)
參照＝男爵島津忠丸※公爵二條弼基※三井高修の項

## 谷　宗雄
從五位勳五等、製鐵所技師、化工部第二副產課長、京都府士族

妻　尙　明三四、五生、岡山、森本邦治郎長女
男　重雄　大一五、八生

君は三重縣士族花井龍郎の二男にして明治二十四年一月を以て生れ先代大助の養子となり後家督を相續す大正四年京都帝國大學理科大學を卒業し同五年製鐵所技手に任じ同七年同技師に進み現に化工部第二副產課長たり曩に海外に留學を命ぜらる家族は尙長女美智(昭三、七生)あり(八幡、高見町六丁目官舍內)
參照＝森本邦治郎の項

## 谷　閑衞
正五位、子爵
舊丹波山家藩

當家は宇多源氏の末流大膳亮衞好の後なり衞好織田豐臣二氏に仕へ其子出羽守衞友に至り丹波國山家一萬六千石に封ぜらる夫より十三世を經て先代壽衞に至り明治十七年子爵を授けらる君は其長男にして明治三十九年二月を以て生れ大正六年家督を相續し襲爵す第八高等學校を經て京都帝國大學に在學中なり家族は伯母富子(明四、二生)弟義衞(同四〇、八生)同昌衞(同四二、一一生)あり父壽衞(同四、三生、正四位)は分家し妹泰(同四五、四生)は京都府人谷量恒の養子となり姉滋子(同三六、二生)は和歌山縣人岩田平之助長男健吾に叔母德子(同四、一一生)は東京府人山口莊吉に嫁せり(京都、左京、淨土寺馬場町九一)
參照＝山口莊吉の項

## 谷　彌一郎
島根縣水產、出雲陶器各(株)社長
島根縣在籍

父　勘藏　弘化二、一二生
妻　ゲン　明六、三生、島根、安達淸市長女
男　礎磨左右　明三二、一二生、日本製氷會社境工場主任
婦　多加子　明三四、一二生、長男礎磨左右妻、島根、池田鶴之助三女
男　林　明三六、一二生
婦　君枝　明四四、八生、二男林妻、島根、河原延壽妹

君は島根縣人谷勘藏の長男にして明治二年九月を以て生れ同三十四年家督を相續す現時島根縣水產會社及出雲陶器會社各社長たり趣味として和歌を好み梅廼岡嘉重と號す家族は尙孫碩(大九、五生、長男礎磨左右長男)同道子(同一二、七生、同長女)同亮二(同一四、六生、同三男)あり長女ハルエ(明二五、五生)は鳥取縣人南家治平二男保孝に嫁せり(島根、八束、法吉村)

## 谷　龍之助
正五位勳六等、熊本縣書記官、學務部長、福岡縣在籍

妻　隣子　明二九、一生、高知、士、岩本虎治三女、東京府立第一高女出身
男　光　大一〇、三生

君は福岡縣人永沼龍衞の二男にして明治十七年五月を以て生れ叔父卯三郎の養子となり同三十八年家督を相續す同四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し翌年文官高等試驗に合格爾來山口縣屬兼警部同警視同理事官同都濃郡長富山縣理事官警察講習所敎授群馬島根各縣警察部長等に歷任し昭和四年熊本縣書記官に任じ現に學務部長たり家族は尙五男榮(大一一、三生)長女信子(昭二、一〇生)七男梟(同四、九生)あり(熊本市一番被分町學務部官舍)

## 谷　江長
伊丹製絨所(株)代表取締役、日本毛織(株)取締役、兵庫縣士族

妻　淸女　明一七、七生、東京、柴田實顯長女
男　長男　明三〇、一一生

婦 幸江 明三三、八生、長男長男妻、兵庫 小林覺三郎長女
女 喜久 明四四、九生
女 芳江 大二、一〇生
庶子 規代子 大五、一〇生、生母、石川、小鍛治美代
君は兵庫縣人坪田怡の二男にして明治七年十月を以て生れ先代二平の養子となり同二十年家督を相續す同二十八年東京高等工業學校機械科を卒業し現に前記會社の重役たりし事あり家族は尚三男還(大五、一二生)四男豐(同八、一二生)六女光子(同一一、一〇生)庶子廣(同七、一〇生、生母、石川、小鍛治美代)同潔(同一二、一一生、生母、兵庫、谷江みよ)同末子(同一四、一二生、生母同上)孫ゑみ子(同一二、九生、長男長女)同春子(同一四三生、同二女)同明子(昭四、三生、同三女)あり二女登洋(明三六、七生)は秋田縣人藤島市郎に三女しま(同四三、一生)は兵庫縣人町田愛治郎長男一男に嫁し庶子敏男(大二、五生、生母、石川、小鍛治美代)は分家せり(神戸、熊内町二ノ一〇八電灘川三九〇〇)
參照＝町田愛治郎※中島三郎の項

## 谷奧利吉
三菱海上火災保險(株)庶務課長 京都府在籍
妻 ワゲリ 明二五、一〇生、福島、高久學之助三女
男 利夫 大二、九生
女 綾子 大四、一〇生
君は京都府人谷奧喜平の長男にして明治十六年一月を以て生れ同三十八年家督を相續す同三十五年早稻田大學邦語政治科を卒業し現時三菱海上火災保險會社庶務課長たり家族は尚二男健二(大六、五生)二女恭子(同九、一生)四女鈴子(昭二、三生)あり父喜平(天保一一、九生)母つや(弘化元、一〇生、京都、上林六郎兵衞四女)は妹きく(明二一、一生)同夫香吉(同二〇、一二生、京都、山本嘉藏弟)及其子女を伴ひ分家し三女智惠子(大一一、一〇生)は福島縣人高久次八の養子となり姉きよ(明一二、三生)は京都府人麻田繁三に嫁せり(東京、小石川、宮下町二〇電大塚一八八九)

## 谷川茂次郎
運送業 大阪府在籍
妻 うの 明二、九生、大阪、橋本源吉長女
庶子 シゲ 明三五、一生、生母、大阪、出水トシ
養子 コタマ 明二九、一〇生、大阪、赤松孝次郎妹
君は大阪府人谷川喜兵衞の長男にして元治元年二月を以て生れ明治九年家督を相續す運送業を營む家族は尚養子義夫(大七、八生、コタマ私生子)あり同久江(明二六、六生、大阪、山田竹治郎二女)同つる(同三一、一二生、福井、伊原捨松長女)は各分家し養子マサ(同一八、一〇生、京都、淺野德三郎妹)は絶家橋本家を再興し庶子富造(大元、八生、生母、京都、橋本マサ)は其の家籍に入れり(大阪、東、瓦町二ノ二電本局二六〇九)

## 谷川善次郎
撫順炭販賣(株)專務取締役、山東鑛業、日滿倉庫各(株)取締役 兵庫縣在籍
妻 愛子 明二二、一二生、兵庫、大木節三二女
男 榮一 大五、八生
君は兵庫縣人谷川安二郎の三男にして明治十九年一月を以て生る現時前記各會社の重役たり家族は尚兄政市(明一四、八生、現戸主)同妻ムメ(同一二、八生)及其子女姪明子(大七、五生、亡弟菊次郎長女)あり(東京、北多摩、砧村喜多見三八〇電砧三〇)

## 谷川利善
從五位、園藝試驗場技師 東京府士族
父 利一 嘉永三、一二生、現戸主
妻 春 明二三、二生、茨城、恩田鐵彌長女
男 利尙 明四三、四生
女 繁子 大二、九生
女 倭子 大五、七生
君は青森縣士族谷川利一の長男にして明治十三年一月を以て生る同三十八年東京帝國大學農科大學農學實科を卒業し米國コーネル大學内紐育州農科大學に於て園藝學專攻歸朝後農事試驗場囑託となり大正十年園藝試驗場技師に任じ今日に至る弟浩(明一六、六生、東洋拓殖會社調査課長)は其妻恒子(同二六年生、青森、廣澤辨二二女、女子學習院出身)と共に分家せり(靜岡、庵原、興津町園藝試驗場官舍)
參照＝谷川浩の項

## 谷川浩
東省實業(株)取締役、鴻業公司(株)監査役、東洋拓殖(株)調査課長 東京府在籍
妻 恒子 明二七、六生、青森、廣澤辨二二女、女子學習院出身
君は東京府人谷川利一の二男にして同利善の弟なり明治十七年六月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し直に東洋拓殖會社に入り現時同社調査課長にして前記會社の重役を兼ぬ大正十一年東洋拓殖會社より選ばれて南米實業團に加はりブラジル、アルゼンチン、チリー諸國を歴訪せし事あり又現に羅甸亞米利加協會員にして趣味に銃獵釣魚ゴルフあり霞ケ關カントリー倶樂部員たり(東京市外西巢鴨町池袋大原一四五五電大塚二九七〇)
參照＝谷川利善の項

## 谷川湊
日本石油(株)庶務課長 新潟縣在籍
妻 トキ 明一七、三生、新潟、中村藤八二女
男 湊一 明三八、八生、慶大經濟學部出身、三菱商事會社員
男 浩治 明四〇、一〇生、慶大經濟學部出身、住友合資會社員
女 倭子 明四三、五生
當家は鎭守府將軍藤原利仁の孫加賀守吉信の末葉なり始め後藤と稱し一時舊越後國松平侯の家士たりしが延寶年間松平家沒落の際浪士となり新潟縣柏崎に來り住し姓を谷川と改む中組第七世政臾は桑名侯の御用達にして文政年間刈羽郡内に新田を開墾す現在の谷川新田是れなり八世懷德桑名侯の御用達たる事如舊俳句を好み沙谷と號し高田藩勘定奉行森尙行の姉を娶り獨山人及茶山等と交遊す君は其孫多一郎の長男にして明治十年五月を以て生れ同十二年家督を相續す同二十八年日本石油會社に入り各地に赴任し其大阪下關兩販賣店長兼務中販路開拓の爲臺灣支那朝鮮等を視察する事前後數回後會計課長及調度課長經理副部長等を經て現に同社庶務課長たり家族は尙三男海三(大二、九生)四女汪(同七、九生)あり長女操(明三三、七生、大阪梅花高女出身)は宮城縣人東京高等商業學校出身高橋愿三に二女淸(同三五、一〇生、出身校同上)は福井縣人早稻田大學出身川田久四郎に嫁せり(東京、麻布、本村町一



一六電高輪四九四四)

## 谷川義男
大東海上火災保險、日本玩具製作所、大阪油脂研究所各(株)取締役、三井生命保險(株)市内部長 三重縣在籍
母 くら 嘉永五、一〇生、三重、眞弓吉左衞門二女
妻 タツ 明二七、一生、長崎、宮田安次郎長女
男 義春 大五、一生
君は三重縣人谷川文七の四男にして明治十七年六月を以て生れ大正三年家督を相續す夙に米國に遊學しミネソータ大學卒業後明治四十三年ハーバート大學を卒業しマスター・オブ・アーツの學位を受く歸朝後大阪高等商業學校教授たること七ヶ年退官して實業界に入り現時三井生命保險會社市内部長たると共に前記各會社の重役たり餘暇親鸞主義普及會を起し雜誌及講演に親鸞教の宣傳に努む家族は尚二男義文(大八、三生)四男正雄(同一四、四生)二女喜美子(昭二、八生)あり弟信男(明二二、一一生)は神奈川縣人川合乙次郎の養子となれり(兵庫、武庫、住吉村畔倉一一〇七電御影五一二五)

## 谷河梅人
臺灣日日新報社(株)監査役兼主筆兼總務部長、岩手縣士族
父 直八 安政三、一一生、岩手、村木佐忠太二男、現戸主
妻 ヤヘ 明一六、二生、茨城、大野時長女
男 靖夫 明三六、一一生
婦 マサ子 明四四、九生、長男靖夫妻、栃木 金井高次郎二女
女 フヂ 明三三、五生
君は岩手縣士族谷河直八の長男にして明治七年十一月を以て生る同三十年慶應義塾文科を卒業し現時臺灣日々新報社監査役にして主筆及總務部長を兼ぬ大正十三年歐米を視察す家族は尚三女俊子(大八、九生)三男多嘉夫(同一一、九生)孫一郎(昭五、三生、長男靖夫長男)あり二女タツ(明三九、三生)は茨城縣人牧一弟參に嫁し二男卯吉(大四、一生)は岩手縣人苫米地キヤウの指定相續人となれり(臺北、大正町一ノ一六電二六七)
參照＝牧一の項

## 谷口英次郎
大連商工會議所議員、日本棉花(株)大連支店長、愛媛縣在籍
妻 延惠 明二七、三生、愛媛、大西安四郎長女
男 義郎 大二、一〇生
女 禮子 大五、一生
君は愛媛縣人森大次郎の二男にして明治十六年十一月を以て生れ谷口家に入り昭和二年從弟三樹三郎方より分れて一家を創立す現時日本棉花會社大連支店長にして推されて大連商工會議所議員たり家族は尚二男信也(大一一、六生)三男孝平(同一三、九生)あり(大連、山縣通四九)

## 谷口嘉吉
京都府多額納稅者、谷口商店(資)社員、砂糖商、京都府在籍
妻 カネ 慶應二、九生、京都、岡田儀兵衞二女
男 嘉一郎 明二二、一生、現戸主
婦 美代 明二四、一一生、長男嘉一郎妻、京都、谷口文治郎四女
孫 加代 大元、一〇生、長男嘉一郎長女
君は京都府人谷口嘉兵衞の長男にして慶應元年五月を以て生れ後家督を相續し大正十五年退隱す砂糖商を營み現時谷口商店社員にして京都府多額納稅者に列し直接國稅六千四百三圓を納む(京都、上京、姉小路柳馬場東入ル電本局三五七六)

## 谷口勝季
三田土護謨(株)專務取締役 東京府在籍
妻 久子 明二九、八生、東京、丸山左事太養子
男 盛次 大六、一〇生
君は東京府人谷口平三の三男田崎留太の弟にして明治十九年七月を以て生れ大正十三年兄吉太郎方より分れて一家を創立す現時三田土護謨會社專務取締役たり家族は尚二女菊江(大一一、一〇生)三女俊子(昭二、三生)四男松雄(同四、八生)あり三男勝三郎(大一四、三生)は東京府人丸山喜彌の養子となれり(東京市外高田町雜司ヶ谷旭出四三)
參照＝田崎留太※江口順一の項

## 谷口賢次郎
滋賀縣會議員、宇治川汽船(株)社長、江若鐵道(株)取締役、太湖汽船(株)相談役、滋賀縣在籍
妻 かな 慶應元、一生、養父嘉助二女
男 淸次 明二八、九生、太湖汽船(株)常務取締役
孫 信子 明四二、一二生、長女キヌ長女
君は京都府人佃宜正の二男にして元治元年六月を以て生れ先代嘉助の養子となり明治十七年家督を相續す夙に交通運輸事業に從事す義に湖南汽船琵琶湖鐵道汽船京津電軌各會社の重役に就任大津市會議員大津商工會議所議員同副會頭に擧げらる現時前記各會社の重役にして滋賀縣會議員たり長女キヌ(明一八、九生)は滋賀縣人岡野亥之助に二女つき(同二一、三生)は同縣人上田昌雄に三女たつ(同二五、一一生)は愛媛縣人川添淸男に嫁せり(大津、南深町一一電八四六)
參照＝川添淸男、谷口淸次の項

## 谷口源十郎
鳥取縣多額納稅者、鳥取貯蓄銀行、雲陽實業銀行各(株)取締役、農業 鳥取縣在籍
母 しゑ 慶應二、二生、鳥取、熊谷新一郎長女
男 宇多太郎 明四一、九生
君は鳥取縣人谷口淨晃の長男にして明治十六年五月を以て生れ前名歌太郎を改め大正十年家督を相續す農業を營み直接國稅七千六百圓を納め鳥取縣多額納稅者にして傍ら前記銀行の重役たり家族は尚三男三郎(大三、六生)庶子正藏(昭二、三生、生母、滋賀、久田久野)同義男(同五、三生、生母同上)あり弟餘之輔(明二九、八生)は分家せり(鳥取、岩美、末里村)

## 谷口作治郎
順和公司、アイフ本舖、賣藥商 奈良縣在籍
父 甚五郎 安政四、一二生、奈良、窪田甚藏三男
妻 こゆき 明二六、九生、奈良、松井奈良松長女
男 有恒 大五、八生
君は奈良縣人谷口甚五郎の長男にして明治十八年七月を以て生る日露戰役後支那貿易に着目し滯支數年大正四年獨力を以て順和公司を設立し胃腸藥アイフ外數種の賣藥を發賣せり家族は尚長女妙子(大八、一生)あり姉イノ(明一二、六生)は大阪府人千原種藏に妹フタ(同二二、五生)は奈良縣人窪田亥之松養子宇之松に同チタミ(同二五、九生)は大阪府人小島良三に嫁し弟甚一郎(同三〇、一生)同正一(同三三、九生)は各分家せり A一六七〇B四六七(大阪、東、淸水谷西之町三

六五電東五六四)

**谷口三郎**　從四位勳四等、內務技師兼拓務技師、土木局勤務、廣島縣在籍

妻　房　明二三、七生、山口、士、阿曾沼正治妹

君は廣島縣人谷口嘉一の三男にして明治十八年四月を以て生れ大正十二年兄精太方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し同四十三年北海道技師となり內務技師兼鐵道院技師內務技師大阪土木出張所勤務を經て現時前記の官職に在り(東京、小石川、小日向臺町二ノ二九)

參照＝阿曾沼正治の項

**谷口茂雄**　明治海運(株)專務取締役、神戶海運俱樂部(株)取締役、神戶電機製作所(株)監査役、兵庫縣在籍

妻　協　明一九、九生、兵庫、直木政之介三女
男　英雄　大二、三生
女　悌子　明四〇、七生
女　敏子　大五、八生

君は兵庫縣人谷口信太郎の二男にして明治十三年一月を以て生れ同三十九年兄武一郎方より分れて一家を創立す現時前記諸會社の重役にして曩に神戶商工會議所議員に推さる家族は尙三女鮮子(大九、三生)三男幹雄(同一二、一二生)あり(神戶、中山手通六ノ四三電元町二六七九)

參照＝直木政之介※直木三郎※錦織宗の項

**谷口尙眞**　正三位勳一等功四級、海軍大將、海軍々令部長兼海軍將官會議々員、廣島縣士族

妻　直枝　明一三、一二生、東京、士、故海軍少將柳楢悅二女
男　眞　大五、九生

君は廣島縣士族谷口眞鄉の二男にして明治三年三月を以て生れ同二十八年亡兄清眞の後を承けて家督を相續す夙に海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ爾來累進して海軍大將に陞る其間海軍省副官生駒常磐榛名各艦長海軍省人事局長吳要港部司令官練習艦隊司令官海軍兵學校長第二艦隊司令長官吳鎭守府司令長官等に歷補し昭和五年前記現職に轉ず家族は尙二男清(大七、八生)長女悅子(同八、一一生)二女直子(同一〇、七生)三女倚子(同一一、一一生)四女道子(同一五、三生)亡兄清眞妻トミ(文久二、一二生、廣島、士、山田仲太郎二女)あり姪美佐穗(明二四、二生、亡兄清眞長女)は靜岡縣人土屋勇藏弟幸作に嫁せり(東京、赤坂、青山南町六ノ一〇八電青山七九〇)

**谷口新平**　茨城縣多額納稅者、筑波鐵道(株)社長、茨城縣是製絲(株)代表取締役、加波山石材(株)監査役、製絲業、茨城縣在籍

妻　とも　明一一、一二生、養父茂三郎長女
男　彌太郎　明三二、一一生
婦　ミキ　明三八、四生、長男彌太郎妻、栃木、鈴木良一四女
男　順三　明四二、四生
女　とよ　大元、八生

君は茨城縣人猪瀨兼吉の弟にして明治九年七月を以て生れ谷口家の養子となり大正四年養祖父彌惣次の後を承け家督を相續す製絲業を營み現に前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅一千十五圓を納む家族は尙孫喜美子(大一五、一一生、長男彌太郎長女)同武一(昭三、一一生、同長男)あり長女よし(明三五、五生)は茨城縣人鈴木虎次郎二男達衞に二女郁(同三六、一一生)は同縣人今宮牧之助二男新に嫁し養弟延壽(同三〇、二生)は同縣人橋德次郎の養子となれり(茨城、眞壁、樺穗村)

參照＝鈴木虎次郎、鈴木良一の項

**谷口清次**　大津商工會議所議員、大湖汽船(株)取締役兼支配人、湖東汽船、京津自動車各(株)監査役、滋賀縣在籍

父　賢次郎　元治元、六生、現戶主
妻　みよ　明三二、四生、滋賀、須田房次郎長女
男　豐治　大一三、五生

君は滋賀縣人谷口賢次郎の二男にして明治二十八年九月を以て生る大正七年早稻田大學商科を卒業し現時大湖汽船會社取締役兼支配人たる外前記諸會社の重役を兼ね推されて大津商工會議所議員たり家族は尙二男利夫(大一五、六生)三男喜佐雄(昭四、一生)あり(大津、南保町一一)

參照＝谷口賢次郎の項

**谷口清之助**　昭和貿易(株)社長、近江扇子工業(株)取締役、共榮自動車、日本共立無盡、帝國共立無盡各(株)監査役、丸淸、扇子雜貨貿易商、京都府在籍

妻　ミキ　明一九、一〇生、京都、末廣宗助長女
養子　榮之助　明三五、三生、京都、谷口榮太郎五男

君は京都府人谷口清兵衞の長男にして明治十年十二月を以て生れ同三十二年家督を相續す丸淸と稱し扇子雜貨貿易商を營み傍ら昭和貿易會社長たる外前記各會社の重役を兼ぬ父清兵衞(天保一三、七生、滋賀、笹原德兵衞二男)母ヒサ(安政六、二生、祖父清兵衞長女)は共に分家せりA三〇一(京都、東山、本町三丁目一〇四電祇園三五七六)

**谷口善一郎**　谷口商店(資)無限責任社員、硝子商、大阪府在籍

君は大阪府人大井秀二の長男にして大正四年十一月を以て生れ昭和四年亡伯父元之助の後を承けて家督を相續す硝子商を營み谷口商店無限責任社員たり家族は亡伯父元之助妻ハル(明九、七生、大阪、橋本駒吉長女)あり母たけ(同二四、一二生)は大阪府人谷口もとの死跡を相續し叔母トヨ(同一七、三生)は同府人山本友松に嫁し同三代(同三二、二生)は其二女を伴ひ分家せりA一三三五(大阪、西、阿波座下通一ノ一六電新町一八二)

**谷口武雄**　豐國通信社長、廣告代理業、東京府在籍

繼母　滿　明二一、八生、愛知、村瀨文二郎長女
妻　初　明四四、一生、滋賀、田中丑之助二女

君は愛知縣人小川松一郎の二男にして明治三十七年十月を以て生れ先代新造の養子となり昭和五年家督を相續す豐國通信社長にして廣告代理業を營む家族は尙弟弘太郎(大三、二生)同宏次郎(同五、五生)妹寧子(同八、二生)弟米三郎(同一一、八生)同拓四郎(同一四、四生)ありA七九六〇(東京市外大久保町西大久保二一二電四谷七一一五)

**谷口恒二**　從五位、稅關事務官兼大藏事務官、橫濱稅關及主稅局勤務、兵庫縣在籍

父　寅之助　慶應二、一生、現戶主
母　シカ　明五、四生、大阪、岡本卯兵衞長女





妻　幸子　明三六、三生、石川、吉田辰男二女

君は兵庫縣人谷口寅之助の二男にして明治二十七年六月を以て生る大正八年東京帝國大學法學部政治學科を卒業高等試驗に合格し大藏屬司稅官大津稅務署長を歷任し大正十年稅關事務官に任じ門司稅關在勤長崎稅關監視部長兼港務部長を經て現に橫濱稅關在勤たり昭和三年大藏事務官に兼任せられ同年國際經濟統計會議委員隨員を命ぜられ歐米に出張すスポーツを趣味とす家族は尙長女サキ子(大一二、七生)二女キヨ子(同一四、一二生)弟幸三(明四〇、一二生、東大法學部在學)あり(東京、本鄕、駒込千駄木町五〇電小石川四〇〇八)

**谷口藤樹**　因幡銀行(株)取締役、鳥取酒造(株)監査役、鳥取縣在籍

妻　喜代　明一八、一一生、大阪、濱永敏明妹
養子　藤雄　明二〇、一生、養子みさを夫、鳥取、田中庄太郎弟
養子　みさを　明二七、一二生、養子藤雄妻、鳥取、川上千賀長女
孫　利江　大元、一一生、養子藤雄長女

君は鳥取縣人谷口藤五郎の長男にして明治三年十月を以て生れ同十六年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙孫忠輔(大一五、一〇生、養子藤雄四男)あり妹そよ(明六、一二生)は鳥取縣人川上千賀に叔母こよ(嘉永五、三生)は大阪府人小津米吉に嫁し弟重太郎(明一八、三生)同妻しか(同一四、二生、鳥取、太田文三二女)は其一女を伴ひ分家せり(鳥取、岩美、宇倍野村)

**谷口德三郎**　北海造營(株)專務取締役、谷口組(資)代表社員、土木建築請負業、北海道在籍

妻　ヤヱ　明三〇、九生、北海道、井上歌次七女
男　良治　大六、一生
養子　正義　明四〇、一一生、北海道、笠原巖弟
養子　良夫　明四三、八生、北海道、笠原巖弟

君は北海道人谷口市三郎の三男にして明治十七年九月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す土木建築請負業を營み現に谷口組代表社員にして又前記會社の重役たり曩に札幌商業會議所議員丸三商會監査役たりしことあり長女エツ(大四、九生)は岩手縣人水野駒次郎の養子となれり(札幌、南二條西五丁目)

**谷口德政**　大阪窯業、大阪窯業セメント、大濱土地各(株)常務取締役、大來汽船(株)監査役、兵庫縣士族

妻　みつ　明一七、四生、兵庫、三木正雄妹
男　政勝　明四〇、一二生
男　猛政　明四二、一一生
女　繁　大二、八生

君は兵庫縣士族谷口政堅の長男にして明治十二年七月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し現時前記諸會社の重役たり家族は尙弟清政(明一九、一〇生)同妻三龜(同二五、一一生、兵庫、大川清太郎二女)及其一子あり(堺、大濱南公園二三號電二〇六七)

**谷口知平**　大阪商科大學講師、京都府在籍

君は京都府人谷口文治郎の長男にして明治三十九年四月を以て生れ大正十三年家督を相續す昭和四年京都帝國大學法學部を卒業し日下大阪商科大學に職を奉ず姉美代(明二四、一一生)は京都府人谷口嘉一郎に嫁せりA二〇二〇(京都、上京、土手町丸太町下ル電上一六七五)

**谷口成美**　大同電氣(株)理事、天洋電機(株)取締役、東京府在籍

妻　喜代　明三二、一〇生、東京、士、福山道雄長女
男　弘　大一三、六生

君は東京府人谷口仲兵衞の二男にして明治十八年五月を以て生れ昭和六年兄清水方より分れて一家を創立す現時大同電氣會社理事にして前記會社の重役として知らる家族は尙長女美代子(大八、二生)二男誠(昭四、五生)ありA一八二二(東京、赤坂、青山北町六ノ四二電青山五六六五)

**谷口彥朔**　今直商店、酒醬油商、兵庫縣在籍

妻　なを　明二二、一一生、兵庫、井上政吉長女
男　宰平　大三、一一生
女　富美子　明四四、一二生

君は香川縣人桑原恒七の弟にして明治十七年九月を以て生れ先代善兵衞の養子となり同四十二年家督を相續す今直商店と稱し酒醬油商を營む家族は尙ほ四男幸平(大八、二生)二女きみ子(同一〇、一二生)五男周平(同一四、一生)三女和子(昭三、九生)あり(神戶、海岸通四ノ四四電三宮二一四五)

參照＝※石川喜八郎※佐伯與之吉の項

**谷口萬治郎**　兵庫縣多額納稅者、地主、兵庫縣在籍

妻　いま　明一五、一二生、兵庫、桝井億次郎長女
男　忠孝　大一〇、一生
女　重子　明四一、六生
女　妙子　大五、三生

君は兵庫縣人谷口庄右衞門の二男にして明治十五年一月を以て生れ同二十二年家督を相續す地主にして兵庫縣多額納稅者たり姉まき(明三、一一生)は大阪府人高橋嘉七に嫁し弟彥治郎(同二二、一生)は兵庫縣人萬谷榮太郎の養子となり甥實三郎(同二一、八生、姉よれ私生子)同庄一(同二七、七生、亡養子龍一長男)は各分家せり(神戶、大塚町二電本局一一六三)

**谷口默次**　大阪府多額納稅者、日本印刷材料、大阪書籍各(株)監査役、印刷業、大阪府在籍

男　壽一　明三〇、八生
婦　信　明三四、八生、長男壽一妻、大阪、中上九一郎四女

君は長崎縣人先代默次の長男にして明治四年八月を以て生れ同三十三年家督を相續し前名龜壽を改め襲名す同二十七年大阪高等商業學校を卒業して印刷業を營み直接國稅四千二百八十二圓を納め大阪府多額納稅者にして傍ら日本印刷材料會社監査役たり曩に大阪商業會議所議員に擧げられし事あり家族は尙孫源太郎(大一〇、一一生、長男壽一長男)同澄子(同一三、三生、同長女)同清次郎(同一五、七生、同二男)弟春雄(明二三、四生)同妻ちく(同三三、三生、大阪、小鹽佐右衞門長女)及其子女あり弟茂久(同二一、六生)は東京府人齋藤ツヤの養子となり姉コノ(慶應三、六生)は長崎縣人肥塚源次郎に嫁せり(大阪、北、堂島上三ノ一五電北一三四)

參照＝肥塚源次郎の項

**谷口元治郎** 從五位勳三等、陸軍砲兵大佐、參謀本部課長兼陸軍大學校兵學教官海軍々令部參謀、東京府在籍
妻 政子 明二六、一〇生、京都、林田彌壽夫三女
男 元一 大一二、一一生
君は東京府士族谷口安定の長男にして明治十八年六月を以て生れ同二十九年家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し砲兵少尉に任じ昭和三年砲兵大佐に累進す現時參謀本部課長兼海軍々令部參謀たり家族は尙長女ゆき(大七、一一生)あり(東京市外高井戸町大宮前二七七)

**谷口守雄** ボルネオ殖產(株)取締役社長、旭電氣、湘南電氣鐵道、武州瓦斯、ホワイトシテー各(株)取締役、東京乘合自動車、東京瓦斯、東洋電機製造、狩野川電力、空中電氣鐵道各(株)監查役、大山鋼索鐵道(株)相談役、平和海上火災保險(株)顧問、朝鮮鐵道(株)囑託、帝國瓦斯協會常任理事、帝國鐵道協會理事、東京市聯合青年團、四谷區青年團、四谷教育會各理事、四谷、東京府士族
妻 安子 明一七、二生、東京、小長谷甕孝妹
女 昌子 大三、一〇生
君は三重縣士族谷口四郎兵衞の長男にして明治七年七月を以て生れ同三十四年家督を相續す夙に實業界に入り現時ボルネオ殖產會社取締役社長の外前記諸會社の重役として知られ帝國瓦斯協會常任理事帝國鐵道協會理事たり弟三郎(明一五、一〇生)は京都府士族福井ハマの入夫となれりA一六五五(東京、四谷、永住町二電四谷四六〇二)

**谷口彌三郎** 財團法人實驗醫學研究所長、日本赤十字社熊本支部產院長、谷口病院長、熊本產婆學校長、熊本藥學專門學校講師、醫師、熊本縣在籍
妻 ミツ 明二三、一二生、熊本、谷口長雄長女、熊本尙絅高女出身
男 長明 大九、九生
・女 清音 大五、六生
君は愛媛縣人近藤佐五郎の長男にして明治十六年八月を以て生れ谷口家に入り大正十年養弟曉方より分れて一家を創立す醫師にして現時前記の職に在りA四三三九B一五六九(熊本市本莊町代繼橋五七〇電一六〇)

**谷口美貞** 正四位勳二等功五級、海軍中將 東京府在籍
妻 安子 明二〇、三生、高知、士、森脇榮枝妹
男 貞人 明四三、四生
女 豐子 明四四、一二生
女 明子 大二、四生
君は京都府人谷口倩二郎の三男にして明治十三年五月を以て生れ大正十一年兄弘貞方より分れて一家を創立す同三十四年海軍兵學校を卒業し同三十六年海軍少尉に任じ昭和四年海軍中將に累進す其間艦政局々員同總務部第一課長造兵監督官橫須賀海軍工廠造兵部長兼攪雷實驗部長海軍艦政本部技術會議々員吳海軍工廠砲熕部長兼砲熕實驗部長佐世保海軍工廠長軍令部出仕等に歷補し昭和四年十二月豫備役に編入せらる家族は尙二男貞純(大五、二生)三女光子(同一一、一一生)四女淳子(昭二、二生)あり(福岡市土手町)

**谷田勝之助** 正五位勳四等、檢事、鳥取地方裁判所檢事正、京都府在籍
妻 かれゑ 明二七、八生、兵庫、堀尾治一郎妹、從七位、東京女高師文科出身
男 勝俊 昭五、一生
女 綠 明三九、一二生
女 越子 明四三、一〇生
女 夏子 大四、七生
君は京都府人和田芳右衞門の三男にして明治十八年九月を以て生れ先代シゲの養子となり同三十九年家督を相續す同年法政大學專門部法律科を卒業し判檢事登用試驗に合格同四十二年檢事に任ず爾來武生區福井地方敦賀區岡崎區廣岡區大阪區同地方大分地方同區熊本地方同區福岡地方同區各裁判所檢事札幌控訴院檢事等に歷補し昭和四年現職鳥取地方裁判所檢事正に補せらる(鳥取市鳥取地方裁判所檢事局內)

**谷田三郎** 從三位勳二等、法學博士、判事、大阪控訴院長、京都府在籍
男 豐 大四、九生
女 洋子 明四二、六生
女 泰子 明四四、一生
君は京都府人谷田泰三の三男にして明治四年九月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す同二十四年獨逸協會學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同二十九年判事に任じ爾來富山區高岡區大阪地方京都地方各裁判所判事大阪地方裁判所部長大阪控訴院判事東京地方裁判所檢事兼司法省參事官東京控訴院檢事司法省監獄局長等に歷補し大正十年再び判事に轉じ大阪控訴院長に補せられ現在に至る曩に明治四十二年歐米に差遣せられ次で大正八年法學博士の學位を授與さる家族は尙庶子貞子(大一一、二生、生母、東京、高野きん)同芳夫(同一二、一一生、生母同上)同久(昭二、一二生、生母同上)あり二女幸枝(明四〇、一生)は大阪府人佐伯純一に嫁せり(兵庫、武庫、御影町柳九〇〇ノ四電御影一〇八七)

**谷田繁太郎** 正四位勳二等、陸軍中將 大阪府在籍
妻 よれ 明一〇、六生、大阪、山脇恒三郎長女
男 繁夫 明三六、九生、東京工業試驗所勤務、理學士
婦 ヒデ 明四四、四生、長男繁夫妻、長野士、西澤直次郎二女、御茶ノ水高女出身
男 閑次 明四四、三生、東京帝大在學
君は大阪府人谷田熊七の長男にして明治五年六月を以て生れ同三十五年家督を相續す同二十七年陸軍工兵少尉に任じ大正十年陸軍中將に陞進す其間陸軍士官學校教官參謀本部々員砲工學校教官澎湖島要塞參謀關東都督府副官陸軍大學校兵學教官海軍大學校教官陸軍技術審查部議員軍務局工兵課長廣島灣要塞司令官陸軍運輸本部長陸軍技術本部第二科長工兵監築城部本部長陸軍技術會議々員等を歷補す大正十四年豫備役編入後帝國飛行協會總務理事に推されしも現時辭して閑地に在り家族は尙弟捨吉(明七、一〇生)同妻コマ(同一六、四生、大阪、今西新七妹)あり長女てい(同三三、一二生)は東京府人岩崎直英長男工學士直哉に嫁せり(東京市外澁谷町大和田六三)

**谷田友治** 三菱商事(株)參事、金屬部長 兵庫縣在籍
妻 すゑ 明一八、四生、兵庫、白石米太郎養子
君は兵庫縣人谷田彥三郎の長男にして明治十八年十一月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十五年神戶商業學校を卒業し直に三菱合資會社に入り大正十一年三菱商事會社金屬部長に舉げられ現に同社參事にして金屬部長の職に在り家族は尙弟豐三郎(明三一、六生)同妻松枝(同三九、八生、兵庫、高濱朋治妹)及其一男あり(東京、赤坂、丹後町四電青山二七四七)





**谷出二郎** 從四位勳四等、工學博士、大阪工業大學教授兼附屬工學專門部教授 京都府在籍
妻 ミチ 明二〇、一一生、京都、平岡讃之助姉
男 次雄 明四四、一二生
女 孝 明四〇、一生
君は京都府士族大石信成の二男にして明治十四年六月を以て生れ母の實家谷出姓を嗣ぐ同四十年京都帝國大學工科大學機械工學科を卒業し同四十一年大阪高等工業學校教授に任ぜられ大正六年水力タービン研究の爲歐米に留學し同十五年工學博士の學位を授けらる昭和四年四月大阪工業大學の開設に際し同學教授に任じ附屬工學專門部教授兼任となり今日に至る四男仲祐(大三、九生)は京都府人谷出なをの死跡を相續せり(京都上京、東三本木南町五一八)

**谷野數之** 從七位、醫學博士、縣立廣島病院長兼外科部長、岡山縣在籍
母 紫 慶應二、六生、岡山、小野亮三女
妻 モト 明二五、三生、廣島、井東茂兵衞長女
男 良之 大五、一二生
君は岡山縣人谷野瀧治の二男にして明治二十年十一月を以て生れ大正十二年家督を相續す同三年東京帝國大學醫科大學を卒業し現時縣立廣島病院長兼外科部長たり同十五年醫學博士の學位を授けらる家族は尙長女千代(大七、一〇生)二女靜(同一〇、一〇生)二男孝之(同一五、一生)弟早人(明二三、三生)同妻義枝(同三七、二生、廣島、守屋義之二女)弟富有夫(同二九、一生)同妻靜子(同三九、二生、石川、堀田金十郎三女)及各其一子あり(廣島市水主町三三)
參照＝井東茂兵衞※濱田治兵衞の項

**谷野作治** 日本興業銀行(株)參事、證券課長 富山縣在籍
妻 かれ 明一五、一二生、富山、加藤敬三郎養妹
君は富山縣人谷野亮七の二男にして明治六年十二月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治三十五年東京帝國大學法科大學を卒業し十二銀行東京支店長東京拓殖會社調查役出納課長等を經て大正六年日本興業銀行に入り現時同行參事にして證券課長たりA九〇〇(東京市外荏原町小山五〇九ノ二電荏原三三五)
參照＝加藤敬三郎の項

**谷野彌吉** 大阪商工會議所常議員、大同洋紙店(株)社長、日本ノート學用品(株)監查役、大阪紙商同盟會々長 大阪府在籍
妻 エイ 明一〇、三生、奈良、椿本一作叔母
男 彌太郎 明四四、七生
女 啓子 大二、四生
君は京都府人谷野彌兵衞の二男にして文久三年八月を以て生れ明治二十六年分れて一家を創立す夙に中井商店に入り名古屋支店長となり同三十三年歐米各國の紙業界を視察す歸京後同商店の株式組織となるや舉げられて專務取締役となり大阪支店長を兼ねしが大正十三年是を辭し直に大同洋紙店を創立し社長に就任す現に其任に在り傍ら前記會社の重役たり家族は尙三男圭佑(大五、一二生)あり亡養子金之助妻みよ(明三四、五生、長野、堀越壽助二女、三輪田高女出身)は分家せりA四四八二(大阪、天王寺、夕陽丘町九電南六八九)
參照＝堀越壽助※谷井類助の項

**谷林德太郎** 正四位勳二等功五級、陸軍主計總監、東京府在籍
妻 テル 明八、一二生、東京、士、水野信敏二女
男 正敏 明三三、一生、法學士
婦 喜久 明三五、九生、長男正敏妻、東京町田精衞妹
男 勝 明三五、五生、法學士
男 英男 明三九、四生、慶大醫學部出身
女 淑 明四五、一生、津田女子英學塾在學
君は山口縣人谷林榮藏の長男にして明治三年九月を以て生れ同二十九年家督を相續す同三十年陸軍三等軍吏に任じ大正十五年陸軍主計總監に累進し同年豫備役となる其間陸軍省主計課長朝鮮軍經理部長陸軍東京經理部長關東軍經理部長等に歷補す家族は尙五男五郎(大五、四生)孫正誠(同一五、六生、長男正敏長男)あり四男四郎(明四三、二生)は東京府人水野義三郎の養子となれり(東京、牛込、富久町一〇四電四谷三〇四八)

**谷原公** 衆議院議員(德島縣選出)、辯護士 東京府在籍
母 イク 萬延元、二生、谷原市兵衞長女
妻 イト 明三〇、一二生、德島、天羽信夫姉
男 正公 大八、一一生
君は德島縣人谷原楠三郎の長男にして明治十七年九月を以て生れ同三十八年家督を相續す夙に明治大學を卒業し川上村長德島縣會議員等に舉げらる昭和五年郷黨より推されて衆議院議員に當選し現に立憲民政黨に屬し辯護士たり家族は尙長女光(大七、九生)二男秀公(同一〇、四生)三男博公(同一四、三生)三女清美(昭三、七生)あり養妹ヌイ(明三五、一〇生、東京、増田磯吉二女)は其子女を伴ひ分家せり(德島市寺島町)

**谷藤長英** 從五位勳三等、陸軍步兵大佐、第六師團參謀長、岐阜縣在籍
母 つれ 安政元、八生、祖父仁平長女
妻 すう 明二九、一二生、岐阜、山村眞太郎三女
男 二郎 大一一、四生
君は岐阜縣人谷藤治兵衞の三男にして明治十七年三月を以て生る夙に陸軍士官學校を卒業し明治三十七年步兵少尉に任じ昭和三年同大佐に累進す其間第十九師團參謀教育總監部課員陸軍省人事局課員步兵第六十三聯隊長等に歷補し昭和四年現職に補せらる家族は尙三男勇(大一四、七生)二女信子(昭二、一二生)四男正(同五、三生)兄治郎吉(明一〇、二生、現戶主)同妻つる(同一二、二生、岐阜、松井濱吉妹)及其子女あり姪房枝(同三九、六生、兄治郎吉長女)は大阪府人大和田正一に嫁せり(熊本市古城堀端町二一八電四一一四)

**谷藤巳之松** 函館商工會議所議員、海產物卸商 北海道在籍
養子 四郎 大三、六生、北海道、砂子虎吉四男
君は北海道人谷藤武次右衞門の三男にして明治十九年七月を以て生れ大正八年甥文次郎方より分れて一家を創立す海產物卸商を營み推されて函館商工會議所議員たり家族は尙養子節子(大七、三生、甥文次郎從妹)ありA一一六B七〇(函館、豐川町四二電一〇五九)

**谷道清之助**　千代田汽船㈱社長、津久茂商會㈱監査役、海運業、東京府在籍
妻　しげ　明六、一一生、養父英橋長女
養子　泰二郎　明二九、九生、養子登志枝夫、富山、正村保次郎二男
養子　登志枝　明四〇、一一生、養子泰二郎妻、兵庫、中井貞心孫
君は富山縣人辻久左衞門の弟にして慶應三年一月を以て生れ東京府人谷道英橋の養子となり明治二十七年分れて一家を創立す海運業を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙孫泰子(大一四、八生、養子泰二郎長女)あり(東京、牛込、拂方町五電牛込一七九二)

**谷村伊右衞門**　袋物商　東京府在籍
君は東京府人先代伊右衞門の二男にして明治二十三年十二月を以て生れ同二十九年家督を相續し前名治吉を改め襲名す袋物商を營み江戸時代よりの老舖なり狩獵及スポーツに趣味を有す養妹せい(明三、一〇生、東京、村田與兵衞長女)は東京府人大倉保五郎に嫁せりA二二二八B七〇(東京、日本橋、通鹽町一六電浪花五三三〇)
參照＝大倉保五郎の項

**谷村一太郎**　藤本ビルブロカー銀行㈱取締役會長、湊鐵道㈱社長、セ・フジモト・セキュリチース・コンパニー取締役兼支店代表者、川崎造船所、川崎車輪、帝國人造絹絲、日本活動寫眞、八木商店各㈱監査役　富山縣在籍
妻　ちか　明八、一一生、京都、松村謙三叔母
男　順藏　明二五、四生
婦　ゆき　明三七、二生、長男順藏妻、文學博士新村出長女
男　鐵三郎　明三二、三生
君は富山縣人谷村友吉の長男にして明治四年四月を以て生れ同十六年家督を相續す夙に實業界に入り現時藤本ビルブローカー銀行取締役會長たる外前記諸會社の重役として知らる家族は尙孫友一(昭二、八生、長男順藏長男)妹國(明八、一一生)あり父友吉(嘉永元、二生)は母たつ(同五、六生、富山、前村禮造妹)と共に弟武次郎(明六、五生)妹つや(同一一、四生)を伴ひ分家し二男敬介(同二九、一一生)も亦分家し四男和雄(同三五、二生)は京都府人松村謙三の家籍に入り妹尙(同一一、八生)は富山縣人藤澤五三郎長男助太郎に同英(同一六、一生)は同縣人藤岡直次郎に嫁せりA四六七一(京都、中京、堺町通竹屋町下ル電上一八一七)
參照＝新村出の項

**谷村金四郎**　富山縣會議員、西太美村助役、農業、富山縣在籍
母　つい　安政四、九生、富山、辻野九左衞門孫
妻　つい　明一九、一生、富山、伊藤傳三郎三女
男　昌平　明三五、五生
婦　久子　明四一、五生、長男昌平妻、富山、柴田太郎兵衞妹
男　公平　明三八、四生
女　久子　大四、四生
君は富山縣人谷村平兵衞の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正十一年家督を相續す夙に縣立農學校を卒業し農を業とし昭和二年富山縣會議員に選ばれ又西太美村助役に推さる曩に西太美村長富山縣參事會員たり家族は尙四男文平(大九、三生)五男進平(同一五、四生)孫淑子(昭三、一生、長男昌平長女)あり三男良平(明四一、七生)は富山縣人松本そとゑの養子となれりA三〇〇〇(富山、西礪波、西太美村)

**谷村良太**　正六位、大隈鑛業、弘益殖産、宮尾鑛業各㈱取締役、福岡縣士族
妻　テイ　明一六、四生、山口、士、陸軍歩兵中佐和田正敏姉、御茶の水高女出身
男　新　明三四、五生、早大出身
男　登　明三七、一〇生、農學士、大日本人造肥料會社員
女　梅子　明三九、一一生、直方高女出身
女　宮子　明四二、三生、活水女子專門學校出身
女　むつ子　明四五、六生、直方高女出身、女子美術在學
君は山口縣士族谷村留助の長男にして明治七年十月を以て生れ同三十二年家督を相續す同年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙三男武(大四、三生)四男治(同六、一二生)五女喜代子(同九、一一生)五男康(昭四、五生)あり長女歌子(明三五、一二生)は福岡縣士族明永久次郎弟卯之吉に嫁せりA七五三(福岡、遠賀、底井野村)
參照＝明永久次郎の項

**谷本清心**　從四位勳四等、臺北高等學校教授兼教諭、高知縣士族
母　禮　安政五、六生、高知、田村廉次妹
君は高知縣士族谷本清眞の長男にして明治十四年三月を以て生れ大正十二年家督を相續す先是明治四十年東京帝國大學理科大學理論物理學科を卒業し臺灣總督府國語學校教諭同教授兼臺灣總督府中學校教諭廣島高等師範學校教授等に歷任し大正十四年臺灣總督府高等學校教授兼教諭となり現在に至り昭和三年獨英米三ヶ國に留學し同五年歸朝す家族は尙弟貞雄(明一七、四生)同妻てる(同二五、四生、和歌山、岩本すみ妹)との間に一子ある外弟愼(同二一、一生)同妻貞(同三〇、一一生、高知、都築茂理馬長女)弟清(同三〇、五生)同妻初枝(同四二、一生、岡山、正富彈藏長女)及其一子弟眞象(同三二、一二生)あり(臺北、臺北高等學校內)

**谷本富**　正五位勳四等、文學博士、大阪每日新聞社㈱顧問、香川縣士族
妻　ノブ　明三、一一生、香川、士、神保正度妹
男　勁三　明三〇、三生、法學士、住友合資會社員
婦　龍　明三七、五生、二男勁三妻、長野、小穴唯三郎三女
男　誠　明三一、九生、理學士、中央氣象臺技師
婦　はつえ　明三四、四生、三男誠妻、京都、黑田友之助長女
男　驍　明三七、四生、京都帝大經濟學部在學
女　朝子　明四一、一生、神戸女學院出身
男　清　明四三、一一生、法政大在學
君は香川縣士族谷本耕藏の長男にして慶應三年十月を以て生れ後家督を相續す夙に高松病院醫學校を卒業し更に帝國大學文科大學哲學科選科に入り特に敎育學を修め同二十三年之を卒業し山口高等學校教授並東京高等師範學校教授に任ぜられ文部省視學官を兼ね後教育學研究の爲め英佛獨に留學し歐米諸大學制度取調を囑託せらる同三十九年文學博士の學位を受け京都帝國大學文科大學教授となり大正二年之を辭し爾來在野の學者思想家として評論著作に從事し又在京都佛教私立諸大學に出講す現時大阪每日新聞社顧問たり著書四十餘種能辨を以て著はる家族は尙孫潤(大一四、六生、二男勁三長男)同明子(昭三、二生、同長女)同健(大一二、九生、三男誠長男)同伸(同一五、一一生、同二男)同實(昭三、一〇生、同三男)ありA三四三(兵庫、武庫、精道村蘆屋藤ケ谷一四二四電蘆屋三〇七〇)





**谷本正雄**　大倉洋紙店、小田原製紙各㈱取締役、東京府在籍
妻　薰　明三六、一一生、東京、山本茂三郎長女
君は愛媛縣人谷本安定の四男にして明治二十年十二月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり(東京市外荏原町中延一〇八八電高輪四八八七)

**谷山善司**　十五銀行㈱西宮支店長　兵庫縣在籍
妻　てる　明二一、一〇生、養父友太郎二女
男　武男　大二、一一生
女　幸子　明四四、四生
君は岐阜縣人川出鉦次郎の五男にして明治十八年一月を以て生れ谷山友太郎の養子となり後分れて一家を創立す同三十八年神戸川崎銀行に入り後同行の合併と共に十五銀行に轉じ葺合兵庫福岡各支店長を經て現時同行西宮支店長たり家族は尙二男久男(大八、六生)三男幸三(同一二、二生)ありA一一七一(神戸、西灘河原四四八電御影四〇八六)

**谷山正國**　安田銀行㈱盛岡支店長　東京府士族
母　まき　文久元、一生、東京、士、岡本有方長女
妻　みどり　明二九、一〇生、長野、士、高木本枝四女、松本高女出身
男　正弘　大九、一一生
君は東京府士族谷山安吉の二男にして明治二十一年十二月を以て生る同四十年大倉高等商業學校を卒業し安田銀行に入り同行麻布靑山各支店長を經て現に同行盛岡支店長にして傍ら盛岡手形交換所委員長たり家族は尙長公女子(大六、一生)兄二葉(明二〇、一生、現戸主)同妻はな(同二六、七生、千葉、近藤又吉三女)及其四子弟利吉(同二四、一一生)同妻みつの(同三四、一二生、山梨、小倉政二郎妹)及其一男弟之安(同三二、五生)同妻なつゑ(同三七、六生、東京、竹下久長女)及其一女あり(盛岡、呉服町二ノ六)

**潤岡久吉**　羅金楼、割烹業　東京府在籍
男　顯　明三六、六生
婦　久子　明四〇、一一生、長男顯妻、福井、小林安太郎女
女　美津　明二九、一二生
君は福井縣人潤岡市平の三男にして安政五年二月を以て生れ明治二十一年兄與三郎方より分れて一家を創立す羅金楼と稱し割烹業を營む家族は尙孫輝子(昭三、八生、長男顯長女)あり長女つる(明二六、一一生)同夫盛三郎(同二四、二生、東京、山田彥五郎三男)は其二子を伴ひ分家し四女粂(同三八、一〇生)は東京府人橋本喜太郎長男豐吉に五女恒子(同四三、三生)は同府人渡邊五郎に嫁せりA五八〇〇(東京、京橋、新富町二ノ五)

**種田勘七**　錢勘商店、味噌溜釀造業　愛知縣在籍
母　まさ　明八、一一生、愛知、神谷傳右衞門妹
妻　みつ　明三三、七生、岐阜、林半右衞門六女
君は愛知縣人先代勘七の二男にして明治三十二年九月を以て生れ大正八年家督相續と共に前名勘一郎を改め襲名す錢勘商店と稱し味噌溜釀造業を營む家族は尙妹あや(明三八、八生)同こう(同四二、一二生)同かず(大六、一〇生)あり同はな(明三五、四生)は愛知縣人青木新四郎三男唯次に嫁せり(名古屋、西、上園町三ノ二電本局七四七)
參照＝林半右衞門※內田善助の項

**種田(オイダ)健藏**　東洋紡績㈱常務取締役兼工務部長、昭和レーヨン㈱常務取締役、裕豐紡績㈱取締役、愛知縣在籍
母　ひさ　弘化四、一二生、岐阜、小川萬藏二女
妻　愛子　明二三、五生、愛知、岡島甚兵衞長女
男　芳男　大二、三生
女　友子　明四一、二生
君は岐阜縣士族種田元萬の二男にして明治十一年一月を以て生れ同二十二年養兄榮次方より分れて一家を創立す現時東洋紡績會社常務取締役兼工務部長の外前記各會社の重役たり家族は尙三男稔(大四、二生)四男鉏(同六、三生)二女泰子(同一二、七生)あり姉こと(明九、四生)は愛知縣士族高橋惟賢に嫁し弟豐藏(同一二八生)同妻たか(同二六、六生、愛知、士、牧斐高三女)は其子女を伴ひ分家せり(大阪、西淀川、蒲島町四三電土佐堀二八六六)

**種田十次郎**　新潟縣多額納稅者、今町銀行㈱常務取締役、新潟縣在籍
妻　キイ　明三、一〇生、新潟、保科米藏妹
男　定次　明二九、九生
婦　カツ　明三七、五生、長男定次妻、新潟、保科米藏姪
養子　悌二　明三四、四生、新潟、種田長次郎二男
婦　綾子　明四二、六生、養子悌二妻、新潟、萩野順三郎三女
君は新潟縣人先代十次郎の長男にして明治元年二月を以て生れ同二十七年家督を相續し前名吉次郎を改め襲名す現時今町銀行常務取締役にして直接國稅千七百九十二圓を納め新潟縣多額納稅者たり家族は尙孫清次郎(大一四、一生、長男定次長男)同亮次(昭三、一一生、同二男)あり長女ミヤ(明二六、一一生)は新潟縣人佐々木久松に妹フジ(同一二、九生)は同縣人田村文四郎長男豐太郎に同トミ(同一五、四生)は同縣人風間三次郎長男政一に同マサ(同一八、一生)は前記田村文四郎二男實吉に同モト(同二〇、三生)は同縣人久住久松長男善吉に嫁し姪チヨ(同三一、三生、弟忠次郎長女)は同縣人石山磯吉の養子となり弟忠次郎(同七、四生)同妻ブン(同一四、一一生、新潟、寺山松太郎長女)は其二子を伴ひ分家せり(新潟、南蒲原、今町)

**種田富太郎**　北海道會議員、北海道多額納稅者、種田㈴代表社員、漁業　北海道在籍
妻　トヨ　明九、四生、北海道、高橋治助妹
孫　松二　大七、三生、長男豐太長男
君は北海道人種田銀作の長男にして明治四年八月を以て生れ大正十五年家督を相續す漁業を營み傍ら種田合名會社代表社員にして直接國稅五千七百圓を納め北海道多額納稅者たり家族は尙孫友子(大九、六生、長男

豐太長女)あり長男豐太(明二七、六生)同妻松江(同三二、三生)は共に分家し弟佐吉(同一二、一二生)も亦分家せり(札幌、南七條西四ノ二)
參照＝※高橋勝兵衞の項

**種田虎雄**　正四位勳三等、信貴山電鐵(株)社長、大阪鐵道(株)專務取締役、大阪電氣軌道、中勢鐵道各(株)取締役　岐阜縣士族
妻　秀子　明二三、一二生、山口、士、白根竹介妹
君は岐阜縣士族種田邁の三男にして明治十七年四月を以て生れ先代安藏の養子となり同四十一年家督を相續す同四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試驗に合格す爾來鐵道院副參事同參事鐵道書記官兼鐵道省參事官兼遞信書記官運輸局旅客課長門司鐵道局長運輸局長等に歷任し昭和二年退官す現時前記各會社の重役たり曩に鐵道事業研究の爲め米國に留學し又歐米各國に出張を命ぜらる(大阪、住吉、天王寺町二二〇〇電天王寺九七二)
參照＝白根竹介※男爵白根松介※河野紫一の項

**種村宗八**　早稻田大學出版部、日本洋瓦各(株)取締役、埼玉縣在籍
養母　みや　弘化四、八生、埼玉、石井庄右衞門長女
男　茂一　明一九、六生
婦　きち　明三一、一生、長男茂一妻、埼玉石井石三二女
婦　靜枝　明三一、一〇生、亡二男村二妻、東京、村山駒之助二女
君は埼玉縣人川島庄五郎の弟にして文久三年四月を以て生れ先代彥助の養子となり明治三十四年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫くにえ(大一〇、三生、長男茂一長女)同ふじえ(同一三、三生、同二女)同哲哉(同九、一一生　亡二男村二長男)同千惠子(同一二、二生、同長女)あり養弟光三(明一五、一〇生)同妻はま(同一三、四生、埼玉、辻定次郎三女)は其子女を伴ひ分家し養妹のぶ(同二九、一生)は東京府士族岸良之介弟彥一郎に嫁せりA二六七(東京、牛込、辨天町一五七)

**種子島源兵衞**　泉醬油(株)社長、貝塚紡織(株)取締役　大阪府在籍
養母　あい　安政三、七生、京都、川島平兵衞妹
妻　なか　明四、六生、養父源一三女
男　源三　明三四、一生、經濟學士、文學士
婦　順子　明三六、一二生、長男源三妻、兵庫、大塚茂十郎二女
種子島家は大阪府下貝塚町土着の商家にして代々近江屋と稱し酒醬油の釀造を以て著る君は同族川崎潮平の長男にして明治二年三月を以て生れ先代伯父源一の養子となり同十三年家督を相續す夙に祖業を繼ぎ後是を株式組織に改め泉醬油會社と稱し現に同社長にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族尙孫元寬(昭二、二生、長男源三長男)あり四女富久子(明四二、七生、羽衣高女出身)は大阪府人柴崎仁三の死跡を相續し養妹よれ(同一五、八生)も亦同族種子島勘左衞門の家督を繼ぎ同ひさ(同一〇、七生)は大阪府人尾崎演隆に三女光子(同三八、一一生、神戶女學院出身)は同府人平松九十九弟億之助に嫁し養姉こう(慶應元、一〇生)は同府人岡野武平の養子となれり(大阪、泉南、貝塚町電一六)
參照＝大塚茂十郎※茂木順三郎の項

**種子島時望**　從五位、男爵　舊大隅種子島邑主
母　房　明一三、一〇生、鹿兒島、士、種子島保長女
當家は平清盛の末葉信基の後なり信基肥前守に任じ種子島に住し依て氏とす鐵砲傳來の權輿左近將監時堯は其十四世の孫なり初め十二島を領せしも後種子島一萬石の邑主として十七代忠時より島津氏に屬し國老を以て遇せらる十九代久基初めて日本に甘藷を移植し數世を經て先代守時に至り明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治四十年一月を以て生れ昭和五年家督を相續し襲爵被仰付家族は尙妹郁(明四四、三生)弟時晢(大元、一一生)妹壽滿(同七、三生)あり姉時(明三五、七生)は鹿兒島縣人竹內正男に同信(同三八、一生)は同縣人種子島幸雄に嫁せり(鹿兒島市高麗町一八九ノ一)

**種子田右八郎**　從三位勳一等功四級、海軍造兵中將、東京府士族
男　秀穗　明三三、一生
婦　元子　明四〇、二生、二男秀穗妻、鹿兒島、與倉淳雄姉
君は鹿兒島縣士族種子田市兵衞の長男にして文久三年十二月を以て生れ同年家督を相續す明治十八年海軍機關學校を卒業し同十九年海軍少機關士に任じ大正三年海軍造兵中將に進む其間橫須賀海軍工廠造兵部長吳海軍工廠砲熕部長海軍艦政本部第一部長兼海軍技術會議々員等に歷補し日露戰役に功あり功四級金鵄勳章を賜ふ現時退役たり家族は尙孫八重子(昭四、一生、二男秀穗長女)あり三女米(明三一、八生)は鹿兒島縣人北川勘三郎長男宜彥に嫁せり(東京、麻布、山元町三七電高輪七五三八)

**種子田秀實**　正四位勳二等功五級、海軍中將　鹿兒島縣士族
妻　ツタヘ　明一〇、四生、鹿兒島、士、遠矢良彥妹
女　豐子　明四〇、九生、鹿兒島縣立第二高女出身
女　みた子　大三、九生、鹿兒島縣立第二高女在學
君は鹿兒島縣士族種子田休五郎の長男にして慶應三年十二月を以て生れ明治二十年家督を相續す同二十六年陸軍士官學校同三十四年陸軍大學校を卒業し同二十六年陸軍步兵少尉に任じ大正十年陸軍中將に累進す其間參謀本部々員第十二第十八各師團參謀宇都宮聯隊區司令官步兵第二十八聯隊長近衞師團參謀長步兵第七旅團長第八師團司令部附旅順要塞司令官等に歷補し大正十二年豫備役となる姉イツ(慶應元、六生)は外戚松元秀苗の養子となり弟源助(明八、一〇生)は分家せり(鹿兒島、鹿兒島、中郡宇村)

**賴母木桂吉**　正五位勳三等、衆議院議員(東京府選出)、東京府在籍
妻　こま　明七、四生、養父源七二女、從四位勳四等、元東京音樂學校教授
養子　眞六　明三二、一生、福島、關源二六男
婦　婦久　明三八、一生、養子眞六妻、東京松崎龜松五女
君は大阪府人富田又一郎の長男にして慶應三年十月を以て生れ先代源七の養子となり大正十二年家督を相續す夙に高等中學を卒業し淺草區會議員東京市會議員報知新聞營業部長東京每日新聞社長早稻田大學講師極東石油美術館南進公司東京貯藏食品筑豐炭礦第一自動車日本タイプライター各會社取締役帝國通信社長等に擧





げらる大正四年以來衆議院議員に當選すること六回立憲民政黨所屬にして曩に遞信政務次官たりしことあり嘗て歐米各國を漫遊す家族は尙孫桂一(大一五、一一生、養子眞六長男)同嘉子(昭四、三生、同長女)あり(東京、淺草、東三筋町一三電淺草五〇〇〇)
參照＝松崎龜松の項

**玉井新**　鴻池銀行(株)東京支店長　東京府士族
父　幸太　文久元、五生、米澤茂八郎三男、現戶主
母　タキ　萬延元、四生、祖父南洋二女
妻　みち　明三一、五生、東京、岩田晋次郎長女
君は東京府士族玉井幸太の長男にして明治二十五年八月を以て生る夙に東京高等商業學校を卒業し現時鴻池銀行東京支店長たり(東京、本鄉、駒込林町九三電小石川一六九三)

**玉井喜久市**　從五位勳四等、判事、御嵩區裁判所監督判事兼岐阜地方裁判所御嵩支部々長、愛媛縣在籍
妻　テルヨ　明一八、三生、愛媛、西本熊十郎二女
男　義郎　明四二、七生
君は愛媛縣人玉井村治の二男にして明治九年七月を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十八年東京法學院法律科を卒業し判檢事登用試驗に合格同四十年判事に任じ爾來延岡區四日市區安濃津區同地方名古屋區同地方岐阜區福井地方牛田區岐阜地方各裁判所判事に歷補し昭和三年現職御嵩區裁判所監督判事兼岐阜地方裁判所御嵩支部々長に補せらる(岐阜、可兒、御嵩町御嵩區裁判所內)

**玉井喬介**　三菱造船(株)參事、長崎造船所造船設計長、九州帝國大學工學部講師　三重縣士族
妻　密　明二九、四生、三重、三浦順太郎二女
男　義男　大六、一生
君は三重縣士族玉井丈次郎の二男にして明治十八年十一月を以て生れ大正三年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學工科大學造船科を卒業し現時三菱造船會社參事にして長崎造船所造船設計長たり家族は尙二男英二(大八、三生)三男攝郎(同一〇、一一生)長女不二(同一四、一二生)四男道男(昭四、三生)弟正夫(明三二、一生)あり妹すみ(同三〇、二生)は三重縣人油田篤太郎に同はな(同三四、四生)は奈良縣人關本賢治に嫁せりA七九〇(長崎市中川町三〇電二八三四)

**玉井健次郎**　愛媛縣農工銀行(株)取締役　愛媛縣在籍
男　溫次郎　明一八、六生
婦　文　明二三、一生、二男溫次郎妻、愛媛、大野磐吾姉
君は愛媛縣人玉井友信の二男にして安政元年七月を以て生れ後家督を相續す現に愛媛縣農工銀行取締役たり家族は尙孫武夫(大七、二生、二男溫次郎二男)同淳三(同九、二生、同三男)同幸子(同一一、八生、同三女)同淑子(同一四、五生、同四女)同久雄(同一一、一一生、同庶子)あり長女ワスヨ(明六、六生)は分家し三女ツナヨ(同一五、一一生)同夫勇四郎(同一一、一一生、愛媛、堀內胖治郎弟)も亦共に分家し二女シズノ(同一〇、五生)は愛媛縣人松田謙太郎に養子清乃(同三五、七生、愛媛、井原菊一郎二女)は同縣人眞鍋義直に嫁せり(愛媛、伊豫、南伊豫村)
參照＝大野磐吾、堀內胖治郎※伊川龜太郎※越智茂登太の項

**玉井五岳**　正五位勳四等、海軍教授、海軍機關學校教官、岐阜縣在籍
妻　そう　明一四、一一生、東京、箕浦計吉三女
男　成美　大二、二生
女　園　明四四、六生
君は岐阜縣人玉井圓嶺の三男にして明治十一年一月を以て生れ大正五年兄圓淳方より分れて一家を創立す明治三十九年京都帝國大學理工科大學理學科を卒業し同大學講師となり岐阜縣立東濃中學校教諭東京商船學校教諭同教授に任ぜられ大正二年退官し更に京都帝國大學工科大學に入學し同五年同大學電氣工學科を卒業す尋で海軍機關學校教授同六年海軍教授に任じ現時海軍機關學校教官として勤務す大正十二年歐米各國に出張を命ぜらる家族は尙二男職(大三、一二生)二女照(同七、一一生)三男寧(同六、一生)あり(京都、加佐、中舞鶴町海軍機關學校內)

**玉井光三**　臺灣銀行(株)基隆支店支配人　東京府在籍
妻　トシチ　明二五、一生、島根、桑原羊次郎長女
男　明　大五、一一生
女　美緒　大元、一〇生
女　妙子　大三、三生
君は奈良縣人玉井淸濃の二男にして明治十八年四月を以て生れ大正二年兄芳藏方より分れて一家を創立す夙に東京帝國大學法科大學政治科を卒業し東京市役所日米信託會社等に勤務し後臺灣銀行に入り同行桃園及新竹支店支配人を經て現時基隆支店支配人たり家族は尙四女惠美子(大七、八生)あり(臺灣、基隆、田寮港四二)
參照＝※渡干城の項

**玉井幸助**　正五位勳五等、東京高等師範學校教授兼教諭、東京府在籍
妻　ヤス　明一七、二生、奈良、澤榮七長女
男　東助　大一五、六生
女　幸代　明四四、八生
君は新潟縣人玉井佐助の二男にして明治十五年十月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治四十二年東京高等師範學校本科國語漢文學科を卒業し同年兵庫縣御影師範學校教諭同四十三年東京高等師範學校助教授に任ぜられ現時同校教授兼教諭たり家族は尙は四女靜子(大六、五生)五女愛子(同一二、五生)六女朝子(昭四、六生)あり長女ミズホ(明四二、九生)は京都府人澤野辨之助三男宗三に嫁せり(東京、小石川、大塚仲町二六)

**玉井權右衞門**　勳四等、更埴銀行(株)頭取　長野縣在籍
妻　とも　慶應二、二生、長野、士、町田永助二女
男　覺　明二九、一〇生、東福寺村長
婦　榮子　明三六、二生、五男覺妻、長野、倉石虎次郎二女
君は長野縣人先代權右衞門の長男にして文久二年二月を以て生れ明治十二年家督を相續す東福寺銀行を創立し其頭取となり現時社名を變更し更埴銀行頭取たり曩に縣會議員衆議院議員に當選す家族は尙孫壽一(大一一、三生、五男覺長男)同正司(同一三、一生、同二男)

同修子(同一四、七生、同長女)同貞子(昭二、二生、同二女)あり四男祐治(明二八、八生)は分家し六男四朗(同三四、一二生)同妻古保(同四一、五生、長野、黑柳五一郎妹)も亦共に分家し二女ちう(同二七、一生)は長野縣人中島學長男信人に三女ます(同三二、四生)は同縣人矢島磯次に庶子けい(同三四、四生)は同縣人三井睦三に養子タキ(同三、三生、新潟、士、山田勝富長女)は同縣人丸山存應に妹やい(同五、二生)は同縣人北城德右衛門に同熊野(同一〇、一生)は同縣人宮崎萬平弟遜平に嫁せり(長野、更級、東福寺村)
參照＝中島學の項

**玉井周吉**　中外商船(株)社長、東海運(株)監査役　東京府在籍
妻　マサエ　明一七、一生、愛媛、松川千代吉長女
庶子　操　明三六、一二生、生母、兵庫、時本たけ、早大出身、神戸海上保險會社員
君は兵庫縣人玉井源兵衛の長男にして明治十二年九月を以て生れ同十七年家督を相續す夙に山下汽船會社に入り東京支店支配人兼營業部長を經て常務取締役に進み後之を辭し北海道鑛業會社常務取締役に就任す現時中外商船會社々長の外前記會社の重役たり(東京、芝、下高輪町五六電高輪一九五八)
參照＝※松川駒次郎の項

**玉井庄太郎**　東洋スタンダード塗料、エビス電球各(株)取締役、エビス電球製作所電球製作業、東京府在籍
妻　うの　明五、九生、神奈川、日下部信篤二女
男　昇造　明三九、七生
君は東京府人深澤藤一郎の長男にして明治二年四月を以て生れ同三十九年先代うのの入夫となり家督を相續すエビス電球製作所と稱し電球製作業を營み傍ら前記各會社の重役たり(東京市外澁谷町向山四九電高輪七七一四)

**玉井水澄**　大洲銀行(株)取締役　愛媛縣在籍
母　タカ　安政五、六生、愛媛、宮内德太郎姉
妻　文子　明三四、一生、愛媛、宮内長長女
男　吉一　大一三、四生
君は愛媛縣人玉井吉久の長男にして明治二十五年十月を以て生れ同四十四年家督を相續す現時大洲銀行取締役にして曩に新谷銀行重役たりし事あり家族は尚長女梅香(大一〇、六生)二女澄(昭二、一〇生)あり姉榮(明二二、七生)は東京府人室兼次に嫁し弟光(同三〇、七生)は分家せり(愛媛、喜田、新谷村)
參照＝室兼次の項

**玉井仙太郎**　關東信託(株)監査役、辨松總本店、辨當仕出業、東京府在籍
妻　たま　明一三、一生、東京、近藤豐次郎妹
男　俊輔　明四二、一〇生
女　しげえ　明四一、五生
女　梅子　大二、四生
君は東京府人玉井竹次郎の長男にして明治十一年十二月を以て生れ大正十四年家督を相續す辨松總本店と稱し辨當仕出業を營み傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は尚四男淺次郎(大三、一〇生)あり長女ツル(明三四、三生)は北海道人武井吉松長男一男に嫁し二男辰五郎(同二六、四生)は分家せり(東京、京橋、釆女町二八電銀座二〇九)

**玉井鐵雄**　昭和銀行(株)本所支店長　東京府在籍
養母　まん　明元、三生、埼玉、繁田壽次郎姉
妻　のぶ　明三五、二生、養父伊藏養子、東京、玉井德之丞二女
男　照雄　大一四、三生
君は和歌山縣人津村雅量の弟にして明治二十五年三月を以て生れ先代伊藏の養子となり大正六年家督を相續す同八年慶應義塾理財科を卒業し現時昭和銀行本所支店長たり家族は尚長女久良子(大七、九生)二女保子(同一〇、一一生)三女良枝(昭四、一〇生)ありA一〇四(東京市外松澤村松原三九)

**玉井德和**　從五位、稅務監督局書記官、名古屋稅務監督局直稅部長　愛媛縣士族
繼母　文子　明一六、一生、愛媛、八束清丈長女
女　都　大三、八生
君は愛媛縣士族玉井德信の長男にして明治二十三年十一月を以て生れ大正十年家督を相續す大正四年京都帝國大學政治科を卒業し同六年高等試驗に合格大藏屬となり下關稅務署長水道橋稅務署長を經て稅務監督局事務官に任じ札幌稅務監督局直稅部長兼經理部長熊本稅務監督局直稅部長に歷補し昭和三年現職に補せらる(名古屋、東、吳服町二ノ一八電東六七七〇)

**玉井磨輔**　貝島鑛業(株)代表取締役、貝島石灰工業、大辻岩屋炭礦、貝島木材防腐各(株)取締役、貝島乾餾、幸袋工作所、中央火災傷害保險各(株)監査役、東京府士族
妻　菊野　明二八、七生、福岡、貝島百吉長女、筑紫高女出身
男　義一　大六、一生
君は山口縣士族玉井縣の三男にして明治十九年八月を以て生る同四十二年關西大學を卒業し現時前記諸會社の重役たり家族は尚二男研輔(大七、九生)長女晶子(同九、三生)二女碧(同一一、七生)甥方美(明二七、二生、亡兄瑳一長男、現戶主)あり姪幸子(同三六、七生、同四女)は山口縣人原東毅一六男銀太郎に嫁せり(山口、豐浦、長府町)

**玉井幸雄**　甲立木工、防石鐵道各(株)取締役、廣島海外貿易、東洋工業、廣島興業、廣島觀音地先埋立、鈴木榮助商店各(株)監査役、廣島縣在籍
養子　秀夫　明一九、三生、亡養子シズ子夫、岡山、高戶勇弟
君は廣島縣人玉井吉左衛門の三男にして明治五年三月を以て生れ同二十八年家督を相續す現時甲立木工會社取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尚長女茂子(大九、三生)あり姉イチ(元治元、一一生)は廣島縣人波多野德造に嫁せり(廣島市八丁堀二)

**玉井庸四郎**　金華山軌道(株)社長　宮城縣在籍
孫　榮一　大八、三生、離緣養子敬義二男
君は宮城縣士族伊藤儀右衛門の弟にして慶應元年二月を以て生れ先代榮治郎の養子となり明治十六年家督を相續す現時金華山軌道會社長たり弟榮八(明五、一生)同妻この(同一三、一生、宮城、千葉恭佐四女)は其子女を伴ひ姪はつよ(同三一、八生、弟榮八長女)は同夫敬義(同三〇、三生、島根、和田喜一郎長男)と共に各分家し叔母トヨ(同七、三生)も亦分家し同ふか(萬延元、二生)は宮城縣人伊藤庄兵衛に嫁せり(宮城、牡鹿、渡波町)



**玉井義雄**　浪速電球(株)代表取締役　大阪府在籍
妻　章子　明三二、五生、兵庫、內藤寬治二女
君は大阪府人玉井副鉄の長男にして明治二十七年五月を以て生れ大正十四年家督を相續す現時浪速電球會社代表取締役たり家族は尚長女元子(大一二、七生)二女文子(同一四、四生)三女嘉代(同一五、一〇生)四女道子(昭三、三生)弟精一(明三九、七生)同秀雄(同四三、八生)あり(大阪、北、兎我野町一二〇電北四四七九)

**玉江文雄**　三菱航空機(株)庶務係長　東京府在籍
妻　飾子　明二八、一一生、石川、多田哥成妹
男　文彥　大一二、一〇生
君は東京府人玉江文太郎の長男にして明治二十四年十二月を以て生れ大正十五年家督を相續す同六年早稻田大學商科を卒業し現時三菱航空機會社庶務係長たり家族は尚長女美津子(大八、四生)二女博子(同一一、四生)あり弟武雄(明三〇、八生)同妻和(同三九、一〇生、東京、淺井鋼一郎二女)は其一子を伴ひ分家し姉燮(同二一、四生)は山形縣士族高津清に妹珠子(同三九、一生)は長野縣人赤羽穣に嫁せり(東京、牛込、原町二ノ四六電牛込一二五六)
參照＝高津淸の項

**玉置伊兵衛**　和歌山縣多額納稅者、南海銀行(株)取締役、肥料並木材商　和歌山縣在籍
妻　しま　明八、五生、和歌山、山口俊道三女
養子　良之助　明三一、二生、二女直枝夫、三重、糸川孫吉弟
女　直枝　明三三、五生、養子良之助妻
君は和歌山縣人先代伊兵衛の長男にして明治二年六月を以て生れ同三十六年家督を相續し前名米太郎を改め襲名す肥料並に木材商を營み傍ら前記銀行の重役にして直接國稅九百五十一圓を納め縣下の多額納稅者たり曩に高芝銀行頭取に擧げらる家族は尚孫登藉(大一三、六生、養子良之助長女)同敬之助(昭二、六生、同長男)あり妹ひさ(明九、九生)は和歌山縣人中村宏次に嫁せり(和歌山、東牟婁、下里町)

**玉置吉之丞**　和歌山縣會議員、玉置綿布染工(株)社長、內海紡織(株)常務取締役　和歌山縣在籍
妻　ヌイ　明二三、一〇生、和歌山、玉置文助四女
男　文吉　明四四、一生
君は和歌山縣人吉田萬右衛門の三男にして明治十九年八月を以て生れ後玉置家に入り同四十二年養兄文吾方より分れて一家を創立す現時前記各會社の重役にして和歌山縣會議員に推され曩に御代正酒造會社監查役たりし事あり家族は尚二男勇(大二、二生)三男鑒三(同五、四生)長女夫紀子(同六、七生)二女知佐子(同一〇、一生)三女太津子(同一二、一生)四男圭四郎(同一四、二生)四女行子(昭二、九生)あり(和歌山、海草、內海町)
參照＝※清水積一郎の項

**玉置金八**　玉置(名)代表社員、藥種化粧品商　東京府在籍
養母　ヤス　明九、六生、東京、增田虎市郎妹
妻　ヨシ　明一七、一二生、養父金八長女
男　源一郎　明三七、一〇生、慶大出身
男　新治　明四〇、一生
男　弘三　明四二、三生
女　昌子　明四四、六生
女　富美子　大二、一〇生
君は長野縣士族齋藤弘次郎の二男にして明治十一年一月を以て生れ先代金八の養子となり同四十二年家督を相續し襲名して前名呈吉を改む藥種化粧品商を營み玉置合名會社代表社員たり(東京、日本橋、瀨戶物町一〇電日本橋一〇五〇)

**玉置仁知**　永樂土地(株)取締役、南洋倉庫、臺東開拓、臺東製糖、沙𥕦製糖、新竹製糖、昭和製糖各(株)監査役、臺灣銀行(株)臺北頭取席支店課長　東京府在籍
妻　こう　明二六、一一生、埼玉、高田豐次郎長女
君は東京府人玉置例一郎の長男にして明治十八年四月を以て生れ大正五年家督を相續す先是明治四十二年東京高等商業學校を同四十四年同校專攻部を卒業し現時臺灣銀行臺北頭取席支店課長たる外前記會社の重役を兼ぬ(臺北、南門町三二〇一)

**玉置邁**(ツトム)　正五位勳六等、盛岡高等農林學校教授、三重縣士族
母　とし　萬延元、七生、三重、士、乾喜八郎三女
妻　クニ　明二三、一二生、岩手、久保清八三女
男　鷹彥　明四四、五生
女　穎子　大五、五生
君は三重縣士族玉置角之助の長男にして明治十三年六月を以て生れ同二十七年家督を相續す同四十年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し大正元年盛岡高等農林學校教授に任ぜられ今日に至る家族は尚二男磐彥(大一三、三生)あり(盛岡、上田小路二〇三)

**玉置傳三郎**　內外除蟲菊(株)取締役、南海水力電氣(株)監査役、和歌山縣在籍
母　てい　嘉永四、四生、和歌山、上山英一郎姉
妻　千代　明一七、一一生、和歌山、栗山長兵衛三女
男　傳　明三七、一生、靜岡高校在學
男　洋治　明三九、九生、彥根高商出身、三十四銀行和歌山支店員
男　亮三　明四二、一生、五高出身
女　貞子　明四四、七生、和歌山高女出身
女　昌子　大四、一一生、有田高女在學
當家は箕島町の舊家にして代々燭織製造を業とし傍ら伊萬里燒の販賣に從事せり君は和歌山縣人玉置彌兵衛の長男にして明治九年六月を以て生れ同三十五年家督を相續す現時前記會社の重役たり曩に箕島町長郡會議員等幾多の公職に就き地方自治に盡す所尠からず謠曲生花に趣味あり家族は尚五男俊五(大二、九生)三女康子(同八、一二生)あり弟彌造(明一二、三生)は同妻さと(同一九、九生、和歌山、小澤庄三郎二女)と共に弟龜次郎(同一四、一生)同妻順(同二三、九生、和歌山、木村須雄二女)は其三子を伴ひ弟萬壽二(同一八、二生)は同妻のす(同二七、九生、和歌山、宮本八郎右衛門三女)と共に弟萬壽三(同一八、二生)同妻輝(同三二、三生、和歌山、中野久太郎長女)は其二女を伴ひ各分家し弟靜藏(同一五、一二生)は和歌山縣人上山市郎兵衛の養子となれり(和歌山、有田、箕島町電三九)
參照＝上山靜藏、上山英一郎※池永榮助※栗山捨三

の項

**玉置福藏**　三十八銀行(株)取締役　兵庫縣在籍
妻　こと　慶應三、八生、兵庫、村田佐八郎二女
男　周藏　明二六、一生
婦　たまゑ　明三二、八生、長男周藏妻、兵庫　奧村秀之助長女

君は兵庫縣人森本久五郎の二男にして慶應三年十月を以て生れ先代大器の養子となり明治二十年家督を相續す現に三十八銀行取締役にして曩に姬路水力電氣會社相談役たりし事あり家族は尙孫元久(大七、一〇生、長男周藏長男)同正子(同一一、一生、同長女)同文子(同一三、三生、同二女)同信子(同一五、九生、同三女)同大器(昭三、一二生、同二男)あり長女くにゑ(明二〇、一〇生)は兵庫縣人奧村輝光に二女ひさゑ(同二九、一二生)は同縣人池田康太郎四男喜藏に三女貞江(同三二、七生)は同縣士族中村傘彌二男文夫に織子つるよ(同一八、三生)は同縣人伊藤門次に嫁し二男英方(同三六、三生)同妻ふく子(同四四、九生、兵庫、森本三伍三女)は共に分家せり(兵庫、美嚢、三木町)

**玉置文治郎**　日本橋區會議員、壯眼水本舖、藥品問屋業、岐阜縣在籍
妻　トキ　明一二、三生、新潟、竹內利惣次二女

君は岐阜縣人玉置文右衞門の長男にして明治十年十一月を以て生れ昭和三年家督を相續す藥品商を營み壯眼水本舖として知らる現時日本橋區會議員に推され曩に東京賣藥卸賣會社々長たり家族は尙弟忠雄(明二九、一二生)同妻ミチ(同四一、三生、新潟、古川長吉庶子)及其三子あり妹しよ(同一四、九生)は愛知縣人林常次郎に同いずみ(同三二、一〇生)は同縣人吉田鐵喜光に嫁し弟文平(同一二、一〇生)同妻いく(同一八、九生、愛知、小石武平治四女)弟一平(同一六、一生)同妻つじ(同二四、九生、岐阜、前田林之助妹)は各其子女を伴ひ分家し妹せつ(同二一、三生)は愛知縣人伊藤きぬの養子となれりA一三七二B五〇四(東京、日本橋、橫山町三ノ一五電浪花五一〇)

**玉置正視**　南海銀行(株)取締役、新宮鐵道(株)監査役、奈良縣士族
妻　ことら　慶應二、三生、養父正直長女
男　毎之　明三〇、一一生

君は大阪府士族丸田連の二男にして明治元年一月を以て生れ先代正直の養子となり同三十一年家督を相續し前名龜三郎を改む現時前記銀行會社の重役にして曩に新宮合同銀行取締役に擧げられ又和歌山縣參事會員に擧らる養父正直(天保九、五生)は養母ひさ(弘化元、二生、奈良、士、中上幸吉二女)と共に長女クラ(明二一、五生)を伴ひ分家し三男本弘(同三一、一〇生)は前記クラの養子となり五男寬仲(同三八、八生)妻ことら從弟義彥(同七、一一生、奈良、士、山城光吉三男)も亦各分家し二女ヒコヱ(同三三、五生)は東京府人早尾虎雄に嫁し養叔父武二郎(安政三、五生)は和歌山縣人松江義清の養子となり當主たり(和歌山、東牟婁、新宮町)
參照＝松江武二郎の項

**玉置美之助**　正四位勳三等功五級、陸軍少將　東京府在籍
妻　しづ　明二三、九生、東京、柴田與兵衞長女
男　雅夫　明四〇、一二生
男　俊夫　明四四、四生

君は東京府人玉置十藏の四男にして明治十一年四月を以て生れ同四十四年家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し同三十三年陸軍工兵少尉に任じ大正十五年陸軍少將に累進す其間佛國及伊國に差遣せられ飛行第二聯隊長陸軍省兵器局器材課長陸軍航空本部檢査部長同補給部長陸軍技術會議々員航空評議會評議員等に歷補し昭和五年豫備役被仰付家族は尙三男友夫(大九、八生)あり(東京市外杉並町高圓寺九八七電中野二五六七)

**玉置萊次郎**　三井物產(株)參事、業務課長　京都府在籍
母　なを　安政六、三生、大阪、高辻檜作二女
妻　文代　明二五、八生、和歌山、宇治田秀穗妹
男　正高　大三、七生

君は岐阜縣人玉置義行の二男にして明治廿四年八月を以て生れ同二十七年從兄勝五郎方より分れて一家を創立す同三十八年東京高等商業學校を卒業し同年三井物產會社に入り大阪支店大連支店棉花部參事天津支店長紐育支店次長甲谷陀支店長を經て現時本店詰となり業務課長の職に在り家族は尙二男俊雄(大五、七生)四男恒三(同一〇、一生)五男宏(同一二、八生)あり妹なみ(明一八、八生)は兵庫縣士族高田知一郎に同なつ(同二四、四生)は東京府人百瀨信好に同ヨシ(同二七、四生)は靜岡縣人川村房次郎に嫁せりA四三八(兵庫、武庫、精道村蘆屋平田四二〇ノ一一)
參照＝高田知一郎、百瀨信好の項

**玉垣德藏**　東神土地建物(株)取締役　兵庫縣在籍
母　かつ　慶應元、六生、兵庫、淺原治郎市長女
妻　みさを　明二八、七生、兵庫、淺野善吉二女
男　武夫　大五、一〇生

君は兵庫縣人玉垣近太郎の長男にして明治二十年二月を以て生れ同三十五年家督を相續す同四十三年神戶高等商業學校を卒業し現時東神土地建物會社取締役にして曩に伊藤企業會社取締役兼支配人たりし事あり家族は尙長女文代(大九、一一生)二女秀代(同一一、一一生)あり弟九一(明二二、一生)は分家し妹稙(同二六、六生)は兵庫縣人水田玉治に嫁せり(西宮、安井町二二)

**玉河久雄**　日立電力(株)常務取締役　兵庫縣在籍
母　すみ　安政六、九生、兵庫、稲島彌左衞門四女
妻　美代　明三〇、五生、東京、士、井上進二女、山脇高女出身
男　元　大一二、一生

君は兵庫縣人玉河信齊の二男にして明治二十一年三月を以て生れ同四十二年家督を相續す同四十五年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し久原鑛業會社に入り現時前記會社の重役たり家族は尙長女和子(大八、一一生)二女信子(同一〇、二生)二男晉次(同一三、一一生)三男恒夫(同一四、一二生)四男哲夫(昭三、五生)あり姉としえ(明一五、一〇生)は兵庫縣人西谷忠雄に妹てる(同二七、六生)は山梨縣人雨宮權左衞門三男道治に嫁せりA四四一(東京市外駒澤町野澤二二六電世田谷四〇三)

**玉木勝次郎**　從五位勳五等、公使館一等書記官　チリ在勤、德島縣在籍
妻　たま　明二二、六生、新潟、竹內八重作長女
女　雅子　大四、三生

君は德島縣人玉木晉藏の二男にして明治十八年十月を以て生れ同二十六年兄友次郎の跡を承け家督を相續す同四十二年東京高等商業學校附設商業教員養成所を卒業し長野市立甲種商業學校教諭となり大正四年外交官及領事官試驗に合格領事官補となり爾來長春シドニー各在勤領事外務事務官領事リヴアプール孟買各在勤新嘉坡總領事等に歷任し後公使館一等書記官に任ぜられ現時チリ國在勤たり(在チリ國公使館內)

**玉木誠次郎**　シヤリング工場、大倉スマトラ農場各(株)取締役、大倉火災海上保險、大倉商事、日本電池、鉛粉塗料、トキワ鉛工業、大倉鑛業各(株)監査役、大倉組(名)理事、新潟縣在籍
妻　リク　明二一、一〇生、新潟、小林久平養從妹、長岡高女出身
男　宏　明四四、三生
女　富美子　明四二、九生、縣立神戶第一高女出身
女　茂子　大四、二生、東京文華女學校在學

君は新潟縣人玉木良平の二男にして明治四年十一月を以て生れ同四十年家督を相續す同二十七年慶應義塾理財科を卒業し直ちに大倉組に入りシドニー大阪各支店等に勤務せしも昭和四年東京本社詰となり理事に擧げられ傍ら大倉スマトラ農場取締役の外前記諸會社の重役たり家族は尙二男裔(大六、八生)三女絢子(同九、一一生)姉カス(文久二、一二生)妹ミツ(明二一、四生)あり同イツ(同一六、二生)は新潟縣人太田顯太郎に嫁し弟豐造(同一一、一一生)は同縣人本田寅吉の養子となれりA三〇四七(東京市外落合町下落合丸山四六電大塚二五六)
參照＝小林久平、※澁谷善作の項

**玉木泰次郎**　第一銀行(株)檢査役　東京府在籍
妻　ミヨ　明一七、五生、新潟、前山金次妹
男　泰男　明四三、八生

君は新潟縣人玉木善作の弟にして明治八年六月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同二十九年慶應義塾理財科を卒業し第一銀行に入り現に同行檢査部第一課長たり(東京、神田、駿河臺鈴木町一六電神田一八七一)

**玉木爲三郎**　社團法人生命保險會社協會理事　東京府在籍
妻　豐　明九、八生、鹿兒島、士、松本友助妹
男　一介　明三〇、七生、慶應義塾法律科出身、東京火災保險會社員
男　勝夫　明三八、一生
女　晴　明四〇、八生、跡見女學校出身
男　英彥　明四二、九生

玉木家は代々京都府聖護院に住し舊聖護院宮家來たり君は玉木正興の三男にして明治三年四月を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す同二十七年東京帝國大學法科大學を卒業し母校及び東京高等商業學校慶應義塾等に保險學を講じ又仁壽生命保險會社取締役たりしことあり現時生命保險會社協會理事たり家族は尙五男正季(大二、二生)六男章夫(同四、一〇生)七男文雄(同六、一一生)あり長女雅(明三三、五生、東京府立第三高女出身)は山口縣人岡本高介養子山梨高等工業學校教授昌一に嫁し二男興二(同三六、二生、東京帝大農學部農藝化學科出身)は本家玉木辨太郎の跡を相續せり(東京市外荏原町下蛇窪六八〇電高輪二五六七)

**玉木永久**　內外綿(株)取締役　兵庫縣士族
妻　ふく　明八、四生、大阪、高墳德兵衞長女
男　永一　明二七、二生、慶大理財科出身
婦　照子　明三五、七生、長男永一妻、兵庫　高橋盛寧四女
男　恒雄　明四二、七生

君は長崎縣士族玉木玄一郎の長男にして慶應二年十二月を以て生れ明治三十六年家督を相續す現に內外綿會社取締役たり家族は尙四男四郎(大元、八生)五男義雄(同五、四生)孫良彥(同一一、八生、長男永一長男)同敏彥(同一五、二生、同二男)弟鶴彌(明一八、五生)叔母ツル(弘化二、九生)あり二女光江(明三六、八生)は京都府人竹中貞雄に三女きみ(同三七、七生)は兵庫縣人水谷一雄に嫁し四女照(同三九、一二生)は長崎縣人玉木リツの養子となり弟菊一郎(同一五、一一生)同禎次郎(同二二、一一生)は各分家せりA三九五八(西宮、西濱新家二二九七ノ二電西宮一〇六六)

**玉木懿夫**　三井(名)調査課長　東京府在籍
妻　ミツ　明一二、二生、山口、大岡力妹
男　京一　明二九、八生、京大法科大學經濟選科出身
婦　壽榮　明三八、一生、長男京一妻、東京　石川成喜姉
男　洋三　明三八、二生
男　四郎　明四〇、三生

君は山口縣人玉木隆之助の二男にして明治五年六月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す夙に米國に遊び農商務省實業練習生となり歸朝後中央新聞主筆專務理事となり後三井合名會社に入り現に同社調査課長たり漢詩を作り椿園の號す家族は尙五男五郎(大元、一〇生)六男六郎(同五、四生)七男德七(同八、三生)孫義成(昭三、一一生、長男京一長男)ありA一八八二(東京、赤坂、青山南町五ノ三五電靑山四九八)
參照＝※池上國三郎の項

**玉木浪三郎**　從五位勳五等、地方技師、靜岡縣內務部蠶絲課長、蠶業取締所長、蠶業試驗場講師、靜岡縣在籍
妻　フミ　明一一、八生、奈良、塚本勝眞姉
養子　勝彥　明二五、一生、奈良、塚本勝眞弟　上田蠶糸專門學校出身
婦　とよ　明三七、八生、養子勝彥妻、靜岡　野々山利榮妹

君は東京府人玉木幸七の二男にして明治六年十一月を以て生れ同二十三年先代兄專吉の後を承け家督を相續す同三十一年東京蠶業講習所本科を卒業し大阪府立農學校助教諭となり同三十八年愛知縣技手に任ぜられ爾來佐賀縣技師德島縣技師靜岡縣技師等に歷任し現時地方技師にして靜岡縣內務部蠶絲課長たり(靜岡市音羽町二二三電一九〇九)

**玉城嘉十郎**　從四位勳三等、理學博士、京都帝國大學教授、理學部勤務　京都府在籍
妻　芳江　明三一、八生、京都、兼松寅之助妹

君は京都府人玉城松三郎の長男にして明治十九年六月を以て生れ大正三年家督を相續す明治四十二年京都帝國大學理工科大學物理學科を卒業し同大學助教授に任じ大正七年英米佛に留學し同十年理學博士の學位を授

けらる現時京都帝國大學教授にして理學部勤務たり質點及剛體の力學等の著あり家族は尙長女千代子（大六、一生）二女嘉子（同一五、九生）妹キヌ（明二九、九生）あり弟信三（同二五、七生）同妻ハル（同二九、二生、大阪、吉野五運四女）は其一子を伴ひ分家し弟光季（同三三、一二生）も亦分家し妹テイは滋賀縣人井上庄五郎に同タカ（同三一、三生）は埼玉縣人酒卷政之助四男衞に嫁せり（京都、左京、淨土寺西田町一二電上七一五）
參照＝吉野五運※小澤新六※山本又三郎の項

**玉城常八**　熊本縣多額納稅者、熊本商工會議所副會頭、釀造業、熊本縣在籍
妻　古登　明二〇、一一生、熊本、田村ヤス四女
男　健太郎　明三六、一二生
男　祐次郎　明三八、一〇生
女　エミ　明四〇、一〇生
男　藤三郎　明四二、四生
女　きよ　大一、七生
君は熊本縣人玉城傳八の長男にして明治十二年八月を以て生れ同十七年家督を相續す釀造業を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅三千九百八十六圓を納め推されて熊本商工會議所副會頭たり家族は尙四男清四郎（大四、九生）五男省吾（同六、七生）四女ヤエ（同八、三生）五女セツ（同一〇、一〇生）六女リツ（同一三、一生）六男寛治（同一五、一〇生）あり姉マツ（明一一、八生）同夫卯平（同一〇、一〇生、熊本、濱田卯作弟）は其一子を伴ひ分家し弟榮八（同一四、一〇生）は熊本縣人玉置喜三郎の養子となれり（熊本市迎町二四電六九）

**玉城康四郎**　資產家　熊本縣在籍
君は熊本縣人田村久八の四男にして大正四年七月を以て生れ先代直太郎の養子となり同十四年家督を相續す資產家たりA一六三八（熊本市迎町八四）
參照＝田村久八※田村潤太郎※山內榮吉の項

**玉腰市之助**　有馬土地住宅㈱代表取締役、門阪屋㈾代表社員、洋品商　大阪府在籍
妻　あい　明三、四生、大阪、堀口市右衞門二女
男　治輔　明三四、六生、京大經濟學部選科出身
婦　ヒデ　明三九、八生、長男治輔妻、奈良藤田庄二郎長女
女　恒子　明四三、四生、清水谷高女出身
君は大阪府人玉腰吉兵衞の長男にして慶應三年十一月を以て生れ明治十八年家督を相續す初め洋服商を經營せしが現時門阪屋と稱し洋品商を營み傍ら前記會社の重役たり長女玉（明三〇、九生）三女光子（同三九、一一生、相愛高女出身）は各分家せり（大阪、南、心齋橋筋一ノ二七一電南一四〇）

**玉崎隆三**　帝國生命保險㈱醫務課長　東京府在籍
妻　しん　明六、一〇生、石川、士、馬島健吉二女
男　坦　明三二、七生
婦　ツル　明四〇、一生、二男坦妻、福井、士、戶祭文造四女
女　勝子　明三七、八生
君は福井縣人玉崎恭庵の長男にして慶應三年九月を以て生れ明治十一年家督を相續す現に帝國生命保險會社醫務課長たり家族は尙四男幸二（大三、七生）孫洋一（昭四、一生、二男坦長男）あり長女露子（明二七、九生）は岐阜縣人後藤平六三男邦之助に二女春子（同三五、三生）は鳥取縣人松下芳三郎に四女雪子（同四〇、一生）は宮城縣人白石正に妹ちよ（同三、五生）は石川縣人雨夜久太郎に同さだ（同一一、七生）は滋賀縣人三浦高海に嫁せり（東京、赤坂、青山南町四ノ二三電青山五四八一）
參照＝戶祭文造、松下芳三郎※市川淸次郎の項

**玉澤煥**　正五位勳三等、海軍造船少將、艦政本部第三部長、山口縣士族
妻　安子　明二二、二生、山口、馬屋原香祐二女
男　元　大二、八生
君は山口縣士族玉澤煥一の二男にして明治十四年三月を以て生る同三十九年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し海軍造船中技士に任じ昭和二年同少將に累進す其間吳工廠檢查官兼造船部々員造兵監督官として英米各國に出張し尋で艦政本部々員吳工廠造船部長兼海軍技手養成所長等に歷補し昭和五年十一月現職に補せらる家族は尙二男廣（大五、一生）二女雪子（同一〇、一二生）三男昭（昭二、四生）兄朔馬（明一二、一生、現戶主）あり（吳、宮原官舍乙第三號）

**玉田源太郎**　岐阜縣參事會員、幸無盡、中央土地、岐阜水產市場各㈱取締役、岐阜土地興業㈱監查役、岐阜縣在籍
男　文雄　明二七、一一生
婦　とみ　明二九、四生、長男文雄妻、岐阜佐藤秀吉三女
男　富雄　明四四、一〇生
君は岐阜縣人玉田孫助の二男にして明治七年七月を以て生れ同二十七年先代いつの入夫となり家督を相續す現時前記諸會社の重役にして推されて岐阜縣參事會員たり家族は尙孫幸人（大一三、九生、長男文雄長男）あり長女しう（明三一、一〇生）は岐阜縣人尾關規矩に嫁せり（岐阜市殿町一ノ三）

**玉田彌伊太**　德島商工會議所會頭、南海鑛業㈱取締役、吳服太物商、德島縣在籍
妻　トク　明一三、一生、德島、天野與平妹
養子　利一　明四一、二生、兄龜八五男
婦　フミ子　明四五、七生、養子利一妻、德島井上忠太妹
君は德島縣人玉田產藏の二男にして明治三年十一月を以て生れ同二十九年兄龜八方より分れて一家を創立す吳服太物商を營み傍ら前記會社の重役にして德島商工會議所會頭に擧げらる曩に德島縣會議員に選ばる養子勝市（明二八、九生、德島、本田熊三郎二男）同妻英子（同三四、八生、德島、武田啓介長女）は共に分家せり（德島市西新町）

**玉塚榮次郎**　玉塚商店㈾社長、共同證券㈱取締役、東京株式取引所取引員　東京府在籍
母　トヨ　元治元、一生、東京、藤田彥兵衞妹
妻　喜世　明三八、七生、東京、小栗兆兵衞長女
男　常雄　大一三、六生
君は東京府人先代榮次郎の長男にして明治三十五年一月を以て生れ大正九年家督を相續し後前名光雄を改む東京株式取引所取引員にして玉塚商店社長たり傍ら共同證券會社取締役を兼ぬ先代榮次郎は株式仲買人として成功し又公共事業に盡す所多し家族は尙二男和夫





（昭二、四生）長男和作（同五、一生）あり（東京市外入新井町新井宿一五五五電大森一六四三）
參照＝小栗兆兵衞※中井新右衞門※星野友七の項

**玉手弘**　同志土地㈱取締役、大阪砂糖取引所㈱監查役、大阪府在籍
妻　靜女　明二五、三生、大阪、志方勢七長女
男　弘一　大五、五生
女　秀子　大三、九生
君は大阪府士族玉手弘通の四男にして明治二十一年八月を以て生れ大正二年兄弘行方より分れて一家を創立す明治四十三年神戶高等商業學校を卒業し現時大阪砂糖取引所會員同監查役にして前記會社の重役たりA三九三（大阪、豐能、中豐島村電岡町一一五）
參照＝志方勢七※川西龍三※志方貞三の項

**玉名友彥**　從五位勳六等、朝鮮總督府事務官兼朝鮮總督府檢事、高等法院檢事　東京府在籍
母　恒　元治元、一生、長崎、富益幾平三女
妻　二葉　明三三、五生、京都、河合十太郎二女
男　俊彥　大一二、八生
君は東京府人玉名貞勝の長男にして明治二十年二月を以て生れ同四十年家督を相續す大正三年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し同四年朝鮮總督府司法官試補となり同五年判事に任じ光州地方法院木浦支廳判事に補せられ次で同七年檢事に轉じ京城地方同水原支廳公州地方同木浦支廳各法院檢事大邱覆審法院檢事高等法院檢事等に歷補し昭和五年現職に轉じ法務局に勤務す家族は尙長女二三子（大八、一一生）二女節子（同一〇、一〇生）二男昭夫（昭二、一一生）あり（京城、西小門町二一號官舍）

**玉松公敏**　男爵　舊公卿家
祖母　紀子　安政六、七生、子爵高丘季昭大伯母
當家は參議山本實綱の孫眞弘の後なり眞弘幼にして醍醐寺に入り得度して猶海と稱し大僧都法印に任ず後復飾し岩倉具視を輔けて王政維新に盡す處あり明治二年其功により特旨を以て堂上の列に加へられ別に一家を立て家號を玉松と稱す其嫡眞幸に至り同十七年男爵を授けられ貴族院議員に擧げらる夫より先代公秋を經て君に至る君は公秋の庶子にして大正四年八月を以て生れ昭和三年襲爵仰付けらる家族は尙ほ妹貞子（大六、三生）同妙子（同九、二生）同蓉子（同一二、一〇生）同惠津子（昭二、四生）叔父公三（明三一、二生）あり同公敍（同二六、七生）は分家せり（京都、上京、小山花ノ木町六五ノ一五）
參照＝子爵高丘季昭の項

**玉蟲一郎一**　正四位勳三等、第二高等學校長　宮城縣士族
母　せよ　弘化二、八生、宮城、士、玉蟲溪治三女
妻　やゑす　明一三、一一生、宮城、伊藤裕齋三女
男　靜　明三五、一二生、文學士
婦　鶴子　明四〇、一生、長男靜妻、山形、石澤雄右衞門長女、京都高等女學校出身
女　斗喜　明四一、四生、宮城縣第二高女出身
君は宮城縣士族玉蟲太郎一の長男にして明治元年四月を以て生れ同九年家督を相續す同二十八年帝國大學文科大學を卒業し愛媛宮城各縣尋常中學校教諭等に歷任し現時第二高等學校長たり家族は尙孫善美子（昭三、八生、長男靜長女）同孝郎（同五、一一生、同長男）あり長女國子（明三八、二生、宮城縣第二高女出身）は醫學士鈴木修一に嫁し妹たつゑ（同四、二生）は宮城縣人沼邊くまの養子となれり（仙臺、東四番丁七二電一八三〇）

**玉屋時次郎**　蓬萊閣ホテル㈱取締役會長、宮城電氣鐵道㈱取締役、神戶不動產㈱相談役、高知縣在籍
妻　英子　明二五、七生、高知、士、山本正範姉
男　日出夫　明四五、七生
女　幸子　大五、二生
君は高知縣人玉屋熊作の長男にして明治十二年二月を以て生れ大正九年家督を相續す現時蓬萊閣ホテル取締役會長たる外前記會社の重役たり家族は尙二女輝子（大六、一二生）三女良子（同一二、七生）弟浦次郎（明二〇、四生）同妻エイ（同二四、一〇生、德島、丸田萬次郎二女）及其一女の外亡姉玉惠夫喜太郎（同六、一二生、德島、丸田萬次郎弟）あり（東京、赤坂、新坂町八二電青山五七二〇）

**玉山豐**　從五位勳五等、北海道廳技師、農事試驗場十勝支場長、北海道士族
妻　茂　明三一、六生、北海道、久保兵太郎二女
男　和夫　大八、三生
君は北海道士族玉山駒治の三男にして明治二十一年一月を以て生る夙に東北帝國大學農科大學農學科を卒業し北海道廳技手山形縣技師等に歷任し北海道廳技師に任じ同廳農事試驗場在勤同北見上川各支場長を經て現時十勝支場長たり家族は尙長女文子（大一一、八生）兄要（明一八、一二生、現戶主）同妻ノブ（同二三、三生、北海道、村山鶴太郎妹）及其一女あり（北海道、河西、帶廣町）
參照＝久保兵太郎※田中康の項

**爲藤五郎**　東京府會議員、教育週報社長兼主筆、著述業、福岡縣在籍
父　勘米　弘化三、一二生、現戶主
母　タケ　嘉永五、四生、福岡、長谷川又助二女
妻　マツ　明一八、七生、福岡、井上吉太郎三女
男　尙　大二、一二生
女　ナホ　明四五、二生
君は福岡縣人爲藤勘米の二男にして明治二十年二月を以て生る同四十四年東京高等師範學校を卒業し各地の師範學校教諭を經て東京日々新聞記者たりしことあり後著述を業とし現時教育週報社長兼主筆にして推されて東京府會議員たり社會民衆黨に屬し中央執行委員に擧げらる曩に雜誌「中學世界」主筆「太陽」編輯長たりし事あり家族は尙二男凡（大五、九生）三男永（同九、三生）妹千（明二二、七生）亡兄九藏妻サダ（同二〇、三生、福岡、太刀川啓吉長女）及其子女あり姉タネ（同九五生）は福岡縣人長谷川壽六三男堀三に嫁せり（東京市外西巢鴨町巢鴨二四〇一電大塚五九二）

**保佐太郎**　大島電氣㈱社長、大島汽船㈱取締役、鹿兒島縣在籍
妻　常千代　明六、九生、鹿兒島、隆田邊恒長女
男　忠宜　明三三、七生

女　ソノ　明四〇、一生
男　三夫　明四二、九生

君は鹿兒島縣人保佐應智の長男にして明治元年十一月を以て生れ同三十八年家督を相續す現時大島電氣會社長の外前記會社の重役たり曩に鹿兒島縣多額納稅者に列し同縣參事會員に舉げらる長女ウマス(明二七、一一生)は鹿兒島縣士族林爲良に二女好子(同三六、二生)は同縣人城武司に嫁せり(鹿兒島、大島、名瀨町)

參照＝林爲良の項

## 垂井清右衞門
和歌山縣多額納稅者、和歌山商工會議所顧問、南海倉庫(株)社長、南海鐵道(株)取締役、島田硝子製造所、和歌山產業、紀陽銀行、紀伊貯蓄銀行、南海遊園各(株)監査役、垂井(名)社員、和歌山縣士族

妻　きみ　慶應三、五生、和歌山、太田幸助三女
男　清吉　明二五、八生、南海倉庫(株)取締役
婦　サト　明二八、一〇生、長男清吉妻、和歌山、市川文太郞妹
男　信四郎　明三四、一一生、文學士、慶應義塾大學教授
婦　エイ　明三八、一一生、四男信四郎妻、大阪、田中貞雄長女
女　てる　明三八、一二生、縣立和歌山高女出身
孫　美喜　大三、五生、長男清吉長女、淑德高女出身

君は和歌山縣人垂井清吉の長男にして萬延元年六月を以て生れ明治七年本家清右衞門の養子となり死跡を相續し襲名して前名清之助を改む質商を營み南海倉庫會社長の外前記各銀行會社の重役にして直接國稅五千三百七十一圓を納め縣下の多額納稅者に列し推されて和歌山商工會議所顧問にして曩に和歌山商工會議所會頭たり追春庵逸水と號し俳句を嗜む家族は尙孫みさを(大七、二生、長男清吉二女、縣立和歌山高女在學)同文夫(同一〇、七生、同長男)同勉(同一五、七生、同二男)同いく子(昭四、六生、四男信四郎長女)あり二男清之助(明二九、二生、和歌山市會議員、南海倉庫會社取締役)三男嘉三郎(同三三、一一生、桐生高工出身、奧田染工會社伊丹工場長)は各分家し二女きぬ(同三〇、一一生縣立和歌山高女出身)は和歌山縣人市川文太郞に三女あや(同三七、六生、和歌山高女出身)は東京府人官吏松山宗治に嫁せり(和歌山市西旅籠町一一電二〇三二)

參照＝垂井清之助の項

## 垂井清之助
和歌山市會議員、南海倉庫(株)取締役、垂井(名)代表社員　和歌山縣在籍

妻　津多　明三四、四生、和歌山、山中又七郞長女
男　清夫　大一一、一一生

君は和歌山縣人垂井清右衞門の二男にして明治二十九年二月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして和歌山市會議員に推さるA一六九八B三三六(和歌山市西旅籠町六)

參照＝垂井清右衞門の項

## 垂井保平
佐賀百六銀行、神崎實業銀行、高取鑛業、杵島炭礦各(株)取締役、戶上電氣製作所(株)監査役、佐賀縣在籍

妻　スマ　明二三、三生、佐賀、士、原田岩九郞長女
男　浩平　大二、四生

君は佐賀縣人垂井明平の弟にして明治十五年一月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す現時前記各銀行會社の重役たり家族は尙長女巳代子(大六、二生)あり(佐賀市水ケ江町)

## 俵國一
從三位勳二等、工學博士、帝國學士院會員、學術研究會議會員、東京帝國大學教授、工學部勤務　東京府在籍

妻　ひさ　明一七、八生、男爵加藤成之叔母
男　信次　明三七、九生、工學士、海軍造兵中尉
婦　綾子　明四四、五生、長男信次妻、東京高尾亨長女

君は島根縣人俵孫一の弟同三九郎の叔父にして明治五年二月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同三十年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業し同年同大學助教授に任じ同三十二年鐵冶金學研究の爲獨逸に留學す同三十五年歸朝同大學教授に進み同三十六年工學博士の學位を授けられ同四十年清國に差遣せらる後同大學工學部長となり現時同大學教授にして工學部に勤務す尙帝國學士院會員學術研究會議會員たり(東京、小石川、駕籠町二三二電大塚三二二六)

參照＝男爵加藤成之、俵三九郞、俵孫一※公爵山縣有道※子爵栗野愼一郞※子爵濱尾四郞※井上清孝※加藤晴比古※金子圭介※馬渡俊雄※増田義一の項

## 俵三九郞
石州銀行(株)頭取　島根縣在籍

母　ナヲエ　明二、三生、島根、岩閒友隆四女
妻　セツ　明四〇、七生、山口、佐川重五郞妹、柳井高女出身
男　昌二　昭三、一〇生

君は島根縣人先々代三九郞の二男俵國一同孫一の甥なり明治二十九年一月を以て生れ大正十三年兄三九郞の後を承けて家督を相續し前名實三郞を改め襲名す同年京都帝國大學工學部電氣工學科を卒業し現時石州銀行頭取たり家族は尙長女和子(昭五、一生)弟孝一(明三八、七生)妹ふさ子(同四二、六生)あり姉美知(同二六、八生)は島根縣人宇津宮市長男重賢に妹芳子(同三一、六生)は同縣人和田孝一郞に同婦美子(同三四、一〇生)は岡山縣人久山寅一郞に叔母糸(同一二、一二生)は島根縣人藤田武雄に亡兄三九郞妻靜(同三一、三生、島根、宮田爲記二女)は香川縣人高尾直三郞に嫁せり(島根、那賀、濱田町電一三二)

參照＝高尾直三郞、俵國一、俵孫一、藤田武雄、和田孝一郞※曾根作太郞の項

## 俵藤次郞
俵松商店(株)社長、日本木煉瓦、大阪乾餾工業各(株)取締役、大阪木材協會理事、材木商、大阪府在籍

養父　松治郞　嘉永五、六生、俵松商店(株)監査役
妻　ふき　明一六、三生、大阪、岸井六左衞門長女
男　雅一　明三五、一生、大阪高商出身、俵松商店(株)取締役
男　貞男　明四一、九生、俵松商店(株)取締役
女　時子　明三九、七生
女　松代　明四四、一一生、樟蔭高女出身
女　由子　大三、七生

俵家は大阪土着の商家にして往時より材木商を營む君は大阪府人善積竹楠の二男にして明治十一年九月を以て生れ先代松治郞の養子となり大正三年家督を相續す組業を承けて材木商を營み俵松商店を主宰する傍ら前記諸會社の重役にして現に大阪木材協會理事の職に在り家族は尙四男篤四郞(大九、六生)四女裕子(同一四、二生)あり(大阪、港、千島町一四四電櫻川九四)





## 俵孫一
正三位勳一等、衆議院議員(島根縣選出)、島根縣在籍

妻　マツ　明一五、七生、東京、士、三村稱平姉
男　精一　明三四、五生、經濟學士、三菱銀行員
婦　敦子　明四一、六生、長男精一妻、富山井上清孝長女
男　祐　明三九、五生
男　隆治　明四一、七生
男　宏　明四三、九生
女　德子　大五、八生

君は島根縣人俵祐信の四男にして同國一の兄同三九郞の叔父なり明治二年五月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同二十八年帝國大學法科大學英法科を卒業し文官高等試驗に合格し爾來沖繩東京各府縣參事官石川鹿兒島各縣書記官統監府書記官同參與官韓國學部次官三重宮城各縣知事北海道廳長官拓殖事務局長等に歷任し更に鐵道內務各政務次官に舉げらる大正十三年以來衆議院議員に當選すること三回現に立憲民政黨所屬にして昭和四年七月濱口內閣の成立と共に商工大臣に親任せられ同六年退官す家族は尙六男正道(大元、七生)七男七郞(同一二、七生)あり長女淑子(明三五、一一生)は子爵栗野愼一郞六男工學士義六郞に嫁せり(東京、赤坂、新坂町六電青山六四九〇)

參照＝子爵栗野愼一郞、井上清孝、俵國一、俵三九郞、三村稱平の項

## 俵田明
宇部紡織、宇部セメント製造、宇部電氣鐵道、沖ノ山炭礦、宇部製油各(株)取締役、山口縣在籍

妻　シケ　明二二、一一生、山口、兼安洹乘二女
女　初枝　大二、二生

君は山口縣士族俵田勘兵衞の二男にして明治十七年十一月を以て生れ大正五年甥克巳方より分れて一家を創立す現時宇部紡織會社取締役の外前記各會社の重役たり家族は尙二女美代子(大六、一生)あり(宇部、小串二五七)

參照＝※庄晉太郞の項

## 丹下茂十郞
正七位勳四等、衆議院議員(愛知縣選出)、愛知縣在籍

妻　たか　明一九、七生、愛知、林治三郞三女
男　武一郞　明三七、九生、同志社大學出身
女　千代子　明四三、八生、愛知縣立第一高女出身

君は愛知縣人丹下武左衞門の二男土井茂の兄にして明治十三年八月を以て生れ大正十二年家督を相續す夙に官界に入り愛知縣技手同縣屬農商務省農務局事務官補滋賀縣產業主事同縣理事官等に歷任す大正十三年以來鄕黨より推されて衆議院議員に當選する事三回現に立憲政友會所屬たり家族は尙二男又茂(大二、九生)三男滋三(同一〇、一一生)四男昭生(昭三、一〇生)の外弟武雄(明二〇、二生、在北米)同妻ハテー・シ・スミス(同二七、六生、北米、ラテー・スミス三女)あり長女壽子(明三七、九生)は三重縣人後藤亮長男亮一に二女錦子(同三九、一〇生、大津高女出身)は愛知縣人中野弘之養子恒雄に嫁せり(名古屋、東、大曾根町二四六ノ七電東五一一〇)

參照＝土井茂の項

## 丹吳康平
新潟縣多額納稅者、村上水電(株)取締役、農業、新潟縣在籍

妻　恭　明二四、四生、新潟、本間建彌三女
男　協平　明四四、一〇生

君は新潟縣人丹吳鼎吉の長男にして明治二十二年一月を以て生れ大正二年先代祖父俊平の後を承け家督を相續す農業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅三千二百九十六圓を納め新潟縣多額納稅者たり家族は尙二男茂(大二、六生)三男禮三(同四、一二生)長女俊(同八、五生)二女節子(同一〇、一生)あり(新潟、北蒲原、中條町)

參照＝本間建彌※隅田武夫※林信寬※吉田吉右衞門の項

## 丹澤善利
生盛藥劑、神根織布各(株)社長、日蘭貿易(株)專務取締役、中央馬來護謨、產業貿易、華南貿易、東京羅紗、バクナル・エンド・ヒレス各(株)取締役、製藥業、東京府在籍

繼母　きよ　明一〇、一二生、東京、坂本安吉長女
妻　美禰代　明二七、三生、東京、前田厚長二女
男　偉晃　大三、一一生
女　田鶴子　大元、九生

當家は元甲州市川大門町の里正たりしが微祿するに及び先代善利弱冠にして東都に出で諸種の店舖に仕へ商業を見習ふ偶々家兄の喪に當り歸鄕して甲州鰍澤町に藥種商を開く之れ生盛藥館の元祖にして後製藥所を東京に移し業務益々隆盛となり遂に今日の基礎を作る君は其二男にして明治二十四年二月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名豐春を改む錦城中學の出身にして組業賣藥業を營み現時生盛藥劑神根織布各會社長の外前記諸會社の重役たり家族は尙二男利晃(大六、四生)二女明子(同八、三生)三男章治(同一一、一生)五男章八(昭四、一生)あり四男善之助(大一五、七生)は東京府人古瀨たつ母しげの養子となれり(東京市外千駄ヶ谷町五二七電中野二一五一)

## 丹治經三
從四位勳四等、小湊鐵道(株)常務取締役、阿波鐵道(株)取締役、群馬水電(株)監査役、安田保善社(名)庶務部長、福島縣在籍

妻　てつ　明二五、九生、東京、近藤顯夫姉
男　道生　明四四、七生
女　幸　大五、一〇生

君は福島縣人故丹治經雄の二男にして明治十三年九月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治三十八年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し九州鐵道會社技師帝國鐵道廳技師鐵道局技師等に歷任し大正十一年歐米に出張を命ぜらる歸朝後鐵道省工務局改良課長勅任技師に任ぜられしが同十四年之を辭し安田保善社祕書部長兼調查部長を經て現に同社庶務部長の外前記諸會社の重役たり家族は尙二男達巳(大二、一一生)二女陽子(同一二、一生)あり(東京市外中野町千光前三〇六〇電四谷一〇五九)

參照＝※柴垣鼎太郞の項

## 丹治善造
醫學博士、日本生命保險(株)主事、醫局長、福島縣在籍

妻　あか　明一七、一〇生、飯持幸之助二女
養子　修三　大一〇、三生、射的芳太郞三男

君は福島縣人丹治善四郞の二男にして明治十二年三月を以て生れ大正十五年兒喜市方より分れて一家を創立す明治三十九年東京帝國大學醫科大學を卒業し後醫學博士の學位を授けらる現に日本生命保險會社主事にして醫局長たり長男德一郞(明三九、七生)は保坂家を相

續せりA七三五（兵庫、武庫、精道村打出大太電芦屋三三一）
參照＝保坂德一郎の項

## 丹治太治郎
千代田生命保險㈱名古屋支部長 兵庫縣在籍

父 八左衞門 安政五、五生、現戸主
繼母 しよう 明一一、二生、兵庫、松崎儀市四女
妻 トワ 明二八、九生、香川、岡田熊太郎四女

君は兵庫縣人丹治八左衞門の二男にして明治二十二年四月を以て生る同四十五年神戸高等商業學校を卒業し現時千代田生命保險會社名古屋支部長たり家族は尚兄莊太郎（明一七、四生）弟富三郎（同二五、二生）同妻ゑん（同三二、八生、兵庫、辻角太郎長女）及其一男一女弟友城（同二八、四生）同妻てい（同三三、一一生、兵庫、清水初太郎妹）及一男一女同欣二郎（同三七、二生）妹靜枝（同四一、八生）弟源二郎（同四四、一一生）あり（名古屋、東、千種町西裏一〇電東七六一〇）

## 丹治直治郎
京都府多額納税者、熊谷㈴社長、表裝地綸絹商、京都府在籍

妻 しん 明八、五生、京都、野村鶴次郎妹
養子 謙吉 明二三、七生、長女ちゑ夫、京都北川牛兵衞弟
女 ちゑ 明二九、九生、養子謙吉妻

君は京都府人熊谷萬助の長男にして明治元年一月を以て生れ先代六右衞門の養子となり後家督を相續す表裝地綸絹商を營み熊谷合名會社長にして直接國税三千四百八十八圓を納め京都府多額納税者たり家族は尚孫廣太郎（大七、一一生、養子謙吉長男）同定子（同一二、三生、同二女）あり養子ヌイ（明二三、三生、京都、佐々木德兵衞四女）孫美惠（大四、一生、養子謙吉長女）は各分家せり（京都、中京、六角東洞院東入ル電中四五四五）
參照＝※男爵永山武敏の項

## 丹宗德藏
鹿兒島縣多額納税者、酒類商並金融業、鹿兒島縣在籍

妻 登幾 明三、二生、鹿兒島、田中岩次郎妹
男 忠 明二六、九生
婦 田鶴子 明三三、六生、長男忠妻、鹿兒島山口太兵衞五女
男 昇 明三六、一二生
男 五郎 明四〇、三生

君は鹿兒島縣人丹宗庄左衞門の長男にして慶應三年十一月を以て生れ明治十九年家督を相續す酒類商並に金融業を營み鹿兒島縣多額納税者にして直接國税千八百七圓を納む長女幸（明三三、一生）は鹿兒島縣人中山熊雄に二女ヒロ（同三四、一二生）は同縣人吉峯喜八郎に三女ミツ（同四一、一二生）は同縣人吉峯長作長男一郎に四女純（大元、九生）は長崎縣人伊東一生に妹多加（明三、四生）は鹿兒島縣人中山友太郎に同美津（同一〇、六生）は同縣人久木田重則長男重倫に同サト（同一二、一〇生）は北海道人小山克巳に嫁し三男徹（同三〇、三生）は分家し二男進（同二八、七生）は絶家松田氏を再興し六男虎之助（大三、六生）は鹿兒島縣人前田浦吉の死跡を相續し弟榮（明一八、一一生）も亦同縣人尾上平藏の死跡を相續せり（鹿兒島、出水、阿久根町）
參照＝中山熊雄、中山友太郎、山口太兵衞、吉峯長作の項

## 丹田文之助
勳七等、伊川谷村長、明石銀行㈱頭取、兵庫縣在籍

妻 くにゑ 明一五、六生、兵庫、松田敬順姪
男 正 明二三、六生
婦 しげの 明二七、二生、長男正妻、兵庫、宇高忠右衞門二女
養子 晃 明三六、九生、四女光子夫、兵庫内橋貞三郎四男
女 光子 明三九、二生、養子晃妻
男 昌二 明四〇、九生
女 秋子 明四二、一一生
女 喜代 大二、七生

君は兵庫縣人丹田可作の長男にして明治二年三月を以て生れ大正六年家督を相續す明治二十三年明治大學を卒業し現時明石銀行頭取にして又推されて伊川谷村長の職にあり家族は尚三男順三（大六、九生）七女鈴子（同一〇、七生）孫孝雄（同八、三生、長男正長男）同欣二（同一一、四生、同二男）同宏（同一四、三、同三男生）同昇（昭五、一生、同四男）あり弟千之助（明九、七生）同妻あや（同一三、六生、兵庫、渡邊傳次郎四女）は其子女を伴ひ分家せり（兵庫、明石、伊川谷村）

## 丹野彌太郎
陸奥電力、馬淵川電氣各㈱取締役、陸奥製粉㈴社長、岩手縣在籍

妻 みれ 明一四、一二生、青森、駒ケ嶺正總二女
男 良太郎 明四〇、一一生
男 忠四郎 明四二、五生
女 ツル 明四三、一〇生
女 きぬ 大五、五生

君は岩手縣人先代彌太郎の長男にして明治十二年三月を以て生れ同四十二年家督を相續し前名良助を改め襲名す現時前記各會社の重役たり家族は尚三男彌兵衞（大二、二生）四男五郎（同三、九生）五男敬藏（同六、一一生）三女みつ（同八、七生）六男彌之助（同一〇、一〇生）あり（岩手、二戸、福岡町電局一三）

## 丹波謙藏
西大寺鐵道㈱取締役 兵庫縣在籍

妻 よう 安政三、一生、兵庫、島丸藤左衞門二女
男 精三 明二一、二生
男 貫三 明二二、一二生
妻 ハナ 明三五、九生、二男貫三妻、青森松山忠吾二女
孫 謙吉 明四二、九生、長男精三長男

君は兵庫縣人丹波元禮の長男にして丹波直太郎の養伯父なり嘉永三年十一月を以て生れ後家督を相續す現時西大寺鐵道會社取締役にして曩に神戸市會議員同商業會議所議員に擧げらる家族は尚孫貫一（昭三、一一生、二男貫三長男）あり長女はな（明六、三生）は兵庫縣人大野輝吉に四女もと（同一七、六生）は同縣人直木政之介長男三郎に五女とく（同二六、八生）は同縣人濱本秀太郎長男研吉に嫁し二女つれ（同八、一一生）は同夫辰藏（同元、一一生）及其子女を伴ひ分家し三男一彥（同二八、一一生）は其家籍に入れり（神戸、元町通五ノ一二二電元町一七五三）
參照＝丹波辰藏の項

## 丹波丈藏
兵庫縣多額納税者、室内裝飾品商 兵庫縣在籍

妻 アサ 明二〇、四生、大阪、澤田永太郎妹
男 康太郎 明四三、九生
女 培榮 大二、八生
女 弘 大五、一一生

君は兵庫縣人丹波良造の長男にして明治十九年十月を以て生れ大正三年家督を相續す室内裝飾品商を營み現に縣下の多額納税者たり家族は尚二男作之助（大九、七生）三女敏江（同一三、六生）あり（神戸、元町通五ノ八電元町五二三）

## 丹波助次郎
酒米商及金融業 兵庫縣在籍

妻 うた 文久元、一一生、兵庫、中西安左衞門二女
養子 三郎 明九、三生、三女こう夫、兵庫、田中善五郎二男
女 こう 明一八、八生、養子三郎妻
養孫 巽 明二六、四生、孫たれ夫、兵庫、宮前信太郎弟
孫 たれ 明三五、九生、養孫巽妻、養子三郎三女
孫 助一 明三八、一一生、養子三郎長男
孫妻 喜代子 明四三、一〇生、孫助一妻、兵庫南原清吉六女
孫 榮一 明四四、三生、養子三郎三男

君は兵庫縣人村尾德三郎の長男にして安政元年二月を以て生れ先代この養子となり明治十二年家督を相續し前名介次郎を改む酒米商及金融業を營む家族は尚孫幸次郎（明四五、五生、養子三郎四男）同米三（大四、二生、同五男）同五郎（同七、四生、同六男）同清子（同一三、三生、同四女）曾孫靖（同一四、一二生、養孫巽長男）あり（神戸、東川崎町四ノ二〇〇電兵庫二三六六）
參照＝南原清吉の項

## 丹波長藏
丹波商店㈾代表社員、洋品雜貨商 兵庫縣在籍

妻 つれ 明八、一一生、養父謙藏二女
男 孝三 明三二、一二生
婦 美代 明三八、一一生、長男孝藏妻、工學博士直木倫太郎長女
男 三郎 明三八、四生

君は兵庫縣人堀名彥の三男にして明治元年十一月を以て生れ同縣人丹波謙藏の養子となり同四十一年分れて一家を創立す洋品雜貨商を營み丹波商店を主宰す家族は尚孫孝子（昭二、七生、長男孝三長女）同元吉（同四、八生、同長男）養弟一彥（明二八、一一生）同妻芳子（同三三、一一生、京都、士、濱島康平二女）あり二女愛子（同三五、一生）は神戸商業大學助教授平井泰太郎に三女敏子（同三七、一生）は大阪府人後藤光治に嫁せり（神戸、元町通五ノ一二六電元町三三）
參照＝丹波謙藏、直木倫太郎の項

## 淡中孝八郎
昭和商店㈱社長、絹織物輸出並漁業、高知縣在籍

妻 ハル 明一一、一生、東京、士、堀種壽姉
男 正也 明四二、一一生

君は高知縣人淡中虎右衞門の長男にして慶應二年九月を以て生れ明治十七年家督を相續す夙に慶應義塾二松學舍等に學び操觚界に入りて自由新聞に執筆す後實業界に轉じ東武鐵道會社支配人夕張炭礦會社取締役兼支配人日本郵船會社重役横濱船渠滿洲製粉各會社取締役等に就任し現時絹織物輸出並漁業を營み昭和商店社長たり長女信（明三〇、九生）は東京府人片岡貞夫に二女光子（同三六、五生、東京女學館出身）は同府人坂野移文に嫁せり（東京、赤坂、青山北町四ノ一〇六電青山九二三）
參照＝片岡貞夫の項

## 淡輪敏雄
正五位勳三等、海軍主計少將、佐世保海軍經理部長兼佐世保鎭守府主計長、福岡縣士族

繼母 ユキ 安政五、七生、福岡、村石省三二女
妻 豐 明二九、九生、福岡、士、小野正秋長女
男 銑一 明四四、九生、三重高農在學

君は福岡縣士族淡輪止敬の二男にして明治十六年十月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十八年東京高等商業學校を卒業し同年海軍少主計に任ぜられ昭和三年海軍主計少將に累進す其間海軍艦政本部々員海軍省艦政局々員兼經理局々員海軍採炭所主計長海軍省經理局々員海軍造船造兵監督會計官（英國出張）佐世保海軍工廠會計部計算課長海軍省經理局第三課長海軍燃料廠採炭部長吳海軍工廠會計部長等を經て昭和四年前記の職に轉じ今日に至る家族は尚二男憲二（大三、九生）長女トシヱ（同七、九生）あり妹シノフ（明二九、二生）は福岡縣人戸次銈衞弟壽夫に同ミワ（同三二、五生）は同縣人外河豐次郎二男益三に嫁せり（佐世保鎭守府官舍甲第四號）

## 團琢磨
從五位勳二等、男爵、工學博士、三井㈴理事長、三井信託、北海道炭礦汽船各㈱取締役會長、三井生命保險各㈱社長、芝浦製作所、三井鑛山各㈱取締役、電氣化學工業㈱相談役、日本經濟聯盟會長、工業俱樂部理事長、理化學研究所理事、文政審議會、商工審議會各委員、東京府華族

妻 ヨシ 元治元、六生、子爵金子堅太郎妹
男 伊能 明二五、二生、從五位、文學士、東京帝國大學助教授、文學部勤務
婦 美智子 明三七、一一生、長男伊能妻、長崎、上野季三郎五女、學習院女學部出身
男 勝磨 明三七、一〇生、理學士、東大大學院在學、米國研學中

君は舊福岡藩士諏訪宅之丞の三男にして安政五年八月を以て生れ同藩權大參事團尙靜の養子となり明治十三年分れて一家を創立す同四年舊藩主黑田長知米國に遊學するや子爵金子堅太郎と共に選ばれて隨員となりボストン中學を經て工科大學に入り鑛山學を修め同十一年歸朝す同十四年工部省に入り工部大學校に出仕し鑛山局御用掛として三池鑛山に勤務する事五年再び歐米各國を巡遊し鑛山業の實況を視察す後三池鑛山の三井組の有となるに當り聘せられて鋭意同鑛山の發展擴張に力を致し三井鑛山會社の今日あるに至らしむ我國幾多の鑛山學者中君の指導を受け三池炭礦に練習したる者多く其功績尠からず同三十二年工學博士の學位を受く昭和三年華族に列し男爵を授けらる現時三井家の元老として同合名會社理事長たる外前記會社の重役並に幾多の公職を兼ね曩に東京商業會議所特別議員に擧げらる書畫骨董を愛好し茶道に通ず家族は尚孫伊玖磨（大一三、四生、長男伊能長男）同朗子（昭二、四生、同長女）あり長女メイ（明一七、一二生）は工學博士牧田環に三女スミ（同二七、六生）は實業家小倉常吉養子房藏に四女壽枝（同三〇、九生）は同原善一郎に嫁せり（東京市外千駄ケ谷町原宿三四四電青山三三八）
參照＝子爵金子堅太郎、上野季三郎、小倉常吉、原善一郎、牧田環※侯爵佐佐木行忠※伯爵加藤厚太郎※服部玄三の項

## 團野源三郎
百三十七銀行㈱專務取締役、篠山銀行㈱監査役、兵庫縣在籍

母 はる 安政元、二生、兵庫、木村庄兵衞姉
妻 ちよ 明二三、二生、兵庫、大西甚六三女
男 確郎 明三九、九生
男 實郎 明四二、一生
女 俊 明四四、三生
女 秀子 大元、八生
女 喜美 大三、一一生

君は兵庫縣人團野定次郎の長男にして明治九年十二月を以て生れ大正五年家督を相續す現時前記各銀行の重役たり妹いく(明一三、一〇生)は大阪府人岩崎幸治郎に嫁せり(兵庫、多紀、篠山町)

**團野末三郎**　竹原保全社(株)取締役、竹原證券、關西土地各(株)監査役、洋反物商　大阪府在籍

妻　すて　明一〇、二生、兵庫、櫻井淺右衞門長女
養子　友治郎　明二八、三生、長女ため夫、大阪田中寅之助弟
女　ため　明三二、一二生、養子友治郎妻

君は大阪府人團野友右衞門の長男にして嘉永二年五月を以て生れ元治元年家督を相續す現時前記各會社の重役にして嘗て帝國信託會社重役たりし事あり家族は尙孫健三郎(大一〇、九生、養子友治郎長男)同明子(同一五、四生、同長女)あり(大阪、東、平野町五ノ一三)

**檀　治**　大倉火災海上保險(株)取締役　福岡縣士族

妻　タツタ　明一九、六生、故東京女學館幹事西田敬止長女、東京女學館出身
男　汎　明四一、一生、工學士、鐵道省技手
男　淳　明四二、九生、京都帝大在學

君は福岡縣士族檀友雄の三男にして明治十一年六月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十八年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時大倉火災海上保險會社取締役たり弟保(明一四、二生、八女銀行取締役)は分家し妹千里(同一八、六生)は福岡縣人權藤安太郎長男次兵衞に同小濱(同二四、一二生)は同縣士族平田耕作に嫁せりA二九八(兵庫、武庫、住吉村梅木八八三ノ五**電御影二八六五**)

**檀　泰治郎**　日出土地(株)取締役、洋傘原料及毛織物商、大阪府在籍

妻　ツヤ　明一九、一〇生、徳島、福見利平姉
男　芳雄　明四〇、三生、同志社高商部出身
男　素雄　明四一、五生、慶大經濟學部在學

君は滋賀縣人遠藤政太郎の二男にして明治十二年一月を以て生れ同三十九年先代ヤヱ子の入夫となり家督を相續す夙に阿部市商店に勤務し其支配人たりしが同四十二年獨立開業洋傘原料及毛織物商を營み現時前記會社の重役を兼ぬ趣味に謠曲ありA一七四〇B二四〇(大阪、東、南久太郎町三ノ八**電船場二二八六**)

**檀野禮助**　勳五等、實業家　長崎縣士族

妻　きよ　明一六、三生、兵庫、土橋多四郎二女
養子　富士雄　明三五、七生、長崎、藤原龍珍長男
婦　春枝　明四四、三生、養子富士雄妻、兵庫、土橋末雄長女

君は長崎縣士族檀野房次の長男にして明治八年八月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し三井物產會社に入り暹羅盤谷若松各出張所長を經て北海道炭礦汽船會社商務課長同賣炭部長となり次いで南洋貿易日本商事北海製罐倉庫蟹罐詰共同販賣各會社々長日魯漁業會社專務取締役等に就任し現時閑地に在り昭和三年推されて衆議院議員に當選す弟貞記(明一五、一〇生、外國語學校露語科出身)同妻セン(同二二、五生、神奈川、佐伯藤之助姉)は其子女を伴ひ分家し妹スヤ(同三〇、二生)は長崎縣人工學士中島條七に嫁せりA三四一五七(東京、小石川、茗荷谷町八九**電小石川二六一三**)

參照＝佐伯藤之助の項

(※印は姻族關係)



# チ之部

**千足富鄉**　兵庫縣多額納稅者、材木商　兵庫縣在籍

父　甚左衞門　弘化四、二生、兵庫、泉億左衞門二男、惠美酒銀行(株)專務取締役
母　いつ　安政二、九生、祖父甚左衞門長女
妻　フサ　明一三、五生、兵庫、馬立與三郎妹
男　貞鄉　大二、一〇生

君は兵庫縣人千足甚左衞門の長男にして明治十三年九月を以て生れ同四十二年家督を相續す材木商を營み縣下の多額納稅者たり家族は尙三男宏(大四、八生)あり弟秀二(明二四、一二生)は分家し從弟豐次(同二一、二生)は兵庫縣人貴多ゑいの死跡を相續せり(西宮、久保町一三〇**電一八**)

參照＝※川瀨俊繼の項

**千賀崎義香**　從五位勳五等、農學博士、蠶業試驗場技師兼生絲檢查所技師、病理部主任、熊本縣在籍

養父　健次郎　文久二、一生、熊本、田添嘉平二男、現戶主、侯爵細川家々從
養母　島　明元、八生、熊本、白井市藏二女
妻　モト　明二三、一〇生、熊本、石井新七郎三女
男　遠　昭五、五生

君は熊本縣士族古山米男の弟にして明治十八年十月を以て生れ同四十五年現戶主健次郎の養子となる同四十四年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し農商務省囑託原蠶種製造所技手蠶業試驗場技師等に歷任し大正十三年歐洲各國に出張を命ぜられ昭和二年歸朝後前記現職に在り嚢に農學博士の學位を受く家族は尙ほ二女洋(大一四、五生)あり(東京、赤坂、新町六)

**千頭一生**　海軍少佐、三菱造船(株)參事、長崎兵器製作所長、高知縣士族

母　瀧　文久元、九生、高知、士、今村直幹四女
妻　象　明二〇、一〇生、高知、森澤保如長女
男　俊彥　明四二、一生
女　美枝子　大三、一〇生

君は高知縣士族千頭正巳の長男にして明治十三年二月を以て生れ大正十四年家督を相續す夙に海軍兵學校を卒業し海軍少佐に進みしも退官して同五年三菱造船會社に入社し累進して現時同社參事にして長崎兵器製作所長たり家族は尙二男英男(明四五、四生)三男輝雄(大六、三生)四男榮生(同八、八生)あり弟忠夫(明二〇、一生)は高知縣人今村守衞の死跡を相續し叔父眞幸(元治元、一二生)は同縣士族千頭久の入夫となれりA一七八四(長崎市爐粕町四一)

參照＝千頭眞幸の項

**千頭眞幸**　土佐電氣(株)取締役　高知縣士族

妻　久　文久二、二生、高知、千頭幹二女
孫　篤　明四五、五生、分家長男篤志二男

君は高知縣士族千頭正巳の弟同一生の叔父にして元治元年十二月を以て生れ明治三十二年先代久の入夫となり家督を相續す現時土佐電氣會社取締役にして嚢に高知縣會議員たり長男篤志(明一六、一一生)は同妻菊惠(同二四、六生、高知、士、宇賀定省妹)と共に三男俊夫(同三二、一〇生、醫學士)は同妻登志(同三一、一生、高知、松原並枝長女)と共に各分家し長女琴柱(同一八、九生)は高知縣人杉本幸吉に三女住代(同二二、四生)は同縣人山本春水に妹鈴(同一二、四生)は同縣人中澤明輝に嫁せり(高知、高岡、高岡町)

參照＝千頭一生、松原並枝※片岡直溫の項

**千明賢治**　華嚴瀧エレベーター、利根運輸各(株)社長、上毛電力、上毛電氣鐵道、關東鋼索鐵道各(株)取締役　群馬縣在籍

妻　かつ　明一一、一一生、群馬、中澤善吉妹
男　康　明三六、一生
女　てる　明三八、三生
庶子　明子　明四二、三生、生母、群馬、山崎きん
庶子　千　明四三、六生、生母、群馬、山崎きん

君は群馬縣人千明森藏の長男にして明治十一年十月を以て生れ同四十年家督を相續す同三十三年中央大學を卒業し植林事業を營みて知られ山林中菅沼丸沼大尻沼の三湖には鱒の養殖をなし現時利根運輸會社長たる外前記各會社の重役たり家族は尙庶子明久(大八、四生、生母、靜岡、村山きく)あり父森藏(弘化四、四生)は分家し養姉ひろ(同二一、五生、群馬、木暮長平二女)は群馬縣人鈴木德松の死跡を相續し養子カヲル(同三〇、七生、群馬、星野筆吉長女)は同縣人金子有造に嫁せりA一七一九(東京、本鄕、駒込千駄木町五七**電小石川三三二五**)

**千金樂靜次**　金融業　群馬縣在籍

母　コウ　明一九、二生、栃木、佐竹米吉姉

君は群馬縣多額納稅者千金樂喜一郎の三男にして明治四十年十月を以て生れ昭和五年家督を相續す金融業を營む家族は尙弟三郎(明四四、一二生)妹多加子(大八、五生)弟五郎(同九、五生)同八郎(同一〇、一二生)同郁雄(同一二、一生)同喜久雄(生年月同上)妹裕子(昭四、一二生)あり養叔父政吉(明一〇、六生、群馬、森下武一郎二男)同妻淳子(同一三、六生、栃木、平本宗太郎妹)は其子女を伴ひ分家せり(東京、下谷、上野櫻木町二八**電下谷一五九六**)

**千種有秀**　正五位、子爵、掌典　舊公卿家

嫡母　美津子　明九、一二生、伯爵副島道正養叔母
妻　加都　明四〇、二生、伯爵飛鳥井雅信妹　京都府立第一高女出身

當家は源師房の後裔木工頭岩倉具堯の次男權大納言有能の後なり有能別に一家を立て千種と稱す夫より八代を經て先々代有任に至り維新の際王事に盡瘁し明治十七年子爵を授けらる先代有梁は其二男にして貴族院議員に列す君は有梁の男にして明治三十六年七月を以て生れ同三十九年家督を相續し襲爵仰付けらる學習院高等科に學び式部職御用掛を經て現時掌典たり家族は尙伯母任子(安政二、六生、從三位勳二等、典侍)あり姉梁子(明三〇、一生、從五位、京都府立第一高女出身)は神奈川縣人田中新七に同紀子(同三二、二生、平安高女出身)は富山縣人土山瑞映に同菊子(同三三、一〇生、學習院女學部出身)は子爵伊集院兼知嗣子兼高に叔母美壽子(文久二、九生)は男爵楫取三郎の母たり(東京市外大久保町東大久保四六四)

參照＝伯爵飛鳥井雅信、伯爵副島道正、男爵楫取三郎、伊集院兼高※子爵勸解由小路資淳※男爵



(※印は姻族關係)

北垣晋一※男爵周布兼道※天野丑乙※牧彥七の項

**千坂智次郎**　從三位勳一等功四級、豫備海軍中將、東京府在籍
妻　ふみ　明一一、三生、東京、士、山崎直三姉、御茶の水高女出身
男　親智　明三一、一二生
婦　惠美　明三七、六生、長男親智妻、福井淺井政次郎二女
男　親信　明三四、九生、三井銀行員
婦　つた　明三五、五生、二男親信妻、東京薩摩治兵衞長女、御茶の水高女出身
男　親滿　明四四、二生

君は舊米澤藩家老故貴族院議員千坂高雅の二男にして男爵池田長康千坂洋三郎の兄なり明治元年二月を以て生れ同二十年分れて一家を創立す同二十年海軍兵學校を卒業し同二十二年海軍少尉に任じ大正六年海軍中將に陞進す其間皇族附武官(故有栖川宮威仁親王附)佐世保鎭守府參謀東宮武官津輕八雲香取各艦長舞鶴佐世保各鎭守府參謀長海軍敎育本部第一部長兼第二部長練習艦隊特務艦隊鎭海要港部各司令官海軍兵學校長等に歷補す家族は尙三女喜美子(大六、三生)四女知惠子(同一〇、四生)孫智康(同一四、一〇生、長男親智長男)同高見(昭二、四生、同二男)同美奈子(大一三、六生、二男親信長女)同美彌子(昭二、二生、同二女)あり二女美代子(明三七、八生)は東京府人大倉粂馬長男彥一郎に嫁せり(東京市外淀橋町角筈九二)
參照＝男爵池田長康、大倉粂馬、薩摩治兵衞、千坂洋三郎、山崎直三※子爵吉田淸風※伊東亨吉※森田茂吉の項

**千坂洋三郎**　從五位勳四等功五級、陸軍步兵中佐、東京府在籍
妻　美代　明一八、八生、東京、北岡鶴松妹
男　高康　明四〇、五生
女　八千惠　大二、三生

君は舊米澤藩家老故貴族院議員千坂高雅の三男にして同智次郎の弟男爵池田長康の兄なり明治七年十一月を以て生れ大正元年父高雅の後を相續す明治二十九年陸軍士官學校を卒業し陸軍步兵少尉に任ぜられ累進して同中佐に陞る其間中隊長大隊長參謀本部附聯隊旅團師團各副官に歷補し大正四年病の爲辭して豫備役となり現時閑地にあり家族は尙二男綠雄(大四、一〇生)三女耐子(同八、五生)四女黎子(同一一、八生)あり(東京市外目黑町上目黑六三六電靑山一六〇)
參照＝男爵池田長康、北岡鶴松、千坂智次郎※大倉粂馬※稲原信和の項

**千谷虎雄**　從五位勳六等、鐵道局技師、名古屋鐵道局長野工場長、東京府士族
母　豐　元治元、九生、高知、士、千谷敏德二女
妻　千枝　明三一、五生、東京、坂本友吉長女、御茶の水高女出身
男　道雄　大九、一一生

君は東京府士族千谷泰次郎の長男にして明治二十三年一月を以て生れ大正十年先代祖父孝の跡を承け家督を相續す同四年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し鐵道院囑となり爾來同技手同技師名古屋鐵道局技師鐵道技師工作局工場課勤務工作局機械課兼大臣官房文書課勤務等に歷任し鐵道局技師名古屋鐵道局長野工場長となり鐵道技師長岡建設事務所勤務を兼ねしが現時鐵道局技師名古屋鐵道局長野工場長たり家族は尙ほ長女禎子(大一二、四生)弟春男(明三七、二生)同妻ミツ(同四三、五生、福岡、庄岡憲輔妹)及其一子妹たか(同四一、三生、東京府立第五高女出身)あり同ひさ(同三〇年生水戶高女出身)は愛知縣人工學士太田祿郎に同フヂ(同二二、五生、千代田高女出身)は大分縣人飯田貞夫に嫁せり(東京、牛込、若宮町二六)

**千野要之助**　共同人造肥料㈱專務取締役、千野油脂工業所、石鹼諸油製造業、東京府士族
妻　和加　明一三、一二生、東京、渡邊萬次郎長女
男　秀介　明三五、一生
婦　さわ　明四〇、九生、長男秀介妻、東京渡邊萬次郎孫
男　篤介　明三九、三生

君は東京府人高橋幾太郎の弟にして明治元年一月を以て生れ先代驍の養子となり同十七年家督を相續す同二十三年中央大學法科を卒業し現時千野油脂工業所を經營し石鹼諸油製造業を營み傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は尙五男禎介(大二、五生)六男修介(同四、九生)二女みれ(同八、二生)孫多惠(昭四、三生、長男秀介長女)あり(東京市外玉川村等々力一九五四)

**千葉郁治**　正五位勳三等功五級、陸軍主計監、第一師團經理部長、宮城縣在籍
妻　げん　明一四、一一生、宮城、岩井利助長女
養子　健太郎　明三五、一生、宮城、岩井利助七男、工學士、三菱鑛業所技師
婦　いと　明三五、七生、養子健太郎妻、東京、士、小畠延衞長女

君は宮城縣人千葉信夫の二男にして明治六年十一月を以て生れ同三十九年家督を相續す中學を出で後軍籍に入り同三十六年陸軍三等主計に任じ爾來累進して大正十二年同一等主計正に進み昭和三年主計監となる其間大正八年戰後調査の爲歐米に差遣せられ後陸軍省經理局建築課長第四師團經理部長を經て現職に轉ず詩文書に長じ就中書は長三洲日下部鳴鶴兩翁の知遇を受くること多年造詣最も深し家族は尙孫裕(昭二、七生、養子健太郎長男)亡兄信利長女なか(明一二、七生)同夫幸三郎(同九、九生、宮城、横山泰治三男)及其子女あり姪孫たみ(同三〇、九生)は宮城縣人太田熊治に同ちとせ(同三七、二生)は佐賀縣人陸軍主計官楠田怎麼心に嫁せり(東京市外世田ケ谷町下北澤八二八電四谷一〇三六)

**千葉幾治郎**　內田商事、大正鑿泉、筑波高速度電氣鐵道各㈱取締役、內田汽船㈱東京出張所長、東京府在籍
母　つるよ　安政六、六生、宮城、千葉篤治姉
妻　雅子　明二五、三生、茨城、平野銷次郎二女
男　茂久　大四、三生

君は東京府人千葉松太郎の長男にして明治十三年十一月を以て生れ大正十五年母つるよの跡を承け家督を相續す現時內田汽船會社東京出張所長にして前記各會社の重役たり家族は尙長女安子(大六、八生)二男博(同一〇、五生)三男高(同一三、二生)四男登(同一五、一〇生)あり(東京、小石川、雜司ケ谷町一一三電牛込二二七九)

**千葉龜雄**　大阪每日新聞、東京日日新聞各編輯顧問、著述業、宮城縣在籍
妻　フク　明二一、一〇生、群馬、小島峰藏三女





男　靜一　明三八、九生
女　靜江　明四一、一二生
女　菊江　明四四、九生

君は宮城縣人千葉恒平の二男にして明治十一年九月を以て生れ同二十九年亡兄假太郎の後を承け家督を相續す夙に早稻田大學文科に學び國民英學會を卒業す文庫新聲日本及日本人日本新聞國民新聞時事新報等の記者となり評論家として知られ曩に讀賣新聞社文藝部長同編輯局長となり名古屋每日新聞社專務取締役大阪每日新聞社學藝部長たりしも現時前記各新聞社編輯顧問たり家族は尙二男泰二(大四、四生)三男明(同六、一〇生)四男朗(同一二、一生)あり姉よれ(明八、一〇生)は滋賀縣人中島吉兵衞長男吉之助に嫁せりA二五九(東京市外大井町庚塚四八四二電大森一〇一〇)

**千葉龜之助**　池貝鐵工所㈱監査役、東京府在籍
妻　久　明三一、九生、東京、千葉直五郎妹
男　輝彥　大六、二生

君は東京府人千葉勝五郎の孫にして明治二十九年十月を以て生れ同三十六年家督を相續す現時池貝鐵工所監査役たり家族は尙長女靜(大八、一一生)二男泰彥(同一〇、一〇生)三男和彥(同一二、三生)二女美代(昭五、三生)あり(東京、芝、聳手町二五電芝二二一〇)
參照＝千葉直五郎※岩井宇一郎※千葉恒次郎※廣部淸一郎の項

**千葉公贇**　正五位勳四等、判事、鶴岡區裁判所判事兼山形地方裁判所鶴岡支部判事、宮城縣在籍
妻　きちよ　明一八、九生、岩手、平井德彌長女
男　英郎　明三八、一一生
男　武郎　明四四、一一生

君は宮城縣人千葉大助の二男にして明治八年二月を以て生れ大正七年兄周右衞門方より分れて一家を創立す明治二十九年東京法學院を卒業同三十五年判檢事登用試驗に合格し司法官試補となる尋で判事に任じ弘前區山形地方同區兼同地方米澤區山形區酒田區山形地方各裁判所判事を經て大正五年盛岡地方裁判所部長となり靜岡地方兼同區新潟地方各裁判所判事長野地方裁判所松本支部判事兼松本區裁判所判事平區裁判所判事兼福島地方裁判所平支部々長等に歷補し昭和四年鶴岡區裁判所判事兼山形地方裁判所鶴岡支部々長に轉じ同六年六月現職に轉ず家族は尙長女贇子(大一〇、六生)二女榮子(同一三、一一生)あり(鶴岡、鶴岡區裁判所內)

**千葉久太郎**　香川縣多額納稅者、香川縣在籍
妻　ノブ　明二〇、九生、香川、赤木千太郎二女
男　裕　明四二、九生
男　恒信　明四四、五生

君は香川縣人吉田嘉八の三男にして明治八年九月を以て生れ先代久次の養子となり同四十一年家督を相續す直接國稅一萬三百九十圓を納め香川縣多額納稅者にして曩に高松商工會議所會頭たりし事あり家族は尙三男忠雄(大二、七生)五男雄三(同七、三生)二女絢子(同一〇、二生)六男彰(同一四、七生)あり長女ヒサヱ(明三七、四生)は香川縣人岡上亮平長男秦男に嫁し四男榮三(大五、三生)は同縣人吉田良子の養子となれり(高松、南新町一六)

**千葉淸**　北海電化工業㈱社長、合同肥料㈱專務取締役、小倉貿易、臺灣肥料各㈱監查役、東京府在籍
妻　タネ　明一七、六生、鹿兒島、士、田尻武彥二女
男　淸輝　明三七、六生

君は東京府士族小川金の弟にして明治十一年八月を以て生れ先代忠三郎の養子となり同三十三年家督を相續す同三十五年東京高等商業學校を卒業し實業界に入り現時北海電化工業會社長の外前記各會社の重役を兼ぬ(東京、麻布、新龍土町一二電靑山五一八二)

**千葉三郎**　南米拓殖㈱取締役、千葉縣在籍
妻　禮子　明三八、二生、東京、鈴木主計四女

君は千葉縣多額納稅者千葉彌次馬の弟にして明治二十七年一月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す同八年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し更に米國に航してプリンストン大學に學ぶ現時南米拓殖會社取締役にして曩に大日本實業組合聯合會理事に擧げられ曾て衆議院議員に當選する事二回に及ぶゴルフに趣味を有す家族は尙長女總子(大一二、一〇生)あり(東京、小石川、白山御殿町一一八電小石川七四一七)
參照＝千葉彌次馬の項

**千葉修三**　川北物產㈱專務取締役、北斗電球川北電氣商事各㈱取締役、川北電氣企業社、川北電氣土木各㈱東京支店支配人、北海道在籍
妻　喜實惠　明二五、一生、愛媛、士、隅田英夫姉
男　一郎　大一〇、一〇生
女　幸子　大三、一〇生
女　禮子　大五、一生

君は北海道人千葉幸吉の長男にして明治二十年八月を以て生れ大正十年家督を相續す同二年慶應義塾理財科を卒業し現時川北電氣企業社川北電氣土木各會社東京支店支配人にして傍ら前記諸會社の重役たり家族は尙三女靜子(大八、一二生)四女慶子(同一三、一二生)ありA二九七(東京市外千駄ケ谷町原宿一七〇)

**千葉庄八**　東北鐵道鑛業㈱取締役、岩手縣在籍
妻　ツカサ　明一五、九生、岩手、佐藤喜代治三女
男　正夫　明三四、一二生
婦　ツネ　明三九、五生、長男正夫妻、岩手橋本善太妹
男　信夫　明四〇、三生
婦　アイ　明四三、一生、三男信夫妻、岩手伊勢勘兵衞長女
女　チハリ　大三、二生

君は岩手縣人千葉辰治の長男にして明治十一年六月を以て生れ同三十五年家督を相續す現時東北鐵道鑛業會社取締役たり家族は尙七女キヌ(大六、四生)八女キミ(同八、一生)九女暉子(同一〇、一生)十女京子(同一四、四生)孫典子(昭三、八生、長男正夫長女)同東子(同五、五生、三男信夫長女)あり二女マコト(明三二、六生)は岩手縣人宇部四雄に三女ミヤ(同三七、一二生)は同縣人米澤吉次郎に四女みよ(同四一、一二生)は同縣人佐藤四郎に五女キク(同四五、一二生)は同縣人坂本貞吉に妹フク(同一八、一二生)は同縣人駒木治右衞門に同ミツ(同二三、六生)は同縣士族佐藤源吉長男種藏に同アヤ(同三〇、七生)は同縣人五十嵐淸作に嫁し弟辰三(同二五、七生)は同縣士族神幸七の養子となり亡叔母キサ夫仁藏(元治元、八生、岩手、小林仙治弟)は其家族を伴ひ分家せり(岩手、二戶、御返地村)
參照＝駒木治右衞門※菊池慶次郎の項

**千葉眞一**　醫學博士、山屋(株)監査役、千葉病院長、醫師、東京府在籍

妻　くに　明二一、三生、東京、渡邊寬五郎妹
男　幹一　大三、八生
女　初枝　大二、九生
女　禮　大四、一一生

君は宮城縣人千葉立造の三男にして明治十三年二月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十九年東京帝國大學醫科大學を卒業し同大學耳鼻咽喉科助手となり夢で歐洲に留學す歸朝後順天堂醫院に入り耳鼻科長たりしが大正九年辭して千葉病院を設立し今日に至る耳鼻咽喉科手術の巧緻を以て名あり同二年醫學博士の學位を授けらる現時傍ら山屋會社監査役たり書道に造詣深く能筆家として知られ又尺八に堪能なり家族は倘三女三枝(大六、四生)二男泰(同七、一二生)三男久(同八、一一生)四男實(同一〇、五生)あり(東京、日本橋、濱町二ノ一二電浪花三四〇九)
參照＝渡邊寬五郎の項

**千葉胤明**　從五位勳五等、御歌所寄人　東京府士族

妻　ふん　明一三、四生、東京、士、川上精一養妹
男　胤茂　明三二、一二生
婦　靜　明三九、八生、二男胤茂妻、東京　中川忠純養子
男　常威　明四一、六生

君は東京府士族千葉元佑の長男にして元治元年六月を以て生れ後家督を相續す明治二十五年宮內省御歌所に出仕し爾來御歌所錄事同參候宮中御歌御會始奉行神宮神部署主事大阪神部支署長臨時編纂部委員等に歷任し現時御歌所寄人たり家族は倘孫絹子(昭四、一生、二男胤茂長女)あり二女千代子(明二八、四生)は佐賀縣人秋山虎六に養子マツヱ(同一九、五生、佐賀、士、福地義方長女)は同縣人御木光正に嫁せり(東京、四谷南町九電四谷五五八〇)
參照＝川上精一の項

**千葉爲吉**　福島縣多額納稅者、福島縣會議員　東京衞菊酒(株)取締役、福島縣在籍

妻　トス　明四、七生、福島、谷澤伊喜藏長女
男　繁　明二四、一〇生
婦　ハルノ　明二六、五生、長男繁妻、福島、原田廣之四女
男　實　明三五、三生
婦　イク　明四一、五生、三男實妻、福島、渡部四郎四女
男　爲季　明三八、四生
孫　千代子　大四、一生、長男繁長女

君は福島縣人千葉龜四郎の長男にして明治五年九月を以て生れ同二十五年家督を相續す現時前記會社の重役にして福島縣多額納稅者に列し同縣會議員に擧げらる曩に福島縣參事會員たりし事あり家族は倘孫徹(大五、四生、長男繁二男)同哲(同六、八生、同三男)同裕(同一一、一生、同四男)同芳(同一四、九生、同六男)同光子(同一五、三生、三男實長女)同芳子(昭四、二生、同二女)あり長女キミ(明二三、五生)は福島縣人白井藤三郎二男榮壽に三女マスイ(同二九、三生)は同縣人遠藤五八に四女キヨ(同三一、九生)は同縣人猪瀨喜義に五女マサ(同四一、八生)は同縣人齋藤養一に妹カヤ(同一五、一一生)は同縣人齋藤忠一に嫁し二男昌隆(同三三、二生)は同縣人五十嵐寅八に弟芳美(同二一、一生)は同縣人山內菊次郎に各養子となり同嘉吉(同八、一生)は同縣士族西田善八長女センの入夫となり叔父福吉(文久元、七生)同妻ワイ(明三、一二生、福島、梅宮佐六二女)は其一子を伴ひ分家せり(福島、大沼、旭村)

**千葉斷一**　日之出生命保險(株)代表取締役、仁壽生命保險(株)取締役、京都殖產(株)監査役、奈良縣士族

繼母　久　明九、一生、男爵中山信實妹
妻　とも　明二三、五生、愛知、加藤庄兵衞二女
男　博幹　大四、四生
女　美稔子　明四五、三生
女　伊楚子　大五、一一生

君は奈良縣士族從三位勳二等千葉貞幹の長男にして明治十二年六月を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十一年京都帝國大學法科大學を卒業し日本銀行に入り同行小樽支店營業主任京都支店文書主任を勤め大正八年辭して仁壽生命保險會社取締役兼支配人日之出生命保險會社專務取締役に擧げられ現に前記各會社の重役たり家族は倘ほ弟貞光(明四五、五生)あり姉妙(同九、一〇生)は滋賀縣人下郷傳平に妹貞子(同二八、九生)は東京府人廣岡助五郎弟助治に同敏子(同三一、一〇生)は北海道士族宇治川良太弟渉に同信子(同三六、一〇生)は前記下郷傳平甥良順に同純子(同三七、一二生)は東京府人岡村豐養子秀雄に同恭子(同四〇、一生)は神奈川縣人對木彌兵衞二男猶介に嫁し弟強三(同一七、一〇生)は東京府人山中利右衞門に同武五郎(同二三、九生)は同府士族齋藤德明に各養子となれり(神奈川、三浦、逗子町)
參照＝男爵中山信實、宇治川良太、下郷傳平、廣岡助五郎※子爵青木信光※大川錠吉※春田助太郎の項

**千葉千代吉**　正五位勳四等、退職判事　岩手縣在籍

妻　いそ　明二一、一二生、宮城、鈴木仲五郎長女
男　崇　明四四、一生、水戸高等學校在學

君は岩手縣人千葉金四郎の長男にして明治十年五月を以て生れ同三十二年家督を相續す同年明治法律學校を卒業し同三十七年判檢事登用試驗に合格し同四十年判事に任じ白河區福島地方若松區米澤區松山地方同區米子區鶴岡區各裁判所判事福島區裁判所監督判事に歷補し昭和二年八月盛岡區裁判所監督判事に補せられ同地方裁判所判事を兼ね同六年六月盛岡地方裁判所部長に轉じ次いで退職を命ぜらる家族は倘二男省吾(大三、一一生)三男義勝(大五、一二生)五男守文(同一一、二生)二女壽子(同一三、九生)六男直(昭三、二生)あり長女信(明四二、六生、日本女大出身)は宮城縣人鈴木甚吉二男法學士住友銀行員楨三郎に養妹みよし(同二九、二生、岩手、熊谷良三郎三女)は同縣人本宮彌右衞門弟同志社大學教授彌兵衞に嫁せり(盛岡、鷹匠小路四九)

**千葉勉**　正五位、東京外國語學校教授　宮城縣在籍

妻　きみ　明二六、一一生、宮城、田代進四郎四女
男　亨　大一三、一生

君は宮城縣人千葉信安の長男にして明治十六年七月を以て生れ同四十一年祖父恭佐の後を承け家督を相續す同四十年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し同四十三年文學部講師囑託大正二年英國に留學し同五年歸朝同年東京帝國大學文學部講師囑託及東京外國語學校講師囑託同八年東京外國語學校教授に任ぜられ昭和二年依願文學部講師を辭し同四年萬國音聲學會評議員に擧げられ現在に至る家族は倘長女昌子(大七、八生)二女恭子(同一〇、一生)三女節子(昭四、一一生)弟武夫(明四一、七生)あり同德彌(同一八、五生)は同妻とりよ(同一八、一一生、宮城、山下西吉三女)及其子女を伴ひ分家し妹みどり(同二四、一〇生)は宮城縣人丹野千代吉に同かほる(同二七、九生)は福島縣人柴田雄二郎に同みわ(同三〇、一生)は宮城縣人加納安正に同さかえ(同三二、六生)は青森縣人張間源四郎に嫁せり(東京、小石川、林町五七)
參照＝張間源四郎※池田秀雄※小島勇之助の項





**千葉恒次郎**　池貝鐵工所(株)副社長、日本塗料(株)取締役、東京府在籍

妻　まき　明一七、八生、東京、士、志田與助妹
男　龍太郎　明三六、六生

君は東京府人千葉松兵衞の弟同直五郎の叔父にして明治十年二月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す現時池貝鐵工所副社長の外前記會社の重役たり家族は倘二男省三(大三、一生)ありA三四五二(東京、赤坂、新坂町一六電靑山四八一〇)
參照＝千葉直五郎※岩井宇一郎※千葉龜之助※廣部清一郎の項

**千葉傳藏**　青森縣多額納稅者、青森商工會議所常議員、共同水產、青森製氷、三立運輸各(株)取締役、青森銀行、青森青灣貯蓄銀行、三輪運送店、青森電燈、函青汽船各(株)監査役、海產物商、青森縣在籍

養母　みゑ　明九、一二生、青森、高田與次郎長女
妻　ちよ　明二八、一一生、養父傳藏二女
男　繁藏　大三、一〇生
女　せつ　大元、一〇生

君は青森縣人白鳥鴻彰の三男にして明治二十三年三月を以て生れ先代傳藏の養子となり大正八年家督を相續し前名疊郎を改め襲名す海產物商を營み傍ら前記銀行會社の重役にして青森商工會議所常議員に擧げられ青森縣多額納稅者に列し直接國稅三千六十八圓を納む家族は倘二男榮三(大六、四生)二女りつ(同九、二生)あり(青森市新安方町八三電一七〇)

**千葉直五郎**　會社員　東京府在籍

祖母　千代　嘉永元、四生、千葉常五郎二女
妻　長　明二四、三生、東京、千澤專助三女
男　常五郎　明四四、九生
女　和子　大四、七生

君は東京府人千葉松兵衞の長男にして明治二十一年二月を以て生れ大正十五年家督を相續す會社員たり曩に池貝鐵工所監査役たりし事あり家族は倘二男楨治(大元、九生)三男弘(同八、六生)二女千惠子(同一〇、五生)弟胤吉(明三三、二生)其妻恒子(同三六、二生、東京、伊澤三郎姉)及其二子弟俊夫(大四、五生)あり妹ゆう(明二八、八生)は東京府人廣部清一郎に同久(同三一、九生)は同府人千葉龜之助に嫁し同うめし(同三〇、六生)は其夫次郎(同一八、四生)と共に分家し叔父恒次郎(同一〇、二生)も亦分家し叔母たま(同二一、一〇生)は岩井家に入り當主宇一郎を迎へり(東京市外澁谷町綠岡七電靑山三二六一)
參照＝岩井宇一郎、千葉龜之助、千葉恒次郎、廣部清一郎※男爵船越光之丞※男爵山縣有光の項

**千葉宮次郎**　勳七等、攝陽商船、播淡聯絡汽船、全淡自動車、淡路鐵道、內外商事各(株)取締役、兵庫縣在籍

妻　むめ　明六、九生、兵庫、士、島田平之助孫
男　俊雄　明三四、四生
婦　千代　明三八、八生、二男俊雄妻、兵庫士、小島種吉長女

君は兵庫縣人千葉萬次郎の長男にして明治五年一月を以て生れ同十九年祖父弘次郎の後を承けて家督を相續す夙に神戸乾行義塾に學び後明治法律學校を卒業し酒造業を營みしが現に前記各會社の重役にして曩に野島村長岩屋町長郡會議員同議長兵庫縣會議員同議長衆議院議員等に選ばる家族は倘孫俊一(大一四、一二生、二男俊雄長男)同美智子(昭二、四生、同長女)同雄次郎(同四、一二生、同二男)ありA六三〇(兵庫、津名、岩屋町電一七)

**千葉元枝**　從五位勳六等、朝鮮道立醫院醫官　全羅南道濟州醫院長、北海道士族

母　ワキ　元治元、一一生、北海道、士、黑澤道遠二女
妻　安也　明三〇、一生、山梨、武藤文吾長女

君は北海道士族千葉元貞の長男にして明治十五年一月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十三年京都帝國大學福岡醫科大學を卒業し同大學副手同助手を經て大正二年朝鮮總督府道慈惠醫院醫官に任じ同十四年朝鮮道立醫院醫官となり現に全羅南道濟州醫院長たり家族は倘弟八起(明二一、二生)同妻よし(同二三、七生、兵庫、鷲尾伴五郎三女)及其二子弟譽男(同三四、八生)同六郎(同三九、六生)あり同茂樹(同二四、一生)は同妻嘉代(同三〇、一一生、岩手、紀熊五郎三女)及其三子を伴ひ分家せり(朝鮮、全羅南道、濟州醫院官舍內)

**千葉彌次馬**　千葉縣多額納稅者、靜和高等女學校長、醫師、千葉縣在籍

母　光　明二、一二生、千葉、上代民信姉
妻　喜美　明三一、一一生、千葉、西村繁妹
男　東彌　大一三、三生

當家は千葉縣の豪族にして累代名主役を勤め眼科醫を業とす先代彌次馬は東京帝國大學出身の醫學士にして祖業を繼承し傍ら育英事業に盡瘁し鄉黨の信望厚かりき君は其長男にして明治二十四年一月を以て生れ大正九年家督を相續し後前名彌太郎を改め襲名す同十年九州帝國大學醫學部を卒業して父祖の業を繼ぎ眼科醫を開業し茂原町に於て靜和高等女學校を經營し之れが校長たり又郡醫師會長郡農會長に擧げられ現時千葉縣多額納稅者に列す家族は倘長女桃子(大七、八生)二女美和子(昭二、四生)あり弟三郎(明二七、一生、法學士)は其妻子を伴ひ分家し同四郎(同二九、六生、工學士)も亦分家し同五郎(同三一、二生、早大出身)は千葉縣人福島あやに同六郎(同三三、五生、東大經濟學士)は同縣人布施菊江に各入夫になり叔母はま(同九、七生)は同縣人西村千秋に嫁せりA一二三二B一〇〇(千葉、長生、鶴枝村)
參照＝千葉三郎、西村繁の項

**千葉良祐**　正五位、大阪外國語學校教授　岩手縣在籍

妻　元　明二一、九生、愛知、士、横井時儀三女

男　庸夫　明四五、六生
君は岩手縣人千葉晉藏の長男にして明治四年三月を以て生れ同二十年家督を相續す同二十五年岩手縣尋常師範學校を卒業し小學校訓導たりしが同三十三年更に東京帝國大學文科大學英文學科を卒業し熊本縣立八代中學校教諭となり次で名古屋市なる德川侯爵設立の私立明倫中學校に奉職する事約十一ケ年大正十一年大阪外國語學校教授に任ぜられ現在に至る曩に米國に留學する事二ケ年其他支那を漫遊す家族は尚三男努（大六、五生）あり（大阪、港、鶴町四ノ一七二）

**千速賢正**　千葉水電㈱代表取締役、秋田電氣軌道㈱常務取締役、萬世興業、讃珠島土地各㈱取締役、常北電氣鐵道㈱監査役、東京法律事務所、辯護士、レール商、東京府在籍
母　ミス　明四、八生、東京、古賀爲吉妹
妻　彌生　明三三、四生、東京、矢崎賓吉五女
君は東京府人千速梅太郎の長男にして明治二十四年六月を以て生れ同三十九年家督を相續すレール商を營み辯護士にして東京法律事務所を設立す傍ら千葉水電會社代表取締役たる外前記各會社の重役たり曩に東京商工會議所議員たりし事あり家族は尚長女凞子（大一〇、八生）二女綾子（同一三、三生）三女和子（昭二、二生）四女喜久子（同五、二生）ありA一三〇B一一八（東京市外高田町雜司ヶ谷五九二電牛込六〇三二）

**千原三郎**　大同燐寸㈱專務取締役、小林燐寸製造所、日清燐寸、日本燐寸製造、朝鮮燐寸各㈱取締役、岡山縣在籍
妻　文子　明三一、八生、山口、海井辯藏長女
男　一夫　大一三、九生
君は岡山縣人山室精一の三男にして明治十八年五月を以て生れ同三十一年絕家千原氏を再興す同三十七年同志社大學を卒業し現に大同燐寸會社專務取締役の外前記各會社の重役たり家族は尚長女秀子（大九、三生）二女俊子（同一〇、八生）ありA一六二（兵庫、武庫、精道村蘆屋山ノ下一三〇〇電芦屋二一一六）

**千原多見藏**　エプロン及ハンカチ商、大阪府在籍
養母　モト　嘉永三、三生、大阪、松浦彌三郎二女
妻　カネ　明八、六生、養母モト長女
男　勝藏　明三〇、一〇生
婦　ハル　明三五、一〇生、長男勝藏妻、大阪、山口鶴藏三女
男　庄五郎　明四四、六生
君は和歌山縣人下村善五郎の三男にして明治八年二月を以て生れ先代モトの養子となり大正九年家督を相續すエプロン及ハンカチ商を營む家族は尚孫由子（昭二、三生、長男勝藏長女）同久子（同三、八生、同二女）あり二男彥次郎（明三二、三生）三男忠三郎（同三三、一〇生）は各分家し二女ユウ（同三六、七生）は大阪府人木下熊藏に嫁し孫博次（大一三、一〇生、長男勝藏二男）は同府人八杉嘉四郎の養子となり二女ステ（明四〇、七生）は大阪府人熊本專治二男專祐に嫁せり（大阪、西阿波座中通一ノ四電新町八〇〇）
參照＝熊本專治の項

**千原冲太郎**　中備製絲㈱社長、井笠鐵道㈱取締役、岡山縣在籍
妻　多加　明八、八生、岡山、楠戸常三三女
男　貫一　明二九、八生
婦　雅子　明三六、五生、長男貫一妻、岡山、岡野唯一郎孫
男　隆三　明三四、一生
婦　敏子　明四〇、一生、三男隆三妻、岡山、岡野一良姉
女　克子　明三七、五生
女　多喜子　明四〇、二生
女　知江子　明四四、二生
君は岡山縣人千原貫一の長男にして明治六年一月を以て生れ同二十七年家督を相續す現時中備製絲會社長たる外前記會社の重役たり家族は尚六男六夫（大三、四生）五女須賀子（同六、八生）孫卓也（同一四、一生、長男貫一長男）同英之（昭四、九生、三男隆三長男）あり長女澤惠（明三一、二生）は栃木縣人野澤鈞に嫁し四男史郎（同三六、一生）同妻靜子（同三九、七生、岡山、河本謙吉長女）は其一女を伴ひ分家し弟舜平（同九、二生）も亦分家せり（岡山、後月、井原町）

**千代浦昌**　日本電氣興業㈱取締役、乾燥木材工業、常陸銘石㈱常任監査役、東洋蓄電池㈾代表社員、東洋醫療電機研究所長、東京府士族
男　昌美　明三九、九生、法學士
女　輝子　明四二、六生、府立第三高女出身
女　百合子　明四五、二生、荏原高女出身
君は東京府士族千代浦教邦の長男にして明治十二年十二月を以て生れ同二十八年家督を相續す現に前記各會社の重役たり家族は尚二男昌迪（大三、八生）四女文子（同一一、六生）ありA一二三〇（東京市外品川町南品川宿八三四電高輪二八七二）

**千輪甫**　正五位勳三等功五級、陸軍砲兵大佐、野砲兵第八聯隊長、福岡縣在籍
妻　二十枝　明二〇、一生、石川、士、御影池辰雄姉
養子　道輔　大一四、一〇生、石川、御影池次雄甥
君は福岡縣士族千輪仙壽の四男にして明治十三年二月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す夙に陸軍士官學校を卒業し同三十五年砲兵少尉に任じ日露戰役間は野砲兵第三聯隊に從軍各地に轉戰し昭和三年陸軍砲兵大佐に累進す其間砲工學校野戰砲兵射擊學校を卒業し陸軍士官學校生徒隊附及同校教官朝鮮軍副官臺灣軍及第三師團各兵器部長近衞師團司令部附名古屋陸軍兵器支廠長等に歷補し昭和五年野砲兵第八聯隊長に補せらる長女一枝（明四〇、六生）は愛知縣人廣瀨則之に嫁せり（弘前、野砲兵第八聯隊內）
參照＝御影池辰雄の項

**千綿榮六**　從五位勳六等、朝鮮總督府檢事、光州地方法院木浦支廳上席檢事、佐賀縣在籍
妻　せつの　明二二、一二生、愛知、梶浦彌左衞門長女
男　教夫　大五、四生
君は佐賀縣人千綿卯七の四男にして明治二十一年一月を以て生れ昭和三年兄又一郎方より分れて一家を創立す大正四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し朝鮮總督府司法官試補を經て同檢事に任じ爾來木浦京城釜山各地方法院檢事に歷任し現時光州地方法院木浦支廳上席檢事たり（朝鮮、木浦、法院支廳檢事局內）

**血脇守之助**　勳五等、東京齒科醫學專門學校長、日本齒科醫師會長、學校衞生調查會臨時委員、齒科醫師、東京府在籍







妻　ソテ　明一〇、一〇生、神奈川、廣瀨武郎妹
男　日出男　明三五、六生、明大出身、商科學報社㈾無限責任社員、武藏中央電氣鐵道會社員
婦　あか　明三六、六生、長男日出男妻、東京、松井好松妹
男　芳雄　明三七、一生、慶大出身、三井銀行員
君は千葉縣人加藤誠之助の長男にして明治三年二月を以て生れ同二十年血脇勝藏の死跡を相續す同二十二年慶應義塾を卒業し後高山齒科醫學院を卒業して齒科醫となり同三十三年東京齒科醫學專門學校を創立し同校長として今日に至る同三十六年日本齒科醫師會の前身大日本齒科醫會を起し其會長に擧げられ大正十三年勳五等に敍せられ又米國シカゴ市ロヨラ大學よりエル・エル・デーの名譽學位を贈らる曩に歐米を漫遊す長女英子（明三九、一生、雙葉高女出身）は慶應大學醫學部出身濱野規矩雄に三女政子（同四一、五生、出身校同上）は渡邊一郎弟東京商大出身得治郎に養子タロ（同二〇、一〇生、岩手、小原重次郎四女）は元關東長官木下謙次郎に嫁し五男靖夫（大六、二生）は父の生家加藤家の相續人となれり（東京市外千駄ヶ谷町四九六電靑山一二九）
參照＝渡邊一郎の項

**地崎宇三郎**　地崎組（株資）社長、東邦コンクリート㈱常務取締役、日本耐火スレート㈱取締役、北海道在籍
妻　いと　明五、八生、富山、岡田粂次郎妹
庶子　鐵三　大二、四生、生母、新潟、伊藤ジュン
君は富山縣人地崎喜太郎の兄にして明治二年十月を以て生れ同三十二年分れて一家を創立す現時地崎組社長たる外前記各會社の重役たり家族は尚庶子智惠（大八、四生、生母、北海道、龜谷イチ）同嘉三（同一一、四生、生母同上）同昭三（昭二、三生、生母同上）あり同晴次（明三〇、一生、生母、埼玉、大森きみ）は分家せり（札幌、南四條西七ノ六）

**地主延之助**　森村組㈱取締役、三重縣在籍
妻　トモノ　明一九、五生、群馬、有賀長言姉
君は三重縣人地主平九郎の長男にして明治三年十月を以て生れ大正三年家督を相續す現に森村組取締役たり父平九郎（嘉永四、九生）及母てい（同六、三生、三重、安田大助六女）は其養子勇三（明四四、六生、兵庫、寒川信三二男）を伴ひ分家し長男アール（同三三、二生）は米國に歸化せり（宇治山田、岩淵町一四九）

**地引武**　野村銀行㈱葺合支店長兼神戶支店長、千葉縣在籍
養母　きく　慶應二、三生、吉田吉五郎二女
妻　フク　明二三、七生、大阪、龜岡淸太郎姉
女　泰子　明四五、四生
君は東京府人戶塚市右衞門の三男にして明治二十年八月を以て生れ先代納三郎の養子となり大正十一年家督を相續す明治四十三年早稻田大學商科を卒業し現時野村銀行葺合支店長兼神戶支店長たりA一八四（兵庫、武庫、精道村三條南垣內三五七電芦屋九一七）
參照＝※森本銀治郎の項

**茅野儀太郎**　慶應義塾大學文學部、日本女子大學校各教授、長野縣在籍
妻　まさ　明一三、五生、大阪、增田宇兵衞二女、日本女大出身
女　多緒子　大二、四生
君は長野縣人茅野猶太郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す同四十一年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業し現時慶應義塾大學文學部日本女子大學校各教授たり大正十三年より二ケ年獨逸に遊學す蕭々と號し評論獨逸文學に關する飜譯等多し妻まさは歌人として知らるA一二二四（東京、芝、三田綱町一電高輪四二六八）

**値賀龍夫**　日本勸業銀行㈱臺北支店長、熊本縣在籍
養父　常雄　安政二、一一生
養母　美津　明元、八生、熊本、士、嘉稅榮七郎三女
妻　ムメ　明一六、九生、養父常雄長女
男　駿一　大三、五生
女　京子　明四一、五生
女　美穗　明四四、五生
君は熊本縣士族杉村大八の二男同鑛夫の兄にして明治十三年九月を以て生れ先代常雄の養子となり昭和四年家督を相續す現時日本勸業銀行臺北支店長たり家族は尚三女瑞枝（大七、一生）あり（臺北、大正町一ノ二〇）
參照＝杉村鑛夫の項

**値賀連**　遼東信託㈱取締役、滿洲自動車、大連取引所信託各㈱監査役、辯護士、長崎縣士族
妻　シカ子　明一六、五生、長崎、江崎榮造養
男　弘　大三、三生
女　君子　明三七、一二生
女　信　大五、六生
君は長崎縣士族値賀亘の長男にして明治五年八月を以て生れ同三十七年家督を相續す東京帝國大學法科大學獨法科の出身にして辯護士を開業し現時前記各會社の重役たり長女慶子（明三六、六生）は京都府人森田昌雄に嫁せり（大連、山縣通五三）

**近岡卯吉**　山形縣會副議長、新庄銀行㈱取締役、山形縣在籍
妻　梅江　明二〇、二生、山形、阿部重龍長女
男　卯一郎　明四一、三生
男　忠三　明四二、一〇生
女　喜代子　明四五、三生
君は山形縣人近岡理三郎の弟にして明治十三年二月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す現に新庄銀行取締役にして推されて山形縣會副議長たり家族は尚三男善次郎（大三、八生）四男六郎（同一一、六生）五女俊子（同一四、六生）五男八郎（昭五、八生）あり二女民子（明三九、九生）は山形縣人原田與治兵衞二男幸吉に嫁せり（山形、最上、新庄町）
參照＝近岡理三郎※岸三郎兵衞の項

**近岡理三郎**　山形縣多額納稅者、新庄銀行㈱取締役、農業、山形縣在籍
妻　トワ　明一二、二生、山形、佐藤與一郎長女
男　忠次郎　明二八、三生
婦　みゆき　明三二、一生、長男忠次郎妻、山形、秋野惇藏二女
君は山形縣人先代理三郎の長男にして明治四年七月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名榮次郎を改め襲名す農業を營み直接國稅六千百七十三圓を納め縣下の多額納稅者にして傍ら前記銀行の重役たり家族は尚孫義一郎（大八、五生、長男忠次郎長男）同秀次郎（同一

二、二生、同三男)同秀輔(同一四、三生、同四男)同敬志朗(同一五、九生、同五男)同昭典(昭四、七生、同六男)あり姉エン(明元、一二生)は山形縣人岸三郎兵衞に妹レイ(同二二、六生)は同縣人佐藤久太郎に嫁し弟卯吉(同一三、二生)同久作(同一五、五生)は各分家せり(山形、最上、金山町)

參照＝岸三郎兵衞、近岡卯吉の項

## 近澤千里

日本晝夜銀行(株)秘書課長　東京府在籍

養祖母　フク　元治元、一生、香川、士、平野尙志長女

養母　ノブ　明九、五生、祖父彌助長女、現戶主

妻　朝　明三二、四生、京都、堀内辰之助三女

男　敏里　大三、一〇生

君は香川縣士族竹内茂の二男にして明治二十六年五月を以て生れ同四十四年近澤ノブの養子となる大正六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し日本晝夜銀行に入り現時秘書課長たり家族は尙長女興子(明二、八生)あり(東京市外西巣鴨町宮仲二一四八九)

## 近澤道元

正五位勳五等、水戶高等學校長　岐阜縣在籍

養父　清次郎　嘉永六、九生、岐阜、近澤作右衞門長男、現戶主

養母　こう　慶應元、一〇生、岐阜、小川治三長女

妻　みつ　明一八、三生、養父清次郎長女

男　進一　明四四、一生

女　敏　明四二、一生

君は岐阜縣人岫片雲の三男にして明治十三年四月を以て生れ後近澤清次郎の養子となる同三十九年東京帝國大學文科大學獨逸文學科を卒業し第八高等學校教授に任じ大正十三年姫路高等學校教授昭和二年文部省督學官に轉じ同六年一月水戶高等學校長に任ぜられ現に其職にあり(水戶市外常磐村水戶高等學校官舍電八五五)

## 近重眞澄

從三位勳二等、理學博士、學術研究會議會員、京都帝國大學名譽教授、高知縣在籍

妻　スエ　明四、九生、東京、士、三宅師律妹

男　久麿　明三〇、一〇生

婦　美香　明三八、一〇生、長男久麿妻、高知、福岡孝顯長女

男　眞民　明三七、三生

君は高知縣士族近重八潮彥の二男にして明治三年九月を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す同二十七年帝國大學理科大學化學科を卒業し大學院に入り第五高等學校教授京都帝國大學理工科大學助教授等に歷任し同三十五年理學博士の學位を受け同三十八年無機化學研究の爲獨英各國に留學し歸朝後京都帝國大學教授に任じ昭和五年免官となり同大學名譽教授の稱號を授けらる現に學術研究會議會員たり家族は尙孫一久(昭二、二生、長男久麿長男)同大典(同三、一一生、同二男)あり長女京子(明三二、九生)は滋賀縣人前川都夫に二女常子(同三五、一生)は大阪府人泉正一に嫁せり(京都、葛野、太秦村)

參照＝※足立收の項

## 近田歲太郎

大三、東京株式取引所取引員　東京府在籍

妻　いち　明二一、八生、東京、近田三郎長女

君は東京府人渡邊增太郎の庶子にして明治十九年一月を以て生れ同四十年先代いちの入夫となり家督を相續す大三と稱し東京株式取引所短期實物取引員たり家族は尙長女和子(昭四、八生)ありA一四八六四B一五二〇(東京、日本橋、兜町六電茅場町五一二)

參照＝※上田辰卯の項

## 近森幸衞

從五位勳六等、香川縣師範學校長　高知縣士族

父　孝馬　安政六、八生、現戶主

繼母　時　慶應三、七生、高知、士、西村佃長女

妻　幸榮　明二三、一生、高知、宇賀定譽二女

君は高知縣士族近森孝馬の長男にして明治十六年十二月を以て生る夙に東京高等師範學校を卒業し長野縣中野中學校沖繩師範學校栃木縣女子師範學校等の教諭に歷任し德島縣女子師範學校德島高等女學校沖繩縣師範學校各校長を經て昭和五年香川縣師範學校長に就任す家族は尙長女和(大六、五生)二女繁(同一一、三生)三女輝(同一五、一二生)あり妹靖(明二三、一二生)は高知縣人中内松太郎に叔母柳枝(同一一、九生)は同縣士族橫田重達に嫁し叔父傳(同六、一生)は絕家片山利八家を再興せり(高松、香川縣師範學校內)

## 近山與五郎

長野商工會議所議員、近山商事(株)取締役社長、妙高溫泉土地、長野電鐵各(株)取締役、旅館犀北館主　長野縣在籍

養母　つな　嘉永三、一〇生、長野、湯本與左衞門長女

妻　まつ　明五、一〇生、養父與貞長女

男　與一郎　明三〇、七生、慶大理財科出身

婦　まさ　明三六、八生、長男與一郎妻、長野、大井信太郎妹

君は長野縣人木內半三郎の三男にして明治二年八月を以て生れ先代與五郎の養子となり同三十三年家督を相續し前名剛を改め襲名す旅館犀北館を經營し傍ら前記會社の重役にして長野商工會議所議員に擧げらる家族は尙孫薗(大一五、四生、長男與一郎長女)同律(昭三、三生、同二女)同歌(同四、五生、同三女)同興士郎(同五、九生、同長男)あり長女とみ(明二六、四生)は長野縣人近山廣二に嫁し二女ふみ(同三二、一一生)同夫隆平(同二七、一〇生、長野、木內本藏二男)は其一女を伴ひ分家せり(長野市南長野縣町五三〇電一五)

## 竹馬隼三郎

神戶商工會議所議員、岡山製織、西村食料品、竹馬商店各(株)社長、太平セメント、合同土地各(株)代表取締役、日本染工(株)取締役、阪神國道自動車(株)監査役、羅紗直輸入商、兵庫縣在籍

妻　ちか　明七、三生、養父利兵衞三女

男　準之助　明三九、一〇生

養子　淸作　明三二、三生、長女はつ夫、富山、吉田圓兵衞弟、竹馬商店(株)常務取締役

女　はつ　明三七、一〇生、養子淸作妻

女　市子　明四三、一生

男　大三郎　明四四、七生

君は兵庫縣人梶原彥三郎の三男にして明治七年一月を以て生れ後竹馬利兵衞の養子となり同四十一年養兄利介方より分れて一家を創立す羅紗直輸入商を營み現に前記各會社の重役を兼ね推されて神戶商工會議所議員たり家族は尙孫正明(昭元、一二生、養子淸作長男)あり(神戶、西須磨池ノ内八電須磨二二一〇)







## 茶谷保三郎

安宅商會(株)常務取締役、ホーン(株)專務取締役、石川縣在籍

母　ひさ　文久二、一二生、祖父彌平長女

妻　つゑ　明二六、二生、北海道、中島牛五郎養子

男　健一　大二、一一生

君は石川縣人茶谷善助の長男にして明治十五年二月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十八年東京高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙二男道夫(大一二、六生)長女外喜(同一四、一〇生)弟順次(明三〇、一生)同妻三千代(同四〇、五生、富山、稻原安榮長女)及其一男弟豐之助(同三八、三生)ありA七八八七(兵庫、武庫、精道村打出針ノ木電芦屋九二八)

## 中院亨

伯爵　舊公卿家

當家は右大臣源師房五世の孫土御門内大臣通親の五男大納言中院通方の後なり夫より二十一世を經て通富に至り明治十七年伯爵を授けらる先代通規は故公爵德大寺實則の弟にして入りて當家を嗣ぎ夙に陸軍に投じ陸軍步兵大尉に陞り日淸役の功に依り功五級を賜ふ君は其次男にして公爵德大寺公弘男爵德大寺則麿男爵高千穗宣麿の從弟にして公爵西園寺公望の甥に當る明治四十四年五月を以て生れ大正十二年家督を相續し襲爵仰付けらる叔父理助(大一二、七生)は大阪府人住友保丸の養子となれり(大阪、天王寺、悲田院町三)

參照＝公爵西園寺公望、公爵德大寺公弘、男爵高千穗宣麿、男爵德大寺則麿※公爵島津忠重※公爵鷹司信輔※侯爵佐竹義春※子爵阿部正一※子爵相良賴綱※男爵住友吉左衞門の項

## 中條菊治郎

昭和銀行(株)船場支店長　滋賀縣在籍

妻　富美　明二七、一二生、大阪、淺井牛次郎長女

男　行雄　大七、四生

女　貞子　大二、五生

女　久子　大四、五生

君は滋賀縣人中條權左衞門の五男にして明治十五年九月を以て生れ同三十五年家督を相續す現時昭和銀行船場支店長たり家族は尙二男良雄(大九、八生)三女光子(同一二、二生)三男敏雄(同一四、二生)四男正雄(昭三、三生)あり弟良之助(明二四、二生)は大阪府人藤岡貞次郎の養子となれり(西宮、產所五八)

參照＝藤岡貞次郎の項

## 中條重三郎

肥料商　愛知縣在籍

妻　かつを　明一八、一二生、岐阜、坂崎宗左衞門二女

男　宗助　明四三、一〇生

君は岐阜縣人中條泰助の長男にして明治十一年五月を以て生れ同三十年家督を相續す肥料商を營む家族は尙三男良次(大八、七生)二女重子(同一〇、一二生)ありA一九五八(名古屋、中、流川町八八電東六〇六)

## 中條瀨兵衞

中條商店(株)代表取締役、醬油釀造問屋業、三重縣在籍

妻　とも　明一八、一二生、三重、小津庶吉妹

君は三重縣人先代瀨兵衞の長男にして明治十四年六月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名沙陀吉を改め襲名す醬油釀造問屋業を營み現に中條商店代表取締役たり弟幸吉(明一九、二生)同妻ひで(同二六、一一生、千葉、山下平兵衞妹)は其子女を伴ひ分家し妹みつ(同二四、三生)は東京府人西宮新七長男增太郎に嫁せり(東京、日本橋、蠣殼町一ノ四電茅場町四三七)

參照＝山下平兵衞※伊坂市右衞門の項

## 中條精一郎

從六位、會計檢查院技術顧問、英國王立建築學會名譽會員、日本建築士會、國民美術協會各會長、曾禰中條建築事務所主、建築士　福島縣士族

妻　ヨシ　明九、一〇生、故宮中顧問官文學博士西村茂樹二女

男　國男　明三四、八生

婦　咲枝　明四二、四生、長男國男妻、石川、倉知誠夫二女

女　ユリ　明三二、二生、閨秀作家

女　壽江　大四、七生

君は舊米澤藩士中條政恒の長男にして明治元年四月を以て生れ同三十三年家督を相續す同三十一年東京帝國大學工科大學建築科を卒業し文部省技師となり同三十六年英國劍橋大學に遊學す同四十一年工學博士曾禰逹藏氏と合同して建築設計事務所(丸の内八重洲ビル)を開始し今日に至る現時會計檢查院技術顧問たる外前記の公職にあり曩に佛國よりレジヨン・ドンヌール勳章を贈らるA二一三〇(東京、本郷、駒込林町二一電小石川二二七八)

參照＝倉知誠夫※神戶寅次郎の項

## 中條利吉

酒類商　東京府在籍

妻　光　明二二、四生、東京、垣見新次郎妹

男　利一　明三六、五生

君は東京府人中條利久の二男にして明治十一年十月を以て生れ後前名忠吉を改め同四十五年家督を相續す酒類商を營む長女仲(明三四、一一生)弟德三郎(同三五、二生)は各分家し繼母もと(同八、七生、埼玉、三百崎傘四郎二女)は前記德三郎の家籍に入れり(東京、麴町、三番町五〇電九段八七五)

## 中鉢美明

不動貯金銀行(株)監査役　東京府士族

養子　不二郎　明二六、一生、長女靜夫、東京、長谷川富士吉二男、醫學博士、慶應義塾大學醫學部小兒科在勤

女　靜　明二七、九生、養子不二郎妻

君は舊仙臺藩士淺井利兵衞の二男にして元治元年二月を以て生れ明治元年同藩士中鉢鐵三郎の養子となり家督を相續す同二十三年法政大學を卒業し同年辯護士となり同二十九年以來東京市會議員に當選する事四回副議長に推さるゝ事四回同三十五年東京市より衆議院議員に當選同三十六年東京市助役に就任せり現時不動貯金銀行監查役たり家族は尙孫正美(大九、一二生、養子不二郎長男)同ふみ(同一二、三生、同長女)同美代(同一四、九生、同二女)あり(東京市外目黑町中目黑九四七電高輪三〇一〇)

## 中馬興丸

正七位勳四等功五級、陸軍一等軍醫、衆議院議員(兵庫縣選出)、中安漁業(株)取締役、阪神競馬倶樂部理事長、尼崎市醫師會長、尼崎中馬病院長、醫師、兵庫縣士族

妻　靜　明一〇、一一生、養父謙吉長女

男　英二　大三、七生

君は兵庫縣人天崎紹印の三男にして明治四年二月を以て生れ先代謙吉の養子となり同四十二年家督を相續す同三十一年東京帝國大學醫科大學を卒業し兵庫縣立姬路病院副院長たりしも次で一年志願兵として日露戰役

に従軍し一等軍醫に任ぜられ凱旋後尼崎中馬病院を設立し一般の診療に従事す大正九年以來衆議院議員に當選する事四回現に立憲民政黨に屬す曩に尼崎魚市場尼崎青物市場各會社長にして又尼崎醫師會長私立尼崎訓育院長等として公共に盡すこと多大なり長女英(明三五、六生)同夫優(同二三、六生、千葉、吉野吉夫弟、醫學博士)は共に分家せり(尼崎、開明通三丁目電六九)

**中馬政次郎**　沖繩縣多額納稅者

男　藤太郎　明四一、四生

君は沖繩縣士族中馬甚兵衞の二男にして明治七年八月を以て生れ同三十三年兄藤太郎の後を承け家督を相續す直接國稅千百二十四圓を納め沖繩縣多額納稅者として知らる長女テル(明三七、一生)は分家し三男政紀(大一三、一二生)は東京府入牧野ムラの養子となれり(那覇、西本町)

**忠田兵造**　朝日新聞社極大阪朝日新聞販賣部長、滋賀縣人在籍

男　幸夫　明四四、二生

女　かず子　大三、七生

君は滋賀縣人忠田芳次郎の長男にして明治十八年六月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十一年神戸高等商業學校を卒業し大阪朝日新聞社に入り同社名古屋支局詰を經て本社に轉じ現に販賣部長の職に在り(兵庫、武庫、大社村越木岩字久出ヶ谷一二)電西宮九六〇)

**長輸治**　大分縣多額納稅者、興產銀行極取締役、日田製材極盛査役、農業　大分縣在籍

父　松之助　安政三、九生

母　カネ　安政五、四生、福岡、佐藤藤次郎妹

妻　ミツヲ　明二〇、七生、福岡、矢野得太郎三女

養子　譲三　明三九、五生、養子清子夫、大分中島久三男

養子　清子　明四一、一二生、養子譲三妻、福岡、江藤米吉孫

君は大分縣人長松之助の長男にして明治十五年六月を以て生れ大正十四年家督を相續す農業を營み傍ら前記各會社の重役たり縣下の多額納稅者にして直接國稅七千七百八十六圓を納む家族は前孫隆夫(昭五、一生、養子譲三長男)あり(大分、日田、高瀬村)

**長世吉**　東京府士族

妻　文子　明二八、七生、東京、神原浩逸二女

君は東京府士族長炎の二男にして現戸主壽吉の弟なり明治十七年二月を以て生る大正三年京都帝國大學法科大學佛法科を卒業し現時貴族院書記官庶務課長にして發れて法制局參事官たり家族は前長女三千子(大一三、七生)あり(東京市外代々幡町代々木初臺五四五電四谷一〇五二)

參照＝長壽吉添男爵大森佳一の項

**長俊一**　從四位勳四等、文部省督學官　山形縣士族

母　とみ　文久二、八生、山形、士、夜交靜齊三女

妻　マキ　明二〇、一生、山形、鈴木吉平長女

男　俊英　大五、二生

君は山形縣士族長清水の長男にして明治十四年十二月を以て生れ大正九年家督を相續す第二高等學校を經て東京帝國大學理科大學化學科を卒業し大學院に入る同四十年廣島高等師範學校教授に任じ同生徒監となり二ヶ年間科學奬勵金を受けて化學染料の研究をなす大正九年横濱高等工業學校教授に轉じ同十年文部省在外研究員として油脂工業研究の爲め英米佛獨各國に留學を命ぜらる昭和二年文部省督學官に任じ今日に至る家族は前二男正俊(大六、八生)三男秀俊(同一〇、一一生)あり(東京市外岩淵町稻付五一九)

**長壽吉**　從四位勳三等、文學博士、九州帝國大學教授、法文學部勤務　東京府士族

母　蝶　嘉永三、八生、福岡、八琴篤兵衞長女

妻　燕　明二〇、三生、法學博士末弘嚴太郎姉

男　行一　明四二、一一生

女　久子　大二、九生

女　文子　大五、一二生

君は東京府士族長炎の長男にして明治十二年八月を以て生れ同三十六年家督を相續し同年十六年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し現時太陽木材會社長にして傍ら東洋コンクリート工業極取締役、靜岡縣士族　安政六、一〇生、靜岡、士、河野藤次郎四女　明二〇、一二生、東京、士、中島行孝養子　大二、九生　大五、一二生

君は靜岡縣士族長唯連の長男にして明治十二年八月を以て生れ同三十六年家督を相續し同年十六年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し現時太陽木材會社長にして傍ら東洋コンクリート工業會社取締役たり家族は前二男敏雄(明四五、一生)四男壽彥(大七、一一生)あり　弟延連(明一四、八生、從四位勳三等、元兵庫縣知事)

**長基連**　從四位、男爵、貴族院議員、第一機罹保險極盜査役、舊金澤藩國老　男　正連　昭三、九生

當家は長谷部信連の後胤長九郎左衞門連龍の後なり連龍前田利家に仕へて能州七尾の城主となる夫より累代金澤藩の國老として三萬三千石を食み先々代成連に至る其男克連明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君其後を享く君實は故男爵本多政以の二男にして男爵本多政樹の弟なり明治二十三年六月を以て生れ選定相續人となり前名恭を改め同三十四年襲爵す大正四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し三井銀行に入り同十四年貴族院議員に舉げられ現に其任に在り公正會に屬す又商記會社の重役たり家族は前二女裕子(大一五、一〇生)二男和連(昭六、一生)あり長女喜美子(同八、三生)は福島縣人富田松彥の養子となれり(東京、麻布、竿町七九電青山四六一〇)

參照＝男爵本多政樹添芙木清次郎添田代義德添田中東の項





は分家し姉とり(同一〇、一一生)は其家籍に入り妹きく(同一六、一〇生)は靜岡縣人渡邊長治に嫁せりA一〇〇八(東京、牛込、市谷加賀町一ノ八電牛込三八九八)

參照＝添男爵村田保定の項

**張忠一**　從五位勳五等、鐵道技師、大臣官房研究所第一科長、山口縣士族　明二二、一二生、東京、士、村山一介二女

男　悌二　明四三、一生

君は山口縣士族張至誠の長男にして明治十四年七月を以て生れ同三十八年家督を相續す同四十一年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し四日市製紙富士製紙各會社に入る同四十五年鐵道院技手となり同技師に進み鐵道技師となり大臣官房研究所第一科長に轉ず曩に同三年歐米各國に出張を命ぜらる家族は前三男敬三(大二、二生)五男玲五郎(同八、八生)長女鈴子(同一〇、一一生)二女百合子(同一三、七生)あり(東京市外井荻町下萩窪三〇)

**調所一郎**　從五位、男爵　東京府華族

母　コシジ　慶應元、五生、故貴族院議員長谷部辰連妹

當家は先々代廣文より家名を揚ぐ廣文は薩鹿兒島藩士にして明治五年開拓使に出使し爾後開拓少判事同權大書記官民事局長兼學務局長札幌農學校長札幌縣令高知鳥取各縣知事元老院議官貴族院議員等に歷任し同三十三年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる先代恒德は其長男にして夙に札幌農學校を卒業し日本鐵道會社に入り保線課長を勤むる事多年其間有となるに及び職を退き父の遺業を繼承して北海道の開墾地を經營し又貴族院議員に當選す君は恒德の長男にして明治四十年十二月を以て生れ大正十三年家督を相續し同十四年襲爵仰付けらる家族は前姉キヨ(明三一、九生)あり叔父武光(明一八、四生)伯父敬輔(元治元、九生)は各其妻子を伴ひ分家し同伯輔(慶應三、五生)同妻ハル(明九、三生、鹿兒島、士、鈴木重彥妹)は其子女を伴ひ叔父廣朝(同九、三生、商船學校出身)同妻フミ(同二〇、一生、東京、士、松下平助長女)は其子女を伴ひ叔父定(同一一、一〇生)同妻松代(同一九、二生、岡山、蜂野安太郎長女)は其子女を伴ひ各分家し姉とく(同一七、一生)は東京府人植木長治に同ふち(同一九、八生)は長崎縣人松尾寛市二男工學士勘六に同綱子(同二二、七生)は東京府人大島義豆弟工學士義胤に伯母いわ(文久二、一生)は農學士荒川重秀に同もりは退役陸軍工兵少佐中山八藏に叔母やす(明六、八生)は三重縣士族鶴原鐵太郎に同くら(同七、二生)は靜岡縣人村上淺吉に嫁せり(東京、芝、三田小山町四電高輪三三〇〇)

參照＝調所武光、鶴原鐵太郎の項

**調所武光**　從五位勳六等、地方技師、京都府土木部長、東京府在籍

妻　豐　明二五、九生、東京、迫田七郎三女、東京府立第三高女出身

男　武夫　大五、六生

君は男爵調所廣文の六男男爵調所一郎の叔父にして明治四十五年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し現時三菱商事會社に勤務す家族は前二男龍哉(昭三、一〇生)あり先代千束(明一八、三生、從四位)は其一子を伴ひ分家し姉さた(同一六、一一生)は青森縣士族山中卯太郎長男千之に嫁せり(神奈川、鎌倉、鎌倉町扇ヶ谷一四二)

參照＝添竹越與三郎添丸瀨寅雄の項

**珍田秀穗**　從五位、伯爵、三菱商事會社員　東京府華族

母　いは　慶應三、一〇生、青森、士、山中千之叔母、正六位

妻　幸　明三四、一〇生、東京、橋本寬妹

男　昌哉　大一五、一〇生

當家は先々代捨已より家名を揚ぐ捨已は舊津輕藩士珍田有孚の長男にして夙に東奧義塾に學び後米國に留學し歸朝後同塾に教鞭を執り同十八年外務省に出仕し交際官試補となり爾來一等領事總領事伯剌西爾國及和蘭國駐劄辨理公使駐露特命全權公使外務省總務長官外務次官獨逸各國駐劄特命全權大使等に歷任し大正七年全權委員として巴里媾和會議に出席し同十年東宮殿下の御外遊に供奉長となり次で東宮大夫に任ぜらるる明治四十年勳功に依り華族に列し男爵を授けられ條約改正の功に依り子爵に陞さる昭和元年十二月皇上御踐祚と共に皇后宮大夫に任じ爾來侍從長樞密顧問官議定官に歷任す先代千束其發

# ツ之部

## 津輕承靖

從五位、男爵
津輕伯爵家分家
明八、七生、伯爵津輕義孝先々代承昭女、皇后宮女官、東京女學館出身

母　理喜子

當家は先々代橘麿の立つる所なり橘麿は故從一位伯爵津輕承昭の二男にして明治二十二年分れて一家をなし特旨を以て華族に列し男爵を授けらる先代行雅子爵細川立興家より入りて其後を享け君に至る君は行雅の長男にして明治四十三年二月を以て生れ同四十五年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尙弟晉忠（大元、一〇生）あり姉富喜子（明四一、一〇生）は侯爵池田宣政に嫁せり（東京、小石川、茗荷谷町六九**電小石川三〇〇七**）

參照＝侯爵池田宣政、伯爵津輕義孝、子爵細川立興※子爵小出英延※子爵米田國臣※子爵南部信俊※子爵毛利高範※男爵佐雙立業※男爵德川義恕の項

## 津輕益男

從四位、子爵
舊陸奧黑石藩

養母　斐　明九、一生、子爵柳澤光治姉
妻　ハマ　明三三、一〇生、青森、津輕薫五女
男　承敏　大九、一二生

當家は津輕越中守信牧の二男十郎左衞門信英の後なり信英宗家より津輕黑石五千石を分與され一家をなし享和元年新田五千石を併せて一萬石となり諸侯に列す夫より九世を經て先々代承敍に至る承敍戊辰の役宗藩と共に函館追討に功あり明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に列す其子類橘を經て君に至る君實は子爵池田仲誠の弟にして明治二十九年十二月を以て生れ同四十四年先代類橘の養子となり襲爵仰付けらる大正三年東京府立農事試驗場に入り園藝を習得す家族は尙二男承捷（大一二、二生）四男承陽（昭三、一二生）養伯母男鶴（慶應二、一〇生）あり養叔母榮（明一三、五生）は子爵加藤泰成に嫁せり（青森、南津輕、黑石町）

參照＝子爵池田仲誠、子爵加藤泰成、子爵柳澤光治※伯爵松平直之※伯爵柳澤保惠※伯爵山田英夫※子爵戸田忠庸の項

## 津輕義孝

從五位、伯爵
舊陸奧弘前藩
明四四、七生、子爵毛利元雄長女
女子學習院出身

妻　久子

當家は藤原秀鄕より出づ秀鄕の曾孫秀榮兄秀衡より津輕の地に封ぜられ津輕を以て姓となし相傳へて光信に至る光信の女關白近衞尙通に納れられ右京大夫政信を擧ぐ政信長じて其後を繼ぎ當家中興の祖たり其孫越中守爲信舊領を恢復し豐臣氏に屬し後德川氏に從ひ四萬七千石を領す後世改めて十萬石となり十一世を經て從一位承昭に至り維新の際官軍に屬し功あり明治十七年伯爵を授けらる先代英麿近衞家より入りて其後を繼ぎ夙にボン、ベルリン諸大學に學び歐洲諸國を歷遊し歸朝後早稻田慶應法政各大學及學習院に教鞭を執り又韓國宮內府書記官李王職事務官宮內省式部官同御用掛等に歷任す君實は男爵德川義恕の二男にして明治四十年十二月を以て生れ大正八年選定に依り先代英麿の家督を相續し襲爵仰付けらる目下生物學研究中なり家族は尙ほ先代英麿妻照子（明二〇、二生、伯爵小笠原長幹妹、學習院女學部出身）あり伯母理喜子（同八、七生）は男爵津輕承靖先代行雅に同妹寬子（同一九、二生）は男爵德川義恕に嫁せり（東京、麻布、市兵衞町二ノ一三**電赤坂一〇五〇**）

參照＝伯爵小笠原長幹、子爵毛利元雄、男爵津輕承靖、男爵德川義恕※侯爵尙裕※伯爵伊達興宗※伯爵乃木元智※伯爵松平賴壽※子爵小笠原忠幸※子爵加藤泰通※子爵中牟田武信※男爵多久龍三郎※男爵德大寺則麿※梅原逸太郎※武富時敏※安田善助の項

## 津久井利行

從四位勳四等、朝鮮總督府檢事、平壤地方法院檢事正、群馬縣在籍
明一五、五生、靜岡、內田周平長女

妻　ひで
男　恒夫　明四一、九生

君は群馬縣人津久井文讓の長男にして明治五年一月を以て生れ同三十一年家督を相續す同年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し檢事に任じ土浦東京浦和各裁判所檢事に歷補し同三十九年衆議院書記官に轉じ庶務課長を命ぜらる同四十三年南米及歐洲へ差遣せられ次で大正三年支那へ出張を命ぜらる歸朝後議事課長となり庶務課長警務課長を兼務し同十年朝鮮總督府檢事に轉じ釜山地方法院馬山支廳檢事海州地方法院公州地方法院各檢事正を經て昭和四年平壤地方法院檢事正となり今日に至る家族は尙三女康子（大九、八生）妹やま（明一七、一生）同たへ（同二七、八生）あり弟省己（同一〇二生）は分家し母よし（嘉永四、五生、群馬、長谷川長七長女）弟端平（同一九、五生）同淳（同二二、七生）妹くめ（同二四、一一生）は共に弟省己の家籍に入り長女はる（同四〇、三生、東京府立第三高女出身）は宮城縣人相原弘に妹てつ（同一二、一生）は群馬縣人青柳文平長男禎太郎に同いく（同一四、二生）は同縣人關口四郎に同はま（同二一、二生）は同縣人關口島一郎長男裕知に嫁せり（平壤、東町檢事正官舍）

## 津雲國利

衆議院議員（東京府選出）
東京府在籍
明二四、五生、長野、兒島保叔母

妻　ゑい

君は東京府人津雲仙太郎の二男にして明治二十六年十月を以て生れ大正十一年兄孝方より分れて一家を創立す夙に安田銀行並に古河銀行に勤務し更に宇都宮市に於て新聞經營に從ふ昭和二年以來東京府より推されて衆議院議員に當選すること二回現に立憲政友會常任幹事たり家族は尙長文濤子（大一三、六生）あり（東京、芝、三田三ノ三〇**電高輪二四九二**）

## 津倉龜作

從七位勳六等、靜岡縣會議員、濱松商工會議所議員、濱松倉庫、濱松合同運送各㊟取締役、遠州銀行濱松貯蓄銀行、帝國製帽各㊟監査役、靜岡縣在籍
明一七、四生、靜岡、山名政三郎長女

妻　せつ

君は靜岡縣人津倉保司の二男にして明治十二年九月を以て生れ先代錄平の養子となり同二十四年家督を相續す現に前記銀行會社の重役にして推されて靜岡縣會議員濱松商工會議所議員たり（濱松、馬込町四三）

## 津下銀太郎

岡山縣多額納稅者、岡山商工會議所常議員、岡山縣在籍
文久二、三生、岡山、三宅定吉二女

養母　槇
妻　德　明一五、三生、養父銀太郎長女
養子　稔　明四四、三生、鳥取、岸本繁春孫



（※印は姻族關係）

君は岡山縣人難波忠次の弟にして明治十三年五月を以て生れ先代銀太郎の養子となり大正五年家督を相續し前名高一を改め襲名す豪商にして縣下の多額納税者に列し直接國税千二百四十圓を納め岡山商工會議所常議員に擧げらる家族は尚甥德彥（大一二、五生、亡妹春野長男）あり（岡山市石關町六一）

### 津下紋太郎
カルピス製造㈱取締役會長、日本工業㈱社長、日本石油㈱專務取締役、鶴見臨港鐵道、日本モスリン各㈱取締役、北樺太石油㈱監査役　東京府在籍

妻　志津　明一一、一一生、東京、櫛部信一妹
男　統一郎　明三六、八生、三井物產會社員
婦　滿壽子　明三九、九生、長男統一郎妻、京都、大澤德太郎三女
女　經子　明四〇、六生、女子學習院出身
男　綱平　明四二、五生
女　總子　明四五、六生、日本女子大附屬高女出身
女　紀子　大三、六生、成城高女在學

君は岡山縣人津下豐次郎の長男にして明治三年四月を以て生れ大正十年家督を相續す明治二十六年同志社を卒業し實業界に入り現時前掲諸會社の重役として知らる家族は尚孫綜一（昭三、三生、長男統一郎長男）あり妹綾（明七、三生）は京都府人伊藤小三郎に嫁し弟瀧太郎（同一三、五生）は岡山縣人秋山三喜造の養子となれりA九四五五（東京、本郷、駒込上富士前町一〇四電小石川二二九七）
參照＝大澤德太郎※大澤善助※大村卓一※前田忠の項

### 津崎襄一
山口縣多額納税者、下關商工會議所常議員、村木商、山口縣在籍

妻　マツ　明一六、一一生、大分、加藤寅一長女
男　諭三郎　明四四、七生
養子　皓　明三三、四生、長女靜子夫、山口小方忠五郎四男
女　靜子　明四〇、一一生、養子皓妻
女　千代子　明四二、一一生
女　セツ子　大二、一一生
女　房子　大五、三生

君は廣島縣士族鈴木彌太郎の孫にして明治七年十月を以て生れ先代卯八の養子となり同三十九年家督を相續す村木商を營み直接國税一千九百六十一圓を納め山口縣多額納税者にして推されて下關商工會議所常議員たり家族は尚五女孝子（大一一、三生）あり（下關、西細江町電七二〇）

### 津崎尚武
從六位勳四等、衆議院議員（鹿兒島縣選出）、海外協會中央會副會長　鹿兒島縣士族

妻　千代　明二六、九生、長野、宮島鎌三郎長女
男　武司　大一二、三生

君は鹿兒島縣士族下村尚綸の三男にして明治十五年五月を以て生れ同三十六年津崎家に入り家督を相續す同四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來長野縣督視同縣更級郡長同縣理事官同縣視學官等に歴任し後官を辭して實業界に轉ず現時海外協會中央會副會長に擧げられ曩に東亞產業株式會社等の重役たりし事あり大正九年以來鄕黨より推されて衆議院議員に當選する事四回現に立憲政友會所屬たり家族は尚二女幾子（大六、一生）あり（東京、芝、三田小山町六電高輪五二五六）

### 津島壽一
從四位勳三等、海外駐劄財務官、英佛駐在米國兼勤、香川縣在籍

妻　綾子　明二五、四生、東京、堀越角次郎妹

君は香川縣人津島正巳の二男にして明治二十一年一月を以て生れ昭和二年兄憲一方より分れて一家を創立す明治四十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し大藏屬となり大正元年文官高等試驗に合格し同三年歐洲各國及支那へ出張を命ぜらる歸朝後副司税官に任じ淀橋税務署長幸橋税務署長を經て專賣局參事補兼大藏書記官大藏大臣祕書官大藏書記官等に歴任し理財局臨時調査課長同國庫課長を命ぜられ大正十二年歐洲各國に出張し同十四年支那關税特別會議に於ける帝國代表者隨員を命ぜらる現時海外駐劄財務官として英佛駐在米國兼勤にして日本銀行監理官たり（東京、麴町、下二番町六二電九段三〇一一）
參照＝堀越角次郎※子爵西尾忠方※堀越勘治※堀越鐵藏の項

### 津島文治
陸奧銀行、金木銀行、津輕鐵道各㈱取締役、青森縣在籍

祖母　イシ　安政四、七生、青森、津島市太郎二女
母　タネ　明六、八生、青森、津島惣五郎長女
妻　れい　明三八、二生、青森、岡崎春次郎六女

君は青森縣人津島源右衞門の三男にして明治三十一年一月を以て生れ大正十二年家督を相續す同年早稻田大學政治經濟學部を卒業し現時前記各銀行會社の重役たり家族は尚長女陽（大一四、三生）弟英治（明三四、一生）同妻タカ（同三八、五生、青森、小島莊三郎二女）及其一子の外同修治（同四二、六生）あり姉とし（同二七、一一生）は青森縣人津島市太郎に妹あい（同三七、一一生）は同縣人津島正雄に同きやう（同三九、一生）は同縣人小館貞一に嫁せりA三八八〇（青森、北津輕、金木町電二六）

### 津田榮太郎
京都瓦斯、織物商業、京都拓殖各㈱取締役、京都工業、京都織物、湖東紡績、振威興農各㈱監査役、柊屋、西陣織物商、京都府在籍

妻　ヤナ　明九、五生、京都、八木伊兵衞五女
男　三郎　明三四、二生
女　光　明三九、一生
女　八重　明四二、一一生
女　艷　明四五、四生

津田家は古くより柊屋と稱し割烹業を營みし京都土着の商家なり君は先代虎吉の長男にして明治四年四月を以て生れ同二十八年家督を相續す先代虎吉に至り組業を廢して西陣織物商を創む君之を繼承し傍ら前記各會社の重役たり家族は尚十男博造（大二、五生）十一男禎三（同四、三生）あり長女アヤ（明二八、七生）は京都府人北川三右衞門二男文次郎に妹シン（同二九、七生）は同府人信江繁太郎に嫁し二女コト（同三二、一一生）は同府人八木テイ養子彌三郎に弟寅之助（同二七、三生）は同府人外村定治郎に各養子となり長男榮一郎（同二六、一一生）二男禮次郎（同三一、七生、商學士）四男四郎（同三五、三生、東京商學士）五男五郎（同三五、一二生、商學士）六男六郎（同三七、二生、東京商學士）は各分家し八男九郎（同四一、一〇生）は亡弟信次郎の死跡を九男十郎（同四四、四生）は同幸三郎の死跡を各相續せりA五三一六（京都、中京、東洞院三條下ル本局二〇八）
參照＝津田三郎、信江繁太郎の項





### 津田勝五郎
津田勝五郎商店、大阪製鐵各㈱社長、鐵商、大阪府在籍

父　宗保　安政二、一生、津田勝五郎商店㈱取締役
母　みち　慶應三、一二生、京都、津田りう私生子
妻　ツルヨ　明二〇、三生、愛媛、小玉彥市二女
男　勝之助　明四四、一〇生
女　慶　大四、一一生

君は愛媛縣人津田宗保の長男にして明治二十年九月を以て生れ大正十年家督を相續し前名與一を改め襲名す鐵商を營み津田勝五郎商店大阪製鐵會社各社長たり家族は尚二男隆造（大二、九生）三男宗三郎（同六、一二生）ありA三七〇〇〇（大阪、西、立賣堀北通六ノ八電新町九〇五）

### 津田毅一
正六位勳五等、新高炭礦、關子嶺興業各㈱代表取締役、房州漁業㈱取締役、臺灣土地開拓㈱監査役、辯護士、千葉縣在籍

妻　てい　明九、四生、養父定右衞門長女
男　萬壽夫　明三四、一一生
男　和夫　明三六、一一生
女　順子　明四〇、一一生
女　八重子　明四二、一生
女　節子　明四三、一生

君は千葉縣人津田健次郎の三男にして明治元年十二月を以て生れ津田定右衞門の養子となり同二十九年養弟和三郎方より分れて一家を創立す同二十三年東京專門學校邦語法律科を卒業し同二十六年判檢事登用試驗に合格し爾來鹿兒島神戶姬路各區裁判所判事臺灣總督府檢察官桃園臺南嘉義各廳長等に歴補す退官後辯護士を開業し傍ら前記諸會社の重役たり曩に臺灣製鹽臺灣漁業各會社長日本硅石耐火煉瓦日本コナミルク各會社取締役に擧げられ又曾て衆議院議員に當選せしことあり家族は尚五男文夫（大二、五生）六男正夫（同五、八生）七男信夫（同七、六生）あり長女百代（明三三、三生）は秋田縣人須田斌一に二女富枝（同三九、九生）は廣島縣人岡本照雄に嫁せり（臺南、大宮町四ノ五〇）

### 津田儀三郎
從五位、營林局事務官、大阪營林局庶務課長、山口縣在籍

妻　トキ　明二〇、一〇生、山口、佐方潔姉
男　恭男　大五、三生

君は山口縣人津田福松の長男にして明治十八年一月を以て生れ同三十一年家督を相續す大正四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來山林事務官青森大林區署林務課長等に歴任し同十三年營林局事務官に任じ熊本營林局林務課長を經て現時大阪營林局庶務課長たり曩に歐米各國に出張す家族は尚三男哲郎（大一一、三生）弟耕助（明二八、八生）同妻菊枝（同三七、五生、青森、山中松太郎長女）及其子女あり（大阪、豐能、豐中町）

### 津田吉之助
日本商工㈱取締役、播淡冷藏㈱監査役、大阪府在籍

妻　ヨネ　明二一、二生、大阪、布井良之助長女、堂島高女出身
男　松苗　明四四、一一生
女　晶子　大三、一二生

君は京都府人菱本傳右衞門の三男にして明治十六年十一月を以て生れ大正二年先代ヨネの入夫となり家督を相續す夙に東京帝國大學を卒業し現に前記各會社の重役たり待柚と號し俳句を能くす家族は尚二女素子（大六、五生）二男早苗（同八、五生）あり（京都市外伏見桃山泰長老電伏見一三五八）
參照＝※島津源吉※布井良太郎※松尾巖の項

### 津田今朝藏
服部時計店㈱取締役、日米自動車、服部貿易各㈱監査役、東京府在籍

妻　スン　慶應三、二生、群馬、山本大太郎妹
女　シケ　明三二、五生、亡養子振二妻

君は東京府人津田角藏の四男にして明治元年九月を以て生れ同三十三年家督を相續す現に前記諸會社の重役たり家族は尚孫登美子（大八、七生、亡養子振二長女）あり（東京、麻布、笄町九四電青山三三二五）

### 津田五一
正五位勳六等、商工技師兼遞信技師、千葉縣士族

妻　美代　明二八、一一生、東京、松村光訓二女
男　宏　昭四、八生

津田家は世々醫を以て佐倉藩に仕へたる家柄なり君は先代長人の三男にして明治十六年五月を以て生る同三十六年東京高等工業學校機械科を卒業し農商務技手となり海外實業練習生として英國に留學す同四十四年歸朝し農商務省囑託農商務技師等を經て大正八年臨時產業調査局囑託となり貴族院議員堀田伯爵の隨員として歐米各地へ出張し機械工業に關する調査に從事す同十四年商工技師に任ぜられ傍ら遞信技師を兼ぬ家族は尚長女百代（大一三、八生）二女百合子（同一四、一二生）三女昭子（昭三、一生）兄信夫（明八、一二生、現戶主、從六位勳六等、東京美術學校教授）同妻きん（同一一、八生、東京、長島ふみ養母）弟岳（同二七、一二生、東京高工出身）同妻香代（同三八、八生、愛知、軍地金吉二女）及其子女あり姉みとり（同一三、一二生）は長崎縣士族淺田不二彥に妹淸（同一九、八生）は宮城縣人手島雄香に同香（同二二、一生）は兵庫縣人彫刻家天岡均一に同粂（同三〇、一生、第一高女出身）は東京府人鈴木淸に嫁せり（東京市外杉並町高圓寺六一九）

### 津田五郎
日比谷銀行、相模紡績各㈱取締役、日比谷商店㈱監査役、福島縣在籍

男　吉太郎　大四、三生

君は福島縣人津田五左衞門の四男にして明治十二年四月を以て生れ昭和二年甥五一郎方より分れて一家を創立す明治三十二年東京高等商業學校を卒業し實業界に入り現時前記銀行會社の重役たり家族は尚二男茂（大八、二生）長女富美（同九、八生）ありA五五〇（東京、芝、高輪南町三〇電高輪一七五三）

### 津田幸二郎
津田電線㈴代表社員、京都府在籍

妻　ミツ　明二三、二生、京都、安原善太郎二女
男　武雄　明四三、六生
女　悠紀子　大四、一一生

君は滋賀縣人土井又右衞門の二男にして明治十五年三月を以て生れ先代幸二郎の養子となり同三十四年家督を相續し前名藤吉を改め襲名す現時津田電線會社代表社員なり家族は尚五女富子（大七、七生）二男幸彥（同九、一一生）三男正彥（同一二、五生）四男又雄（同一四、八生）五男輝彥（昭三、三生）あり長女愛子（明四二、一生）は京都府人工學士稻波季雄に嫁し弟梅吉（同二二、一二生）養子フシ（同二二、七生、東京、鈴木信之助妹）は

各分家せりA一六五〇（京都、東山、問屋町正面上ル電祇園九〇五）
參照＝※森脇祐吉の項

**津田興二**　養蚕家 大分縣在籍
妻　トシ　慶應元、八生、大分、士、簗雅路長女
養子　亥子生　明三三、一一生、二女靜夫、靜岡、大内義生二男
女　靜　明三八、九生、養子亥子生妻
女　喜美　明四一、九生
君は大分縣士族津田耕煙の二男にして嘉永五年九月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す夙に慶應義塾を卒業し時事新報記者三井工業部富岡製絲所長となり後玉川電氣鐵道會社事務取締役に就任し後之を退く家族は尙孫田鶴子（昭二、一生、養子亥子生長女）同耕一（同四、四生、同長男）同志朗（同五、九生、同二男）ありA三一六六（東京、芝、高輪南町五三電高輪七九二）

**津田三郎**　津田㊔代表社員 京都府在籍
父　榮太郎　明四、四生、現戶主
君は京都府人津田榮太郎の三男にして明治三十四年二月を以て生る夙に京都帝國大學經濟學部を卒業し現時津田合資會社代表社員たりA四〇六四（京都、中京、東洞院三條下ル電本局二〇九）
參照＝津田榮太郎の項

**津田靜枝**　正五位勳三等、海軍少將、第二遣外艦隊司令官、東京府士族
君は東京府士族津田左藏の二男にして明治十六年四月を以て生れ同三十二年家督を相續す同三十六年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍少將に累進す其間隅田艦長軍令部出仕兼參謀常磐香取各副長第二艦隊副官支那公使館附武官軍令部副官等に歷補し昭和五年第二遣外艦隊司令官に補せらる妹幸尾（明一八、七生）は石川縣人東海紹隆に姉かをる（同二、一一生）は東京府人淺子巳之助に嫁せり（東京、小石川、原町一六電小石川七六〇七）

**津田修吉**　醫學博士、津田病院長、醫師 東京府在籍
母　みわ　萬延元、三生、東京、辻村淸勝長女
妻　フユ　明一六、一二生、青森、工藤肇吉五女
養子　重雄　明四二、一〇生、兵庫、石田太郎四男
君は富山縣人津田爲次郎の二男にして明治十四年七月を以て生れ同三十四年先代兄亨の後を承け家督を相續す醫師にして津田病院長たり曩に醫學博士の學位を受く（東京、日本橋、濱町二ノ一電浪花四六〇〇）
參照＝石田太郎※熊谷强助の項

**津田信**　從五位勳五等、平壤師範學校長 茨城縣士族
妻　やす　明二〇、四生、手塚直進三女
男　至　明四四、九生
君は茨城縣士族津田珽の長男にして明治十一年十二月を以て生れ大正三年家督を相續す明治三十七年東京高等師範學校本科を卒業し直ちに三重縣師範學校敎諭となり熊本市視學京城中學校敎諭東萊高等普通學校大田公立中學校各校長を經て昭和四年平壤師範學校長に轉じ今日に至る家族は尙三男理（大三、四生）四男稔（同七、七生）五男亨（同一〇、二生）六男誠（同一二、一〇生）七男昭（昭四、一一生）あり妹やす（明二二、八生）及同あき（同三〇、九生）は各他に嫁せり（平壤、平壤師範學校內）
參照＝※小田倉啓※手塚善の項

**津田信吾**　鐘ケ淵紡績㈱社長 愛知縣士族
妻　美子　明二五、五生、岡山、尾高久養子 岡山山陽高女出身
男　守民　大六、一二生
君は愛知縣士族西山芳六の四男にして明治十四年三月を以て生れ先代於菟の養子となり同三十八年家督を相續す同四十年慶應義塾大學政治科を卒業し鐘ケ淵紡績會社に入り淀川支店工場長同社副社長を經て昭和五年社長に就任す（大阪、三島、吹田町千里山三二電吹田二四三）

**津田信太郎**　津田㊔代表社員、地主 東京府在籍
妻　アイ　明二九、一生、東京、端善次郎二女
男　勇　大九、七生　津田㊔出資社員
君は東京府人津田七五郎の長男にして明治二十三年三月を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十五年早稻田大學商科を卒業し現に有價證券賣買業津田合名會社を主宰す曩に神戸有馬電氣鐵道會社日本纖維化工各會社監査役たりしことあり家族は尙長女綾子（大六、八生）弟和男（明三八、九生）あり妹ミワ（同二七、一二生）は東京府人籾山牛三郎に嫁せり（東京、牛込、原町一ノ四〇電牛込九五八）
參照＝籾山牛三郎の項

**津田甚六郎**　京都府多額納稅者、土木建築請負業、京都府在籍
妻　こま　慶應二、九生、滋賀、青山政次良長女
男　泰司　明三二、二生
婦　ヤヱ　明三五、一二生、長男泰司妻、京都、森善治長女
男　五郎　明三七、一一生
男　甚一郎　明四一、一生
君は舊信州高島藩士岩波甚兵衞の男なり甚兵衞維新當時城代家老を勤む君は明治三年十月を以て生れ母方實家廢家に依り同三十一年津田家を創立す土木建築請負業を營み直接國稅二千四百二十三圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫春平（大一四、三生、長男泰司長男）同昭二（昭二、二生、同二男）同甚三（同四、九生同三男）あり（京都、左京、岡崎成勝寺町三電上六三三五）

**津田淸次**　和歌山日報社長 和歌山縣士族
妻　チヨノ　明六、七生、和歌山、富田重枝養母
庶子　淸　明三六、三生、生母、和歌山、鹽路エイ
婦　喜代　明四一、四生、庶子淸妻、新潟、中村武一二女
女　コウ　明二三、六生
君は和歌山縣人山路治之助の兄にして文久二年七月を以て生れ津田阜次郎の養子となり明治二十二年家督を相續す現時和歌山日報社長たり家族は尙孫郁太郎（昭五、二生、庶子淸長男）あり養父阜次郎（安政五、三生）は分家し長女重枝（明二二、六生）は和歌山縣人富田チヨノの養子となり弟治之助（慶應二、九生）同妻クラ（明七、六生、和歌山、森虎吉妹）は其二女を伴ひ絶家根來氏を再興せり（和歌山市小人町一）

（※印は姻族關係）





**津田武**　鹿兒島新聞主筆 鹿兒島縣士族
母　キク　嘉永二、二生、津田遊計三女
妻　タミ　明二三、七生、鹿兒島、鮫島宗賛長女
男　信夫　大五、二生
女　禮子　大三、八生
君は鹿兒島縣士族津田克巳の長男にして明治七年十月を以て生れ同十四年家督を相續す夙に東京法學院を卒業し支那に渡り北京順天時報主筆たりしが現時鹿兒島新聞主筆たり家族は尙二男周夫（大七、七生）三男康夫（同一〇、六生）弟尙志（明一四、一〇生）同妻キク（同二一、三生、伊藤三七長女）及其二男あり姪貞（同四一二生、弟尙志長女）は熊本縣人杉野爲治に嫁せり（鹿兒島市西田町一三八）

**津田常七**　錢屋商會㈱監査役、津田常、吳服商、京都府在籍
繼母　マキ　嘉永六、一一生、京都、市川利兵衞二女
妻　ムメ　明一〇、三生、京都、辻井シツ長女
男　淸太郎　明三四、七生
婦　喜代子　明三九、一一生、長男淸太郎妻、山口、國吉朝彥妹
男　逵三　明三八、八生
男　幸四郎　明四三、五生
女　萬子　大元、九生
君は京都府人先代常七の二男にして明治九年七月を以て生れ同三十年家督を相續し前名淸次郎を改め襲名す津田常と稱し吳服商を營み傍ら前記會社の監査役たり曩に津田常商店若山織工所の重役たりし事あり家族は尙六男儲造（大三、七生）五女種子（同七、二生）六女禮子（同一〇、一〇生）孫和孝（昭二、一一生、長男淸太郎長男）同孝子（同四、八生、同長女）あり長女みね（明三〇、八生）は京都府人吉岡藤作に二女せい（同三三、五生）は大阪府人若山瀧三に嫁し三男喜二郎（同三六、五生）弟松次郎（同二二、二生）は各分家し同甚三郎（同二五、六生）も亦同妻美知子（同三一、七生、京都、井能悟長女）及其一子と共に分家し三女定子（同四一、五生）は京都府人駒田うたに七男英三（大五、一〇生）は分家弟松次郎に養兄千吉（明六、二生、京都、宮本勇太郎弟）は京都府人林田由太郎に各養子となれりA二六〇（京都、下京、東洞院通松原下ル大江町二電下二九〇）
參照＝吉岡藤作の項

**津田徹一**　雲陽實業銀行㈱常任監査役 島根縣士族
妻　ミツ　明一〇、五生、島根、內藤武輔姪
男　元男　明三一、九生
婦　曉　明三三、一二生、長男元男妻、京都、堀川師克六女
男　雪雄　明三四、二生
婦　邦子　明三七、九生、二男雪雄妻、島根、梅原千松長女
君は島根縣士族津田圓兵衞の二男にして明治三年三月を以て生れ同二十七年家督を相續す曾て鄕黨に教鞭を執り夙で島根縣農工銀行山陰道產會社等に書記たりしが後簸川銀行に入り支配人に擧げられしが現時雲陽實業銀行常任監査役たり家族は尙孫美子（大一二、一生、長男元男長女）同龍一（同一五、七生、同長男）同昭雄（昭二、一生、二男雪雄長男）同玲子（同四、二生、同長女）あり長文サチ子（明三九、一生）は島根縣人錦織宗弟亮に二女則子（同四一、一二生）は同縣人原道男に嫁せり（松江、北堀町七）
參照＝錦織宗の項

**津田敏雄**　正五位勳四等、地方技師、大阪府警察部建築課長、愛媛縣在籍
妻　秀代　明二六、一〇生、愛媛、長野駒太郎三女
男　敏之　大五、九生
女　初枝　大元、一〇生
君は愛媛縣人津田信介の長男にして明治十四年三月を以て生れ同三十二年家督を相續す同四十二年東京帝國大學工科大學建築學科を卒業し陸軍技師愛知縣技師等に歷任し大正十二年地方技師となり現時大阪府警察部建築課長たり家族は尙四女綠（大九、四生）五女淑子（同一二、八生）あり（大阪、西、江ノ子島東之町官舍電土佐堀一〇〇七）

**津田八郎兵衞**　地主 京都府在籍
繼母　とく　文久元、一生、京都、瀧本新助長女
妻　幾久　明二五、一〇生、滋賀、伊庭六郎妹
男　太郎　大三、一二生
津田家は古くより京都府下川岡鄕に土着せる地主にして其始祖より十數代を經たる舊家なり君は先代八郎兵衞の長男にして明治十六年十一月を以て生れ同四十五年家督を相續し前名兵治郎を改め襲名す大正二年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し專ら家業に從事し曩に川岡村長に推さるゝ事數回に及ぶ家族は尙二男直次（大五、三生）長女美智子（同九、七生）二女智惠子（同一四、八生）あり姉ひさえ（明八、二生）は京都府人長東善兵衞に妹ツヤ（同二一、九生）は同府人宮本儀助に同てい（同三五、九生、京都市立高女出身）は廣島縣人高田藤吉長男賢治郎に嫁し弟秀三郎（同一八、一一生）は外戚瀧本家を相續し同三郎（同二五、一生、東京農大出身）は京都府人山口玄洞の養子となり同善作（同二六、九生）は同府人矢代喜美の入夫となり仁兵衞と改名せりA九一四（京都、葛野、川岡村電桂一六）
參照＝伊庭六郎、宮本儀助、八代仁兵衞、山口三郎※瓜生泰の項

**津田秀榮**　住友㈾人事部勞働課長 石川縣士族
妻　公子　明三三、八生、石川、松村諦成三女
男　淳一　昭二、八生
君は石川縣人稻坂謙吉の二男にして明治二十六年二月を以て生れ先代利勢の養子となり同二十七年家督を相續す現時住友合資會社人事部勞働課長たり家族は尙長女直子（大一二、三生）二女信子（昭四、八生）あり（大阪、南河內、高鷲村二一五ノ七電川邊一七）
參照＝松村諦成の項

**津田弘視**　勳六等、大正運輸、日本樟腦各㈱取締役、三井物產㈱神戸支店長 岡山縣在籍
妻　榮　明一八、一二生、東京、跡見花蹊姪
男　弘孝　明三九、九生、東大出身法學士、大阪鐵道局勤務
婦　君子　明四四、一生、長男弘孝妻、東京菊池循一三女
男　弘精　明四〇、一二生、東京商大本科在學
男　弘人　明四三、四生、第一高校在學
君は備前藩士津田弘道の三男なり父弘道明治四年備前藩より海外視察を命ぜられ歸朝後明治六年二月岡山に

（※印は姻族關係）

て生れ大正二年六月兄弘仲方より分れて一家を創立す明治廿七年七月東京高等商業學校を卒業し直に三井物產株式會社に入り爾來在勤三十有餘年主として海外發展の爲めに盡し同本店橫濱新嘉坡桑港上海各支店勤務を經其間普く南米歐洲各地を視察し新嘉坡在勤時代日露戰役中社員として菜方面に活動し功により勳六等に敍せらる大正七年七月香港支店長となり同十二年七月神戸支店長に轉じ今日に至る傍ら前掲會社取締役にして如水會及ロータリー倶樂部會員たり家族は倚四男弘文(明四五、七生、水戸高校在學)五男弘行(大四、二生)六男弘英(同八、五生)ありA五五一六(神戸、下山手通五ノ八六**電元町六〇八**東京市外戸塚町九三一**電牛込三一三二**)

參照＝菊池衛一※男爵富岡定俊の項

**津田弘道**　従三位勳四等、男爵　東京府華族

男　道明　明三三、六生、従五位
男　弘　明三九、五生
庶子　正代　大二、二生、生母、東京、伊東津奈
庶子　道代　大三、一〇生、生母、東京、伊東津奈
庶子　喜美代　大五、八生、生母、東京、伊東津奈

當家は先代眞道より顯る眞道は舊作州津山藩士にして夙に江戸に出で蘭學を修め元治元年和蘭に航し法政の學を修め歸朝後幕府に徵され開成所教授職となる維新後刑法官判事元老院議官に歷任し議會開設と共に衆議院議員に當選し其副議長に擧げらる後貴族院議員に列し明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は眞道の長男にして明治三年五月を以て生れ同三十六年襲爵し前名卓二を改む獨逸協會學校を卒業し同二十一年獨逸に留學し歸朝後東宮御所御造營局御用掛仰付けらる後辭して津田工業所を開き同四十四年貴族院議員に當選す二男道治(明三六、二生)弟和成(同七、一一生)は各分家し同道平(同一一、一生)も亦其一子を伴ひ分家せり(東京、牛込、早稻田鶴卷町二二三西谷眞一方)

**津田孫右衛門**　博多商工會議所議員、博多魚市場(株)代表取締役、博多トロール(株)取締役、和白屋、諸物品問屋業　福岡縣在籍

妻　キク　明四、三生、福岡、久保十郎姉
養子　敬三　明二三、一二生、長女トク夫、福岡、磯野正助三男
女　トク　明二六、八生、養子敬三妻
女　藤枝　明四五、七生

君は福岡縣人先代孫右衛門の長男にして元治元年一月を以て生れ明治三十二年家督を相續し前名虎吉を改め襲名す和白屋と稱し諸物品問屋業を營み傍ら前記會社の重役にして推されて博多商工會議所議員たり家族は倚孫虎雄(大九、三生、養子敬三二男)同カツ子(同一三、二生、同長女)同敬輔(同一五、六生、同三男)あり弟延次郎(慶應三、六生)同妻エイ(明四、八生、福岡、森長三郎二女)は其子女を伴ひ分家し妹マサ(同一一、二生)は福岡縣人恒谷久次郎二男源太郎に同キク(同一八、五生)は同縣人西里繁吉に嫁せりA一二五七B三二三(福岡市博多上綿町二二)

**津田正一**(マサカズ)　佐賀百六銀行(株)常務取締役　和歌山縣在籍

父　俊二　安政三、七生
妻　俊子　明二五、四生、和歌山、夏目勝之進長女、和歌山高女出身

君は和歌山縣人津田俊二の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正十一年家督を相續す現時佐賀百六銀行常務取締役にして曩に住友銀行上町及立賣堀各支店支配人たり家族は倚弟譲二(明二六、八生)同妻美代(同三三、八生、和歌山、西郷文三郎四女)及其一女あり(佐賀市水ヶ江町**電二一九**)

**津田松助**　津田松商店(株)社長、白藤商店(資)代表社員、石炭並清罐劑販賣業　大阪府在籍

養母　コキク　安政五、八生、奈良、朝川與平長女
妻　ツネ　明一四、五生、奈良、朝川常治郎姪
養子　幸雄　明二九、二生、奈良、藤本幸治郎四男、畝傍中學校出身
婦　千代子　明三七、五生、養子幸雄妻、奈良西本安太郎妹、奈良女高師附屬高女出身
養子　靜子　明四五、三生、奈良、士、田島ノブエ長女、樟蔭高女出身同校專門學校在學

君は奈良縣人藤本幸次郎の弟にして明治七年七月を以て生れ先代松助の養子となり同三十八年家督を相續し前名熊吉を改め襲名す石炭並清罐劑販賣業を營み津田松商店社長にして傍ら前記會社の重役たり家族は倚男郊治(昭二、一一生)女芽子(大一四、六生)孫司郎(昭二、八生、養子幸雄長男)同節子(同五、三生、同長女)ありA四八三〇(大阪、港、九條中通四ノ四二一**電西四〇四五**)

**津田美津彦**　従五位勳五等、北海道廳技師、水產試驗場根室支場長、福岡縣在籍

妻　チヨ　明一七、八生、山口、士、山根修三姪
男　裕　明四三、二生

君は福岡縣士族津田庄三郎の長男にして明治五年十二月を以て生れ同三十九年家督を相續す夙に水產講習所を卒業し山口香川愛媛福岡各縣水產試驗場技手廣島縣水產技師等を經て北海道廳技師に任じ現時同廳水產試驗場根室支場長たり家族は倚二男英雄(大二、五生)四男直彥(同一一、四生)弟秀夫(明一二、三生)同妻幸(同二三、九生、福岡、士、岩村章三三女)及其子女あり長女美(同四〇、八生)は東京府人石部サダ二男敏雄に嫁せり(北海道、根室、根室町)

**津田元德**　従四位勳四等、關東廳博物館長　鳥取縣士族

妻　ゆき　明一三、三生、養父元三女
男　元顯　明三三、一生
男　元經　明三五、九生
女　富美子　明四一、一一生

君は鳥取縣人三村重次郎の長男にして明治三年十二月を以て生れ後舊鳥取藩家老津田元の養子となり同三十一年家督を相續し前名德藏を改む同二十七年高等師範學校文學科を卒業し鳥取縣尋常師範學校教諭に任じ尋で愛媛山梨各縣師範學校教諭山形縣女子師範學校山形縣立山形女學校福島縣師範學校長崎縣師範學校各校長旅順師範學堂長等に歷任し昭和六年前記現職に轉ず(旅順、高崎町一四)

**津田祐三郎**　京都府多額納稅者、金時、吳服商　京都府在籍

男　吉三郎　明三四、四生
男　祐太郎　明三二、一〇生
婦　初子　明三五、一生、長男祐太郎妻、京都、河合德太郎長女





女　福　明三五、五生
男　善之祐　明四二、五生

君は京都府人津田多助の二男にして明治三年一月を以て生れ同十年分れて一家を創立す金時と稱し吳服商を營み京都府多額納稅者にして直接國稅千九百五十二圓を納む家族は倚孫三代子(大一〇、六生、長男祐太郎長女)同美知子(同一二、一二生、同二女)同敏子(同一四、一二生、同三女)あり長女米(明三一、一生)は京都府人津田アサの養子となり三女秀(同三九、一生)は同府人田畑菊治郎に嫁せり(京都、下京、四條寺町西入ル奈良物町三七一**電中二一七五**)

**津野喜七**　福島縣多額納稅者、郡山市參事會員、土地賃貸業、福島縣在籍

妻　キヨ　明三五、六生、養父嘉兵衛八女
男　和夫　昭三、四生

君は佐賀縣人無津呂牛兵衛の二男にして津野子之吉の再從弟に當る明治二十九年二月を以て生れ先代キヨの入夫となり大正十三年家督を相續し前名牛三を改む同十二年東京帝國大學農學部を卒業し土地賃貸業を營み縣下の多額納稅者にして郡山市參事會員に擧げらる妻姉トメ(明二九、七生)は佐賀縣人松永琢磨に嫁せり(郡山、大町八)

參照＝津野子之吉、松永琢磨の項

**津野慶太郎**(正　健)　従三位勳二等、獸醫學博士、東京帝國大學名譽教授、東京府士族

妻　ツネヨ　明一四、一二生、福岡、士、伊藤文雄姉
女　梅子　大四、二生

君は福岡縣士族津野伊平次の長男にして文久三年六月を以て生れ明治十二年家督を相續す同十九年東京農林學校獸醫科を卒業し東京農林學校助教授同教授東京帝國大學農科大學助教授に歷任し同三十四年家畜藥物學及衛生學並獸醫行政警察學研究の爲歐米に留學を命ぜられ歸朝後同大學教授に進み大正三年帝國代表として萬國獸醫學會に派遣せらる同十四年三月停年制に基き退職し現時東京帝國大學名譽教授たり明治二十七年セントルイス全米獸醫學大會に列席し米國獸醫學會名譽會員に推薦せられ同三十八年獸醫學博士の學位を受く家族は倚五女道子(大八、一生)六女繁子(同一三、八生)あり(東京市外駒澤町上馬七七二**電世田谷一一五四**)

**津野子之吉**　津野吳服店(資)、津野百貨店(株)各代表社員、福島縣在籍

妻　ツネ　明二〇、一一生、從兄嘉兵衛二女
男　周吉　大六、八生
女　ミヨ　明四五、一生
女　ユキ　大二、一二生
女　トシ　大四、一生

當家の祖は舊くより新潟縣下に住し代々醫を業とせし家柄なり祖父政壽の代に至り郡山市に來り祖業を廢し商に志し父留吉亦商才に長じその兄喜七を扶けて吳服商を營み傍ら土地賣買を爲し次第に產を興し當家今日の基礎を爲すに至る君は留吉の二男にして本家喜七の再從兄に當る明治九年一月を以て生れ先代ツネの入夫となり同三十八年家督を相續す吳服商を營み津野吳服店津野百貨店各代表社員たり家族は倚九女靜子(大一三、一生)三男喜三次(同一五、一生)四男建男(昭三、二生)あり長女ミネ(明三九、三生)は兵庫縣人長谷川佳平に嫁せり(郡山、咲田町一七五)

參照＝津野喜七、長谷川佳平※松永琢磨の項

**津原武**　勳四等、衆議院議員(京都府選出)加悅鐵道(株)社長、宮津銀行(株)監査役、丹後縮緬同業組合長、辯護士　京都府士族

妻　トク　明二〇、四生、京都、松下與三郎妹

君は鳥取縣士族小林紫の三男にして明治元年十月を以て生れ先代官行の養子となり同十六年家督を相續す夙に關西大學及法政大學を卒業し同二十五年辯護士を開業し曾て京都府會議員同參事會員京都地方裁判所々屬辯護士會副會長西山機業橋北汽船宮津共榮各會社監査役たりしことあり衆議院議員に當選すること三回に及び現に其任に在り又前記諸會社及組合の重鎭たり(京都、與謝、宮津町**電二**)

參照＝※遠藤金市の項

**津布久秋三郎**　安田銀行(株)統轄店　東京府在籍

妻　鉎　明二五、一生、東京、關根庫太長女
男　收　明四五、七生

君は富山縣人原弘三の四男にして武井羽二郎の弟なり明治二十年十二月を以て生れ同四十二年先代鉎の入夫となり家督を相續す現に安田銀行統轄店を主宰し曩に同行札幌根室各支店長たり家族は倚二男群三(大二、八生)四男弘(同六、五生)長女いよ子(同一三、一生)あり(東京、本郷、千駄木町五五)

參照＝武井羽二郎の項

**津曲貞助**　鹿兒島縣多額納稅者、鹿兒島市參事會員、鹿兒島縣在籍

妻　ヨシ　明二一、七生、鹿兒島、林伊兵衛妹
男　貞男　大四、一生
女　ノリ子　明四三、二生
女　アヤ子　明四四、四生
女　秀子　大二、二生

君は鹿兒島縣人先代傳太郎の長男にして明治十二年四月を以て生れ大正三年家督を相續す先是明治四十三年日本大學を卒業し縣下の豪商にして同縣多額納稅者に列し推されて鹿兒島市參事會員たり家族は倚二男貞信(大六、一生)三男貞春(同八、一〇生)四女業子(同一五、三生)あり母ヶサギク(安政三、九生、鹿兒島、小野仲次郎長女)は弟次兵衛(明二一、一生)を伴ひ分家し同貞吉(同二四、一〇生)同清藏(同二七、七生)も亦各分家せり(鹿兒島市加治屋町三二)

**津村岩吉**　東亞公司(株)取締役、東京計量器製作所、江東製藥各(株)監査役、津村敬天堂、ヘルプ本舖、賣藥業　東京府在籍

男　義男　明三四、一〇生
婦　益子　明四〇、三生、長男義男妻、東京、増田和雄妹
女　操　大二、一一生
女　綾　大五、二生

君は奈良縣人山田安民の弟にして明治九年十二月を以て生れ後ち實兄津村重舍の家籍に入り同四十五年分れて一家を創立す賣藥業を營み津村敬天堂と稱しヘルプ本舖として知られ傍前記諸會社の重役たり家族は倚二男愼(大七、一〇生)あり三女清(明三八、一一生)は奈良縣人三浦猪太郎長男友之介に嫁し長女仁子(同三二、九生)は實兄津村重舍の養子となれり(東京市外西巢鴨町池袋蠻ヶ窪七三三**電大塚七一一**)

參照＝津村重舍、山田安民※風間八左衛門※西澤善

七※日比谷一郎※平塚嘉右衞門の項

## 津村紀陵
和歌山縣多額納稅者、紀南索道(株)取締役會長、野上輕便鐵道(株)社長、秋津水電(株)代表取締役、井上商店周參水力電氣各(株)取締役、京阪電氣鐵道、幸福無盡各(株)監査役、農業、和歌山縣在籍

繼母　はな　安政元、一生、和歌山、岡本勇次郎叔母
妻　タミ　明五、七生、和歌山、福井吉左衞門二女
男　重紀　明三六、八生、法學士
婦　華子　明四〇、一一生、長男重紀妻、和歌山、木村平右衞門三女

君は和歌山縣人津村重兵衞の長男にして文久三年二月を以て生れ後前名光三郎を改め明治三十七年家督を相續す農業を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅四千七百五十七圓を納め縣下の多額納稅者に列す曩に貴族院議員和歌山商業會議所議員たり家族は尙孫重熈(昭三、一一生、長男重紀長男)あり弟重之(明三〇、七生)は分家せり(和歌山、那賀、山崎村)
參照=木村平右衞門の項

## 津村吉兵衞
津村商事(資)社員　神奈川縣在籍

養母　やさ　慶應二、一一生、東京、岡田彌兵衞二女
妻　マス　明八、一一生、養父吉兵衞長女
男　重治　明四三、二生

君は神奈川縣人鈴木太重郎の二男にして明治十五年十一月を以て生れ先代吉兵衞の養子となり大正十四年家督を相續し前名公隆を改め襲名す現時津村商事會社々員たり家族は尙二男孝平(大二、七生)三男義夫(同六、一二生)あり織子チヱ(明二九、一二生)同夫儀平(同二七、九生、神奈川、伊藤壽三郎甥)は其子女を伴ひ分家せりA三六一四(橫濱、神奈川、淺間町二二電長者町五八八二)

## 津村源十郎
井榮商事(株)代表取締役、金融業　兵庫縣在籍

妻　むら　明五、二生、兵庫、富美鹿之助姉
孫　泰三郎　大一〇、一〇生、離緣養子喜八長男

君は兵庫縣人津村又市の二男にして慶應三年六月を以て生れ明治二十七年兄岩三郎方より分れて一家を創立す金融業を營み傍ら井榮商事會社代表取締役たり家族は尙孫明戍(大一三、一生、離緣養子喜八二男)同壽子(同一五、一一生、同二女)ありA二一一五B三五五(神戶、熊野町三ノ八六電湊川四七六〇)

## 津村重舍
貴族院議員、東京府多額納稅者、第一製藥、江東製藥、東亞公司、東京計量器製作所各(株)社長、銚子醬油、日本寶藥、八王子瓦斯各(株)取締役、東京府農工銀行、上海油脂工業各(株)監査役、日本廣告俱樂部理事長、津村順天堂、中將湯本舖、寶藥化粧品商、東京府在籍

妻　じやう　明九、八生、養父磯次郎長女
男　基太郎　明四一、九生
女　節子　大二、八生
女　豐子　大三、九生

君は奈良縣人山田安次郎の二男にして同安民の弟津村岩吉の兄なり明治四年七月を以て生れ後津村磯次郎の養子となり同二十九年分れて一家を創立す夙に上京して賣藥並に化粧品商を創め津村順天堂と稱し中將湯本舖として廣く世に知らる現時前記銀行諸會社の重役にして直接國稅五萬九千餘圓を納め東京府多額納稅者に列し貴族院議員に互選せられ研究會に屬す明治三十二年より大正十五年迄東京市會議員同區會議員市參事會員等の名譽職に擧げられ大正十一年紺綬褒賞を授けらる同十二年歐米各國を漫遊す家族は尙四男幸男(大五、八生)あり養子仁子(明三二、九生、弟岩吉長女)同夫良平(同二二、八生、神奈川、二見福右衞門二男)は其子女を伴ひ分家し三男重孝(同四四、七生)も亦分家し二女英子(同三九、七生)は京都府人貴族院議員風間八左衞門長男嘉雄に三女貞子(同四三、七生)は東京府人日比谷一郎に養子キミ(同二七、八生、東京、堀津長右衞門長女)は同府人西澤善七長男善三郎に嫁せり(東京、日本橋、通三ノ八電日本橋六二「別宅」市外日黑町上目黑五〇五電靑山一七七)
參照=風間八左衞門、津村岩吉、西澤善七、日比谷一郎、山田安民の項

## 津村秀松
從四位勳四等、法學博士、大阪鐵工所(株)會長、日本汽船(株)專務取締役、長周銀行、昭和商事各(株)常務取締役、日本產業、向島船渠各(株)取締役、日高銀行、久原用地部、海洋社各(株)監査役、臨時產業合理局造船業改善委員會委員　兵庫縣在籍

妻　久子　明一九、三生、大阪、小山恒男姉
男　秀夫　明四〇、八生
男　信夫　明四二、一一生

君は和歌山縣人津村英三郎の弟にして明治九年六月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治三十二年東京高等商業學校專攻部を卒業し獨米各國に留學歸朝後神戶高等商業學校教授に任ぜられ大正四年法學博士の學位を受く同七年職を辭し久原本店に入り理事に擧げらる現時前記諸會社の重役にして又神戶商業大學講師及大阪大倉商業學校理事たり長女道子(明三八、一一生)は大阪府人增本甲吉に嫁せり(神戶、籠池通七ノ一〇電葺合五二二五)
參照=小山恒男の項

## 津村昌志
從五位勳五等、帝室林野局技師、東京支局長、福岡縣士族

妻　フク　明二三、一二生、神奈川、士、角田武德三女
男　信　明四三、一〇生

君は福岡縣士族津村耕造の長男にして明治十四年四月を以て生れ同四十年家督を相續す同四十一年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し帝室林野管理局技手同技師を經て帝室林野局技師に任じ同名古屋支局長を經て大正十四年東京支局長に轉じ現在に至る曩に歐米各國に出張す家族は尙二男昌幸(大二、一二生)三男利男(同六、一生)長女和代(同八、一〇生)四男淸(同一一、九生)二女京(同一五、九生)三女洋子(昭四、七生)弟俊一(明三〇、一生)同妻琴(同三六、六生、愛知、鈴木傘松養子)及其二女あり姉テル(同一二、二生)は佐賀縣士族江口康一郎に妹ヤヱノ(同二一、六生)は長崎縣人三池長藏に嫁せり(東京市外澁谷町羽澤五九電靑山三六三八)

## 津守英五郎
東洋無線電信電話(株)代表取締役、吉村商會(株)專務取締役、明治電機(株)取締役、東京府在籍

妻　八重　明三一、八生、東京、石黑慶三郎長女、吉村商會(株)取締役
男　一郎　大六、一〇生

君は和歌山縣人津守小三郎の五男にして明治二十四年五月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す明治四十五年東京高等工業學校電氣科を卒業し現時東洋無線電信電話會社代表取締役吉村商會專務取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙三男寬(大一五、一生)長女小枝子(昭三、三生)妹千代(明三〇、五生)あり(東京、芝、西應寺町五三電靑山三〇六二)





## 津守豐治
東京電氣(株)總務部長、日本放送協會關東支部理事、東京府在籍

妻　晴子　明二五、三生、東京、熊谷儀七妹
男　元太　大三、四生
女　明子　明四三、一〇生
女　お縫　大五、一二生

君は愛媛縣人津守虎太郎の二男にして明治十六年十一月を以て生れ大正七年兄觀三方より分れて一家を創立す現時東京電氣會社總務部長にして日本放送協會關東支部理事を兼ぬA一九〇一(東京市外大井町元芝八八八電高輪六六四九)

## 津守通秀
從五位、男爵　舊社家

養父　國榮　明一五、八生、伯爵淸閑寺經房弟　從四位勳六等
養母　靜子　明一八、一一生、侯爵久我常通妹
妻　千榮子　明四〇、一〇生、養父國榮長女、樟蔭高女出身

當家は天火明命の後胤千捷足尼の子豐吾田の後なり豐吾田津守と稱す夫より七十一世を經て世々住吉神社の神職として先々代國美に至り明治四年華族に列し同十七年男爵を授けられ先代國榮を經て君に至る君實は侯爵久我常通の男にして子爵池尻基房の養甥に當る明治四十年九月を以て生れ先代國榮の養子となり大正十五年襲爵仰付けらる家族は尙長女艷子(昭二、一〇生)二女英美子(同四、七生)養伯母覺子(萬延元、一一生)あり(宇治山田、宮後町)
參照=侯爵久我常通、伯爵淸閑寺經房、子爵池尻基房※伯爵園基久※伯爵鷲尾隆信※子爵松浦靖※男爵久我通保※有馬市藏※五十嵐佐市の項

## 津屋幸右衞門
正五位勳五等、檢査官、會計檢査院第一部第二課長、岐阜縣在籍

男　旭　大三、五生
女　昌子　大五、七生

君は岐阜縣人津屋國吉の二男にして明治十九年五月を以て生れ大正元年文官高等試驗に合格し直に會計檢査院に奉職し書記副檢査官會計檢査院書記官檢査官等に歷任し第三部第四課長を經て昭和三年第一部第二課長となり今日に至る家族は尙三男寬(大一〇、二生)四男昇(同一二、八生)あり兄增吉(明一三、一一生、現戶主)あり姉木上宗泰(同一六、二生)は岐阜縣岩松院に住し妹ちか(同二四、五生)は愛知縣人明治製菓會社取締役水野恭平に嫁せり(東京市外瀧野川町中里三二五電小石川五〇〇六)

## 津山英吉
橫濱正金銀行(株)取締役兼東京支店支配人丸ノ內出張所主任　東京府在籍

母　りゑ　弘化三、五生、和歌山、津山俊吉祖母
妻　マサコ　明二六、二生、東京、江木善一姉
男　英夫　大五、一一生
女　和歌江　明四四、一二生
女　淑子　大二、二生
女　ヒロ　大四、一生

君は和歌山縣人津山仙三郎の四男にして明治十年七月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十五年慶應義塾理財科を卒業し同年橫濱正金銀行に入り大正九年同行總務課長同十年歐米課長となり現時同行取締役にして東京支店支配人丸ノ內出張所主任を兼ぬ家族は尙二男正夫(大七、三生)ありA一七五四(東京市外品川町北品川宿三二三電高輪五三六六)

## 津山三郎
正五位勳五等、廣島高等師範學校教授、附屬中學校主事　廣島縣在籍

妻　キミ　明一九、一〇生、廣島、津山新七長女
男　尙　明四三、一一生
女　文　大三、六生

君は鳥取縣士族橫山貴勉の二男にして明治十六年三月を以て生れ同四十三年先代キミの入夫となり家督を相續す同三十九年廣島高等師範學校本科數物化學部を卒業し同校助敎諭となり後同助敎授兼敎諭に任じ大正三年同校敎授となる迄で英米兩國に留學し現時同校敎授として數學を敎授し傍ら附屬中學校主事たり家族は尙二男滋(明四五、一生)あり(廣島市高等師範學校附屬中學校內電一五〇一)

## 津和儀平
大阪府多額納稅者、津和洋行(株)取締役、洋傘商、大阪府在籍

妻　サキ　明二、七生、奈良、猶谷常吉長女

君は大阪府人先代儀平の長男にして安政四年八月を以て生れ明治三年家督を相續し後退隱し昭和四年長男儀市方より分れて一家を創立す洋傘商を營み前記會社の重役にして大阪府多額納稅者たり三男武雄(明三〇、一〇生)は外戚猶谷アイの相續人となれり(大阪、東、橫堀町四ノ四一電本町二三三五)

## 津和九右衞門
大阪府多額納稅者、津和(名)代表社員、家主、大阪府在籍

養母　イト　安政二、一生、大阪、禰宜吉兵衞二女
妻　シゲノ　明三一、九生、大阪、島田正晴姉
男　政信　大九、一一生

君は大阪府人津和丑松の二男にして同庄左衞門の叔父なり明治二十四年六月を以て生れ先代九右衞門の養子となり大正十四年家督を相續し前名藤三郎を改む家主にして現時前記會社を主宰し大阪府多額納稅者たり家族は尙二男正博(昭四、二生)あり養姉ナツ(明二二、七生、大阪、關藏之助三女)は同夫淺治郎(同一五、一二生、大阪、橋本岩吉二男)と共に分家せり(大阪、浪速、元町二ノ二七五電戎一〇八三)
參照=※吉本彥太郎の項

## 都河龍
婦女界社長兼主幹　東京府在籍

妻　ミチ　明一二、一生、東京、伏見景政妹
男　辰夫　明三七、九生
婦　素子　明四〇、一生、長男辰夫妻、竹內甚平長女
女　德子　明四二、一二生、三輪田高女出身
男　吉夫　明四四、六生

君は廣島縣人都河大亮の二男にして明治十三年六月を以て生れ大正十二年家督を相續す夙に婦人の友記者となり後婦女界社を興し雜誌婦女界を發行す家族は尙三男輝雄(大二、九生)四男敏郎(同四、七生)三女ひろ(同七、二生)四女ふき子(同九、七生)孫マリ子(昭三、三生、長男辰夫長女)同巳知雄(同四、九生、同長男)あり長女冨子(明四〇、一二生、三輪田高女出身)は廣島縣人多田利助長男利男に嫁せり(東京、麴町、三番町二四電九段二〇二三)

## 都志太郎
岡山縣多額納稅者、第一合同銀行、日本蓮業、姬路倉庫各(株)取締役　岡山縣在籍

男　基一　明三三、六生
婦　米子　明四〇、六生、長男基一妻、男爵土倉光三郎長女
男　悌二　明四一、四生

君は岡山縣人都志一郎の長男にして元治元年九月を以て生れ明治二十八年家督を相續す夙に慶應義塾及同人社に學び現時前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千七十圓を納む家族は尙ほ孫のな(昭四、六生、長男基一長女)あり長女久(明二九、一〇生)は岡山縣人伊原木彌平に三女糸(同三五、一一生)は同縣人安藤博に庶子さく(同二五、一〇生、生母、岡山、長沼眞)は廣島縣人片山泰吉に嫁し同申吉(同二九、三生、生母同上)は分家し同育二(同三一、八生、生母同上)同長(同三九、三生、生母同上)は共に其家籍に入れり(岡山市門田屋敷一二七)
參照＝男爵土倉光三郎の項

## 都志兵太
大阪府多額納稅者、高津土地建物(株)取締役、あわじや、毛布肩掛商　大阪府在籍

妻　ツキ　文久二、一生、兵庫、丸一香吉二女
男　英雄　明四二、三生
養子　淸之　明一七、一一生、織子タネ夫、兵庫、西川佐十郎弟
織子　タネ　明一八、一生、養子淸之妻
養子　榮　明二六、八生、四女ゆきゑ夫、兵庫、十河岩太郎五男
女　ゆきゑ　明三四、三生、養子榮妻
孫　淸一　明四〇、六生、養子淸之長男
孫　冨美　大五、一生、養子淸之長女

君は兵庫縣人西川佐十郎の叔父にして元治元年八月を以て生れ明治二十五年先代ツキの入夫となり家督を相續す毛布肩掛商を營みあわじやと稱し傍ら前記會社の重役にして大阪府多額納稅者たり家族は尙孫淸純(大六、一〇生、養子淸之四男)同八重子(同一〇、三生、同二女)同勝彥(同一三、三生、養子榮長男)同鷹次(昭二、一一生、同二男)同絹子(同五、二生、同三女)あり長女ヨシエ(明二五、一一生)は分家し三女キミエ(同三〇、一一生)は大阪府人高村寅次郎養子久之助に嫁せり(大阪、南、大寶寺町西ノ丁一五　電南二七七四)

## 都路華香
(辻宇之助)
正五位、帝國美術院會員、京都市立繪畫專門學校長兼京都市立美術工藝學校長、邦畫家、京都府在籍

男　宇佐雄　明三六、三生、市立繪畫專門學校出身
婦　田鶴　明四二、一二生、二男宇佐雄妻、京都、大槻懋二女、京都府立第一高女出身

君は京都府人先代宇助の長男にして明治三年十二月を以て生れ同十六年家督を相續す夙に市村水香に就き漢學を學び幸野楳嶺に就き繪畫を習得し都路華香と號す又武田默雷に就き參禪すること多年大正二年京都市立繪畫專門學校教諭となり爾來京都市立美術學校教諭を經て同十五年現職に轉ず同十四年帝國美術院會員に舉げらる俳句を嗜む家族は尙ほ孫民雄(昭四、二生、二男宇佐雄長男)あり妹イク(明八、五生)同ミツ(同一四、八生)は各分家せり(京都、上京、今小路御前西入ル上ル紙屋川町一〇三九　電西陣二三四七)

## 都々木春美
正五位勳六等、內務技師、名古屋土木出張所勤務、長崎縣士族

母　ミツ　慶應二、一〇生、長崎、士、船越道筑長女
妻　シツ　明二六、六生、長崎、中原甚三郎三女
男　浩一　大六、六生
女　芳　大三、六生

君は長崎縣士族都々木捨藏の長男にして明治十九年三月を以て生れ大正十二年家督を相續す同四十五年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し大正五年內務技師となり東京第一土木出張所同第二土木出張所勤務を經て現時名古屋土木出張所勤務たり家族は尙二男和生(大一〇、七生)あり(名古屋、東、東片端町一ノ三　電東七五〇一)

## 都筑忠春
男爵　東京府華族

當家は先代馨六より顯る馨六は豫州西條藩士にして明治十四年東京大學を卒業し獨乙に留學し伯林大學に政治學を修む歸朝後公使館書記官兼外務省參事官外務大臣祕書官內閣總理大臣祕書官宮內務省參事官法制局參事官行政裁判所評定官內務省土木局長圖書頭文部次官外務次官貴族院議員樞密院書記官長等に歷任し法學博士の學位を受け同四十年特命全權大使として萬國平和會議に參列し勳功に依り勳一等に敍し華族に列し男爵を授けらる後樞密顧問官に任ぜらる君は其長男にして大正四年四月を以て生れ同十二年家督を相續襲爵仰付けらる(神奈川、鎌倉、鎌倉町笹目ケ谷　電二二三八)

## 都築一馬
從五位勳六等、判事、彥根區裁判所判事兼大津地方裁判所判事　三重縣士族

父　末五郎　安政五、二生、現戶主
母　くに　元治元、一〇生、三重、士、渡部來藏長女
妻　倫子　明三一、八生、和歌山、辻岡寬長女
男　一郎　大六、一〇生

君は三重縣士族都築末五郎の長男にして明治十七年二月を以て生る同三十七年明治大學を卒業し大正三年判檢事登用試驗に合格し同五年判事に任じ福井地方兼同區豐橋區魚津區高岡區御坊區德島地方兼同區各裁判所判事に歷補し昭和四年現職に補せらる家族は尙二男二郎(大九、三生)長女あや(昭四、二生)あり弟敎(明三三、五生)同妻まさへ(同三四、一一生、三重、岸本初太郎妹)は分家せり(滋賀、犬上、彥根町上與屋四〇)

## 都築甚之助
正五位勳四等、陸軍一等軍醫正、都築脚氣研究所長、都築かつけ專門療院長、醫師、東京府在籍

妻　すゞ　明八、四生、愛知、村井左一郎五女
男　益世　明三一、六生、醫學士、慶應義塾大學醫學部助手
婦　歌　明三九、六生、二男益世妻、千葉、三木牧藏三女
男　穆世　明四二、五生
男　從世　明四三、一〇生
女　和子　大三、九生

都築家は代々愛知縣刈谷町に土着し農を以て生業とせり君は先代甚六の長男にして明治二年十一月を以て生れ同三十年家督を相續す同二十三年第一高等中學校醫學部を卒業し身を軍籍に投ず同三十二年私費を以て獨逸に留學してマールブルヒ大學に於てドクトルの學位を受く歸朝後陸軍々醫學校敎官東京第二衞戍病院長等に歷任し同四十五年陸軍一等軍醫正に進む同四十三年脚氣新藥アンチベリベリンを發見す現に都築脚氣研究所長にして都築かつけ專門療院長たり短歌を能くす家族は尙孫康夫(昭二、二生、二男益世長男)同あやめ(同四、五生、同長女)あり妹きし(明五、九生)は其子女を伴ひ分家せり(東京、四谷、舟町三　電四谷三三六九)





## 都築鈴次郎
愛知縣多額納稅者、シナ忠本店、旅館業、愛知縣在籍

養母　きく　明四、五生、愛知、西村又七三女
妻　ふみ　明二八、九生、愛知、都築忠右衞門庶子
男　一郎　大三、一生

君は愛知縣人村上新太郎の弟にして明治十七年六月を以て生れ大正二年先代ふみの入夫となり家督を相續す旅館シナ忠本店を經營し現に愛知縣多額納稅者たり家族は倚二男利彥(大四、一〇生)三男諒三(同七、三生)四男芳郎(同八、九生)五男眞吾(同一二、二生)あり(名古屋、東、富澤町三ノ一二　電東四八一〇)
參照＝※村瀨德兵衞の項

## 都留信郎
東邦瓦斯(株)常務取締役、東邦瓦斯證券、中央鑛業各(株)取締役、九州瓦斯(株)監查役、大分縣在籍

妻　いよ　明二〇、三生、三重、志田貞三二女
女　俊子　明四四、一生
女　壽子　大四、一生

君は大分縣人都留晋平の二男にして明治十二年三月を以て生る同三十三年同志社を同三十七年大阪高等工業學校機械科を各卒業し實業界に入り現時前記各會社の重役たり家族は倚三女澄子(大一二、一生)兄喜一(明五、一生、現戶主)同妻藤惠(同一二、一生、大分、松本孫十郎二女)及其一子あり弟仙次(同一七、一生)同妻眞須位(同二二、二生、高知、原晚翠長女)は其子女を伴ひ分家せりA二九六八(名古屋、中、御器所町天神東九七ノ一　電南二〇九)

## 對崎長太郎
武藏製織(株)代表取締役、武州倉庫(株)監查役、埼玉縣在籍

妻　まち　明九、八生、埼玉、片岡鑄之助三女
男　實郎　明三〇、五生
婦　わか　明三二、四生、二男實郎妻、埼玉、本橋龜之助二女
男　靖吉　明三六、四生
男　海三　明三八、五生
女　まさ　大二、三生

君は埼玉縣人對崎平右衞門の長男にして明治四年八月を以て生れ同四十二年家督を相續す現に武藏製織會社代表取締役にして傍ら武州倉庫會社監查役たり家族は倚孫浩司(大一一、六生、二男實郎長男)同晋平(昭三、四生、同二男)あり二女しげる(明三三、六生)は埼玉縣人山崎吉之助に姉もと(嘉永四、二生)は同縣人內田常次郎に嫁し弟駒平(明一六、一〇生)同妻ふみ(同二〇、八生、埼玉、片岡鑄之助五女)は其子女を伴ひ分家せり(埼玉、入間、仙波村)

## 對馬彌作
正五位勳五等、農林技師、農務局勤務、青森縣在籍

母　まつ　文久元、一生、祖父安右衞門長女
妻　きく　明二六、六生、青森、士、芹川得一長女
男　良治　大一四、九生
女　きみ　大三、一一生

君は青森縣人對馬寅太郎の長男にして明治十六年五月を以て生れ同四十二年家督を相續す同四十三年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し千葉縣立園藝專門學校教諭兼舍監を經て大正三年長野縣技師に任じ同縣農事試驗場長となり同五年農商務技師に轉じ亞爾然丁國出張を命ぜられ歸朝後同七年臨時產業調查局技師を兼任し次で支那に出張す同十一年更に英領印度及暹羅を視察し同十四年農林技師に任ぜらる同十五年歐洲各國に出張し昭和二年歸朝し現時農務局勤務たり家族は倚二女くに(大七、一生)三女あい(同一〇、九生)二男直(昭三、二生)弟桑太郎(明一八、一二生)同妻りつ(同二八、九生、青森、中館廣之助五女)及其子女養弟喜八郎(同四四、五生、青森、西谷多慶三七男)あり妹トヨ(同三六、四生)は青森縣人山口道平に嫁せり(東京市外西巢鴨町宮仲二三七一)
參照＝※船木喜幸の項

## 圖師肇貳
從五位勳五等、八幡市長　熊本縣在籍

妻　かく　明一五、一二生、東京、山田米吉長女
養子　丑仲　明四一、五生、熊本、磯田辰平三男

君は宮崎縣人圖師彥定の五男にして明治十年七月を以て生れ前名丑仲を改め同四十一年兄庄一郎方より分れて一家を創立す同三十三年日本法律學校を卒業し同三十七年文官高等試驗に合格農商務屬となり林務官に進み熊本高知青森各大林區署を經て東京大林區署林務課長に補せらる大正九年官を辭し昭和三年八幡市長に推され今日に至る養子ハツセ(明三七、二生、宮崎、圖師滿四郞二女)は和歌山縣人眞砂久一に嫁せり(八幡市)

## 塚口三之助
戊辰銀行(株)取締役　兵庫縣在籍

父　吉三郎　天保一二、一生
母　ふじ　嘉永元、一二生、兵庫、能勢喜六長女
妻　ちよ　明八、一一生、兵庫、塚口積太郎妹
男　三喜男　明三九、九生
女　幸重　明四四、七生

君は兵庫縣人先代三之助の長男にして明治六年四月を以て生れ同三十五年家督を相續し前名甚太郎を改め襲名す現時戊辰銀行取締役にして曩に葛野銀行頭取たり大正十年紺綬褒章を下賜せらる長女喜久重(明二九、一〇生、京都府立第二高女出身)は兵庫縣人塚口規矩治に二女ふみえ(同三六、一〇生、出身校同上)は醫學博士小澤修造弟醫學博士雄三に嫁し弟誠一(同一四、六生、正七位勳六等功五級、陸軍步兵大尉)同妻たけ(同一九、一〇生、兵庫、能勢喜兵衞三女)は其一女を伴ひ分家せり(兵庫、氷上、沼貫村　電成松一〇五)
參照＝小澤修造の項

## 塚越卯太郎
樺太農產興業(株)代表取締役、樺太鐵道、登帆炭礦、富士製紙各(株)取締役、關原紡績(株)監查役　東京府士族

母　しげ　嘉永三、三生、東京、池原新次郎長女
妻　公　明二三、二生、京都、士、富田直詮妹
男　國夫　大八、一二生
女　鈴代　大五、一二生

君は東京府士族塚越鈴彥の長男にして明治十二年八月を以て生れ後家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は倚二女富子(大七、一一生)二男茂雄(同一〇、三生)三女安子(同一四、六生)四男文彥(昭二、一二生)あり弟丘二郎(明一六、一二生)同妻ハツ(同二九、九生、佐賀、古川源一郎叔母)は分家し姉てる(同八、一〇生)は東京府人小池厚之助の母たり(東京、牛込、市谷町一二二　電四谷三七五五)
參照＝小池厚之助、塚越丘二郎※甲野檠※阪井德太

郎※富田忠詮※渡邉襄の項

**塚越丘二郎**　越中島木材倉庫(株)社長、小池銀行、樺太農産興業、帝國製麻、小池證券各(株)監査役、小池實理事　東京府在籍

妻　ハツ　明二九、九生、佐賀、古川與四吉妹
男　健一郎　大一〇、九生

君は東京府士族塚越卯太郎の弟にして明治十六年十二月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治三十九年早稻田大學を卒業し現に越中島木材倉庫會社長の外前記銀行會社の重役たり嚢に日本化學紙料會社常務取締役たりしことあり家族は倘長女久子(大九、二生)二女澄子(同一三、二生)二男武雄(同一五、四生)三女良子(昭四、二生)あり(東京、牛込、市谷仲之町二〇電牛込四二二二)
參照＝塚越卯太郎、古川與四吉※小池厚之助※渡邉襄の項

**塚越正司**　塚越晝夜銀行(株)頭取　群馬縣在籍

妻　ケイ　明二一、四生、群馬、岩崎民三郎三女
男　藤司　明四四、九生
女　龜子　大五、二生

君は群馬縣人牛田多之吉の二男にして明治二十八年三月を以て生れ先代藤三郎の養子となり大正四年家督を相續す現時塚越晝夜銀行頭取たり家族は倘ほ二男龍三(大三、二生)三男德藏(同六、九生)四男恒司(同一一、八生)あり A一七二五(東京、麹町、隼町八電九段五二五)
參照＝※田口勝次郎※原勢柳三の項

**塚崎直義**　日本辯護士協會名譽理事、辯護士　東京府在籍

妻　ハツ　明二四、三生、大分、生地治長女
男　公俊　大五、九生

君は大分縣人塚崎淺太郎の弟にして明治十四年五月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す同四十一年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し辯護士となり今日に至る現に日本辯護士協會名譽理事に推され法曹界に重きをなす傍ら東京日々新聞及小田原急行電鐵會社法律顧問たり嚢に東京辯護士會長に擧げらる家族は二女テル子(大九、二生)あり長女敏子(明四五、二生)は外交官補山田久就に嫁せり(東京、牛込、富久町二一電四谷二八〇三)

**塚島房次郎**　資産家　長崎縣在籍

養母　サタ　萬延元、九生、長崎、甲斐宗三女
女　淑　大元、一一生

君は長崎縣人塚島順次郎の長男にして明治八年四月を以て生れ先代故長崎縣多額納税者叔父富三郎の養子となり昭和二年家督を相續す豪商にして資産家たり長女富美譽(明三四、二生)は兵庫縣人大久保繁雄に嫁し妹スキ(同一六、二生)は長崎縣人初島深三に同シヅエ(同三〇、五生)は熊本縣人田尻農四郎二男伊佐雄に嫁し養弟惣一郎(同一八、一生)同妻チヨ(同二〇、九生、長崎、久保祥三郎長女)及其三男は分家し養兄重治郎(安政六、四生、長崎、吉田義稻弟)養弟亦三(明二一、三生)同重富(同三六、七生)も亦各分家し同彌壽雄(同一九、一生)は上記重治郎に同茂(同二四、一生)は長崎縣人塚島吉三郎に各養子となれり(長崎、南高來島原町)
參照＝大久保繁雄※久保義美の項

**塚島由太郎**　共成、札幌拓殖倉庫各(株)社長、北海道製網(株)取締役、定山溪温泉(株)監査役、北海道中央米雜穀商同業組合組長、雜穀商、北海道在籍

妻　きよ　明一一、一二生、北海道、吉田和一郎長女
男　良治　明四二、六生
女　チヨ　明四四、一一生

君は富山縣人塚島市右衛門の三男にして明治五年九月を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す雜穀商を營み現に前記各會社の重役たり嚢に札幌市會議員札幌商業會議所常議員に擧げらる長女きく(明三八、一一生)は北海道人大竹敬助二男愛二郎に嫁せり(札幌、北一條東二ノ五電五一一六)
參照＝大竹敬助の項

**塚田公太**　東洋棉花(株)取締役　新潟縣在籍

妻　ラク　明二九、一一生、新潟、山本卯兵衛二女
男　剛藏　大八、四生
女　萬里子　大五、七生

君は新潟縣人塚田新治郎の長男にして明治十八年九月を以て生れ大正十四年家督を相續す先是明治四十年東京高等商業學校を卒業し現時東洋棉花會社取締役たり家族は倘二女克子(大六、九生)三女ヒサ(同一〇、一二生)四女カナ子(同一三、九生)四男丈吉(同一五、一一生)弟久三(明四三、五生)あり妹サハ(同三九、一生)は新潟縣人保坂稔に嫁せり A八九六(大阪、住吉、阿倍野筋一ノ七七電戎一〇一八)

**塚田幸四郎**　栃木商工會議所常議員　栃木縣在籍

父　幸則　弘化三、九生
母　セン　安政三、八生、栃木、增田淺五郎長女
妻　トヨ　明一七、二生、栃木、星野宗吉四女
女　繁子　明四〇、一生
女　喜美子　明四三、一生
女　幾子　大元、一一生
女　由喜子　大五、三生

君は栃木縣人塚田幸則の二男にして明治十三年三月を以て生れ大正二年家督を相續し前名桂治郎を改め父の舊名を襲ふ現時栃木商工會議所常議員たり家族は倘五女民子(大八、一二生)弟治三郎(明二〇、一生)同妻タカ(同三〇、一二生、栃木、關角之助二女)及其三子弟宗四郎(同二二、一一生)あり姉コウ(同一〇、五生)は栃木縣人增田喜一兄淺一郎に妹ロク(同二五、八生)は同縣人和賀井雄長男操に同セイ(同三一、一生)は群馬縣人平田金二に嫁せり(栃木、下都賀、栃木町)
參照＝增田喜一の項

**塚田實則**　東邦瓦斯(株)取締役兼製造課長　愛知縣在籍

父　八重吉　慶應二、七生、現戸主
母　たま　明八、七生、愛知、吉岡権吉二女
妻　久　明三〇、一生、愛知、西川幸造姉
男　裕三　大一一、一二生

君は愛知縣人塚田八重吉の長男にして明治十九年十二月を以て生る現時東邦瓦斯會社取締役兼製造課長たり家族は倘二男泰造(大一四、一〇生)弟三郎(明三三、三生)同富也(同三九、八生)あり妹あや(同二七、一〇





生)は三重縣人不二門龍諦長男龍觀に嫁し弟豐夫(同四三、五生)は愛知縣人吉岡鎭作の養子となれり(名古屋中、白川町二ノ一八電本局二三〇八)

**塚田正司**　百三十九銀行(株)取締役　新潟縣在籍

繼母　ヒサ　慶應三、七生、新潟、今井兵吉二女
妻　文子　明二五、一一生、新潟、近藤友一郎長女
男　幸平　明四四、一生

君は新潟縣人塚田喜平の二男にして明治九年一月を以て生れ同四十四年家督を相續す現時百三十九銀行取締役たり家族は倘二男正衞(大七、四生)三男壯平(同九、三生)四男喜衞(同一三、六生)二女綾子(昭二、二生)妹ハス子(明三一、四生)弟平司(同三八、一〇生)あり長女百合子(大元、一二生)弟正三(明一〇、一一生)は各分家し妹美代子(同三四、一二生)は東京府人竹井濤に嫁せり(新潟、刈羽、高濱町)

**塚田文之助**　富士石油(株)代表取締役、東京紙料工業、岩崎商事各(株)取締役、日本金剛砂砥石製作所、東西貿易各(株)監査役、東城炭礦(資)代表社員　東京府在籍

妻　いと　明二〇、二生、茨城、中澤菊治妹
男　文男　大一一、六生
養子　信三　明三六、九生、長女マツ夫、栃木、木村英太郎三男
女　マツ　明三九、六生、養子信三妻

君は栃木縣人塚田孝助の二男にして明治十五年十月を以て生れ大正四年兄孝一郎方より分れて一家を創立す現時東城炭礦合資會社代表社員にして前記各會社の重役たり家族は倘孫みどり(昭三、一二生、養子信三長女)あり二女タケ子(明四二、八生)は栃木縣人塚田孝一郎養子信次郎に嫁せり(東京、本鄕、眞砂町七電小石川九一一二)

**塚田正美**　資産家　山形縣士族

母　キヌ　明二、七生、山形、士、名古屋爲良二女
妻　ちう　明三五、一二生、山形、白根澤信彌二女
男　正紀　大一二、二生

君は山形縣士族塚田正一の二男にして明治二十九年三月を以て生れ昭和六年家督を相續す先代正一は夙に西ヶ原實業試驗場に學び嚢に官界に入りしが後實業界に轉じ山形電氣昭和セメント工業各會社の外各種會社の重役に擧げられ又山形商工會議所議員に推され其他各種實業團體幹部役員に就任す君は大正十年東京帝國大學法學部英法科を卒業す資産家たり家族は倘二男正忠(大一五、一生)弟正浩(明三六、一二生、慶大出身)同妻紀美子(同四一、七生、山形、染谷正龍三女)弟正剛(大二、八生)あり姉德子(明二四、二生)は山形縣人保村孝一弟陸軍歩兵中佐貞次に妹榮子(同三一、一生)は同縣人小泉才助弟陸軍歩兵大佐恭次に同洋子(同三四、四生)は東京府人理學博士竹内端三に同春乃(同四〇、四生)は山形縣人醫學博士奥山道世に養姉さの(同一五、七生、山形、名古屋爲毅妹)は同縣人細梅三郎弟政太郎に嫁せり(山形市旅籠町二六四電六八)
參照＝竹内端三※市川吉太郎※渡邊猪三郎の項

**塚田要藏**　東武鐵道(株)取締役兼支配人、運輸課長、日光電氣軌道(株)取締役兼支配人、下野電氣鐵道(株)監査役、鐵道省運輸委員、帝國鐵道協會評議員、新潟縣在籍

妻　りと　明一四、一生、大阪、春名顯一姉
男　五郎　大七、六生
女　文子　明三九、一〇生
女　君子　明四一、一二生
女　秀子　明四四、一二生
女　節子　大五、二生

君は新潟縣人塚田彥内の二男にして明治六年十二月を以て生る東武鐵道會社取締役兼支配人の外前記各會社の重役たり家族は倘二男六郎(大一一、一生)甥彌七郎(明二八、四生、亡兄彌五郎長男、現戸主)同妻ハナ(同三七、四生、群馬、石關良三郎三女)弟豐次郎(同九、五生)同妻ハツヨ(同一七、四生、福島、中村元坪長女)弟健作(同一七、九生)同妻つね(同二七、二生、長野、關口計吉長女)及其子女あり二女君子(同四一、一二生)は農林事務官法學士惟山茂太郎に嫁し姪好子(同四三、二生、弟豐次郎長女)は東京府人千田忠次郎に甥豐(同四四、九生、同三男)は其外祖父中村元坪に各養子となれり A九二二(東京、小石川、東青柳町三五電小石川一三七五)

**塚谷雄次郎**　從五位勳五等、仙臺鑛山監督局技師、石川縣士族

妻　タカ　明二六、一生、福島、比佐榮一姉
男　寛　大一三、二生
女　千代子　大四、六生

君は石川縣士族塚谷通治の二男にして明治十六年八月を以て生れ先代逸郎の養子となり同三十三年家督を相續す同三十八年東京高等工業學校機械科を卒業し古河鑛業會社に入り後四十年鑛山監督署技手に任じ鑛山監督官鑛務技師等を經て現に仙臺鑛山監督局技師たり(仙臺、中杉山町一〇)

**塚野俊郎**　新潟商工會議所理事、辨理士　東京府士族

妻　とみ　明二三、九生、三重、米川李次郎長女
男　正夫　大四、五生
女　智惠子　明四五、一生
女　俊子　大元、一二生

君は新潟縣士族塚野勇の二男にして明治十九年二月を以て生れ同二十六年兄三郎の後を承け家督を相續す辨理士にして推されて新潟商工會議所理事たり家族は倘二男俊二(大六、一〇生)三女和子(同八、一二生)三男弘俊(同一一、一生)四男稔(同一四、九生)四女富美子(昭三、三生)あり(新潟市南濱町二ノ五〇四電二一一七)

**塚原嘉一郎**　北樺太コスチナ炭礦(株)取締役、鑛業、佐賀縣士族

妻　ヨシ　明二七、八生、故陸軍大將秋山好古長女

君は佐賀縣士族塚原佐一の長男にして明治九年十一月を以て生れ同四十四年家督を相續す同二十九年慶應義塾を卒業し鑛業を營み傍ら北樺太コスチナ炭礦會社取締役たり家族は倘亡弟孫一妻豐子(明三四、五生、愛媛、小崎正滿二女)及其三子同篤司妻すへを(同三三、九生、福井、長谷川吟作妹)及其一子あり(東京、赤坂、青山北町三ノ六八)
參照＝※土井利三郎の項

**塚原嘉吉**　塚原呉服店(株)社長、會津製綿(株)取締役、會津木材(株)監査役　福島縣在籍

妻　フキ　明六、六生、福島、佐藤牛重郎長女
養子　爲五郎　明二一、四生、長女セン夫、福島伊關彌平次四男

女 セン 明二七、一生、養子爲五郎妻
養子 彌十郎 明三六、一一生、五女ユキ夫、福島、伊關彌平次八男
女 ユキ 明四一、八生、養子彌十郎妻
女 トミ 明四五、四生
君は福島縣人塚原長三の二男にして慶應三年七月を以て生れ明治十七年家督を相續す現時塚原吳服店社長の外前記各會社の重役たり家族は尙孫慎一(大二、三生、養子爲五郎長男)同嘉平(同三、一一生、同二男)同チル子(同八、一二生、同長女)同タマ子(同一三、五生、同二女)同ヒサ子(同一五、五生、同三女)同恭子(昭三、一二生、同四女)同小太郎(同四、一一生、養子彌十郎長男)あり二女ミツ(明三一、一二生)同夫藤久(同二六、二生、福島、渡部久松孫)は其子女を伴ひ分家し弟權三(同九、六生)も亦分家し三女ヨシ(同三五、三生)は埼玉縣人市川源次郎に四女コト(同三八、六生)は福島縣人高橋倉市に妹コン(同七、七生)は同縣人渡部道三に嫁し庶子喜一(同三五、三生)は其生母同縣人本間キタに弟謙吾(同一六、四生)は同縣人中村チヨに各養子となれり(福島縣若松市七日町二二電一〇四)

## 塚原喜六
佐賀縣多額納稅者、佐賀商工會議所議員、酒造業、佐賀縣士族

男 善一郎 明四三、七生
女 チカ 明四二、八生
女 トキ 明四五、一生
女 須喜子 大五、九生
君は佐賀縣士族古賀善八の四男にして明治十四年三月を以て生れ後亡兄虎三郎の後を承け家督を相續す酒造業を營み現に縣下の多額納稅者にして佐賀商工會議所議員たり家族は尙二男寅次(大三、五生)六女勢喜子(同八、一〇生)三男喜三男(同九、一二生)七女ユウ子(同一三、八生)あり(佐賀市八戸町)

## 塚原庄五郎
羽前銀行、縣是秋田製絲、置賜織物商會各(株)取締役、山形縣在籍

父 惣左衛門 嘉永元、七生、山形、井上庄七四男、現戸主
母 とく 安政四、一一生、山形、遠藤卯一郎叔母
妻 イク 明二六、四生、山形、横山悌藏妹
男 英藏 大三、一〇生
君は山形縣人塚原惣左衛門の二男にして明治二十年四月を以て生る現時前記銀行會社の重役たり家族は尙二女里子(大七、四生)三女しげ子(同九、一生)二男和平(同一一、二生)三男文三郎(同一三、五生)あり姉きよ(明六、九生)は山形縣士族奧山久四郎長男源太郎に同みつ(同一七、八生)は同縣士族小島彌左衛門に妹くに(同二三、三生)は同縣人後藤卯左衛門に嫁せり(山形、西置賜、荒砥町)
參照=奧山源太郎、横山悌藏※横山昌輔の項

## 塚原昌吉
小泉製麻(株)監査役 兵庫縣士族

男 良一 明四一、一生
君は東京府士族塚原安兵衛の長男にして文久三年十月を以て生れ後家督を相續す現時小泉製麻會社監査役たり家族は尙二男誠二(明四五、三生)あり養子いち(同二八、一二生、東京、森島修太郎二女、神戸女學院出身)は滋賀縣人小泉尙助に嫁せり(神戸、新在家走出一一七電御影二〇〇二)
參照=小泉尙助※米田實の項

## 塚原政次
正四位勳三等、文學博士、東京高等學校長、兵庫縣士族

母 たか 安政元、一〇生、兵庫、幸田久吉姉
妻 ハマ 明一四、六生、岩手、士、新渡戸宗助二女
女 タマ子 明三九、二生
女 ゆり子 大三、一一生
君は兵庫縣士族塚原秀雄の長男にして明治五年九月を以て生れ同十九年家督を相續す同三十年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し同三十四年心理學研究の爲獨米に留學し歸朝後廣島高等師範學校教授文部省督學官靜岡高等學校長を經て昭和二年東京高等學校長に任ぜらる大正十三年文學博士の學位を受く著書數十種あり家族は尙三女桃子(大一一、五生)四女櫻子(同一四、一一生)あり二男政恒(明四五、七生)は岩手縣人新渡戸ハツの死跡を相續し妹せん(同一〇、三生)は千葉縣人根岸又一郎弟又藏に同ひさゑ(同二二、三生)は兵庫縣人曾谷和吉に嫁し同みさゑ(同二四、一〇生)は同縣士族宇野幸右衛門の養子となれり(東京市外代々幡町幡ヶ谷八八一電四谷八八)

## 塚本岩三郎
東京造畫館、出版業 東京府士族

母 ユウ 元治元、九生、福島、石川德藏二女
妻 加年 明二九、四生、東京、大澤朝次郎妹
男 成雄 大八、一〇生、學習院初等科在學
當家は代々吉田藩士にして先代岩三郎に至る岩三郎夙に伊國人キヨソネ氏に就き彫刻術を學び更に工部大學附屬技藝科に入り繪畫及銅版印刷術を學び印刷業を開き東京商標社と號せり後米國に航し同業に就き視察し歸朝後東京造畫館と改稱し主として教育用掛圖の製作に從事し紺綬褒章を下賜せられたり君は其長男にして明治二十年十月を以て生れ大正十二年家督を相續し前名丈助を改め襲名す同五年東京帝國大學理科大學植物科を卒業し爾來遺業を繼承し出版業を營み東京造畫館主たり家族は尙妹チヨ(明二五、一生)あり弟開治(同二九、一一生、東京美術學校圖案科出身)は分家せりA一二九〇B三九〇(東京、京橋、銀座西七ノ五電銀座七二三)

## 塚本卯三郎
從五位勳三等、日本產業(株)常務取締役兼調査部長、日本鑛業、日立製作所、日立電力、戸畑鑄物、中央土木各(株)取締役、靜岡縣在籍

父 宇吉 安政五、一生、現戸主
妻 すゑ 明二二、五生、靜岡、關口壯吉妹
男 駿 大二、七生
君は靜岡縣人塚本宇吉の長男にして明治十二年一月を以て生る同三十六年東京帝國大學工科大學機械學科を卒業し直に海軍に奉職し同四十一年英國駐在を命ぜられ大正五年米國に出張を命ぜらる同九年海軍を退き現時日本產業會社常務取締役兼調査部長たる外前記會社の重役たり家族は尙二女滿里子(大六、八生)亡弟戒三妻りよう(同二二、一生、岐阜、長瀨文九郎妹)あり長女藤枝(同四一、一〇生、東京女子大學出身)は東京府人下坂源太郎に嫁し妹ちほ(同二二、六生)同夫令三九(同二二、五生、靜岡、成瀨柳藏三男)は其子女を伴ひ分家せりA三二六〇(東京市外田園調布町九〇一電田園調布三三五)

## 塚本喜左衛門
滋賀縣多額納稅者、織物商 滋賀縣在籍

妻 はる 明一五、九生、滋賀、尾賀龜次郎妹





養子 四郎 明四一、七生、滋賀、尾賀龜次郎四男、京大法學部在學
君は滋賀縣人塚本清七の二男にして明治七年二月を以て生れ先代喜左衛門の養子となり大正十年家督を相續し前名吉藏を改め襲名す織物商を營み直接國稅四千四百二十三圓を納め縣下の多額納稅者に列す養從弟喜八郎は分家せり(滋賀、神崎、南五個莊村)
參照=塚本喜八郎の項

## 塚本喜八郎
京都捺染工業(株)取締役 京都府在籍

男 喜夫 大二、一〇生
女 紀 大四、七生
君は滋賀縣人辻元立の三男にして明治十二年七月を以て生れ塚本家の養子となり同四十三年養從兄喜左衛門方より分れて一家を創立す現時京都捺染工業會社取締役たり家族は尙二男泰造(大九、七生)あり(京都、上京、中立賣西洞院西入ル三丁町四四六電西陣四一六四)
參照=塚本喜左衛門※山本健吉の項

## 塚本小四郎
正四位勳三等、工學博士、前旅順工科大學教授、滋賀縣士族

妻 順 明一二、五生、東京、士、河上春生姉
男 捷夫 明三六、九生
男 洋夫 明四二、一一生
君は滋賀縣士族石黑務の三男にして明治八年一月を以て生れ先代京太の養子となり同二十八年家督を相續す同三十二年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し山陽鐵道會社員鐵道作業局雇帝國鐵道廳技師鐵道技師旅順工科大學附屬工學專門部及工科大學豫科教務囑託同附屬工學專門部教授等に歷任し大正十五年旅順工科大學教授に任じ昭和五年之を辭し現時閑地に在り曩に鐵道事業研究の爲英獨へ留學を命ぜられ大正九年工學博士の學位を受く家族は尙四男定夫(大元、九生)五男康夫(同三、一二生)あり長女萬世(明三二、一生)は高知縣人楠瀨直紀弟四郎に嫁せり(山口、豐浦、長府町)
參照=河上春生※岡田良平※田中良の項

## 塚本浩次
從四位勳五等、男爵、陸軍法務官第十四師團軍法會議法務官 東京府華族

妻 峯 明二三、五生、東京、士、甲斐敬直四女
男 勝彥 大九、一生
女 登美子 明四四、九生
女 喜美子 大三、八生
當家は先代勝嘉より顯る勝嘉は舊大垣藩士にして明治五年陸軍少尉に任じ陸軍中將に累進す其間陸軍大學校長第六師團參謀長步兵第二十一旅團長第四第九各師團長等に歷補し日清北清日露の役に功あり從二位勳一等功二級に敍し同四十年華族に列し男爵を授けらる君其後を享く君實は岐阜縣士族芹澤景邦の弟にして明治十五年十二月を以て生れ先代勝嘉の養子となり同四十五年家督を相續し襲爵仰付けらる大正元年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し陸軍に出仕し理事に任じ現時陸軍法務官にして第十四師團軍法會議法務官たり家族は尙三女惠美子(大六、三生)二男勝輔(同一五、八生)あり(栃木、河內、國本村第十四師團)

## 塚本佐七
川佐商店(名)代表社員、材木商 大阪府在籍

妻 マチ 明二〇、一生、大阪、橋德松妹
男 泰三 大五、四生
女 せつ 明四三、六生
君は大阪府人先代佐七の長男にして明治十一年六月を以て生れ大正六年家督を相續し前名種松を改め襲名す材木商を營み合名會社川佐商店代表社員たりA一二一七(大阪、東、材木町二七電東二六七〇)

## 塚本定右衛門
塚本商店(株)代表取締役、塚本(名)代表社員、滋賀縣在籍

父 定治 文久元、三生
妻 三鶴 明二七、六生、滋賀、村地研三三女
男 定一郎 大元、九生
女 千嘉 大三、七生
君は滋賀縣人塚本定治の長男にして明治二十年十二月を以て生れ大正十四年家督を相續し前名定治郎を改む現時前記各會社の重役にして曩に縣下の多額納稅者たり家族は尙二男眞三(大六、一〇生)三男粲三(同一二、四生)四男史郎(同一四、九生)二女房子(昭三、九生)三女登三子(同五、七生)あり妹しず(明二四、一〇生)は滋賀縣人塚本佐兵衛長男信三に同てい(同二九、一〇生)は同縣人村地龍に嫁せり(東京、麴町、飯田町二ノ五二)

## 塚本清吉
從五位勳五等、州立新竹高等女學校長兼教諭、鳥取縣在籍

妻 壽野 明二五、五生、鳥取、士、鈴木茜吉三女、鳥取高女出身
男 清治 大一一、一生
女 芳枝 明四三、一〇生、臺北第一高女出身
女 春枝 大三、三生、新竹高女出身
君は鳥取縣人塚本彥次郎の三男にして明治十三年十二月を以て生れ同三十五年兄松吉方より分れて一家を創立す同三十九年東京高等師範學校地歷部を卒業し高知縣第二中學校教諭鳥取縣東伯郡由良尋常高等小學校訓導兼同校長同縣立第二中學校教諭臺灣公立高等女學校教諭臺北第一高等女學校教諭新竹高等女學校教諭同校長事務取扱を經て現時州立新竹高等女學校長兼教諭たり家族は尙四女文子(大七、二生)五女富子(同一四、一生)二男和雄(昭二、一一生)あり(臺灣、新竹市電三三九)

## 塚本清治
從三位勳一等、貴族院議員、關東長官、兵庫縣在籍

妻 ゑつ 明一〇、五生、兵庫、塚本治助長女
男 清景 明四三、九生
女 節子 大三、五生
君は兵庫縣人河田九右衛門の二男にして明治五年十一月を以て生れ塚本清三郎の養子となり大正十四年分れて一家を創立す明治三十五年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格す同年直に東京府屬を經て內務屬となり爾來福井神奈川各縣參事官神奈川滋賀各縣事務官內務省參事官兼內務大臣祕書官京都府內務部長內務監察官內務省神社局長兼明治神宮造營局長地方局長社會局長官內務次官法制局長官內閣書記官長等に歷任し現に關東長官にして貴族院議員に勅選せられ曩に歐米各國に出張を命ぜらる長女靜子(明三九、一生、御茶の水高女專攻科出身)は東京府人横山俊平に二女慶子(同三九、一二生、實踐女學校出身)は廣島縣人式村義雄に三女順子(同四一、一一生、出身校同上)は東京府人齋藤正平長男正務に嫁せり(東京市外戸塚、宮田三八二電牛込四六)
參照=齋藤正平の項

## 塚本惣助
東洋クロス(株)社長、第一工業製藥(株)監査役、塚惣商店(資)代表社員 京都府在籍

養母　かの　嘉永五、一生、滋賀、塚本助右衛門長女
男　惣太郎　明三一、二生
婦　しづ　明三五、五生、長男惣太郎妻、滋賀、今西重吉長女
君は滋賀縣人藤木伊八の三男にして明治二年十二月を以て生れ先代宗助の養子となり同三十七年家督を相續す夙に吳服商を營み塚惣商店代表社員にして傍ら東洋クロス會社長たる外前記會社の重役たり義に丸三商店監査役京都商業會議所議員たりし事あり家族は尙孫惣一郎(大一五、三生、長男惣太郎長男)同昭三(昭三、二生、同二男)あり長女みわ(明三三、一生)同夫二三(同二四、一二生、京都、平田職博弟)は分家せりA一七一(京都、下京、東洞院四條下ル電下二五八三)

**塚本槌三郎**　三十四銀行(株)東京支店長、東京手形交換所理事、東京府在籍
妻　キクノ　明二三、一二生、長崎、二宮德次郎長女
男　菊男　明四一、一一生
男　吉之助　明四四、三生
君は大阪府人塚本英一の叔父にして明治十三年五月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同二十七年日本中立銀行に入り同三十二年同行の三十四銀行に合併せらるゝや君も亦入り後ち漸次累進して大阪船場支店次長となり大正二年臺北支店次長に轉じ同五年臺南支店長に進み同六年尼ケ崎銀行の同行に合併せらるゝに際し尼ケ崎支店長に擧げられ同十年德島支店長に轉じ更に同十四年東京支店長の要職に就く倦鳥派の俳句に長じ虛明と號す家族は尙三男和男(昭三、六生)及二宮正明(大二、一二生)あり(東京市外千駄ケ谷町原宿三〇五電靑山三三一〇)

**塚本積**　正五位勳五等、內務技師、內務省下關土木出張所勤務、茨城縣在籍
妻　とみ　明二八、一生、茨城、平野雄之介三女
養子　典子　大五、一一生、茨城、中村健吉二女
君は茨城縣人塚本林之助の三男にして明治十八年九月を以て生れ昭和四年兄保方より分れて一家を創立す先是明治四十四年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し大正元年內務技師に任じ內務省新潟土木出張所勤務を經て現に內務省下關土木出張所勤務たり(下關內務省土木出張所內)

**塚本藤三郎**　塚本商事(株)社長、滋賀縣在籍
母　きわ　嘉永四、二生、滋賀、川島清右衛門長女
妻　なを　明一五、九生、東京、西川平藏妹
男　爲太郎　明三四、一〇生、英國ロンドン大學、プロテックニックスクールコンマース出身
婦　喜美　明四二、八生、長男爲太郎妻、東京、安井治兵衛妹
女　富子　大二、一一生、聖心女子學院在學
女　泰代　大五、八生、聖心女子學院在學
君は滋賀縣人塚本爲右衛門の養子にして明治三年三月を以て生れ同二十一年家督を相續す機械金物類の輸入並に製作を業とし現に塚本商事會社長たり家族は尙四男英雄(大九、三生)三女花子(同一一、二生)あり三男幸三郎(明四四、一生)は東京府人西川平藏の養子となれりA二一四〇(東京市外入新井町新井宿二二五八電大森七七)
參照＝西川平藏の項

**塚本仲右衛門**　滋賀縣多額納稅者、織物商　滋賀縣
妻　千代　明二八、六生、京都、井辻治作長女
男　誠一　大二、一一生
君は滋賀縣人先代仲右衛門の長男にして明治十五年六月を以て生れ大正十二年家督を相續し前名正三郎を改め襲名す織物商を營み直接國稅三千七百七十二圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙二男謹治(大五、八生)三男調藏(同八、四生)四男謙吉(同一三、八生)長女きみ子(昭二、四生)あり(滋賀、神崎、南五個莊村)

**塚本鉢三郎**　同明舍(株)取締役、松坂屋(株)上野支店營業部長、愛知縣在籍
妻　すゑの　明三二、六生、愛知、加藤長二郎妹
男　淳　大一〇、一二生
女　榮子　大四、一生
君は愛知縣人塚本心藏の二男にして明治十六年九月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す現時松坂屋上野支店營業部長にして前記會社の重役を兼ぬ家族は尙二男孝(昭三、四生)養子正一(大元、八生、東京、山田春男二男)あり(東京、本郷、湯島新花町九三電小石川一二三五)

**塚本萬輔**　五十銀行(株)常務取締役　茨城縣士族
妻　とく　明八、二生、茨城、今宮延四郎二女
男　勝雄　明三七、三生、明大商科出身、茨城農工銀行員
婦　ちか　明四一、三生、長男勝雄妻、茨城泉市郎三女
君は茨城縣士族田中信勝の長男にして明治九年八月を以て生れ先代專治の養子となり同三十一年家督を相續す現時五十銀行常務取締役にして曩に土浦瓦斯會社監査役たり(茨城、新治、土浦町外小松)

**塚本明壽**　太平生命保險(株)專務取締役　東京府士族
妻　ヨシノ　明一三、八生、北海道、士、森尙賢長女
君は東京府士族塚本明毅の二男にして明治三年十月を以て生れ同二十二年兄明篤の跡を承けて家督を相續す現に太平生命保險會社專務取締役たり養子玉江(明三六、八生、東京、武野泰養子)は東京府人高橋宗一に嫁せり(東京、本郷、駒込淺嘉町七〇電小石川二八二一)

**塚本安次**　福岡縣多額納稅者、醬油釀造業　福岡縣在籍
孫　正雄　明四三、一生、亡長男淳太郎二男
男　義雄　明二三、七生
婦　フミ　明二一、三生、二男義雄妻、福岡、奧村千吉姪
男　保三　明二九、二生
婦　チヨノ　明三四、一〇生、三男保三妻、福岡、塚本新一妹
男　幸三郎　明三〇、五生
孫　シヅ　明四四、三生、二男義雄長女
孫　テルコ　明四五、三生、亡長男淳太郎長女
孫　トシヱ　大四、一〇生、二男義雄二女
君は福岡縣人先代安次の長男にして文久元年七月を以て生れ明治二十一年家督相續と共に前名牛次郎を改め襲名す醬油釀造業を營み直接國稅八千三百八十一圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙庶子隆一(昭二、一一生、生母、山口、三原チヨ)孫守正(大一一、一二生、二男義雄長男)同正義(同一三、一〇生、同二男)同慶治(同一二、四生、三男保三長男)同美惠子(同一五、六生、同長女)同忠男(昭四、九生、同二男)あり長女ハルヨ(明二六、四生)は醫學博士藤澤幹二に三女ミツ(同三二、七生)は大分縣人今津綱幹に嫁せり(久留米通町三六二)
參照＝奧村千吉、藤澤幹二の項





**塚本靖**　正三位勳二等、工學博士、東京帝國大學名譽敎授、東京府在籍
妻　なみ　明七、一〇生、京都、印房武兵衛二女
君は京都府人塚本儀助の二男にして明治二年二月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同二十六年帝國大學工科大學造家科を卒業し更に大學院に學ぶ同三十二年東京帝國大學助敎授に任じ同年建築學研究の爲英佛獨各國へ留學を命ぜらる同三十五年歸朝し東京帝國大學工科大學敎授に任ぜられ同三十六年工學博士の學位を受く同四十二年農商務省特許局技師を兼ね大正九年同大學工學部長を命ぜらる昭和四年本官を免じ東京帝國大學名譽敎授の名稱を授けらる(東京、小石川、久堅町八〇電小石川五七三五)

**塚本與三次**　京都商事、山科精工所各(株)社長、山科土地(株)監査役、京都府在籍
母　うた　文久三、七生、京都、秋田音松二女
妻　キミ　明二一、六生、京都、松尾喜七養妹
男　正一　大六、一〇生
女　定子　大二、一一生
女　道子　大四、五生
君は滋賀縣人塚本忠行の長男にして明治十七年三月を以て生れ同二十三年家督を相續す現時京都商事山科精工所各社長にして前記會社の重役を兼ぬ長女芳子(明三九、九生)は滋賀縣人丸山久次郎に二女忠子(同四二、七生)は京都府人六施清治長男輝彥に嫁せりA一九五七(京都、左京、南禪寺草川町八一電上一一五)
參照＝六施清治の項

**塚本義郎**　明治銀行(株)考查部長　愛知縣在籍
養父　藤助　嘉永四、二生、現戶主
妻　まさ　明二七、八生、養父藤助長女
女　秀子　大四、一生
君は愛知縣人橫地龍之丞の二男にして明治二十五年三月を以て生れ大正九年塚本藤助の養子となる夙に早稻田大學を卒業し明治銀行に入り大正十一年以來東京支店長西支店長營業部次長等に歷任し昭和五年同行考查部長となり現在に至る養妹こと(明三〇、二生)は東京府人淸水徹に嫁せり(名古屋、東、鍋屋上野町字南山電本局二六九一)

**塚本良一郎**　金谷商榮銀行、大井川鐵道各(株)取締役、靜岡縣在籍
妻　もと　明元、一生、靜岡、乾喜代八養叔母
養子　福三　明一三、四生、長女かつ夫、靜岡島井俊三郎弟
女　かつ　明一七、一生、養子福三妻
孫　良子　明四二、一生、養子福三長女
孫　いづ　明四四、一生、養子福三二女
君は靜岡縣人匂坂東太郎の二男にして安政四年二月を以て生れ先代市右衛門の養子となり明治十一年家督を相續す現時金谷商榮銀行大井川鐵道會社各取締役たり家族は尙孫三一郎(大二、一一生、養子福三長男)同良二(同一一、三生、同二男)あり養弟保造(明一四、七生、靜岡、金原三保作二男)同妻りよう(同一八、八生、靜岡、塚本嫂三妹)は其三男二女を伴ひ分家せり(靜岡、榛原、金谷町)
參照＝島井俊三郎※福井阜太郎の項

**塚脇敬二郎**　日本毛織(株)常務取締役兼營業部長、昭和毛織(株)取締役、兵庫縣在籍
妻　かれ　明二四、二生、兵庫、中井政吉三女
女　美子　大二、一一生
女　華子　大五、七生
君は兵庫縣人塚脇門藏の三男にして明治十七年十二月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治四十一年神戶高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たりA九二六七(神戶、山本通五ノ九五電元町一八一五)

**司城元義**　日本銀行(株)審査部主事　大分縣在籍
妻　タツコ　明二六、一生、福岡、恒遠新妹
男　重義　大一二、一一生
女　久壽子　大三、四生
君は大分縣人司城通義の長男にして明治十二年二月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十八年東京帝國大學を卒業し日本銀行に入り調查局調查役を經て現に同行審査部主事たり家族は尙三女彌智子(大六、一生)四女多喜子(同八、一生)弟正木(明二〇、二生)同妻スナ(同二六、五生、大分、布津紋吉二女)及其子女ありA八二七(東京市外千駄ケ谷町原宿一〇九電靑山一三七九)

**月岡道保**　醫學博士、月岡病院長、醫師　千葉縣在籍
妻　ひで　明二七、六生、東京、士、喜多喜太郎養子
男　道雄　大一三、八生
女　光子　大四、一生
君は千葉縣人月岡福壽の長男にして明治十八年五月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し月岡病院を經營し其院長たり家族は尙二女文子(大七、一生)三女恭子(同八、九生)四女孝子(同一〇、一〇生)弟保壽(明二三、一二生)同妻さゑ(同二五、四生、千葉、森野喜惣治孫)及其子女あり妹せつ(同二一、七生)は千葉縣人大熊喜代松二男喜代治に同てい(同三四、二生)は同縣人池澤壽城に嫁し弟忠雄(同二七、四生)同妻タケ(同二六、六生、神奈川、靑木甚之丞二女)は其二子を伴ひ分家し叔母けん(同七、九生)も亦分家せりA八〇〇(東京市外入新井町新井宿二五七電大森三〇)
參照＝喜多喜太郎の項

**月田藤三郎**　正四位勳三等、農學博士、大日本生絲販賣組合聯合會會長、產業組合中央會副會頭、中央畜產會副會頭、帝國耕地協會副會長、購買組合共同會理事長、群馬縣在籍
妻　たか　明四、一生、東京、吉岡弘太郎妹
男　隆三　大三、二生
女　武子　明四三、四生
君は群馬縣人月田太郎の長男にして明治三年一月を以て生れ大正十四年家督を相續す先是明治二十九年帝國大學農科大學農學科を卒業し農商務技師に任じ農務局農政課長耕地整理課長畜產課長兼緬羊課長東京市區畫整理局長等に歷任し明治四十三年萬國農事協會政府代表委員として伊國に赴き次で歐米各國を視察し大正九

年農學博士の學位を受く現時前記の職に在り(東京、赤坂、青山南町六ノ一三五電青山六一八)

### 月村忠藏
月村組(株)代表取締役、月村同族(株)取締役、土木建築請負業
東京府在籍

父　平吉　慶應元、八生、現戸主
母　くめ　慶應二、一〇生、神奈川、本鄉市三郎妹

君は東京府人月村平吉の長男にして明治十八年四月を以て生る土木建築請負業を營み前記各會社の重役たり家族は尙弟實(明四二、三生)あり同正雄(同三四、八生)は分家せり(東京市外蒲田町御園二四電蒲田一二一六)

### 槻三次郎
石川縣多額納税者、呉服商
石川縣在籍

母　すゞ　嘉永六、一二生、石川、奥村與右衛門長女
妻　フサ　明二六、一生、石川、奥野佐三右衛門長女

君は石川縣人先代三次郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ同三十九年家督を相續し前名多一を改め襲名す呉服商を營み石川縣多額納税者にして直接國税千四百二十七圓を納む弟清七(明二六、一生)同妻照子(同三五、二生、石川、野口與三郎妹)は共に其二子を伴ひ弟常七(同二七、四生)同妻好(同三三、一一生、石川、櫻井要治郎妹)は共に其二子を伴ひ各分家し弟次吉郎(同三〇、二生)も亦分家し妹はる(同二三、二生)は石川縣人小鍛治次吉に嫁せり(金澤、下堤町四)
參照=※加賀谷四郎※河合末吉の項

### 築地金次郎
靜岡縣多額納税者、靜岡商工會議所議員、醬油釀造業、靜岡縣在籍

母　まつ　文久三、八生、靜岡、小長井久右衛門長女
妻　よし　明三三、三生、靜岡、花崎篤五女
男　强　大九、一二生

君は靜岡縣人先代金次郎の二男にして明治二十四年一月を以て生れ同四十一年家督を相續し襲名して前名利助を改む醬油釀造業を營み靜岡縣多額納税者にして靜岡商工會議所議員に擧げらる家族は尙長女富(大六、七生)二女國(同七、一一生)三女花(同一二、一生)六女高(昭三、九生)の外弟中介(明三〇、一〇生)同妻文子(同四一、三生、靜岡、水野富三郎四女)妹アイ(同三五、四生)あり姉すし(同一五、七生)同夫謙三(同一三、五生、靜岡、杉田利助叔父)は共一女を伴ひ分家し弟大助(同三四、二生)も亦分家し妹トヨ(同三二、一〇生)は靜岡縣人日影山福太郎に嫁せり(靜岡市茶町一)

### 築地宜雄
從四位勳五等、氣象臺技師、遞信省事務官、熊本縣士族

妻　烈　明一七、七生、熊本、士、宮崎素姪
男　明　大四、二生
女　道　大二、九生

君は熊本縣士族築地貞俊の三男にして明治十六年五月を以て生る同四十二年東京帝國大學理科大學實驗物理學科を卒業し長崎測候所技師上田蠶絲專門學校教授を歴任し現時中央氣象臺技師にして遞信省事務官仰付けらる家族は尙二女正(大九、一生)兄房雄(明一四、四生、現戸主)同妻チキ(同二七、四生、熊本、士、深水吉敬二女)弟邦輔(同三〇、一〇生、商學士)あり妹サツ(同二四、六生)は愛知縣人野垣茂樹に嫁し同ヒサ(同二八、一一生)は長野縣人渡邊中に嫁せり(東京、麴町、竹平町二中央氣象臺官舍一號)
參照=深水吉敬※男爵菊池武夫の項

### 築留勘左衛門
資産家
大阪府在籍

妻　くに　明六、四生、大阪、有井甚藏養妹
養子　寬　明四〇、八生、大阪、本出保治郎弟

君は大阪府人築留勘兵衛の長男にして明治六年七月を以て生れ同十八年家督を相續す資産家たり家族は尙妹よれ(明一三、一生)あり同もと(同九、六生)は大阪府人本出政治郎に嫁せり(大阪、西、本田町通二ノ三七電西三四八二)
參照=本出保治郎の項

### 次田潤
正五位勳四等、學習院教授
東京府士族

妻　益重　明二二、四生、岡山、河原峯太郎三女
男　眞幸　明四二、一〇生
女　美枝子　大五、三生

君は岡山縣士族次田濤次郎の長男にして明治十七年四月を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學文科大學國文學科を卒業し現時學習院教授にして著書に「萬葉集新講」「古事記新講」「祝詞新講」等あり家族は尙二男香澄(大二、一〇生)あり弟剛(明二三、九生、林學博士)は岡山縣士族田村喜作の養子となれり(東京市外西巣鴨町池袋丸山一五三九)

### 次田大三郎
從四位勳三等、內務省警保局長、警察講習所長、岡山縣在籍

妻　靜　明二八、七生、東京、江口定條長女
男　輝一　大一三、一〇生
女　不二　大四、一二生

君は岡山縣人次田大三郎の四男にして明治十六年三月を以て生れ後前名七五三五郎を改め昭和三年兄左馬五郎方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し茨城縣屬となり同四十四年石川縣事務官に任ぜられ爾來同理事官內務書記官鐵道院參事內務監察官社會局健康保險部長茨城縣知事內務省土木局長同地方局長等に歴任し現時內務省警保局長にして警察講習所長たり(東京、牛込、赤城下町五三電牛込三二〇八)
參照=江口定條の項

### 筑紫熊七
正四位勳一等功三級、陸軍中將
東京府在籍

妻　ヤヱ　明七、一〇生、熊本、士、益田勇長女
男　富士雄　明三六、八生
女　サチ　明四三、一〇生

君は熊本縣人筑紫源三の長男にして文久三年一月を以て生れ明治六年家督を相續す同二十年陸軍砲兵少尉に任ぜられ大正六年陸軍中將に累進す其間由良要塞副官參謀本部々員陸軍砲兵射擊學校教官大本營陸軍參謀(日露戰役)陸軍重砲兵射擊學校長陸軍技術審查部議員重砲兵監陸軍省兵器局長軍需局參與陸軍技術本部長等に歴補し同十二年豫備役被仰付曩に軍事視察の爲め淸國並に歐洲に出張を命ぜらる家族は尙五男五郎(大三、六生)七女マサ(同九、三生)あり長女ヨシ(明二六、三生、熊本縣立第一高女出身)は東京府士族島田繁太郎に三女ヤス(同三一、一〇生)は茨城縣人石橋茂作二男勝に四女ミツヨ(同三八、一生)は同縣人野口茂正に五女トヨ(同四一、七生)は岡山縣人光延東洋に嫁し二女





アサ(同二七、三生)四男廣勝(同三九、二生)は共に京都府士族村岡恒利の養子となり妹タメ(慶應元、一生)同夫格藏(文久二、五生、熊本、後藤惣平弟)は共に其女を伴ひ分家せり(東京市外和田堀町和泉三五八)
參照=島田繁太郎の項

### 筑紫三郎
筑三商店、木蠟製造業
大阪府在籍

母　小鈴　文久元、一生、朝日新聞社長村山龍平妹
妻　フキ　明二二、一生、大阪、池田半兵衛三女

君は大阪府人筑紫三次郎の二男にして川西清兵衛の甥なり明治十七年十二月を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十九年大阪高等商業學校を卒業し筑三商店と稱し木蠟製造業を營む家族は尙弟六郎(明二七、二生)及び其妻子あり(大阪、東、高麗橋五ノ三七電本局八一三)
參照=川西清兵衛※川西清司※川西龍三※村山長擧の項

### 筑紫六郎
神戸生絲(株)代表取締役、神戸取引所蠶絲取引員、大阪府在籍

妻　シン　明三三、八生、大阪、吉田長敬長女、大手前高女出身

君は大阪府人現戸主筑紫三郎の弟にして村山龍平川西清兵衛の甥なり明治二十七年二月を以て生る大正四年大阪高等商業學校を卒業し京都帝國大學法科大學に學ぶ家兄三郎を扶けて先代の遺業たる木蠟商に從事せしが大正六年獨立して直輸入商を創め筑六商店と稱す後是を廢し現に神戸取引所蠶絲取引員にして神戸生絲會社代表取締役たり家族は尙長女令子(大一四、一生)二女園子(昭二、一〇生)三女操(同四、一〇生)ありA一四〇〇(神戸、籠池通二ノ八電葺合五四三三)
參照=川西清兵衛、筑紫三郎、村山龍平※安宅彌吉※川西清司※川西龍三※村山長擧※吉田長祥の項

### 筑波藤麿
從四位勳一等、侯爵
山階宮家御一門

妻　喜代子　明四二、四生、子爵毛利高範五女
　女子學習院出身
男　常治　昭五、九生

君は故大勳位海軍大佐山階宮菊麿王の第三子にして山階宮武彦王侯爵山階芳麿の御弟伯爵鹿島萩麿伯爵葛城茂麿の御兄たり明治三十八年二月を以て生れ昭和三年七月臣籍に降下し筑波の家名を賜ひ華族に列し侯爵を授けらる學習院高等科を經て東京帝國大學文學部史學科に入り昭和二年卒業し更に大學院に在籍し史學を攻究す著述三册あり(東京市外代々幡町代々木本村八三七電四谷一五〇)
參照=山階宮家、侯爵山階芳麿、伯爵鹿島萩麿、伯爵葛城茂麿、子爵毛利高範※公爵近衛文麿※子爵近衛秀麿※男爵黒田長和※淺野長之の項

### 佃吉松
金融業
兵庫縣在籍

妻　とら　安政六、一二生、兵庫、平木傳藏妹
養子　傳吉　明二三、八生、兵庫、平木熊次郎弟
婦　あい　明二七、一〇生、養子傳吉妻、兵庫、藤田又右衛門三女
孫　清子　大五、四生、養子傳吉長女

君は兵庫縣人佃清吉の長男にして安政五年八月を以て生れ明治二十一年家督を相續す曩に藥種商たりしも現時金融業を營む家族は尙孫銀次(大一〇、六生、養子傳吉長男)同時子(同一二、一一生、同二女)同春惠(同一五、三生、同三女)同光生(昭五、三生、同二男)あり(神戸、平野五宮町一七七電元町二三三八)

### 佃文次
地家主
兵庫縣在籍

母　やゑ　明一六、四生、兵庫、橫山孫太郎姉
妻　みさゑ　明四四、一生、兵庫、堂內平五郎妹

君は兵庫縣人佃房太郎の長男にして明治三十五年十一月を以て生れ大正十四年家督を相續す同年神戸高等商業學校を卒業し地家主にして神戸海上火災運送保險會社員たりし事あり家族は尙弟淸(明四一、一生、同志社大學在學)同忠(同四二、一二生)妹さわ子(大四、六生)弟八郎(同一一、三生)あり妹吉子(明三七、一一生神戸森高女出身)は兵庫縣人鷲尾正保に嫁せりA九二一(神戸、平野五宮町一二八電元町一九八五)
參照=※山村四郎兵衛の項

### 柘植咲五郎
品海病院、醫師
岐阜縣在籍

母　つね　弘化四、二生、岐阜、渡邊新平長女
妻　ヨシ　明一〇、九生、富山、士、野瀨致倚長女
男　秀至　明二五、七生
婦　まさ　明三三、三生、長男秀至妻、富山
　市川伯清三女
男　秀麿　明三五、九生
男　秀臣　明三八、九生
女　美智　明四三、一〇生
女　富美　大二、二生

君は岐阜縣人柘植勇次郎の長男にして明治元年六月を以て生れ同三十七年家督を相續す夙に醫師となり品海病院を經營す家族は尙孫眞秀夫(大一五、四生、長男秀至長男)あり三男倚秀(明三三、七生)は分家し長女藏(同三六、一〇生)は三重縣人新谷藤十郎長男實男に二男千鶴(同四〇、四生)は新潟縣人福田周一に嫁せりA七六四(東京市外品川町北品川宿八三電高輪一二一四)
參照=※生田友次郎の項

### 辻榮助
京都府多額納税者、呉服商
京都府在籍

妻　サキ　明二〇、一〇生、養父榮助六女
庶子　隆三　大五、一〇生、生母、京都、大藪さと

君は京都府人寺町平藏の四男にして明治十二年二月を以て生れ先代榮助の養子となり同四十年家督を相續し前名四五郎を改め襲名す呉服商を營み京都府多額納税者にして直接國税六千百九十圓を納む(京都、下京、西洞院綾小路下ル綾西洞院町七四八電下一六四七)

### 辻勝太郎
米穀商
東京府在籍

母　きやう　明三、九生、三重、笹岡卯太郎妹

君は東京府人辻仁作の長男にして明治二十八年三月を以て生れ昭和四年家督を相續す米穀商を營む家族は尙長女嘉代子(大一四、九生)弟元彥(明四〇、一生)妹よね(同四四、一二生)弟善四郎(大三、三生)あり同豐彥(明三〇、三生)は東京府人田口きみよに妹千代(同三五、七生)は同府人廣瀨伊之助に各養子となり同佐賀子(同三二、一〇生)は同府人野口彥兵衛長男功造に同ゆり(同三七、八生)は宮城縣人齋藤直橋弟保次に同ます(同四二、一二生、東京女學館出身)は東京府人金盛仁平

に嫁せり（東京、深川、佐賀町一ノ一二電本所一四三三）
參照＝全盛仁平の項

**辻　久藏**　大阪府多額納稅者、辻久商店(株)監査役、貿易商、大阪府士族
男　信太郎　明二三、一一生
男　七五三雄　明三八、九生
男　寛三　明三九、一一生
君は大阪府士族辻又八の長男にして元治元年八月を以て生れ明治三年家督を相續す貿易商を營み前記會社の重役にして大阪府多額納稅者たり長女琴（明二五、一二生）は大阪府人竹内新次郎に嫁し二男謙二郎（同二七、一一生、辻久商店監査役、辻合資會社代表社員）同妻ハルコ（同三三、四生、廣島、藤本幸一養子）は共に其子女を伴ひ四男寧藏（同三二、八生、辻久商店取締役、長崎高商出身）同妻豐（同三五、一二生、大阪、梅原吉彥姉）は共に各分家し五男久五郎（同三三、一一生）同妻貞子（同三六、一一生、大阪、山口操二女）も亦共二子を伴ひ分家し三男新三郎（同三〇、三生）も亦分家せりA八五一二（大阪、東、北久太郎町四ノ五三電船場二〇〇四）
參照＝辻信太郎、辻新三郎の項

**辻　楠松**　大阪株式取引所取引員　大阪府在籍
妻　サワ　明一六、四生、大阪、根來幸治五女
男　貞一　明四五、一生
女　美代子　明四〇、一一生
君は大阪府人辻喜平の二男にして明治十一年一月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す現時大阪株式取引所短期取引員たり家族は尙二男收二（大一三、八生）あり長女勝子（明三七、八生）は大阪府人木村榮に嫁せりA二五六四B六七四（大阪、東、北濱一ノ三七電話本局六八〇）

**辻　惠次郎**　辻榮商店、染料並香料商　大阪府在籍
妻　サク　明一七、二生、大阪、竹中新助長女
養子　信譽　明三六、一生、二女雪子夫、大阪榎木民三郎二男
女　雪子　明四二、一二生、養子信譽妻
君は大阪府人稻垣香吉の實兄にして明治十一年十一月を以て生れ同三十八年先代あさの入夫となり家督を相續す辻榮商店と稱し染料並香料商を營むA四四〇一B一一三（大阪、南、大寶寺町中ノ丁一五電南三七五四）

**辻　敬助**　從五位勳五等、典獄、大阪刑務所長、山形縣在籍
父　豐太　文久二、一〇生、山形、猪俣半三郎長男、現戶主
母　岩野　慶應二、七生、先代藤右衞門長女
妻　致代　明三〇、一生、山形、佐藤淸吉五女
男　新　昭三、九生
君は山形縣人辻豐太の長男にして明治二十一年五月を以て生る同四十五年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し文官高等試驗に合格司法屬典獄補典獄監獄事務官司法事務官司法書記官に歷任し昭和四年典獄に任ぜられ現に大阪刑務所長たり大正十三年歐米各國に出張す家族は尙二女信子（大六、一〇生）妹芳（明四〇、一二生）養妹淸惠（同三四、三生、山形、中西市五郎從妹）同夫幸吉（同三一、一生、山形、梅本幸右衞門三男）及共二子あり妹眞佐江（同二六、八生）は山形縣人皆川初五郎を迎へて分家し同とよの（同三一、一二生）は同縣人本間八右衞門に嫁せり（堺、田出井町大阪刑務所內）

**辻　五郎**　三井合名會社員　東京府在籍
妻　千代　明三一、四生、養父粂吉長女
君は京都府人熊谷直之の弟にして明治二十二年十二月を以て生れ先代千代の入夫となり大正七年家督を相續す同五年京都帝國大學法科大學を卒業し三井合名會社に入り今日に及ぶ資產家たり家族は尙長女達子（大一一、三生）ありA一三一七（東京市外澁谷町松濤七二電青山七〇五〇）
參照＝熊谷直之の項

**辻　幸之介**　從四位、男爵　東京府華族
養母　コマ　慶應三、七生、男爵淺野忠允養大叔母
庶子　維丈　大一五、一生、生母、靜岡、黑柳かれ
當家は先々代維岳より家名を揚ぐ維岳は舊廣島藩士にして維新の際藩の執政職として王政復古に盡瘁する所尠からず明治元年參與職に擧げられ後大津縣知事宮內省出仕元老院議官等に歷任し同二十三年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる次男健介其後を繼ぎ貴族院議員に擧げらる君は故維岳の六男にして明治二十七年五月を以て生れ大正七年兄健介の家督を相續し翌八年襲爵仰付けらる夙に明治學院を卒業す家族は尙庶子幸子（大一二、一〇生、生母、靜岡、黑柳かれ）あり（東京市外目黑町上目黑五七三）
參照＝男爵淺野忠允の項

**辻　次作**　山治商會(株)取締役社長、ネクタイ商、東京府在籍
妻　みつ　明二二、七生、東京、松岡松之助妹
男　一次　明四一、二生
女　芳子　大三、二生
君は富山縣人辻伊兵衞の四男にして明治二十一年四月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立すネクタイ商山治商會取締役社長たり家族は尙四男繁次（大八、六生）三女美代子（同一一、八生）四女榮子（同一五、八生）あり三男淸太郎（同四、四生）は東京府人松岡竹之助に二女智惠子（同五、一一生）は同府人辻觀三に各養子となり二男靜雄（明四三、一一生）は分家せりA二〇八九B五〇四（東京、神田、和泉町一ノ一一電下谷三一三七）

**辻　重治**　帝國火災保險(株)取締役兼支配人、常磐火災海上保險(株)監査役　東京府士族
妻　賤子　明二〇、一一生、岡山、宮田良二女
養子　香子　大四、六生、靜岡、士、望月銑三郎三女
君は東京府士族阪井勝の三男にして明治十三年十月を以て生れ先代ふさの養子となり大正二年家督を相續す日本火災保險會社大阪支店長を經て現時帝國火災保險會社取締役兼支配人たる外前記會社の重役たりA四三〇（東京市外馬込町霜田二八八電大森五八七）

**辻　信太郎**　辻久商店(株)專務取締役、辻(資)代表社員、大阪府士族
父　久藏　元治元、八生、現戶主
妻　カネ　明二九、一生、大阪、今津治助姉
男　克藏　大六、二生
君は大阪府士族辻久藏の長男同新三郎の兄にして明治二十三年十一月を以て生る夙に父を扶けて貿易商に從事し現時辻久商店專務取締役辻合資會社代表社員たり家族は尙二男達雄（大九、一二生）二女瑩子（同一一、一二生）三男倫平（同一四、一〇生）四男靖治（昭二、九生）ありA一二二七五（大阪、東、北久太郎町四ノ五三電船場二〇〇四）
參照＝辻久藏、辻新三郎の項

**辻　新三郎**　昭和毛織(株)常務取締役、辻久商店(株)取締役、東洋貿易(株)取締役　大阪府在籍
妻　よし子　明二九、八生、福井、松村法吉養
君は大阪府人辻久藏の三男同信太郎の弟にして明治三十年三月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す現に前記各會社の重役たり大正十四年事業視察の爲歐米各國を約一ヶ年巡遊す謠曲圍碁に趣味を有す家族は尙長女多惠子（大一二、三生）四女壽惠子（昭三、三生）あり（西宮、川西町一二）
參照＝辻久藏、辻信太郎の項

**辻　助次郎**　從五位勳六等、岩手縣女子師範學校長、愛媛縣在籍
母　カネ　慶應三、四生、愛媛、須之內安太郎長女
妻　ハル　明二二、一生、愛媛、加藤伸市姉
君は愛媛縣人辻元次郎の二男にして明治十七年五月を以て生れ大正四年家督を相續す夙に東京高等師範學校を卒業し和歌山青森新潟香川長崎各縣中學校教諭廣島縣立廣島高等女學校教諭同縣立吳高等女學校長同縣三原女子師範學校長島根縣女子師範學校長を經て現時岩手縣女子師範學校長たり家族は尙養子篤子（大一〇、九生、愛媛、土屋虎男從妹）弟茂（明二六、一一生）同妻ヤス（同三六、一一生、香川、堤岩太郎二女）及其子女あり弟英三郎（同二二、一生）は其一子を伴ひ分家し同理（同四三、七生）も亦分家し妹環（同二九、七生）は東京府人二神種郎に同進（同三七、三生）は山梨縣人名取顯喜に嫁せり（盛岡、岩手縣女子師範學校內）
參照＝※須之內啓二郎の項

**辻　清次郎**　森永製菓(株)取締役、森永製茶販賣、森永製品山陰販賣、森永製品四國販賣各(株)監査役、東京府在籍
妻　初江　明三一、九生、神奈川、朝倉福太郎長女
男　久男　大六、六生
君は神奈川縣人大貫久太郎の長男にして明治十九年五月を以て生れ同二十七年先代祖父清次郎の後を承けて家督を相續す同四十年東京高等商業學校を卒業し三井物產會社に入り同社孟買スラバヤ等各支店に勤務し後之を辭し現時前記諸會社の重役たり家族は尙長女德子（大九、一一生）三男研吾（同一一、一生）四男隆吉（同一二、一二生）二女瑞子（同一四、八生）あり（東京市外大井町五〇五〇電大森一一五二）

**辻　清太郎**　眞岡商工會議所常議員、樺太產業(株)監查役、樺太在籍
男　寅之助　明二九、五生
婦　フジエ　明三三、六生、長男寅之助妻、北海道、秋野幸三郎長女
男　孝　明三四、一一生
婦　千代　明三九、三生、二男孝妻、青森、岩田永禧妹
女　ツヤ　大二、一〇生
君は滋賀縣人清水幸次郎の弟にして明治九年四月を以て生れ先代安五郎の養子となり同二十九年家督を相續す現時樺太產業會社監查役にして眞岡商工會議所常議員に擧げらる家族は尙六女ハナ（大六、一一生）孫紅美子（同一〇、一一生、長男寅之助長女）あり四女つる（明三九、八生）は北海道人西村肇に嫁せり（樺太、眞岡、眞岡町）

**辻　偁一郎**　三井銀行(株)廣島支店長　東京府在籍
母　ミツ　慶應元、七生、京都、中村芸助長女
妻　住子　明二六、三生、和歌山、浦野誠太郎妹
男　佑吉　大五、一一生
君は京都府人辻偁吉の長男にして明治十六年十一月を以て生れ大正九年家督を相續す三井銀行に入り營業部長を經て現時同行廣島支店長たり家族は尙二男偁二（大八、五生）四男吉彥（同一三、一一生）長女美智子（同一五、一一生）二女富士子（昭四、七生）あり妹たみ（明二二、八生）は岡山縣士族見戶浩巍に嫁せりA一一〇七（廣島市鐵砲町四七電六五五）
參照＝浦野誠太郎、見戶浩巍※嗣永良造の項

**辻　善之助**　正四位勳三等、文學博士、東京帝國大學教授兼史料編纂官、文學部勤務、東京府在籍
母　つれ　嘉永二、二生、兵庫、小川新兵衞長女
妻　キク子　明二二、四生、醫學博士田代義德長女、御茶の水高女出身
男　達也　大一五、七生
女　道子　明四二、三生
女　千枝子　大四、一二生
君は兵庫縣人辻善次郎の長男にして明治十年四月を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十二年東京帝國大學文科大學國史科を卒業し大學院に入り史料編纂官東京帝國大學文科大學助教授に歷任し同四十二年文學博士の學位を受く現時同大學教授にして史料編纂官同所長を兼ぬ曾て歐米に差遣せらる著書に「日本佛教史の研究」「海外交通史話」等あり家族は尙四女明子（大一一、七生）あり弟仁三郎（明一九、六生）は其一子を伴ひ分家し姪文子（大八、一一生、弟仁三郎長女）は兵庫縣人鹽田幾太郎の養子となれり（東京市外戶塚町上戶塚七八三電牛込一五七八）
參照＝田代義德※今村力三郎※和田信夫の項

**辻　太一**　東神倉庫(株)門司支店長　和歌山縣士族
母　みの　安政元、一生、和歌山、谷井保姉
妻　キク　明二五、一一生、埼玉、關根延吉郎二女
男　武　大五、四生
君は和歌山縣士族辻政十郎の二男にして明治十四年十二月を以て生れ同四十年家督を相續す現時東神倉庫會社門司支店長たり家族は尙長女喜美子（大六、一一生）二男勇（同九、八生）あり弟順吉（明二二、三生）は分家せりA七八二（門司、清見二二六三電四五）
參照＝谷井保の項

**辻　太郎**　正四位勳三等、男爵、貴族院議員　東京府華族
妻　柳　明一五、一〇生、東京、士、故室田秀松姉
當家は先代新次より顯る新次は舊松本藩醫辻漸の二男にして少壯江戶に出でて洋學を修め明治四年文部省に出仕し大學助教授外國語學校長文部權大書記官同大書記官文部次官貴族院議員等に歷任す又帝國教育會々長

に擧げられ文政に貢獻する所多し明治四十一年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる晩年實業界に入り仁壽生命保險伊那電氣鐵道等諸會社を設立し其社長に推さる君は其長男にして明治二年六月を以て生れ大正四年襲爵す明治十七年工部大學校に學び同十九年米國に留學しロオズ工科大學を卒業す歸朝後內務遞信諸省に奉職し更に鐵道院技師に任ぜられ後實業界に投じ伊那電氣鐵道外數會社の重役に擧げらる現時貴族院議員にして公正會に屬す弟同次郎（明一〇、八生、早大文科出身）は分家し妹あか子（同八、一生）は故理學博士齋田功太郎に同信子（同一三、二生）は第一銀行取締役野口彌三に叔母末（安政二、三生）は醫學博士今村新吉亡父有隣に嫁せり（東京市外千駄ヶ谷町千駄ヶ谷五四三電青山四六〇）
參照＝今村新吉、野口彌三※深川繁治の項

**辻　卓爾**　從四位勳四等、廣島高等師範學校教授、岡山縣士族
母　萬龜　安政元、七生、岡山、士、川村平太兵衞長女
妻　久代　明二一、四生、岡山、士、堤鉦太郎長女
君は岡山縣士族辻勘兵の長男にして明治十三年七月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十九年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し大學院に入り同四十年東北帝國大學農科大學豫科教授に任ぜられ同四十一年第六高等學校教授に轉じ大正九年廣島高等師範學校教授に任じ現時其職にあり昭和四年獨逸に留學す家族は倚三女幸代（大九、二生）あり（廣島市高等師範學校內）

**辻　武十郎**　岡山縣多額納稅者、酒醬油釀造業　岡山縣在籍
妻　こう　安政四、一一生、岡山、辻豐五郎姉
男　源一郎　明一五、一生
婦　敎　明二一、八生、長男源一郎妻、岡山、山本宗七四女
男　和敬　明一七、七生
婦　ハツ　明二八、二生、二男和敬妻、神奈川、中山タミ長女
男　敬三　明二五、四生
婦　てる　明三六、五生、三男敬三妻、兵庫、細盛彌兵衞三女
孫　泰子　大二、七生、長男源一郎二女
君は岡山縣人辻彌平の長男にして安政六年六月を以て生れ明治八年家督を相續す家業たる酒醬油釀造業を營み岡山縣多額納稅者にして直接國稅三千四百七十三圓を納む勝山町會議員商工會頭等公共團體の役員に擧げられ同地方の名望家たり曩に美作勝山銀行取締役頭取たり昭和二年紺綬褒章を賜ふ家族は倚孫彌兵衞（大四、五生、長男源一郎二男）同和子（同六、一〇生、同四女）同元子（同八、一生、同五女）同倚敬（同一四、八生、同三男）同禎造（同一五、三生、三男敬三長男）あり長女登茂（明一一、一生）は兵庫縣人小川傳治郎長男直太郎に二女よう（同一三、一二生）は岡山縣人三宅信太郎に四女英（同二二、七生）は兵庫縣人伊藤景治長男壯太郎に嫁し三女小良（同二〇、一二生）は岡山縣人三村忠治郎の養子となれり（岡山、眞庭、勝山町電三）
參照＝三宅信太郎の項

**辻　忠右衞門**　資產家　大阪府在籍
母　千鶴　慶應元、一〇生、養祖父忠右衞門長女
妻　額　明三七、二生、滋賀、居初庫太妹
男　正雄　大一三、八生
君は大阪府人先代忠右衞門の長男にして明治二十七年一月を以て生れ昭和五年家督を相續し舊名政太郎を改め襲名す少壯經史に通じ慶應義塾に學ぶ爾來先代の遺業を繼承し實業界教育界に貢獻せんとす家族は倚二男義夫（昭二、七生）三男順三（同五、二生）あり妹芳子（明三五、二生）は分家せりA五八八六〇（大阪、東、伏見町一ノ五電本局三七九）

**辻　忠郎兵衞**　京都府多額納稅者、辻紡績㈱取締役、大文字屋、綿布商、京都府在籍
妻　とみ　明二七、六生、京都、辻信次郎孫
女　みちえ　大五、三生
君は京都府人辻貞吉の弟にして明治二十二年二月を以て生れ先代忠郎兵衞の養子となり大正十年家督を相續し前名敬吉を改め襲名す大文字屋と稱し綿布商を營み直接國稅一萬七千四百三十一圓を納め京都府多額納稅者に列し傍ら辻紡績會社取締役たり家族は倚二女としえ（大六、八生）あり（京都、下京、諏訪町五條下電下三六）

**辻　長次郎**　富士製氷㈱取締役、辻長商店、和洋酒食料品商、京都府在籍
妻　ツネ　明一二、六生、大阪、田中勇助三女
君は京都府人山本長左衞門の長男にして明治七年十二月を以て生れ先代長兵衞の養子となり同三十六年家督を相續す和洋酒食料品商を營み傍ら前記會社の重役たりA二二七一B六一六（京都、中京、東木屋町四條上ル電本局二五五九）

**辻　直吉**　伊勢農事㈱社長、駒田商店、福吉藤糸各㈱取締役、伊勢殖產㈱監査役、三重縣在籍
妻　とゑ　明一三、二生、岐阜、山田治朗妹
男　鴻一郎　明三八、一生
君は三重縣人辻林兵衞の長男にして元治元年六月を以て生れ明治六年家督を相續す現時伊勢農事會社長にして傍ら前記各會社の重役を兼ぬ曩に松阪銀行山田商業銀行三重土地會社の重役たりし事あり家族は倚三男道三郎（大二、一〇生）あり妹やす（慶應元、一二生）は三重縣人西田周藏に嫁し弟巳之助（明二、六生）は絕家中村氏を再興せりA五一〇（三重、飯南、花岡村電五三五）

**辻　兵吉**　秋田縣多額納稅者、秋田商工會議所會頭、秋田銀行、秋田貯蓄銀行各㈱頭取、秋田木材、秋田製板、秋田信託各㈱取締役、北秋木材、山本製材各㈱監査役、秋田縣在籍
母　エイ　安政四、八生、祖父大吉長女
妻　マサ　明一七、一一生、秋田、鈴木德五郎長女
男　兵太郎　明三二、四生
婦　クニ　明三八、四生、長男兵太郎妻、秋田、本間金之助妹
男　男之助　明三四、三生
男　富之助　明三六、一一生
男　信之助　明四三、一一生
女　ヨシ　明四四、一〇生
女　キク　大五、一一生
君は秋田縣人先代兵吉の長男本間金之助の再從兄にして明治八年十一月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名良之助を改め襲名す現に秋田銀行秋田貯蓄銀行各頭取たる外前記會社の重役にして直接國稅一萬四千六





百四十八圓を納め縣下の多額納稅者たり又秋田商工會議所會頭に推さる家族は倚五男光之助（大九、八生）五女ヨウ（同一五、一二生）孫アイ（同一三、一生、長男兵太郎長女）同良一（同一五、五生、同長男）同テイ（昭五、二生、同二女）妹キヤウ（明一八、三生）及其子女弟隆吉（同三〇、四生）同妻キエ（同三四、三生、秋田、平川孫兵衞二女）及其子女並亡妹シゲの一子あり妹イチ（同二〇、三生）は秋田縣人山內三郞兵衞に嫁し弟吟次郎（同二四、三生）は分家せり（秋田市大町二ノ三二）
參照＝平川孫兵衞、本間金之助※小川長右衞門の項

**辻　紋治郎**　出水組、土木建築請負業　大阪府在籍
妻　ハナ　明二一、一生、大阪、角田佐太郎長女
男　圭三　明四一、九生
女　善榮　明四三、七生
女　富子　大五、二生
君は大阪府人安封宇吉の弟にして明治十二年十二月を以て生れ先代紋治郎の養子となり同三十五年家督を相續し後前名木三市を改め襲名す出水組と稱し土木建築請負業を營む家族は倚三男紋次（大一一、二生）ありA二五一七B二〇八（大阪、豐能、豐津村垂水六二六電吹田二七）
參照＝安封宇吉の項

**辻　彌藏**　山梨縣多額納稅者、三省樓、割烹業　山梨縣在籍
養母　とく　弘化四、一一生、三枝克藏長女
妻　たか　明八、九生、內藤金兵衞長女
養子　芳雄　明三五、七生、二女あい吉夫、山梨、士、小林繁作弟
女　あい吉　明三五、五生、養子芳雄妻
養子　信三　明三六、一〇生、三女久代夫、山梨、大木兵藏三男
女　久代　明三七、七生、養子信三妻
君は山梨縣人原萬吉の四男にして明治八年十月を以て生れ先代彌藏の養子となり大正六年家督を相續し前名久治郎を改め襲名す三省樓と稱し割烹業を營み直接國稅二千三百四十二圓を納め縣下の多額納稅者に列す曩に大丸商店取締役たりし事あり家族は倚孫安子（大一五、二生、養子芳雄長女）同米子（昭三、三生、同二女）同信太郎（同二、一二生、養子信三長男）あり（甲府、櫻町一三電三四）

**辻　由太郎**　辻由太郎商店㈾代表社員、支那貿易業、和歌山縣在籍
母　トヨ　嘉永六、一一生、和歌山、戸西平助長女
妻　ムネ　明一二、一二生、和歌山、戸西儀兵衞二女
男　忠右衞門　明三二、一〇生、現戸主
婦　當子　明三二、八生、長男忠右衞門妻、京都、三巻惠次姉
男　芳茂　明三六、一二生
君は和歌山縣人辻忠左衞門の長男笹村竹造の兄にして明治五年三月を以て生る支那貿易業を營み合資會社辻由太郎商店代表社員たり渡支すること十數回長江上流を視察す家族は倚孫祥子（昭五、九生、二男芳茂長女）ありA一五九二B五四五（大阪、西、江戶堀北通四ノ一四電土佐堀一八三三）
參照＝笹村竹造の項

**辻　善定**　正五位勳六等、靜岡高等學校教授、岐阜縣在籍
妻　ひさ　明二九、六生、岐阜、仙石彌一長女
男　定一　大六、九生
女　幸子　大四、一二生
君は岐阜縣人辻得善の長男にして明治二十年四月を以て生れ同四十五年家督を相續す大正元年京都帝國大學文科大學を卒業し直に職を第八高等學校に奉じ同十年山口高等學校教授に轉じ同十二年獨英米瑞各國に留學し同十四年歸朝翌十五年靜岡高等學校教授となり今日に至る家族は倚二女和子（大九、一生）二男定二（同一一、一生）三女順子（同一五、一生）三男定三（昭五、二生）あり妹ふじえ（明二四、四生）は岐阜縣人早川林彌二男壽太郎に嫁し弟良祐（同二八、七生）は分家せり（靜岡市東草深町二ノ一一）

**辻　利兵衞**　京都府多額納稅者、茶商　京都府在籍
妻　ちう　明二〇、一二生、養父豐次郎長女
男　豐次郎　明四五、六生
女　重　大三、五生
君は京都府人山本榮次郎の弟にして明治十四年九月を以て生れ同三十九年先代ちうの入夫となり家督を相續し前名恒次郎を改む茶商を營み直接國稅四千九百五圓を納め京都府多額納稅者たり家族は倚三男三郎（大八、七生）三女良（同一〇、九生）四女貞（同一三、三生）あり二男彥次郎（同五、三生）は京都府人森榮太郎の養子となれり（京都、久世、宇治町）

**辻井　利三郎**　京都府多額納稅者、地家主　京都府在籍
妻　ひで　明一九、二生、京都、岡村りう姪
男　和三郎　明四一、五生
女　恒子　大五、九生
君は京都府人辻井利兵衞の長男にして明治十四年二月を以て生れ同十六年家督を相續す土地家屋經營を營み現時京都府多額納稅者にして直接國稅五千六十圓を納む姉サト（明八、三生）は京都府人佐藤三之助に同ヤス（同一〇、三生）は同府人久保田儀助に嫁し弟房次郎（同一六、七生）は同妻うの（同二〇、五生、京都、安村長三郎妹）と共に弟文治郎（同二三、七生）同妻イト（同二九、二生、京都、和田伊三郎姉）は共に各分家せり（京都、東山、通松原上ル四丁目毘沙門町四六電祇園二二）

**辻川　梅三郎**　南明月樓、割烹業　大阪府在籍
男　龜夫　明三五、一一生
婦　好子　明三五、一二生、長男龜夫妻、大阪、乙倉壽吉長女
男　治郎　明三七、七生
女　喜代子　明四三、二生
君は廣島縣人金井半右衞門の六男にして明治三年五月を以て生れ大阪府人辻川治助の養子となり大正十二年分れて一家を創立す南明月樓と稱し割烹業を營む家族は倚三男卯三郎（大四、八生）孫ミチ子（同一三、一一生、長男龜夫長女）同治（昭二、一〇生、同長男）あり（大阪、南、難波新地六番丁六電戎二〇〇六）

**辻阪　信次郎**　大阪府會議員、虎屋信託㈱取締役　大阪府在籍
妻　登代　明二五、四生、大阪、木村寅之助長女
男　昌一　大三、四生
君は大阪府人辻阪芳之助の弟にして明治十八年十月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す現に虎屋信託會社取締役にして推されて大阪府會議員たり曩に同府會

議長たりし事あり家族は尚三男基次郎(大四、四生)長女孝子(同七、三生)二女褒子(同一〇、二生)ありA一〇九二(大阪、南、疊屋町一八電南一四八〇)
參照＝辻阪芳之助の項

**辻阪芳之助**　家主　大阪府在籍
母　コト　安政元、七生、先々代作次郎長女
妻　信子　明三一、一生、大阪、木村寅之助二女
男　要　大一五、一一生
君は大阪府人辻阪作次郎の長男同信次郎の兄にして明治十五年四月を以て生れ大正四年家督を相續す先々代大和屋作次郎以來兩替商を營み金融業者として知られ現時家主たり家族は尚長女晃子(大八、七生)二女俊子(同一二、七生)三男德(昭四、九生)あり(大阪、南、心齋橋筋二ノ一五電南一四九三)
參照＝辻阪信次郎の項

**辻野三郎**　從五位勳六等、島根縣書記官、警察部長、和歌山縣在籍
母　シカ　文久元、一〇生、和歌山、長田源三郎長女
妻　千代　明三二、二生、和歌山、名出義雄二女
男　嘉穗　大一〇、一一生
君は和歌山縣人辻野惣兵衛の三男にして明治二十四年三月を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學に入學大正四年在學中文官高等試驗に合格同五年卒業次で大學院に入り同六年退院し同年廣島縣屬となり爾來廣島縣警視同縣郡長石川縣理事官地方事務官青森縣書記官學務部長福井縣書記官警察部長等に歷任し昭和四年島根縣書記官に任ぜられ警察部長に補せらる家族は尚二男耕二(大一二、九生)三男啓三(同一四、八生)長女和子(昭二、八生)兄保(明一六、五生、現戸主)及其子女あり姉かめよ(同二一、五生)は和歌山縣人増尾房次郎に嫁せり(松江、北堀町赤山官舍)
參照＝増尾房次郎の項

**辻畑重俊**　陸軍三等主計、椎田合同銀行(株)頭取、福岡縣在籍
父　律藏　嘉永五、一〇生、現戸主
母　リヘ　明三、九生、福岡、西村敬治二女
妻　ミサチ　明二五、三生、福岡、西村謙一妹
男　康俊　大五、四生
女　ツマコ　大二、一生
君は福岡縣人辻畑律藏の二男にして明治十九年八月を以て生る同四十年早稻田大學專門部政治經濟科を卒業し現に椎田合同銀行頭取たり家族は尚二女ハルヱ(大一四、一生)妹菊野(明三二、九生)弟良夫(同三七、三生)同順一(同四二、一〇生)同敬治(同四四、九生)あり妹富士枝(同三〇、九生)は福岡縣人上田實弟武彦に同セツヱ(同三四、一一生)は同縣人細川文雄に嫁せり(福岡、築上、椎田町)

**辻林包藏**　正八位勳八等、辻林銀行(株)頭取　大阪府在籍
君は大阪府人辻林潤一郎の三男にして萬延元年を以て生れ大正十五年兄欽逸郎方より分れて一家を創立す現に辻林銀行頭取たり(大阪、泉北、南池田村電三林二四)

**辻村榮助**　秋田屋、釀造用器製造販賣商　大阪府在籍
妻　うた　明一〇、二生、大阪、安川喜三郎二女
男　秀三郎　明四二、一生
君は廣島縣人西尾常藏の二男にして文久三年二月を以て生れ先代榮祐の養子となり明治三十八年家督を相續し前名勝太郎を改む安永年間創業の祖業を繼ぎ秋田屋と稱し釀造用器製造販賣を營み傍ら月刊雜誌釀造商報を發行す家族は尚四男誠介(大二、七生)五男卓三(同六、一〇生)あり長女猶江(明三一、六生)同夫慶太郎(同二一、二生、宇佐美喜三郎長男)は共に分家し三女幸枝(同三五、六生)は大阪府人生島松三郎に四女益枝(同三八、九生)は同府人和藥タマ養子榮三郎に嫁せり(大阪、西、土佐堀通四ノ九電土佐堀一二一〇)

**辻村楠造**　正四位勳二等功三級、退役陸軍主計總監、帝國在鄕軍人會財團理事長、高知縣士族
妻　サタ　明二〇、二生、鹿兒島、士、山口靜子叔母
男　良輔　明二四、一生、慶大出身
婦　とみ　明三一、八生、長男良輔妻、京都松本繁次郎妹
女　延子　明四三、一一生
女　元子　大四、一〇生
君は高知縣士族辻村光盛の長男にして文久二年一月を以て生る明治十八年陸軍少尉に任じ大正二年陸軍主計總監に累進す其間陸軍省經理局糧秣課長陸軍大學校教官陸軍經理學校長關東都督府近衞師團各經理部長陸軍省經理局長等に歷補す現時退役にして帝國在鄕軍人會財團理事長の職に在り曩に日本セルロイド人造絹絲日本纖維化工各會社長たりし事あり家族は尚三男光彌(大六、一生)五女順子(同七、二生)四男楠高(同一〇、三生)の外甥三郎(明二五、八生、辻村秀信三男、現戸主、理學士)同妻景子(同三三、九生、東京、野呂景武二女)及其二女あり(東京、牛込、左内町二電牛込五三〇)
參照＝※氏家謙曹の項

**辻村浩三**　中津川銀行(株)取締役兼支配人　岐阜縣在籍
父　直二郎　萬延元、三生
母　きせ　元治元、八生、岐阜、田口幸助三女
妻　かすみ　明二八、六生、岐阜、原龜藏長女
男　玄平　大三、一一生
君は岐阜縣人辻村直二郎の長男にして明治十七年十一月を以て生れ大正九年家督を相續す現時中津川銀行取締役兼支配人たり家族は尚三男眞平(大七、一二生)四男耕平(同一〇、一生)五男貞雄(同一三、九生)弟精一(明三五、八生)あり(岐阜、惠那、中津町)

**辻村秀次郎**　大正刷子植毛(株)代表取締役　大阪府在籍
父　伊作　文久三、七生、大阪、小澤次三郎三男
繼母　すへ　明一五、八生、大阪、松本條吉妹
妻　キクヱ　明一八、一〇生、大阪、森田駒吉三女
男　繁　明四一、二生
男　勇　明四二、四生
女　富美子　明四四、一生
女　芳子　大元、一〇生
女　久子　大五、八生
君は大阪府人辻村伊作の長男にして明治二十一年三月を以て生れ大正十三年家督を相續す現時大正刷子植毛會社代表取締役たり家族は尚三男清(大九、一二生)弟榮三郎(明三七、四生)同妻ハルヱ(同三七、五生、兵庫、居谷幸一郎長女)同信夫(同四三、一生)妹花子(大二、一二生)あり弟伊三郎(明二三、八生)は同妻節子(同三二、一一生、大阪、安本元治郎長女)及其一男一女を伴ひ分家せり(大阪、天王寺、寺田町五電天王寺二〇〇一)

**辻村與三郎**　凸版工業(株)取締役、日本寫眞通信社(資)社長、辻村製版所(資)社長、亞細亞通信社長、寫眞製版業　東京府在籍
妻　ツタ　明六、一一生、愛媛、菅野英吉妹
男　與一郎　大八、一二生
君は滋賀縣人辻村三郎の三男にして明治十年四月を以て生れ同四十二年兄奕太方より分れて一家を創立す寫眞製版業を營み辻村製版所を經營する傍ら前記諸會社の重役たり(東京、京橋、銀座五ノ四ノ七電銀座一六七〇)

**辻村芳太郎**　日神海運商會、東海商事、昭和汽船各(株)社長、海運業、佐賀縣在籍
父　芳藏　文久元、二生、現戸主
妻　さめ　明二二、四生、兵庫、澤村米吉二女
女　芳子　明四一、七生、養子梅吉妻
養子　梅吉　明三八、四生、長女芳子夫、愛知杉山晋四郎二男
君は佐賀縣人辻村芳藏の長男にして明治十四年七月を以て生る鎭西學院出身にして海運業を營み傍ら日神海運商會社長の外前記各會社長たり曩に神戸市會議員に推さる家族は尚孫博(昭五、七生、養子梅吉長男)あり弟善治郎(明二一、一二生)同妻ふみ(同二七、三生、兵庫、眞田吉平四女)は其四男一女を伴ひ弟五兵衛(同三一、一生)同妻きぬ(同三七、三生、兵庫、白岡喜治郎長女)は其一男を伴ひ弟進一郎(同三三、一二生)は各分家し妹裕子(同三六、六生)同夫澤太(同三六、八生、佐賀、西岡庄藏弟)も亦其一男一女を伴ひ分家し妹キク(同一七、一二生)は佐賀縣人山下善藏三男善秀に同ハツ子(同四二、二生)は同縣人進藤村治二男文二に嫁せりA四〇六(神戸、山本通四ノ二五電葺合三三三五)

**辻本英一**　福助足袋、福助商事各(株)取締役、古河製絲(株)監査役、大阪府在籍
父　豐三郎　明一四、一生、現戸主
妻　ツタ　明三七、九生、京都、古川源三郎長女
君は大阪府人辻本豐三郎の長男にして明治三十三年三月を以て生る夙に大阪大倉商業學校を卒業し現時福助足袋會社取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尚長女富久子(大一四、一一生)あり(堺、神明町西一ノ九電濱寺二一四)
參照＝辻本豐三郎、古川源三郎の項

**辻本豐三郎**　衆議院議員(大阪府選出)、堺商工會議所會頭、福助足袋、福助商事各(株)社長、大阪府在籍
養母　まつ　文久二、一〇生、大阪、大澤治平妹
妻　ます　明一五、六生、養父福松長女
男　奕一　明三三、三生
養子　昇　明三八、四生、二女文夫、大阪、山崎秀四郎二男
女　文　明四二、八生、養子昇妻、堺高女出身
當家は先々代辻本福松分家して一家を創立したるに始まる本家辻本家は堺市土着の舊家にして木綿類の小賣をなせり福松初め文房具商を營みしも明治十六年足袋製造を創め同三十七八年頃商標を福助と稱し積極的擴張の下に今日の基礎を成せり君は大阪府人北川源之助の長男にして明治十四年一月を以て生れ先々代福松の養子となり大正九年養弟福松の後を享けて家督を相續す幼より養父經營の足袋工場に勤務し養父弟を助けて其發展を圖し後福助足袋會社福助商事會社を興し營業を之に繼承し現に其社長たり堺商工會議所會頭に推さる昭和五年衆議院議員に當選し立憲民政黨に屬す家族は尚四男俊雄(大五、一一生)五男博(同九、一一生)あり二男幸治(明三五、三生、法學士、福助商事會社取締役)同妻ヤヱ(同四二、一一生、大阪、山本東作妹)及長女喜久(同三八、五生、堺高女出身)同夫敬三(同三二、八生、京都、莊林維新三男、福助商事會社取締役)は各其一子を伴ひ分家せり(堺、神明町西一ノ九電濱寺二一四)
參照＝辻本英一、山本東作※瀧波芳太郎※武田二郎※寺田元之助※柳原三郎※藪田勘兵衛※山崎彌兵衛の項

**辻山右平**　岩手縣多額納稅者、膽江電力、水澤合同運送各(株)取締役、岩手銀行(株)監査役、農業、岩手縣在籍
繼母　シツ　元治元、三生、岩手、畠中良藏二女
妻　とみよ　明二六、四生、宮城、青沼彥治二女
男　誠一　大六、一〇生
女　京子　大二、二生
女　鐵子　大四、一一生
君は岩手縣人先代右平の三男にして明治二十二年六月を以て生れ同四十三年家督相續と共に襲名して前名德三郎を改む農業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして岩手縣多額納稅者たり曩に水澤鑄造鐵工會社取締役たりし事あり家族は尚二男慶治(大九、九生)三男啓三(同一二、一生)四男博(同一四、五生)五男忠(昭三、九生)あり弟治平(明三〇、五生)は分家し同武平(同三二、一〇生)は岩手縣人辻山利四郎の養子となれり(岩手、膽澤、水澤町)
參照＝青沼彥治※村井源之助の項

**辻山豐治**　岩手縣多額納稅者、膽江電力(株)社長、砂糖小間物商、岩手縣在籍
妻　フサ　明一五、八生、青森、生田嘉平治妹
男　安太郎　明二三、三生
婦　幹　明三一、二生、長男安太郎妻、岩手、辻山又治郎長女
男　善治郎　明二五、三生
婦　周子　明三二、二生、二男善治郎妻、岐阜、野原安司妹
男　文六　明三二、一〇生
婦　キクヨ　明三七、一生、三男文六妻、岩手菊田龜治妹
君は岩手縣人辻山文兵衛の長男にして慶應元年十二月を以て生れ明治二十七年家督を相續す砂糖小間物商を營み現時膽江電力會社々長にして岩手縣多額納稅者たり曩に膽江電力會社專務取締役水澤銀行取締役たりし事あり家族は尚孫正太郎(大四、一一生、長男安太郎長男)同綾子(昭三、四生、三男文六長女)あり長女マツ(明二七、一一生)は岩手縣人池田惣兵衛養子省治郎に二女タケ(生年月同上)は同縣人八幡勇吉甥健造に三女ツノ(同二九、六生)は同縣人辻山修平に嫁せり(岩手、膽澤、水澤町電六四)

**續　憓**　住友(資)經理部鑛山課長　東京府在籍

繼母 セ ウ 明六、二生、山口、山中朋太郎姉
妻 ハ ツ 明二九、五生、山口、野村重太郎長女
男 辰一郎 大五、一一生

君は東京府人續常太郎の長男にして明治二十三年三月を以て生れ大正十年家督を相續す明治四十四年東京高等商業學校を卒業し現時住友合資會社經理部鑛山課長たり家族は尙長女ヨネ(大九、六生)あり(兵庫、武庫、精道村三條西良手一二五電芦屋三一二七)

## 續木籌三郎

新守座(株)顧問、愛知新聞社長 愛知縣在籍

妻 む め 明一八、一〇生、愛知、富田代吉二女

君は愛媛縣人續木元太郎の三男にして同篤次郎の弟なり明治十三年五月を以て生れ同三十六年兄多助方より分れて一家を創立す嚢に東京やまと新聞社及大阪やまと新聞社を經營し大正四年名古屋市に於て東海新聞社を買收し現に愛知新聞社々長にして新守座顧問たり嚢に名古屋日々新聞社々長たりしことあり(名古屋、中、南鍛治屋町五ノ一〇電中七三)

參照＝續木篤次郎の項

## 續木篤次郎

正五位勳三等功五級、在鄕海軍主計大佐、大同電力(株)理事、大阪電力、和泉電氣、信美電力、伊那川電力、立山水力電氣、大同肥料、大同土地興業各(株)監査役、愛媛縣在籍

妻 カ メ 明九、二生、愛媛、續木鎭夫叔母
男 馨 明三四、六生、同志社大學出身、大阪電氣軌道會社員
婦 滿 喜 明三九、三生、長男馨妻、京都、石原廣一郎妹
女 千枝子 明四二、一生、同志社女學校專門部家政科出身

續木家は新田志摩の後裔にして東豫土居の舊家なり君は先代元太郎の二男續木籌三郎の兄にして明治四年六月を以て生れ同三十三年兄多助方より分れて一家を創立す同二十九年日本大學法律科を卒業し海軍高等武官試驗を經て同三十一年海軍少主計に任ぜられ爾來累進して大正五年主計大監となり其間北淸事變日露日獨各戰役に從軍し軍艦安藝榛名及び艦隊の主計長舞鶴佐世保吳の各鎭守府經理部課長廣工廠設立委員等を經て同十年豫備役となり大同電力會社に入社し現時前記各會社の重役を兼ぬ刀劍繪畫に趣味を有す家族は尙六男元大(大三、一〇生、甲南高校在學)あり長女瑞枝(明三六、五生)は愛媛縣人十龜賢吉長男道識に嫁し二男正大(同三八、八生、慶大出身)は其妻秀子(同四〇、一生、靜岡、伴野廣長女、女子英學塾出身)を伴ひ分家し五男光大(大元、八生)も亦分家せりA七五四(兵庫、川邊、立花村塚口住宅地二條通)

參照＝石原廣一郎、十龜賢吉、續木籌三郎、伴野廣の項

## 蔦谷巖

從五位勳四等、檢事、大分地方裁判所檢事兼大分區裁判所檢事 大阪府在籍

妻 キ ミ 明一四、四生、大阪、葉田秀三郎姉
養子 鶴 枝 明四三、三生、大阪、菱谷幸太郎長女

君は大阪府人蔦谷元兵衞の長男にして明治七年十一月を以て生れ同四十年家督を相續し前名岩太郎を改む夙に稅務屬大阪府屬となり同三十六年關西法律學校を同四十年明治大學法科專門部を各卒業し判檢事登用試驗に合格同四十二年檢事に任じ爾來大阪區兼姬路區神戶區兼同地方洲本區兼函館區兼同地方豐原區兼樺太地方長崎區兼同地方大阪地方兼同區岸和田區高松地方兼同區堺區佐賀地方兼同區各裁判所檢事に歷補し昭和六年大分地方裁判所兼同區裁判所檢事に補せられ今日に至る甥國藏(明二二、九生)は其一子を伴ひ分家せり(大分市地方裁判所檢事局內)

## 土川宗左衞門

飛驒銀行(株)頭取、濃飛農工銀行、飛驒電氣、斐太製糸各(株)取締役、飛驒貯蓄銀行、飛驒物產、岐阜信託各(株)監査役、岐阜縣在籍

妻 そ う 明七、一生、愛知、士、松井延次郎姉
男 修 三 明三九、一〇生

君は岐阜縣人先代宗左衞門の長男にして明治五年五月を以て生れ同十一年家督を相續し襲名す現時飛驒銀行頭取たる外前記各銀行會社の重役を兼ぬ家族は尙五男理一(明四五、一生)六男哲三(大三、七生)あり長女きぬ(明二八、二生)は岐阜縣人森三郎に二女しん(同三〇、八生)は愛知縣人水谷鍋二に三女ひさ(同三六、一二生)は岐阜縣人森彥兵衞弟隆吉に四女あき(同三八、一一生)は同縣人間孔太郎に嫁し二男敬吉(同三五、一生)は同縣人老田ふさに弟元三郎(同八、一一生)は同縣人小森文助に各養子となり四男順三(同四一、九生)甥規矩造(同一三、一一生、亡養兄貫作二男)同光造(同二六、一生、同五男)は各分家せり(岐阜、大野、高山町)

參照＝間孔太郎、森三郎、森彥兵衞の項

## 土倉宗明

衆議院議員(富山縣選出)、土木請負業、富山縣在籍

繼母 や ゑ 明六、二生、富山、山崎太郎次三女

君は富山縣人土倉富次郎の長男にして明治二十二年九月を以て生れ同四十二年家督を相續す土木請負業を營み昭和五年富山縣より推されて衆議院議員に當選し立憲政友會所屬たり家族は尙妹きん(明三二、六生)及其一女弟尙之(同四〇、六生)あり妹みつ(同三五、七生)は群馬縣人栗原榮次に嫁せり(東京、牛込、市谷甲良町二六電牛込三五三五)

## 土田卯三郎

醫學博士、土田病院長、醫師 東京府在籍

妻 ミ サ 明二四、七生、福井、今川榮助二女
男 誠 一 明二九、一一生
婦 輝 明三四、五生、長男誠一妻、東京袴田喜四郎三女
養子 歌 子 大元、一〇生、岐阜、岡本粂次郎二女
養子 登滿子 大五、八生、岐阜、岡本粂次郎三女

君は岐阜縣人岡本太吉の長男にして慶應三年十一月を以て生れ明治二十年先代つれの養子となり家督を相續す夙に醫學に志し同四十年醫學博士の學位を受く現時腸胃病科土田病院を經營して其院長たり家族は尙二男三郎(大一二、一生)孫成子(昭三、一生、長男誠一長女)あり(東京、下谷、上野櫻木町一八電下谷三五七〇)

參照＝袴田喜四郎の項

## 土田誠一

從五位、東京高等學校生徒主事兼教授、東京帝國大學助教授、文學部勤務、秋田縣士族

妻 敬 子 明三一、八生、東京、高嶺俊夫妹
男 國 保 大一一、四生

君は秋田縣人土田善輝の二男にして明治二十年二月を







以て生る同四十四年東京高等師範學校本科英語部大正四年東京帝國大學文科大學哲學科を各卒業し大正八年東京帝國大學文學部助教授となり同十四年獨米英佛各國に留學し昭和二年歸朝す現時東京高等學校生徒主事兼教授東京帝國大學助教授たり家族は尙長女禮子(大九、一生)二男直鎭(同一二、一生)甥春雄(同五、一生亡兄輝政長男、現戶主)及其姉弟あり(東京市外高田町雜司ヶ谷龜原一)

參照＝高嶺俊夫※高嶺昇の項

## 土田亦次郎

新發田新聞社長兼主筆 新潟縣在籍

男 潤 明二八、四生、新發田新聞社會部長
婦 ふ み 明三九、八生、長男潤妻、東京、沖坂重松二女
養子 恭 明四〇、一〇生、新潟、大沼信太郎三女

君は新潟縣人武藤德四郎の三男にして文久二年八月を以て生れ先代條太郎の養子となり明治二十一年家督を相續す同四十一年新發田新聞を發刊し大正六年下越新報と改稱せしも再び舊名に復し其社長兼主筆として今日に及ぶ家族は尙孫美智(大一三、八生、長男潤長女)同文武(昭二、一〇生、同二男)同禮(同五、一生、同二女)あり(新潟、北蒲原、聖籠村)

## 土田萬助

貴族院議員、秋田縣多額納稅者、秋田信託(株)代表取締役、羽後銀行秋田銀行、横莊鐵道各(株)取締役、農業、秋田縣在籍

妻 ムメヤ 明九、七生、秋田、照井治右衞門二女
男 莊 助 明二一、三生、秋田縣會議員
婦 ヨ シ 明二七、九生、長男莊助妻、秋田薄田太三郎長女
男 祐 吉 明二六、八生
婦 ソ ヤ 明三二、一一生、二男祐吉妻、秋田、佐々木久之助二女
男 孝 吉 明三四、一生
女 ミ ツ 明三八、一〇生
男 博 吉 明四一、三生
男 鶴 吉 明四三、三生
女 テ ル 大四、三生
孫 ハ ル 大二、二生、長男莊助長女

君は秋田縣人土田吉治の長男にして明治二年一月を以て生れ先代彥七の養子となり同三十八年家督を相續す祖業を承けて農を營み傍ら前記銀行會社の重役を兼ね直接國稅二萬三千五圓を納め縣下の多額納稅者に列し現時貴族院議員に互選せらる嚢に秋田縣會議員同議長等に擧げらる家族は尙七男文吉(大元、九生)五女サト(同八、一一生)孫彥彌(同四、二生、長男莊助長男)同チエ(同八、三生、二男祐吉長女)同祐治(同九、一一生、同二男)同久夫(同一一、八生、同三男)同文夫(同一四、四生、同五男)同ユキ(同一五、一一生、同二女)同和夫(昭三、八生、同六男)養弟耕藏(明一八、一二生)同妻チヨ(同二七、一生、秋田、渡邊久四郎孫)及其子女あり長女チヨノ(同二三、一〇生)は秋田縣人土田倉松長男薫司に二女コト(同二九、一生)は同縣人安藤重松長男忠一郎に嫁し妹ナカ(同五、八生)同夫德松(同五、四生、秋田、土田彥吉二男)及養叔父幸太(同一三、一〇生)同妻トミノ(同一六、五生、秋田、高橋富治長女)は各其子女を伴ひ分家し養弟幸治郎(同二〇、三生)も亦分家し四男鐘吉(同三六、九生)は前記幸太の養子となれり(秋田、平鹿、館合村)

## 土橋源藏

片倉生命保險、富國火災海上保險各(株)常任監査役、酒造業 長野縣在籍

妻 ふ み 明一三、五生、長野、金井文三郎長女
男 善一郎 明三五、四生、經濟學士、三菱銀行員
婦 忠 子 明四一、三生、長男善一郎妻、東京、士、須田卓爾三女
女 園 枝 明四四、七生、牛込高等女學校出身
女 薫 大四、五生

土橋家は古くより長野縣上諏訪町に住し代々農を業とせしが數代前より酒醬油醸造を初め漸次盛大となり今日に至る君は先代善造の長男にして明治九年七月を以て生れ同二十一年家督を相續す同三十二年慶應義塾理財科を卒業し家業の傍ら信州銀行頭取に就任し又上諏訪町長に推されしが大正十三年片倉生命保險會社常任監査役に擧げられ現時前記會社の重役たり家族は尙孫源一(昭三、八生、長男善一郎長男)あり長女美篤(明三九、五生、跡見女學校出身)は長野縣人工學士神津康人に二女百合(同四一、九生、出身校同上)は同縣人佐竹逢二に姊みを(同四、八生)は同縣士族松井五郎に同直枝(同七、一生)は同縣人村上賢弟篤三に妹あい(同一四、一一生)は同縣人篠原英太郎兄兼市郎に嫁し亡姊ちま夫四郎(慶應元、六生、長野、士、松井賀景二男)は其子女を伴ひ分家せり(東京、牛込、二十騎町三〇電牛込四八〇)

參照＝篠原英太郎、須田卓爾※內田孝藏※佐々木政吉※妻木栗造の項

## 土御門晴善

正五位勳五等、子爵、東京高等蠶絲學校教授、生徒主事、舊公卿家

妻 登美子 明二九、四生、福岡、士、武田千代三郎長女、御茶の水高女出身
男 熈 光 大六、一二生

當家は孝元天皇の皇子大彥命の後裔主計權介兼天文博士安倍晴明の後にして世々陰陽頭となり天文曆道等を掌る二十五世を經て先々代晴榮に至り明治十七年子爵を授けらる大學南校東京外國語學校に學び貴族院議員に列す先代晴行其後を享け君に至る君實は子爵三室戶敬光の叔父にして明治十七年八月を以て生れ大正十四年選定に依り家督を相續し襲爵仰付けられ前名善光を改む明治四十三年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し大正十年歐米に留學す現時東京高等蠶絲學校教授にして同生徒主事たり家族は尙二男允光(大九、七生)長女美榮子(昭二、七生)先々代晴榮妻秀子(慶應三、四生、子爵冷泉爲勇姊)あり先々代晴榮長女幸子(明二五、一一生)は新潟縣士族堀川重治に嫁し同二女賀壽子(同二八、五生)同四女鑑子(同三六、七生)は各分家せり(東京市外瀧野川町西ヶ原八五二)

參照＝子爵三室戶敬光、子爵冷泉爲勇、堀川重治※子爵富小路隆直※子爵松浦靖※男爵鷲尾光遍※阪正臣の項

## 土谷慶治郎

大和田銀行(株)取締役兼大阪支店長、大和田貯蓄銀行(株)監査役 大阪府在籍

妻 ほ か 文久三、一一生、福井、南部小兵衞二女
男 圭 次 明二四、三生
婦 い と 明三〇、一一生、長男圭次妻、福井、角野龜吉二女

君は福井縣人飯田上祐の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治十七年先代久四郎の養子となり家督を相

續す現時大和田銀行取締役兼大阪支店長にして前記銀行の重役たり家族は倘孫とみ子(大六、五生、長男圭次長女)同欽一(同八、二生、同長男)あり長女可保里(明二九、四生)は他家に三女ひろ(同三七、四生)は大阪府人布井七郎に嫁せり(大阪、西、阿波堀通三ノ四六電新町二一二三)

## 土谷辰藏
三田土ゴム製造(株)取締役
東京府在籍

妻　君　明三四、三生、東京、土谷秀立四女
男　格介　明四二、二生
男　文兒　明四四、八生

君は靜岡縣人平田仙太郎の弟にして明治十八年二月を以て生れ後土谷家の養子となり大正十二年養弟金之輔方より分れて一家を創立す現時三田土ゴム製造會社取締役たり家族は倘三男三郎(大一〇、一一生)三女とく(同一二、四生)四女ひで(同一五、九生)あり(東京、本所、小梅瓦町五〇)

## 土谷連之助
島根縣多額納税者、島根縣會議員
松江運輸(株)、松江鑛泉、松江片倉製絲各(株)取締役、一畑電氣鐵道(株)監査役、綿絲毛織物商、島根縣在籍

養母　ノブ　慶應元、五生、島根、有田傳助妹
妻　サワ　明一五、一二生、島根、佐藤佐助孫
養子　恒一　明三五、一〇生、長女タキノ夫、島根、土谷愛三郎孫
女　タキノ　明三五、一〇生、養子恒一妻

君は島根縣人土谷愛三郎の二男にして明治二十二年十月を以て生れ先代連之助の養子となり大正二年家督を相續し襲名して前名琳一を改む綿糸毛織物商を營み島根縣多額納税者に列し前記各會社の重役たり又島根縣會議員に擧げられ曩に同縣參事會員に推さる家族は倘孫清惠(大一三、四生、養子恒一長女)あり(松江、白潟本町)

## 土屋市兵衛
東信銀行(株)專務取締役、柳屋、質商
東京府在籍

男　一朗　明三五、一生
婦　滋子　明四〇、二生、長男一朗妻、埼玉、須田實郎三女
男　勇　明三九、二生
男　武道　明四一、一〇生

君は長野縣人土屋市郎次の二男にして明治九年七月を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す柳屋と稱し質商を營み又家主にして東信銀行專務取締役たり家族は倘養子いと子(大一二、五生、靜岡、加藤與吉六女)ありA一七五二一B二二四〇(東京、京橋、入船町四ノ三電京橋二三三〇)

## 土屋寛
衆議院議員(廣島縣選出)、農業
廣島縣在籍

妻　ヒロ　明一七、七生、廣島、牛尾耕平妹
男　慶一　大四、三生
女　朋子　大三、一生

君は廣島縣人土屋雅四郎の二男にして明治十三年十二月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す農業を營む昭和五年衆議院議員に當選し立憲民政黨所屬たり家族は倘二男隆(大六、九生)三女勝子(同一二、八生)四女光江(昭二、五生)ありA二一三(廣島、御調、栗原町)

## 土屋九兵衛
石川縣多額納税者、金城樓、料理業、石川縣在籍

養子　茂吉　明三一、三生、土屋久太郎二男
婦　紀美　明三六、二生、養子茂吉妻、石川、中井良一二女

君は石川縣人先代九兵衛の長男にして萬延元年九月を以て生れ明治四年家督を相續し前名を改め襲名す金城樓と稱し料理業を營み直接國稅千五百四十八圓を納め縣下の多額納税者たり家族は倘孫衛子(大一二、一〇生、養子茂吉長女)同久美(昭三、一一生、同二女)あり弟久太郎(文久三、七生)同妻津禰(同二、一〇生、大野彦十郎長女)は共に共一男を伴ひ分家せり(金澤、味噌藏下中町五九電園二五八)

## 土屋楠熊
從七位勳五等功五級、陸軍二等主計、山陽燐寸(株)社長、大同燐寸(株)副社長、朝鮮燐寸、靜岡燐寸、中外燐寸、下津燐寸、朝日燐寸、常磐瓦製造、東洋商事各(株)取締役、燧生火柴、有限公司、青島燐寸、カネキ自動車店各(株)監査役
兵庫縣在籍

妻　コウ　明一六、三生、東京、村田平助養子
男　俊彦　明四〇、一二生、京大在學

君は和歌山縣人酒井萬の二男にして明治四年二月を以て生れ同十九年土屋家の死跡を相續す和歌山中學を經て陸軍經理學校を卒業し陸軍三等主計に任ぜられ明治三十三年二等主計にて豫備役となり直ちに實業界に入り現時山陽燐寸會社長たる外前揭諸會社の重役たりA九六六(兵庫、武庫、御影町郡家二二六電灘川二六三一)

## 土屋計左右
三井銀行(株)本店外國營業部長
東京府在籍

妻　富美子　明三二、八生、男爵園田實妹、學習院女學部出身
男　計雄　大一〇、九生

君は故衆議院議員土屋大次郎の三男にして同康二金子隆三の弟なり明治二十一年三月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治四十五年東京高等商業學校專攻部を卒業し三井銀行に入社し同行上海支店開設と共に赴任し次席を經て支店長に擧げられ上海在勤前後滿十五ヶ年の後再び東京本店に還へり現に本店外國營業部長たり嘗て行用を帶び歐米各國を巡歷す家族は倘二男晃雄(大一三、三生)三男奕雄(同一四、七生)あり(東京、日本橋、濱町二ノ一七電浪花四四六〇)
參照=男爵園田實、金子隆三、土屋康二※柿沼谷藏の項

## 土屋啓造
横濱生命保險(株)常務取締役
長野縣在籍

父　文治郎　嘉永六、八生、現戸主
妻　ウタ　明二七、三生、神奈川、金子オ一郎長女
男　文彥　大四、一〇生

君は長野縣人土屋文治郎の長男にして明治二十年三月を以て生る同四十二年早稻田大學商科を卒業し現に横濱生命保險會社常務取締役にして曩に日英釀造會社支配人たりし事あり家族は倘長女光子(大八、二生)二男信彥(同一一、一生)三男義彥(同一三、七生)四男勝彥(同一五、一〇生)あり(神奈川、鎌倉、鎌倉町雪ノ下電七〇六)
參照=土屋文治郎の項

## 土屋賢吾
並木製作所(株)取締役兼支配人
靜岡縣在籍

養父　善右衛門　安政二、五生、現戸主
養母　なを　安政三、一生、靜岡、遠藤四郎左衛門長女
妻　てい　明二五、七生、養父善右衛門四女

君は靜岡縣人和田二三郎の五男にして同正雄の弟なり明治二十一年七月を以て生れ大正二年土屋善右衛門の養子となる現時並木製作所取締役兼支配人たり家族は倘養子安子(大九、四生、靜岡、千秋穗三郎六女)あり養姉じゅん(明一四、七生)は靜岡縣人石田政五郎長男政弌に同そう(同一七、一〇生)は同縣人西島親則に同まつ(同二〇、四生)は同縣人千秋輝雄五男穗三郎に養妹みな(同三〇、五生)は同縣人杉山喜六に嫁し養叔父五郎(安政六、三生)は千葉縣士族佐藤ゆきの入夫となれり(東京市外高田町若葉一九)
參照=和田正雄の項

## 土屋耕二
從五位、內閣印刷局書記官兼行政裁判所評定官、總務部長監理課長經理課長官報課長、千葉縣在籍

祖母　しげ　天保一一、八生、千葉、中村三兵衛長女
母　みな　明三、一二生、千葉、青木藤之助妹
妻　淑　明三五、一生、栃木、柿沼竹雄長女
男　伸二　大一一、八生

君は千葉縣人土屋權四郎の長男にして明治二十四年一月を以て生れ大正六年家督を相續す同四年文官高等試驗に合格翌年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業す尋で北海道廳廣島縣各理事官を經て大正十二年歐米各國に出張し歸朝後廣島縣書記官學務部長石川長野各縣警察部長等を經て昭和三年五月前記官職に轉ず家族は倘二男周二(大一四、七生)三男昭二(昭二、三生)あり弟敏男(明二六、六生)は分家せり(東京市外板橋町中丸二五六電大塚七〇一)

## 土屋純一
從四位勳三等、名古屋高等工業學校教授、新潟縣在籍

妻　ミキ　明一六、一〇生、貴族院議員田所美治妹
男　馨　明四〇、五生

君は新潟縣人土屋準壽計の長男にして明治八年五月を以て生れ同十三年先代祖父竹翁の後を承け家督を相續す同三十三年東京帝國大學工科大學建築科を卒業し更に大學院に入る同四十三年建築學研究の爲め歐米に留學し奈良縣技師を經て現に名古屋高等工業學校教授たり長女エミ(明三八、二生)は東京府人春日井春一郎に嫁し姉キミ(元治元、七生)は新潟縣士族川口廣吉の養子となり同キイ(明三、三生)は同縣人土屋佐文多の家籍に入り同りイ(同六、五生)は分家せり(名古屋、東、白壁町四ノ二三電東七二二五)
參照=田所美治※永田三十郎※森村勇の項

## 土屋正三
從五位、內務書記官兼警察講習所教授、警保局警務課長
靜岡縣在籍

父　元平　明二、一二生、渡邊豐右衛門三男
母　つる　明六、二生、靜岡、田村繁藏妹
妻　小夜　明三五、二生、長野、大工原銀太郎二女

君は靜岡縣人土屋元平の長男にして明治二十六年八月を以て生れ同三十年家督を相續す大正五年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し爾來兵庫縣屬同警視內務事務官兼內務省參事官內務書記官地方事務官千葉縣勤務茨城縣書記官學務部長等に歷任し昭和二年再び內務書記官に轉じ警保局圖書課長を經て現に警保局警務課長にして兼任警察講習所教授たり家族は倘長女伸子(大一五、八生)二女久子(昭三、一生)三女弘子(同五、九生)の外妹葉萬子(明四〇、一生)弟實(同四二、八生)妹登代子(大二、一生)あり同千枝(明三七、四生)は神奈川縣人木村長榮に嫁せり(東京、麹町、道三町二電九段一八八六)
參照=大工原銀太郎※大原昇※武藤虎太の項

## 土屋清三郎
衆議院議員(千葉縣選出)、カルニュー光學工業(株)社長、凹版工業(株)取締役、日本之醫界社、出版業、醫師、千葉縣在籍

父　清左衛門　嘉永元、六生
母　たけ　嘉永五、四生、千葉、山崎宗兵衛二女
妻　貞　明二〇、八生、東京、小川爲吉長女

君は千葉縣人土屋清左衛門の長男にして明治十五年四月を以て生れ前名清を改め大正十一年家督を相續す夙に濟生學舍を卒業し更に東京慈惠醫院醫學校に學び內務省傳染病研究所囑託警視廳檢疫醫千葉縣檢疫官岐阜縣衛生技師等に歷任し退官後開業醫となり東北醫師大會常務委員大日本醫師會醫政調査會委員等に擧げらる現に「日本之醫界」及英文「ジャパン・メジカル・ウォールド」支那文「東亞醫學」等を主宰する外前記諸會社の重役を兼ぬ大正六年以來衆議院議員に當選する事四回に及び現時立憲民政黨所屬たり弟清七(明二二、九生)同妻ふで(同三〇、四生、千葉、秋葉谷太郎二女)は共二子を伴ひ分家せり(東京、神田、表神保町一〇電神田三三二二)
參照=※松川主一の項

## 土屋善兵衛
土屋(名)代表社員
東京府在籍

母　よし　文久三、二生、茨城、山口勝太郎長女
妻　よね　明三二、四生、茨城、青柳幸次郎二女
男　太郎　大九、三生

君は東京府人先代善兵衛の長男にして明治二十四年二月を以て生れ同三十四年家督を相續し襲名す現時土屋合名會社代表社員たり家族は倘長女文子(大一一、四生)二女治子(同一二、七生)弟彥次郎(明四二、九生)あり妹りゑ(同三〇、一生)は東京府人間庭隆一に嫁せり(東京市外大井町一八四八)
參照=※小西善次郎の項

## 土屋保
正四位勳二等功四級、海軍中將
東京府在籍

妻　りやう　明元、四生、東京、士、鎌田清直長女
男　豐次郎　明二五、九生、早大理工科出身
婦　千代乃　明三七、八生、二男豐次郎妻、神奈川、木村政五郎三女
女　文　明四二、三生、麹町女子學院出身
女　キミ　明四三、六生、三輪田高女出身

君は東京府人土屋雅泰の二男にして安政六年三月を以て生れ明治二十九年分れて一家を創立す同十八年海軍少尉に任じ累進して海軍中將に陞る其間海軍々令部第一局々員海軍省軍務局軍事課々僚人事局第二課長須磨艦嚴島朝日各艦長海軍省人事局長等に歷補す日露役に須磨嚴島各艦長として功あり金鵄勳章功四級を賜ふ家族は倘孫實(大一三、一一生、二男豐次郎長男)あり三男力三郎(明二九、九生、早大商科出身、東京市電氣局勤務)は分家し二女千代子(同三一、七生、三輪田高女出身)は福島縣人吉野周太郎長男精一に三女富(同三五、七生、出身校同上)は兵庫縣人莊田平象に四女季子(同四〇、八生、九段精華高女出身)は海軍少將成田

勝郎養子鉞夫に五女光子(生年月同上、出身校同上)は岐阜縣人土川廣一に嫁し四男達人(同三三、三生、明大出身)は母の生家鎌田家に入れり(東京市外淀橋町柏木九三三)
參照＝莊田平象、吉野周太郎※堀切善兵衞の項

## 土屋忠右衞門
正五位勳四等、判事、東京區裁判所判事、千葉縣在籍

妻 園 明一九、一二生、千葉、向後助太郎二女
男 忠雄 大三、一生
女 ミツ 明四一、六生
女 豐 明四二、一一生

君は千葉縣人土屋俊藏の長男にして明治十二年十二月を以て生れ大正五年家督を相續す先是明治三十四年東京法學院を卒業し判檢事登用試驗に合格し同三十八年判事に任じ大曲區大館區高田區宇都宮地方東京地方僉同區水戸地方東京區高崎區各裁判所判事に歷補し大正十年東京區裁判所判事に補せられ現在に至る(東京、小石川、高田老松町一七)

## 土屋禎一
岐阜縣多額納稅者、岐阜土地興業(株)副社長、金山製絲、幸無盡各(株)取締役、岐阜縣在籍

妻 都年 明一八、三生、岐阜、五島宮太郎妹
男 一郎 明四〇、一生
男 二郎 明四一、九生

君は岐阜縣人篠田新九郎の三男にして明治十二年一月を以て生れ先代善吉の養子となり同四十二年家督を相續す現に岐阜土地興業會社副社長の外前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者たり曩に大萬商店旭座衆樂館濃飛蠶業毛利煉瓦中央市場岐阜織物各會社重役に擧げられ岐阜市會議員に推さる長女千惠子(明三八、一生)は京都府人横田萬壽之助長男喜成雄に嫁せり(岐阜市神田町四ノ二)

## 土屋照雄
廣島縣多額納稅者、農業 廣島縣在籍

君は廣島縣人土屋鹿太郎の長男にして明治二十五年十一月を以て生れ同三十六年家督を相續す農業を營み直接國稅三千五百八十八圓を納め廣島縣多額納稅者たり家族は弟進(明三三、一二生)同裕(同三四、一二生)同示(同三六、四生)伯祖母シケ(天保一四、八生)あり妹トキ(明二八、一生)は石川縣人笠井學に同りヨウ(同三〇、三生)は廣島縣人富永淡三に嫁せり(廣島、深安、手城村)

## 土屋富五郎
豐田式織機(株)常務取締役 靜岡縣在籍

妻 綱子 明一七、九生、靜岡、片岡要妹
男 勉 明四一、二生
女 ゆり子 大元、一〇生
女 千惠子 大三、九生

君は靜岡縣人土屋松五郎の長男にして明治八年四月を以て生れ同四十年家督を相續す同三十七年京都帝國大學理工科大學を卒業し現時前記會社の重役たり織機及紡績機械製作に沒頭すること廿五年遂に優良なる國產品を完成し輸入を防遏せる廉により昭和四年日本產業協會總裁伏見宮殿下より表彰せらる家族は尙四女美奈子(大七、九生)六女滿里(同九、一二生)八女二葉(昭二、七生)弟正(明二〇、一〇生)同妻とめ(同二四、八生、靜岡、藤原孫作三女)及其子女弟嘉(同二三、一生)同妻ひさ(同三一、一生、靜岡、齋藤縫三郎二女)及其子女あり弟藤八(同一七、九生)は愛知縣人石川藤八の養子となり妹よう(同二八、二生)は同縣人竹内杢左衞門に嫁せり A二八一五(名古屋、東、主稅町四ノ二九電東八〇四)
參照＝※三輪新五郎の項

## 土屋留次郎
東京府多額納稅者、土屋留商店(株)取締役、吳服商、東京府在籍

繼母 エイ 明一二、五生、東京、松井莊藏姉
妻 クニ 明二二、四生、東京、田野倉常藏養子
女 ヤス 大三、二生

君は東京府人先代留次郎の長男にして明治二十一年十二月を以て生れ大正四年家督を相續し前名勝次郎を改め襲名す吳服商を營み前記會社の重役にして直接國稅五千三百四十四圓を納め東京府多額納稅者たり曩に八王子商工會議所副會頭に推さる家族は尙妹ヨシ(大三、八生)あり弟宗治(明二七、一生)同妻憲(同二八、一一生、東京、田野倉常藏三女)は其一子を伴ひ妹はま(同三七、四生)は同夫新藏(同二六、四生、東京、森谷榮之助弟)と共に各分家せり(八王子、南町二七)

## 土屋豐吉
東洋海上火災保險(株)取締役 東京府在籍

妻 ハル 明九、三生、東京、士、梅澤藤太郎三女
男 次郎 明三六、一二生
女 千代 明三一、九生
女 靜 明四三、三生

君は東京府士族土屋彥太郎の二男にして慶應二年六月を以て生れ大正十二年兄金治方より分れて一家を創立す明治二十三年東京高等商業學校を卒業し實業界に入り曩に帝國火災保險會社營業顧問となり現時東洋海上火災保險會社取締役たり家族は尙五女ゆき(大七、四生)あり三女ミネ(明三三、五生)は山口縣人曾根昌一に嫁せり(東京、北豐島、中新井村)

## 土屋信民
正四位勳三等、關東廳法院判官、高等法院長、東京府士族

妻 タニ 明一七、九生、福岡、士、木村自老妹
男 信男 明三六、五生
女 房子 明四四、八生
女 雅子 大元、一〇生
女 美佐 大三、二生

君は東京府士族土屋信脩の長男にして明治五年三月を以て生れ同十七年家督を相續す同三十二年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し判事となり東京區裁判所東京地方裁判所各判事を經て關東都督府法院判官に任じ高等法院長兼地方法院長等に歷任し現時關東廳法院判官にして高等法院長たり昭和三年十二月歐米各國へ出張を命ぜられ昭和四年八月歸朝す家族は尙二男英夫(大四、二生)四女百合子(同六、一二生)の外亡弟愼治妻光子(明一七、二生、東京、河合久成長女)及其子女あり(旅順、關東廳高等法院官舍)

## 土屋治厚
三井銀行(株)名古屋支店長 熊本縣士族

母 カネ 安政三、一二生、熊本、士、林田鶴翁二女
妻 トミ 明二五、一〇生、秋田、大島肇三女
男 厚一郎 大一〇、四生

君は舊肥後人吉藩士土屋謙一郎の長男にして明治九年七月を以て生れ同十四年家督を相續す同三十五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し三井銀行に入り廣島福岡各支店長を經て現に名古屋支店長たり家族は尙二男謙二郎(大一二、八生)三男恭三郎(同一四、一二生)四男敬四郎(昭二、八生)長女貞子(同四、一〇生)あり A二一六七(名古屋、東、撞木町一ノ一五電東三一三)

## 土屋彥俊
三菱商事(株)青島支店長 千葉縣在籍

父 京藏 明三、五生、現戶主
母 りん 明二、一生、千葉、眞行寺長兵衞二女
妻 ゑい 明三〇、七生、千葉、吉井貞吉二女
男 博彥 大七、三生

君は千葉縣人土屋京藏の長男にして明治二十一年一月を以て生る東京外國語學校清語科の出身にして同四十四年三菱合資會社に入りしが大正七年三菱商事會社に轉じ現時同社青島支店長たり家族は尙二男公彥(昭二、一〇生)弟宗彥(明四四、四生)あり叔父道之助(同八、一二生)は千葉縣人今關啓藏の養子となれり(青島、齊東路三號電二六三〇)

## 土屋平治
甲陽銀行(株)頭取 山梨縣在籍

妻 きく 明九、八生、山梨、宮下金太郎妹
男 美與治 明三二、一一生
婦 まつゑ 明三四、一二生、二男美與治妻、山梨、羽田宗之妹
女 はな 明三七、七生
男 平八郎 明三九、九生
女 まち 明四二、一二生

君は山梨縣人土屋平治右衞門の長男にして明治八年五月を以て生れ同三十四年家督を相續す現時甲陽銀行頭取たり家族は尙四男誠治(大三、九生)四女ひさ(同七、三生)孫はつへ(同一四、一〇生、二男美與治長女)同昭三(昭三、三生、同長男)あり弟與四郎(明一三、一二生)同妻きよしま(同二三、四生、山梨、宮下善兵衞長女)は共に分家し妹いせ(同一一、二生)は山梨縣人加々美新兵衞二男綱治に同みさ(同一六、九生)は同縣人加々美彌長男彌一に嫁せり(山梨、南都留、明見村)

## 土屋文治郎
川西銀行(株)頭取 長野縣在籍

男 啓造 明二〇、三生
男 卓三 明二二、八生
婦 波留穗 明二七、四生、二男卓三妻、新潟、長島晴耕三女
養子 勝平 明一三、九生、二女みち夫、長野、赤羽平作二男
女 みち 明一六、四生、養子勝平妻

君は長野縣人土屋源十郎の長男にして嘉永六年八月を以て生れ明治十年家督を相續す現時川西銀行頭取たり家族は尙孫衵(大四、一一生、二男卓三長男)同俊文(昭四、七生、同二男)同文雄(大一二、五生、養子勝平長男)あり三女りう(明二五、五生)は長野縣人小野澤新藏長男新一に嫁し長女りい(同一二、五生)は同縣人淺川眞砂兄淸人の未亡人たり(長野、小縣、中鹽田村)
參照＝淺川眞砂、土屋啓造の項

## 土屋正直
從三位勳三等、子爵、侍從兼式部官、舊常州土浦藩

妻 穀子 明二三、一生、伯爵德川達孝二女 學習院女學部出身
女 章子 明四四、一生

當家は一色兵部少輔範貞の後なり後世金丸氏を稱し武田氏に仕ふ平八郎昌次に至り土屋氏を冒し長篠の役に死す其弟惣藏昌恒亦勝賴に從ひ天目山に殉す昌恒の子平八郎忠直家康に識られ將軍秀忠の近侍となり上總國久留里二萬石を賜ふ次男侍從數直別に家を起し老中に進み常陸國土浦四萬五千石を領し其子政直に至りて九萬五千石に加增せらる夫より九世を經て先代擧直に至り明治十七年子爵を授けらる君は其長男にして明治十四年一月を以て生れ同二十五年襲爵す同三十九年東京帝國大學文科大學を卒業し宮內省に入り曩に東宮御學問所御用掛東宮侍從となり現時侍從兼式部官たり妹保子(明一六、一〇生)は文學博士藤岡勝二に同邦子(同二六、四生)は子爵相馬孟胤に姉都子(同九、一生)は伯爵溝口直亮叔父武五郎に嫁し弟義直(同一九、九生)は分家して男爵川田龍吉妹浦子(同二六、五生)を娶れり(東京市外中野町本町通六ノ一二電四谷一八一八)
參照＝伯爵德川達孝、伯爵溝口直亮、子爵相馬孟胤、男爵川田龍吉、藤岡勝二※公爵德川家達※伯爵立花鑑德※子爵大久保立※子爵德川武定※男爵芝小路豐俊※川田豐吉※淸水燕の項

## 土屋光豐
從五位、男爵 愛知縣華族

母 小夜 明七、二生、東京、士、高須松一郎長女、御茶の水高女出身

當家は累代武臣にして中葉德川氏に仕へ家康の時に至り命に依り本多忠勝に附せられ爾後岡崎藩士となり祖父從二位勳一等光春に至り家名を揚ぐ光春明治五年陸軍少尉に任じ累進して大將に陞る其間步兵第十七臺灣守備混成第一近衞步兵第一各旅團長第十四第十一第四各師團長等に歷補し日淸の役大本營參謀として功四級を賜はり日露の役には第十一師團長として旅順攻圍軍に參加して偉功あり功二級に敍し同四十年華族に列し男爵を授けらる長男正四位勳一等光金其後を繼ぐ光金亦夙に軍籍に入り同十九年海軍少尉に任じ中將に累進す其間舞鶴海兵團長横須賀鎭守府參謀長舞鶴水雷隊吳水雷隊第三艦隊第一水雷戰隊大湊要港部各司令官海軍將官會議員等に歷補し日淸日露の役に從軍し功三級を賜ふ役貴族院議員に擧げらる君は其三男にして明治三十九年一月を以て生れ大正十四年先代兄光二の家督を相續し襲爵仰付けらる浦和高等學校を卒業し東京帝國大農學部農業經濟學科に在學す家族は尙妹登茂(明四二、七生、女子學習院出身)あり姉登鯉(同三〇、一二生、出身校同上)は海軍中佐伍賀啓次郎に嫁し妹稻(同四四、五生、出身校同上)は東京府士族今井外美太郎の養子となれり(東京市外世田ケ谷町若林六〇四)

## 土屋元作
大阪時事新報社(株)主筆 大阪府士族

妻 セキ 明一一、一〇生、神奈川、川邊儀三郎妹
男 康太郎 明三七、一一生
男 賢次郎 明四二、九生

君は舊豐後國日出藩士故陸軍工兵少佐土屋元成の長男にして慶應二年六月を以て生れ明治二十二年家督を相續す同三十年米國より歸り時事新報社に入る爾來大阪每日大阪朝日各新聞社國際通信社等に勤め大正十三年大阪時事新報社に聘せられ同社主筆として今日に至る明治二十二年以來屢々歐米支那及南洋に旅行す家族は尙三男俊三郎(明四五、一生)四男秀四郎(大三、一〇生)あり(大阪、豐能、豐中町電岡町四五三)
參照＝※野村洋三の項

## 土屋基雄
山口縣會副議長 山口縣在籍

妻 鐵女 明二八、一一生、山口、中村昇二

男　善道　大元、一二生
女　安子　明四四、四生
君は山口縣人土屋巣松の二男にして明治二十三年十月を以て生れ大正十年家督を相續す現時推されて山口縣會副議長たり家族は倚二男孝夫(大六、二生)三女艶子(同八、一二生)あり(山口、吉敷、西岐波村)

## 土屋康二
石材商、回漕業　神奈川縣在籍

母　セツ　文久二、四生、土屋良三郎女
妻　トミ　明一八、八生、神奈川、蓑島吉平四女
男　康二　明三九、五生
男　文雄　明四二、一生
男　三千雄　明四三、一二生
女　年子　大三、一生
君は神奈川縣人土屋大次郎の長男にして明治十四年十二月を以て生れ同四十三年家督を相續す先代大次郎石材商を營み奮闘努力して當家の基を起し又衆議院議員に舉げらる君祖業を繼いで益々家運を恢弘せり家族は倚四男正雄(大四、八生)五男貞雄(同六、一生)三女和子(同八、七生)六男八郎(同九、一二生)あり弟隆三(明一九、一生)は貴族院議員金子元三郎の養子となり同計左右(同二一、三生)は分家し姉柳子(同一二、九生)は熊本縣士族水田玄二に妹フク(同二三、一二生)は東京府人比留間敏に同カイ(同二八、一二生)は同府人柿沼谷藏弟正治郎に嫁し弟鐵雄(同三一、一生、三井信託會社員)は父の生家武川家の嗣たり(神奈川、足柄下、岩村)
參照＝柿沼谷藏、金子隆三、土屋計左右の項

## 土屋義雄
大垣共立銀行㈱取締役兼支配人　岐阜縣在籍

母　きう　安政六、四生、岐阜、兒玉秀二女
妻　しう　明一七、四生、岐阜、平野廣吉姪
男　千弘　明三九、六生
男　齊　明四〇、一二生
男　芳樹　明四四、九生
女　富士子　大元、一二生
君は岐阜縣人土屋勇太郎の二男にして明治十七年九月を以て生れ大正五年家督を相續す明治四十年神戸高等商業學校を卒業し現に大垣共立銀行取締役兼支配人たり家族は倚四男理四郎(大三、一生)五男正司(同四、七生)二女勝子(同七、一〇生)あり(岐阜、不破、宇留生村)

## 槌賀與一郎
内外商事㈱專務取締役、淡州貯蓄銀行、淡路製陶、平瀧製油、洲本瓦斯各㈱取締役、兵庫縣在籍

妻　志計理　明二二、一生、兵庫、印部俊平二女
男　博　大四、一〇生
君は兵庫縣人槌賀國二郎の長男にして明治十四年六月を以て生れ大正十一年家督を相續す現時前記各銀行會社の重役たり家族は倚二男睦夫(大一一、三生)三女百合子(同一四、一生)四女照子(昭五、三生)あり長女芳子(明四一、一生)は兵庫縣人高見勝千代長男好夫に二女幸子(同四三、一生)は同縣人津田要平長男一夫に姉こみつ(同一〇、八生)は兵庫縣人馬詰長八に嫁せり(兵庫、三原、賀集村)
參照＝馬詰長八の項

## 槌野源兵衛
家主　大阪府在籍

妻　スエ　明二一、六生、大阪、岩崎平藏姉
男　源衛　大二、一一生
女　千穗　大五、五生
君は大阪府人先代源兵衛の長男にして明治十六年四月を以て生れ昭和二年家督を相續し前名由太郎を改め襲名す家族は倚二男日古衛(大九、一一生)姉エイ(明八、六生)弟信次郎(同二五、三生)あり妹君子(同三〇、七生)は大阪府人淺野久次郎に嫁せり(大阪、浪速、元町五ノ四八三電戎二三七三)
參照＝淺野久次郎の項

## 槌谷祐七
大垣商工會議所議員、岐阜縣多額納税者、西濃印刷㈱取締役、菓子商、岐阜縣在籍

妻　きくの　明二一、二生、岐阜、渡邊參治二女
男　右太郎　明四三、一一生
君は岐阜縣人先代祐七の長男にして明治十五年六月を以て生れ大正六年家督を相續し前名佐太郎を改め襲名す菓子商を營み傍ら前記會社の重役にして縣下の多額納税者に列し直接國税千百五十四圓を納む又推されて大垣商工會議所議員たり家族は倚二男左喜夫(大三、八生)三男芳郎(同一〇、二生)弟茂一郎(明二四、一生)同信次郎(同二六、七生)あり同仙治郎(同二二、一生)は絶家林氏を再興せり(大垣、俵町)

## 筒井市郎兵衛
地家主　大阪府在籍

妻　きみ　明九、一二生、大阪、良本敬太郎妹
男　一良　明三三、四生、法學士、大學院學生
女　道子　明四二、一〇生、市岡高女出身
男　良治　明四四、六生
君は大阪府人先代市郎兵衛の長男にして明治三年十月を以て生れ同三十四年家督を相續し前名太四郎を改め襲名す地家主たり長女恒子(明三五、八生、大谷高女出身)は分家し岸上文貞を夫に迎へ妹フサ(同一六、四生)は兵庫縣人大井駒藏二男正藏に嫁し弟民三郎(同二一、一二生)は大阪府人寺島長兵衛の養子となれりA三一七二(大阪、港、九條中通一ノ七一四電西五二六)
參照＝良本敬太郎の項

## 筒井喜一郎
三重縣多額納税者、三重縣農工銀行㈱取締役、第百五銀行㈱監査役、酒造業、三重縣在籍

妻　つな　明一〇、一二生、三重、筒井喜太郎四女
男　誠太郎　明三七、三生
男　收二　明四四、一〇生
女　壯　大三、七生
筒井家は遠く其祖を筒井順慶に發す後三重縣上野町に土着し世々質商を渡世とす先々代喜一郎に至り別に一家を創立して酒造業を營み今日に及ぶ君は先代喜一郎の長男にして明治元年六月を以て生れ同二十七年家督を相續し前名駒郎を改め襲名す祖業を承けて酒造業を經營する傍ら前記各銀行の重役を兼ね直接國税一千二百六十三圓を納め縣下の多額納税者たり書畫骨董を愛玩す家族は倚弟養之助(明一八、七生)あり長女昭(同四〇、三生、三重縣立阿山高女出身)は三重縣人小菅健治に嫁し弟哮三(同一五、一生)は分家せり(三重、阿山、上野町)

## 筒井喜平
北海タイムス社㈱監査役、文部省臨時國語調査會委員、東京府在籍

母　こま　天保九、一二生、先々代喜平長女
妻　テウ　明九、二生、北海道、岸元又兵衛長女





男　專太郎　明三四、一〇生、商學士
婦　ゆき　明三九、三生、四男專太郎妻、東京、黒澤貞次郎長女、共立高女出身
君は愛知縣人筒井重平の二男にして明治三年十月を以て生れ先代兄喜三郎の養子となり大正十三年家督を相續す曾て明治二十七八年戰役從軍新聞記者北海タイムス社幹事小樽米穀取引所專務理事小樽商業會議所評議員たり後大正十一年迄中央新聞社長たりしが現時文部省臨時國語調査會委員及び北海タイムス社監査役たり六男信吉(明三八、四生、殖民貿易語學校出身)は分家し長女松代(同四〇、二生、實踐女學校專門部出身)は愛知縣人杉浦仙次郎に嫁し七男孝平(同四三、六生、慶大在學)は同縣人三高孫三郎の養子となれり(東京、麻布、西町二三電高輪五四五〇)
參照＝黒澤貞次郎の項

## 筒井新兵衛
市岡商事㈱代表取締役、硝子商　大阪府在籍

男　爲次郎　明二三、一〇生
婦　いと　明二九、一一生、長男爲次郎妻、大阪、下常三郎三女
君は大阪府人先代新兵衛の長男にして萬延元年四月を以て生れ明治二十年家督を相續し襲名す硝子商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は倚孫泰一(大五、四生、爲次郎長男)同英夫(同七、八生、同二男)同美夫(同八、一一生、同三男)同綾子(同一三、一〇生、同二女)同百合子(同一五、七生、同三女)同章雄(昭三、一〇生、同四男)あり庶子邦治郎(明一八、一〇生、母、大阪、田中タマ)は其子女を伴ひ分家し孫覺子(同三八、一二生、長男爲次郎養子、亡庶子鎭太郎長女)同夫義雄(同三四、七生、兵庫、播磨幸七弟)も亦其二子を伴ひ分家し庶子顯三郎(同二一、五生、生母、大阪、田中タマ)は大阪府人生島ゆかに孫幸子(大一一、一一生、長男爲次郎長女)は同府人竹村たけに各養子となり姉たき(安政二、一〇生)は同府人山本吉太郎に嫁せりA七二四一B三三一(大阪、西、江戸堀南通三ノ三電土佐堀一九二九)
參照＝播磨幸七※小山彌一郎の項

## 筒井直太郎
徳島縣多額納税者、筒井商店、日之出製絲各㈱取締役、旭シルク㈱監査役、製絲業、徳島縣在籍

妻　トヨ　明二六、四生、徳島、榎本友三郎三女
男　康二　大三、八生
女　磯枝　明四五、二生
君は徳島縣人筒井善吉の長男にして明治二十年一月を以て生れ大正十三年家督を相續す製絲業を營み傍ら前記各會社の重役にして縣下の多額納税者に列す家族は倚二男堅二(大五、一〇生)二女照代(同一〇、一二生)姉セイ(明一八、八生)あり庶子直美(大一四、一〇生、生母、徳島、佐藤イチ子)は徳島縣人澤口虎五郎の養子となり弟眞三郎(明二五、一〇生)も亦同縣人佐渡文右衛門の養子となり後分れて一家を創立せりA九九三四B一六八〇(徳島、麻植、鴨島町電[illegible]五)
參照＝佐渡眞三郎の項

## 筒井利七
筒井セルロイド㈱取締役、セルロイド生地製造業、大阪府在籍

母　よし　文久元、九生、三重、筒井栗齋長女
妻　たつ　明二五、五生、三重、中川喜代松長女
男　利夫　大九、七生
君は大阪府人筒井熊次郎の長男にして明治二十一年三月を以て生れ大正二年家督を相續すセルロイド生地製造業を營み筒井セルロイド會社取締役たり家族は倚二女美代子(大一二、四生)あり(大阪、東成、鶴橋木野町一一五電南五〇五六)

## 堤永市
漢城銀行㈱代表取締役　大分縣士族

養母　ケサカ　明二、六生、大分、堤正峰二女、現戸主
妻　とよ　明二六、一生、養母ケサカ長女
男　正泰　大三、五生
女　綾子　大五、七生
君は大分縣人三股龜藏の四男にして明治十七年五月を以て生れ同四十年堤ケサカの養子となる大正三年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し現時漢城銀行代表取締役たり家族は倚二男靖雄(大七、八生)養弟正元(明二九、一生)同妻富美(同三五、一〇生、東京、飯泉幹太二女)及其子女あり(京城、三坂通一〇二)
參照＝飯泉幹太※多賀秀敏の項

## 堤一之
鐵嶺公益信託、滿洲取引所信託各㈱取締役、長崎縣士族

妻　フミ　明三一、三生、養父一之長女
男　一彦　大四、五生
君は福岡縣人脊田圓集の二男にして明治二十一年十二月を以て生れ堤サタの養子となり同四十四年家督を相續し改名す同四十三年長崎高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は倚二男一夫(大七、五生)三男菊雄(同一一、三生)あり(大阪、豐能、豐中町櫻通一五〇七)

## 堤兼太郎
熊本縣多額納税者、鹿本鐵道、植木製絲各㈱取締役、釀造業　熊本縣士族

男　大藏　明九、一〇生
婦　モリ　明一七、一二生、長男大藏妻、熊本、木野篤三郎二女
女　勝壽　明一八、三生
男　勝嘉　明二五、六生
男　吉之介　明二八、一一生
君は熊本縣人米井伊太郎の長男にして安政三年六月を以て生れ後先代嘉悅の養子となり明治二十六年家督を相續す釀造業を營み現に前記各會社の重役にして直接國税二千四百九十圓を納め熊本縣多額納税者たり二女靍壽(明一六、一生)は分家し伯父安(天保一三、一二生)も亦同妻正尾(安政二、一生、熊本、士、師井長淳長女)と共に分家し三女龜壽(明一六、一生)は熊本縣人下河邊舜平長男壽彦に嫁せり(熊本、鹿本、植木町)

## 堤定次郎
從四位勳四等、五十銀行㈱頭取　茨城縣在籍

母　しか　嘉永元、六生、祖父喜平次長女
妻　備子　明六、一〇生、佐賀、士、太田義顯二女
男　直温　明三八、三生
男　厚　明四一、一〇生
當家は茨城縣眞壁郡上野村に住せる舊家にして舊幕時代名主を勤む君は先代惠次郎の長男にして明治元年十一月を以て生れ同十六年家督を相續す同二十五年帝國大學法科大學佛法科を卒業し東京區裁判所判事東京横濱各地方裁判所檢事東京宮城各控訴院檢事函館地方裁判所檢事正熊本縣警察部長香川縣内務部長岩手縣知事等に歴任し後官を辭して實業界に入り現時五十銀行頭取たり家族は倚四男誠(大元、一一生)あり二女薫(明三三、三生)は茨城縣人法學士小田部誠に三女壽美子(同三五、四生)は岡山縣人淺野富平二男法學士良二に

四女琴(同三九、八生)は秋田縣人法學士茂木剛に五女壽惠子(同四三、三生)は茨城縣人工學士田中稔に嫁せり(東京市外淀橋町角筈一四四電四谷三三八)
參照=淺野富平、小田部誠※小田部胤康の項

## 堤清六

勳三等、朝鮮京南鐵道、佐々木倉庫、大沼電氣各㈱取締役、水產俱樂部代表者、新潟縣在籍

父 清七　安政四、七生、現戸主、三條瓦斯㈱取締役
妻 イト　明一三、四生、新潟、小出嘉七三女
男 商司　明三三、六生、正八位、豫備陸軍騎兵少尉、牛津大學出身
婦 留子　明四三、三生、長男商司妻、東京士、奥八郎兵衞四女

君は新潟縣人堤清七の長男にして明治十三年二月を以て生る夙に漁業及罐詰製造業に從事す現時水產俱樂部代表者にして前記各會社の重役たり大正十三年以來衆議院議員に當選する事二回に及び曩に日魯漁業會社會長帝國經濟會議々員函館商工會議所特別議員たり家族は尙孫正子(昭五、三生、長男商司長女)弟清吾(明一九、一一生)同妻四方(同二五、八生、東京、青木治助長女)及其一男あり妹シン(同一六、九生)は新潟縣人加藤東一郎に同ヨシ(同二二、九生)は同縣人平塚常次郎に同ムツ(同三〇、二生)は同縣人堤清一郎に同ハル(同三五、三生)は同縣人登坂良作に嫁し弟清治郎(同二七、七生、佐々木倉庫會社監査役)同妻ミツ(同三〇、五生、新潟、堤清吉二女)は其子女を伴ひ分家し同四郎(同三二、一一生)は新潟縣人亙信司に姪千鶴子(大三、五生、弟清吾長女)は前記平塚常次郎に各養子となれりA五一六四四(東京市外澁谷町猿樂二五電靑山七七〇三)
參照=平塚常次郎※依田耕一の項

## 堤雄長(タケナガ)

從三位、子爵
舊公卿家

妻 濱　明七、二生、伯爵柳原義光叔母
男 經長　明三四、五生、從五位、農學士、法學士、東京鐵道局副參事
婦 要子　明三九、一〇生、長男經長妻、子爵內藤穎輔長女、女子學習院出身
男 秀雄　明三七、四生、經濟學士、三菱銀行員
婦 仙子　明四三、四生、二男秀雄妻、群馬中島伊平女、九段精華高女出身
男 忠雄　明三九、五生、商學士、三井物產會社員
女 治子　明四一、二生、女子學習院出身

當家は按察使甘露寺豐長の次男繼殿頭貞長の後なり貞長別に一家を立て家號を堤と稱す十一世を經て先代功長に至り明治十七年子爵を授けられ若松縣出仕談山神社宮司宮中祇候青山御所祇候貴族院議員等に歷任す君は其二男にして伯爵甘露寺受長の從兄男爵中川良長の從弟なり明治三年十一月を以て生れ大正二年襲爵仰付けらる明治二十七年東京美術學校日本畫科を卒業し工手學校京華中學校等に教鞭を執り又青山御所祇候となる大正五年以來貴族院議員に當選する事二回昭和元年大嘗使祭官仰付けらる現時閑地に在り長女光子(明三一、六生、女子學習院出身)は愛知縣人法學士村瀨淳一郎に從妹靜子(同一八、一〇生)は大阪府人今井淸治郎に嫁せり(東京市外東調布町下沼部五一電田園調布六三)
參照=伯爵甘露寺受長、伯爵柳原義光、子爵內藤穎輔、男爵中川良長、中島伊平、村瀨淳一郎※伯爵奧保夫※伯爵吉井勇※子爵入江爲守※男爵島津忠彥の項

## 堤常助

唐津水電興業㈱取締役、北九州鐵道㈱監査役、佐賀縣在籍

妻 タマ　明一一、三生、佐賀、小島新太郎妹
男 宏　明四五、一生
養子 信太郎　明三二、二生、長女ヒサヨ夫、福岡、西善十郎弟
女 ヒサヨ　明三五、七生、養子信太郎妻

君は佐賀縣人堤和七郎の長男にして明治九年三月を以て生れ同二十一年家督を相續す現時前記各會社の重役にして曾て濱崎銀行常務取締役たりし事あり家族は尙孫幹雄(大一四、三生、養子信太郎長男)あり妹マツ(明一三、二生)は佐賀縣人堤市郎右衞門長男榮藏に嫁せり(佐賀、東松浦、濱崎町)

## 堤德藏

硫黃島拓殖製糖㈱社長、江東製藥、熊取谷商店各㈱取締役、日本メタリコン工業所、大竹製藥、今村製藥佐久間製藥各㈱監查役、堤商店㈴代表社員、東京砂糖取引所會員、萬德、砂糖貿易並問屋業、東京府士族

妻 つる　明一七、一〇生、養父德藏長女
男 德三　明三七、二生、慶大出身

君は千葉縣人川崎伊之松の弟にして明治九年四月を以て生れ先代德藏の養子となり大正七年家督相續と同時に襲名して前名醇を改む祖業砂糖問屋業を營み萬德の名によつて知らる現時東京砂糖取引所會員にして前掲諸會社の重役たり長女豐(明三五、八生、東京女學館出身)は其夫甲子三(同二七、一生、靜岡、板倉田平弟)と共に分家し二女歌(同四〇、一生、東京女學館出身)は外戚堤婦佐の死跡を相續し妹てい(同三二、四生、出身校同上)は東京府人松村常二に嫁し同重(同三四、一生、出身校同上)は分家せり(東京、芝、二葉町一四電銀座二六四五)
參照=松村常二の項

## 堤友次郎

松竹キネマ、新富座各㈱常務取締役、新歌舞伎座㈱取締役、松竹興業、帝都興業、帝國キネマ演藝各㈱常任監查役、明治座、松竹土地建物興業各㈱監查役、滋賀縣在籍

母 ます　嘉永四、六生、祖父卯平長女
妻 チカ　明七、二生、京都、岩橋藤兵衞二女
男 新吉　明三八、五生
女 シヅ　明三〇、三生

君は滋賀縣人堤甚藏の長男にして明治五年十月を以て生れ同三十七年家督を相續す現時松竹キネマ新富座各常務取締役の外前記諸會社の重役たり曩に東京商工會議所議員に擧げらる家族は尙弟莊太郎(明二五、六生)あり妹猶(同一九、七生)は滋賀縣人鵜飼鐵次郎に嫁し庶子昌次郎(大一一、四生)は其生母京都府人田中サキの養子となれりA一一九八(東京市外入新井町不入斗五七〇電大森二六七一)

## 堤長述

三菱海上火災保險㈱取締役、三菱㈾參與、人事課長、宮崎縣士族

妻 藤江　明一七、五生、故大阪控訴院評定官安井讓五女、學習院女學部出身
男 長達　明四〇、四生
女 正　大元、七生、東京府立第五高女出身

堤家は舊日向國高鍋藩士にして御小姓役を勤めたる家柄なり君は先代長發の二男にして明治六年十二月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治三十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し直に三菱合資會社に入り鑛山部副長兼務課長兼炭坑部副長等を經て現に同社人事課長にして傍ら前記會社の取締役を兼ぬ乘馬に趣味を有す長女美根(明四二、二生、府立第五高女出身)は東京府人小島甚太郎二男豢文に妹シマ(同一四、一二生)は福岡縣士族萩尾傳に同憲(同二二、二生)は住友銀行京都支店長川勝正之に嫁し弟篤章(同二四、一〇生、大阪每日新聞社員)同妻節(同三三、九生、大分、安部賢一養母)は其一女を伴ひ分家せり(東京、赤坂、青山南町五ノ八一電靑山一六八七)
參照=川勝正之の項

## 堤治之

佐賀縣多額納稅者、金融業、佐賀縣士族

養母 チヨ　安政四、一生、佐賀、士、鶴丸兵右衞門長女
妻 スナ　明三四、一生、佐賀、執行榮三郎長女
男 善治　明三七、四生
男 萬里　明四二、一二生
女 ミヨ　大三、四生
女 アヤ　大四、七生

君は佐賀縣人內田淸秀の三男にして明治十一年四月を以て生れ先代善太郎の養子となり大正三年家督を相續し前名貞治を改む金融業を營み佐賀縣多額納稅者にして直接國稅三千八百二十八圓を納む家族は尙三男淸治(明四五、一生)五女マサ(大七、二生)あり長女チエ(明三九、六生)は大分縣人岩尾眞一に嫁せり(佐賀、佐賀、久保田村)

## 堤彥一

從七位勳六等、ベルベツト石鹼㈱取締役、東京府士族

母 喜久　安政五、五生、福井、士、大平彌嘉良長女
妻 小礒　明二三、一一生、神奈川、士、木內慶祐五女、横濱高女出身
女 富美　明四五、二生、聖心女子學院在學

君は舊福井藩士堤武門の長男にして明治十年一月を以て生れ同三十二年家督を相續す同年東京高等工業學校機械科を卒業し宮內省內匠寮に奉職す同四十年高田商會に入り同四十五年米國紐育支店に轉勤し次長を歷て支店長となり大正十四年家族と共に歸朝現時ベルベツト石鹼會社取締役たり弟知夫(明一七、五生、旭硝子會社社員)同時夫(同二七、一生、農學士、東京營林局技師)は各分家し同信夫(同三三、一生、天滿紡織會社工務部長)は東京府士族原田家を繼げり(兵庫、武庫、甲東村仁川電西宮二三三八)

## 堤正之

正五位、男爵、海軍大尉、伊號第五十七潜水艦航海長兼分隊長、東京府華族

妻 安藝　明四〇、二生、熊本、士、西勇雄三女、東京府立第三高女出身
男 正治　昭五、一一生

當家は先代正誼より顯る正誼は舊福井藩士にして夙に江戸に出で海軍教習所に於て航海術を傳習し明治二年福井藩權大參事となり同四年宮內省に入り侍從宮內少丞大書記官宮內次官御料局長官內匠頭等に歷任し同三十三年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる後貴族院議員宮中顧問官に歷任す君は亡爺の長男にして明治三十六年五月を以て生れ大正十年祖父正誼の家督を相續し襲爵仰付けらる海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ累で大尉に陞り現時伊號第五十七潜水艦航海長兼分隊長たり家族は尙從弟新三(大四、四生、亡伯父健三三男)あり伯母多滿(明元、八生)は理學博士佐々木忠次郎に叔母順子(同一二、九生)は東京府人佐佐木高志に同さた(同一六、八生)は同府士族南鄉次郎に嫁し從弟正弘(同三七、一生、亡伯父健三長男)は分家し亡伯父健三妻春(同一九、二生、東京、村井長寬長女)は其一子を伴ひ其家籍に入り叔母コトキ(同四、八生)は奈良縣士族丸田一郎の同よし(同一〇、三生)は東京府人岡村於菟彥の各母たり(東京、赤坂、青山南町六ノ一二〇佐々木忠次郎方電靑山二五七)
參照=岡村於菟彥、佐々木忠次郎、南鄉次郎、西勇雄、丸田一郎の項

## 堤正義

從三位勳一等、工學博士、大阪工業大學長、東京府士族

養母 豐　安政三、一〇生、東京、小倉辰之助長女
妻 なほ　明一五、六生、東京、士、加太重邦妹、府立京都高女出身
男 正幸　明三七、四生、工學士
男 信正　明四一、一二生、立大在學
女 花子　明四三、一一生、女子學院出身

君は靜岡縣人賀茂嚴雄の弟にして明治七年七月を以て生れ先代豐の養子となり同三十三年家督を相續し前名佐久間を改む同三十年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し船舶司檢所技師同司檢官遞信技師兼海事官海事局技師航路標識管理所技師高等海員審判所審判官遞信省臨時調查局技師戰時船舶管理局技師等に歷任し大正十四年大阪工業大學長に任ぜられ昭和四年同校昇格後大阪工業大學校長として今日に至る明治三十三年英國に留學を命ぜられ次で昭和五年再度歐米各國に出張す大正四年工學博士の學位を授與せらる家族は尙四男和正(大二、五生)あり二男正安(明三九、一生、慶大出身)は衆議院議員久原房之助長女泰子の婿養子となれり(大阪、北、東野田九ノ一二〇ノ三七電東二二五〇)
參照=加太重邦、賀茂嚴雄、久原房之助※伊藤乙次郎※飯田嘉六※藤井市三郎の項

## 堤峯次郎

從五位勳六等、大阪高等學校教授、福岡縣在籍

妻 ハナ　明二四、一一生、醫學博士行德俊則妹、縣立久留米高女出身
男 健二　大五、一一生
女 秋子　大元、九生、大阪府立堺高女出身

君は久留米市の舊家堤市五郎の二男にして明治十三年十二月を以て生れ先代萬次の養子となり同三十五年家督を相續す同四十一年東京帝國大學文科大學西洋史學科を卒業し大正五年兵庫縣立龍野中學校教頭となり同十一年大阪高等學校の創立と同時に同校教授に任ぜられ現在に至る家族は尙二女奈津子(大九、八生)三男敏郎(同一三、六生)あり(大阪、泉北、濱寺町諏訪の森)

## 堤康次郎

衆議院議員(滋賀縣選出)、東京商工會議所議員、滋賀縣在籍

妻 ふみ　明二〇、二生、千葉、士、川崎和雄養母

君は滋賀縣人堤猶治郎の長男にして明治二十二年三月を以て生れ同二十六年家督を相續す夙に早稻田大學政治經濟科を卒業し現に東京商工會議所議員たり衆議院議員に當選する事三回に及び立憲民政黨に屬す長女淑子(明四二、一生)は栃木縣人小島卯八二男正治郎に妹ふさ(同二三、一〇生)は石川縣人永井外吉に伯母すま(文久三、九生)は滋賀縣人廣田文三郎に嫁し弟淳二郎(明二六、五生)は右廣田文三郎に叔母すみ(同三、三生)は同縣人山田しかに各養子となれり(東京市外大崎

町上大崎四〇五電高輪四五六九）
參照＝永井外吉の項

## 堤林數衞

南洋商會㈱社長　山形縣士族

妻　きよ　明一八、一〇生、山形、高山惠太郎妹
男　數馬　明四〇、八生
男　謙受　明四二、五生
女　テツ　大五、九生

君は山形縣士族堤林繁美の長男にして明治六年十二月を以て生れ同十六年家督を相續す現時南洋商會社長にして曩に南洋倉庫會社取締役を兼ぬ家族は尙四男三郎(大三、五生)五男廣(同七、九生)五女百合子(同一四、三生)あり長女ツヤ(明三〇、八生)は山形縣士族富澤尙義に四女モト(大一〇、三生)は同縣人高山惠太郎に甥弘一(明三三、八生)は同縣人倭德四郎に各養子となり二女文子(同三六、一二生)は秋田縣人伊藤永吉に姉セチ(同元、一生)は山形縣士族富澤尙美に同サタ(同三、一二生)は同縣士族高橋修七長男忠三郎に妹ヤス(同一〇、七生)は秋田縣人高橋貞吉二男茂次郎に同トメ(同一四、一生)は山形縣人椰野倚猪に同ミツ(同一九、四生)は北海道人川田德次郎に嫁せり(東京、小石川、水道端町一ノ二七電小石川二八八八)
參照＝高山惠太郎の項

## 塘仁三

理學博士、大阪高等醫學專門學校教授、京都帝國大學理學部講師　大阪府在籍

母　スヤ　安政三、四生、大阪、木下友七叔母
妻　さと　明三一、一二生、大阪、明路常造妹
男　仁一郎　大一一、六生

君は大阪府人塘愼三郎の二男にして明治二十二年十二月を以て生れ大正二年家督を相續す夙に京都帝國大學理學部を卒業し現時前記の教職に在り昭和四年理學博士の學位を受く家族は尙二男賢二郎(大一四、一二生)長女證子(昭三、一一生)姉通子(明一二、一一生)あり弟龍藏(同三〇、一生)は分家せりA六七〇(大阪、北綱島町二九電東五二〇六)
參照＝明路常造の項

## 綱島長次郎

中備銀行㈱取締役、農業　岡山縣在籍

妻　宇多與　明一二、四生、岡山、間部彰姉
男　得夫　明三三、一一生、米國コーネル大學出身
婦　南海子　明四一、一二生、長男得夫妻、岡山、木村光一長女
男　長年　明三八、七生、東北帝大出身、獨逸ライプチヒ市留學
女　清　明四一、三生、神戸女學院出身
男　長明　明四四、五生
女　信子　大四、一〇生

君は岡山縣人綱島長吉の長男にして明治三年二月を以て生れ同四十年家督を相續す農業を營み傍ら中備銀行取締役たり家族は尙四男長正(大八、六生)あり妹ひさ(明八、一生)同夫讓太郎(同六、一二生、岡山、小松原謙吉長男)は其一子を伴ひ亡弟政吉(同一〇、五生)同妻敏(同一七、九生、岡山、前川玄泉三女)は其二女を伴ひ各分家せり(岡山市)
參照＝間部彰の項

## 恒川小三郎

名古屋商工會議所議員、名古屋銀行㈱頭取、東陽倉庫㈱取締役、昭和銀行、大正海運、中央信託各㈱監査役、愛知縣在籍

妻　きぬ　明二、八生、愛知、近藤庄太郎三女
男　義夫　明三七、六生、早大出身、佛國ソルボンヌ大學在學
男　信夫　明四二、八生、名古屋高商在學

君は愛知縣人臼杵安藏の二男にして文久三年三月を以て生れ先代安藏の養子となり明治十九年家督を相續す現時名古屋銀行頭取たる外前記諸會社の重役にして名古屋商工會議所議員たり庶子敏夫(大五、三生、生母、愛知、富田しな)は東京府人近藤秀顯の養子となれり(名古屋、西、江中町一ノ二電西七三七)

## 恒川新助

中外石油㈱代表取締役、淺草ビルデング㈱取締役、南北瓦斯㈱監査役、東京府在籍

妻　アサ　明二、一一生、東京、桑原幸三郎妹
男　新一　明一四、七生、東京米穀商品取引所正米部取引員
婦　信　明二二、六生、長男新一妻、神奈川、福本善之妹
女　愛子　明三九、九生
男　三郎　明四二、三生

君は東京府人恒川新藏の長男にして嘉永五年一月を以て生れ後家督を相續す現時中外石油會社代表取締役の外前記會社の重役を兼ぬ長女いし(明一六、一二生)は東京府人桑原米吉に妹むめ(萬延元、一一生)は同府人畑野孫八に同いと(明六、一〇生)は同府人松岡萬次郎に姪きみ(同一二、一〇生、大阪、岡田庄次郎二女)は神奈川縣人深川伊都麿に嫁し庶子ウノ(同二八、一二生、生母、長崎、石橋シナ)は東京府人木內彌吉の養子となれり(東京市外巣鴨町上駒込五六三)
參照＝木內彌吉の項

## 恒藤規隆

正五位勳五等、農學博士、鹿兒島高等農林學校講師、東京府在籍

妻　スミ　明一〇、八生、島根、士、勝田淳叔母
養子　恭　明二一、一二生

君は大分縣士族恒藤祐三郎の弟にして安政四年一月を以て生れ明治二十八年分れて一家を創立す夙に大阪英語學校に學び尋で駒場農學校を卒業し農商務省に出仕して獨逸人フェスカ博士と共に本邦の土性調査及其施設計畫に任じ地質局土性課長地質調査所技師等に歷任し尋で歐米各國の土性及生產地の實況を調査し歸朝するや農學博士の學位を授けらる後再び歐洲に航し肥料礦物產地の視察及肥料製造に就き研究する處あり同三十四年農商務省に肥料礦物調査所の設置せらるゝや該所長に任ぜられ同三十六年肥料調査終了後官を辭し專ら肥料礦物調査のことに從ひ內地は勿論南方諸島の探檢に力を盡し遂に沖繩縣管下ラサ島の燐礦石大產地たることを發見しラサ島燐礦合資會社を創立して社長となり間もなくラサ島燐礦株式會社を興して之を合併し其の社長に擧げられ更に燐礦石海鳥糞の產地を發見し之に新南群島と命名せり曩に盛岡鹿兒島三重宇都宮各高等農林學校及鳥取高等農業學校各講師に歷任し現時鹿兒島高等農林學校講師たり女フシ(明三一、一一生)は男爵有馬純長に妹トヨ(元治元、七生)は東京府士族宇田川準一に嫁し庶子豐方(明四二、一生、生母、愛知、平子かね)は其の生母の養子となれりA六七四(東京、牛込、若宮町三六電牛込一四九〇)
參照＝男爵有馬純長、恒藤恭の項

## 恒藤恭

從五位、京都帝國大學教授、法學部勤務、東京府在籍

養父　規隆　安政四、一生、現戸主
妻　まさ　明二九、一一生、養父規隆長女
男　武二　大八、八生

君は島根縣人井川精一の二男にして明治二十一年十二月を以て生れ大正六年恒藤規隆の養子となる同五年東京帝國大學法科大學政治經濟學科を卒業し同八年同志社大學法學部教授に任じ同十一年京都帝國大學助教授に轉じ同十三年佛伊獨英米各國に留學し歸朝後昭和四年京都帝國大學教授に任ぜられ現に法學部勤務たり家族は尙長女初子(大一一、一〇生)二女百合(昭二、一二生)あり(京都、左京、下鴨森本町六電上五六九八)
參照＝恒藤規隆の項

## 恒松於菟二

島根縣會議長、島根縣多額納稅者、島根貯蓄銀行㈱頭取、松江銀行㈱取締役、松江ハム㈱監査役、農業　島根縣在籍

母　サト　文久二、八生、島根、恒松廛一妹
妻　ふじ　明三四、九生、廣島、望月圭介養子
男　久之　大五、一生

君は島根縣人恒松泰太郎の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正十四年家督を相續す同三年明治大學政治科を卒業し農を營み傍ら前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅八千四百七十九圓を納め島根縣會議長に推さる家族は尙二男洋平(大六、三生)三男制治(同一二、一一生)四男志良(同一四、一一生)弟熊夫(明三四、七生)あり姉サツ(同一九、一〇生)は同夫昇(同一八、一一生、島根、矢田寬二男)と共に其子女を伴ひ分家し叔父啓吉(同八、三生)同勤一(同一〇、三生)ゝ亦各分家し妹シン(同二六、四生)は前記分家養兄恒松昇の養子となり同サワ(同二八、一二生)は島根縣人幸田文輔に叔母シツ(同一二、三生)は同縣人恒松丑一に嫁せり(島根、安濃、大田町)
參照＝望月圭介※望月乙也の項

## 恒松謙介

松江銀行㈱監査役　島根縣在籍

妻　ミワ　明一八、一一生、島根、和田孝一郎姉
男　正介　大二、一生
女　壽代　明四二、一〇生

君は島根縣人恒松律造の長男にして明治十六年三月を以て生れ先代七十郎の養子となり同三十九年家督を相續す現時松江銀行監査役たり家族は尙二男久夫(大四、一〇生)二女テツ(同八、一〇生)三女正子(同一二、九生)弟吉哉(明二六、八生)同妻鄕子(同三六、四生、島根、佐藤三作長女)及其子女あり同幹(同二三、二生)は分家せり(島根、安濃、大田町)
參照＝和田孝一郎※岡本與茂一の項

## 常岡良三

正五位勳四等功五級、醫學博士、京都府立醫科大學教授　三重縣在籍

妻　アサ　明一七、一一生、京都、故中村德三郎長女
男　俊三　明四二、八生

君は三重縣名張藩士常岡屯三男龍吉の長男にして明治十二年七月を以て生れ大正四年家督を相續す現時京都府立醫科大學教授たり大正二年より二箇年間獨逸及英國に留學し同六年醫學博士の學位を授けらる昭和四年八月より同五年四月に亘り學事視察の爲歐米に出張す家族は尙二男博(大七、七生)あり妹すゑ(明一六、五生)は三重縣人吉田久四郎に嫁せり(京都、上京、出雲路橋西詰南電上八一六)
參照＝吉田久四郎の項

## 角替利策

從五位勳六等、絹業試驗所技師、第一部長、靜岡縣在籍

養父　太郎市　安政六、九生、現戸主
養母　ふゆ　萬延元、一一生、靜岡、青野文吉長女
妻　ふみ　明二九、八生、靜岡、河井彌八妹

君は靜岡縣人青野文之丞の二男にして明治二十一年十月を以て生れ同二十五年角替太郎市の養子となる大正四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し同大學副手神奈川縣農事試驗場技師絹業試驗所技師兼生絲檢査所技師等に歷任し現時絹業試驗所技師第一部長たり昭和二年歐米各國に出張を命ぜらる家族は尙長女匡子(大八、三生)二女佑子(同一三、三生)養妹ゑい(明二九、七生)同夫保郎(同二七、三生、靜岡、水谷長三郎二男)及其二子あり養妹かつ(同三四、五生)は靜岡縣人杉浦利作に養叔母たい(同一二、一二生)は同縣人大石源五郎長男源治郎に嫁し養叔父太郎七(同四、一二生)は分家せり(橫濱、保土ヶ谷、保土ヶ谷町二九七)
參照＝河井彌八※山崎昇二郎の項

## 角澤新造

直江津商工會議所議員、直江津商船㈱取締役、直江津合同運送㈱監査役、新潟縣在籍

妻　テイ　明二八、七生、內藤鼎太郎長女
男　新一郎　大二、八生
女　のぶ　明四五、三生

君は新潟縣人先代新造の二男にして明治二十一年七月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名新吉を改め襲名す現時前記各會社の重役にして推されて直江津商工會議所議員たり家族は尙二男利政(大四、五生)二女千代子(同六、八生)三女八重子(同九、一生)四女靜子(同一一、一二生)五女正子(同一四、一生)六女光枝(昭二、三生)あり(新潟、中頸城、直江津町)

## 角田宇兵衞

野上輕便鐵道㈱取締役、紀州製紙㈱監査役、和歌山縣在籍

妻　於鐵　明一四、五生、和歌山、楠見嘉榮妹
男　住一　明三五、一二生
婦　ツヤ　明四〇、一生、長男住一妻、大阪、久保惣太郎三女
女　千賀　明四〇、二生

君は和歌山縣人先代宇兵衞の二男にして明治十二年七月を以て生れ同三十四年家督を相續し前名住之助を改め襲名す現時野上輕便鐵道會社取締役たる外前記會社の重役を兼ぬ家族は尙孫敎子(昭四、五生、長男住一長女)あり長女住江(明三四、八生)は大阪府人天野貞一の養子となり弟藤造(同一九、七生)は分家し妹柳(同一六、一一生)は前記藤造の家籍に入れり(和歌山、海草、日方町)

## 角田格七

上毛銀行㈱常務取締役　群馬縣在籍

男　惠重　明一三、九生
婦　まつ　明一七、三生、長男惠重妻、群馬、木暮松三郎三女
男　廣次　明二二、四生
男　好　明三〇、四生
婦　カネ　明三二、三生、四男好妻、群馬、高橋質太郎妹
庶子　淺次　明四三、三生
庶子　つれ　明四五、三生
孫夫　緒二　明三〇、四生、孫よし夫、群馬、角田保太郎長男

孫　よし　明三七、一〇生、孫納二妻、長男惠重長女

孫　守平　明三九、七生、長男惠重長男

君は群馬縣人角田儀平治の長男にして安政六年十二月を以て生れ明治二十二年家督を相續す現時上毛銀行常務取締役たり家族は尚庶子定平(大五、一二生)同六郎(同九、一二生)孫映子(同一三、七生、四男好長女)同鯉智子(昭二、九生、同二女)同絢一郎(同五、二生、同二男)曾孫久一(大一三、九生、孫納二長男)同昭次郎(昭二、六生、同二男)あり二女なか(明二四、七生)は島根縣人足高弘毅に嫁し子フク(同三四、一一生、群馬、荒木ノブ孫)は群馬縣人深澤愛三郎の養子となり庶子茂(同三八、四生)は分家し同節二(同四〇、一二生)は其家籍に入れり(群馬、勢多、横野村)

參照＝木暮松三郎、角田廣次の項

## 角田鎌次郎

愛知縣多額納稅者、金融業

愛知縣在籍

妻　たづへ　明一五、五生、愛知、花井俊二二女

男　久之助　明三一、一生

婦　久榮　明三八、一二生、長男久之助妻、愛知、森田清助八女

女　とし　明三五、七生

女　うた子　明四四、九生

君は愛知縣人角田久助の長男にして明治五年三月を以て生れ同二十七年家督を相續す金融業を營み愛知縣多額納稅者たり家族は尚孫元久(大一二、一〇生、長男久之助長男)同正子(同一五、一二生、同長女)同辰夫(昭三、一〇生、同二男)あり二男榮藏(明三六、一〇生)弟與三郎(同九、二生)は各分家し二女てる(同三九七生)は愛知縣人田邊英一に同女しげ(同四一、六生)は同縣人大岩六三郎に妹とみ(同一三、五生)は同縣士族木村直俶二男暉太郎に嫁せり(名古屋、中、伊勢町一八二電南九九二)

參照＝森田清助、熊澤宗三郎、武志水正太郎、高橋慶太郎の項

## 角田邦松

日本工業總務取締役

東京府在籍

父　忠吉　嘉永元、八生

妻　こと　明二二、一生、東京、林榮三郎三女

男　忠一　明四三、五生

君は群馬縣人角田儀平治の長男にして安政六年十二月を以て生れ明治二十二年家督を相續す現時上毛銀行常務取締役たり家族は尚庶子定平(大五、一二生)同六郎(同九、一二生)孫映子(同一三、七生、四男好長女)同鯉智子(昭二、九生、同二女)同絢一郎(同五、二生、同二男)曾孫久一(大一三、九生、孫納二長男)同昭次郎(昭二、六生、同二男)あり二女なか(明二四、七生)は島根縣人足高弘毅に嫁し子フク(同三四、一一生、群馬、荒木ノブ孫)は群馬縣人深澤愛三郎の養子となり庶子茂(同三八、四生)は分家し同節二(同四〇、一二生)は其家籍に入れり(群馬、勢多、横野村)

參照＝木暮松三郎、角田廣次の項

## 角田作次郎

日本郵船株式會社監査役

愛知縣在籍

妻　まち　明一九、四生、愛知、花井俊二二女

男　司郎　明四五、五生、第八高校在學

女　美智子　明四三、一生、跡見女學校出身

君は群馬縣人角田久吉の二男にして明治十五年十二月を以て生れ昭和四年分れて一家を創立す明治三十九年東京高等商業學校を卒業し同年日本郵船會社に入り大正十五年同社名古屋支店長に進み昭和五年調度課長に轉じ今日に至る曩に名古屋商業會議所特別議員に擧げらるる家族は尚二男俊次(大三、九生)三男辰男(同五、九生)四男孝(同一一、九生)あり(東京市外杉並町高圓寺二〇〇電中野二四四三)

參照＝淺赤右一、淺原田嘉種の項

## 角田定次郎

大阪株式取引所穀監査役

滋賀縣在籍

母　ふん　萬延元、八生、滋賀、田中孫十郎長女

妻　タツ　明一九、四生、大阪、井澤市藏娶子

男　直三　大一〇、八生

女　年子　大三、一二生

君は滋賀縣人角田孫三郎の長男にして明治八年五月を以て生れ大正五年家督を相續す現時大阪株式取引所監査役たり家族は尚二女秀子(大六、九生)あり(大阪、住吉、遠里小野町二三電住吉二三五九)

## 角田準藏

從五位勳四等、通信事務官、大阪中央郵便局長、千葉縣士族

明一八、三生、北海道、士、西村榮治三女

妻　シヅエ

男　明正　大二、九生

女　道子　明四一、一生

君は千葉縣士族角田重次郎の長男にして明治八年七月を以て生れ大正三年家督を相續す明治三十年東京郵便電信學校を卒業し郵便電信書記となり和歌山郵便局長を經て通信事務官に任ぜられ大阪中央郵便局長に補せられ次で通信事務官に進み今日に至る曩に英米に出張す家族は尚二男和男(大五、三生)三男重三郎(同八、一〇生)四男實(同一一、一〇生)の外姉ふじ(明四四、一生)同夫猪之助(同四一、五生、千葉、栗飯原光五郎三男)及其子女あり(大阪、南、瓦屋町五ノ二三電南四六〇〇)

## 角田晴之助

千代田毛織株式會社長、角田商店、角田商事各株式會社代表取締役、大日本製網、角田被服各株式會社取締役、東京モスリン紡織、昭和土地各株式會社監査役

妻　こう

妹　明一七、七生、東京、伊藤辰夫郎

君は東京府人角田平次郎の長男にして明治十五年一月を以て生れ昭和二年家督を相續す現時千代田毛織會社長たる外前記諸會社の重役として知らるる家族は尚養妹三代子(明四三、一生、東京、鈴木まる私生子)あり(東京市外千駄ヶ谷町五六二電青山三六五五)

## 角田隆

從四位勳四等、京都府立醫科大學教授、京都府士族

父　敬三郎　嘉永三、四生、京都、士、稻葉謙二男、現戸主

母　久榮　安政六、一〇生、親父俊德二女

妻　照　明一四、二生、長崎、澁谷章生長女

男　英　明三六、一一生

男　成　明四〇、一二生





君は京都府士族角田敬三郎の長男にして明治八年八月を以て生る現時京都府立醫科大學教授たり曩に同大學學生監を兼ね家族は尚俊吉(明一四、一一生)同妻すわ(同二六、一〇生、東京、伊藤廉雄姉)及其子女の外大伯母スカ(慶應二、一二生)あり妹咬子(明二九、四生)は大阪府人牧野純一に嫁し同啓子(同三一、一二生)は京都府人山本春海の養子となれり(京都、上京、寺町廣小路下東電上二七一八)

## 角田猛

從五位、男爵

東京府華族

妻　廣子　明四〇、三生、愛知、本鄉範子妹

男　秀松　大一二、七生

當家は正三位勳一等秀松より家名を揚ぐ秀松は舊會津藩士にして明治七年海軍少尉に任じ海軍中將に累進す其間迅鯨浪速各艦長横須賀軍港司令官鳥灣總督府軍務局海軍部長同海軍參謀官佐世保吳各鎭守府司令官常備艦隊司令長官竹敷要港部司令官等に歷補し日露役の功に依り功二級を賜ふ長男武雄其後を享け同四年父秀松の勳功に依り華族に列し男爵を授けらる先代好武は其弟にして早稻田大學に學び陸軍騎兵少尉たり君は故秀松の四男にして明治二十八年十一月を以て生れ大正十四年兄好武の家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尚長女瑠璃子(昭二、八生)二男勇輔(同三、九生)兄秀雄(明一九、一生)姉愛子(同二、一生)同トメ(同二六、八生)あり(東京、牛込、市谷谷町四四山中勇三郎方電四谷三五二一)

## 角田虎吉

角田漆器店名代表社員、漆器指物卸商、東京府在籍

妻　トミ　明元、七生、養父清兵衞二女

養子　三郎　明一六、一一生、兄重敏二男

婦　ノブ　明二九、三生、養子三郎妻、和歌山、藤本榮吉四女

君は和歌山縣人川上重敏の弟にして慶應三年五月を以て生れ角田家の養子となり養兄清兵衞方より分れて一家を創立す漆器指物商を營み角田漆器店を主宰す家族は尚孫種造(大六、一二生、養子三郎長男)同とし(同一〇、二生、同長女)同すみ(同一三、九生、同二女)同益彌(昭二、二生、同二男)あり(東京、日本橋、村松町七電濱花一二三四)

## 角田廣次

從五位勳六等、臺灣總督事務官財務局稅務課長、群馬縣在籍

父　格七　安政六、一二生、現戸主

妻　文　明三〇、二生、鹿兒島、片山昂長女

男　健一郎　大八、五生

君は群馬縣人角田格七の二男にして明治二十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來臺灣總督府に勤務し阿緱新竹各廳屬總督府鐵道部事務官同府州警視同府州理事官同府州事務官新竹臺南各州警務部長等を經て總督府事務官兼警務局長兼同局衞生課長總督府專賣局參事歷草課長等に歷補し昭和六年現職に轉ず家族は尚二男禮次郎(大九、一二生)長女百合子(同一二、二生)三男信三郎(同一五、一〇生)四男寺四郎(昭四、一〇生)あり(臺北、總督府財務局內)

參照＝角田格七の項

## 角田文平

福島貯蓄銀行株頭取、第百七銀行福島電燈各株取締役

宮城縣在籍

妻　富美　明一七、七生、養父林兵衞二女、東京府立第一高女出身

男　文衞　大二、四生

女　多美　大五、三生

君は福島縣人安齋竹二郎の長男にして角田林兵衞の養子となり養父清兵衞より分れて一家を創立す漆器指物商を營み角田漆器店を主宰す家族は尚孫種造(大六、一二生、養子三郎長男)同とし(同一〇、二生、同長女)同すみ(同一三、九生、同二女)同益彌(昭二、二生、同二男)あり(東京、日本橋、村松町七電濱花一二三四)

## 角田政之助

正五位勳三等功五級、陸軍少將、歩兵第二十八旅團長、群馬縣在籍

父　太重郎　安政三、一生

母　みち　元治元、二生、群馬、角田藤平二女

妻　ヨリエ　明二四、一一生、大分、和田龜治妹

君は群馬縣人角田太重郎の長男にして明治十五年十月を以て生れ昭和三年家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し明治三十六年陸軍歩兵少尉に任じ昭和四年陸軍少將に累進す其間日露戰役に從軍し陸軍大學校を了へ參謀本部々員英國駐在員世界大戰間に於ける英國出征軍從軍武官印度駐劄武官歩兵第七十九聯隊長等を經て教育總監部第二課長兼陸軍將校生徒試驗常置委員主事に補せられ現事歩兵第二十八旅團長たり妹たい(明三二、九生)は山口縣人和田孝助に嫁せり(高崎、請地町電二六一)

參照＝和田龜治、森秀の項

## 角田元亮

地主

東京府在籍

妻　いく　明一六、八生、東京、阿川信平妹

男　長雄　明三五、二生

女　瑞江　明四三、六生

君は東京府人角田長廣の長男にして慶應三年十二月を以て生れ明治二十年家督を相續す地主たり家族は尚四男廣(明四五、七生)五男淳(大三、一一生)二女豐子(同七、六生)三女春海(同一〇、一生)あり(東京市外碑衾町碑文谷二一三八)

參照＝阿川信平、鈴木豐平の項

**角田芳太郎**（カクタ）　柏原洋紙店、西成製紙各種取締役　小島洋紙店運盧査役、東京府在籍

妻　良子　明三四、三生、養父吉二郎五女

男　豐　大一三、二生

君は三重縣人吉村銀七の三男にして明治十四年八月を以て生れ角田吉二郎の養子となり大正十一年分れて一家を創立す現時柏原洋紙店取締役にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尚長女繁子(大一〇、七生)二女泰子(同一一、一〇生)二男清(昭二、六生)三女都子(同四、三生)あり(東京市外千駄ヶ谷町原宿二〇八電青山二七九)

**角田芳太郎**　寶山玻璃廠種取締役社長、上海倉庫信託、公興纖廠各種鑑査役、福祥土地信用組合理事長　和歌山縣在籍

妻　モト　明八、五生、大阪、北川政七長女

男　榮一　明二七、一〇生

婿　ハツ　明三二、三生、長男榮一妻、大阪岩田龜之助妹

男　賢二　明三〇、一生

婿　貞子　明三七、九生、二男賢二妻、大阪伊藤才次郎三女

男　精三　明三五、一二生、同志社商科出身

君は和歌山縣人角田利右衛門の二男にして明治八年一月を以て生れ同二十七年分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして寶山玻璃廠會社取締役社長たり家族は尚孫豐太郎(大九、一生、長男榮一長男)同美代(同一二、二生、同長女)同澄子(昭二、四生、同二女)同輝子(同二、一一生、二男賢二長女)あり長女文子(明三四、一〇生)は兵庫縣人北川榮助の養子となれり(上海、廣東路第三六)

參照‖岩田龜之助の項

**角田林兵衛**　山八銀行種頭取　福島縣在籍

妻　き　を　明三六、四生、田中五六長女

男　德郎　大一三、五生

君は福島縣人鳴原太郎の弟にして角田文平の養嗣なり明治三十三年十二月を以て生れ先代林兵衛の養子となり大正十二年家督を相續し昭和五年前名五郎を改め襲名す現に山八銀行頭取たり家族は尚長女敦子(昭二、八生)養妹あい(明三九、二生)同夫省一(同三六、九生、岩手、安藤兵四郎二男)及其一子あり養妹つや(同三七生)は福島縣人須釜嘉平太長男英一に嫁せり(福島、伊達、桑折町電一)

參照‖須釜嘉平太、角田文平の項

**鍔甚平**　石川縣多額納稅者、鍔甚樓、料理業、石川縣在籍

養母　志可　明三、九生、鍔甚右衛門二女

妻　重　明二〇、一生、養父甚平長女

男　雄　明三七、三生

男　吉　明三八、六生、長男虎雄妻、齋田喜右衛門二女

君は石川縣人吉村銀七の三男にして明治十四年八月を以て生れ角田吉二郎の養子となり大正十一年分れて一家を創立す現時柏原洋紙店取締役にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尚長女繁子(大一〇、七生)二女泰子(同一一、一〇生)二男清(昭二、六生)三女都子(同四、三生)あり(東京市外千駄ヶ谷町原宿二〇八電青山二七九)

**角田芳太郎**　寶山玻璃廠種取締役社長、上海倉庫信託、公興纖廠各種鑑査役、福祥土地信用組合理事長　和歌山縣在籍

妻　モト　明八、五生、大阪、北川政七長女

男　榮一　明二七、一〇生

婿　ハツ　明三二、三生、長男榮一妻、大阪岩田龜之助妹

男　賢二　明三〇、一生

婿　貞子　明三七、九生、二男賢二妻、大阪伊藤才次郎三女

男　精三　明三五、一二生、同志社商科出身

君は和歌山縣人角田利右衛門の二男にして明治八年一月を以て生れ同二十七年分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして寶山玻璃廠會社取締役社長たり家族は尚孫豐太郎(大九、一生、長男榮一長男)同美代(同一二、二生、同長女)同澄子(昭二、四生、同二女)同輝子(同二、一一生、二男賢二長女)あり長女文子(明三四、一〇生)は兵庫縣人北川榮助の養子となれり(上海、廣東路第三六)

參照‖岩田龜之助の項

**角田林兵衛**　山八銀行種頭取　福島縣在籍

妻　き　を　明三六、四生、田中五六長女

男　德郎　大一三、五生

君は福島縣人鳴原太郎の弟にして角田文平の養嗣なり明治三十三年十二月を以て生れ先代林兵衛の養子となり大正十二年家督を相續し昭和五年前名五郎を改め襲名す現に山八銀行頭取たり家族は尚長女敦子(昭二、八生)養妹あい(明三九、二生)同夫省一(同三六、九生、岩手、安藤兵四郎二男)及其一子あり養妹つや(同三七生)は福島縣人須釜嘉平太長男英一に嫁せり(福島、伊達、桑折町電一)

參照‖須釜嘉平太、角田文平の項

**鍔甚平**　石川縣多額納稅者、鍔甚樓、料理業、石川縣在籍

養母　志可　明三、九生、鍔甚右衛門二女

妻　重　明二〇、一生、養父甚平長女

男　雄　明三七、三生

男　吉　明三八、六生、長男虎雄妻、齋田喜右衛門二女

君は石川縣人吉村銀七の三男にして明治十四年八月を以て生れ角田吉二郎の養子となり大正十一年分れて一家を創立す現時柏原洋紙店取締役にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尚長女繁子(大一〇、七生)二女泰子(同一一、一〇生)二男清(昭二、六生)三女都子(同四、三生)あり(東京市外千駄ヶ谷町原宿二〇八電青山二七九)

**椿松太郎**　茨城縣多額納稅者、夕刊茨城民報社種鑑査役、土木建築請負業　茨城縣在籍

養母　ちよ　元治元、二生　養祖父與惣平長女

妻　けい　明二一、一生、養父啓三郎長女

男　武雄　大一〇、八生

君は千葉縣人大矢佐五兵衛の三男にして明治五年四月を以て生れ先代啓三郎の養子となり大正七年家督を相續す土木建築請負業を營み傍ら前記會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅千四百九十圓を納む家族は尚四男三雄(大一二、七生)二女幸子(同一四、九生)五男四朗(昭二、一一生)伯父惣三郎(文久三、三生)あり(水戸、上市田見小路六二八)

**椿宮太郎**　男　榮　明三一、五生

婿　のぶ　明三六、二生、二男榮妻、東京、前田竹治郎長女

君は山形縣人椿萬次郎の長男にして明治三年十二月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す現時日本酒造會社專務取締役たる外前記各會社の重役にして推されて山形縣會議員たり家族は尚孫千代子(大一四、一生、二男榮二女)同靜枝(同一五、七生、同三女)同和子(昭四二生、同四女)あり(米澤、御廟六一〇六)

**椿陸奥雄**　熊本市參事會員、熊本縣多額納稅者、大野水力電氣種鑑査役、金融業、熊本縣士族

妻　メヤ　明四四生

男　博　明四三、八生

女　ナツ　大二、七生

君は熊本縣士族椿源次郎の長男にして明治十一年六月を以て生れ同三十四年家督を相續し襲爵仰付けらる先代九八郎は其長男にして同四十三年京都帝國大學法科大學英法科を卒業し大正四年農商務省副參政官に任じ日獨事件の功に依り勳四等に敍せらる又貴族院議員に推され幾多銀行會社の重役に就任す君は先ず代航三の五男にして明治二十四年三月を以て生れ昭和三年選定に依り兄九八郎の後を承け家督を相續し襲爵仰付けらる姉澄子(明一四、九生)は東京府士族岡見清致長男敬一に同セイコ(同一七、六生、頌榮女學校出身)は法學博士牧野英一に妹豐子(同二七、一一生、出身校同上)は東京府士族小山一郎弟二郎に同則子(同三一、六生)は同府人關登に嫁し兄顯三郎(同二〇年生、海軍中佐)は父航三の實家原氏を相續し同淳四郎(同二二、四生)弟章七郎(同二六、七生)は各分家せり(東京市外目黑町下目黑五ノ五電高輪二五〇)

參照‖岡見清致、小山一郎、牧野英一の項

**坪井九馬三**　正三位勳二等、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授　東京府在籍

妻　きやう　明五、七生、埼玉、内村綱體妹

男　環　明二八、一生、工學士、鐵道省技師

婿　キミ　明四〇、九生、長男環妻、福島、芳賀榮次郎二女

君は岐阜縣人坪井輿作の二男にして安政五年十二月を以て生れ明治四年東京大學文學部を卒業し同十四年東京大學理學部を卒業し同二十年獨逸伯林塡國ブラーガ、ウイーン瑞西チユウリヒ等各大學に學び歸朝い後東京帝國大學講師第一高等中學校囑託東京帝國大學文科大學教授同學長等に歷任し同二十四年文學博士の學位を受く我國史學界の礎盛として名聲あり史學會評議員長に推され又考古學會長に擧げられ現に帝國學士院會員にして東京帝國大學名譽教授たり家族は尚孫みや子(昭三、一生、九生、同二女)同晃(同五、一二生、出身校同上)は法學博士牧野英一に妹豐子(同二七、一一生、出身校同上)は東京府士族小山一郎弟二郎に同則子(同三一、六生)は同府人關登に嫁し兄顯三郎(同二〇年生、海軍中佐)は父航三の實家原氏を相續し同淳四郎(同二二、四生)弟章七郎(同二六、七生)は各分家せり(東京市外目黑町下目黑五ノ五電高輪二五〇)

參照‖芳賀榮次郎の項

**坪井啓作**　從五位勳五等、東京高等蠶絲學校教授、生徒主事、靜岡縣在籍

妻　たけ　明一三、七生、靜岡、柴田平吉二女

男　敏治　明三一、一一生

婿　せつ　明三七、一生、長男敏治妻、茨城平澤亥吉二女

女　滋子　大三、三生

君は靜岡縣人坪井惣八の長男にして明治九年七月を以て生れ明治三十三年東京蠶業講習所科本科を卒業し靜岡縣濱名郡立蠶絲學校助教授となり東京蠶業講習所技手を經て大正三年東京高等蠶絲學校助教授に進み現時東京高等蠶絲學校教授にして生徒主事たり家族は尚孫敏雄(昭二、六生)同悠(同四、四生、同三男)あり父惣八(嘉永四、四生)は分家せり(東京市外澁谷町二に嫁し弟忠二(同三五、九生)は分家せり(東京府華族

**坪井勸吉**　正五位勳四等、香川縣知事　愛知縣在籍

父　政兵衛　安政四、一二生、現戸主

母　ふさ　慶應三、九生、愛知、大西庄兵衛長女

妻　敏　明二一、一二生、東京、廣瀨卷之妹

男　大三、一生

君は愛知縣人坪井政兵衛の長男にして明治十七年一月を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格す爾來神奈川縣屬同縣參視同理事官秋田岡山各縣警察部長香川山口山形各縣內務部長を經て現時香川縣知事たり家族は尚二男正治(大五、二生)三男克也(同八、七生)あり(高松、縣知事官舍)

**坪井卯兵衛**　布卯、材木商　大阪府在籍

妻　みゑ　文久元、五生、大阪、坪井平兵衛姉

女　よみ　明一五、一一生

孫　利雄　明四一、四生、長女よみ長男

君は大阪府人先代卯兵衛の長男にして安政元年五月を以て生れ慶應三年家督を相續し襲名す布卯と稱し材木商を營む姉いと(天保一三、三生)は其夫清兵衛(同一三、九生)と共に三女みれ(明二六、七生)を伴ひ分家し二女りツ(同一九、一二生)は分家養兒清兵衛養子市松に嫁し再嫁清勝(同四二、二生)は大阪府人小栗小三郎の家籍に入れり(大阪、東、横堀町五ノ九ノ一電船場一四一七)

參照‖坪井平兵衛の項

**坪井勸吉**　正五位勳四等、香川縣知事　愛知縣在籍

父　政兵衛　安政四、一二生、現戸主

母　ふさ　慶應三、九生、愛知、大西庄兵衛長女

妻　敏　明二一、一二生、東京、廣瀨卷之妹

男　大三、一生

君は愛知縣人坪井政兵衛の長男にして明治十七年一月を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格す爾來神奈川縣屬同縣參視同理事官秋田岡山各縣警察部長香川山口山形各縣內務部長を經て現時香川縣知事たり家族は尚二男正治(大五、二生)三男克也(同八、七生)あり(高松、縣知事官舍)

**坪井卯兵衛**　布卯、材木商　大阪府在籍

妻　みゑ　文久元、五生、大阪、坪井平兵衛姉

女　よみ　明一五、一一生

君は大阪府人先代卯兵衛の長男にして安政元年五月を以て生れ慶應三年家督を相續し襲名す布卯と稱し材木商を營む姉いと(天保一三、三生)は其夫清兵衛(同一三、九生)と共に三女みれ(明二六、七生)を伴ひ分家し二女りツ(同一九、一二生)は分家養兒清兵衛養子市松に嫁し再嫁清勝(同四二、二生)は大阪府人小栗小三郎の家籍に入れり(大阪、東、横堀町五ノ九ノ一電船場一四一七)

參照‖坪井平兵衛の項

**坪井勸吉**　正五位勳二等、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授　東京府在籍

妻　きやう　明五、七生、埼玉、内村綱體妹

男　環　明二八、一生、工學士、鐵道省技師

婿　キミ　明四〇、九生、長男環妻、福島、芳賀榮次郎二女

君は岐阜縣人坪井輿作の二男にして安政五年十二月を以て生れ明治四年東京大學文學部を卒業し同十四年東京大學理學部を卒業し同二十年獨逸伯林塡國ブラーガ、ウイーン瑞西チユウリヒ等各大學に學び歸朝い後東京帝國大學講師第一高等中學校囑託東京帝國大學文科大學教授同學長等に歷任し同二十四年文學博士の學位を受く我國史學界の礎盛として名聲あり史學會評議員長に推され又考古學會長に擧げられ現に帝國學士院會員にして東京帝國大學名譽教授たり家族は尚孫みや子(昭三、一生、九生、同二女)同晃(同五、一二生、出身校同上)は法學博士牧野英一に妹豐子(同二七、一一生、出身校同上)は東京府士族小山一郎弟二郎に同則子(同三一、六生)は同府人關登に嫁し兄顯三郎(同二〇年生、海軍中佐)は父航三の實家原氏を相續し同淳四郎(同二二、四生)弟章七郎(同二六、七生)は各分家せり(東京市外目黑町下目黑五ノ五電高輪二五〇)

參照‖岡見清致、小山一郎、牧野英一の項

**坪井啓作**　從五位、理學博士、東京帝國大學教授、理學部勤務、學術研究會議會員、地震研究所々員　東京府士族

妻　たけ　女

男　敏治　明三七、四生、東京、平山信長女

婿　せつ　平澤亥吉二女

女　滋子　大一四、一生

君は故理學博士坪井正五郎の長男にして明治二十六年九月を以て生れ大正二年家督を相續す同六年東京帝國大學理科大學地質學科を卒業し同大學助手となり同大學助敎授に任じ同九年敎授に進み現に理學部勤務にして兼ねて地震研究所々員たり叢に大正十年英米獨各國に擧げらるる家族は尚長女信子(明二、一一生)二男直道(同五、一〇生)あり妹春(明三〇、二生)は工學博士西田博太郎弟成三に同菊(同三二、一一生)は京都府人佐谷音二に嫁し弟忠二(同三五、九生)は分家せり(東京

**坪井浩五郎**　從五位、男爵　東京府華族

**坪井誠太郎**　從五位、理學博士、東京帝國大學教授、理學部勤務、學術研究會議會員、地震研究所々員　東京府士族

妻　百合　明三七、四生、東京、平山信長女

男　正道　大一四、一一生

君は故理學博士坪井正五郎の長男にして明治二十六年九月を以て生れ大正二年家督を相續す同六年東京帝國大學理科大學地質學科を卒業し同大學助手となり同大學助敎授に任じ同九年敎授に進み現に理學部勤務にして兼ねて地震研究所々員たり叢に大正十年英米獨各國に擧げらるる家族は尚長女信子(明二、一一生)二男直道(同五、一〇生)あり妹春(明三〇、二生)は工學博士西田博太郎弟成三に同菊(同三二、一一生)は京都府人佐谷音二に嫁し弟忠二(同三五、九生)は分家せり(東京

**坪井浩五郎**　從五位、男爵　東京府華族

市外瀧野川町中里四二三電小石川四三四二）
參照＝佐谷台二、西田博太郎の項

**坪井美雄**　大日本鑛業㈱常務取締役　島根縣在籍
母　タツ　文久三、六生、島根、士、谷日淸太妹
妻　こと　明二八、四生、宮城、山崎源二郎妹
男　美和　明四三、一〇生
女　正子　大二、三生
君は島根縣人坪井次郎左衞門の長男にして明治十八年二月を以て生れ大正十五年家督を相續す現時大日本鑛業會社常務取締役として知らる家族は尙二女京子（大九、二生）亡弟勇妻ますゑ（明三七、三生、長野、牛山淸太三女）及其一女あり（秋田、山本、八森村八盛鑛業所社宅）
參照＝山崎源二郎の項

**坪井牟三郎**　南海銀行、新宮電力、新宮鐵道、南紀自動車各㈱取締役　和歌山縣在籍
男　基太郎　明二〇、七生
婦　衣通子　明三八、四生、長男基太郎妻、京都、士、下間宇賀次郎長女
君は和歌山縣人先代牟三郎の長男にして明治元年十二月を以て生れ後家督を相續し前名を改む現時南海銀行新宮電力會社各取締役たる外前記諸會社の重役たり家族は尙孫一郎（大八、一〇生、長男基太郎長男）同光（同一〇、一二生、同二男）同彌榮子（昭四、九生、同長女）あり二女都子（明二四、三生）は和歌山縣人中谷仙治郎長男正芳に嫁し二男收次（同二六、一二生）は同妻くに（同二九、一一生、兵庫、林德七長女）と共に其一女を伴ひ分家し庶子庸一（同二八、四生、生母、和歌山、堀部つわ）は同妻淨子（同三四、六生、劍持武三郎長女）と共に絶家宇井氏を再興せり（和歌山、東牟妻新宮町）

**坪井平兵衞**　大阪木材土地㈱代表取締役、紀之平、材木商、大阪府在籍
妻　さと　明九、七生、大阪、宮脇新兵衞二女
男　介嗣　明三八、七生
男　三郎　明四〇、三生
君は大阪府人坪井平次郎の弟にして慶應二年十一月を以て生れ明治二十九年先代平次郎の後を承け家督を相續し前名富次郎を改む紀之平材木店主にして傍ら大阪木材土地會社代表取締役たり長女義子（明三五、二生）は分家し姉みゑ（文久元、五生）は大阪府人坪井卯兵衞に嫁せり（大阪、東、横堀町四ノ二三電本町一一一三）
參照＝坪井卯兵衞の項

**坪井道三**　從五位勳六等、濱松高等工業學校教授、千葉縣在籍
養父　粂太郎　慶應二、四生、千葉、四宮甚兵衞二男、現戶主
養母　まき　元治元、一二生、養祖父平兵衞長女
妻　靜　明二九、一二生、愛知、伊藤百藏長女
女　絹子　大四、九生
君は千葉縣人五十嵐新五郎の三男にして明治二十一年二月を以て生れ大正五年坪井粂太郎の養子となる大正二年京都帝國大學理工科大學を卒業し同四年米澤高等工業學校教授となり同十二年濱松高等工業學校教授に轉じ同十四年英米獨各國に留學し昭和二年歸朝す現時濱松高等工業學校教授たり家族は尙孫吉子（大七、六生）あり養叔母こう（明五、一一生、養祖父平兵衞三女）は栃木縣人原源司に嫁し養大叔父善藏（安政元、四生、養曾祖父平兵衞三男）は絶家岩淵家を再興せり（濱松、二組町一四五）

**坪井利三郎**　共同運輸㈱取締役、坪井保全㈴代表社員、神奈川縣在籍
母　ヤス　元治元、六生、東京、西浦又二郎二女
妻　敏子　明三六、三生、東京、松下房次郎三女
君は神奈川縣人坪井伴之助の長男にして明治二十六年七月を以て生れ大正八年家督を相續す慶應義塾に學び現時前記各會社の重役たり家族は尙長女憲美子（昭五、六生）弟進之助（明三二、一一生）あり A七二（神奈川、鎌倉、鎌倉町長谷稻瀨川電一一三九）

**坪內鶴吉**　福井縣多額納稅者、春江商店㈾代表取締役、福井精練加工㈱取締役、機織業、福井縣在籍
妻　トラ　明四、一〇生、福井、中川由太郎姉
男　忠雄　明三五、一生
婦　輯子　明三八、一生、長男忠雄妻、福井、山田彥治長女
君は福井縣人坪內淺右衞門の四男にして慶應三年三月を以て生れ明治二十七年分れて一家を創立す機織業を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅二千三百八十三圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙ほ孫千里（大一四、一〇生、長男忠雄長女）同琢磨（昭二、一二生、同長男）あり長女はつい（明二七、一一生）は福井縣人宇佐美憲に嫁し三女まつ（同三三、七生）四女シズヱ（同三七、一生）は共に同縣人坪內平太郎の養子となれり（福井、坂井、春江村）

**坪內雄藏**　文學博士、早稻田大學名譽敎授、著述業、東京府在籍
妻　セン　文久三、七生、大阪、眞田彌兵衞三女
君は舊尾州藩士坪內其榮の第十子にして安政六年五月を以て生れ明治十六年分家す同年東京大學文學部を卒業し同時に東京專門學校講師となり後早稻田中學校長を兼ぬ又早稻田大學敎授となり同三十二年文學博士に推薦せらる初め春廼家朧と號す「小說神髓」「當世書生氣質」以來幾多の文學的作品あり同四十年文藝協會を創設して新劇運動の機運を促す實に我國文劇壇の耆宿なり夙に演劇博物館の創設を主唱し東西演劇の研究資料を蒐集す「ハムレツト」を始め四十卷に及ぶ沙翁全譯の名譯の外「役の行者」「新曲浦島」「お夏狂亂」「桐一葉」「孤城落月」「義時の最期」等其他兒童劇に關する數多の著作あり養子くに（明三三、二生、東京、鹿島淸兵衞二女、成女高女出身）は東京府人飯塚由次郎長男法學士友一郎に嫁せり（東京、牛込、余丁町二四）
參照＝飯塚由次郎の項

**坪內利八**　日本勸業銀行㈱高知支店長　愛知縣在籍
母　きん　安政五、三生、愛知、上田貞助二女
妻　梅　明三一、三生、東京、織田正信姉
男　嘉雄　大九、一〇生
君は愛知縣人坪內信次郎の長男にして明治二十一年二月を以て生れ昭和二年家督を相續す大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し日本勸業銀行に入り漸次累進し債劵課主事青森臺南各支店長を經て現時同行高





知支店長たり家族は尙長女時（大一二、八生）三男逵雄（同一五、二生）二女壽子（昭四、二生）妹たつ（明二五、八生）あり（高知市中島町二九〇ノ三）

**坪上貞二**　正五位勳四等、外務省文化事業部長、東京府在籍
妻　ヨシ　明一六、一一生、佐賀、士、小野仁三妹
男　章　明四三、四生
君は佐賀縣士族坪上文太郎の二男にして明治十七年六月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同年東京高等商業學校專攻部を卒業し大正元年外交官及領事官試驗に合格す浦鹽在勤領事官補露國駐在外交官補齊々哈爾領事駐英大使館三等書記官同二等書記官香港領事等に歷任し大正十二年歸朝外務書記官となり亞細亞局第二第三課長大臣官房會計課長對支文化事業調査會幹事を經て昭和四年外務省文化事業部長に任じ今日に至る曩にジユネーヴに開催の國際聯盟總會第一回會議に帝國代表者隨員として參列す家族は尙二男正（大四、八生）長女和子（同八、六生）三男隆（同一二、三生）四男宏（同一三、一〇生）あり（東京市外澁谷町大山一四電青山八〇七〇）

**坪川洹平**　浪速製紙㈱社長、聯合紙器㈱相談役、有信社㈾代表社員　兵庫縣在籍
妻　コヨシ　明二〇、四生、廣島、中山保姉
男　宣一　明三四、四生、立敎大學出身、永田商店員
男　健二　明三七、六生、青山學院文科出身
女　恭子　大三、二生
君は舊新發田藩士坪川灝平の三男にして明治七年七月を以て生れ同三十三年兄浩吉方より分れて一家を創立す新潟商業學校の出身にして住友銀行員東洋商會支配人西成製紙會社專務取締役等を經て現時前記會社の重役たり公共事業に盡瘁したる功に依り紺綬褒章を賜ふ家族は尙二女恒子（大六、二生）四男修平（同九、四生）三女倫子（同一二、六生）四女泰子（同一四、二生）あり A五〇七（兵庫、武庫、鳴尾村電西宮三三五九）

**坪鄕芳一**　正五位勳三等功五級、陸軍少將、步兵第十八旅團長、東京府士族
妻　とめ　明二五、二生、鹿兒島、岡田牛之助二女
男　旭博　大四、三生
君は東京府士族坪鄕義行の長男にして明治十四年四月を以て生れ同四十四年家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し同三十六年步兵少尉に任じ昭和五年陸軍少將に累進す其間陸軍大學校を卒業し陸軍運輸部々員參謀本部々員旭川聯隊區司令官步兵第二十五聯隊長第十六師團參謀長等に歷補し昭和五年三月現職步兵第十八旅團長に轉ず家族は尙二男義宗（大一二、九生）三男芳夫（昭二、一二生）あり（福井、敦賀、敦賀町電九九九）
參照＝※笹本菊太郎の項

**坪田久太郎**　坪田醬油㈱社長、岩見銀行㈱取締役、池田屋㈱監査役、兵庫縣在籍
妻　れい　明一四、一〇生、兵庫、安積省三長女
男　良美　明三八、九生
婦　美子　明四〇、八生、長男良美妻、兵庫、妻鹿元次長女
男　良久　明三九、一一生
女　由紀子　大三、八生
君は兵庫縣人先代久太郎の二男にして明治十年八月を以て生れ同二十三年家督を相續し前名久平を改め襲名す現時坪田醬油會社長の外前記銀行會社の重役たり長女貞子（明三五、四生）同夫隆文（同三四、三生、兵庫、井口隆敬弟）は其一女を伴ひ分家し妹ひさ（同一四、一生）も亦分家し二女田鶴子（同四四、七生）は兵庫縣人米澤吉次郎孫作太郎に姉はの（同六、一生）は同縣人坪田弘に妹こすゑ（同二〇、一生）は同縣人三木與平長男秀藏に嫁せり（兵庫、揖保、御津村）
參照＝米澤吉次郎の項

**坪田脩吉**　正五位勳四等、陸軍技師、陸軍技術本部々員、福井縣士族
妻　重子　明二六、六生、男爵德川好敏妹
男　寛　大五、四生
君は福井縣士族坪田仲達の長男にして明治十五年十二月を以て生れ同二十九年家督を相續す同四十一年京都帝國大學理工科大學機械科を卒業し陸軍に入り陸軍技師に任じ現時陸軍技術本部々員たり家族は尙ほ五男彰（大八、二生）六男實（同九、一二生）弟民司（明二三、一一生）同妻くにゑ（同二九、一二生、長野、辰野龜男妹）あり姉キミ（同一三、五生）は福井縣人小西米次郎に妹トミ（同二六、九生）は福岡縣人宮本三右衞門に嫁し弟綱三（同二九、六生）は福井縣人池田岩吉の養子となり同德藏（同三一、一生）は分家せり（東京市外淀橋町柏木三一三）
參照＝男爵德川好敏※侯爵蜂須賀正韶※子爵松木綱博※子爵森清の項

**坪田重太郎**　三方銀行㈱常務取締役　福井縣在籍
妻　はる　明一二、二生、福井、澤村磯吉養妹
養子　瀧次郎　明三二、八生、長女なを夫、福井、河內利三郎二男
女　なを　明三三、五生、養子瀧次郎妻
君は福井縣人坪田彥太夫の長男にして明治五年十一月を以て生れ同二十六年家督を相續す現時三方銀行常務取締役たり家族は尙孫ふさ子（大一一、一二生、養子瀧次郎長女）同春枝（昭二、二生、同二女）同敬治（同四、三生、同二男）あり二女濱子（明四三、三生）は福井縣人宇野一良に嫁せり（福井、三方、八村）

**坪田仁兵衞**　福井縣多額納稅者、農業　福井縣在籍
妻　定子　明四〇、七生、福井、山口武兵衞二女
男　一郎　昭三、七生
當家は藤原氏の末流坪田胤倚の後にして舊幕時代には代々庄屋を勤めし家柄なり先々代仁兵衞治水及耕地の整理等其他公共事業に盡力する處多く又衆議院議員に選ばる君は先代仁兵衞の長男にして明治二十四年十一月を以て生れ昭和三年家督を相續し前名貞治を改め襲名す先是大正六年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し祖業たる農業を營み直接國稅千百四十九圓を納め福井縣多額納稅者たり家族は尙二男不二雄（昭五、二生）弟孝之（明二七、一一生、經濟學士）同國男（同三二、一一生、理學士）同勸（同四二、一生、大阪高等醫學專門學校在學）あり同三郎（同三〇、八生、金澤醫大出身）は石川縣畑中家の養子となり妹愛子（同三四、一一生、福井高女出身）は同縣人野尻源右衞門長男司に同富榮子（同三六、一一生、出身校同上）は富山縣人醫學士砂田外治に同美代子（同四三、七生、出身校同上）は福井縣人藤野眞一に嫁せり（福井、坂井、大石村）

**坪田義應**　山陽皮革㈱專務取締役　兵庫縣在籍

妻　かつ　明一七、五生、兵庫、内橋直三郎二女
男　慶藏　大五、三生

君は福井縣人坪田均の五男にして明治十八年十一月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す現時山陽皮革會社專務取締役たり家族は尚長女巖(大七、一二生)二女喜美子(同一一、七生)あり(姫路、五軒邸二一六)

## 坪谷善四郎

勳五等、博文館㈱取締役、秀英舍㈱監査役、大橋圖書館長、早稻田大學評議員會副會長、東京府在籍

妻　ミネ　慶應三、八生、新潟、山崎喆三郎長女
孫　正二　大二、二生、離籍養子忠三二男、第一高等學校在學

君は新潟縣人坪谷甚三の三男にして文久二年二月を以て生れ明治九年分れて一家を創立す同二十一年早稻田大學政治經濟科を卒業し博文館に入り編輯に從事し同館の發展に努力すること數十年其今日あるは君の力與つて多しと云ふ旅行に趣味を有し屢々內外各地に遊杖を曳き號を水哉と稱し著書數十種あり現時博文館取締役にして大橋圖書館長を兼ね又前記會社の重役として知られ早稻田大學囑託として多年同大學卒業生就職の爲に力を盡しつゝあり曩に牛込區會議員東京市會議員たること各二十餘年其間東京市參事會員同學務委員等に擧げらる大正十三年多年社會事業に盡瘁したる功を以て勳五等に敍せらる(東京、牛込、北山伏町二九電牛込一五五九)

## 壺井初生

花屋、旅館業、大阪府在籍

妻　アサ　明一五、八生、京都、富岡傳之助姉
男　英一　明三五、一〇生
女　文子　明四二、一一生
女　妙子　大二、五生

君は京都府士族養和田竹志の長男にして明治十年十一月を以て生れ先代久の養子となり大正四年家督を相續す花屋と稱し旅館業を營む家族は尚四男充(大五、七生)ありA五三七B二五二(大阪、北、堂島北四〇ノ一電北二三九七)

## 壺見嘉吉

兵庫縣多額納稅者、神戸果實青物市場㈱取締役社長、神戸宅地經營㈱監査役、荒物商、兵庫縣在籍

嫁　まさ　明一九、一生、亡長男巳之介妻、兵庫、豐田源三郎二女
孫　福子　明三九、一〇生、亡長男巳之介長女

君は兵庫縣人壺井吉次郎の三男にして安政二年六月を以て生れ先代庄五郎の養子となり明治十五年家督を相續す荒物商を營み直接國稅二千七百八十五圓を納め縣下の多額納稅者にして前記會社の重役たり長女ふじ(明一〇、一一生)は兵庫縣人生間ちかに孫チヱ子(同四二、九生、亡長男巳之介二女)は同府人石田磯太郎に各養子となり亡二女すゑ夫菊太郎(同一四、五生、兵庫、井上辰次郎弟)は其三子を伴ひ分家し養子まさゑ(同三三、一一生、兵庫、入江孝次郎三女)同夫榮麿(同三〇、四生、大阪、久保七良麿三男)も亦分家せり(神戸、切戸町五五七電兵庫三六五)
參照＝入江孝次郎の項

## 妻木二郎

横濱正金銀行㈱東京支店支配人代理、東京府士族

母　みな　安政六、一二生、東京、士、朝比奈正一姉
妻　良子　明三二、一〇生、子爵遠山健彥妹
男　良郎　大七、一一生

當家は美濃國妻木郷の郷士にして始祖を土岐源氏に發し後代德川幕府に仕へて祖父源三郎は長崎奉行の職に在り君は先代工學博士賴黃の二男にして明治十九年五月を以て生れ大正五年家督を相續す大正三年京都帝國大學法科大學政治學科を卒業し横濱正金銀行に入り現時同行東京支店支配人代理たり家族は尚二女文子(大九、九生)三男孝郎(同一〇、一一生)四男邦郎(同一三、七生)三女美代子(同一五、七生)五男辰郎(昭三、一二生)ありA四八七(東京、麴町、平河町五ノ一五電九段二七五)
參照＝子爵遠山健彥の項

## 妻木栗造

從七位勳六等功五級、陸軍步兵中尉、東京府士族

妻　冬子　明一〇、一〇生、子爵野村益三妹、華族女學校出身
男　德一　明三二、一一生、從六位、理學士、大阪高等學校教授
婦　美喜子　明四〇、一生、長男德一妻、東京、須田卓爾二女

君は舊長州藩士妻木猖介の長男にして明治二年十月を以て生れ同二十三年家督を相續す同二十九年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業し三菱合資會社に入り累進して高島炭坑長同社參事同社本店査業部理事となり尋で古賀山炭坑三菱製鐵各會社取締役九州炭鑛汽船會社專務取締役社長に就任す大正十年之等を辭し後臺灣製腦會社專務取締役に就任し昭和三年辭職す曩に日露の役に從軍し陸軍步兵中尉に進み勳六等に敍し功五級金鵄勳章を授けらる家族は尚孫扶喜子(昭二、七生、長男德一長女)同逢一(同四、一二生、同長男)あり長女佐喜子(明三〇、五生)は長野縣人松島肇に妹スヱ(同九、一生)は山口縣人伊藤豐次に同トキ(同一三、三生)は東京府士族入江貫一に同ヒサ(同一八、四生)は同府士族藤島五郎に嫁せり(神奈川、中、平塚町)
參照＝子爵野村益三、入江貫一、須田卓爾、松島肇※子爵本野盛一※男爵福原俊丸※内田孝藏※佐々木政吉※土橋源藏の項

## 露口浩治

住友銀行㈱新橋支店長、東京府在籍

妻　千代　明二四、六生、東京、池田巳之太郎四女
男　初男　大一二、四生
女　富美子　明四五、二生
女　喜美子　大四、四生

君は大阪府人露口羊太郎の二男にして明治十七年四月を以て生れ大正十四年兄亮之助方より分れて一家を創立す現時住友銀行新橋支店長たり家族は尚三女多喜子(大九、二生)あり(東京、四谷、坂町六七電四谷二六七五)

## 鶴岡庄七

東京府多額納稅者、共榮運輸㈾相談役、東京府在籍

妻　セイ　明一二、一〇生、東京、矢部由次郎妹
男　庄之助　明三六、七生
女　丸子　明四一、七生
男　鐘次郎　明四四、七生

君は東京府人先代庄七の長男にして明治四年十月を以て生れ同三十二年家督を相續し前名鐵之助を改め襲名す曩に煙草元賣捌業を營み東京府多額納稅者たり明治四十三年歐米諸國を漫遊し曩に共榮運輸合資會社を起し代表社員たりしも現時同社相談役の職にあり二女節江(明三九、八生、跡見女學校出身)は神奈川縣人會田次郎に妹てる(同一七、二生)は栃木縣人小森七郎に嫁せりA二九三六B七八五(東京、本郷、駒込西片町一〇電小石川二九八九)
參照＝小森七郎の項

## 鶴岡保次郎

質商、東京府在籍

妻　ムメ　明三二、一生、東京、關根保太郎四女
男　保儀　大六、二生

君は東京府人鶴岡幸一郎の二男にして明治二十八年五月を以て生れ大正五年家督を相續す質商を營む家族は尚長女美枝子(大七、五生)二女保子(同九、九生)二男保三郎(昭二、一二生)三女惠美子(同四、一二生)あり妹ちか(明四一、三生)は東京府人永藤鐵太郎長男榮一に嫁せりA一四七〇B一四〇(東京市外隅田町一三〇三電墨田二一三)
參照＝永藤鐵太郎の項

## 鶴崎新兵衛

材木並木炭商、大阪府在籍

妻　あゐ　明元、五生、養父新吾長女
男　幸太郎　明二八、四生
婦　麻子　明三三、一生、長男幸太郎妻、大阪、白庄司甚兵衛妹
男　儀三　明三五、一一生

當家の祖先は近江國より出づ先代新兵衛初めて大阪に來り材木商を營み維新の際姓を鶴崎と稱し一家を創立し爾來勤勉力行遂に鶴崎家今日の基礎を築く君實は滋賀縣人大角彌右衛門の弟にして明治三年五月を以て生れ先代新兵衛の養子となり同三十八年家督を相續し前名新治郎を改め襲名す材木並に木炭商を營む長女悅子(明三三、一二生)は大阪府人陶山誠太郎に二女保子(同三九、二生)は滋賀縣人大角俊吉に嫁し繼子テイ(同二四、一二生)は分家し養兄安太郎(慶應二、六生)は大阪府人梅鉢楠松の養子となれり(大阪、西、南堀江通一ノ二三電櫻川一〇八)
參照＝梅鉢安太郎、白庄司甚兵衛、陶山誠太郎※白庄司芳之助の項

## 鶴崎平三郎

神戸衛生實驗所㈱取締役、醫師、兵庫縣在籍

妻　きく　文久二、五生、長崎、正林石川二女
養子　範治　明九、三生、養子ゆう夫、長崎、士、小代東堂二男
養子　ゆう　明一五、五生、養子範治妻、東京、梅津ヤマ長女
孫　範太郎　明三九、九生、養子範治長男
孫　平次郎　明四二、一二生、養子範治二男

君は兵庫縣人鶴崎辰次の二男にして安政二年九月を以て生れ明治二十八年家督を相續す醫師にして傍ら神戸衛生實驗所取締役たり家族は尚孫辰三郎(大三、一一生、養子範治三男)同文子(同六、一〇生、同二女)同四郎(同一〇、一〇生、同四男)あり同滿佐(明三四、四生、同長女)は大阪府人飯田長一に嫁し弟久米一(安政六、五生)は分家せり(神戸、西須磨二六〇電須磨一六〇〇)

## 鶴田乙丑

地家主、東京府士族

妻　ミネ　明九、九生、子爵太田資業姉
男　宏　明三六、四生、洋畫研究家
男　潔　明三九、四生

君は肥前國多久藩の世臣鶴田皓の長男にして慶應元年十一月を以て生れ明治二十一年家督を相續す夙に東京大學に學び同十八年時の駐佛公使に從ひて渡佛し在外八箇年領事館事務を掌り傍ら政治學を修む歸朝後一時官界に入りしも後之を辭す資産家として知られ地家主たり書畫骨董を愛玩す長女治子(明三五、一生、雙葉高女出身)は岡山縣人大賀憲二に嫁し弟次郎(同一〇、八生)叔母ミサ(弘化四、八生)は各分家せり(東京、牛込、二十騎町二一電牛込二八五七)
參照＝子爵太田資業※子爵內藤政道※子爵成瀨正雄の項

## 鶴田勝三

中村電氣㈱社長、關東水力電氣㈱監査役、武藏工務所長、工事畫報社長、東京府在籍

妻　コウ　明一三、三生、東京、淺野總一郎姉
男　作次郎　大九、三生
女　壽々子　明四二、八生、雙葉高女出身
女　德子　明四三、九生
女　晃代　大二、六生

君は神奈川縣人吉田寅松の三男にして明治十五年三月を以て生れ先代カクの養子となり同二十五年家督を相續す同三十七年米國ボストン工業學校を同四十一年エール大學を卒業し幾多の水力電氣會社の經營に當り現時武藏工務所長工事畫報社長中村電氣會社長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尚四女米子(大六、一一生)あり(東京、麴町、永田町二ノ一八電銀座二三七七)
參照＝淺野總一郎※淺野義八郎※淺野義夫※淺野良三※白石元治郎※鈴木紋次郎※穗積重威※馬杉秀の項

## 鶴田小太郎

佐賀商工會議所議員、佐賀米穀取引所㈱理事長、佐賀縣士族

母　ウノ　天保一四、一二生、佐賀、士、水野逸次四女
妻　リン　明一五、三生、福岡、上野明山妹
男　龜太郎　明三九、一生
女　松千代　明四一、三生

君は福岡縣士族鶴田祥昌の長男にして文久二年六月を以て生れ明治四十一年家督を相續す現時佐賀米穀取引所理事長にして佐賀商工會議所議員たり家族は尚二男武夫(大元、九生)三男清松(同四、五生)四女竹子(同七、一生)あり長女祥(明二〇、八生)は佐賀縣人吉岡定彥に二女房(同二三、一二生)は福岡縣士族榊原包利長男包實に嫁し四男敏夫(大一〇、五生)は同縣人大和安太郎長男彌七郎の養子となれり(佐賀市寺町一六)

## 鶴田爲次郎

三井銀行㈱參事、法律課長、福岡縣在籍

妻　ツネ　明一九、一〇生、養父藤十長女
男　藤　大三、三生
女　カナ　明四四、一一生
女　勇子　大五、八生

君は福岡縣人中島嘉作の二男にして明治十三年十月を以て生れ先代藤十の養子となり同四十二年家督を相續す同四十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し直ちに三井銀行に入り橫濱支店詰本店調査課長等を經て現時同行參事法律課長たり家族は尚七女良子(大九、六生)八女善子(同一〇、一〇生)四男舜(同一三、五生)ありA一〇八一(東京、本郷、森川町一電小石川九七七)

## 鶴田禎次郎

從三位勳一等功四級、陸軍々醫總監、日本赤十字社理事、東京府士族

妻　ヤヱ　明六、七生、東京、山川操養子
男　義虎　大三、一生

君は佐賀縣士族鶴田有本の長男にして慶應元年九月を

以て生れ明治七年家督を相續す同二十三年東京帝國大學醫科大學を卒業し直に陸軍三等軍醫に任じ大學院に入り外科學を專攻す同三十一年獨逸國に駐在外科學を研究し同三十四年歸朝大正五年陸軍々醫總監に累進し昭和三年後備役被仰付其間陸軍々醫學校教官醫術開業試驗附屬病院外科醫長野戰第一師團軍醫部長近衞師團軍醫部長東京第一衞戍病院長日本赤十字病院副院長第一師團軍醫部長陸軍省醫務局長等に歷補す家族は尙四女君子(大六、九生、三輪田高女在學)あり二女磯（明三〇、八生、三輪田高女出身）は東京府士族井深梶之助二男陸軍二等軍醫正醫學博士健次に三女梅(同四〇、三生、御茶の水高女出身）は三重縣士族今井順吉長男理學士美村に嫁せり（東京市外千駄ケ谷町八九〇**電四谷七七六**）
參照＝井深梶之助の項

## 鶴田蓑輔
正八位、陸軍歩兵少尉、岡山縣會議員、北木電氣㈱取締役、北木島石材㈱監查役、岡山縣在籍
男　凡郎　大三、九生
女　一榮　大元、一一生
女　瑞枝　大四、一一生
君は岡山縣人鶴田茂三郎の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ大正三年家督を相續す夙に大阪高等商業學校に學び現時前記各會社の重役にして岡山縣會議員に選ばるゝ曩に村會議員岡山縣參事會員に擧げらる家族は尙三女鈴枝(大七、一一生)大叔母ラク（弘化元、一生)あり姪鶴惠(明三四、四生、鶴田ヒサ二女）は岡山縣人安藤沼太郎に嫁し同ヤチ（同三一、八生、同長女)は分家せり(岡山、小田、笠岡町)

## 鶴田彌勝
從四位勳四等、判事、田邊區裁判所監督判事兼和歌山地方裁判所田邊支部長、佐賀縣士族
妻　ツキ　明一三、二生、福岡、田口八太郎長女
男　金彌　大二、八生
女　總　明四三、七生
君は佐賀縣士族鶴田彌六の長男にして明治二年十一月を以て生れ大正四年家督を相續す明治二十五年和佛法律學校を卒業し判事登用試驗に合格し同三十二年判事に任じ小倉區福岡地方同區各裁判所判事に歷補し同三十五年辭して辯護士となり同四十一年再び判事に任じ山形區同地方裁判所判事青森德島各地方裁判所部長彥根豐岡各區裁判所判事同監督を經て大正十一年前記現職に轉ず家族は尙四女登女(大六、四生)弟芳一（明一四、一二生)同妻キミ(同二〇、三生、岩手、大橋次敏養母)あり長女春(同三七、五生）は大阪府人安井ヒサ養子榮三に二女須磨(同四〇、二生)は和歌山縣人佐藤良吉養子泰雄に嫁せり（和歌山、西牟婁、田邊町區裁判所官舍）

## 鶴田善重
從五位、樺太廳醫院醫長、大泊醫院長、熊本縣在籍
妻　ます　明一五、三生、和歌山、愛宕直三郎三女
男　穰　明四一、一一生
女　京　明四三、一二生
君は熊本縣人鶴田彌太郎の二男にして明治十二年五月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同年京都帝國大學醫科大學を卒業し同大學福岡醫科大學助手京城公立漢城病院副院長京城官立大韓醫院醫官兼醫學校教授に歷任し後辭して京城に於て醫を開業す次で京都帝國大學醫科大學に於て內科學小兒科學細菌學を研究し大正七年山口縣沖ノ山病院長兼內科小兒科部長となり同九年樺太廳醫院醫長に任じ眞岡醫院長を經て現に大泊醫院長の職に在り家族は尙二男正名(大元、一〇生)三男馬左也（同三、五生)四男健三(同五、一〇生）あり(樺太、大泊町官舍)
參照＝※高見和平の項

## 鶴淵仙助
正四位勳二等功五級、陸軍主計總監、群馬縣在籍
妻　ツル　明一四、三生、東京、佐藤眞造二女
男　穀　明二七、一生、慶大法科出身
婦　文子　明三六、一二生、長男穀妻、東京廣瀨大橋庶子
君は群馬縣人鶴淵桂助の長男にして明治元年七月を以て生れ大正七年家督を相續す明治二十九年陸軍三等軍吏に任じ大正十三年陸軍主計總監に累進す其間陸軍經理學校教官陸軍省經理局課員陸軍會計監督部々員青島守備軍經理部長陸軍省經理局主計課長千住製絨所長等に歷補し現時豫備役たり長女靜子(明三三、四生)は神奈川縣人奧村眞次に嫁し亡弟佐伊治妻せい（同二〇、一〇生、群馬、廣田榮吉四女）は其子女を伴ひ分家せりA三四七（東京市外千駄ケ谷町原宿一七〇）

## 鶴間禮藏
北海道多額納稅者、旭川商工會議所議員、土木建築請負業、北海道在籍
妻　ヒサ　明一六、一生、新潟、高橋政次郎長女
男　禮司　明四四、二生
女　千代　明四一、二生
女　美代　大三、一一生
君は新潟縣人鶴間彌平の三男にして明治十年十二月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す土木建築請負業を營み北海道多額納稅者にして推されて旭川商工會議所議員たり家族は尙二男勇（大二、三生）三男禮三郎(同五、一〇生)四女芳子(同八、五生)五女榮子（同一〇、三生)四男司郎(同一一、九生)あり(旭川、五條通九ノ左一〇號)

## 鶴卷榮松
英工舍代表社員、鶴卷時計店主、時計商、東京府在籍
妻　三芳　明二八、一二生、埼玉、水村岩三郎五女
男　幸次郎　大六、三生
女　イツ　明四二、一〇生
女　マツ　明四五、三生
君は新潟縣人鶴卷石松の長男にして明治十五年九月を以て生れ同四十三年家督を相續す大正六年長岡市より上京し時計製造卸業を營み英工舍を經營し今日に至る（東京、下谷、西黑門町一一**電下谷五六九、二八八七、二九八七**）

## 鶴見一之
從四位勳四等、仙臺高等工業學校教授、新潟縣士族
父　保四郎　安政五、三生、新潟、士、赤川哲造二男
妻　とみ　明二四、八生、東京、佐川逵太郎長女
男　膠一　大三、一一生
君は新潟縣士族鶴見保四郎の長男にして明治十四年十一月を以て生れ大正七年家督を繼ぐ明治三十九年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し現時仙臺高等工業學校教授たり家族は尙は長女千代(大六、二生)二男策郎（同八、四生)弟保(明四〇、三生)あり同久（同三六、一二生)は東京府人佐川逵太郎の養子となれり(仙臺、東七番丁一九**電二一二八**）

## 鶴見佐吉雄
正四位勳二等、東京商工會議所議員、東京モスリン紡織㈱社長、太平生命保險㈱取締役、東京府士族
妻　清女　明一八、一生、東京、山本景行長女
君は石川縣士族鶴見有成の長男にして明治六年九月を以て生れ同二十一年家督を相續す同三十二年東京帝國大學法科大學を卒業し高等文官試驗に合格し爾來岩手兵庫各縣參事官兵庫三重各縣內務部長商務書記官兼外務書記官製鐵所理事農商務省水產局長同山林局長同商務局長農商務次官に歷任す大正十三年官を辭して實業界に入り現に前記各會社の重役として知られ東京商工會議所議員に擧げらる姉安久留(明三、七生)は石川縣人中崎孫太郎に嫁せり（東京、赤坂、青山高樹町一二ノ四**電青山二九九**）

## 鶴見祐輔
從四位勳四等、著述業、東京府在籍
妻　愛　明二八、七生、伯爵後藤一藏妹
男　俊輔　大一一、六生
君は岡山縣人鶴見良憲の二男にして明治十八年一月を以て生れ同三十九年家督を相續す同四十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格し鐵道書記同副參事同參事同書記官に歷任す其間屢々支那歐米に出張し更に鐵道事務研究の爲め歐米に留學し歸朝後大臣官房文書課長運輸局總務課長たりしも大正十三年官を辭め前東京市政顧問ビアード博士の聘に應じ米國各地を歷遊す歸來專ら著述に從事し現在に至る曩に岡山縣より推されて衆議院議員に當選す家族は尙長女和子(大七、六生)二女章子(昭三、五生)弟定雄（明二五、二生)同妻マツ(同三八、九生、法學博士桂井富之助妹)及二女あり弟良三(同二七、一生）は分家し同憲(同二八、四生、法學士、外交官補)同妻英(同三六、八生、岡山、藤田讓長女）も亦其三子を伴ひ分家し姉トシ(同八、二生)は工學博士廣田理太郎に妹しづ（同二三、二生）は岡山縣人安井眞十郎弟陸軍砲兵中佐數衞に嫁せり（東京、麻布、三軒家町五三**電高輪二六六八**）
參照＝伯爵後藤一藏、廣田理太郎、藤田讓※藤澤喜士太の項

## 鶴森龜藏
日本信號㈱監查役、東京府在籍
父　信太郎　文久三、八生
母　コウ　明三、七生、東京、小澤慶次妹
妻　シヅ　明二三、六生、東京、福井阜太郎妹
男　錦鳳　大四、九生
女　玉惠　大二、四生
君は東京府人鶴森信太郎の長男にして明治二十二年八月を以て生れ同三十年家督を相續す現に日本信號會社監查役たり家族は尙二男輝邦（大七、三生）三女禰繪(同九、二生)四女菊江(同一一、九生)六女和惠（同一五、九生)三男靜藏(昭二、九生)妹光子(明四四、八生)あり同幸(同二五、三生)は東京府人木村文藏二男貞治に同鶴子(同四二、七生)は同府人木村義雄に叔母イク(同六、四生)は同府人金子與四郎に嫁し妹久(同三四、六生)は同夫修三(同二六、六生、東京、菊池壽之輔弟)と共に分家し同辰子(同三七、五生)は東京府人吉田仙太郎に叔父三省(同三、八生)は同府人池島判藏に各養子となれりA五二二（東京、本郷、春木町二ノ三九**電小石川二九六八**）
參照＝池島三省、福井阜太郎※水村益三の項

## 鶴谷忠五郎
鶴谷商會㈱社長、日本絹布㈱取締役、松風工業㈱監查役、兵庫縣在籍
妻　しな　明九、一二生、京都、西田ヤヱ妹
男　龍雄　明三七、三生
男　忠治　明四〇、三生
女　康子　明四二、三生
女　道子　明四五、五生
君は京都府人中川德右衞門の二男にして明治元年六月を以て生れ先代ヨツの養子となり同十三年家督を相續す同二十一年米國に渡り貿易事業を視察し同三十一年歸朝後鶴谷商會を經營し現時其社長たる外前記諸會社の重役たり曩に推されて神戶商工會議所常議員たりしことあり家族は尙四男正雄(大四、三生)あり長女千惠（明三四、七生)は鹿兒島縣人溝口泰造に嫁せり(神戶、山本通四ノ一四五ノ九**電葺合三三四一**)

## 靍殿家勝
從四位、男爵、梅田製鋼所㈱取締役、內外編履器㈱監查役、九條公爵家分家
母　親子　慶應二、八生、侯爵醍醐忠重叔母
妻　輝子　明三一、一二生、男爵毛利元良妹、學習院女學部出身
男　純家　大一三、一二生
當家は關白太政大臣藤原兼實の後にして其家に至りて九條家より分家し靍殿と稱す後二代にして絕家す明治二十二年從一位九條尙忠の五男忠善再度九條家より分家して之を再興し同年華族に列し男爵を授けられ貴族院議員に列す君は其長男にして明治二十四年十一月を以て生れ同二十八年襲爵仰付けらる大正六年京都帝國大學法科大學政治經濟科を卒業し現時梅田製鋼所取締役たり妹實子(明二七、五生)は大阪府人藤田彥三郎に嫁せり(神戶、西須磨字八本松西九ノ一**電須磨一八七**)
參照＝侯爵醍醐忠重、男爵毛利元良、藤田彥三郎※公爵一條實孝※子爵小倉義季※子爵水野忠亮※男爵木邊孝慈の項

# テ之部

## 手島鍬司

大八運輸倉庫㈱取締役、東海製菓伊豆水力電氣、岡崎電燈各㈱監査役、愛知縣在籍

母　みつ　明六、一一生、祖父源市長女

妻　八代　明二八、五生、愛知、早川久右衛門妹

男　鍾平　大一五、一二生

女　よしえ　大四、一一生

君は愛知縣人先代鍬司の長男にして明治二十三年七月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名諒一郎を改め襲名す現時大八運輸倉庫會社取締役の外前記各會社の重役たり家族は尙二女こう(大六、八生)三女やな(同一〇、七生)四女トン子(同一三、一一生)三男篤三(昭四、三生)あり叔母まう(明一二、九生)は東京府人笠島友吉に嫁せり(岡崎、八帖町往還通)

參照＝早川久右衛門※諸戸北郎の項

## 手島知健

三井㈲不動産課長、三信建物㈱取締役、東京府在籍

母　なお　明三、五生、東京、士、神戸信義養子

妻　ヒサ　明三三、八生、大分、水谷幸太郎二女、實踐女學校出身

男　知篤　大九、四生

君は鳥取縣人手島知德の長男にして明治十八年九月を以て生れ同四十年家督を相續す同三十九年東京高等商業學校を卒業し三井物産會社に入り同四十四年紐育支店勤務となり大正八年桑港支店長を命ぜらる歸朝後三井合名會社に轉じ現時同社不動産課長にして三信建物會社取締役を兼ぬ家族は尙二男知留(大一〇、四生)三男純男(同一三、四生)あり弟醇(明二五、六生)同妻ヤヘコ(同二五、二生、廣島、島田君十郎長女)は其一男を伴ひ弟奎五郎(同三三、七生)は同妻美和子(同四一、二生、沖繩、佐藤共之長女)と共に各分家し弟祥六郎(同三六、九生)は東京府人小柴銀之助に同裕四郎(同三一七生)は岡山縣人村田麟治郎に各養子となり妹泰(同三九、二生)は神奈川縣人手島蘆行長男虎雄に嫁せり(東京、四谷、東信濃町二八電四谷一一三六)

參照＝水谷幸太郎、佐藤共之の項

## 手島寅雄

從五位勳六等、北海道帝國大學助教授、農學部勤務、北海道在籍

妻　時子　明三一、三生、和歌山、山崎友造養子

男　淳　大一一、八生

君は北海道人高橋良昌の二男にして明治二十三年十月を以て生れ先代ヤスの養子となり昭和四年家督を相續す大正五年東北帝國大學農科大學農學科を卒業し高知縣農事試驗場技師となり同十二年鳥取高等農業學校教授に任じ英米獨各國に留學し同十四年歸朝し昭和四年北海道帝國大學助教授となり今日に至る家族は尙長女秀(大九、七生)二男正浩(同一五、一生)二女美江子(昭三、六生)あり(札幌、北三條東五丁目)

## 手島孫三郎

日本勸業銀行㈱參事、千葉支店長大分縣在籍

母　サチ　安政二、九生、大分、石井平右衛門二女

妻　タネ　明二九、六生、山口、山賀成亮三女

男　篤二　大八、七生

君は大分縣人手島筆吉の長男にして明治十七年四月を以て生れ同三十一年家督を相續す同四十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し日本勸業銀行に入り大阪支店主事及山形甲府各支店長を經て現在に至る家族は尙三男節三(大一二、一二生)二女美佐子(同一五、一生)三女千枝子(昭三、五生)あり(千葉市千葉二五二五電二一三)

## 手島雄八郎

宮城縣多額納稅者、農業宮城縣在籍

妻　サタ　明七、九生、宮城、松本俊燕二女

男　周太郎　明三七、七生

男　遼　明四〇、一生

男　金次郎　明四二、八生

女　リチ　大二、三生

君は宮城縣人先代雄八郎の長男にして明治七年七月を以て生れ同三十四年家督を相續し前名恒雄を改め襲名す農業を營み直接國稅六千二百二十圓を納め宮城縣多額納稅者たり家族は尙叔父房男(明二三、四生)あり長女ウン(同三一、一二生)は東京府人山香誠に二女リキ(同三五、三生)は宮城縣人千葉茂太郎に妹まさ(同一〇、九生)は同縣人阿部勘九郎に同みわ(同一九、四生)は東京府人星野逵に叔母そて(同一九、八生)は宮城縣人鈴木甚吉養子爲吉に嫁し弟雄吾(同九、一〇生)は同妻きよせ(同一四、三生、宮城、米谷賤夫三女)及び其子女を伴ひ弟周造(同一四、三生)は同妻レイ(同二〇一〇生、東京、秋山八之丞養子)及其子女を伴ひ弟正雄(同二二、二生)は同妻ヨネ(同三二、二生、宮城、今野爲之助長女)及其一女を伴ひ姉シウ(同四、八生)は其三男を伴ひ各分家し弟恒三郎(同一六、二生)も亦分家し甥朗(大二、二生)は東京府人秋山八之丞の養子となれり(宮城、志田、敷玉村)

參照＝阿部勘九郎、鈴木爲吉の項

## 手代木隆吉

衆議院議員(北海道選出)、日本工業㈱監査役、辯護士、辨理士北海道在籍

父　要藏　安政三、一一生、東京、太田專藏二男、現戸主

母　エミ　明元、五生、祖父順藏三女

妻　むめ　明二三、一生、北海道、飯岡信本長女

男　孟久　大七、七生

女　淑子　大三、五生

女　柔子　大五、二生

君は北海道人手代木要藏の長男にして明治十七年一月を以て生る夙に北海道師範學校を卒業し小學校教育に從事せしが後中央大學に學び大正七年同校法律科を卒業し司法官試補を命ぜられ罷官後辯護士及辨理士となり今日に至り現時日本工業會社の重役を兼ぬ選ばれて衆議院議員に當選する事二回立憲民政黨所屬たり家族は尙二男尙久(大九、一一生)あり(東京、小石川、林町六二電小石川一一二九)

## 手錢白三郎

島根縣多額納稅者、雲陽實業銀行㈱取締役、農業、島根縣在籍

妻　シユン　明六、二生、島根、遠藤嘉右衛門姉

養子　幸昌　明三六、五生、島根、板倉隆治長男、早大文學部出身

君は島根縣人先代白三郎の長男にして明治五年十月を以て生れ同四十年家督を相續し前名秀太郎を改め襲名す農業を營み直接國稅二千四百十二圓を納め島根縣多額納稅者に列し傍ら雲陽銀行取締役たり書畫骨董に趣味を有す弟隆治(明一二、六生)は島根縣人板倉佐重の

(※印は姻族關係)

養子となれり(島根、簸川、杵築村)
參照＝板倉隆治、遠藤嘉右衛門※久保田豐吉※佐藤喜八郎※高橋隆一※三好榮次郎※山田鑄藏※山田美治※山根茂樹の項

**手東平三郎** 德島縣多額納稅者 德島縣在籍
妻 ヤス 元治元、二生、德島、島田武十郎二女
男 歌之介 明一八、三生、早大出身
婦 靜 明二四、六生、二男歌之介妻、東京、士、三田善太郎長女、日本女大出身
女 幸松 明二〇、三生
男 愛次郎 明二一、一一生、早大政治科出身
男 彌之助 明二八、一一生
婦 とよ 明三四、四生、六男彌之助妻、兵庫、小谷岩雄妹、日本女子大出身
男 小一郎 明三一、二生、早大商科出身
男 安助 明三九、四生、早大商科出身
男 平助 明四二、三生、早大理工科在學
君は德島縣人手東平兵衛の長男にして文久三年五月を以て生れ明治三十八年家督を相續し前名仲三郎を改め襲名す大地主にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千四百五十一圓を納む家族は尙孫盖一(大五、一〇生、二男歌之助長男)同豐一(同七、三生、同二男)あり二女賀須子(明三四、五生、日本女大出身)は香川縣人黑瀨與重郎長男琢郎に嫁し妹らん(同一六、一一生)は德島縣人中川直行の母たり(德島、阿波、柿島村)
參照＝黑瀨與重郎の項

**手塚鎌五郎** 群馬縣多額納稅者、吳服商 群馬縣士族
妻 のぶ 文久元、一〇生、群馬、高桑利平二女
婦 くに 明二二、一一生、亡長男源一郎妻 群馬、内山安衛妹
孫 嘉一郎 大二、四生、亡長男源一郎長男
男 光吉 明二六、三生
君は群馬縣士族手塚源八郎の二男にして安政六年二月を以て生れ明治九年先代兄鐵太郎の後を承けて家督を相續す吳服商を營み群馬縣多額納稅者たり家族は尙孫富子(大六、四生、亡長男源一郎長女)同利次(同八、一一生、同二男)同宗三郎(同一二、一〇生、同三男)同幸子(同一五、一一生、同二女)同福代(同一一、七生、亡三男淸長女)あり(前橋、南曲輪町一九)
參照＝内山安衛の項

**手塚五郎平** 下野中央銀行、宇都宮石材軌道、下野製紙各(株)取締役、下毛貯蓄銀行(株)監査役、栃木縣在籍
妻 エツ 明二四、一一生、栃木、菊池次郎妹
男 一 明四三、八生
君は栃木縣人先代五郎平の長男にして明治十八年十一月を以て生れ大正元年家督を相續し前名喜三郎を改め襲名す明治四十二年早稻田大學商學部を卒業し現時下野中央銀行宇都宮石材軌道會社取締役たる外前記銀行會社の重役たり曩に關東化粧煉瓦中宮祠電力各會社監査役たりしことあり家族は尙三男左武郎(大一一、六生)二女慶子(同一四、一一生)あり(宇都宮、傳馬町三〇七一)
參照＝菊池次郎※白石甚兵衛※高木與兵衛※初見諒助の項

**手塚善** 正五位勳四等、鐵道技師、監督局技術課勤務、茨城縣在籍
妻 千代 明三〇、二生、茨城、小林元茂三女
男 昭 大七、四生
君は茨城縣人手塚惠進の三男小田倉啓の弟にして明治十六年十一月を以て生れ大正十年甥一郎方より分れて一家を創立す先是明治三十九年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し帝國鐵道廳技手となり同四十二年鐵道院技師に任じ同四十五年歐米に留學す大正九年鐵道技師に任じ監督局技術課勤務を命ぜられ今日に至る同十五年再び歐米各國に出張を命ぜらる家族は尙二男恭(大八、一〇生)長女須美(同一〇、六生)三男憙(同一三、九生)あり(東京市外中野町高根二八)
參照＝小田倉啓※津田信の項

**手塚太郎吉** 萬長、吳服商並貸衣裳業 東京府在籍
妻 けい 明一〇、一二生、養父長三郎長男
男 長 明三八、六生
君は東京府人水田孝哲の兄にして明治五年四月を以て生れ先代長三郎の養子となり昭和元年家督を相續す萬長と稱し吳服商及貸衣裳業を營み地家主たり家族は尙三男長昌(大二、八生)四男長四郎(同九、一生)あり二男長之輔(明四一、七生)は分家せりA一六七三B一九一(東京、麻布、飯倉町四ノ二〇電赤坂七〇三)

**手塚猛昌** 東洋印刷、旅行案內社各(株)社長、帝國劇場(株)取締役、廣島炭加製造(株)監査役、山口縣士族
妻 カメ 文久三、一一生、山口、士、白神晴光三女
養子 平四郎 明八、一〇生
養子 宗次 明三三、六生、養子節子夫、奈良、西岡茂松弟
養子 節子 明四二、六生、養子宗次妻、山口、西村有作妹
君は山口縣士族岡部護英の二男にして嘉永六年十一月を以て生れ先代正篤の養子となり明治十二年家督を相續す同二十二年慶應義塾別科を卒業し現時前記各會社の重役たり曩に庚寅新誌旅行案內を發刊す家族は尙孫昌子(昭四、七生、養子宗次長女)ありA三三二七(東京、麻布、北日ケ窪町三四電青山四六二五)
參照＝手塚平四郎の項

**手塚平四郎** 廣島炭加製造(株)專務取締役 山口縣士族
養父 猛昌 嘉永六、一一生、現戸主
妻 ナツ 明二〇、六生、山口、士、佐々木道介二女
女 みつ子 明四四、一生
女 米子 大三、二生
女 糸子 大五、七生
君は山口縣士族山中太一郎の四男同柴吉の弟にして明治八年十二月を以て生れ同三十五年手塚猛昌の養子となる同三十四年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙四女ムツ子(大九、八生)あり(廣島市千田町三四五)
參照＝手塚猛昌、山中柴吉の項

**勅使河原直三郎** 從五位勳五等、判事、宮城控訴院判事、東北帝國大學法文學部講師、宮城縣士族
養父 健之助 慶應元、一一生、現戸主
養母 のふ 明六、八生、宮城、今泉玄意養子
妻 しのふ 明二四、一一生、養父健之助長女
養子 健樹 明三五、一一生、長女三和子夫、宮城、高山茂樹弟
女 三和子 明四二、四生、養子健樹妻
君は秋田縣人武田三九郎の五男にして明治十八年四月を以て生れ同四十一年勅使河原健之助の養子となる大正二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し判事に任じ岡山地方兼同區大阪地方同區各裁判所判事高松地方裁判所部長に歷補し同十二年宮城控訴院判事に補せられ同時に東北帝國大學法文學部講師を囑託せらる著書改正民事訴訟法概論あり家族は尙前記の外孫幹子(昭三、八生、養子健樹長女)あり二女妙子(明四四、九生)は岩手縣人大阪地方裁判所判事村木維夫長男逢夫に嫁せり(仙臺、東三番丁電二二九五)
參照＝村木維夫の項





**出牛充二郎** 西武銀行(株)常務取締役 埼玉縣在籍
妻 あい 明一二、一〇生、埼玉、小林十一姉
婦 世和 明二八、四生、亡長男英一妻、埼玉、大澤武八長女
孫 鐵太郎 大二、六生、亡長男英一長男
男 健太郎 明三九、四生
男 陽太郎 明四三、二生
君は埼玉縣人富田安十郎の二男にして明治八年一月を以て生れ先代重郎左衛門の養子となり大正七年家督を相續す現時西武銀行常務取締役たり家族は尙七男忠太郎(大二、一二生)孫智惠子(同八、一〇生、亡長男英一長女)あり長女春江(明三四、六生)は東京府人高野伊八長男勉に嫁せり(埼玉、秩父、秩父町西武銀行內)

**出口常次郎** 何鹿銀行、三ツ丸吳服店、つばめや商店各(株)取締役、京都府在籍
繼母 いと 嘉永五、一〇生、京都、赤穗善助長女
妻 きく 明一一、一一生、京都、吉田勘三郎姉
男 勇太郎 明四〇、一一生
男 信次郎 明四三、二生
君は京都府人出口勇助の長男にして明治三年十月を以て生れ同十一年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙三男忠三郎(明四五、六生)四男武之助(大四、一一生)三女すみ子(同七、六生)あり二女フミ(明三〇、九生)は京都府人坂根錄藏に嫁せり(京都、何鹿、綾部町)

**出口永吉** 從四位勳三等功五級、陸軍少將 山形縣在籍
妻 ひさ子 明一九、四生、佐賀、野口能毅養子
男 裕 大九、三生
君は山形縣士族出口長富の長男にして明治十一年九月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十五年陸軍步兵少尉に任じ後憲兵科に轉じ昭和五年陸軍少將に累進す其間臺灣憲兵隊長憲兵練習所長憲兵司令部附同司令部總務部長等に歷補し昭和五年豫備役に編入せらる(東京市外玉川村奥澤九六二)

**出口元久** 正五位勳四等、檢事、西條區裁判所檢事兼松山地方裁判所西條支部檢事、東京府士族
妻 初代 明一六、六生、東京、野木六藏長女
男 元明 明三一、一一生
婦 恒子 明三六、二生、長男元明妻、愛媛、細川清三郎長女
女 登代子 明四三、七生
女 壽壽 大三、一〇生
君は東京府士族出口秀正の長男にして明治十年八月を以て生れ後家督を相續す同三十一年東京法學院を卒業し判檢事登用試驗に及第す同三十六年判事に任ぜられ次で檢事に轉じ新潟前橋長崎福岡各地方及區裁判所檢事を經て大洲區裁判所檢事兼松山地方裁判所大洲支部檢事となり現時前記の職にあり家族は尙三男秀雄(明四五、三生)四男久夫(大八、三生)孫元宣(昭二、三生、長男元明長男)あり(愛媛、新居、西條區裁判所檢事局內)

**出崎鶴吉** 大阪府多額納稅者、つる家(資)代表社員、つるや食堂(資)社員、料理業 大阪府在籍
妻 さき 明九、一二生、大阪、今中松之介長女、つる家(資)出資社員
男 準一 明四二、二生、つる家(資)出資社員
君は廣島縣人出崎儀兵衛の二男にして明治九年六月を以て生れ同十五年分れて一家を創立す夙に大阪に出で料理人たりしが後獨力割烹店つる家を經營し漸次發展して今日の大を爲せり大正十五年營業を合資組織に改め現に其代表社員にして大阪府多額納稅者に列す長女かよ(明三七、三生)二女はつ子(同三九、九生、樟蔭高女出身)は各分家し三女里子(同四三、八生)は大阪府人中山德二郎の養子となり弟常三(同一七、二生)同妻あさえ(同一六、三生、和歌山、橋詰熊太郎妹)は其子女を伴ひ分家せり(大阪、東、北濱五ノ三三電本局一三五二)

**出羽重芳** 正五位、男爵、國際汽船會社員 東京府華族
母 ゆき 慶應元、一〇生、福島、大沼親誠長女
妻 小松 明三二、一一生、海軍中將市川清次郎三女、東洋英和女學校出身
男 重成 大一二、八生
當家は先代重遠より家名を揚ぐ重遠は舊會津藩士出羽佐太郎の長男にして明治五年海軍兵學寮に入り同十三年海軍少尉に任じ累進して同四十五年海軍大將に陞る浪速龍田各廻航委員海軍省軍務局第一課長同軍事課長等に歷補し日淸戰役には西海艦隊常備艦隊各參謀長として功四級を賜ひ北淸事變には常備艦隊司令官として功二等に敍せらる次で横須賀鎭守府艦政部長軍務局長兼海軍々令部次長第一艦隊司令官等に歷補し日露戰役には第三戰隊司令官第四艦隊司令長官として偉功を奏し功二級を賜り同四十年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる戰後教育本部々長佐世保鎭守府第一艦隊各司令長官軍事參議官等に歷補す君は其四男にして明治二十四年三月を以て生れ昭和五年家督を相續し襲爵す大正五年早稻田大學商科を卒業し現時國際汽船會社に勤務す家族は尙長女菊枝(大一四、八生)二女松榮(昭四、三生)あり妹八重子(明三五、七生)は愛知縣士族丹羽綱吉長男周夫に同捷子(同四〇、一生)は東京府人岩垂梅四郎に嫁し姪初子(大二、三生、亡兄重夫長女)同廣子(同六、八生、同三女)は同府士族寺垣猪三に同富士子(同四、三生、同二女)は同府人與倉守之助に各養子となれり(東京市外大崎町上大崎三九一電高輪一三七〇)
參照＝市川淸次郎、岩垂梅四郎、寺垣猪三、丹羽綱吉の項

**出羽政助** 汽車製造、日本鋼製建具各(株)取締役、大阪府士族
妻 マス 明一七、五生、醫學博士市川清妹
男 助一 明四一、一一生
女 富士子 大二、六生
君は山口縣士族出羽實景の長男にして明治三年五月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十二年東京帝國大學工科大學機械科を卒業し關西鐵道會社技師となり

次いで汽車製造會社技師に轉じ勤續十數年技師長に擧げられ支配人を兼ね大正六年事業視察の爲め米國に出張す歸朝後同社取締役兼本店支配人となり且つ日本鋼製建具會社取締役を兼ぬ家族は尙二男滋（大四、八生）三男正（同七、一一生）四男皎（同一〇、九生）あり妹キヨ（明二一、五生）は山口縣人醫師山本牛作に同トキ（同二二、一一生）は靑森縣人森田盛健養子競右に同ミヨ（同二七、五生）は熊本縣人中野鎌次郎二男善造に嫁せりA一五六一（大阪、豐能、中豐島村）
參照＝市川淸※松尾琢三の項

## 出淵勝次

正四位勳二等、特命全權大使、米國駐劄兼キユーバ國駐劄、東京府在籍
妻　濱　明一九、二生、故法學博士菊池武夫三女
男　勝　明四四、一二生
女　隆子　大三、八生

君は岩手縣人出淵勝應の二男葛西勝彌の兄にして明治十一年七月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す同三十五年東京高等商業學校專攻部を卒業し同年外交官及領事官試驗に合格直に領事官補に任ぜられ京城に赴任し其後外務省政務局第一課長に就任し大正三年公使館一等書記官に陞任し北京駐在同七年大使館一等書記官に進み米國駐在を命ぜらる同年更に大使館參事官となり同九年歐洲戰後第一回の代表者として獨逸に轉じ同十年瑞西に開催の國際聯盟會議第二回會議に於ける帝國代表隨員並に華府會議參列の全權委員隨員を命ぜられ同十一年山東還附委員となり翌年外務省亞細亞局長兼對支文化事務局長に任じ同十三年外務次官に擧げられ昭和三年特命全權大使に任ぜられ米國に駐劄し同六年キユーバ國駐劄を兼ぬ（在米國帝國大使館內）
參照＝葛西勝彌※小倉公平※栗原正の項

## 出水時太郎

穴水銀行㈱常務取締役　石川縣在籍
妻　ふゆ　明二三、一一生、石川、國田傳十郎三女
男　彌太郎　大一二、二生

君は石川縣人出水幸太郎の長男にして明治十八年五月を以て生れ同二十八年家督を相續す現に穴水銀行常務取締役たり家族は尙三女久子（大八、一〇生）四女あさ子（同一五、四生）五男幸次郎（昭四、八生）あり姉せつ（明一二、六生）は石川縣人樋爪仁太郎三男源太郎に同たつ（同一六、五生）は同縣人東領吉に嫁せり叔母きん（安政元、九生）は同縣人萬砂久作に嫁せり（石川、鳳至、穴水町）

## 出水川與吉

西灘中央廉賣市場㈱取締役、金融業、大阪府在籍
妻　リン　明一九、一一生、大阪、京本善太郎妹
男　與一　大三、一二生
女　芳子　明四三、一一生
女　俊子　大二、八生

君は大阪府人先代與吉の長男にして明治十六年六月を以て生れ大正十四年家督を相續し前名與三郎を改め襲名す金融業を營み傍ら西灘中央廉賣市場取締役たり家族は尙二男與三（大七、一〇生）四女淸子（同一三、四生）妹すゑ（明二八、二生）同夫蕪（同二八、三生、大阪金谷元七四男）及其一女あり亡弟與二妻ミツ（同二五、一一生、大阪、森下文造二女）は其子女を伴ひ分家せり（大阪、西、南堀江下通四ノ四四電櫻川四三六五）

## 出光佐三

福岡縣多額納稅者、門司商工會議所常議員、鑛油及鐵商　福岡縣在籍
父　藤六　安政元、一二生、現戶主
母　チヨ　安政二、六生、福岡、眞武正六四女
妻　菊枝　明三五、八生、高知、士、山內豐幸養子
男　昭介　昭二、四生

君は福岡縣人出光藤六の二男にして明治十八年八月を以て生る鑛油及鐵商を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅一萬五千九百三十八圓を納め推されて門司商工會議所常議員たり家族は尙長女孝子（昭五、三生）兄雄平（明一五、三生）同妻ヒデ（同二四、五生、福岡、原田宗太郎二女）及其二男一女弟弘（同二六、一一生）同妻シカ（同三四、七生、福岡、武末富次郎四女）及其一男二女弟泰亮（同二九、四生）同妻千代子（同三六、一一生、山口、松野茂介二女）及其一女あり姉キク（同一六、一〇生）は福岡縣人大和菊太郎に妹タマ（同二一、二生）は同縣人眞武周三に養妹スミエ（同三五、四生、福岡、早田開伊妹）は兵庫縣人日田重恭に嫁し弟佳月（同二三、一〇生）は福岡縣人吉原千代の入夫となり同計助（同三三、六生）同妻キミ（同四二、八生、大阪、杉田宗助妹）は共に分家せり（門司、西本町三）
參照＝杉田宗助※男爵山內豐靜※杉田正三郎の項

## 鋏川喜之輔

大阪府多額納稅者、蚊帳商　大阪府在籍
妻　いく　慶應三、五生、大阪、大內七兵衞養子
男　吉兵衞　明三〇、二生、現戶主
婦　鶴　明三六、九生、二男吉兵衞妻、愛知、下出民義長女

君は兵庫縣人山本龜吉の長男にして文久三年十月を以て生れ先々代吉兵衞の養子となり後家督を相續し前名佐太郎を改め襲名し大正十五年家督を二男吉兵衞に讓り退隱し喜之輔と改名す蚊帳商を營み大阪府多額納稅者たり家族は尙孫正敬（大一三、九生、二男吉兵衞長男）同吉良（昭二、五生、同二男）あり長女米（明二七、一〇生）は同夫米藏（同一八、一二生、大阪、長谷川彌三郎弟）と共に分家せり（大阪、東、本町二ノ八九電本町六二二一）
參照＝下出民義※岡田藤吉※下出義雄の項

## 寺井忍

第一水產㈱社長　熊本縣士族
母　辰　安政三、二生
妻　モト　明三二、四生、熊本、岩崎衞姉
男　十輔　明四〇、一〇生

當家は細川家の世臣にして連綿傳へて今日に至る君は寺井十次郎の長男にして明治十二年九月を以て生れ同三十六年家督を相續す同三十八年東京帝國大學工科大學造船科を卒業し川崎造船所に勤務十五年曩に英國に遊ぶ現時第一水產會社長たり家族は尙二女ミツヲ（大八、一一生）三男良樹（同一一、三生）三女町（同一三、六生）四男濟（昭二、一一生）四女妙（同三、八生）あり妹津禰（明一七、一一生）は熊本縣士族檜前勵に嫁せりA七三七（神戶、榮町通六ノ二一ノ七電元町九八八六）

## 寺井久信

日本郵船㈱甲谷陀支店長　和歌山縣在籍
妻　貞　明二八、一〇生、和歌山、徐易三三女
男　久美　大一〇、一〇生

君は和歌山縣人寺井多助の二男にして明治二十年十一月を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す大正二年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し現に日本郵船會





社甲谷陀支店長たり家族は尙二男英彥（大一二、一二生）長女那珂子（同一四、三生）三男久忠（昭五、七生）あり（英領印度、甲谷陀、日本郵船會社支店內＝留守宅、和歌山、日高、御坊町東町）

## 寺井源吾

寺井銀行㈱頭取、東京倉庫㈱社長　東京府在籍
妻　ふで　明一六、六生、岐阜、坂口助三郎五女
養子　康正　大四、三生、岐阜、鈴木伊三治郎四男

君は富山縣人寺井甚太郎の弟にして同義雄の弟なり明治十七年六月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す現時寺井銀行頭取たる外前記會社の重役にして曩に近江銀行頭取たり（東京、日本橋、通鹽町東絲河岸五號地電浪花二）

## 寺井四郎兵衞

北海道多額納稅者、陶器金物商　北海道在籍
母　チヨ　天保一二、八生、新潟、薄田嘉久太五女
妻　モト　明元、六生、北海道、松岡與八郎長女
養子　力藏　明二六、二生、長女トシ夫、北海道、檜師松之助二男
女　トシ　明三〇、一〇生、養子力藏妻
庶子　眞太郎　明三一、一生、生母、東京、村越フク

君は北海道人先代四郎兵衞の長男にして慶應三年六月を以て生れ明治十六年家督を相續し前名を改め襲名す陶器金物商を營み直接國稅四千七百五十二圓を納め北海道多額納稅者たり家族は尙孫孝（大九、四生、養子力藏長男）同安（同一一、三生、同二男）同章（同一三、一生、同三男）同忠（同一四、一二生、同四男）同仁（昭三、九生、同五男）同滋（同四、九生、同六男）あり庶子セイ（明二七、四生、生母、東京、村越フク）同夫五郎（同二〇、九生、北海道、京谷忠右衞門五男）は其一子を伴ひ分家し庶子德太郎（同四三、六生、生母同上）は其養子となり同光太郎（大元、一〇生、生母同上）も亦東京府人寺井正太郎の養子となれり（函館、末廣町八八）

## 寺井弘

從五位勳六等、樺太廳技師、內務部土木課長、新潟縣在籍
妻　かな　明二八、一二生、東京、岩松兼經二女
男　弘之　大一五、三生

君は新潟縣人寺井金五郎の長男にして明治二十一年二月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十三年仙臺高等工業學校土木工學科を卒業し直ちに樺太廳技手となり次で同臨時築港事務所技手同技師本斗臨時築港事務所長等を經て大正十五年同廳技師に進み內務部土木課長兼臨時築港事務所技師に補せられ現時內務部土木課長たり家族は尙長女光子（大一一、六生）二男功（昭三、一一生）の外弟淸（明二七、七生）同妻三千代（同三〇、九生、北海道、永田泰亮長女）及其一男四女亡妹ミヨ夫政二郎（同二一、九生、北海道、馬場榮太郎弟）及其二男一女あり妹節（同三六、二生）は千葉縣人久我良藏二男良雄に嫁せり（樺太、豐原、豐原町官舍甲三號）
參照＝※岩松經膺の項

## 寺內季吉

京都府多額納稅者、寺內東店、時計貴金屬商、京都府在籍
妻　アイ　明六、六生、京都、松井伊三郎妹
男　季之助　明三一、一二生
婦　多代　明三五、七生、長男季之助妻、京都、田中常夫妹

君は京都府人寺內市太郎の伯父にして慶應三年五月を以て生れ明治二十八年分れて一家を創立す寺內東店と稱し時計貴金屬商を營み現時京都府多額納稅者にして直接國稅二千百三十五圓を納む家族は尙孫季一郎（大一一、一〇生、長男季之助長男）同隆（同一四、二生、同二男）同喜代子（昭二、七生、同長女）同和子（同四、六生、同二女）ありA六八五B二四一（京都、下京、四條通寺町東入御旅町四六電本局八七一）
參照＝※黑崎定三の項

## 寺內篤三郎

秀英舍㈱取締役兼工務部長　東京府在籍
妻　つる　明一六、四生、兵庫、佐久間秀脩長女
男　俊彥　明四四、四生
女　ゆき　明四一、四生

君は京都府人寺內章明の三男にして明治九年三月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同年東京高等工業學校械科を卒業し現時秀英舍取締役兼工務部長たり家族は尙四男彰（大八、一一生）あり（東京市外代々幡町代々木北山谷一七七電四谷五九一六）
參照＝※日暮忠の項

## 寺內壽一

從三位勳二等功四級、伯爵、陸軍中將、第五師團長、山口縣華族
妻　順　明三六、三生、埼玉、山下致美妹

當家は先代正毅より顯る正毅は舊山口藩士にして大阪兵學寮に入り明治四年陸軍少尉に任じ陸軍大將に累進す日淸の役第二軍に從軍して功あり功三級を賜り陸軍士官學校大隊司令官陸軍大臣祕書官陸軍戶山學校次長陸軍士官學校長第一師團參謀長參謀本部第一局長敎育總監部長參謀次長陸軍大學校長に歷補し陸軍大臣に親任せらるゝ事三回日露戰役の功に依り勳一等功一級に敍し明治四十年華族に列し子爵を授けらる次で韓國統監朝鮮總督に歷任し日韓併合の功に依り伯爵に陞さる大正五年元帥府に列し內閣總理大臣に親任せられ從一位大勳位に昇る君は其長男にして明治十二年八月を以て生れ大正八年襲爵す明治三十三年陸軍士官學校を卒業し陸軍步兵少尉に任じ大正十三年陸軍少將に昭和四年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し駐墺駐佛各大使館附武官參謀本部々員兼陸軍大學校兵學敎官近衞步兵第三聯隊長近衞師團參謀長步兵第十九旅團長第一師團司令部附朝鮮軍參謀長獨立守備隊司令官等に歷補し昭和五年第五師團長に補せらる曩に日露戰役の功に依り功四級を賜ふ妹サワ（明一四、四生）は伯爵兒玉秀雄に同須惠（同二三、六生）は子爵福羽眞城に嫁せり（廣島市第五師團長官舍）
參照＝伯爵兒玉秀雄、子爵福羽眞城の項

## 寺尾新

從五位勳六等、理學博士、水產講習所敎授、靜岡縣士族
繼母　キク　慶應三、六生、熊本、士、大野東長女
妻　きよ　明二六、九生、理學博士石川千代松長女、學習院女學部出身
男　登　大六、一生

君は靜岡縣士族理學博士寺尾壽の二男にして明治二十年九月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學理科大學動物學科を卒業し大學院に入る大正七年水產講習所敎授に任じ後東京高等蠶絲學校及び東京女子大學の講師を兼ねたるも大正十五年在外研究員を命ぜられたるを以て兼職を辭す昭和四年理學

博士の學位を受く洋樂を趣味とす家族は尙長女昭子(大一〇、五生)二男陸(同一四、一生)三男茂(昭四、一生)四男敏(昭五、一二生)妹文(明二四、七生)同園(同二九、一〇生)あり(東京、四谷、大番町一九)
參照=石川千代松の項

**寺尾規矩郎**　正五位勳五等、川越市長　東京府士族
妻　シ　ゲ　明一六、二生、神奈川、士、川添久重四女、府立第一高女出身
男　主　稅　明四二、五生
女　境　子　大五、四生
君は東京府士族寺尾定吉の長男にして明治三年七月を以て生れ同二十七年家督を相續す同二十二年英吉利法律學校を卒業し衆議院屬大藏屬韓國總稅務司關稅局稅關朝鮮總督府稅關各事務官等に歷任し大正十一年退官す爾來東洋拓殖會社囑託同參事滿蒙毛織會社常務取締役等に就任し昭和二年川越市長に選任せらる大正七年西比利亞及英佛殖民地を巡遊す謠曲を嗜む家族は尙二男菊麿(大八、四生)三男靖(同一二、一生)あり(川越市役所內)

**寺尾喜太郎**　寺尾(名)代表社員　大阪府在籍
妻　と　せ　明八、一二生、兵庫、橋本新右衞門養妹
養子　新　藏　明三七、一生、長女キクヱ夫、大阪、吉川新七三男
女　キクヱ　明三四、一一生、養子新藏妻
女　カズヱ　明三九、一二生
女　ヨシヱ　明四四、二生
女　フミヱ　大三、二生
君は大阪府人寺尾彥太郎の長男にして明治五年一月を以て生れ同二十九年家督を相續す現時寺尾合名會社代表社員たり家族は尙孫彥次郎(大一四、一生、養子新藏長男)同昭治(昭二、一生、同二男)同昭吾(同五、一生、同三男)あり妹リウ(明一三、九生)は兵庫縣人藤田卯三郎二男喜代松に二女トシヱ(同三六、一二生)は大阪府人西野眞太郎長男眞夫に嫁せりA一二一〇(大阪、中河內、英田村電四四)
參照=西野眞夫の項

**寺尾　進**　從五位勳五等、製鐵所理事、販賣部長、福岡縣士族
妻　須　和　明二九、八生、長崎、柴田悌姉
君は千葉縣人大西逵の二男にして明治二十三年八月を以て生れ先代亨の養子となり大正十四年家督を相續す同三年文官高等試驗に合格し翌四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業後直に農商務屬となり爾來保險事務官臨時產業調査局事務官特許局事務官農商務大臣祕書官農商務書記官商工書記官等に歷任し商務局貿易課長同局取引課長を經て昭和三年大臣官房會計課長となり同五年臨時產業合理局事務官に任じ會計課長を兼任せしが同年製鐵所理事に轉任し販賣部長となり今日に至る(東京、四谷、大番町五〇電三〇一九)

**寺尾　倜**　洋家具商　東京府士族
母　も　と　慶應三、九生、東京、小林重兵衞長女
妻　藤　江　明三二、一〇生、東京、小南助治郎長女
男　剛　大一〇、七生
寺尾家は元信州上田藩に仕へて代々物頭或は奉行等を勤めたる家柄なり明治維新となるに及び先代倜東京に出で西洋家具商杉田屋に勤務し主家の信用を博して遂に同家の支配人に擧げられ後獨立して同業を創め漸次發展して今日の產を爲せり君は其の長男にして明治二十二年四月を以て生れ同四十四年家督を相續し前名鐘を改め襲名す夙に大倉商業學校に學び父業を承けて西洋家具商を營む家族は尙長女和子(大一一、一二生)二女靜子(昭二、四生)三男茂(同五、一生)あり妹せい(明二四、三生)は埼玉縣人平野熊太郎に同トシ(同二九、五生、東京高女出身)は東京府人伊藤淺次郎長男紬之に同スヱ(同三三、一生、出身校同上)は同府人下道哉長男誠之助に嫁せり(東京、芝、愛宕町一ノ一電芝一六八)

**寺尾元彥**　早稻田大學敎授、法學部長、早稻田專門學校敎授、鹿兒島縣士族
妻　國　子　明二九、一〇生、東京、黑岩規五女
男　哲　男　大一二、二生
君は舊鹿兒島藩士上井保の弟にして明治十二年八月を以て生れ同藩士寺尾新藏の養子となり同二十四年家督を相續す同三十九年早稻田大學法學科を卒業し爾來同大學に敎鞭を取る事二十餘年大正十年以來推されて法學部長に擧げらる曩に獨逸及英國に留學を命ぜらる著述に「商法原理」「會社法提要」等數種あり家族は尙長女伊代(大六、五生)二女多賀子(同一〇、一生)あり(東京、小石川、高田豐川町四二)

**寺尾陸馬**　安藝瓦製造、並村製絲場、安喜水力電氣各(株)取締役、高知縣士族
妻　見　虎　明六、一〇生、高知、近藤彥藏長女
養子　晉　盛　明三二、二生、二女三樹夫、高知士、三谷盛圖弟
女　三　樹　明三六、一生、養子晉盛妻
君は高知縣士族寺尾準興の長男にして明治二年十二月を以て生れ同四十二年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫良子(大一二、一生、養子晉盛長女)同文子(同一四、一二生、同二女)同昭祐(昭三、一生、同長男)同昭次郎(同五、二生、同二男)あり妹晴稻(明一八、八生)は高知縣人畠中嘉市に養子小清(同二七、一二生、高知、須賀寬助妹)は同縣人尾原雄飛に嫁せりA二一九(高知、安藝、安藝町)
參照=畠中嘉市の項

**寺岡誠一郎**　寺岡絲店(名)代表社員　栃木縣在籍
母　ウ　タ　文久二、三生、寺岡淳一郎長女
妻　ノ　ブ　明二六、一生、栃木、渡邊長三郎長女
男　仁一郎　大四、一生
女　茂　子　大二、二生
君は栃木縣人寺岡末吉の長男にして明治十八年三月を以て生れ同三十九年叔父弘三郎方より分れて一家を創立す現時寺岡絲店代表社員たり家族は尙二男邦次(大六、一生)三男義勝(同八、六生)四男武(同一〇、九生)二女まち子(同一二、一〇生)三女幸子(同一四、六生)五男俊男(昭三、三生)弟進三郎(明二八、一生)同妻スヱ(同三八、六生、栃木、廣瀨四郎妹)及其一子妹富子(同三六、四生)同夫宇平(同二九、一生、東京、關根益子甥)及其二女あり祖父淳一郎(天保一〇、一二生)祖母ふじ(同一三、七生、長淸右衞門二女)は叔母チヨシ(明一八、一生)を伴ひ弟吟次郎(同二三、五生)同妻フジ(同二九、三生、栃木、新藤吟二妹)は其一男一女を伴ひ各分家し妹キヨ(同二一、四生)は東京府人澤田龜五郎に同マサ(同二五、一〇生)は群馬縣人大川英一郎





に嫁せりA三〇七三(栃木、安蘇、佐野町)

**寺垣猪三**　正四位勳二等功三級、海軍中將　東京府士族
男　孝　三　明一九、四生
婦　秀　明二四、一二生、長男孝三妻、滋賀、士、佐藤彥八二女
男　敬　三　明二四、一生
婦　た　き　明三二、四生、二男敬三妻、海軍主計少將加藤八太郎三女
男　捷　三　明二八、一二生
婦　菊　江　明三五、一〇生、三男捷三妻、新潟、伊藤謙藏妹
養子　初　子　大二、三生、男爵出羽重芳姪、女子學習院在學
寺垣家は舊金澤藩の御馬廻りを勤めたる家柄なり君は先代成孝の長男にして安政四年一月を以て生れ明治十二年家督を相續す舊名を猪之助と云ふ同十三年海軍兵學校を卒業し同十五年海軍少尉に任じ累進して同四十二年海軍中將に陞る其間天城艦長海軍省主事同副官松島吉野千歲淺間敷島各艦長橫須賀鎭守府參謀長第二艦隊司令官舞鶴水雷團長南淸艦隊司令官竹敷要港部司令官等に歷補し日淸役に會し功あり勳五等に敍し北淸事變に際し勳三等に陞敍し日露の役に從軍し勳二等功三級金鵄勳章を賜ふ家族は尙養子廣子(大六、八生、男爵出羽重芳姪、女子學習院在學)孫多惠子(大一〇、七生、二男敬三長女)同安子(同一二、一一生、同二女)同典三(同一五、一二生、同長男)同昭三(昭三、三生、同二男)同祐三(同二、一生、三男捷三長男)同青柳(同三、一二生、同長女)同隆子(同五、九生、同二女)あり長女千鶴子(明二二、一生)は東京府人兒玉孝顯に二女淸(同二七、一生)は子爵田村不顯に三女龍子(同三一、二生)は鹿兒島縣士族木村修三に四女仲(同三三、二生)は宮崎縣士族白土琢三に五女巴(同三六、二生)は香川縣人漆原辰雄に嫁せり(東京市外駒澤町新町三九七)
參照=子爵田村不顯、男爵出羽重芳、漆原辰雄、木村修三、兒玉孝顯、白土琢三※板倉松太郎※岩垂梅四郎※田村貫一※丹羽綱吉※林田寅次郎の項

**寺川三藏**　從四位勳四等、朝鮮總督府判事、海州地方法院長、福井縣在籍
男　節　三　明三五、一一生
婦　實　枝　明四二、四生、長男節三妻、長野、武井一義姪
男　有　三　明四一、四生
女　麗　子　明四三、四生
君は福井縣人寺川長兵衞の三男にして明治七年十月を以て生れ大正十五年叔父甚之助方より分れて一家を創立す明治三十二年東京法學院を卒業し判檢事登用試驗に合格同三十五年判事に任じ奈良區同地方廣島區同地方各裁判所判事を經て統監府判事に任じ同四十三年朝鮮總督府判事に任じ爾來海州地方法院部長平壤覆審法院判事同地方法院部長釜山地方法院晉州支廳判事大邱覆審法院部長等に歷補し大正十三年現職海州地方法院長に補せらる長女利子(明三九、三生)は廣島縣人山崎孝三に嫁せり(朝鮮、海州地方法院長官舍)

**寺倉文之助**　從七位勳六等、醫師　愛知縣在籍
男　一　雄　大三、四生、縣立惟信中學校在學
女　綾　子　明四一、七生、愛知淑德高女出身
女　鶴　子　明四三、九生、愛知淑德高女出身
女　秋　子　明四五、六生、愛知淑德高女出身
君は愛知縣人國學者寺倉古史(通稱茂右衞門)の四男にして明治六年三月を以て生れ同二十三年家督を相續す同二十八年愛知醫學專門學校を卒業し同校に敎諭として同四十四年迄在勤爾後現住所に外科院を設立現今に至る詩作及書畫古器物に趣味を有す二女玉子(明三八、一二生)は愛知縣人山本松次郎二男直一(東京帝大出身、陸軍一等軍醫、東京帝大大學院在學)に嫁せり(名古屋、西、伊倉町一ノ九電本局三四九)

**寺阪政治**　寺阪莫大小(株)代表取締役　大阪府在籍
母　は　つ　嘉永元、三生、兵庫、山田新七二女
妻　とよの　明一七、二生、岡山、金邊長五郎長女
男　政　雄　明四〇、九生
女　喜代子　明四二、一一生
女　富美子　大四、一二生
君は大阪府人寺阪吉治の長男にして明治十一年三月を以て生れ同四十一年家督を相續す赤穗義士寺阪吉右衞門の後裔にして赤穗に在りて世々飛脚業を渡世とせしが先代吉治に至りて大阪に出づ君貧苦の中に長じ初め煙草製造業を營み後莫大小製造業に轉じ歐洲戰爭に際し一擧巨萬の利を博す現時組織を株式に改め其代表取締役たり家族は尙四女靜(大七、一生)姉たま(明七、一〇生)あり長女菊枝(同三八、三生)は兵庫縣人伊東光太郎弟恒治に妹ひさ(同三三、一〇生)は大阪府人吉田久治弟久太郎に嫁せり(大阪、北、鶴野町七電北二一三〇)

**寺崎久次郎**　久留米商工會議所議員　福岡縣在籍
養母　ナ　カ　安政五、一二生、福岡、石松萬助長女
妻　タ　ツ　明一二、一二生、養父久次郎二女
女　のぶ子　明四三、六生
君は福岡縣人石橋次平の長男にして明治八年十月を以て生れ後先代久次郎の養子となり同四十二年家督を相續し前名久助を改め襲名す現時久留米商工會議所議員に擧げらる養妹キク(明二一、一一生)は福岡縣人城崎義太郎に嫁せり(久留米通町四)
參照=城崎義太郎の項

**寺崎邦太郎**　魚津銀行(株)取締役兼支配人　富山縣在籍
母　り　と　文久二、四生、富山、寺崎二右衞門二女
妻　つ　れ　明一七、四生、富山、山澤長九郎三女
男　岩　吉　明四四、一一生
女　と　し　明四二、一〇生
君は富山縣人寺崎孝吉の長男にして明治十四年六月を以て生れ昭和三年家督を相續す先是明治三十八年早稻田大學專門部政經科を卒業し現時魚津銀行取締役兼支配人たり家族は尙二男欣次(大四、七生)三男憲三(同八、三生)從弟彌太郎(明三〇、二生、叔父直之助二男)同妻ばゐ(同四〇、二生、富山、高慶孝吉二女)あり養子ウタ(同三五、一〇生、富山、道正昌太郎長女)同夫梅則(同三二、三生、富山、高井要作弟)叔父礒之助(同六、八生)同妻みゐ(同九、一一生、富山、島崎利兵衞長女)及其子女は各分家し妹たれ(同一八、五生)は富山縣人道正三郎長男昌太郎に同なつ(同二〇、六生)は同縣人木下淸太郎に同八重(同二四、二生)は

同縣人佐藤與三松三男與一郎に嫁妹治（同二、一二生、石川、篠島與一郎妹）は同縣人古川小三郎に嫁せり（富山、下新川、魚津町字新鹽屋町二四）

參照＝佐藤與三松の項

**寺崎新策**　從五位勳六等、有馬電氣軌道(株)取締役、新潟縣在籍

妻　英　明一九、七生、新潟、牧口義矩妹

男　一夫　明四四、三生

女　美知子　明四〇、二生

君は新潟縣人寺崎至の二男にして明治十年七月を以て生れ同三十七年家督を相續す同三十四年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し富山縣技師に任じ後京都府技師に轉ぜしも現時官を辭し有馬電氣軌道會社取締役たり家族は尙從妹幸子（明三五、六生、叔父伊輔長女）あり父至（嘉永五、三生）母イセ（安政六、七生、新潟、伊藤祐三郎二女）は絕家寺崎家を再興し妹スカ（同一四、一二生）は福井縣人長島淸三郎弟淸松に嫁せり（京都、上京、一條通新町電西二三二一）

參照＝※小磯國昭※二宮傳右衞門※宮川正治※鐵山政次郎の項

**寺崎英雄**　從六位勳五等、陸軍三等主計、稅務監督局書記官、札幌稅務監督局總務部長兼經理部長、佐賀縣在籍

父　武人　慶應元、二生、福岡、堤恕一二男　現戶主

母　キクエ　慶應三、一二生、佐賀、飛松準次郎長女

君は佐賀縣人寺崎武人の長男にして明治二十一年一月を以て生る大正四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し高等試驗に合格す爾來大藏屬副司稅官大藏事務官稅務監督局事務官等に歷任し昭和三年稅務監督局書記官に任じ熊本稅務監督局間稅部長を經て現時札幌稅務監督局總務部長兼經理部長たり家族は尙弟虎雄（明二五、七生）同孤旒（同二八、二生）あり妹靖子（同三〇、三生）は福岡縣人熊手米藏に同豐年（同三七、五生）は同縣人河原保基に嫁し叔母ヨシ（慶應三、五生）同夫養太郎（慶應二、一〇生、佐賀、飛松龜太郎弟）は其一男を伴ひ分家し叔母ルイ（明八、一一生）同トモ（同一八、九生）は共に其家籍に入れり（熊本市紺屋今町五六）

**寺澤寬一**　從四位勳三等、理學博士、東京帝國大學教授、理學部勤務、工學部兼勤、航空研究所員、東京府在籍

妻　ミツ　明二二、一一生、安永三吉二女

男　一彥　大三、一生

君は山形縣士族寺澤兵吉の二男にして明治十五年七月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し引續き大學院に入り應用力學を研究し大正二年獨英米佛各國に留學研鑽す同六年理學博士の學位を授けられ東北帝國大學工學專門部教授となり同七年東京帝國大學教授に任ぜられ現に理學部及工學部に於ける講座を擔任し兼て航空研究所々員たり（東京、小石川、駕籠町一三四電大塚六一一一）

**寺澤鍵二**　三菱(資)監察員、日本ビクター蓄音器(株)監查役、愛知縣在籍

妻　マツ　明二三、一一生、東京、士、八木藤九郎三女

男　爲太郎　大六、三生

女　蘭子　大元、一二生

女　菊子　大四、三生

君は愛知縣人寺澤久三郎の二男にして明治十五年五月を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十九年東京高等商業學校を卒業し三菱合資會社に入り次で三菱造船會社に轉じ同社參事に進み長崎三菱造船所營業課主任となり更に三菱合資會社に轉じ現時同社監察員日本ビクター蓄音器會社監查役たり家族は尙二男爲七（大八、四生）四女笹子（同一二、六生）三男竹三郎（同一四、六生）五女篠子（昭三、七生）の外姉てつ（明一三、一二生）同夫鐵九郎（同九、一二生、愛知、板津森三郎弟）及其一子あり妹たま（同一七、一〇生）は愛知縣人山本祝一に姪千代（同三六、一生、同二女）は同縣人横田鐵治郎に嫁せりA一一六九（東京、小石川、大塚仲町四一はノ一七號）

**寺澤晉叡**　南滿洲旅館(株)取締役、ヤマトホテル總支配人、東京府士族

母　まさ　安政六、一一生、東京、士、舟越新二女

妻　トキ　明二〇、九生、山口、川崎與吉妹

男　正一　大元、九生

君は東京府士族寺澤正明の長男にして明治十年六月を以て生れ大正七年家督を相續す現時南滿洲旅館取締役ヤマトホテル總支配人たり曩にホテル業視察研究の爲め米國に出張す家族は尙三男寬二（大五、九生）三女糸子（同八、一一生）四男良雄（同一三、五生）弟泰吉（明一五、六生）あり（大連、柳町八四電三六一五）

**寺澤稙二郎**　六十三銀行(株)監査役、長野縣在籍

男　富衞　明三六、七生

婦　貞子　明四四、一一生、二男富衞妻、長野、赤池濃二女

君は長野縣人寺澤安左衞門の二男にして慶應三年二月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時六十三銀行監査役たり長女貞（明二四、三生）は長野縣人宮坂助雄弟助次郎に二女於節（同二六、二生）は同縣人武井武養子二一に三女光（同三〇、一一生）は千葉縣人三橋孝一郎に嫁し弟準四郎（同四、五生）同妻かつ（同二、四生、法學博士田中穗積妹）は長野縣人寺澤幸助に妹きい（同九、一二生）は東京府人寺尾ていに各養子となれり（長野、更級、共和村）

參照＝赤池濃、田中穗積、三橋孝一郎※久保市三郎※詫摩武彥※平林莊治の項

**寺澤寅雄**　信美電力(株)取締役、大同電力(株)理事、愛知縣在籍

養父　篁　文久三、二生

妻　こう　明二四、六生、京都、甲和繁太郎妹

男　潤一　大四、八生

君は愛知縣人須賀安淸の三男にして明治十九年十一月を以て生れ寺澤篁の養子となり大正十一年家督を相續す明治四十一年名古屋高等工業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり閑碁に趣味を有す家族は尙三男龍二（大五、九生）長女道子（同七、七生）二女淸子（同一二、五生）あり（名古屋、南、瑞穗町大辻二四ノ三電南四二八二）

**寺澤萬三**　三菱(資)參事、東京府在籍

母　むめ　嘉永五、二生、長野、宮崎源十郎二女

妻　せつ　明一九、四生、長野、秋野太郎長女

男　湊　明四四、二生、長岡高工機械科在學

女　須磨子　大二、八生、三輪田高女出身

女　和子　大五、一一生、佛英和高女在學

君は長野縣人寺澤幾一郎の二男にして明治十三年一月を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十六年早稻田







大學行政科を卒業し現時三菱合資會社參事にして總務課に勤務す家族は尙三女美津子（大九、四生）あり（東京、小石川、大塚仲町四一電大塚二五三〇）

**寺澤元良**　福島民友新聞社(株)社長、福島縣士族

妻　フサ　文久二、四生、福島、齋藤隆藏二女

婦　ヨシナ　明二七、三生、亡長男元廣妻、福島、齋藤伴彥妹

孫　甲子男　大一三、二生、亡長男元廣長男

孫　喜美　大五、四生、亡長男元廣長女

君は福島縣士族木村元政の三男にして安政四年三月を以て生れ先代眞彥の養子となり後家督を相續す現時福島民友新聞社長にして曩に福島商工會議所議員に同副會頭に推さる家族は尙孫眞彥（大一四、七生、亡長男元廣二男）同淸（昭二、六生、同三男）あり再甥一郎（明二九、八生）は分家せり（福島市小山荒井）

**寺島健**　正五位勳三等、海軍少將、海軍省教育局長、東京府在籍

妻　悅　明二三、四生、東京、尾本知道四女

男　雄　明四三、一〇生

女　良子　大二、二生

君は和歌山縣人寺島良業の四男にして明治十五年九月を以て生れ大正七年兄章方より分れて一家を創立す明治三十六年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和二年同少將に累進す其間海軍大學校を卒業し軍令部參謀第三艦隊參謀佛國在勤大使館附武官海軍省副官山城艦長第二第一及聯合各艦隊參謀長軍令部出仕等に歷補し此間歐洲に赴く事四回昭和五年海軍省教育局長に補せらる（東京、赤坂、青山高樹町一二ノ四號電青山七九〇八）

參照＝※石橋八九郎の項

**寺島權藏**　衆議院議員（富山縣選出）、三日市町長、富山日報社長、東新組、魚津製氷、岩瀨無盡各(株)取締役、富山縣在籍

妻　ユキ　明二三、六生、東京、川瀨小十郎長女

男　信夫　大四、七生

君は富山縣人寺島安次郎の弟にして明治二十一年一月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す同二年早稻田大學政治科を卒業し扶桑通信社東洋文藝會社を創立し更に乙卯出版社を經營す後獨立通信社員となる大正八年內外染料製造所を創設し又東京每日新聞社員となり現時三日市町長にして選ばれて衆議院議員に當選する事三回立憲民政黨所屬にして同議員總會副會長に擧げらる家族は尙二男俊夫（大七、一生）長女公子（同九、七生）二女慶子（同一二、二生）三女昭子（昭三、八生）三男義夫（同五、八生）あり（東京市外中野町本町通六丁目電四谷三八二二中野四五二二）

**寺島成信**　勳六等、經濟學博士、兩國金庫(株)監事、帝國海事協會監事、東京帝國大學經濟學部、早稻田大學商學部各講師、山形縣士族

妻　貞　明一三、一一生、山形、士、駒林廣運長女

男　成一　明三二、七生、正八位、豫備陸軍三等主計、慶大經濟學部出身、三菱銀行員

婦　房子　明三七、二生、長男成一妻、岐阜、立川宇藏長女

男　成雄　明三五、七生、明大商科出身、三井生命保險會社員

君は舊鶴岡藩士寺島成則の三男にして明治二年七月を以て生れ同十六年家督を相續す同二十二年慶應義塾を卒業し海軍々令部に入り後日本郵船會社に轉じ永く同社の幹部に列し後辭して顧問となり現時前記の職に在り歐洲大戰後講和會議に參列せる近藤男爵に隨ひ世界を一週し帝國海運政策及び海事に關する著作多し曩に經濟學博士の學位を受け日獨事件の功に依り勳六等を授けらる家族は尙孫成幸（昭四、七生、長男成一長男）あり長女富士（明三〇、一二生、三輪田高女出身）は東京府士族農學博士東京帝國大學助教授田中丑雄に二女澄（同三三、一〇生、出身校同上）は高知縣人横濱正金銀行神戶支店長西山勉に三女文（同三七、五生、跡見女學校出身）は東京府人住友銀行員首藤聞語に嫁せりA一一九（東京市外蒲田町女塚一二一一電蒲田三六一）

參照＝西山勉の項

**寺島敏三**　從四位勳三等功五級、男爵、陸軍騎兵大尉、貴族院議員、山口縣華族

繼母　ウメ　安政二、一〇生、佐々木シゲ長女

妻　トシ　明一九、一一生、男爵益田兼施姉

男　直太郎　大五、二生

當家は先代秋介より家名を揚ぐ秋介は舊山口藩士にして維新の際國事に奔走して功あり明治三年少參事となり後陸軍內務兩省に奉職し十年の後には陸軍中佐兼內務書記官山口縣令心得を以て之が鎭定に從事し爾來長野縣令元老院議官貴族院議員等に歷任し同二十九年華族に列し男爵を授けらる君實は男爵有地藤三郎の弟にして明治十二年十二月を以て生れ同四十四年先代の死跡を相續し襲爵仰付けらる同三十六年陸軍士官學校を卒業し陸軍騎兵少尉に任じ累進して大正元年同大尉に陞り同三年豫備役に編入せらる日獨戰役の功に成り功五級を賜ふ同七年貴族院議員に互選せられ現に其任に在り公正會に屬す家族は尙二男忠三郎（大七、三生）長女和子（同九、二生）二女政子（同一五、一生）あり（東京、牛込、市谷臺町九三有地男爵邸電四谷三〇〇一）

參照＝男爵有地藤三郎、男爵梨羽時介、男爵益田兼施※潮惠之輔の項

**寺島久松**　從三位勳二等、退職檢事、山形縣在籍

妻　くま　明八、一一生、山形、內谷安右衞門二女

男　毅　明三三、二生

婦　成子　明四二、一二生、三男毅妻、岐阜、藍川淸成庶子

男　登　明三九、一一生

男　勳　明四二、一一生

君は山形縣人酒井兵彌の弟にして明治元年四月を以て生れ寺島義卿の養子となり同三十一年分れて一家を創立す同二十三年明治法律學校を卒業し文官高等試驗に合格同二十五年檢事に任じ爾來仙臺區同地方名古屋地方靜岡地方大阪地方各裁判所檢事鳥取大分安濃津各地方裁判所檢事正大阪控訴院檢事金澤岡山福岡各地方裁判所檢事正に歷補し昭和四年札幌控訴院檢事長となり同六年退官す家族は尙三女紀子（大七、二生）孫昭午（昭五、二生、三男毅長男）あり長女みち（明三〇、三生）は石川縣人黑瀨善治に二女正子（大二、九生）は北海道人室谷成一に嫁し四男浩（明三五、一二生）は山形縣人酒井爲助の養子となれり（札幌、南二條西十四丁目）

參照＝藍川淸成の項

**寺島廣文**　從五位勳五等、領事兼臺灣總督府事務官、厦門在勤、東京府在籍

母　つな　明五、五生、福井、士、佐々木千尋二女
妻　時　明三〇、八生、東京、松岡萬次郎長女
男　廣興　大八、一二生

君は東京府人寺島小五郎の長男にして明治二十五年四月を以て生れ昭和五年家督を相續す大正四年文官高等試驗に合格同五年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し同八年外務事務官に任じ臨時調査部勤務となり爾來兼外務省事務官條約局第一課勤務外務省事務官條約局第一課勤務專任大使館三等書記官同二等書記官佛國在勤等に歷任し同十四年領事に任じ西貢在勤を經て厦門在勤となり昭和四年臺灣總督府事務官兼任を命ぜられ今日に至る家族は尙長女富美（大一〇、一生）二女美都（同一四、三生）弟辰彥（明三七、九生）同環（同三九、一二生）同功（同四二、一生）同八郎（同四四、一生）妹九子（大二、一二生）弟十郎（同五、一生）あり（在厦門領事館內）

**寺島宗從**　從五位、伯爵　東京府華族

當家は先々代宗則より顯る宗則は舊鹿兒島藩士にして權大納言藤原宗俊の後裔同藩醫松木宗保の養嗣子となり後維新に際し姓を寺島と改む夙に蘭法醫學を修め英國に留學し明治元年參與職外國事務掛となり爾來神奈川縣知事兼外國官判事外務大輔駐英大辨務使外務卿文部卿法制局長元老院議長駐米特命全權公使宮中顧問官樞密院議長等に歷任し明治十七年華族に列し伯爵を授けらる先代誠一郎其後を享く誠一郎は先々代宗則の長男にして明治二十八年米國ペンシルヴアニア大學政治經濟科を同三十二年佛國巴里法科大學を更に同三十五年巴里政治學院外交科を卒業し英佛白獨墺土希埃の諸國を漫遊し同三十七年歸朝外務省取調を囑託せられ同年故伏見宮貞愛親王御渡米に付隨行仰付けらる翌三十八年外務大臣祕書官に任じ日露事件の功に依り勳六等に大正三四年事件の功に依り勳三等に敍す晚年實業界に入り臺灣拓殖製茶會社取締役會長三井信託會社監查役等に就任し又貴族院議員に互選せらる君は先代誠一郎の長男にして松木宗愛の甥なり明治四十三年十月を以て生れ昭和四年家督を相續し襲爵す學習院中等科に學び大正十五年米國に航しコロンビア大學に學ぶ家族は尙妹恭子（明四四、一〇生）あり姉恭子（同三九、五生、女子學習院出身）は東京府人安田岩次郎に伯母多惠子（慶應三、五生）は宮中顧問官長崎省吾に嫁せり（東京、麴町、平河町六ノ七電九段三四）
參照＝長崎省吾、松木宗愛、安田岩次郎の項

**寺田市正**　衆議院議員（鹿兒島縣選出）　鹿兒島縣士族

妻　サタ　明一九、一生、鹿兒島、士、永田清明長女
女　ミチ　明四三、九生

君は鹿兒島縣士族寺田宗七の長男にして明治九年四月を以て生れ同三十八年家督を相續す同三十三年明治大學法科を卒業し曩に時事新報記者自由通信社主幹となる大正十三年以來衆議院議員に當選する事四回立憲政友會所屬たり（東京、赤坂、丹後町五電青山三七一一）

**寺田喜平治**　山梨縣多額納稅者、有信銀行、山梨貯蓄銀行各㈱取締役、肥料商　山梨縣在籍

妻　やす　明九、一二生、山梨、平原傳八長女
養子　七男　明二八、六生、長女とし夫、山梨三神敬長弟
女　とし　明三三、一二生、養子七男妻
女　繁　明四〇、一生
女　喜　明四二、一生
女　淳　明四四、九生

君は山梨縣人先代喜平治の長男にして明治三年三月を以て生れ同十四年家督を相續し襲名す肥料商を營み傍ら前記各銀行の重役にして直接國稅二千百五十圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙孫信男（大一二、三生、養子七男長男）同仁（同一三、九生、同長女）同智（同一五、三生、同二女）同禮之（昭二、八生、同二男）同義（同四、六生、同三女）あり弟誠三郎（明七、九生）同妻かう（同一二、一生、山梨、寺田鬼三郎二女）は共に弟喜作（同九、八生）同敬造（同一一、九生）妹とう（同五、三生）は各分家し叔父忠三郎（嘉永元、一生）も亦其妻子を伴ひ分家し叔母ため（明一三、九生）は山梨縣人平原傳八に嫁せり（甲府、和田平町）
參照＝※平原重吉の項

**寺田啓二**　赤穗鐵道㈱專務取締役　兵庫縣在籍

母　しけ　嘉永五、四生、兵庫、片岡治右衞門長女
妻　まさの　明二二、五生、兵庫、山崎藤次郎二女
男　吉郎　大九、二生
女　みち子　大四、六生

君は兵庫縣人寺田吉三郎の二男にして明治十六年三月を以て生れ大正六年家督を相續す現時赤穗鐵道會社專務取締役赤穗西濱鹽業組合副組合長にして曩に煙草元賣捌人那波銀行アサシチ飲料會社の重役たりし事あり家族は尙三男鐵三（大一一、七生）四男乙彥（同一三、一一生）二女のり子（昭三、二生）あり弟滿郎（明二四、三生、農學士、日清製粉會社員）は其妻文世（同三二、一二生、兵庫、枝光寅太郎長女）を伴ひ分家せりA一三五三B七〇（兵庫、赤穗、鹽屋村）

**寺田五三郎**　石川縣多額納稅者、酒造業　石川縣在籍

妻　しよん　明一五、一生、石川、嵜崎與三郎二女
男　誠伍　明三三、一生
婦　喜代　明三九、一二生、長男誠伍妻、石川、小堀甚九郎二女

君は石川縣人寺田小三郎の二男にして明治十二年十二月を以て生れ同二十三年家督を相續す酒造業を營み直接國稅二千五百九十九圓を納め石川縣多額納稅者たり家族は尙孫國子（大一三、五生、長男誠伍長女）同誠治（昭二、九生、同長男）同喜代（同五、八生、同二女）あり長女初枝（明三八、三生）は石川縣人坂本三郎四郎二男保信の未亡人にして姉美壽（同一〇、八生）は同縣人福島與三松に妹なを（同一五、一生）は同縣人乙村源次郎に嫁し弟榮一（同一七、七生）は同縣人中村榮助の養子となり叔父信孝（文久三、四生）は同縣人藤村みなの入夫となれり（石川、石川、額村）
參照＝坂本三郎四郎の項

**寺田四郎**　藤田組㈴理事　東京府在籍

妻　初代　明二六、一二生、東京、高野重三長女

君は福島縣士族寺田廣八の四男にして明治十九年二月を以て生れ大正二年兄三郎方より分れて一家を創立す現時藤田組理事たり家族は尙長女瑞子（大一四、八生）ありA一五一〇（兵庫、武庫、精道村蘆屋大僧一六一八）
參照＝※宮部金吾の項





**寺田淳平**　鬼足袋工業㈱取締役會長、大日本コール天紡織㈱社長、遠州織機㈱監查役、寺田㈴代表社員　東京府在籍

母　すゑ　明七、三生、靜岡、松下喜太郎妹
寺田㈴出資社員

君は東京府人先代淳平の長男にして明治二十五年六月を以て生れ大正三年家督を相續し後前名壯一を改む先代淳平はコール天鬼足袋の製造販賣を創め今日の礎をなす君夙に慶應義塾理財科に學び遺業を繼ぎ現に前記各會社の重役たり家族は尙長女桂子（大九、三生）弟春雄（明三二、三生、早大專門部出身）妹愛子（同三五、一生、東京府立第三高女出身）同夫英治（同三三、一二生、靜岡、鈴木寅吉二男）及其二子弟勳（同四〇、七生）妹喜美子（同四二、六生、三輪田高女出身）あり同たゑ（同二六、一〇生、東京府立第一高女出身）は東京府人富永茂吉に同靜（同三七、三生、出身校同上）は北海道人高野剛に嫁せり（東京市外大森町七九三電大森六〇五）
參照＝富永茂吉、松下喜太郎の項

**寺田正次郎**　正五位勳四等、判事、奈良區裁判所監督判事兼奈良地方裁判所判事　三重縣在籍

妻　きよ　明一九、一二生、三重、野口始郎姉
男　正道　明四五、七生、第八高校在學
女　ふく　明四二、二生

君は三重縣人小田新七郎の二男にして明治十年十一月を以て生れ先代榮三郎の養子となり同二十年家督を相續す同三十四年日本法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同三十五年明治法律學校を卒業同三十六年判事に任じ爾來安濃津地方兼同區山田區名古屋地方福井地方岡崎區金澤地方名古屋地方豐橋區京都地方奈良區各裁判所判事に歷補し大正十五年現職奈良區裁判所判事兼同地方裁判所判事に轉じ同裁判所監督判事を命ぜる昭和五年八月勅任官を以て待遇せらる家族は尙二男治郎（大四、一一生）三男克己（同九、六生）三女しげ（同一五、一生）あり（奈良市內侍原町電一二〇七）

**寺田甚吉**　和泉銀行、和泉貯蓄銀行、岸和田紡績各㈱取締役、寺田㈴出資社員　大阪府在籍

父　甚與茂　嘉永六、一〇生、現戸主
妻　富江　明三四、四生、大阪、松山與兵衞四女、大阪府立清水谷高女出身
男　楠彥　大一三、五生

君は大阪府人寺田甚與茂の長男にして明治二十九年十二月を以て生る寺田清藏同利吉同元之助の從弟なり大正九年慶應義塾大學理財科を卒業し岸和田紡績會社に入り現時同社取締役の外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男吉彥（大一四、七生）あり長唄園藝野球等に趣味あり（岸和田、南町七三電九六三）
參照＝寺田甚與茂、寺田清藏、寺田元之助、寺田利吉、松山與兵衞※竹原友三郎※武內倚一の項

**寺田甚與茂**　和泉銀行、和泉貯蓄銀行各㈱頭取、岸和田紡績、岸和田煉瓦綿業各㈱社長、五十一銀行、南海鐵道、大同電力、高野山電氣鐵道、共同信託各㈱取締役、寺田㈴代表社員、寺田滿美館、寺田萬壽病院各財團法人理事長、糸羽織物、東洋麻糸紡織、關西製綱各㈱相談役　大阪府在籍

男　甚吉　明二九、一二生

君は大阪府人寺田甚右衞門の長男にして同元之助同利吉同清藏の伯父なり嘉永六年十月を以て生れ明治元年家督を相續す當家は岸和田に土着して代々酒造業を營み君亦幼より家業に從事せしが後紡績業に轉じ漸次發展して現時岸和田紡績會社長の外前記銀行會社の重役として知らる長女千代（明二三、四生）同夫見龍（同一九、八生、大阪、大植柳哉二男）四男榮吉（同三五、三生）同妻トシ子（同四二、一〇生、兵庫、百崎辰雄妹）五男甚七（同三七、七生）は各分家し二女秀（同二七、四生、岸和田高女出身）は大阪府人竹原友三郎に嫁し三男吉之助（同三四、三生）同妻郁子（同四〇年生、大阪、長谷川桂山女）は分家妹谷の死跡を相續せり（岸和田、南町七三電九六三）
參照＝竹原友三郎、寺田甚吉、寺田清藏、寺田元之助、寺田利吉の項

**寺田省歸**　北海林產、江差電氣各㈱社長、小樽造船、旭川電氣軌道各㈱代表取締役、小樽醬油、小樽運送、北海起業各㈱取締役、樺太電氣、北海道拓殖各㈱監查役　茨城縣在籍

妻　左葉子　明二、一生、東京、牧格次郎長女
男　省一　明三三、三生、法學士、正七位、農林事務官
婦　幾久子　明四〇、七生、長男省一妻、愛媛松本幹一郎長女、三輪田高女出身
男　省二　明三六、七生、工學士
男　省三　明三八、三生

君は茨城縣人寺田伊兵衞の二男にして安政四年四月を以て生れ明治二十六年家督を相續す夙に千葉縣師範學校を卒業し縣下各小學校長を勤め後ち京都府高等女學校敎諭に轉ず明治二十五年北海道に移り榎本子爵北垣男爵兩家の土地管理者となり小樽市區改正事業に盡瘁す以來同市區會議員に擧げられ久しく議長席に在り大正六年推されて衆議院議員に當選す現時北海林產會社長たる外前揭諸會社の重役を兼ぬ又曩に小樽商業會議所特別議員に推擧せらる夫人左葉子は東京女子高等師範學校第一次の卒業生にして永く高等女學校の敎諭として育英の事業に瘁す所多年曩に奏任官を以て遇せらる家族は尙孫元一（昭四、二生、長男省一長男）あり長女さわ（明一五、七生）は實業家河野富重に嫁し養子淑子（同二六、一生）は北海道人荒木勇五郎に嫁せり（小樽、富岡町二ノ三〇）
參照＝松本幹一郎※秋山褒の項

**寺田清四郎**　樂器運道具商　大阪府在籍

養母　コリウ　明元、五生、和歌山、魚澤由兵衞長女
妻　ハツ　明一九、二生、養父清四郎長女
男　清　明四四、四生
養子　末次郎　明二六、一〇生、長女久子夫、大阪、赤井清藏弟
女　久子　明三六、九生、養子末次郎妻

君は兵庫縣人玉田政吉の三男にして明治十四年六月を以て生れ先代清四郎の養子となり大正十二年家督を相續し前名芳吉を改め襲名す樂器運動具商を營む家族は尙三男芳太郎（大一一、一一生）孫健太郎（昭二、四生、養子末次郎長男）あり二女芳子（明四〇、七生）同夫清彥（同三七、二生、岡山、石井剛太郎三男）は其二子と共に分家せり（大阪、西、新町通二ノ五五電新町一四三）

**寺田清藏**　寺田紡績工廠㈱取締役　大阪府在籍

妻　茂子　明二八、一一生、和歌山、平松茂治姪
男　甚太郎　大三、八生

君は大阪府人寺田德三郎の長男にして同甚與茂の甥同元之助同利吉の從弟同甚吉の從兄なり明治二十三年一月を以て生れ昭和二年家督を相續す現時寺田紡績工廠取締役たり家族は倘二男重治(大六、三生)長女セイ(同八、一生)二女モト(同一一、四生)三男明三郎(昭三、七生)あり父德三郎(安政三、九生)は分家し姉ミツ(明二一、二生)は大阪府人寺田利吉に妹ユキ(同二八、二生)は同府人北村源助弟源次郎に嫁せり(大阪、跡南、貝塚町貝塚)
參照＝北村源助、寺田甚吉、寺田甚與茂、寺田元之助、寺田利吉の項

## 寺田惣右衞門
丹後商工銀行㈱頭取　京都府在籍

妻　とも　明四、八生、京都、寺田淸次郎長女
男　貞一　明二四、一〇生、東京高商出身
婦　節　明三七、二生、長男貞一妻、兵庫、中島滋麿妹
男　立雄　明二六、一二生、神戸高商出身
婦　雪　明三九、一生、二男立雄妻、岡山、河合寛妹
男　卓爾　明三六、七生、京都高等工藝學校出身

君は京都府人岩田藤太郎の弟にして文久元年十一月を以て生れ先代彥八郎の養子となり明治二十四年家督を相續し前名駒次郎を改む同二十年法政大學を卒業し實業界に入り現時丹後商工銀行頭取たり家族は倘孫靜生(昭三、九生、長男貞一長男)同美惠(同四、八生、二男立雄長女)あり三女喜美(明三一、六生)は京都府人吉川松五郎に四女菊枝(同三三、一二生)は鳥取縣人奥田操長男松太郎に嫁せり(京都、中、峰山町)
參照＝奥田操の項

## 寺田辰三
有馬温泉土地㈱代表取締役、尼崎化學工業所㈱取締役、青森縣在籍

妻　なり　明二、一生、青森、士、齋藤糸德姉
男　芳夫　明三二、一〇生、法學士
婦　子幸　明三八、九生、三男芳夫妻、大阪川田懲三女

君は青森縣士族寺田太次郎の二男にして明治元年六月を以て生れ同十九年兄次郎方より分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は倘孫辰夫(昭二、九生、三男芳夫長男)あり長女さく江(明二二、六生)は青森縣人今亮一長男道行に二女かをる(同二七、二生)は岩手縣人金子修一郎に嫁せり(尼崎、西松島町二電三一九)

## 寺田千代松
茨城縣是製絲㈱常務取締役　茨城縣在籍

男　泰三　明三七、五生
女　さわ　明四〇、九生

君は茨城縣人寺田藤作の長男にしに明治四年十二月を以て生れ同二十九年家督を相續す現時茨城縣是製絲會社常務取締役たり長女さい(明二五、九生)同夫弘三(同一九、八生、茨城、木村源太郎三男)は其子女を伴ひ弟鴫(同一一、四生)同妻さく(同一四、九生、茨城、高島常治長女)は其子女を伴ひ各分家し二女たけ(同二七、一一生)は茨城縣人塚崎章に妹しん(同一七、一〇生)は同縣人小野村佐市長男三之助に嫁し甥良平(同四五、一生、弟勝三男)は同縣人山崎サトの養子となれり(茨城、北相馬、六郷村)
參照＝※木村榮三郎の項

## 寺田帍次郎
大連商工會議所議員、三菱商事㈱大連支店長、新潟縣在籍

父　善次郎　慶應二、一〇生、新潟、池野忠吉二男、現戶主
母　マチ　明四、四生
妻　シヅ　明二八、一一生、新潟、南助吉五女
男　純一　大六、七生

君は新潟縣人寺田善次郎の長男にして明治二十三年一月を以て生る明治四十四年東京高等商業學校を卒業し直に三菱商事會社に入り現時同社大連支店長にして推されて大連商工會議所議員たり家族は倘二男憲二(大九、三生)長女愛子(同一二、三生)二女弘子(同一四、八生)三女千枝子(昭三、三生)妹サチ(大二、二生)あり弟正三郎(明三三、一生)は新潟縣人見方勘三郎の養子となり妹フミ(同四〇、四生)は同縣人木村耐七に嫁せり(大連、昌光硝子株式會社內)

## 寺田寅彥
正四位勳三等、理學博士、帝國學士院會員、學術研究會議會員、東京帝國大學教授、地震研究所員、航空研究所員、理化學研究所研究員、高知縣士族

妻　紳　明一九、五生、東京、酒井清兵衞二女
男　東一　明四〇、一生
男　正二　明四二、二生
女　彌生　明四五、五生
女　雪子　大四、二生

君は高知縣士族寺田利正の長男にして明治十一年十一月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十六年東京帝國大學理科大學實驗物理學科を卒業し同四十一年宇宙物理學研究の爲獨英兩國に留學し同年理學博士の學位を受け翌年東京帝國大學助教授に任じ大正五年同教授に進み現時地震研究所及航空研究所に勤務し理化學研究所主任研究員にして帝國學士院會員學術研究會議會員被仰付文學を嗜み吉村冬彥と號し著書あり長女貞子(明三四、五生)は愛知縣人森傳通に嫁せり(東京、本郷、駒込曙町二四電小石川三〇九七)

## 寺田半次郎
長崎縣多額納稅者、醬油釀造業　長崎縣在籍

妻　ヒロ　安政五、一一生、長崎、松尾修三長女
男　義一　明二二、四生
婦　タツヤ　明二四、一一生、二男義一妻、長崎、白須安男妹
女　ノブ　明一二、六生
養子　岩三郎　明二二、六生、三女ヨネ夫、長崎、山崎甚吉弟
女　ヨネ　明一七、六生、養子岩三郎妻
孫　シヅカ　明四四、七生、養子岩三郎長女
孫　三代　明四五、四生、二男義一長女

君は長崎縣人寺田三治の長男にして嘉永六年二月を以て生れ明治十一年家督を相續す醬油釀造業を營み直接國稅一萬四千二百七十八圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は倘孫半兵衞(大三、六生、養子岩三郎長男)同喜久雄(同五、九生、同二男)同弘正(同一二、四生、同三男)同三次(同五、二生、二男義一長男)同義孝(同八、一一生、同二男)同きみ子(同一五、一〇生、同三女)あり長女タネ(明九、七生)は長崎縣人山崎岩男長男甚吉に五女イネ(同二八、一生)は同縣人寺田定治に嫁し六女ミネ(同三一、七生)は同縣人松尾文太郎の養子となれり(長崎、南高來、多比良村)

## 寺田松三郎
貝塚紡織、關西製綱各㈱取締役　大阪府在籍







妻　利子　明三三、八生、大阪、寺田久治郎妹
男　正一郎　大元、一〇生
女　恒子　明四四、五生
女　キミ子　大四、三生

君は大阪府人義本一の弟にして明治十七年二月を以て生れ寺田ノブの養子となり大正四年養弟甚三郎方より分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は倘二男盛二郎(大六、四生)四男愼藏(同九、一〇生)五男敏一(同一五、八生)六男利治(昭三、八生)あり(大阪、泉南、貝塚町)
參照＝※義本新一の項

## 寺田元之助
關西製綱、東洋硫[illegible]績各㈱社長、佐野紡績㈱副社長、奈良電氣鐵道、大阪モータース各㈱取締役、城南土地、豐國自動車各㈱監査役　大阪府在籍

母　百合　安政四、八生、大阪、林半十郎長女
妻　玉江　明二一、一一生、大阪、山本東作姉
男　元三郎　明四三、八生
女　まさ　大二、二生

君は大阪府人寺田元吉の長男にして同甚與茂の甥同甚吉同淸藏同利吉の從兄なり明治十四年六月を以て生れ昭和六年家督を相續す同三十三年大阪高等商業學校を卒業し實業界に入り現時關西製綱會社長の外前記各會社の重役たり家族は倘二男吉藏(大七、七生)あり長女かつ(明三九、九生)は京都府人八木芳信に姉ヒサ(同一七、二生)は大阪府人平松忠太郎に嫁し四女喜久(大四、一〇生)は大阪府人寺田かつの隱居跡を相續し弟兵藏(明二一、一一生)同妻モト(同二〇、九生、大阪、多賀新三郎三女)弟正藏(同二四、二生)同妻ヒサ(同二七、一一生、大阪、久間作藏二女)弟榮一(同二九、一〇生)同妻テイ(同三二、六生、大阪、湊佐治平長女)亡弟新吉妻カツ(同二八、一生、大阪、淺野久次郎妹)弟三二(同三二、八生)同妻花子(同三五、一一生、大阪、丹治良一妹)は各分家せり(岸和田、北町一二四)
參照＝寺田甚吉、寺田甚與茂、寺田淸藏、寺田利吉、山本東作※武田二郎※辻本豐三郎※柳原三郎※藪田勘兵衞の項

## 寺田勇一
從五位勳六等、鐵道技師兼遞信技師、鐵道省工務局建築課長　東京府在籍

母　ツネ　慶應元、一〇生、東京、篠本信也三女
妻　美喜子　明二九、一〇生、東京、長瀨鱗太郎姪
男　勇夫　大七、二生
女　信　大五、二生

君は東京府人寺田勇吉の長男にして明治十九年九月を以て生れ大正十年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學工科大學建築學科を卒業し三菱合資會社に入り大正六年鐵道院技手に任じ同技師を經て同九年鐵道技師に任じ米國に留學し現時工務局建築課長にして遞信技師を兼ぬ家族は倘二女英(大一一、二生)あり姉吉(明一八、一生)は大分縣人田島勝太郎に嫁せり(東京市外長崎町荒井一八六二電大塚一二八)
參照＝田島勝太郎の項

## 寺田義光
寺田商事㈴代表社員　東京府在籍

母　かよ　慶應元、一一生、中田仁平三女
妻　らく　明三三、三生、靜岡、鈴木六郎二女
男　益雄　大八、一〇生

君は東京府人寺田源太郎の長男にして明治二十八年五月を以て生れ昭和三年家督を相續す現時寺田商事合名會社代表社員たり家族は倘長女文子(大一二、一一生)二男良雄(昭二、一二生)二女靜江(昭四、一二生)弟正男(明三八、九生)あり姉うゐ(同二六、一生)は同夫正(同二五、一〇生、靜岡、大原太三郎三男)と共に其三子を伴ひ分家せりA二六〇〇(東京、下谷、上野櫻木町二七電下谷二一九七)

## 寺田利吉
大阪紡織㈱社長、寺田銀行、寺田紡績工廠各㈱取締役、大阪府在籍

妻　ミツ　明二一、二生、大阪、寺田淸藏姉
男　利一　明四二、一二生
女　カネ　大五、一〇生

君は大阪府人先代利吉の長男にして同甚與茂の甥同元之助の從弟同甚吉同淸藏の從兄なり明治十七年六月を以て生れ大正七年家督を相續し前名信藏を改め襲名す現時大阪紡織會社長にして前記銀行會社の重役を兼ぬ家族は倘三女つね(大七、三生)四男福三(同一一、二生)あり妹エイ(明二〇、一生)同夫慶太郎(同一四、四生、大阪、和田多四郎弟)は其一子を伴ひ妹ヒロ(同二四、五生)は同夫耕三(同二二、一二生、大阪、久間作藏三男)は其二子を伴ひ各分家せり(岸和田、堺町八八)
參照＝寺田甚與茂、寺田淸藏、寺田元之助、寺田利吉※北村源助の項

## 寺塚岩次郎
東京株式取引所取引員　東京府在籍

妻　道衞　明二二、七生、高知、岡坂實馬姉
男　良雄　大一五、三生

君は東京府人寺塚寅次郎の二男にして明治二十五年十二月を以て生れ大正十二年叔父嘉一郎の家督を相續す東京株式取引所一般短期實物取引員たり家族は倘姉よし(明二二、七生)甥寅雄(大二、一生、寺塚嘉藏長男)ありA四六七六B九九九(東京、日本橋、江戶橋町一ノ一五電日本橋三二七一)

## 寺西圓治郎
京阪ビルヂング、國東鐵道各㈱取締役、地主、大阪府在籍

妻　春枝　明一三、一〇生、大阪、埜倉勝太郎妹
男　幸雄　明四〇、三生
女　貞子　明三四、一〇生
女　壽賀子　明四四、一〇生
女　正子　大元、一一生

當家は大阪生江町土着の農家にして傍ら代々質商を營み庄屋を勤めたる家柄なり君は先代長七の長男にして明治七年十二月を以て生れ同三十一年家督を相續す夙に大阪學館に漢數學を學ぶ地主にして現時前記各會社の重役を兼ぬ嘗て推されて大阪府會議員たりし事あり(大阪、東成、生江町二四三電東三一〇六)

## 寺西治兵衞
廣島縣多額納稅者、尾道商工會議所議員、土屋酒造㈱取締役、西條酒造、尾道鐵道各㈱監査役、酒造業　廣島縣在籍

母　トモ　萬延元、一二生、廣島、坂本與吉長女
妻　キヨ　明二一、一生、廣島、石井孝三妹
男　治雄　大二、三生
女　保子　明四二、一〇生

君は廣島縣人先代治兵衞の長男にして明治十五年四月を以て生れ同三十九年家督を相續し前名逢造を改め襲名す酒造業を營み傍ら前記諸會社の重役にして尾道商工會議所議員に推され廣島縣多額納稅者に列し直接國

税二千八百四十三圓を納む家族は尙四女律子（大七、一〇生）弟淸正（明二五、五生）同妻たかよ（同三〇、四生、兵庫、三浦鶴雄長女）及其三子弟次三郎（同二七、一〇生）同妻仙（同三五、五生、大阪、村田庄兵衞四女）及其二子弟輝義（同三〇、八生）同妻定子（同三七、二生、廣島、小林榮治郎長女）及其一子弟陸雄（同三二、九生）同妻マサコ（同三九、三生、廣島、高橋三郎治三妻）及其一子伯父岩助（安政二、三生）あり長女久榮（明三七、七生）は岡山縣人淸水吉雄に二女常子（同四〇、三生）は新潟縣人三邊淸一郎に嫁し弟熊次郎（同一九、三生）は分家せり（尾道、土堂町一〇三）

## 寺西福吉

東洋リノリユーム㈱常務取締役　石川縣士族

妻　こすへ　明一六、一一生、兵庫、士、荒木幾太郎長女

男　致知　明三八、三生

男　成夫　明四二、五生

女　仲　明四四、八生

女　春　大二、二生

君は石川縣士族寺西幾久松の弟にして明治三年十二月を以て生る現時東洋リノリユーム會社常務取締役たり曩に由多賀織會社常務取締役たりし事あり家族は尙三男恭（大四、一生）四女米子（同八、四生）亡兄豐太郎妻相（文久二、一一生、石川、士、細井政久妹）兄幾久松（安政六、一一生、現戸主）同妻ひな（明四、一生、石川、森勘右衞門養子）と其長男精一（同二九、一一生）同妻みさほ（同三八、一二生、石川、巽榮次郎長女）及其子弟並妹行衞（同六、五生）あり長女もゝ（同四〇、三生）は大阪府人金子忠臣に姪いわ（同二[illegible]三生、兄幾久松長女）は新潟縣人井上福胤に同靜（同三六、七生同二女）は他家に嫁せり（兵庫、川邊、伊丹町）

參照＝井上福胤の項

## 寺野梅次郎

愛知縣多額納税者　愛知縣在籍

妻　ちよ　嘉永六、八生、愛知、湯淺兵助長女

孫　專藏　明三九、一二生、亡長男淸一郎長男

孫妻　かね子　明四一、七生、孫專藏妻、愛知、水野松太郎二女

君は愛知縣人寺野彌七の二男にして安政二年七月を以て生れ明治十年家督を相續す曾て名古屋米穀取引所取引員たりしも後煙草元賣捌業に轉じ現に愛知縣多額納税者に列す家族は尙孫敬治（大元、九生、同三女）曾孫一子（昭二六生、孫專藏長女）同鈴子（同四、一一生、同二女）あり孫靜（明三七、一二生、亡長男淸一郎長女）は愛知縣人服田政五郎長男俊一に同鈴子（同四二、三生、同二女）は同縣人楠久彥に嫁せり（名古屋、東、鍋屋町二ノ二電東一三九一）

## 寺野寬二

正四位勳三等、工學博士、九州帝國大學教授、工學部勤務　福岡縣在籍

妻　さよ　明二一、八生、男爵山川健次郎二女

男　溫良　明四四、六生

女　壽々子　明四三、五生

女　あい　明四五、七生

君は東京府人寺野元良の二男にして明治十三年九月を以て生れ同三十年兄工學博士精一方より分れて一家を創立す同三十五年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し更に大學院に入る同三十八年東京帝國大學工科大學助教授に任じ同四十二年辭任して明治專門學校より獨逸に留學を命ぜられ同校教授となり九州帝國大學講師を兼ぬ大正五年九州帝國大學工科大學教授に任ぜられ爾來其職に在り同六年工學博士の學位を授けらる家族は尙二男健良（大二、一二生）五女のぶ子（同六、五生）六女とし子（同八、九生）七女久子（同一〇、九生）あり長女千枝（明四〇、七生）は工學士新井洋吉に嫁し四女けい（同四五、七生）三男元英（大四、四生）は共に兄精一の養子となれり（福岡市藥院中庄一五二電二六七一）

參照＝男爵山川健次郎※男爵山川建※武內大造※山川洵の項

## 寺前景介

鹿兒島商弘銀行㈱常務取締役、鹿兒島貯蓄銀行㈱取締役　鹿兒島縣士族

妻　トク　明一六、九生、鹿兒島、別府新熊妹

男　景弘　大二、二生

君は鹿兒島縣士族寺前淺右衞門の養子にして明治十年六月を以て生れ同十二年家督を相續す現時前記各銀行の重役たり長女トミ（明三七、七生）は他に嫁せり（鹿兒島市樋之口町五三電七四一）

## 寺村庄三郎

治久銀行㈱取締役、寺庄商店、洋反物商、大阪府在籍

母　いし　明六、一生、大阪、松井利三郎二女

妻　れい　明三三、六生、京都、片岡久兵衞三女

男　庄二郎　大一一、三生

君は大阪府人先代庄三郎の長男にして明治二十八年一月を以て生れ昭和四年家督を相續す先代庄三郎は滋賀縣より大阪に出で吳服商伊藤萬商店に奉公し後獨立し寺庄商店と稱して洋反物商を開業し爾來經營大いに努めて家產を興し信貴生駒電鐵近江絹絲紡績各會社の重役たり君亦父業を繼ぎ洋反物卸商を營み傍ら治久銀行取締役たり家族は尙二男豐三郎（大一三、一生）長女由利子（同一四、一一生）三男榮三（昭二、五生）四男慶治郎（同三、一二生）二女泰子（同五、二生）妹節（明三五、九生、相愛高女出身）弟勝二郎（同三八、五生、同志社大學在學）妹富子（同四三、一一生、樟蔭高女出身）あり同文子（同四〇、八生、樟蔭高女出身）は大阪府人笹村竹造長男竹三に嫁し姊愛（同二六、一生、相愛高女出身）は分家して滋賀縣人島津政一兄文治郎を夫に迎へり（大阪、東、安土町四ノ三八電本局一八一四）

參照＝片岡久兵衞、笹村竹造※柴田知識の項

## 寺村富次

箱根登山鐵道㈱取締役、因幡水力電氣㈱監査役、日本電力㈱橫濱營業所長、大阪府在籍

妻　松江　明二二、八生、京都、劉成一妹、京都府立第一高女出身

男　榮一　明四四、二生

女　綾子　大二、七生

君は大阪府人寺村富榮の二男にして明治十八年七月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す同四十四年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し直ちに大阪電燈會社に入り同社監理課長製作所長を勤む大正十年退社後歐米各國の電氣事業を視察し翌年歸朝し日本電力會社に聘せられ營業部次長となり現に同社橫濱營業所長にして前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙二女通子（大九、六生）あり（東京市外目黑町中目黑九四六電高輪二九七二）

參照＝劉成一の項



## 寺山研太郎

岡山縣多額納稅者、中備銀行㈱頭取、岡山縣在籍

母　鹿　慶應元、五生、岡山、山本熊太郎妹

妻　廣瀨野　明二三、一一生、岡山、大村吉太郎長女

男　祐郎　大八、二生

女　泰子　明四四、七生

女　克子　大五、一〇生

君は岡山縣人先代研太郎の長男にして明治十六年十二月を以て生れ大正十四年家督相續と共に前名字一郎を改め襲名す現時中備銀行頭取に擧げられ直接國稅一千八百九十一圓を納め縣下の多額納稅者たり妹登久（明一九、一二生）は岡山縣人田中與太郎養子丈雄に嫁せり（岡山、都窪、早島町）

## 照井愛助

岩手輕便鐵道、岩手無盡各㈱取締役、岩手縣在籍

妻　スナ　明一四、一二生、岩手、大信田友治妹

男　貞一　明二四、二生

婦　マシ　明二七、一二生、長男貞一妻、岩手、海老留吉長女

女　ツカ　大三、一〇生

孫　ミワ　大三、一一生、長男貞一長女

君は岩手縣人照井宇右衞門の長男にして慶應元年五月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時岩手輕便鐵道會社取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙五女ヤミ（大九、五生）孫イク（同一一、九生、長男貞一二女）同フミ（同一四、八生、同三女）同恒太（昭五、七生、同四男）弟五郎（明一五、一〇生）あり長女ノア（明二一四生）同夫良藏（同二〇、一一生、岩手、伊藤門內三男）は其三男二女を伴ひ分家し弟保吉（同八、一二生）は岩手縣人菊池吉之丞の養子となり二男俊司（同二七、三生）は其養子となり弟七郎（同二〇、二生）は同縣人荻野熊八の養子となり三女ナチ（同四一、六生）は同縣人道又勇助長男勇太郎に嫁せり（岩手、上閉井、宮守村）

參照＝道又勇助の項

## 照內豐

醫學博士、北里研究所部長、慶應義塾大學教授、醫師、東京府在籍

妻　ツル　明九、九生、福島、阿部定助二女

養子　淳也　大三、九生、福島、照內淳良二男

君は福島縣人照內良溫の長男にして明治六年二月を以て生れ後改名し大正三年家督を相續す明治三十三年東京帝國大學醫科大學を卒業し現に北里研究所部長にして慶應義塾大學教授たり脚氣病の研究者として知らる曩に醫學博士の學位を受く家族は尙養弟三郎（大五、一〇生、福島、菊田鶴次郎三男）あり長女アツ（明三五、五生）は宮城縣人淺野運三郎長男利吉に二女リヤウ（同三六、九生）は福島縣人二階堂逢彌に嫁し養弟大三郎（同三〇、一二生、福島、油井市次郎弟）は同縣人照內淳良の家籍に入れり（東京市外世田ケ谷町代田一一二一）

## 暲道文藝

正六位、法學博士、高砂煖房工事、高砂鐵工各㈱取締役會長、愛國生命保險㈱專務取締役、昭和火災保險、京濱興業、都ホテル各㈱取締役、祕露棉花、高砂企業、高砂工業、高砂護謨工業、甲子製紙、金子瓦斯各㈱監查役、石川縣在籍

男　一郎　大四、八生

女　民子　明四四、二生

君は石川縣人暲道大圓の長男にして明治十七年十二月を以て生れ大正七年家督を相續す現時前記各會社の重役にして曩に法學博士の學位を受け明治大學教授たり家族は尙三女貞子（大六、四生）四女治子（同九、二生）二男二郎（同一一、三生）三男外三郎（同一三、五生）弟潔（明三六、六生）同孜（同三三、七生）同妻美代（同三九、三生、大屋吉三郎四女）及其一子ありA四九三二（東京市外品川町北品川宿三四四電高輪三四〇九）

## 天明宗右衞門

白米商　東京府在籍

男　勝太郎　明一二、九生

婦　さと　明二〇、一一生、長男勝太郎妻、東京、秋山紋兵衞二女

孫　さだゑ　明四一、八生、長男勝太郎長女

孫　喜和　明四三、四生、長男勝太郎二女

君は東京府人先代宗右衞門の長男にして嘉永六年三月を以て生れ明治十九年家督相續と共に襲名す白米商を營む家族は尙孫三吉（大四、三生、長男勝太郎三男）同藤吉（同五、五生、同四男）同牛藏（同一〇、五生、同五男）同玄之輔（同一二、四生、同六男）あり二男莊五郎（明一九、一一生）は東京府人秋山紋兵衞の養子となり襲名し長女りん（同一六、四生）三男金之助（同二一、一二生）は各分家し二女やす（同二三、三生）は同府人岡田源治長男又市に三女ひも（同三〇、一二生）は同府人天明龜吉に嫁せり（東京市外東調布町鵜ノ木四三〇）

參照＝秋山紋兵衞の項

## 田昌

從四位勳二等、大藏政務次官、衆議院議員（兵庫縣選出）兵庫縣在籍

父　艇吉　嘉永五、九生、現戸主

妻　梅代　明一八、一〇生、故陸軍主計總監坂田巖三二女

男　浩　大元、一一生

君は兵庫縣人田艇吉の長男男爵田篤の從兄小谷晢園田寬の兄にして明治十一年六月を以て生る同三十七年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し爾來大藏書記官大藏省參事官海外駐劄財務官米國駐在大藏省主計局長等に歷任し大正十三年大藏次官となり昭和二年之を辭す衆議院議員に當選する事二回昭和六年第二次若槻內閣成立と共に大藏政務次官に就任す家族は尙二男進（大三、一〇生）三男淸（同五、二生）四男望（同一二、二生）あり（東京市外代々幡町代々木四七六電四谷五〇八〇）

參照＝男爵田篤、小谷晢、園田寬、田艇吉※生駒高常※大木彝雄※吉田平吾の項

## 田篤

正五位、男爵、東興實業㈱取締役、日本自動車、小谷商會各㈱監查役、兵庫縣華族

繼母　やす　明四、一〇生、鹿兒島、士、重野安居長女

妻　美枝　明二四、一一生、東京、奧田象三三女、東洋英和女學校出身

男　健一　大三、四生、學習院中等科在學

女　喜多子　明四四、三生、女子學習院出身

當家は先代健治郎より家名を揚ぐ健治郎は兵庫縣人田艇吉の弟にして明治九年愛知裁判所判事補となり爾來高知神奈川埼玉各縣警部長遞信書記官通信局長遞信次官（二回）遞信省總務長官等に歷任し其間萬國電信會議委員として洪國に赴き歐米を巡遊し又關西鐵道九州炭礦汽船各會社長に擧げられ衆議院議員に當選する事二回同三十九年貴族院議員に勅選せられ翌四十年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる爾來遞信大臣臺灣總督

農商務大臣兼司法大臣樞密顧問官等に歴任す君は其長男にして田艇吉の甥同昌小谷哲園田寛の從弟なり明治十七年九月を以て生れ昭和五年家督を相續し襲爵す明治四十二年早稻田大學商科を卒業し實業界に入り北海道拓殖銀行日本勸業銀行等に勤務し現時前記各會社の重役たり家族は尙二男襄二(大六、三生)三男敬三(同九、六生)二女佐喜子(同一二、八生)三女喜代子(同一四、一〇生)弟誠(明二四、三生)妹季子(同四一、一一生、學習院女學部出身)あり同輝子(同二七、七生、出身校同上)は男爵安場保健に同雅子(同三六、八生、女子學習院出身)は陸軍大將町田經宇長男襄治に嫁し同芳子(同二六、七生、學習院女學部出身)は千葉縣人武田額三の未亡人たり(東京市外澁谷町永住三八電青山一八)

參照＝男爵安場保健、小谷哲、園田寛、田昌、田艇吉、田誠、町田經宇※生駒高常※大木彝雄※小島誠※鹽原又策※吉田平吾の項

## 田 艇 吉

正八位勳五等、柏原合同銀行(株)取締役會長、兵庫縣在籍

男 昌 明一一、六生

當家は田村將軍より出づ後田氏を稱ふ天正の頃田忠助織田信包の廳下として丹波國柏原に移る忠助より十代の後を田文平季胤といふ君其長男にして男爵田篤同誠の伯父に當り嘉永五年九月を以て生れ明治十年家督を相續す夙に鴻儒小島省齋に學ぶ現時柏原合同銀行取締役會長にして曩に兵庫縣會議員氷上郡長衆議院議員住友總本店支配人阪鶴鐵道會社長帝國電燈其他數會社の重役を勤む二男哲(明一四、二生、法學士)は兵庫縣人小谷保太郎の養子となり三男寛(同一六、八生、正五位、法學士、朝鮮總督府平安南道知事)は同縣人園田稔の死跡を相續し長女こしづ(同八、八生)は同縣人西村淳藏に二女さだ(同一九、九生)は共同信託株式會社常務取締役吉田平吾に三女修子(同二四、九生)は宮內事務官大木彝雄に四女和子(同二八、四生)は兵庫縣人生駒八十彌長男拓務省管理局長高常に妹しん(安政五、一生)は同縣人太田太右衛門に嫁し亡弟健治郎(安政二、二生)は其妻子と共に分家し男爵を授けられ長男篤當主たり(兵庫、氷上、柏原町下小倉電柏一一六)

參照＝男爵田篤、生駒高常、大木彝雄、小谷哲、園田寛、田昌、田誠、吉田平吾※男爵安場保健の項

## 田 誠

從五位勳六等、鐵道省運輸局國際課長、兵庫縣華族

妻 榮子 明三三、一二生、東京、本尾敬三郎五女、學習院女學部出身

男 敏夫 大一〇、一一生

君は故男爵田健治郎の二男にして男爵田篤の弟田艇吉の甥園田寛の從弟なり明治二十四年三月を以て生る夙に第一高等學校を經て東京帝國大學法科大學法律學科に入り大正四年文官高等試驗に合格し同五年卒業す直に鐵道院書記に任じ爾來鐵道院副參事鐵道局副參事鐵道局參事に進み仙臺大阪各鐵道局庶務課長を勤む昭和四年鐵道書記官に任じ運輸局國際課長に補せらる先是大正十二年より滿二箇年間在外研究員として歐米諸國に出張す家族は尙長女美智子(大九、一生)二男英夫(同一二、六生)あり(東京、赤坂、青山南町六ノ一四七電青山四七〇四)

參照＝男爵田篤、田艇吉、園田寛※子爵渡邊千冬※男爵安場保健※男爵松尾義夫※林季彥※町田經宇※安田善五郎の項



# ト之部

## 十時 允

柳河銀行(株)取締役 福岡縣士族

母 象 嘉永六、一〇生、福岡、士、十時新右衛門長女

妻 マチ 明八、四生、福岡、士、小野隆樹妹

男 強次郎 明三四、三生

女 アツ 明三一、一〇生

女 坤 明三八、五生

男 崇三郎 明四〇、六生

君は福岡縣士族十時一郎の長男にして同實同彌の兄なり明治四年十二月を以て生れ同三十七年家督を相續す曩に松岡紡績會社重役に擧げられ現時柳河銀行取締役たり姉ヨシ(明二、一二生)は福岡縣士族小野正秋に妹瀧(同一八、一一生)は同縣士族石川登喜治に嫁せり(福岡、山門、城內村)

參照＝石川登喜治、小野隆樹、十時實、十時彌の項

## 十時 實

正五位勳五等、德島高等工業學校教授、福岡縣士族

妻 初香 明二七、一生、福岡、士、三原慶次郎姪

男 哲夫 大五、九生

君は福岡縣士族現戶主十時允同彌の弟にして明治十二年五月を以て生る同四十三年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し同四十四年旅順工科學堂教授に任じ同年內燃機關學研究の爲歐米に留學し大正十二年德島高等工業學校教授に轉じ現在に至る家族は尙四男英二(大九、一二生)長女千枝(同一四、六生)あり(德島市高等工業學校內)

參照＝十時允、十時彌※石川登喜治の項

## 十時 彌

從四位勳三等、廣島高等學校長 福岡縣士族

妻 エイ 明一七、四生、福岡、立花通誠三女

男 昌 大九、三生

女 秀子 明四三、五生

女 節子 大四、四生

君は福岡縣士族十時一郎の二男にして同允の弟同實の兄なり明治七年六月を以て生れ先代無事老の養子となり後家督を相續す同三十二年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し學習院教授第三高等學校教授等に歷任し大正十一年社會學研究の爲獨佛米各國に留學し同十二年廣島高等學校長に任ぜられ現在に至る長女敬(明三五、二生)は福岡縣士族小野正秋長男正に嫁し二女靖子(同三八、五生)は山口縣士族海軍少佐兄部勇次に嫁せり(廣島市千田町二ノ七四九電二七一六)

參照＝十時允、十時實※石川登喜治の項

## 十場吉太郎

東洋麻絲紡績(株)專務取締役、關西製網(株)監査役、十場(名)代表社員 大阪府在籍

妻 ミサ 明一四、一生、大阪、直多策三女

男 明 明三一、一二生

婦 千代 明三三、一二生、長男明妻、大阪 山口源之助二女

男 重雄 明三四、二生

婦 壽榮子 明四二、一生、二男重雄妻、大阪 山口源之助三女

君は大阪府人十場嘉十郎の長男にして明治六年三月を以て生れ同三十六年祖母梅の後を承け家督を相續す現時十場合名會社代表社員にして前記諸會社の重役を兼ぬ家族は尙孫正太郎(大一二、一生、長男明長男)同吉二郎(昭二、六生、同二男)同梅子(同三、一二生、同二女)同吉三(同五、一生、同三男)同重一(同三、一生二男重雄長男)同敏泰(同五、三生、同二男)あり庶子廣太郎(明二五、一一生、生母、大阪、岸本壽美)は分家せり(岸和田、南町)

## 刀禰館正雄

東京朝日新聞社販賣部長 三重縣士族

父 正信 慶應二、八生、現戶主

母 くめな 慶應二、八生、祖父正治養子

妻 キミ 明二九、五、和歌山、津村英三郎長女

男 正弘 大九、七生

君は三重縣士族刀禰館正信の長男にして明治二十一年四月を以て生る同四十三年神戶高等商業學校を卒業し現時東京朝日新聞社販賣部長たり家族は尙長女和子(大七、一一生)二女美枝子(同一一、一二生)三女明子(同一三、一〇生)三男正久(昭二、六生)四男正也(同三、一一生)四女美佐子(同六、一生)弟正巳(明二六、八生)同妻けい(同三三、五生、三重、小川地喜俊二女)弟康三(同三四、二生)同妻よし(同四三、八生、三重、清水爲五郎二女)弟辰郎(同三七、二生)同妻愛子(同四一、九生、三重、山羽幸平長女)弟武男(同四五、二生)あり妹みつ(同二二、一〇生)は三重縣人上部光朝に同よし(同三〇、一二生)は同縣人辻勢三郎三男幸三郎に同敏子(同四一、一〇生)は同縣人中西總吉に嫁せりA三八〇(東京市外中野町城山二九電四谷三三二五〇)

## 戶井嘉作

勳四等、衆議院議員(神奈川縣選出)、神奈川縣在籍

妻 マサ 文久二、八生、愛知、酒井仙助二女

養子 正治 明一二、八生、山梨、林英作三男

婦 タニ 明一七、四生、養子正治妻、神奈川、小澤賢順妹

孫 敬一 明四一、二生、養子正治長男

孫 しつ 大五、七生、養子正治二女

君は神奈川縣人戶井彥五郎の長男にして文久二年一月を以て生れ慶應三年家督を相續す夙に皇典講究所を卒業し横濱商品倉庫會社を創立し其他諸會社の重役に擧げらる屢々横濱市會議員同參事會員に推され又衆議院議員に當選すること五回現に其任に在り立憲民政黨所屬にして曾て同黨相談役神奈川支部長たり家族は尙孫元八(大元、八生、養子正治二男)同うめ(同一〇、一生、同三女)あり同よし(明四二、一一生、同長女)は神奈川縣人小澤茂に嫁せり(横濱、中、本牧町一一五三電本局一四二三)

## 戶叶五郎

正五位勳五等、專賣局技師、水戶地方專賣局製造課長、東京府在籍

妻 滿幾 明一八、九生、東京、多田純三二女

男 秀雄 明四二、五生

女 幸子 明四〇、九生

男 正雄 明四四、九生

女 薫 大五、五生

君は東京府人戶叶正明の長男にして明治十二年三月を以て生れ同二十七年家督を相續す同四十一年京都帝國大學理工科大學理學科を卒業し直ちに專賣局に奉職大正二年專賣局技師に任ぜられ同十二年歐米各國に出張

す歸朝後東京地方專賣局技師淀橋工場製造係長となり昭和二年水戸地方專賣局技師同製造課長となり今日に至る家族は倚三男和雄(大七、四生)六女瑆子(同一二、一二生)あり長女多喜子(明三七、一二生)は東京府人杉山重義二男早稻田大學敎授謙治に嫁せり(水戸、上市田見小路六四一)

## 戸上信次
戸上電機製作所㈱取締役　熊本縣在籍

妻　ナツ　慶應三、七生、熊本、士、小柳勝熊姉
男　信文　明二八、五生
男　信之　明三〇、一生
婦　キクエ　明三六、一生、二男信之妻、佐賀士、林重吉姪
女　初恵　明四〇、九生

君は熊本縣人戸上勝三郎の五男にして明治元年二月を以て生れ後家督を相續す現時戸上電機製作所取締役たり家族は倚孫綾子(大一四、一一生、二男信之長女)同正之(昭三、一二生、同長男)あり(佐賀市與賀町一六六)
參照＝戸上信文の項

## 戸上信文
佐賀商工會議所常議員、戸上電機製作所、北天草電燈、佐賀電氣軌道各㈱取締役、熊本縣在籍

父　信次　明元、二生、現戸主
妻　清　明三五、三生、熊本、士、小柳勝熊二女
男　一　大一三、五生

君は熊本縣人戸上信次の長男にして明治二十八年五月を以て生る現に前記各會社の重役にして推されて佐賀商工會議所常議員たり電機に關する發明考案五十數件を有す家族は倚長女文子(大一一、三生)二男二郎(同一五、一二生)三男三郎(昭四、一二生)あり(佐賀市大財町電一七七・一七九)
參照＝戸上信次の項

## 戸川虎雄
筑前銀行㈱頭取、興産貯蓄㈾代表社員、福岡縣士族

繼母　ヨネ　萬延元、九生、福岡、士、立川登長女
妻　イサチ　明二五、三生、福岡、鬼木敬太郎養子
男　博之　大八、一〇生

君は福岡縣士族戸川直の二男にして明治二十年三月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十五年早稻田大學商科を卒業し現時前記銀行會社の重役たり家族は倚二男雅雄(大一〇、七生)長女春子(同一三、一生)姪クリ子(同三、二生、亡兄義彦長女)あり妹ユキ(明三六、三生)は分家せりA九七三(福岡市西新町二二一)

## 戸川濱男
内海紡織㈱常務取締役、東洋棉花㈱監査役、東京府士族

母　なみ　文久二、三生、東京、向井秋村長女
妻　トク　明二九、一一生、栃木、關眞妹
男　安雄　大一〇、六生

君は東京府士族殘花戸川安宅の長男にして明治十七年十一月を以て生れ大正七年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は倚長女民子(大六、一一生)二女定子(同一二、一生)三女説子(同一四、一二生)弟行男(明三六、二生)あり同不二男(同二六、一二生)は同妻英子(同三五、一生、岡山、渡邊吉藏長女)と共に分家し妹仲(同三〇、一生)は京都府人高田畊安長男安正に同千代(同三二、一〇生)は群馬縣人中村富司に嫁せりA四六三(兵庫、武庫、大社村森具蓮毛八一一電西宮四八九)
參照＝高田畊安の項

## 戸川政治
從四位勳四等、遞信省航空局長、山口縣士族

養父　龜　安政二、四生、現戸主
養母　ヨシ　明六、七生、東京、士、田寺信治妹
妻　千代子　明二五、一二生、山口、士、藤岡圭助妹
男　透　大一三、二生
女　紫子　大二、一生
女　貞子　大四、七生

君は山口縣人野口清弼の二男同榮二の弟にして明治十八年九月を以て生れ同二十五年戸川龜の養子となる同四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試驗に合格遞信省に入り現に同省航空局長たり其間遞信管理局事務官稅關事務官遞信局副事務官同局事務官臨時電信電話建設局事務官遞信局書記官同局電話課長遞信書記官電務局業務課長熊本遞信局長等に歷任し義に遞信事業研究の爲め英瑞等に留學す家族は倚三女淸子(大六、九生)四女歌子(同一二、一一生)五女陽子(昭二、一二生)あり(熊本、天草、大江村電七五)
參照＝野口榮二、藤岡圭助※粟屋謙の項

## 戸倉惣太郎
帝國海上保險㈱主事、火災部長、山口縣在籍

母　ツル　元治元、四生、山口、高橋安兵衛長女
妻　富子　明二二、四生、千葉、常世田庄太郎長女
男　嘉明　明四三、一二生

君は山口縣人戸倉五郎の長男にして明治十九年四月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十九年中央大學を卒業し現時帝國海上火災保險會社火災部長たり家族は倚二男節夫(大元、八生)二女伸子(同六、一生)三女和子(同八、一生)三男實(同一〇、二生)あり妹トクノ(明三四、三生)は兵庫縣人田中三之助に同マツコ(同三七、三生)は東京府人千壽豐彦に嫁せりA一九七(東京市外西巣鴨町宮仲二五二九電園大塚五三二一)

## 戸口千尋
竹原證券㈱取締役、竹原保全社㈱監査役、大阪府在籍

父　通　嘉永六、四生、現戸主
繼母　くまゑ　明六、七生、和歌山、橋きよゑ養母
妻　直榮　明二七、一二生、大阪、河野直次郎五女
男　通弘　大七、四生

君は大阪府人戸口通の三男にして明治二十四年十一月を以て生る現時竹原證券會社取締役竹原保全社監査役たり家族は倚二男友作(大八、一一生)二女香代(同一四、二生)あり妹穗積(明二八、四生)は大阪府人戸田三省に嫁せり(大阪、西成、千本通三ノ一〇電天下茶屋二九六七)

## 戸坂隆吉
合同毛織㈱常務取締役、東京府在籍

母　キツヨ　慶應二、一一生、岩手、佐々木雄治四女
妻　秋　明三一、一〇生、宮崎、向井太郎妹

君は東京府人戸坂熊吉の長男にして明治二十年十月を以て生れ同四十三年家督を相續す同年早稻田大學商科を卒業し實業界に入り現に合同毛織會社常務取締役たり義に日本酒類釀造㈱醬油各會社取締役たりし事あり家族は倚長女園子(大八、三生)二女淺子(同一〇、二生)三女富士子(同一二、六生)弟勝(明三七、五生)あり(東京市外駒澤町上馬五八九電世田ケ谷三一一)
參照＝※鈴木恒治の項



## 戸澤民十郎
正五位、衆議院議員(香川縣選出)司法參與官、香川縣在籍

妻　げん　明二〇、一生、東京、士、山路彰次郎妹
男　明　明四三、一二生
女　妙　明四二、三生
女　うつみ　大二、一生
女　浩　大四、一生

君は香川縣人戸澤忠七の二男にして明治十一年五月を以て生れ大正元年兄貞藏方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し辯護士となり高松市會議員香川縣會議員等に擧げられ義に圖們鐵道會社監査役たりし事あり又香川縣より選ばれて衆議院議員に當選する事三回昭和六年若槻內閣成立と共に司法參與官に就任し現に其任にあり家族は倚二男力(大六、三生)四女彌生(同九、三生)あり(東京市外巣鴨町一〇八五電大塚二二三四)

## 戸澤八五郎
戸澤組、土木建築請負業、東京府在籍

母　クラ　嘉永六、七生、東京、大熊重五郎二女
男　萬之助　明三八、八生
女　敏子　明四五、二生

君は東京府人戸澤八右衞門の長男にして明治十二年六月を以て生れ同三十九年家督を相續す少壯家業を繼承し爾來大小無數の土木建築工事に携はり現時都下屈指の土木建築請負業者にして戸澤組として知らる長女コト(明三二、六生)は神奈川縣人佐藤福三郎に三女ツマ(同三六、一生)は東京府人黑田一郎に五女筆子(同四一、五生)は愛知縣人井上初太郎庶子幸一郎に姉ムメ(同九、一生)は東京府人高橋益三に妹フジ(同一二、九生)は同府人光主額達に嫁し弟定八(同一五、九生)同妻すゞ(同二〇、一一生、東京、若尾幸次郎長女)は分家し六女鄕子(同四三、一一生)は其養子となり姪キク(同二三、一〇生、姉キヌ二女)同トキ(同二五、一〇生、同三女)も亦各分家せり(東京、麻布、森元町一ノ二七電青山六一七八)

## 戸澤正己(マサオト)
正四位、子爵、貴族院議員、舊羽前新庄藩

妻　錦子　明二四、二生、子爵酒井忠一妹
女　田鶴江　大二、一生
女　靖子　大五、六生

當家は平忠盛の弟右馬頭忠正の後なり孫衡盛奧州に下り戸澤に住するより戸澤と稱し相傳へて右京亮政盛に至り德川氏に屬し六萬八千石を領し新庄の城を築て之に居る其より九世を經て先代正實に至り戊辰の役官軍に屬し功あり明治十七年子爵を授けらる君は正實の孫にして正五位正定の長男なり明治二十一年九月を以て生れ同二十九年襲爵仰付けらる大正八年貴族院議員に當選し現に其任に在り研究會に屬す家族は倚三女慰子(大七、一生)四女瑛子(同八、一二生)五女董子(同一〇、九生)六女三知(同一二、九生)叔父富壽(明二三、一二生)同妻和子(同三四、三生、伯爵松浦厚三女)及其二男あり叔母益子(同一八、五生)は子爵米津政賢に同敬子(同二〇、一生)は男爵岩倉具德に嫁せり(東京、小石川、丸山町三五電大塚五五五)
參照＝伯爵松浦厚、子爵酒井忠一、子爵米津政賢、男爵岩倉具德※侯爵大隈信常※侯爵伊達宗彰※伯爵園基久※伯爵伊達興宗※伯爵松平賴壽※子爵井上勝純※子爵大久保忠春※子爵大久保敎尙※子爵本多正復※子爵松井康昭※子爵松浦靖の項

## 戸澤正保
正四位勳三等、弘前高等學校長、茨城縣士族

妻　なを　明一〇、六生、千葉、井上操二女
男　正一　明三七、九生、工學士、東京電燈會社員

君は茨城縣士族幽芳菊池淸の弟にして明治六年六月を以て生れ先代正之の養子となり同二十四年家督を相續す同三十二年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し同三十五年山口高等學校敎授に任ぜられ第五高等學校敎授に轉じ大正二年語學研究の爲英國に留學し歸朝後大正九年山口高等學校敎授に任ぜられしも昭和四年現職に轉ず姑射と號し沙翁の飜譯數種あり(弘前、富田町大野官舍內)
參照＝菊池淸※大島淸藏の項

## 戸澤又次郎
從四位勳三等、農學博士、朝鮮總督府林業試驗場長、山形縣在籍

妻　しん　明一二、七生、山形、山岸丑之助妹
男　伴夫　明三九、一生
男　邦夫　明四一、八生
男　輝夫　明四四、一生

君は山形縣人戸澤又八の二男にして明治七年三月を以て生れ大正九年兄又太郎方より分れて一家を創立す明治三十五年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し書林技手同技師山林技師林務技師を經て大正九年朝鮮總督府技師に任じ同十一年朝鮮總督府林業試驗場を創設し林業試驗場技師に任ぜられ現時林業試驗場長たり同八年農學博士の學位を授與され昭和四年歐米各國に出張す家族は倚五男忠夫(大三、一〇生)あり(京城、大和町二ノ七八官舍)

## 戸澤芳樹
安田信託㈱常務取締役、沖電氣、安田ビルデング各㈱監査役、東京府在籍

妻　鞠　明一九、六生、東京、士、小林公松長女、東京女學館出身
男　芳郎　明四四、一生
女　澪　明四二、九生、東京府立第三高女出身
女　民　明四五、三生、東京府立第三高女出身
女　斐　大四、四生

戸澤家は舊羽前新庄藩の世臣にして代々家老職を勤めたる由緒ある家柄にして祖先の勳功に依り藩主より特に戸澤姓を許さる十代を經て當主重雄に至る君は其叔父にして明治十三年二月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す明治四十年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し直に帝國海上運送火災保險會社に入り勤續十數年に及び火災部副部長となり大正七年保險業視察の爲め米國に遊ぶ歸朝後安田保善社に轉じ同社會社部長調査部長祕書部長に歷任し現時前記各會社の重役たり嚢に橫濱棧橋倉庫興亞起業平沼製材富士製綱各會社の重役たりし事あり謠曲を趣味とす家族は倚二男拳二(大六、七生)三男三樹(同八、一〇生)四女延(同一三、一二生)あり(東京、麻布、森元町一ノ二七電赤坂三二七)

**戸田氏共**(ウジタカ) 正二位勲一等、伯爵、麝香間祗候 舊大垣藩
妻 極子 安政四、一一生、公爵岩倉具榮大々叔母
女 富子 明三五、一生、亡養子氏秀妻
孫 氏忠 大二、九生、亡養子氏秀四男

當家は太政大臣三條實行の末裔戸田彈正左衞門尉宗光より五世釆女正一西の後なり一西將軍秀忠に仕へて軍功を樹て近江膳所三萬石に封ぜられ其子釆女正氏鐵尼崎に移り五萬石に加封せられ寛永十二年更に大垣に移封し十萬石を領す夫より九代を經て君に至る君は先々代氏正の五男にして安政元年六月を以て生れ慶應元年先代兄氏彬の養子となり封を襲ぐ戊辰の役兵を東北の野に出して勳功あり明治二年大垣藩知事に任ぜらる同四年米國に留學して工學を修め後更に伊藤參議に隨て歐洲を視察し同十七年伯爵を授けらる爾來公使館參事官辨理公使墺國駐劄特命全權公使主獵官諸陵頭式部次長兼宮中顧問官兼主獵局長式部長官議定官主獵頭事務取扱等に歷任し現時麝香間祗候仰付けらる趣味廣く就中射擊に巧なり家族は尙孫光子(大八、一一生、亡養子氏秀三女)同章子(同一〇、七生、同四女)同氏直(同一一、九生、同五男)同氏泰(同一三、九生、同六男)あり長女孝子(明一〇、五生)は侯爵細川護立先代護成に三女幸子(同一四、一二生)は子爵松平直平に孫愛子(同三八、一二生、亡養子氏秀長女)は子爵池田政保養嗣子政鋹に同元子(同四〇、五生、同二女)は伯爵德川達孝長男達成に嫁せり(東京、牛込、若松町七三電牛込三〇三〇)
參照＝公爵岩倉具榮、侯爵細川護立、伯爵德川達孝、子爵池田政保、子爵松平直平※侯爵西鄕從德※子爵岩倉具明※子爵森清※男爵岩倉具威※男爵岩倉道倶※男爵武井守成※男爵島津齊視の項

**戸田氏次** 從四位、子爵 舊濃州野村藩
妻 すう 明三六、一二生、岐阜、近藤鎭三四女
男 氏昌 大一五、七生

當家は舊大垣舊藩主釆女正戸田氏鐵の二男淡路守氏經の後なり氏經父の所領中より七千石を分與せられ別に一家に爲す三代氏成宗家より入り家督を相續し更に三千石を分與せられ濃州野村一萬石を領す夫より七代を經て氏良に至り明治十七年子爵を授けらる氏懿其後を享く君は氏懿の長男にして子爵戸田康保の從弟に當り明治二十六年六月を以て生れ大正二年襲爵仰付けらる家族は尙長女常子(大一一、一二生)弟孝懿(明三〇、一〇生)同氏敏(同三六、九生)あり父氏懿(同二、二生)は母鈴子(同六、一一生、祖父氏良庶子)妹歌子(同四〇、三生)同茂子(同四五、二生)を伴ひ其生家子爵戸田康保の家籍に入り更に分家し妹春子(同三一、一二生)は靜岡縣人柴田保に叔母銈子(同一二、四生)は子爵池田政保に嫁せり(東京、小石川、茗荷谷町六二)
參照＝子爵池田政保、子爵戸田康保、柴田保※子爵永井直邦※男爵淺野忠允※尾崎伊三郎の項

**戸田鋭之助** 大垣商工會議所會頭、大垣共立銀行(株)副頭取、岐阜縣士族
妻 ひろ 文久二、六生、東京、士、野村龍太郎妹
男 直温 明一八、三生
男 良直 明二八、七生

君は舊大垣藩國老戸田治部左衞門の長男にして安政四年十二月を以て生れ後家督を相續す夙に實業界に入り現に大垣共立銀行副頭取にして又推されて大垣商工會議所會頭たり長女ます(明七、一〇生)は岐阜縣人増田作藏長男銕吉に三女まさ(同一二、四生)は同縣人森樹一長男精一に四女けい(同一四、九生)は東京府人桂辨三に五女たな(同二〇、八生)は岐阜縣人早野龍三に七女收(同三一、一〇生)は愛知縣人盛田久左衞門長男彥太郎に妹ちよう(安政六、三生)は宮城縣士族早川万一先代智寬に嫁せりA一四〇七(大垣、郭町一九九電一〇六)
參照＝桂辨三、戸田直温、戸田良直、野村龍太郎、早川万一、早野龍三、盛田久左衞門※男爵大森佳一※赤星鐵馬※五代龍作※野村駿吉の項

**戸田慶吉** 谷松屋、銘仙商 大阪府在籍
妻 初子 明三七、四生、大阪、下村源藏長女
男 慶太郎 大一二、一二生

君は大阪府人戸田彌七の弟にして明治三十一年九月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す夙に京都別所呉服店に勤務すること數年大正九年呉服業を開業し以て今日に至り谷松屋と稱し銘仙商を營む家族は尙長女喜和子(大一四、二生)二男彌一郎(昭二、九生)あり(大阪、南、心齋橋筋一ノ三電南一八七五)
參照＝戸田彌七※井田亦吉※野田三藏※山中吉郎兵衞の項

**戸田治助** 但馬銀行(株)常務取締役 兵庫縣在籍
養母 ゑい 安政三、七生、兵庫、八木長右衞門妹
妻 とう 明四、一生、兵庫、八木長右衞門二女
男 卓治 明三〇、一生、慶大法科出身
婦 榮 明三八、一生、長男卓治妻、兵庫、村上喜兵衞長女
男 正躬 明四三、一二生、慶大醫科在學

君は兵庫縣人戸田治助の三男にして慶應三年十一月を以て生れ先代兄治助の養子となり明治三十六年家督を相續し前名佐太郎を改め襲名す現時但馬銀行常務取締役たり家族は尙孫良久(昭二、九生、長男卓治長女)同永之介(昭四、一〇生、同長男)あり長女綾野(明三一、一〇生)は兵庫縣人遠藤嘉吉郎三男敏郎に二女小夜(同三五、一二生)は同縣人法學士萩野益三郎に妹〆乃(同二八、四生)は同縣人細見安治郎長男實一に嫁せりA二一一(兵庫、城崎、日高町電江原四八)

**戸田正三** 正五位勲四等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務 兵庫縣在籍
母 いと 慶應元、二生、兵庫、村上健治郎妹
妻 ます 明二二、三生、戸田清長女

君は兵庫縣人戸田重太郎の二男同貞三の兄にして明治十八年四月を以て生れ先代ますの入夫となり同四十四年家督を相續す同四十三年京都帝國大學醫科大學を卒業し同大學助手となり大正元年衞生學研究の爲英佛獨各國に留學し同三年同大學助教授に任じ同五年同教授に進む同七年支那に出張を命ぜられ同年醫學博士の學位を受く同十一年歐洲に出張す(京都、上京、北白川西町五電上二六〇四)
參照＝戸田貞三の項

**戸田宗吉** 戸田宗運輸(株)社長、神戸合同運送(株)取締役、日華工業原料、大阪合同運送各(株)監査役、運送業 兵庫縣在籍



妻 ふみ 明一二、一二生、大阪、古山弘養母
養子 馨 明四一、二生、兵庫、八木今次郎二男

君は兵庫縣人戸田治介の長男にして明治七年八月を以て生れ同十二年家督を相續す運送業を營み現に戸田宗運輸會社長たる外前記各會社の重役たり嚢に推されて神戸商工會議所常議員たりし事あり妹ふさ(明九、二生)は滋賀縣人平井安兵衞に嫁し同しう(同一一、三生)は兵庫縣人八木みねの家督を相續せり(神戸、海岸通二ノ一ノ四電三宮一四六)

**戸田宗三郎** 廣島縣多額納税者、三篠商事(株)取締役、廣島合同貯蓄銀行、廣島電氣、日本石粉各(株)監査役、呉服商 廣島縣在籍
妻 サワノ 明九、七生、廣島、澤田基次姉
男 三郎 明三四、三生
婦 ミツ 明三七、一一生、二男三郎妻、山口、吉井靜吉養子
女 通子 明四二、四生

君は廣島縣人先代宗三郎の長男にして明治九年九月を以て生れ大正四年家督を相續し前名友治郎を改め襲名す呉服商を營み傍ら前記各會社の重役にして廣島縣多額納税者に列し直接國税一千六百六十九圓を納む家族は尙四男五郎(大元、八生)四女彌生(同七、四生)養子春子(同七、三生、廣島、今田淺一養子)孫チオリ(同一一、二生、二男三郎養子)同愼太郎(同一二、一二生、同養子)同叡子(同一四、九生、同長女)同功(昭二、七生、同長男)弟一郎(明二九、三生)同妻ハマコ(同三五、四生、廣島、毛利倫太郎三女)及其子女あり長女富美(同三八、一生)は廣島縣人檜垣健雄に二女ヤヱ(同四〇、四生)は岡山縣人伏見正保に妹イチ(同三〇、三生)は廣島縣人田中松藏長男正夫に嫁し弟隆一(同二一、五生)同憲二(同二四、三生)は各分家せり(廣島、安佐、可部町電一)

**戸田忠雄** 從三位、子爵 舊野州足利藩
繼母 時子 安政三、九生、千葉、龜田讃郎妹
妻 いく 明一三、二生、千葉、池田榮亮三女、跡見女學校出身
男 忠孝 明二七、五生、正五位、法學士、海軍司法事務官兼法務官、横須賀鎭守府軍法會議勤務
婦 松子 明三六、三生、長男忠孝妻、子爵本多猶一郎妹、御茶の水高女出身
女 米子 明四五、二生、女子學習院出身

當家は土佐守戸田尊次の三男三郎左衞門忠繼の後なり忠繼父の遺封を分與せられ一家をなし野州足利一萬千石を領す夫より七代を經て先代忠行に至り海軍裁判所御用掛海軍省御用掛等に歷任し明治十七年子爵を授けられ後貴族院議員に當選す君は忠行の二男にして明治四年七月を以て生れ大正六年襲爵す明治二十八年東京美術學校日本畫科を卒業し嚢に錦城中學校に教鞭を執りし事あり家族は尙二男忠儀(大三、七生)三男忠輝(同六、七生)孫忠武(昭四、七生、長男忠孝長男)弟忠四郎(明二二、三生、醫學博士)同妻鈰(同三〇、二生、東京、萩原弘長女)及其二男一女弟五郎(同二七、一二生、法學士、三菱銀行員)同妻妙子(同三四、一生、神奈川、若尾倫長女)及其一女あり長女愛子(同二九、一生)は男爵島津備愛先代忠備に二女光子(同三一、一生)は子爵福羽眞城弟發三に妹棣子(同一九、一一生)は子爵太田資業に同銈子は工學士小堀十龜に嫁せり(東京、本郷、向ヶ岡彌生町三電小石川二七二九)
參照＝子爵太田資業、子爵福羽眞城、子爵本多猶一郎、男爵島津備愛、若尾倫の項

**戸田忠庸** 正四位勲四等、子爵、陸軍騎兵大佐、舊宇都宮藩
妻 鐵子 明一七、七生、子爵池田仲誠妹
男 忠和 明四二、五生、從五位
女 秀子 明四三、一二生

當家は太政大臣三條實行の末葉戸田彈正左衞門宗光の裔三郎右衞門忠次の後なり忠次家康に仕へて軍功あり男土佐守尊次三州田原一萬石を領す其孫山城守忠昌に至り次第に封を增し佐倉七萬石を食む其子侍從忠眞宇都宮七萬八千石に移封せられてより七代を經て越前守忠恕に至り幕府に建議して自ら山陵奉行の職に任じ近畿百有餘の山陵を修覆す先代忠友維新の際率先して官軍に屬し功あり明治十七年子爵を授けらる同十六年國幣中社二荒山神社宮司に補せられ社務を掌る事實に四十餘年に及ぶ君は其男にして明治十二年二月を以て生れ大正十二年家督を相續し襲爵す夙に軍籍に入り累進して騎兵大佐に陞る現時豫備役たり家族は尙二男忠元(大二、五生)三男忠英(同五、八生)四男忠裕(同一〇、一一生)あり弟韻(明二五、一二生)同清(同二八、二生、明大商科出身)は各分家し姉トヨ子(同二、七生)は伯爵有馬頼寧先代頼萬に嫁せり(沼津、下香貫三四九ノ二〇)
參照＝伯爵有馬頼寧、子爵池田仲誠※伯爵松平直之※子爵津輕益男の項

**戸田忠肅** 正五位、子爵、司税官、新潟税務署長、舊野州曾我野藩
妻 濱子 明三八、四生、公爵毛利元昭庶子、女子學習院出身

當家は野州宇都宮藩主侍從因幡守戸田忠寬の二男主計忠舜の後なり忠舜父の封邑中一萬一千餘石を分與せられ一家を立て同國曾我野の城主となる二世を經て先代忠義に至り明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に列す君は其男にして明治三十四年十一月を以て生れ大正四年襲爵仰付けらる同十五年京都帝國大學經濟學部を卒業し同年文官高等試驗に合格し大藏省に入り司税官に任じ佐世保税務署長に補せられ昭和六年一月新潟税務署長に轉補せらる家族は尙長女雅子(昭三、一生)あり姉錫子(明三一、七生)は故陸軍少將大生定孝嗣子數雄に嫁せり(新潟市新潟税務署內)
參照＝公爵毛利元昭、男爵應園直治※侯爵醍醐忠重※子爵愛宕通敬※男爵小早川四郎※男爵毛利元良※西園寺八郎の項

**戸田常次郎** 從五位勲五等、判事、岐阜地方裁判所部長、石川縣在籍
妻 あさ 明一七、七生、東京、廣川範治三女
男 秀雄 明四二、五生
女 京子 明四四、九生

君は石川縣人新宅孫三郎の三男にして明治十一年五月を以て生れ戸田庄左衞門の養子となり同三十二年分れて一家を創立す同三十七年法政大學を卒業し判檢事登用試驗に合格同四十一年判事に任じ爾來京都地方同區德島地方金澤地方同區福井地方岡崎區高岡區富山區各裁判所判事富山地方裁判所部長等に歷補し現時岐阜地方裁判所部長たり(岐阜市岐阜地方裁判所內)

**戸田貞次郎** 大阪商船(株)新嘉坡支店長 福岡縣在籍
養父 稔 安政三、三生、現戸主



(※印は姻族關係)

妻　タマエ　明一九、三生、和歌山、島崎多平治妹
男　瑞彦　大四、一生
君は滋賀縣人外村清三郎の二男にして明治十九年一月を以て生れ當主稔の養子となる同四十三年東京高等商業學校を卒業し大阪商船會社に入り香港支店員紐育在勤員を經て昭和四年同社新嘉坡支店長となり現在に至る家族は尚長女貞子(大八、一生)あり（大阪商船會社新嘉坡支店內）

**戸田貞三**　從五位、東京帝國大學教授、文學部勤務、東洋大學、日本女子大學校各教授、日本社會學會常務理事　東京府在籍
妻　田鶴　明三五、五生、東京、松谷正太郎三女
君は兵庫縣人戸田重太郎の三男同正三の弟にして明治二十年三月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す明治四十五年東京帝國大學文科大學社會學科を卒業し大正二年富山藥學專門學校助教授に任じ爾來同校教授東京帝國大學文科大學助手同助教授等に歷任し昭和四年同大學教授に進み現に文學部勤務にして傍ら東洋大學及日本女子大學校教授に舉げられ日本社會學會常務理事たり大正八年米英佛各國に留學を命ぜらる家族は尚長女千代(昭二、六生)二女ヒロ(同四、二生)あり(東京、本郷、駒込上富士前町一二)
參照＝戸田正三、松谷正太郎の項

**戸田虎雄**　米澤商榮銀行㈱頭取、米澤魚市場㈱代表取締役、山形貯蓄銀行、兩羽銀行、山形製紙、山形電氣、山北送電、山電工業各㈱取締役、山形縣信用組合聯合會々長、米澤織物信用組合理事長、產業組合中央金庫評議員、財團法人興讓館理事長、山形縣士族
妻　まる　明一四、一一生、山形、士、寒河江佐右衞門三女
男　誠一　明三二、八生
婦　せい　明三七、一〇生、長男誠一妻、山形、種村篤次郎長女
男　茂雄　明三四、二生
婦　千代志　大元、一〇生、二男茂雄妻、山形高野キクヱ從妹
男　敏雄　明三五、一二生
婦　つま　明四二、一一生、三男敏雄妻、山形、山口壽三郎孫
養子　ヤス　明四三、八生、山形、寒河江榮藏五女
君は山形縣士族小林朝之助の二男にして明治十一年八月を以て生れ先代虎之助の養子となり同三十七年家督を相續す現時米澤商榮銀行頭取たる外前記各銀行會社の重役たり家族は尚孫陽子(大一四、四生、長男誠一長女)同徹(昭二、二生、同長男)同雅子(同三、四生、二男茂雄長女)同和子(同五、一生、同二女)同禮子(同四、八生、三男敏雄長女)同一郎(同五、一〇生、同長男)あり(米澤、信夫町五五九九)

**戸田直溫**　從四位勳三等、朝鮮總督府鐵道局理事、同局營業課長兼經理課長　岐阜縣士族
父　銈之助　安政四、一二生、現戸主
妻　澤子　明二四、五生、東京、士、青木元五郎二女
女　榮子　大二、八生
女　欣子　大四、九生
君は岐阜縣士族戸田銈之助の長男にして同良直の兄なり明治十八年三月を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格爾來鐵道院書記同副參事同參事鐵道省參事官同書記官兼參事官に歷任し運輸課庶務掛長同總務課長大臣官房外國鐵道調查課長運輸局旅客課長等を經て大正十五年朝鮮總督府鐵道局理事に任じ現に同局營業課長兼經理課長たり(京城、古市町一二電本局八五三)
參照＝戸田銈之助、戸田良直※桂辨三※早川万一※早野龍三※盛田久左衞門の項

**戸田萬平**　德島縣多額納稅者、麻植製絲㈱取締役、藍商並金融業、德島縣在籍
妻　マツ　慶應三、二生、德島、富永實太郎長女
男　武雄　明三二、一〇生
婦　花子　明三七、八生、二男武雄妻、德島笠井嘉納次二女
君は德島縣人先代萬平の長男にして慶應元年五月を以て生れ明治三十三年家督を相續し前名嘉次郎を改め襲名す藍商並金融業を營み傍ら麻植製絲會社取締役にして現に德島縣多額納稅者に列し直接國稅一千七百四十五圓を納む家族は尚孫智躬(大一五、五生、二男武雄長男)同隆幸(昭二、一〇生、同長女)妹コトミ(明六、三生)あり長女タケノ(同二〇、八生)同夫太次郎(同一九、一一生、德島、酒卷林七郎弟)は其子女を伴ひ分家し二女ユキヱ(同二七、五生)は香川縣人青木正に嫁せり(德島、名西、高志村)

**戸田實**　東和汽船、日東海上火災保險各㈱專務取締役、日高紡績㈱取締役、大連東和汽船㈱監査役　兵庫縣士族
養子　秀雄　明三七、八生、長女美代夫、大阪宇野榮助弟
女　美代　明四一、三生、養子秀雄妻
君は舊和歌山藩士戸田彌三郎の長男にして明治八年十二月を以て生れ大正四年家督を相續す夙に神戸に出で海運業佐藤勇太郎商店に勤續し其支配人となる其間日淸日露北淸事變等に直面し具に斯業の辛酸を嘗め明治四十一年獨立して門司に海運業戸田商店を興し同四十四年神戸に復歸せり大正三年歐洲大戰爭勃發するや菊地吉藏津田養郎兩氏と東和汽船會社を創立す現時前記諸會社の重役として知らる家族は尚孫雄章(昭四、一一生、養子秀雄長男)あり弟敏雄(明二四、一二生)同妻綾子(同三〇、九生、廣島、門瀨登長女)は共に其子女を伴ひ分家せりＡ七六二(神戸、海岸通二ノ二六電三宮一五一九)

**戸田彌七**　大阪府多額納稅者、谷松屋、書畫骨董商、大阪府在籍
叔母　まち　明四、一二生、大阪、赤松小一郎
妻　つれ　明二八、三生、京都、深見小兵衞長女、京都府立第二高女出身
男　彌太郎　大一二、九生
戸田家は古くより大阪伏見町に定住し代々彌七を襲名して書畫骨董商を營める同市屈指の素封家なり君は先代彌七の長男にして明治二十五年九月を以て生れ昭和四年家督を相續し前名晉一を改め襲名して祖業を繼ぎ谷松屋と稱し書畫骨董商を營み現に大阪府多額納稅者たり家族は尚長女はま(大七、一生)二女いそ(同一四、一二生)四女富久(昭四、四生)弟稻雄(明四四、一二生)あり同玄二(同二七、九生)同妻華(同三五、九生、兵庫、井田亦吉六女)は其一女を伴ひ分家し弟慶吉(同三一、九生)も亦分家し妹ツユ(同三四、一二生)は大阪府人山中吉郎兵衞に同泰(同三八、一二生)は兵庫縣人野田三藏長男三之助に嫁せり(大阪、東、伏見町三ノ一六電本局七二三三)
參照＝赤松小一郎、井田亦吉、戸田慶吉、野田三藏、深見小兵衞、山中吉郎兵衞※千賀知一の項





**戸田保忠**　從四位勳三等、農林省畜產局長　茨城縣士族
妻　とみ　明二九、九生、東京、池田泰次三女
男　尙文　大一一、一〇生
君は茨城縣士族戸田忠正の長男にして明治二十年九月を以て生れ後家督を相續す明治四十五年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格す大正三年島根縣理事官に任じ爾來農務局事務官兼米穀管理部事務官農商務書記官同參事官大臣官房會計課長等に歷任し現時農林省畜產局長たり同十五年歐米各國に出張す家族は尚長女知(大七、三生)二女尙(同九、八生)三男知義(同一五、五生)あり(東京、小石川、林町三六電小石川二六〇九)

**戸田保美**　栃木銀行㈱常務取締役、三共社印刷所㈱監査役、栃木縣在籍
祖母　セン　嘉永六、九生、栃木、伊澤新三九養子
母　エイ　明一一、一二生、栃木、青木昇一郎五女
妻　シマ　明三五、四生、栃木、福田喜三郎二女
男　讓一　昭四、八生
君は栃木縣人戸田菊次郎の長男にして明治三十一年三月を以て生れ昭和四年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尚妹マス(明三三、七生)同夫四郎平(同二八、九生、栃木、高瀨松藏三男)及其一女の外弟元美(同三八、二生)あり同菊美(同三六、一〇生)は神奈川縣人山口十郎長女春子の婿養子となれり(栃木、下都賀、石橋町)
參照＝※島田善介の項

**戸田康保**　正四位、子爵、東京府多額納稅者　宮內省內匠寮囑託、舊松本藩主
妻　昭子　明二三、一一生、侯爵松平康昌叔母、學習院女學部出身
男　康英　明四四、四生
女　和子　大三、八生
女　順子　大四、一一生
當家は太政大臣三條實行の裔正親町三條實興の後なり其嫡子宗光故あつて三河國上野城主戸田彈正宗繁の後を繼ぎ戸田氏と稱す七代を經て丹波守康長に至り德川氏に仕へて功あり信州松本七萬石に封ぜらる後轉封數次再び松本六萬三千石を領し十一世を經て先代康泰に至り明治十七年子爵を授けらる君は其長男にして子爵戸田氏次の從兄なり明治二十二年十一月を以て生れ同三十六年家督を相續し襲爵仰付けらる大正四年東京帝國大學理科大學植物學科を卒業し現時宮內省內匠寮囑託被仰付東京府多額納稅者にして直接國稅五千二百六十八圓を納む家族は尙二男康明(明四五、七生)三女華子(大六、一生)四男光孝(同七、三生)五男光敬(同八、一〇生)四女忠子(同九、一一生)六男光發(同一〇、一一生)あり三男光輝(同二、七生)は男爵淺野鐵馬の家督を繼ぎ忠允と改名し弟邦光(明二九、〓生)は子爵永井直諒の養子となり襲爵して名を直邦と改め同康定(同二六、五生)は大阪府人尼崎伊三郎の養子となり叔父氏懿(同二、二生)同妻鈴子(同六、一一生、戸田氏良庶子)は共に分家し叔母桂子(同九、三生)も亦分家せり(東京市外高田町雜司ヶ谷旭出四一電大塚三〇二八)
參照＝侯爵松平康昌、子爵戸田氏次、子爵永井直邦男爵淺野忠允、尼崎伊三郎※侯爵德川義親※子爵加藤泰通※子爵竹屋春光※子爵鍋島直庸※子爵藤波茂時※子爵松平慶民※男爵德川喜輪※男爵三井八郎右衞門※男爵毛利元良※藤波言忠の項

**戸田由美**　從五位、衆議院議員(長野縣選出)長野縣在籍
父　助次郎　慶應二、一二生、現戸主
母　ふさ　慶應二、四生、長野、春日佐七長女
妻　みつゑ　明二八、三生、長野、諏訪要一姉
男　慶久　大七、二生
女　智惠子　大三、五生
君は長野縣人戸田助次郎の長男にして明治十九年六月を以て生る同四十三年慶應義塾理財科を卒業し南信毎日新聞社專務取締役兼主筆南信絹絲紡績會社專務取締役等に舉げらる大正十三年以來衆議院議員に當選すること三回現に立憲民政黨に屬し曩に內閣總理大臣秘書官たり又鮮滿地方及米國を視察す家族は尙二女眞佐子(大九、一一生)三女峯子(同一一、一二生)三男雄政(昭五、四生)あり妹さかゑ(明二二、一生)は長野縣人小林頼治三男澄兄に同品子(同二四、八生)は同縣士族後藤自助弟憲三に嫁せり(東京、牛込、神樂町二ノ一八電牛込三三六〇)

**戸田良直**　濃飛農工銀行、岐阜信託、西濃鐵道、伊勢電鐵各㈱取締役、大垣瓦斯電氣㈱監查役、大垣貯蓄銀行㈱支配人、岐阜縣士族
父　銈之助　安政四、一二生、現戸主
妻　道子　明三五、一一生、岐阜、矢橋亮吉長女
男　正直　大一三、一一生
君は岐阜縣士族戸田銈之助の三男同直溫の弟にして明治二十八年七月を以て生る大正六年東京高等商業學校を卒業し現時大垣貯蓄銀行支配人たる傍ら前記各銀行會社の重役たり家族は尚長女素子(大一五、一二生)二女佳子(昭四、一一生)あり(大垣、郭町一一四)
參照＝戸田銈之助、戸田直溫※桂辨三※早川万一※早野龍三※盛田久左衞門の項

**戸田利兵衞**　東京府多額納稅者、比律賓木村貿易㈱社長、笠間陶器、東洋遊園地各㈱取締役、戸田組、土木建築請負業、東京府在籍
養母　マツ　明四、四生、東京、大矢庄松長女
妻　千勢子　明三一、三生、長野、熊谷修一郎三女
男　順之助　大七、一二生
君は茨城縣人富田寅吉の弟にして明治十九年一月を以て生れ先代利兵衞の養子となり大正九年家督を相續し前名繁秋を改む戸田組と稱し土木建築請負業を營み東京府多額納稅者にして前記會社の重役たり家族は尙長女統子(大九、二生)二女敦子(同一〇、五生)二男守二(同一一、一〇生)あり(東京、本郷、駒込神明町五電小石川一四六)

**戸田和七郎**　戸田猶商店㈱社長、織物商　大阪府在籍
妻　れん　明一八、一二生、養父猶七二女
男　猶治郎　明三八、一一生、戸田猶商店㈱取締役
婦　靜子　明四二、一一生、長男猶治郎妻、大分、樋口健二女
君は大阪府人嵐七郎平の七男にして明治十四年二月を以て生れ同府人戸田猶七の養子となり同三十六年分れて一家を創立す織物商を營み現に戸田猶商店社長たり

（大阪、東、本町三ノ一六電本町九四〇）

### 戸谷鎌二郎
深井鐵工所㈱監査役　愛知縣在籍

妻　クニ　明一六、六生、大阪、古山岩吉二女
男　和雄　明四二、二生
女　秀子　明四四、一一生

君は愛知縣人戸谷惣兵衛の長男にして明治十年六月を以て生れ同三十二年家督を相續す現時深井鐵工所監査役たり家族は倚二男佳永（大四、三生）三男鉦三（同六、一二生）あり妹こま（明一四、七生）は愛知縣人一柳梅藏に嫁し弟一（同一七、一生）同妻つか（同一八、四生、富山、竹内安次郎二女）は其二子を伴ひ分家し養姪やす子（同三七、一〇生、妹こま養子、愛知、木村伊三郎孫）は愛知縣人黒川五兵衛長女やすの養子となれり（大阪、南河内、長野町）
參照＝※木村多四郎の項

### 戸谷佐治
セルロイド小間物商、東京府在籍

妻　すゑ　明二二、八生、愛知、黒川武兵衛四女
男　正一　大二、七生

君は愛知縣人戸谷佐右衛門の三男にして明治二十二年十二月を以て生れ大正五年分れて一家を創立すセルロイド小間物商を營む家族は倚長女美代子（大一三、九生）あり（東京、淺草、茅町一ノ二電淺草一四四四）

### 戸谷庄七
安田銀行㈱前橋支店長　長野縣在籍

妻　あさ　明二三、二生、長野、小林嘉兵衛四女
男　英明　大九、一二生

君は長野縣人先代庄七の長男にして明治二十年七月を以て生れ同三十九年家督を相續し前名長治郎を改め襲名す同四十二年安田銀行に入り現時前橋支店長たり家族は倚長女貞（大六、三生）二女節（同一二、八生）三女糸（同一四、五生）二男英雄（昭二、二生）四女絹（同四、八生）あり姉みつ（明一七、九生）は長野縣人庄田茂雄に同さき（同二六、七生）は同縣人德武春之助長男虎雄に同たけ（同一二、一生）は同縣人岡本國吉に嫁せり（前橋市安田銀行支店內）

### 戸谷惣三郎
伊藤銀行、松坂屋、三綿商會、千年殖產、丸愛商店各㈱取締役　東京府在籍

妻　のぶ　明二二、八生、愛知、吉田喜太郎長女
男　宗吉　明四五、七生

君は愛知縣人安田新七の三男にして明治十一年十月を以て生れ同縣人戸谷みわの養子となり同四十一年家督を相續す現時前記銀行各會社の重役として知らる家族は倚二女つれ子（大六、三生）あり長女その（明四二、八生）は東京府人鈴木彦右衛門長男善雄に嫁せり（名古屋、東、千種町今池電東三四五八）

### 戸塚九一郎
正五位勳四等、京都府書記官、學務部長、靜岡縣在籍

繼母　ます　明五、一一生、靜岡、小原平吉姉
妻　敏子　明三五、六生、高知、和田潤長女
男　康一郎　大一四、四生

君は靜岡縣人戸塚藤平の三男にして明治二十四年三月を以て生る大正六年東京帝國大學法科大學を卒業し香川縣屬となり同七年高等試驗行政科に合格す同八年福島縣安積郡長を命ぜられ同十年福島縣理事官に轉じ爾來兵庫縣理事官工場監督官警察部工場課長地方事務官兵庫縣工場監督官神奈川縣書記官學務部長警視廳書記官衛生部長等に歷任し昭和四年兵庫縣書記官に任じ學務部長に補せられ同五年京都府書記官に轉じ學務部長たり先是大正十一年歐米各國に出張す家族は倚二女禎子（昭二、四生）二男陽式（同三、七生）兄龍平（明二〇、一一生、現戸主、安田信託會社本店支配人）同妻滿壽（同三六、二生、靜岡、袴田慶藏妹）及其子女弟重一郎（同二七、一一生）同妻壽（同三三、七生、靜岡、竹内新平）妹及其子女あり姉きく（同一一、一一生）は靜岡縣人松村惠三に嫁せり（京都市府學務部內）
參照＝松村惠三、和田潤の項

### 戸塚眞一
正五位勳五等、檢事、米子區裁判所檢事兼鳥取地方裁判所米子支部檢事、靜岡縣在籍

妻　ます　明二二、八生、靜岡、清水敬一郎妹
男　一二　大三、七生
女　烈　明四三、九生
女　操　大元、一〇生

君は靜岡縣人戸塚勘六の長男にして明治十五年三月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十九年早稻田大學法學科を卒業し同四十年判檢事登用試驗に及第す同年司法官試補となり次で檢事に任じ高知大津姬路京都高松各地方裁判所高知地方裁判所檢事兼高松區裁判所檢事等に歷補し昭和四年現職に轉ず家族は倚二男祥二（大五、七生）三男浩二（同八、七生）三女倫子（同一〇、一〇生）四女翠子（同一二、一一生）六女明子（昭元、一二生）あり（米子、米子區裁判所檢事局內）

### 戸次源三郎
福岡縣多額納稅者、吳服太物商　福岡縣在籍

父　源次郎　安政三、六生、現戸主
妻　ナチ　明一三、八生、福岡、稻永勝次郎二女
男　源造　明三七、一〇生、福岡商業學校出身
婦　蕃美枝　明四二、一〇生、長男源造妻、福岡、宮原省三孫、福岡筑紫女學校出身
女　スガ　明三四、一二生
男　才次郎　明三九、七生
女　ナカ　明四一、一一生、福岡香椎高女出身
女　スミエ　大二、八生、福岡香椎高女出身
女　キヌ　大四、二生

君は福岡縣人戸次源次郎の長男にして明治十三年四月を以て生る吳服太物商を營み縣下の多額納稅者たり家族は倚四男久雄（大八、二生）孫章子（昭四、一一生、長男源造長女）あり三女ヨシ（明四四、三生）は福岡縣人長幸太郎の養子となり妹トカ（同一六、八生）は同縣人藤原伊平長男德三郎に同ヤヨ子（同二四、七生）は同縣人吉原勘七に嫁し弟勝右衛門（同一九、五生、工學士、川崎造船所技師）は其子女を伴ひ分家せりA八七四B一九〇（福岡、糟屋、箱崎町）

### 戸野周二郎
從六位、四日市市長　東京府在籍

妻　みちゑ　明三、二生、京都、西里了觀長女
男　正亨　明二七、四生
婦　かめを　明三〇、一〇生、長男正亨妻、東京、濱岡善次二女
男　哲夫　明二八、一一生







婦　しづ　明三五、八生、二男哲夫妻、靜岡、松浦利八二女
男　秀夫　明三一、五生
婦　孝子　明三四、一生、三男秀夫妻、廣島、佐久間友太郎二女
男　威　明三九、一生
男　元　明四〇、一〇生
男　憲二　明四二、三生

君は京都府士族戸野周太郎の二男にして慶應二年十二月を以て生れ大正五年兄京造方より分れて一家を創立す明治二十四年東京高等師範學校文科を卒業し後下谷區長東京市助役となり現時四日市市長たり家族は倚孫操子（大八、二生、長男正亨長女）同まさる（同一〇、一生、同二女）同幸子（同一一、一一生、同三女）同たか子（同一五、九生、二男哲夫長女）同和子（昭和三年生、同二女）同眞知子（同五、二生、三男秀夫長女）あり（四日市市長公舍）
參照＝※富田逸二郎の項

### 戸原與四郎
從五位、鐵道局技師、札幌鐵道局電氣課長、東京府在籍

妻　龍　明三〇、七生、東京、士、西義克妹
男　春彥　大七、三生

君は福岡縣人戸原東作の四男にして明治十八年十二月を以て生れ大正十四年兄泰太郎方より分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し橫濱電氣會社に入り後北海道水電會社技師長に轉じ大正十年鐵道技師に任命歐洲各國に出張す歸朝後臨時川崎電氣事務所長に就任し昭和五年鐵道局技師に任ぜられ現に前記の職に在り家族は倚二男駿二（大一〇、八生）三男秀三（同一三、三生）長女章子（同一五、九生）四男四郎（昭五、一生）あり（札幌、北九條東四丁目鐵道官舍六七號電一一九六）

### 戸張志智之助
時事新報社㈱監査役　埼玉縣在籍

母　うめ　天保一〇、七生、埼玉、榎本幸左衛門長女
妻　くら　明七、一一生、群馬、高間兼吉二女
男　正胤　明二九、一生、法學士、日本郵船會社員
婦　繁子　明三九、四生、長男正胤妻、神奈川、松本新太郎四女

戸張家は古くより武州吉川町に定住し代々大庄屋を勤め苗字帶刀を許されたる家柄なり君は先代七郎の長男にして萬延元年九月を以て生れ明治二十八年家督を相續す同十三年慶應義塾本科を卒業し故福澤翁の推薦により時事新報社に入り會計部長を經て常務取締役に擧げられしが大正十二年勇退して現時監査役に止る圍碁及將棋を娛む家族は倚孫智雄（昭三、一〇生、長男正胤長男）あり長女みつ（明二六、一一生）は東京府士族磐瀨玄策三男三井銀行員三郎に妹ちよ（同八、五生）は埼玉縣人戸張彌助に嫁し二男榮助（同三二、八生、慶大理財科出身）弟武治（同元、六生、東京法學院出身）は各分家せりA一一三（東京市外入新井町新井宿美奈見一一〇二電大森一〇三〇）
參照＝松本新太郎、※田中辰三の項

### 戸張新兵衛
戸張麻糸製作所㈾代表社員、麻糸帆布船具商、東京府在籍

君は東京府人先代新兵衛の二男にして明治三十七年十二月を以て生れ昭和二年家督を相續し前名捷を改め襲名す麻糸帆布船具商を營み戸張麻糸製作所を主宰す家族は妹周子（明三八、一二生）弟樹一（大三、八生）妹晴代子（同四、一一生）あり伯父要吉（明元、一二生）同妻ひさ（同八、八生、東京、林爲造養子）は其子女を伴ひ分家し叔父保之助（同一七、七生）も亦分家し叔母ろく（同一七、九生）は東京府人塚田貢に嫁し叔父正五郎は同府人秋艸虎之助の養子となれり（東京、日本橋、南茅場町一三電茅場町五九三）
參照＝秋艸正五郎の項

### 戸部銀次郎
帝國種苗殖產、東京演藝各㈱取締役、東京府在籍

妻　そよ　文久三、九生、東京、淺見清左衛門二女
男　長太郎　明二三、五生、帝國種苗殖產㈱販賣部長、現戸主
婦　よね　明二七、六生、長男長太郎妻、東京、西山安久作三女

戸部家は古くより農及農產種苗商を營める舊家なり君は先代重右衛門の二男にして安政五年四月を以て生れ明治二十五年家督を相續し昭和三年退隱す大正九年從來經營せる種苗業を株式組織とし前記會社を創立し現に其重役たり家族は倚孫銀作（大九、四生、長男長太郎長男）同章子（同一〇、一〇生、同長女）同久子（昭二、一一生、同二女）あり長女なみ（明二〇、九生）同夫健藏（同一三、七生、東京、永澤利助三男）三女さく（同二九、一生）同夫庄作（同二五、四生、千葉、西宮幸藏弟）は各分家し弟重太郎（同三、一二生）も亦分家し五女コト（同三七、九生、日本高女出身）は末永亮三に嫁せりA一五九五（東京市外西巣鴨町堀ノ内一〇二七電大塚五八四）

### 戸部良祐
衆議院議員（石川縣選出）、加能撚織㈱取締役、石川縣在籍

妻　アサノ　明一六、一生、石川、西爲義長女
男　良雄　明三七、九生

君は石川縣人戸坂林造の二男にして明治八年七月を以て生れ先代新次の養子となり同三十九年家督を相續す夙に明治法律學校を卒業し現時加能撚織會社取締役にして昭和五年石川縣より推されて衆議院議員に當選し立憲民政黨所屬たり曩に石川縣會議員に擧げらる家族は倚庶子ヒロ子（大一一、三生、生母、石川、中村初枝）同新十郎（同一五、四生、生母同上）あり（石川、鹿島、七尾町）

### 戸祭文造
正四位勳一等、退役海軍々醫中將　福井縣士族

妻　政喜　明一二、五生、東京、長谷川多嘉母
男　齋　明二一、四生、陸軍步兵大尉
婦　芳子　明三四、四生、長男齋妻、福岡、遠藤善十郎長女

君は福井縣士族高橋枚芳の弟にして安政六年十月を以て生れ先代脩の養子となり明治三十八年家督を相續す同年帝國大學醫科大學を卒業し同十九年海軍々醫補に任じ大正四年海軍々醫中將に累進す其間海軍大學校教官海軍兵學校軍醫長舞鶴海軍病院長兼同鎭守府軍醫長橫須賀海軍病院長同鎭守府軍醫長等に歷補し現時退役たり家族は倚孫喜美子（大一三、七生、長男齋長女）同榮二（同一五、二生、同二男）あり長女キク（明二九、九生）は東京府人根岸米藏兄餘五に二女フミ（同三四、一一生）は海軍中將市川淸次郎長男一郎に三女キヨ（同三七、八生、實踐女學校出身）は兵庫縣人柳田勇に四女ツル（同四〇、一生、出身校同上）は東京府人玉崎隆三二男工學士坦に五女ヨシ（同四一、一一生、出身校

同上)は長野縣人海軍大尉守屋節司に嫁し二男豐(同二六、一〇生、海軍々醫少佐)は福井縣人高橋ツネの養子となれり(東京市外代々幡町代々木富ヶ谷一五一〇)
參照=市川清次郎、玉崎隆三の項

### 戸水昇
從五位勳六等、臺灣總督府交通局參事、石川縣在籍

妻　とよ　明三四、四生、福井、船越倉吉二女

君は東京府人戸水汪の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正七年家督を相續す同四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し翌年高等文官試驗に合格臺灣總督府鐵道部書記同事務官遞信局監理課長兼爲替貯金課長臺灣總督府交通局參事兼簡易保險局書記官遞信部監理課長臺灣總督府事務官等を經て現時前記の職に在り家族は尙長女靜子(大九、一〇生)あり(臺北、書院町二ノ二)

### 戸水寛人
從四位勳三等、法學博士
石川縣士族

妻　わき　明三、二生、石川、士、山本直一二女
男　元　明二二、六生

君は舊金澤藩士戸水信義の長男にして松寺竹雄の兄なり文久元年六月を以て生れ明治十六年家督を相續す幼名を辛太郎といふ同十五年東京大學法學部の選科生となり後本科生に轉じ同十九年英法科を卒業し判事に任ぜられ東京始審裁判所に奉職す同二十二年英國に留學し同二十六年ミッドル・テンプル大學に於てバリストルアト・ローの稱號を受け更に獨佛に轉じ法律及政治學を研修し歸朝後東京帝國大學法科大學教授に任ぜられ羅馬法々理學及民法學講座を擔當し同三十六年法學博士の學位を授けらる日露戰爭前主戰論を唱へて世の注意を惹けり同四十一年以降衆議院議員に當選すること五回に及ぶ嘗て辯護士事務所を開設し又早稻田大學教授たりしことあり妹三木枝(明元、六生)は石川縣士族山崎範淑弟逸記に同きよ(同六、一生)は故陸軍少佐西鄕邦太郎に同八四亥(同八、四生)は京都府人文學士藤田精一に同五月(同一〇、六生)は故陸軍少佐平尾乙作に嫁せり(東京、芝、三田四國町二ノ一三電三田六五)

### 戸村理順
東京製綱(株)常務取締役、東京針金工業、臺灣織維各(株)取締役
福井縣士族

妻　ミヨ子　明一五、三生、東京、士、中尾信次二女
男　理明　大三、八生

君は福井縣士族戸村甚九郎の長男にして明治二年七月を以て生れ同十二年家督を相續す夙に實業界に入り現時東京製綱會社常務取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙二女耀子(大七、六生)あり長女愛子(同二、三生)は東京府人深澤家治に嫁せりA三〇二六(東京、赤坂、青山高樹町一二電靑山一五四一)

### 外池宇平
柳屋本店、小間物化粧品商
東京府在籍

妻　ツエ　明二三、三生、滋賀、黃地金右衛門二女
男　寅松　大九、八生
女　カネ　大二、七生、日本女大附屬高女在學
女　あい　大五、一生、日本女大附屬高女在學

君は東京府人外池五郎三郎の兄にして明治十三年四月を以て生れ先代宇平の養子となり同二十三年家督を相續し前名寅松を改め襲名す小間物化粧品商を營み柳屋本店として知らる家族は尙二男雄次郎(大一三、一生)二女和(昭三、六生)ありA四九四〇(東京、日本橋、通二ノ二ノ一電日本橋二〇一)
參照=外池五郎三郎の項

### 外池格次郎
下館合同運送(株)取締役社長、常磐銀行(株)取締役、茨城縣在籍

妻　はん　明六、一〇生、茨城、飯島重郎四女
男　達之助　明二六、一一生、早大出身
婦　まさ　明三五、一〇生、三男達之助妻、茨城、種瀨惣助長女、日本女子商業出身
男　眞七郎　明三二、五生、陸軍步兵中尉
婦　たけ　明三九、一一生、六男眞七郎妻、茨城、木村榮一妹、水戸高女出身
男　重輔　明三四、九生、經濟學士
女　ます　明三六、一〇生、下館高女出身
男　良三　明四二、七生、水戸高校在學

君は茨城縣人外池重次郎の長男にして慶應三年八月を以て生れ明治七年家督を相續す現時常磐銀行取締役及下館合同運送會社取締役社長たり家族は尙は孫陽一郎(大一五、六生、三男達之助長男)同多嘉子(昭四、六生、同長女)同幸子(同五、三生、六男眞七郎長女)あり長女きく(明二三、一〇生)は栃木縣人柿沼應藏長男清一に嫁し四男省三(同二八、六生)は茨城縣人片平喜平次の養子となり五男元吉(同三一、一二生)は分家せり(茨城、眞壁、下館町電一八)

### 外池五郎三郎
柳屋、小間物化粧品商
東京府在籍

妻　つた　明二五、四生、滋賀、小谷新右衛門長女

當家は滋賀縣下櫻川村の出なり先々代宇平商略に富み香油煙草製造及小間物化粧品販賣業を創め後鰹節海苔商を兼營せり先代五郎三郎分家して祖業を繼ぎ精勵遂に今日の基を開く君は其の二男にして同宇平の弟なり明治二十一年六月を以て生れ同四十五年家督を相續し前名五三郎を改む同四十三年東京高等商業學校を卒業し祖業を繼ぎて小間物化粧品商を營み柳屋と稱す妹ヒデ(明二六、八生)は滋賀縣人高橋政右衛門二男政治郎に嫁せり(東京、日本橋、通二ノ二ノ一電日本橋二〇一)
參照=外池宇平※矢代こうの項

### 外川平八
青森縣多額納稅者、大鰐釀造(株)取締役、弘前肥料(株)監査役、農業
青森縣在籍

母　とは　安政三、一一生、青森、宇野忠兵衛長女
妻　なを　明一四、一二生、青森、宇野要七三女
男　清司　明三六、一〇生
婦　ツエ　明四〇、四生、三男清司妻、青森、工藤熊五郎三女
女　敏　大二、一生
養子　三太郎　明三二、一〇生、青森、工藤福次郎三男
婦　サヨ　明三二、九生、養子三太郎妻、青森、小西勇次長女

君は青森縣人先代平八の長男にして明治十年十二月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名彌平司を改め襲名す農業を營み傍ら前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅千七百六十五圓を納む家族は尙五男泰三(大五、八生)四女節(同一三、一生)孫正八(昭三、五生、三男清司長男)同昌助(大一一、二生、養子三太郎長男)同康(同一三、三生、同長女)同金平



(同一五、七生、同二男)あり二女能富(明四三、六生)は青森縣人工藤加賀助に嫁し弟四郎(同二三、七生)同妻チゲ(同三一、一一生、青森、相馬利吉孫)は其一男を伴ひ分家せり(青森、南津輕、竹館村)
參照=※工藤十三雄の項

### 外島英二
從五位勳六等、判事、大阪地方裁判所部長、福島縣士族

妻　千代　明三一、一二生、兵庫、中野岩榮二女

君は福島縣士族外島保信の二男にして明治二十五年一月を以て生れ大正二年家督を相續す同五年京都帝國大學法科大學法律學科を卒業し同七年檢事に任じ和歌山地方兼同區各裁判所檢事となり同八年判事に轉じ[illegible]大津地方兼同區奈良地方兼同區大阪區兼同地方各裁判所判事に歷補し昭和三年大阪地方裁判所部長に補せられ今日に至る家族は尙長女衣子(大一〇、六生)二女文子(同一二、二生)三女幸子(同一四、七生)あり妹その(明二六、六生)は山梨縣人中島昭二郎に同わかを(同二九、四生)は福島縣人山家芳雄に嫁せり(大阪市地方裁判所內)

### 外松龜太郎
從四位勳五等功五級、男爵、陸軍步兵大尉、東京府華族

母　まき　嘉永二、一二生、和歌山、士、波切彥四郎長女
妻　琴子　明二三、一生、子爵三好東一姊
男　昭二　昭二、九生
男　良一　明三六、一一生、藝名竹內良一
女　百合子　明四〇、七生、學習院女學部出身

當家は先代孫太郎より家名を揚ぐ孫太郎は舊和歌山藩士にして明治十二年會計軍吏補となり累進して陸軍主計總監に陞る陸軍省會計局庶務係同經理局課員同主計課長を經て經理局長の任に在る事多年同四十年日露役の功に依り華族に列し男爵を授けられ後貴族院議員に擧げらる君は其長男にして大堀楠之丞の養甥なり明治八年一月を以て生れ大正十五年家督を相續し襲爵仰付けらる夙に軍籍に入り明治三十七年陸軍步兵大尉に累進し日露役の功に依り功五級を賜ふ後豫備役に入り大正十三年後備役に編入せらる家族は尙三女昭四(昭四、六生)あり妹すへの(明二一、六生)は分家せり(東京市外調布町上石原一六三)
參照=子爵三好東一、大堀楠之亟の項

### 外村市郎兵衛
滋賀縣多額納稅者、織物商
滋賀縣在籍

母　れい　慶應三、二生、先々代市郎兵衛長女
妻　いと　明二一、一生、養父市郎兵衛長女

君は滋賀縣人谷增次郎の弟にして明治十年三月を以て生れ先代市郎兵衛の養子となり大正七年家督を相續し前名市三郎を改め襲名す織物商を營み直接國稅二萬六千二百八十五圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙養子勢(大七、一生、滋賀、外村與左衛門五女)あり(滋賀、神崎、南五箇莊村)
參照=外村與左衛門※外村鐵三郎の項

### 外村宇兵衛
御幸毛織(株)社長、日本ビロード、日本共立生命保險各(株)取締役、大阪製麻(株)監査役、滋賀縣在籍

妻　きく　明一一、七生、京都、岩井八兵衛妹
養子　孝之助　明二九、三生、滋賀、外村吉太郎長男
婦　富士　明三八、二生、養子孝之助妻、滋賀、石黑信彥妹

君は滋賀縣人先代宇兵衛の長男にして明治八年一月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名謙藏を改め襲名す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫百合子(大一五、九生、養子孝之助長女)同一雄(昭四、四生、同長男)同孝(同六、二生、同二男)あり弟格二郎(明一三、三生)同伴三(同一七、四生)同專五郎(同二一、一〇生)は各分家せり(滋賀、神崎、南五箇莊村)

### 外村定治郎
京都府多額納稅者、吳服商
京都府在籍

養母　みち　明七、一二生、京都、長谷川源三郎二女
妻　惠美　明三八、八生、養父定治郎二女、家政女學校出身
男　禮三　昭二、四生

君は滋賀縣人宮川彥治郎の三男にして明治三十四年三月を以て生れ先代定治郎の養子となり大正十四年家督を相續し前名治を改め襲名す吳服商を營み京都府多額納稅者にして直接國稅九千七百三十四圓を納む(京都、中京、堺町六角下ル電本局七〇〇)

### 外村鐵三郎
安治川土地(株)取締役
京都府在籍

妻　その　明三〇、一一生、滋賀、松居久右衛門三女、京都淑女高女出身
男　晃一　大九、一生

君は滋賀縣人外村與七郎の四男にして明治二十三年三月を以て生れ大正十一年兄與左衛門方より分れて一家を創立す夙に慶應義塾理財科を卒業し現時安治川土地會社取締役たり家族は尙長女榮津子(大一一、三生)二男昌三(同一四、一生)ありA一五七二(京都、左京、岡崎圓勝寺町一五四ノ一電上二四七七)
參照=外村與左衛門※外村市郎兵衛の項

### 外村與左衛門
近江貯蓄銀行(株)常務取締役、安治川土地、北川各(株)取締役
滋賀縣在籍

妻　被佐　明一八、一〇生、滋賀、正野玄三長女
男　英一郎　明四〇、一〇生
男　周三　明四三、一生
女　壽　大四、九生

君は滋賀縣人外村與七郎の長男にして同鐵三郎の兄なり明治十一年三月を以て生れ同十二年家督を相續す現時前記各會社の重役にして曩に紺綬褒章を下賜さる家族は尙六女東久(大一一、三生)あり五女勢(同七、一生)は滋賀縣人外村市郎兵衛の養子となり弟彌八郎(明一六、一生)同八郎兵衛(同一二、八生)叔父定治郎(慶應元、三生)二女まち(明三八、八生)同夫富三(同三三、二生、京都、山本重三郎弟)は共に各分家せりA八八六〇五B三六四〇(京都、上京、柳馬場三條上ル電上七三九)
參照=外村市郎兵衛、外村鐵三郎の項

### 外村米吉
百三十三銀行(株)常務取締役、滋賀合同貯蓄銀行(株)取締役
滋賀縣在籍

男　隆三　明三二、七生
男　文藏　明三四、八生
女　智　明四二、一一生
女　春　大四、三生

君は滋賀縣人外村德平の二男にして明治元年五月を以て生れ同二十九年家督を相續す現時前記銀行會社の重役にして曩に彥根倉庫會社代表取締役近江貯蓄銀行常務取締役たりし事あり家族は尙五男庸三(大二、三生)あり長女とく(明二九、二生)は滋賀縣人春日亭に三女

道子(同四一、一〇生)は同縣人內藤忠五郎に嫁し四男駿平(同三九、八生)は同縣人稻本唯七の養子となれり(滋賀、犬上、彦根町電一六九)

**外山重義**　正五位勳四等、檢事、帶廣區裁判所檢事、東京府在籍

妻　カツ　明二三、一〇生、岩手、士、一戸武雄三女
男　俊男　明四二、一一生
男　武次　明四四、一〇生

君は山梨縣人中島金右衞門の四男にして明治十二年七月を以て生れ先代しゆんの養子となり昭和四年家督を相續す明治三十五年日本法律學校を卒業し同三十七年判檢事登用試驗に合格し同三十九年判事に任じ盛岡地方酒田區各裁判所判事を經て大正二年檢事に轉じ爾來若松區大館區熊本區同地方山鹿區御船區中津區伊那區新發田區新潟地方高崎支部飯田區兼長野地方飯田支部大田原區各裁判所檢事を經て昭和五年現職に轉ず家族は尚三男三雄(大三、二生)四男義雄(同七、一二生)長女久子(同一一、二生)あり(北海道、帶廣、帶廣區裁判所檢事局內)

**外山修三**　日蘭漁業㈱專務取締役、化學製劑㈱常務取締役、東京府在籍

君は舊紀州藩士外山民次郎の長男にして慶應二年九月を以て生れ明治三十九年弟陸軍少將豐造方より分れて一家を創立す後家督を長男商工省技師工學博士修之に讓り大正十四年更に分れて一家を創む夙に化學を專攻し物理化學の中等教育に從事する事十餘年又支那に聘せられ在支四年歸朝後貿易又は鑛業に從事し現時日蘭漁業會社專務取締役の外前記會社の重役たり二女峯子(明三五、三生)は本多靜六長男博に嫁せりA二四〇〇(東京、本郷、弓町二ノ二電小石川二五三九)
參照＝外山豐造、本多靜六の項

**外山捨造**　香燒コークス㈱社長、大阪瓦斯㈱取締役、大阪貯蓄銀行、阪神電氣鐵道、濱寺土地各㈱監査役、商業興信所㈴監事、大阪府在籍

妻　ハル　明二一、一生、大阪、藤本一二二女
男　修　明四一、九生
女　道子　大元、九生

君は大阪府人外山脩造の三男にして明治十六年三月を以て生れ同三十七年家督を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學を卒業し現時前記各銀行會社の重役にして曩に工業之日本社を創立し社長たりし事あり兄秋作(慶應元、八生)は其妻サク(明五、一一生、大阪、堀田元太郎妹)及其三男を伴ひ弟正二(同一八、一一生)は同妻いく(同一五、一〇生、大阪、篠田政次郎二女)及其一子を伴ひ各分家し兄貞吉(同七、五生)も亦分家し姉リン(同一一、三生)は熊本縣士族故衆議院議員江藤哲藏の未亡人にして庶子勉(大七、九生)は其生母大阪府人小谷ハルの家籍に入れり(大阪、西、京町堀通一ノ一六電土佐堀一七八二)

**外山統一郎**　東陽㈱監査役　東京府在籍

父　政藏　明元、七生、現戸主
妻　ふみ　明四〇、一二生、埼玉、吉田辨吉二女、跡見女學校出身

君は東京府人外山政藏の長男にして明治三十二年五月を以て生る夙に慶應義塾大學に學び東陽株式會社に入り大阪支店詰を經て現時同社監査役たり家族は尚長女淑子(昭三、四生)ありA二一七九(東京、麹町、富士見町二ノ三四電九段一五六二)
參照＝外山政藏の項

**外山知三**　三井銀行㈱取締役兼營業部長　東京府士族

養父　義達　嘉永五、三生、現戸主
養母　スヾ　安政三、八生、東京、士、朝倉寬妹
妻　タツ　明一七、一一生、養父義達二女
男　義夫　明四三、七生、慶大在學
女　嘉壽江　大四、五生、雙葉高女在學

君は休職大審院判事松本安藏の弟にして明治十二年三月を以て生れ同三十九年外山義達の養子となる同三十五年慶應義塾理財科を卒業し三井銀行に入り銀行業視察の爲め歐米各國に派遣せられ在留すること三年にして歸朝本店營業部次長深川日本橋横濱各支店長に就任し現時同行取締役に擧げられ營業部長を兼ぬ家族は尚三男恭三(明四五、二生、横濱高工在學)四男昌吾(大三、二生)五男敏夫(同六、三生)三女幸江(同七、一二生)六男文夫(同一〇、三生)七男英夫(同一一、一二生)四女愛(昭三、六生)あり長女玉江(明三九、一〇生、雙葉高女出身)は宮城縣人遞信書記官木村庸治に嫁し二男達夫(同四三、七生、慶大在學)は分家し養妹壽(同二三、一生)同夫鋼(同一八、八生、長野、士、中村盛鐵四男)も亦其子女を伴ひ分家し甥甫(大七、九生、養弟鋼三男)は愛知縣人村瀨その養子となれりA四八六五(東京、麻布、市兵衞町二ノ一二電赤坂一七七三)
參照＝※板倉謙太郎※高橋貞三郎の項

**外山豐造**　從四位勳二等功五級、陸軍少將、朝鮮憲兵隊司令官、和歌山縣士族

母　かよ　弘化元、九生、和歌山、和田喜平治二女
妻　豐子　明二三、一〇生、島根、士、松本古一郎妹
男　素彥　明四四、九生

君は和歌山縣士族外山民次郎の二男にして明治十三年十月を以て生れ同十七年先代兄芳之助の後を承け家督を相續す同三十四年陸軍步兵少尉に任じ大正十五年陸軍少將に累進す其間陸軍大學校を卒業し參謀本部々員陸軍大學校兵學教官步兵第二十八旅團長近衞師團司令部附等に歷補し昭和五年朝鮮憲兵隊司令官に補せらる家族は尚二男成道(大元、九生)三男正道(同三、五生)六男利道(同一〇、四生)あり四男巖夫(同五、五生)は和歌山縣人和田倘橋の養子となり兄修三(慶應二、九生)は分家し妹主計(明一八、五生)は愛媛縣士族羽藤清次郎四男辰一に養姉かれ(同四、六生、和歌山、爪田清六長女)は和歌山縣人倉田績に嫁せり(京城、倭城臺)
參照＝外山修三、松本古一郎※本多靜六の項

**外山正之助**　武田長兵衞商店㈱取締役、大五製藥㈱監査役、大阪府在籍

妻　たれ　明一九、一〇生、大阪、竹內槌松三女
男　章夫　大二、五生

君は大阪府人外山甚兵衞の二男にして明治十年九月を以て生れ同十一年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尚長女方子(大六、一二生)三男昇(同一一、九生)あり(大阪、北、若松町五)

**外山英賚**　從五位、子爵　舊公卿家

當家は參議藤原眞夏の裔權大納言日野弘賚の二男權大納言光顯の後なり光顯別に一家を建て家號を外山と稱す夫より五代を經て光壁に至り明治十七年子爵を授けらる先代政庸豐岡子爵家より入りて其後を享く君實は子爵豐岡圭資の二男にして明治四十年十一月を以て生れ大叔父光庸の養子となり大正八年襲爵仰付けらる家族は養妹道子(大五、一生)あり(東京、赤坂、青山南町五ノ八七)
參照＝子爵豐岡圭資※子爵藤谷爲寬の項

**外山政藏**　東陽㈱相談役　東京府在籍

妻　類　明一五、三生、埼玉、松本三平三女、女子美術出身
男　統一郎　明三二、五生
男　次郎　明三五、四生、慶大出身、山口銀行員

君は武州川越に於て藍玉染料商を營み舊家の稱ある安齋家の出なり當主利兵衞の叔父にして明治元年七月を以て生れ先代その養子となり同十八年家督を相續す夙に實父利兵衞を扶けて東陽株式會社を創立し社務一切を鞅掌して同社今日の基礎をなす曩に同社長を辭し現時相談役にして資產家として知らる謠曲を趣味とす家族は尚三男平和(大八、一生)ありA三三八五(東京、麹町、富士見町二ノ三四電九段一五六二)
參照＝外山統一郎の項

**外山彌助**　東京府多額納稅者、三彌、吳服太物商、東京府在籍

妻　ユキ　明一四、二生、養父眞美長女
養子　逢三郎　明二八、九生、長女チヤウ夫、栃木、大川文二郎長男
女　チヤウ　明三六、八生、養子逢三郎妻

君は京都府人多田作助の長男にして明治四年四月を以て生れ外山眞美の養子となり同四十一年分れて一家を創立し前名貞次郎を改む三彌と稱し吳服太物商を營み東京府多額納稅者たり家族は尚四女芳子(大九、一二生)孫惠以子(同一五、六生、養子逢三郎二女)同道子(昭三、一〇生、同三女)同暢子(同五、三生、同四女)あり二女次子(明三八、六生)は京都府人多田トモの養子となれり(東京、日本橋、元濱町九電浪花一三〇六)

**利根龜兒**　横濱正金銀行㈱頭取席詰　高知縣在籍

父　常三郎　安政四、一二生、高知、畠中又十郎長男
母　花　安政六、六生、高知、田村和吉妹
妻　茂　明二五、九生、高知、森澤竹馬四女
男　常信　大五、二生

君は高知縣人利根常三郎の三男にして明治十七年七月を以て生れ昭和五年家督を相續す明治四十年神戸高等商業學校を卒業し横濱正金銀行に入り大正八年バタビア支店副支配人本店副支配人に進み爾來スウラバヤ及ハルビン各支店支配人を歷任し現時頭取席詰たり家族は尚長女貞子(大六、六生)二男常敬(同一〇、一一生)三男常晉(同一三、六生)四男正義(同一五、四生)妹フキヨ(明二〇、四生)あり弟東洋民(同二二、一一生)同東洋彥(同二六、二生)は各分家し妹寬惠(同二八、九生)は高知縣人山本源之助に同久壽喜(同三六、一生)は同縣人北原實馬に嫁せりA七二四(東京市外入新井町新井宿二二八〇)

**利根川久衞**　大正乘合自動車㈱社長、下野電氣鐵道、鳥ケ原礦業各㈱取締役　新潟縣在籍

母　キヨ　安政五、四生、新潟、陸川糸右衞門二女
妻　サダ　明三三、一生、新潟、杉田實妹
男　久司　大二、二生
女　久仁　大四、三生

君は新潟縣人利根川久右衞門の長男にして明治九年七月を以て生れ同三十三年家督を相續す夙に東京專門學校に學び日露役に從事す後麻布青山に郵便局長たること十餘年現時大正乘合自動車會社長の外前記各會社の重役たり家族は尚弟善次郎(明二〇、六生、駒場農學校出身、愛媛縣立農學校敎諭)同妻柳(同二七、一生、東京、士、米倉正直二女)及其子女あり妹ソヨ(同二八、一一生)は北海道人石垣開一に同ミネ(同一七、三生)は東京府人高橋三代治に嫁せり(東京市外品川町北品川御殿山七四五電高輪二四五〇)

**利根川守三郎**　正五位勳四等、工學博士、古河電氣工業㈱取締役、東京帝國大學工學部講師、廣島縣士族

養父　浩　嘉永四、一二生、現戸主
妻　春　明一三、六生、東京、士、上野翊郎妹
男　武　明三八、七生
男　勉　明四三、二生
女　光子　大元、一〇生

君は廣島縣士族岡本量藏の三男にして明治六年三月を以て生れ同二十五年利根川浩の養子となる同三十年東京帝國大學工科大學を卒業し遞信技師電氣試驗所長遞信局技師に歷任し現に東京帝國大學講師にして前記會社の重役たり大正四年工學博士の學位を受く家族は尚三男雋(大四、六生)四男守(同七、一一生)あり長女靜子(明三五、三生)は京都府人堀岡正家に嫁せり(東京市外大井町林附三三四ノ二二電高輪六一〇〇)

**利見又吉郎**　利見商事㈱社長、利見㈴代表社員　家主、大阪府在籍

母　とみ　安政二、九生、祖父又兵衞長女
妻　クニ　明一七、四生、大阪、中濱善右衞門二女
男　又一郎　明四〇、八生、東京商業學校出身
女　德子　明四二、四生、生野高女出身
男　又二郎　明四四、六生、東京商業學校出身
女　きみ　明四五、六生、大谷高女出身
女　千代子　大三、二生、大谷高女在學
女　靜子　大五、七生、大谷高女在學

君は元兵庫縣出身利見又兵衞の長男にして明治十二年八月を以て生れ同二十四年家督を相續す夙に大阪高等商業學校を卒業し家主にして又利見商事會社長利見合名會社代表社員たり家族は尚六女駒子(大八、四生)七女善子(同一一、五生)八女初子(同一三、一生)九女惠美子(昭三、三生)あり長女阿彌子(明三七、一生)は京都府人大庭慶三に嫁せりA四四四(大阪、住吉、旭町三ノ一一〇電戎六三三)

**利光學一**　澁谷急行電氣鐵道㈱副社長、鬼怒川水力電氣㈱常務取締役、東京山手急行電鐵各㈱取締役、關東水力電氣㈱監査役、東京府在籍

繼母　ちか　慶應三、二生、群馬、山下勘作養母
妻　カネ　明二八、四生、福島、栗崎康太郎妹
男　一久　大二、一〇生

君は大分縣人利光近松の二男にして明治十七年十月を以て生れ先代品吉の養子となり大正九年家督を相續す現時澁谷急行電氣鐵道會社副社長にして前掲諸會社の重役たり(東京、北多摩、狛江村岩戸一三二)
參照＝栗崎康太郎の項

**利光丈平**　京成電氣軌道㈱常務取締役、渡良瀨水電㈱取締役、東京府在籍

妻　花　明二三、五生、東京、若林英一妹





(※印は姻族關係)

男　博　大三、三生
女　紀美代　明四五、二生
君は大分縣人利光綾太郎の二男にして明治四年八月を以て生れ同四十年兒吉郎方より分れて一家を創立す大正二年日本大學を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙二女照代(大六、八生)三男達三(同九、四生)あり(千葉、東葛飾、市川町)
參照＝若林英一の項

## 利光鶴松　鬼怒川水力電氣被濟會㈱取締役會長、鬼怒川水力電氣、小田原急行鐵道、東京山手急行電鐵、澁谷急行電鐵各㈱社長、東京府在籍

妻　トヨ　明二、一一生、東京、若林源兵衛從姉
養子　松男　大一二、一一生、東京、伊東亮一二男
君は大分縣人利光一松の長男にして文久三年十二月を以て生れ明治十二年家督を相續す夙に明治法律學校を卒業して代言人となり自由黨に入り星亨の知遇を得て東京市會議員衆議院議員等に當選す後實業界に入り東京市街鐵道千代田瓦斯東京瓦斯諸會社の重役に擧げられ尋で鬼怒川水力電氣會社を創立して經營今日に至り現時同被濟會取締役會長にして前記各會社長たり長女靜江(明二六、九生)は東京府人伊東亮一に嫁せり(東京、北多摩、砧村喜多見二一五五電砧二)
參照＝伊東亮一の項

## 都倉義一　實業之日本社㈱專務取締役　神奈川縣在籍

父　義知　安政六、三生、現戶主
繼母　コウ　慶應元、二生、神奈川、吉原淺治郎妹
妻　ユウ　明一二、一二生、神奈川、柴原ケイ長女
男　一男　明三四、一〇生
男　應雄　明三七、九生
男　儀郎　明三九、七生
男　寧　明四四、五生
君は神奈川縣人都倉義知の長男にして明治十年二月を以て生る同三十年東京專門學校英語政治科を卒業し翌年實業之日本社に入り編輯事務に携り大正九年歐米を視察す多年實業之日本の主筆となり後編輯局長たりしが昭和四年七月辭任同年十二月組織變更と共に專務取締役に擧げらる家族は尙孫喜久代(昭三、一〇生、長男一男長女)あり(東京、牛込、喜久井町二〇電牛込二五〇五)

## 等々力森藏　正四位勳二等功四級、陸軍中將　東京府在籍

妻　うた　明一三、二生、東京、生駒重義長女
男　龍雄　明三六、八生、陸軍步兵中尉、陸軍士官學校附
婦　榮　明四二、七生、長男龍雄妻、陸軍中將大野豐四二女、實踐女學校出身
男　武雄　明四三、四生
女　幸子　明四四、一一生
女　宣子　大三、三生
君は長野縣人等々力久彌の二男にして明治六年五月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す同二十八年陸軍士官學校を卒業し同年陸軍步兵少尉に任じ大正十五年陸軍中將に累進す其間步兵第十七同第五十三各聯隊長步兵第五旅團長近衛步兵第一旅團長及陸軍戶山學校長等に歷補し現時豫備役たり家族は尙五女政子(大七一二生)六女紀子(同一一、二生)五男美雄(同一三、三生)あり(東京市外井荻町上井草一五二〇)
參照＝大野豐四の項

## 土井粂次郎　資產家　愛知縣在籍

妻　ちゑ　明一一、二生、愛知、土井七右衛門三女
男　賢一　明三七、一一生
女　好子　明四五、七生
君は愛知縣人宮崎市兵衛の二男にして明治元年三月を以て生れ同二十九年先代ちゑの入夫となり家督を相續す資產家にして曩に名古屋製粉所東海紡績會社重役たり家族は尙四男宏二(大二、九生)あり三女靜子(明三〇、八生)は愛知縣人吉川定助四男重治に四女月(同三二、一一生)は同縣人小澤利右衛門長男利一に嫁せりA七四九(名古屋、西、鹽町三ノ五二電西一六〇)
參照＝※加藤萬治郎の項

## 土井慶吉　ホテルニューグランド㈱常務取締役、神奈川縣在籍

妻　秀子　明二四、六生、兵庫、範多龍太郎養子
君は兵庫縣人土井楠平の三男にして明治十七年二月を以て生れ大正十三年兒光藏方より分れて一家を創立す明治四十年神戶高等商業學校を卒業し現時ホテルニューグランド會社常務取締役たりA七五一(橫濱、鶴見、東寺尾町一五九八電鶴見七二三)
參照＝範多龍太郎の項

## 土井權大　衆議院議員(兵庫縣選出)　兵庫縣在籍

妻　靜惠　明二一、五生、兵庫、宗野重次郎長女
男　王明　明四五、三生
君は兵庫縣人先代權大の長男にして明治十二年十一月を以て生れ同三十一年家督を相續し襲名す同三十六年早稻田大學英語政治科を卒業し農業を營み傍ら北米及ブラジル移民事業に從事し專ら意を農業政策に注ぎ曩に小作制度調查委員米穀委員仰付けらる昭和二年秋產業に盡せし廉を以て勅定藍綬褒章を賜はる大正六年以來衆議院議員に當選する事五回現時立憲政友會に屬し農政會調查部長たり家族は尙二男大吉(大四、八生)三男三吉(同七、二生)四男仙吉(同一一、二生)あり二女節子(明四〇、三生、日本女子大學校出身)は姬路高等學校教授塚本義之に嫁せり(兵庫、揖保、石海村岩見構六七ノ二)

## 土井茂　土井內科醫院長、醫師　愛知縣在籍

妻　しげ　明二四、九生、三重、池田たれ孫
男　康生　大三、二生
女　靜江　大元、一一生
女　田鶴子　大五、一生
君は愛知縣人丹下武左衛門の三男同茂十郎の弟にして明治十七年五月を以て生れ先代とくの養子となり昭和四年家督を相續す醫師にして土井內科醫院長たり(名古屋、中、新榮町六ノ一二電東四五〇)
參照＝丹下茂十郎の項

## 土井實太郎　山口縣多額納稅者、土井商事㈱取締役、反物卸商及自動車業　山口縣在籍

妻　フサ　明元、一生、山口、原田直吉長女
養子　實　明二九、二生、山口、藤井清太郎甥、土井商事㈱取締役





婦　ウメ　明三二、三生、養子實妻、山口、伊藤喜兵衛姉
君は山口縣厚狹郡吉田村藤井清太郎の弟にして慶應元年九月を以て生れ明治二十七年先代平藏の死跡を相續す反物卸商及自動車業を營み現に前記會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅四千三百四十一圓を納む家族は尙孫智惠子(大九、四生、養子實長女)同美代子(同一三、五生、同二女)同昭一(昭二、一生、同二男)同淸二(同四、四生、同三男)あり(下關、觀音崎町電四二一一)

## 土井重吉　山口縣多額納稅者、長州鐵道、關門汽船、大里製鹽所、長府土地、下關商事、下關倉庫各㈱取締役、馬山陽電氣軌道、下關米取引所、關製紙各㈱監査役、山口縣在籍

繼母　ヤヱノ　明二、二生、山口、旭眞締長女
妻　テル　明一四、一〇生、山口、末富鴻介長女
男　重郎　明三〇、六生
婦　壽子　明三四、一生、長男重郎妻、山口、安部孫兵衛長女
君は山口縣人先代重吉の長男にして明治十年九月を以て生れ大正四年家督を相續し前名彌三郎を改め襲名す明治三十年下關商業學校を卒業し現時前記各會社の重役にして直接國稅一千六百十九圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫多惠子(大一一、一一生、同長男重郎長女)同六郎(同一五、一一生、同長男)同昭重(昭五、八生、同二男)あり(下關、觀音崎町九三電四七六)

## 土井順　大阪府會副議長、土井病院主、醫師、大阪府在籍

妻　キヌ　明七、三生、大阪、山下卯之松妹
男　順也　明三二、一生
婦　ヨシノ　明三七、九生、長男順也妻、兵庫、尾崎武市郎妹
君は石川縣人中村淺次郎の二男にして慶應元年七月を以て生れ先代喜兵衛の養子となり明治十四年家督を相續し後前名與助を改む醫師にして土井病院を經營し大阪府會副議長に推さるA二四四(大阪、港、九條通三ノ五七〇電西二〇五)
參照＝尾崎武市郎※山中五兵衛の項

## 土井正司　千代田生命保險(互)取締役兼東京支部長、千葉縣在籍

繼母　とみ　明二、五生、千葉、平野力太郎母
妻　富美　明二五、四生、愛媛、兒島八二郎三女
男　和夫　大五、一一生
君は千葉縣人土井七郎の長男にして明治十八年五月を以て生れ大正十三年家督を相續す夙に慶應義塾を卒業し現時千代田生命保險會社取締役兼東京支部長たり家族は尙弟淸次(明二五、七生)同妻ナツ(同三四、六生、千葉、加藤卯之助四女)及其二子ありA六七〇(東京市外澁谷町大山二〇電靑山五八七)

## 土井正治　住友(合)東京支店總務課長　兵庫縣在籍

養祖母　くい　嘉永四、九生、兵庫、中澤信十郎長女
養母　たき　明一一、四生、兵庫、小寺牛四郎二女
妻　多惠　明三五、九生、兵庫、淸水英太郎長女、樟蔭高女專攻科出身
男　正裕　大一四、一二生
土井家は兵庫縣尼崎市外杭瀨村土着の素封家にして德川時代には累世庄屋を勤めたる地方の名門なり君は兵庫縣人武內升量の長男にして明治二十七年五月を以て生れ大正十一年土井家の養嗣子となり家督を相續す同九年東京帝國大學法學部獨法科を卒業し直に住友合資會社に入り累進して現時同社東京支店總務課長たり家族は尙長女惠美子(大一三、七生)二男正昭(昭五、一一生)あり(東京、本鄕、駒込西片町一〇電小石川二九二四)

## 土井愼一　鳴海土地㈱取締役　愛知縣在籍

妻　富美子　明四一、八生、愛知、早川慶之助二女
君は愛知縣人土井國丸の長男にして明治三十七年七月を以て生れ大正十年家督を相續す現時鳴海土地會社取締役たり家族は尙長女綾子(昭五、二生)弟重雄(明四二、七生)妹政子(同四五、二生)同歌子(大七、六生)あり同照子(明四〇、一〇生)は愛知縣人水谷源助庶子源二郎に嫁し叔父保一(同一八、七生)は其妻郁子(同三三、九生、愛知、竹內佐治三女)と共に分家し叔母かよ子(同二六、三生)も亦分家せり(名古屋、東、赤塚町二ノ二四電東二六)
參照＝水谷源助※川口定嗣の項

## 土井淸次郎　土井商店㈱社長、土井(資)社員、毛織物商、東京府在籍

妻　ミツ　明二七、二生、養父猶楠長女
男　純一　大九、九生
女　美代子　大三、三生
女　喜美子　大五、五生
君は東京府人建部庄八の二男にして明治十九年十一月を以て生れ後土井猶楠の養子となり大正九年養弟彥治郎方より分れて一家を創立す毛織物商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙三女長子(大七、一一生)四女喜志子(同一一、八生)二男恭次(同一三、一〇生)三男讓三(生年月同上)五女延子(昭四、一〇生)ありA一三二八(東京、日本橋、濱町三ノ二電浪花四六九四)
參照＝土井彥治郎の項

## 土井高一郎　播磨電氣鐵道、播電鐵道、九州肥築鐵道各㈱副社長、播丹鐵道㈱取締役、播丹自動車㈱監査役、山陽興業、關西自轉車、中國石村、浪速信託、關西土地興業、神國製藥各㈱相談役、日本計理士會(社法)理事兼評議員、計理士、兵庫縣在籍

父　長三郎　安政五、三生、兵庫、宮崎長兵衛二男、現戶主
母　みれ　慶應三、二生、兵庫、森田淺五郎二女
妻　八重子　明三六、三生、大阪、川上八十吉長女、市岡高女出身
當家は神戶土着の舊家にして苗字帶刀を許されたる家柄なり君は現戶主長三郎の長男にして明治十八年一月を以て生る同三十九年明治大學を卒業し直に實業界に入り日本鹽コークス會社神戶川崎造船所等に勤務せしが當時氏が經營たりし炭礦の大日本炭礦會社に合同と同時に監査役に擧げられ遂に今日の地位を築けり先是大正八年頃より會計士を開業し社團法人日本會計士會を組織し現行計理士法制定せらるゝや無試驗登錄せらる現時前記諸會社の重役及相談役にして播州水力電氣鐵道會社等數會社の精算人に選ばる家族は尙長女喜久子(大一三、七生)二女悅子(昭四、一生)弟美次(明二〇、二生、神戶高等商業出身、住友銀行兵庫支店員)同妻かれ(同三二、三生、兵庫、山本光之助四女)及其子女弟美弘(同三五、一一生、辯護士)あり妹たま(同二三、一二生、神戶親和高女出身)は大阪府人醫師潮田佐一郎に嫁せりA四三一(兵庫、揖保、斑鳩町電鵤三三)

### 土井高禮
三重縣多額納税者、山林業　三重縣在籍

養母　早苗　明七、五生
妻　田鶴　明二九、五生、三重、土井藤右衛門養妹

君は男爵三井壽太郎の弟にして三井高昶の從兄なり明治二十六年六月を以て生れ大正九年先代田鶴の入夫となり家督を相續す山林業を營み三重縣多額納税者に列し直接國税五千三百六十圓を納む（三重、北牟婁、尾鷲町）
參照＝男爵三井壽太郎、土井藤右衛門、三井高昶※子爵牧野忠良※子爵鳥居忠一※男爵三井高精※大村彥一郎の項

### 土井忠兵衛
北山索道、紀勢無盡各㈱取締役　三重縣在籍

妻　くに　明一八、六生、三重、内田忠藏四女
男　治　大四、一生
女　美代　大二、一生

君は三重縣人先代忠兵衛の三男にして明治十六年七月を以て生れ同三十一年家督を相續し前名敎介を改め襲名す現時前記各會社の重役にして曩に北山索道會社長尾鷲電氣會社監査役たりし事あり家族は尙三男厚（大五、七生）弟眞澂（明二五、一一生）同妻はる（同三三、三生、三重、和波久司二女）及其子女あり長女廉（同四二、一二生）は三重縣人和波久衛に嫁し姉やそ（同一〇一二生）は同縣人土井大助の養子となり弟左門（同一九一生、慶應義塾理財科出身）同妻美喜（同二六、三生、三重、士、竹口作兵衛二女）は其子女を伴ひ分家せり（三重、北牟婁、尾鷲町）
參照＝竹口作兵衛の項

### 土井貞次
千葉縣多額納税者、京成電氣軌道㈱取締役、旅館業、千葉縣在籍

妻　くら　慶應三、二生、埼玉、戸塚傳吉六女
養子　豐　明二六、一二生、千葉、山口與助三男、現戸主
婦　まき　明三〇、四生、養子豐妻、千葉、山田俊一郎二女

君は千葉縣人山口八郎の三男にして嘉永六年二月を以て生れ先々代吉右衛門の養子となり後家督を相續し昭和三年隱退す旅館業を營み京成電氣軌道會社取締役にして千葉縣多額納税者に列し直接國税一千二百七十五圓を納む家族は尙孫實（大五、四生、養子豐長男）同德夫（同一二、二生、同三男）同初子（同一五、一〇生、同長女）同廣（昭五、四生、同四男）あり（千葉、印旛、成田町三五五電一二）

### 土井藤右衛門
北山索道㈱取締役　三重縣在籍

妻　ちよ　明四一、三生、新潟、山林仁平二女

當家は土井大炊頭利勝の裔土井忠兵衛より分れて一家を創立し五代を經て先代藤右衛門に至る代々藤右衛門を襲名す君は三重縣人木村醬太郎の七男同敎義同秀興の弟にして明治二十五年一月を以て生れ先代藤右衛門の養子となり同四十三年家督を相續し前名卓爾を改む大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時北山索道會社取締役にして曩に大臺林業會社監査役たり養妹田鶴（明二九、五生）は分家して三井高禮を迎へり（東京、芝、白金三光町二五六ノ五電高輪七四一〇）
參照＝木村敎義、木村秀興、土井高禮の項

### 土井利章
從五位、子爵　舊越前大野藩

母　麗子　明一四、七生、子爵小笠原長定大叔母

當家は土井大炊頭利勝の三男侍從利房の後なり利房父の所領を分與され一家をなし後老中に進み越前大野四萬石に加封せらる七代利忠蝦夷開拓に貢獻する處尠からず功に依り從三位を贈らる八代利恒叉戊辰の役に功あり次で明治十七年子爵を授けらる君は先々代從三位利剛の二男先代從五位利康の弟にして明治三十九年一月を以て生れ大正十二年家督を相續し襲爵仰付けらる學習院に學び米國に渡航しフランクリン・アカデミーを卒業し目下猶研究のため滯米中なり家族は尙弟利敬（明四〇、一二生、京大經濟學部在學）妹喜美（同四三、一二生、女子學習院出身）弟信良（同四五、二生）あり姉錦（同三六、三生）は子爵土井利孝に嫁し同富喜（同三七、九生）は子爵小笠原長定の母たり（東京、牛込、袋町二五電牛込一八四）
參照＝子爵小笠原長定、子爵土井利孝※子爵柳生俊久の項

### 土井利孝
正五位、子爵　舊下總古河藩

妻　錦　明三六、三生、子爵土井利章姉
男　定昭　昭三、八生

當家は源頼光の支裔土岐定親の孫土井遠江守貞秀の後なり五代を經て大炊頭利勝に至る利勝德川秀忠に仕へ大老職に陞り次第に封を增し下總國古河十六萬二千石を領す夫より十三代を經て先代利與に至り宮中勤番主獵官等に歷任す君は先代利與の男にして明治三十四年二月を以て生れ昭和四年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尙妹富美子（大元、一一生）弟利正（同四、一生）妹辰子（同五、七生）弟利大（同九、八生）妹美惠子（同一二、九生）あり同與志子（同三、九生）は東京府人井關美雄の養子となれり（東京、本郷、駒込曙町一一電小石川三五〇一）
參照＝子爵土井利章※子爵小笠原長定の項

### 土井利美
正四位、子爵　舊三州苅谷藩

妻　愛子　明二六、一二生、子爵本多忠晃姉
女　正代子　大三、一〇生
女　美代子　大五、六生

當家は土井大炊頭利勝の次男兵庫頭利長の後なり利長父の所領を分與され別に一家を爲し三州西尾二萬三千石を領す後代更に同國苅谷に移り十三世を經て先代忠直に至り明治十七年子爵を授けらる君は忠直の男にして明治十七年十二月を以て生れ同四十二年家督を相續し襲爵仰付けらる同三十九年學習院を卒業す旅行を趣味とす弟忠正（明一九、五生）は松平子爵家を相續し同利安（同二五、二生）は分家し大叔母谷子（慶應二、二生）は子爵山口弘達に嫁せり（東京、下谷、茅町二ノ八）
參照＝子爵本多忠晃、子爵松平忠正、子爵山口弘達※子爵内藤政潔の項

### 土井八郎兵衛
三重縣多額納税者、百五銀行、三重共同貯蓄銀行、北山索道各㈱取締役、山林業、三重縣在籍

妻　ふさ　明一五、八生、三重、味岡又八郎二女
男　靖夫　明三六、一〇生
男　茂夫　明四〇、九生
男　久夫　明四二、一二生

當家の祖は南朝大館彥五郎氏衆より出づ後年土井家に屬し紀州德川家に仕へ紀州濱中に歸農し更に二代を經て現在の地に居をトし爾來二百餘年代々八郎兵衛及嘉八郎を襲名し舊幕時代は苗字帶刀を許され地士獨禮格を與へられ大庄屋を勤めたる家柄なり君は先代嘉八郎の長男にして明治五年十月を以て生れ同九年家督を相續す夙に專修大學理財科を卒業し父祖の業を繼承し殖林及林產物の製造販賣を營み傍ら前記各銀行會社の重役にして縣下の多額納税者に列し直接國税一萬三千八十三圓を納む明治三十六年「尾鷲地方森林施業法」を編纂し同年第四回大阪内國勸業博覽會に「林業の方法」を出品し名譽金牌を受領す家族は尙四男匡夫（明四五、四生）六男立（大八、一一生）あり長女利子（明三八、五生）は奈良縣人北村又左衛門長男太郎に嫁せり（三重、北牟婁、尾鷲町）



### 土井彥治郎
土井商店㈱取締役　東京府在籍

母　ウタ　明六、四生、東京、天野市兵衛長女
妻　よし　明三一、八生、群馬、牛田幸太郎三女

君は東京府人土井猶楠の長男にして明治三十年十月を以て生れ昭和五年家督を相續す父猶楠は夙に實業界に入り土井商店を經營して同社長たり君亦父業を繼ぎ現時土井商店取締役たり家族は尙長女清子（大一〇、九生）二女松枝（同一二、一〇生）三女治世（同一四、一一生）姉幸（明二八、八生）あり同ミツ（同二七、二生）は同夫清次郎（同一九、一一生、東京、建部庄八三男）及其三子と共に分家せり（東京、日本橋、田所町九）
參照＝土井清次郎※吉田直太郎の項

### 土井孫治郎
臺灣銀行㈱孟買支店支配人兼カルカッタ支店支配人、大阪府在籍

妻　倚惠　明三四、二生、大阪、上中曉太郎妹
男　英一　大一四、一生

君は大阪府人土井孫吉の三男にして明治二十二年四月を以て生れ大正元年兄孫太郎方より分れて一家を創立す同三年東京高等商業學校を卒業し現時臺灣銀行孟買支店支配人兼カルカッタ支店支配人たり家族は尙長女英美子（大一一、三生）二男浩（昭三、八生）あり（孟買、臺灣銀行支店内）

### 土井米市
在華日本紡績同業會理事　和歌山縣在籍

妻　良　明二三、一一生、奈良、吉村基治三女、奈良高女出身
男　精一　大三、一〇生

君は和歌山縣人土井紋吉の二男にして明治十七年四月を以て生れ昭和二年兄甚市郎方より分れて一家を創立す明治三十九年東亞同文書院を卒業し日本綿花會社に入り漢口上海に勤め大正元年より靑島天津各出張所主任を經て漢口支店長として在勤十年昭和五年日本綿花會社在籍の儘在華日本紡績同業會理事に就任主として上海に勤務す家族は尙長女靜子（大六、四生）三男泰三（同八、五生）二女英子（同一二、一生）あり（上海、黃浦灘路二十四號正金銀行三階在華日本紡績同業會）

### 土井林吉（晩翠）
正四位勳三等、第二高等學校教授　宮城縣在籍

妻　八枝　明一二、二生、高知、士、林並木妹
男　英一　明四二、九生
女　照　明三九、一生

君は宮城縣人土井七郎兵衛の長男にして明治四年十月を以て生れ同三十八年家督を相續す同三十年東京帝國大學文科大學英文學科を卒業し次で大學院に入る同三十三年第二高等學校教授となり後英獨佛に文學研究の爲遊學し歸朝後再び第二高等學校教授となる晩翠と號し明治大正の詩壇に重きを爲し島崎藤村と並び稱せらる著書として「天地有情」「曉鐘」「東海遊子吟」「曙光」「天馬の道に」「晩翠詩集」等あり二女信（明四〇、五生）は兵庫縣人中野好夫に嫁し妹みつ（同一七、七生）は宮城縣士族武田常吉に同たみ（同二五、七生）は長野縣人堀口廣助養子陸軍々醫監正文に嫁し弟良吉（同一四、四生）同妻ちよ（同一八、六生、宮城、庄司新兵衛二女）は其三子を伴ひ弟良輔（同二二、六生）同妻みつ（同二八、一一生、宮城、日下眞一妹）は其一子を伴ひ各分家せり（仙臺、本荒町二一電二九）
參照＝林並木の項

### 土居剛吉郎
實業家　愛媛縣士族

妻　ヨシ　明一四、一〇生、東京、五代龍作養妹
男　保太郎　明三一、九生
男　萬之助　明四〇、九生

君は侯爵伊達宗彰子爵本多猶一郎の叔父伯爵二荒芳德子爵丹羽長德子爵一柳直德の兄なり明治三年十月を以て生れ先代通夫の養子となり同六年家督を相續す夙に學習院を卒へ英國に留學す曩に朝鮮無煙炭礦會社取締役たり（東京市外駒澤町上馬八八電世田谷四一六）
參照＝侯爵伊達宗彰、伯爵二荒芳德、子爵丹羽長德、子爵一柳直德、子爵本多猶一郎、五代龍作、土居保太郎※子爵蒔田廣城の項

### 土居脩治
岡山電燈㈱專務取締役、中國合同電業、山陽中央水電各㈱取締役　岡山縣士族

妻　はじめ　明一九、一生、岡山、角盛次郎長女
男　達一　明四一、六生
男　秀次　明四三、六生

君は岡山縣士族土居通正の長男にして明治七年三月を以て生れ同三十六年家督を相續す現時岡山電燈會社專務取締役の外前記各會社の重役たり父通正（天保九、一生）繼母こま（安政三、一〇生、岡山、竹内治道姉）は共に分家せり（岡山市二番町二八）

### 土居政次
永樂土地建物㈱監査役、臺灣銀行㈱東京頭取席庶務課長　香川縣在籍

母　フサ　嘉永三、一〇生、香川、安本惣太郎長女
妻　ツヤコ　明二九、八生、香川、鎌田連四女
男　千秋　大四、一〇生

君は香川縣人土居善平の三男にして明治十九年八月を以て生れ同三十二年先代從姉コヨの跡を承け家督を相續す同四十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し臺灣銀行に入り臺北本店副支配人東京頭取席檢査役等を經て現時同庶務課長にして傍ら永樂土地建物會社監査役たり牛欣と號し俳句を嗜む家族は尙長女輝子（大六、六生）二女妙子（同八、一〇生）三女明子（同一〇、一〇生）二男桂（同一二、九生）ありA一五六（東京市外中野町桃園七）

### 土居通次
正五位勳四等、德島縣知事　北海道在籍

母　フサ　萬延元、二生、大阪、士、神西眞一長女
妻　キク　明二三、五生、栃木、中島彥三郎二女

男　通高　大六、三生

君は北海道人土居榮十郎の長男にして明治十七年十二月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來宮城縣屬同縣柴田澁田牡鹿各郡長茨城縣理事官高知熊本佐賀各縣警察部長島根群馬福井滋賀各縣內務部長に歷任し昭和四年德島縣知事となり今日に至る家族は尙長女和子（大八、一生）二男通德（同一〇、三生）三男通明（同一二、八生）二女信子（同一四、七生）三女廣子（昭三、七生）四男通泰（同五、六生）あり（德島市縣知事官舍）

## 土居通憲

岡山縣多額納稅者、津山土地、美作製紙各㈱社長、岡山縣農工銀行、中國鐵道各㈱取締役、岡山縣在籍

妻　しゆん　明一七、四生、兵庫、江見登一郎二女
男　通光　明四〇、六生、明大出身

君は岡山縣士族土居通信の長男にして嘉納文治の叔父なり明治六年九月を以て生れ同三十八年兄通博方より分れて一家を創立す夙に慶應義塾に學び土居銀行業務擔當社員備作電氣會社長苫田郡會議長日本柳織會社取締役社長中央物產會社取締役等を歷任し現時前記銀行會社の重役にして直接國稅三千四百十五圓を納め岡山縣多額納稅者たり曩に岡山縣より選ばれて衆議院議員に當選せり家族は尙二男淸雄（大三、一生）四男義郎（同七、八生）二女櫻子（同一〇、九生）三女眞理子（同一四、九生）あり長女百合子（明四二、五生、聖心高女出身）は兵庫縣人岡田源吾に嫁せり（岡山、苫田、田邑村）

參照＝岡田源吾、嘉納文治、土居通博※岡田實麿※山中義貞※結城安次の項

## 土居通博

勳四等、岡山縣多額納稅者、津山商工會議所會頭、中國銀行㈱副頭取、岡山縣士族

妻　薰代　明九、一生、養父通信長女
男　英治　明二七、六生
婦　つや　明三〇、一生、長男英治妻、兵庫堀眞一妹
女　富子　明三五、五生

當家は遠く伊豫國河野氏より出で作州に來り歷代大里正を命ぜられ十三代を經て先代通信に至る先々代通政士籍に列す君は其二男にして明治元年四月を以て生れ先代通信の養子となり同三十六年家督を相續し前名邦次郎を改む先是同二十三年明治法律學校を卒業し實業界に入り現に中國銀行副頭取にして津山商工會議所會頭に推され直接國稅七千七百七十八圓を納め縣下の多額納稅者たり曩に貴族院議員に當選する事二回に及ぶ大正二年貴族院議員團に加はり支那滿洲朝鮮地方を視察す同四年日獨事件の功に依り勳四等に敍し瑞寶章を賜はる家族は尙孫壽子（大九、一一生、長男英治長女）同一郎（同一一、六生、同長男）同二郎（同一三、一生、同二男）あり二男文治（明三一、七生）は兵庫縣人加納治郎右衞門の養子となり長女秀子（同二五、三生）は茨城縣人結城安治に四女貞子（同三七、一一生）は愛媛縣人山中義貞に妹直（同一九、六生）は廣島縣人岡田實麿に嫁し弟通憲（同六、九生）は分家せり（岡山、苫田、田邑村電三二四）

參照＝岡田實麿、嘉納文治、土居通憲、山中義貞、堀眞一、結城安次※鎌田三郎兵衞※木下伊平の項

## 土居光知

從五位、東北帝國大學教授、法文學部勤務、宮城縣在籍

妻　れう　明二〇、九生、深見理兵長女
男　健一　大二、八生

君は東京府人土井光基の三男にして明治十九年八月を以て生れ昭和四年甥直基方より分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し大正七年日本女子大學校教授となり同十年東京高等師範學校教授に轉じ翌十一年英佛米各國に留學を命ぜらる現に東北帝國大學教授にして法文學部勤務たり家族は尙二男峰夫（大六、六生）あり（仙臺、北一番丁二八）

## 土居保太郎

宮內省圖書寮囑託、愛媛縣士族

父　剛吉郎　明三、一〇生、現戶主
妻　幸子　明三九、六生、子爵大給近孝二女、女子學習院出身
男　通邦　昭四、一生

君は愛媛縣士族土居剛吉郎の長男にして伯爵二荒芳德子爵丹羽長德子爵一柳直德の甥なり明治三十一年九月を以て生る大正十五年慶應義塾大學文學部國史科を卒業し宮內省圖書寮編修官補となり昭和四年四月宮內省より事務囑託として歐洲に留學し同五年七月歸朝し現時宮內省圖書寮に囑託たり（東京市外駒澤町上馬八八電世田谷四一六）

參照＝伯爵二荒芳德、子爵大給近孝、子爵丹羽長德、子爵一柳直德、土居剛吉郎の項

## 土居利三郎

正七位、醫學博士、大阪市立市民病院副院長兼大阪市技師、醫師、香川縣在籍

妻　ケン子　明二九、八生、故陸軍大將秋山好古二女、御茶の水高女專攻科出身
男　康郎　大九、二生

君は香川縣人土居光次郎の三男にして明治二十年三月を以て生れ昭和五年姪登久子方より分れて一家を創立す大正四年京都帝國大學醫科大學を卒業し現時大阪市立市民病院副院長兼大阪市技師たり曩に醫學博士の學位を受く家族は尙長女俊子（大一二、一一生）三男秀郎（同一五、一生）二女萬里子（昭三、一生）あり（大阪、住吉、天王寺町八七九電戎二八七〇）

參照＝※塚原嘉一郎の項

## 土岐章

從四位、子爵、貴族院議員、舊上州沼田藩

養父　賴敏　明二一、九生、正五位
妻　貞子　明三二、一一生、東京、近藤利兵衞義妹、東京女學館出身
男　實　大一一、六生

當家は源賴光の孫伊豆守國房より出づ夫より七代賴基土岐九郎と稱す後十一代山城守定政德川氏に仕へ戰功あり下總にて一萬石を領す後代更に上州沼田に移り三萬五千石を加增せらる定政より十三代を經て先々代賴知に至り戊辰の役官軍に屬し功あり明治十七年子爵を授けらる君は賴知の二男にして明治二十五年二月を以て生れ先代兄賴敏の養子となり大正七年家督を相續し襲爵仰付けらる昭和三年貴族院議員に互選せられ現時其任に在り研究會に屬す家族は尙二男孝（大一三、三生）三男準（同一五、六生）あり姉米子（明八、一〇生）は故衆議院議員小山田信藏の未亡人にして同幾子（同一一、八生）は子爵大久保立に嫁せり（東京市外澁谷町永住三八電青山一四一五）

參照＝子爵大久保立、近藤利兵衞※淺野義夫※白井博之の項

## 土岐榮太郎

吉見紡織㈱專務取締役、大阪府在籍







父　嘉吉　安政五、二生、現戶主
繼母　サミ　慶應三、六生、廣島、高島密信妹
妻　ハナ　明二〇、九生、大阪、篠崎祐七五女

君は大阪府人土岐嘉吉の長男にして明治十四年七月を以て生る現時吉見紡織會社專務取締役たり曾て共立紡織會社取締役たりし事あり妹信（明二七、一生）同夫四郎（同二八、一二生、大阪、藤川槍次郎四男）は其子女を伴ひ大阪府人土岐とみの死跡を相續し叔母エツ（同三、八生）は同府人谷口房藏に嫁せりA一四六〇〇（大阪、東、北久太郎町二ノ二〇電船場二一〇九）

## 土岐嘉平

從三位勳二等、京都市長、和歌山縣在籍

妻　淸子　明一三、八生、和歌山、吉村茂八郎三女
養子　銀次郎　明二七、三生

君は和歌山縣人土岐綱右衞門の二男にして明治八年二月を以て生れ同三十八年家督を相續す同三十一年判檢事及辯護士試驗に合格し司法官試補及辯護士となり同三十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來山梨縣參事官內務書記官內務省參事官大阪府內務部長高知石川各縣知事を經て關東廳事務總長大阪府知事及北海道廳長官に歷任し大正十四年官を辭し現時京都市長たり明治四十年官命を帶び歐米各國に出張す（京都、左京、粟田口鳥井町二六市長公舍內電上四五）

參照＝土岐銀次郎の項

## 土岐銀次郎

從五位勳六等、山梨縣書記官、內務部長、和歌山縣在籍

養父　嘉平　明八、二生、現戶主
妻　嘉子　明三二、三生、養父嘉平長女
男　左千夫　大一三、七生

君は和歌山縣人三宅進一郎の二男にして同哲一郎の弟なり明治二十七年三月を以て生れ大正五年土岐嘉平の養子となる同六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格同年岡山縣屬となり爾來東京府屬兼內務屬栃木縣河內郡長岐阜縣東京府各理事官帝都復興院事務官兼務東京府事務官靜岡愛知各縣學務部長三重縣警察部長復興院書記官復興事務局書記官等に歷任し昭和六年一月山梨縣書記官內務部長に轉任す大正十三年歐米に出張を命ぜらる家族は尙長女章子（大七、一一生）二女光子（同九、一〇生）三女嘉代子（同一二、七生）あり（甲府、日向町官舍）

參照＝土岐嘉平、三宅哲一郎の項

## 土岐儁（タケシ）

第一銀行、臺灣製麻各㈱監査役、神奈川縣士族

妻　せん　明六、二生、東京、士、豐島毅三女
男　雄志郎　大三、一〇生

君は石川縣士族土岐無事の長男にして萬延元年四月を以て生れ明治二年家督を相續す實業界の耆宿にして現時前記銀行會社の重役たり經國餘鐵ヒット傳の著あり長女まつ（明二五、一〇生）は富山縣人得能佳吉に三女榮（同三〇、六生）は東京府人由比又男に嫁せり（神奈川、鎌倉、鎌倉町扇ヶ谷一八四電六）

## 土岐定應

正五位勳四等、仙臺鑛山監督局長、大分縣士族

妻　カメ　明一九、二生、岩手、丹下謙吉長女
男　浩通　大元、九生

君は大分縣士族土岐八郎の長男にして明治十七年九月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し千葉縣屬山林屬山林事務官補衆議院書記官兼臨時議院建築局事務官農商務書記官を經て特許局事務官兼衆議院書記官に任じ其間議院建築準備委員會幹事を命ぜられ青森小林區署長衆議院速記課長同庶務課長兼委員課長臨時議院建築局庶務課長特許局意匠課長兼登錄課長商標課長意匠商標部長に歷補し現に仙臺鑛山監督局長たり曩に朝鮮滿洲支那に前後二回及歐米各國に出張を命ぜらる家族は尙二男矩通（大四、二生）長女マリ子（同一三、一生）あり（仙臺、鑛山監督局內）

## 土倉光三郎

正四位勳六等、男爵、舊岡山藩國老

男　次郎　明三三、一生、從五位
婦　一野　明三六、六生、二男次郎妻、岡山小崎藤造長女

當家は世々岡山藩の國老として祿一萬石を食む先々代正彥は維新の際國事に奔走し後岡山縣大參事となり米國に留學す君實は子爵三浦基次の從弟にして明治三年三月を以て生れ當家の養子となり同十四年先代養母萬龜の家督を相續し同三十九年先々代正彥の勳功に依り特旨を以て華族に列し男爵を授けらる曩に岡山縣技師たり家族は尙孫一郎（昭四、一生、二男次郎長男）あり長女米子（明四〇、六生）は岡山縣人都志太郎長男基一に嫁せり（岡山市東田町一〇）

參照＝子爵三浦基次、都志太郎※伯爵大谷光暢の項

## 土志田與助

紀伊土地㈱社長、豐州鐵道㈱取締役、相模鐵道、帝國塗料各㈱監査役、松屋、白米商、東京府在籍

妻　千代　明二三、三生、養父與助五女
男　眞次郎　明四〇、九生
男　孝之助　明四三、五生
女　好子　大元、一〇生

君は神奈川縣人鈴木佐兵衞の二男にして明治六年十一月を以て生れ先代與助の養子となり同三十年家督を相續し前名興吉を改め襲名す松屋と稱し白米商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙六男邦造（大四、四生）七男圭治（同九、九生）二女春子（同一五、四生）あり三男松三郎（明三五、九生）同妻トリ（同三九、一生、東京、旗野倉吉六女）は其二男を伴ひ分家し養妹まき（同一七、八生）は東京府人千葉恒次郎に嫁せりA七六五二B四四四（東京、京橋、銀座一ノ六ノ五電京橋二九九八）

## 土橋源七

眼鏡貴金屬商、大阪府在籍

養子　重次郎　明一一、一二生、養子かめ夫、大阪、加島重助弟
養子　かめ　明一五、一一生、養子重次郎妻、大阪、土橋せい女
養孫　至　明三五、三生、孫宇多子夫、和歌山、塚野熊之助四男
孫　宇多子　明三七、一生、養孫至妻、養子重次郎長女
孫　源治郎　明三九、六生、養子重次郎長男
孫　德治郎　明四〇、七生、養子重次郎二男

君は大阪府人土橋源七の二男にして先代源七の弟なり嘉永元年五月を以て生れ明治十四年家督を相續す眼鏡貴金屬商を營む家族は尙曾孫壽美子（大一五、三生、養孫至長女）同雅夫（昭四、一一生、同長男）あり（大阪南、瓦屋町四番丁四七電南一五五二）

## 土肥慶藏

正三位勳二等、醫學博士、東京帝國大學名譽教授、中央衞生會委員、東京府士族

妻　多越　明一〇、一一生、京都、三井元之助妹
養子　健男　明三八、三生、福井、石渡秀實十男、法學士、三井物產會社員
婦　糸子　明四三、六生、養子健男妻、新潟山口誠太郎二女、雙葉高女出身

君は福井縣士族石渡秀實の弟にして慶應二年六月九日出生叔父淳朴の養子となり明治三十四年家督を相續す先是同二十三年十一月東京帝國大學醫科大學を卒業し教師スクリバ氏に就て外科を學び同二十五年大學院に入り同二十六年歐洲に留學し皮膚病黴毒泌尿器病學を專攻す同三十一年歸朝二月東京帝國大學醫科大學助教授に任じ六月教授に進む同三十二年醫學博士の學位を受け同三十八年中央衞生會委員となる夙に歐米諸國の皮膚病黴毒學會の名譽委員又は客員に擧げられ大正十五年獨逸學士院會員に推薦せられ昭和元年獨逸ブレスラウ大學名譽ドクトルを贈與せらる往年同志と共に日本皮膚科學會を創立して現に其の會頭たり又財團法人日本性病豫防協會を興して現に會頭に推さる大正十五年定年退職同年東京帝國大學名譽教授に任ぜらる著述頗る多く又藏書を好み其の鶚軒文庫は東西醫書の外更に日本古今諸家の漢詩集を蒐むること數萬卷に及ぶ妹さだ(明三、七生)は福井縣人木下藤一に嫁す姪孝子(同二〇、二生)は醫學博士土肥章司に嫁せり(東京、麴町、下二番町四六**電九段六八五、六八六**)

參照=土肥章司、三井元之助※男爵前田利功※越英之介※三井高光※三井守之助の項

## 土肥俊

從五位勳六等、陸軍步兵少尉、營林局技師、大阪營林局在勤　兵庫縣在籍

父　實　安政四、一一生
妻　信子　明二六、四生、兵庫、岡本得兵衞長女
男　光　大八、八生
女　恭子　大五、一生

君は兵庫縣人土肥實の二男にして明治十七年五月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學農科大學林學實科を卒業し森林主事山林技手林務技手大阪大林區署田邊尾鷲船津島取各小林區署長山林技師山口公有林野官行造林署長營林署技師飫肥營林署長等を經て昭和四年營林局技師に任じ大阪營林局に勤務す家族は尙二女淳子(大一五、一生)あり(大阪、北、萬歲町四一)

## 土肥章司

正四位勳三等、醫學博士、前金澤醫科大學教授、東京府在籍

妻　孝　明二〇、二生、醫學博士土肥慶藏姪
男　淳一郎　明三九、一一生
男　健次　明四三、八生

君は岐阜縣人栗田小十郎の四男にして明治九年六月を以て生れ同三十九年先代孝の入夫となり家督を相續す初め醫學專門學校濟生學舍に學び同三十一年東京帝國大學醫科大學選科に入學し同三十九年獨逸ブレスラウ大學皮膚病黴毒科教室に入りて研究し同四十四年醫學博士の學位を受く大正元年金澤醫學專門學校教授となり同十二年金澤醫科大學教授に任ぜられしが昭和六年退官す大正十四年四月視察の爲歐米に出張を命ぜらる家族は尙長女和子(大八、二生)あり(金澤、里見町一六**電一五二二**)

參照=土肥慶藏の項

## 土肥信太郎

東播合同銀行㈱副頭取、五十六銀行㈱取締役、西脇商業銀行㈱監查役、兵庫縣在籍

妻　しん　明一一、九生、兵庫、田中七太郎二女
男　敏夫　明三八、六生
男　茂　明四〇、四生
男　廸夫　明四三、一二生
女　智子　大五、七生

君は兵庫縣人土肥幸助の長男にして明治三年十一月を以て生れ同二十四年家督を相續す現時東播合同銀行副頭取にして又前記各銀行の重役たり家族は尙五男正二(大二、五生)六男愼(同四、一生)七男七郎(同七、三生)四女貞子(同一二、八生)姉しか(慶應二、六生)あり長女とみゑ(明二六、八生)は兵庫縣人土肥又次二男賢に嫁し三男正(同四一、一二生)は同縣人田中常三の養子となれり(兵庫、加東、下東條村)

## 土肥不二太

信濃銀行㈱取締役　長野縣在籍

養母　鈴　元治元、七生、長野、高瀨通養叔母
妻　さだ　明五、二生、養父市長女
繼子　市　明二六、九生、現戶主
婦　さかえ　明二七、一一生、繼子市妻、長野宮澤織次二女
男　保之　明三六、八生
女　至子　明四一、五生

君は長野縣人町田良右衞門の長男にして明治五年九月を以て生れ同三十四年先代市の養子となる現に信濃銀行取締役たり家族は尙孫稔子(大九、八生、繼子市長女)同國夫(同一一、八生、同長男)同律子(同一三、八生、同二女)同幹夫(昭三、一〇生、同二男)あり二女伊佐(明三三、二生)は長野縣人水野健吉に三女章(同三四、一一生)は同縣人町田良一に四女篤子(同三八、一〇生)は同縣人中澤錄郎に嫁せり(長野、小縣、神川村)

參照=※笠原善吉の項

## 土肥衞

醫學博士、大阪市立高等西華女學校教授囑託、土肥婦人科病院長、醫師、土肥病院產婆看護婦養成所長、長崎縣士族

妻　ハナ　明一四、一一生、長崎、富永廣藏長女
男　繁　明三六、二生、醫學士、大阪帝國大學醫學部勤務
男　集　明四一、二生

君は長崎縣士族土肥圓平の三男にして明治十年一月を以て生る醫を業とし土肥婦人科病院長土肥病院產婆看護婦養成所長にして大阪市立西華女學校教授囑託たり大正十年醫學博士の學位を授けらる家族は尙長女田鶴子(大八、九生)三男定(同一四、三生)兄通邦(萬延元、一一生、現戶主)同妻きよ(慶應二、三生、長野、佐野喜七姉)及其一子あり姪キヌ(明一五、一一生、兄通邦長女)は大阪府人小島太八に嫁せりA四六五(大阪、北、曾根崎上四ノ一八**電北一五六九**)

## 土斐崎三右衞門

壹岐銀行㈱頭取、十七銀行㈱監查役、福岡縣在籍

當家の祖は遠く征西將軍太宰少貳大藏春實より出づ世々早良の鄕山門の庄に住し後姓を土斐崎と改む君は先代三右衞門の二男にして鍋山緣之助の甥なり明治二十九年十一月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名種壽を改め襲名す現時壹岐銀行頭取にして十七銀行監查役たり家族は尙兄種義(明二三、三生)妹ミヨ(同三六、一一生)弟種暉(同四一、一〇生)ありA七五八一(福岡、早良、壹岐村)





## 問田亮次

正五位、九州帝國大學教授、醫學部勤務、福岡縣在籍

妻　クン　明二一、二生、佐賀、士、古賀文一郎二女
男　直幹　明四四、三生、九州帝大醫學部在學
女　文子　大三、九生

君は佐賀縣人問田美興の三男にして明治十六年四月を以て生れ昭和二年分れて一家を創立す明治四十三年京都帝國大學福岡醫科大學を卒業し九州帝國大學醫科大學助手となり大正七年英米瑞佛西獨各國に留學す同十一年同大學助教授に任じ同年同教授に進み今日に至る家族は尙二女淑子(大一二、二生)あり(福岡市藥院五六五**電三七五一**)

參照=古賀文一郎※野口勘三郎の項

## 東胤祿

從三位勳六等、子爵、陸軍步兵中尉、舊江州三上藩

妻　錠子　明一六、三生、子爵小出英延妹
女　多喜　明四三、一二生、聖心女子學院出身

當家は平高望の孫陸奧介忠賴の後胤なり世々美濃に住し土岐氏に仕へ歌道を以て顯る永祿二年嗣を失ひ一族遠藤氏より入り依て遠藤と稱し但馬守慶隆に至り織田氏に仕へ同國山田の庄を領す豐臣氏のとき一旦所領を失ひしも後德川氏に屬し軍功を以て舊領を回復す夫より十世を經て先代胤城に至り江州三上一萬二千石の封を繼ぎ明治十一年家號遠藤を改め舊姓東に復し同十七年子爵を授けらる君は其三男にして明治八年七月を以て生れ同四十二年襲爵す同二十九年學習院中等科を卒業し陸軍步兵少尉として日露戰役に從軍し同中尉に陞る謠曲を趣味とす家族は尙姉寄子(慶應三、八生)あり長女八重子(明三八、四生、女子學習院出身)は和歌山縣人木村平右衞門長男泰次郎に二女玉子(同三九、九生、出身校同上)は京都府人稻畑勝太郎長男太郎に姉鍈子(元治元、一生)は伯爵酒井忠良叔父忠寶に同富貴子(明五、九生)は東京府人居初富三郎に妹昭子(同一二、四生)は熊本縣人山田軍太郎に嫁し三女悅子(同四一、一二生、京都高女出身)は大阪府人梅上尊融の養子となり弟常任(同一七、一二生)は其妻子を伴ひ分家せり(東京、牛込、若松町七三)

參照=伯爵酒井忠良、子爵小出英延、稻畑太郎、木村平右衞門、東常任※伯爵大谷光照※子爵黑田長敬※子爵松平義爲の項

## 東常任

正五位勳五等、遞信局技師、大阪遞信局海事部神戶出張所勤務　東京府在籍

妻　ヨシノ　明二八、四生、東京、藤田一松長女
男　常廣　大八、八生

君は子爵東胤祿の弟にして明治十七年十二月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學工科大學造船科を卒業し一年志願兵として中野電信隊に服役し爾來遞信監理局技手遞信局技師に任じ東京遞信局海事部浦賀出張所長を經て現に大阪遞信局海事部神戶出張所勤務大阪遞信局兼務たり家族は尙二男常道(大一一、七生)三男常義(同一四、一生)あり(神戶、大平町三)

參照=子爵東胤祿※伯爵酒井忠良※稻畑太郎※木村平右衞門の項

## 東耕波治

神戶發動機製造所㈱監查役　兵庫縣在籍

妻　すゑ　明一九、一生、兵庫、長谷川松藏姉
男　冬二　大五、一二生
養子　孝次　明三六、六生、長女トシチ夫、大阪、川口源太郎弟
女　トシチ　明四〇、六生、養子孝次妻
女　一子　明四二、一生
女　しづゑ　大三、一二生

君は兵庫縣人丸尾忠次郎の四男にして明治十六年十二月を以て生れ先代淸三郎の養子となり大正元年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尙孫勇吉(昭三、一二生、養子孝次長男)ありA九二〇(神戶、尻池町一ノ三二**電兵庫一九五五**)

## 東鄕吉太郎

正四位勳一等功四級、海軍中將　神奈川縣士族

妻　ハル　明六、一生、子爵海江田幸吉姉
男　吉秋　明三二、一一生
婦　ゑみ　明四一、一〇生、二男吉秋妻、鹿兒島、二階堂正巳從妹
男　吉虎　明三五、四生
婦　典子　明四一、一二生、三男吉虎妻、東京、小林佐久子長女

君は鹿兒島縣士族東鄕實猗の長男にして慶應二年十二月を以て生れ明治二十年家督を相續す夙に海軍兵學校を卒業し同二十一年海軍少尉に任じ大正五年海軍中將に累進す其間富士松島初瀨各艦砲術長浪速朝日各副長高雄見島笠置各艦長皇族附武官臺灣總督府參謀長海軍々令部出仕海軍砲術學校長第一艦隊臨時南洋防備隊鎭海要港部各司令官等に歷補し現時後備役に屬す長女タヅ(明三〇、八生)は山形縣人鈴木義雄に二女田龜(同三九、一〇生)は富山縣人中村勝平に三女梅子(同四一、二生)は福島縣人岡部健に妹キチ(同元、八生)は前佐世保市長內田政彥に嫁せり(神奈川、鎌倉、深澤村山崎)

參照=子爵海江田幸吉※伯爵東鄕平八郎※鈴木梅四郎の項

## 東鄕茂德

正五位勳四等、大使館參事官、獨國在勤、鹿兒島縣士族

父　壽勝　安政二、二生、現戶主
母　トメ　安政五、三生、鹿兒島、士、有馬芳春四女
妻　エヂ　明二〇、二生、獨逸國人、ヒツケカール長女

君は鹿兒島縣士族東鄕壽勝の長男にして明治十五年十二月を以て生る同四十一年東京帝國大學文科大學獨文學科を卒業し大正元年外交官及領事官試驗に合格す領事官補に任ぜられ奉天に在勤爾來外交官補公使館三等書記官大使館二等書記官外務事務官同書記官歐米局第一課長等に歷任し其間瑞西獨逸に在勤す大正十四年大使館一等書記官に進み米國に在勤し昭和四年大使館參事官に任じ獨國在勤を命ぜらる家族は尙長女いせ(大一二、八生)の外弟茂弘(明二五、三生)同妻トミヱ(同三一、七生、鹿兒島、大井藤助長女)及其二男一女あり(在獨國日本大使館內)

## 東鄕平八郎

正二位大勳位(頸飾)功一級、伯爵、元帥、海軍大將、議定官　東京府華族

妻　テツ　文久元、九生、子爵海江田幸吉姉
男　彪　明一八、二生、從四位、式部官兼主獵官
婦　百合　明三二、七生、長男彪妻、男爵小原駩吉長女、學習院女學部出身
男　實　明二三、九生、從六位勳六等、海軍少佐

●婦　八重　明三五、八生、二男實妻、鹿兒島赤崎戸八郎長女

君は鹿兒島藩士東郷吉左衛門の三男にして弘化四年十二月を以て生れ慶應三年分れて一家を創立す少時藩選を以て航海操艦術を學び戊辰の役北越奥羽に轉戰して功あり明治四年英國に留學して專ら海事を研修す歸朝後海軍中尉に任じ累進して海軍大佐に陞り日清の役浪速艦長として第一遊擊艦隊の先鋒となり偉功を奏す戰役中海軍少將に進み平和克復後功を以て功四級金鵄勳章を賜ふ尋で海軍中將に昇り常備艦隊舞鶴鎭守府各司令長官に歷任す日露の役選ばれて聯合艦隊司令長官となり露國の東洋艦隊を全滅し更に露國第二第三派遣艦隊を日本海に邀擊して之を擊滅し曠古の大捷を博し戰役中海軍大將に昇任す明治四十年偉勳を以て大勳位功一級に敍し特旨を以て華族に列し一躍伯爵を授けられ次で元帥府に列す後海軍々令部長軍事參議官に歷任し又東宮御學問所總裁被仰付現時議定官たり大正十五年十一月多年の功勞に依り菊花章頸飾を賜ふ家族は尙孫良子(大六、七生、長男彪長女)同一雄(同八、九生、同長男)同百子(同一四、一二生、同二女)同良一(同一〇、二生、二男實長男)同久子(同一三、一一生、同長女)同忠二(同一五、七生、同二男)あり二女八千代(明二四、一〇生)は男爵園田實に嫁せり(東京、麴町、上六番町三七電九段三七五)

參照＝子爵海江田幸吉、男爵小原駩吉、男爵園田實※男爵柴山昌生※鈴木梅四郎※東郷吉太郎※中橋武一※福井菊三郎※堀越善重郎の項

## 東郷昌武

内外化學製品(株)代表取締役　東京府士族

妻　モト　明一五、一二生、東京、楢林建三郎長女
男　城一　明三七、二生
女　嚴惠　明四〇、二生

君は鹿兒島縣人松本幸之助の三男にして明治四年十月を以て生れ先代カネの養子となり同三十七年家督を相續す同二十八年京都同志社を卒業し現時内外化學製品會社代表取締役たり家族は尙三男泰武(大二、四生)四男民安(同五、五生)あり長女輝(明三八、七生)は兵庫縣人丸山捨吉に嫁せり(東京、赤坂、青山南町六ノ一〇八電青山一四四四)

## 東郷實

從四位勳四等、農學博士、衆議院議員(鹿兒島縣選出)、拓殖大學、日本大學各講師、鹿兒島縣士族

繼母　キク　嘉永六、九生、宮崎、士、山下良實姉
妻　チカ　明二一、三生、京都、福田郁二郎姉
男　臺一郎　大二、二生
女　逸　大四、一二生

君は鹿兒島縣士族東郷實彥の長男にして明治十四年十一月を以て生れ昭和三年家督を相續す明治三十八年札幌農學校本科を卒業し更に獨逸に留學して伯林大學に學ぶ彰化廳殖產事務囑託同廳技師南投廳技師斗六廳技師臺灣總督府技師同總督官房調查課長同中央研究所技師等に歷任し屢々歐米各國に出張し大正八年農學博士の學位を授けらる農政及植民に關する著書多し鄕黨より推されて衆議院議員に當選する事三回立憲政友會所屬たり傍ら拓殖大學及日本大學講師を兼ぬ家族は尙二男圖南三郎(大九、一二生)あり姉クラ(明八、一〇生)は鹿兒島縣士族伊集院兼信に同トク(同一三、一二生)は宮崎縣人上原順二弟幾彥に妹ウラ(同一九、三生)は鹿兒島縣士族野田熊次郎二男林に嫁せり(東京、麻布、笄町八電青山七七七一)

## 東郷安

正四位勳三等、男爵、貴族院議員　日本無線電信(株)常務取締役、横河電機製作所(株)取締役、横河橋梁製作所(株)監査役、福壽生命保險(株)相談役、東京府華族

妻　タツ　明二七、一〇生、工學博士横河民輔長女
男　安正　大四、一生
女　球子　大五、七生

當家は先代正路より顯る正路は舊福井藩士にして明治十年海軍兵學寮を卒業し累進中將に陞る其間海軍兵學校教頭同校長吳鎭守府參謀長練習艦隊司令官等に歷補し日露の役には第三艦隊司令官として各方面に轉戰し功に依り功二級に敍せらる君は正路の長男にして明治十五年七月を以て生れ同三十九年家督を相續し同四十年父の勳功に依り特に華族に列し男爵を授けらる同年東京帝國大學法科大學を卒業し大學院に學ぶ同四十四年以來貴族院議員に擧げらるゝ事三回現に其任に在り公正會に屬す傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は尙二男駿二(大七、三生)弟二郎(明二五、五生、正六位勳六等、海軍少佐)同妻須賀(同三五、一一生、陸軍少將生田目新長女)及其二子あり妹ひろ(同一九、一生)は佐賀縣士族工學士川原五郎に同德(同二一、七生)は東京府士族松野篤義長男法學士龍雄に同みつ(同三〇、八生)は同府人法學士農學士山内勝巳に嫁せり(東京、赤坂、青山南町二ノ六六電青山二二一〇)

參照＝川原五郎、松野龍雄、横河民輔の項

## 東條正平

東京郊外土地、朝鮮鐵道、朝鐵自動車各(株)取締役、香川縣在籍

妻　トク　明一七、三生、德島、佐藤源藏三女
男　正利　大五、一一生

君は香川縣人東條久滿太の三男にして明治十年十月を以て生れ同三十八年家督を相續す現時前記各會社の重役にして曩に朝鮮物產商會社長鮮南殖產會社專務取締役たりしことあり家族は尙二女朝子(大一〇、六生)あり弟愛次(明一三、八生)は群馬縣士族武田喜久雙の養子となれり(東京、麻布、本村町二一一電高輪六〇七三)

## 東條貞

衆議院議員(北海道選出)、農業　北海道士族

妻　タマ　明二八、九生、北海道、中川茂市長女

君は北海道人松本眞盛の三男にして明治十八年二月を以て生れ同三十四年東條テルの後を承け家督を相續す農業を營み昭和五年衆議院議員に當選し立憲政友會に屬し曩に網走新聞社長北海道會議員に推さる家族は尙二女晃子(大一三、八生)あり(北海道、網走、網走町)

## 東條操

從五位、廣島高等師範學校教授　東京府在籍

妻　とき　明一九、三生、富山、神田惣平二女
男　一郎　大六、二生

君は東京府人村松秀茂の長男にして明治十七年十二月を以て生れ同十八年先代義明の死跡を相續す同四十三年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し大正二年同大學文科大學助手となり同十三年靜岡高等學校教授に轉じ昭和四年廣島高等師範學校教授に任ぜらる家族は尙二男英(大八、三生)長女壽子(同一〇、三生)あり(廣島市國泰寺町三二六)





## 東條良太郎

醫學博士、日本婦人科學會長、東條產科婦人科病院長、醫師　兵庫縣在籍

妻　ヒサ　明一三、五生、岩手、中原正虎姉
男　大平　明三四、八生
男　龍平　明三七、二生
男　周平　明三八、一〇生
女　節　大三、三生

君は千葉縣人東條平九郎の二男にして明治二年十一月を以て生れ同四十年家督を相續す同三十一年東京帝國大學醫科大學を卒業し現時東條產科婦人科病院長にして推されて日本婦人科學會長たり大正七年醫學博士の學位を授けらる家族は尙四男雲平(大五、九生)あり長女美津(明四〇、七生)は滋賀縣人醫學博士宮本博人に嫁せり(大阪、西、北堀江通一ノ一二五電新町五〇五)

## 東代清次郎

東洋製藥貿易(株)專務取締役、日本亞鉛鐵、ハート汽船各(株)取締役、大正製藥(株)監査役、大阪府在籍

父　龜吉　安政六、九生
母　トラ　慶應三、三生、大阪、旗手和平姉
妻　千代野　明三一、一二生、大阪、鳥源治郎妹
男　清　大一一、一一生

君は大阪府人東代龜吉の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正九年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙妹千代(明三六、八生)同ミキ子(同三八、一二生)あり(大阪、東、道修町二ノ四〇電西五四五)

## 東納宗司

十五銀行(株)西支店長　大分縣在籍

母　ウカ　安政四、一〇生、宮嶋甚藏長女
妻　玉　明二八、三生、大分、藤田直吉三女
男　嘉也　大一〇、六生

君は大分縣人東納嘉三郎の二男にして明治十八年十二月を以て生れ同四十三年家督を相續す現時十五銀行西支店長にして曩に同行堺支店長たり家族は尙長女嘉子(大六、八生)三男宗三郎(同一四、六生)四男宗之助(昭四、三生)あり妹クル(明二九、九生)は大分縣人淵政太郎に嫁せり(大阪、泉北、濱寺町電堺三一四)

## 東松松三

殖產(株)取締役　愛知縣在籍

父　松兵衛　文久元、九生、現戸主
妻　さく　明二四、三生、愛知、森榮七妹

君は愛知縣人東松松兵衛の長男にして明治十六年十月を以て生る現時殖產會社取締役にして曩に堀川貯蓄銀行取締役たりし事あり家族は尙長女三佐子(大一〇、三生)ありA二〇三七(名古屋、西、堅三藏町一ノ一〇電本局一八三八)

參照＝東松松兵衛※子爵有馬聰頼※男爵阪井戒爾※關信太郎※諸戸精太の項

## 東松松兵衛

地家主　愛知縣在籍

男　松三　明一六、一〇生

君は愛知縣人中川小兵衛の二男にして文久元年九月を以て生れ先代つうの養子となり明治二十年家督を相續し後前名文三郎を改む地家主にして曩に堀川貯蓄銀行常務取締役たりし事あり長女すみこ(明二〇、五生)は愛知縣人森榮七に二女綾子(同二七、九生)は男爵阪井戒爾に四女勝子(同三二、二生)は子爵有馬聰頼に嫁せりA八九五(名古屋、中、南鍛冶屋町五ノ一八電中二七一九)

參照＝子爵有馬聰頼、男爵阪井戒爾、東松松三の項

## 當眞嗣合

衆議院議員(沖縄縣選出)、沖縄朝日新聞社長兼主筆、沖縄縣士族

母　ツル　慶應三、一二生、沖縄、士、宮城安朝長女
妻　ウシ　明二一、一一生、沖縄、宮城安正長女
男　嗣光　大四、五生
女　ヨシ　明四二、三生
女　トミ　明四五、七生

君は沖縄縣士族當眞嗣正の長男にして明治十七年十一月を以て生れ同三十八年家督を相續す夙に國學院を卒業し沖縄朝日新聞社を經營し現時社長兼主筆にして曩に首里市會議長に擧げらる昭和五年衆議院議員に當選し立憲民政黨所屬たり家族は尙二男嗣郎(大九、一生)あり妹末(明三五、六生)は東京府人宮城安吉に同マツル(同二九、一二生)は沖縄縣士族宮城安榮に嫁せり(那覇、若狹町)

參照＝宮城安榮の項

## 遠入鐵次郎

豐前銀行(株)頭取、九州產業(株)取締役、九州產業鐵道(株)監查役　大分縣在籍

妻　ナツ　明九、一二生、大分、牛田鐵一郎妹
男　孝　明三三、七生

君は大分縣人遠入節藏の長男にして明治六年十月を以て生れ同三十一年家督を相續す現に豐前銀行頭取たる外前記各會社の重役たり家族は尙三男昇(大一一、三生)あり長女綾(明三一、八生)は福岡縣人森永醇一に妹ウメ(同九、一二生)は大分縣人知波藤七郎弟賢次郎に嫁せり(中津市)

參照＝牛田鐵一郎※阿知波健次郎※白川精一※牛田貢の項

## 遠坂伊太郎

群馬縣多額納稅者、染布工業(株)取締役、共立機業、桐生機械各(株)監查役、機織業、群馬縣在籍

妻　アイ　明六、一二生、群馬、金谷賀一郎妹
男　良一郎　明三三、一生
婦　富子　明三七、一一生、長男良一郎妻、群馬、木村吉三郎二女

君は群馬縣人先代伊太郎の長男にして明治七年二月を以て生れ大正九年家督を相續し前名岩吉を改め襲名す機織業を營み現時前記各會社の重役にして又縣下の多額納稅者に列し直接國稅一千八百三十一圓を納む家族は尙孫蕉子(大一三、三生、長男良一郎長女)同勳(同一五、一生、同長男)同仲司(昭三、一生、同二男)同价右(同五、一生、同三男)の外弟萬吉(明一六、二生)あり(桐生、新宿乙三七三)

## 遠田淳

日本銀行(株)調查役　東京府在籍

妻　久米　明三五、一一生、神奈川、榎本師美八女

君は東京府人遠田洼の庶子同洼の弟にして明治二十六年十月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す同六年東京帝國大學經濟學部を卒業し現時日本銀行調查役にして營業局に勤務す(東京、下谷、池之端七軒町三五)

參照＝遠田洼※男爵赤松範一の項

## 遠田洼

東京府多額納稅者　東京府士族

嫡母　なを　安政四、六生、東京、士、長島常仁長女
庶子　園子　明四三、九生、生母、廣木マツヱ

君は東京府士族遠田洼の男同淳の兄にして明治二十二年六月を以て生れ大正十三年家督を相續す現時東京府

多額納稅者たり亡父注は林洞海に就き醫術を研究し脚氣治療及び眼科を修得し遠田脚氣院長として知られたる人なり家族は倘姉濤(明二〇、九生)妹花(同三三、一生)叔母ひろ(同元、七生)あり弟澧(同三五、三生)は分家し姉すみ(同一一、一一生)は男爵赤松範一に妹春(同三九、三生)は新潟縣人霜島信雄に嫁せり(東京、牛込、市ケ谷船河原町一七電牛込五四四)
參照=男爵赤松範一、遠田淳の項

## 遠(エン)田(タ)富之助
酒田商工會議所常議員、藥種商
山形縣在籍

妻　つま　明二、一生、山形、士、相馬俊雄二女
男　信太郎　明二六、一二生、金澤醫專藥學科出身
婦　はちせ　明二九、九生、長男信太郎妻、山形、佐藤仁助長女
男　敬治郎　明三〇、一生、明大本科出身
婦　かつ　明三八、一二生、三男敬治郎妻、東京、前川滿壽雄妹
男　亮三郎　明三四、九生
女　かつ　明三七、四生
男　選吉　明四一、五生
男　漸　明四四、八生

君は山形縣人遠田半右衞門の長男にして慶應二年四月を以て生れ明治十九年分れて一家を創立す藥舗開業試驗に合格し藥種商を營み町會議員たること二十五年又酒田商工會議所議員たること二十七年現に常議員たり長女きよう(明二三、二生)は同夫喜作(同二〇、一一生、山形、石川林治弟)に從ひ分家し弟美四松(同八、一一生)も亦分家せり(山形、飽海、酒田町電三〇三)

## 遠矢軍生
日本水電、南九州水力電氣各㈱取締役、鹿兒島縣士族

妻　トメ　明一五、一一生、鹿兒島、阿蘇谷侃妹
男　良明　明四三、一一生
女　房　大五、四生

君は鹿兒島縣士族遠矢良明の長男にして明治十年五月を以て生れ同四十年家督を相續す同三十七年長崎醫學專門學校を卒業し後實業界に入り現時前記各會社の重役たり家族は倘三女都(大一一、八生)弟良仲(明二九、八生)同妻元(同四〇、一生、熊本、和田定英從姉)及其一子あり長女日鏻(同三八、二生)は鹿兒島縣人宇宿行雄に妹ヨシ(同二二、七生)は同縣士族木前利保長男利純に嫁し同スエ(同三二、四生)は同縣士族松山辰製裝の養子となり弟良政(同二七、一生)は其の家籍を繼ぎ同良介(同三六、一生)も亦同縣人河俣アイに叔父春之進(安政六、二生)は其妻アイ(明三、二生、鹿兒島、士、川俣新吉養子)と共に同縣人川俣チカに各養子となり叔父才二(同元、二生)同妻イマ(同九、八生、鹿兒島、松崎正雄妹)は其子女を伴ひ分家せり(鹿兒島、伊佐、菱刈村)
參照=阿蘇谷侃※岩切太郎吉の項

## 遠山郁三
正四位勳二等、醫學博士、東京帝國大學教授、醫學部勤務
岐阜縣在籍

妻　千代　明二三、八生、岐阜、栗田昇妹
男　郁雄　大三、七生

君は岐阜縣人遠山道榮の二男にして明治十年三月を以て生れ同三十年家督を相續す同三十五年東京帝國大學醫科大學を卒業し更に大學院に入り同四十年仙臺醫學專門學校教授に任じ大正三年醫學博士の學位を受け同六年皮膚科學研究の爲米瑞英に留學し留學中同七年東北帝國大學醫科大學教授に任ぜられ同十五年東京帝國大學教授に轉任し現に同大學醫學部勤務たり家族は倘四女光代(大九、一一生)五女まり子(同一一、一一生)あり長女節子(明四一、三生)は茨城縣人武藤定雄に二女操(同四三、二生)は三重縣人森田穆に妹とし(同一七、一生)は石川縣士族武部龜松に嫁し兄爲一(同七、二生)同妻ヨネ(同一五、八生、大阪、杉原勝二郎妹)は其子女を伴ひ弟道榮(同一二、九生)同妻ふみ(同二一、九生、愛知、南部康彥妹)は其一子を伴ひ各分家し三女みち子(大五、三生)は東京府人山田恒太郎長男耕の養子となれり(東京市外練馬町三四八一電練馬五五)

## 遠山市郎兵衞
遠山商店㈱代表取締役、銚子醬油東京護謨工業各㈱取締役、第一製藥、木村實業、東京麻糸紡績各㈱監査役、德島屋、酒醬油問屋業
東京府在籍

養子　清太郎　明二七、一〇生、二女喜代子夫、和歌山、鹽路義一郎長男
女　喜代子　明三七、八生、養子清太郎妻

君は和歌山縣人濱口熊岳の五男にして同吉兵衞の弟同錄之助木村平右衞門の兄濱口吉右衞門の叔父同正一同麟藏の養叔父に當り明治八年二月を以て生れ同三十一年先代サタの入夫となり家督を相續し前名解助を改む同年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し德島屋と稱し酒醬油問屋業を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は倘孫市郎(大一二、一生、養子淸太郎長男)同範子(同一三、一一生、同長女)同雍子(昭二、三生、同二女)あり養妹ナチ(明一八、七生)は東京府人吹田與助に嫁せり(東京、日本橋、北新堀町三電茅場町四二一九)
參照=木村平右衞門、遠山市郎兵衞、濱口吉右衞門濱口吉兵衞、濱口正一、濱口麟藏、濱口錄之助※大村五左衞門※嵯峨實勝※深井吉兵衞の項

## 遠山道(オサノ)
從四位勳三等、陸軍主計監
東京府在籍

妻　鶴　明一三、一生、東京、士、中島親之四女
養子　健男　明三三、一二生、養子御幸夫、愛媛、田內逸有四男
養子　御幸　明四〇、六生、養子健男妻、東京、本多勝妹

君は愛媛縣士族遠山景讓の三男にして明治四年四月を以て生れ昭和四年絶家遠山氏を再興す明治三十四年陸軍三等主計に任じ大正十五年陸軍主計監に累進す其間第二十師團經理部長千住製絨所長等を經て陸軍被服本廠長となり昭和三年朝鮮軍經理部長に轉じ同五年豫備役編入仰付けらる家族は倘孫順子(昭五、一生、養子健男長女)あり(東京市外杉並町阿佐ケ谷小山四〇)

## 遠山方景
長野縣會議員、信濃時事新聞社㈱專務取締役兼營業部長
長野縣在籍

妻　ちづ　明一三、五生、長野、新井杉太郎妹
男　穗　明三〇、一二生、明大出身
婦　眞澄　明三七、一二生、亡二男二男妻、長野、宮澤秀一三女
男　三景　明三七、六生、法學士、東京市社會局勤務
男　四男　明三九、一〇生、東大在學
男　五男　明四二、四生

君は長野縣人遠山勝の長男にして明治九年五月を以て生れ大正九年家督を相續す現時信濃時事新聞社專務取締役兼營業部長にして推されて長野縣會議員たり家族は倘孫亨(大一五、一一生、亡二男二男長女)養孫洋平(同一一、八生、三男三景養子、長野、小島鐵次郎甥)あり(長野、下伊那、飯田町)





## 遠山克太郎
宮崎銀行㈱頭取
宮崎縣士族

男　利一　明一七、一生
婦　キミ　明二六、一生、長男利一妻、宮崎、士、上田信和長女
男　亘　明二五、二生
婦　久　明三六、一一生、二男亘妻、宮崎、小林熊太郎長女
孫　正　大三、一生、長男利一長女

君は宮崎縣士族遠山利彝の長男にして安政二年十一月を以て生れ明治十二年家督を相續す現時宮崎銀行頭取にして曩に日向水力電氣會社取締役たりし事あり家族は倘孫立身(明四五、七生、長男利一長男)同瀧(大七、一生、同二女)同章(同一一、一一生、同二男)同甲子郎(同一三、一生、同三男)同和(昭三、四生、同三女)同久美(大一三、六生、二男亘長女)同新(昭三、四生、同長男)あり長女チトミ(明一四、一一生)は宮城縣士族大和田市郎に二女モト(同一九、二生)は同縣士族吉賀江宗二に三女リン(同二二、八生)は同縣人神戶常治長男久助に嫁せり(宮崎市橘通三ノ一八)
參照=大和田市郎の項

## 遠山孝三
愛知縣多額納稅者、內外紡績、津島染色整理各㈱社長、昭和毛絲紡績㈱取締役、遠山商店㈴代表社員日本放送協會東海支部理事、綿糸商、愛知縣在籍

妻　しげを　明三一、一二生、愛知、淺野淸助三女
男　孝平　大六、六生
女　きぬ子　大元、九生
女　眞紀子　大三、一〇生

君は愛知縣人先代孝三の長男にして明治十二年九月を以て生れ大正八年家督を相續し前名孝一を改め襲名す綿糸商を營み遠山商店代表社員にして傍ら日本放送協會東海支部理事及前記各會社の重役に擧げられ愛知縣多額納稅者たり家族は倘三女良子(大九、六生)二男邦孝(同一二、一生)四女常子(同一四、七生)三男利三(昭二、一〇生)あり弟三郎(明二七、一一生)は愛知縣人遠山順治郎の養子となれり(愛知、海部、津島町)
參照=※森淸次の項

## 遠山茂
從五位勳五等、檢事、高田區裁判所檢事兼新潟地方裁判所高田支部檢事、神奈川縣在籍

妻　かい　明二七、四生、東京、太田甚平二女
男　嘉雄　明四四、一一生
女　美津子　大四、四生

君は神奈川縣人遠山嘉又の長男にして明治十五年十一月を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し檢事に任じ爾來函館津山岡山玉島高梁新見笠岡御嵩岐阜各區安濃津地方岩見澤區釧路地方各裁判所檢事を歷補し昭和五年前記現職に補せらる家族は倘弟登(明二二、九生)同妻雪子(同三四、一一生、奈良、辻保造三女)及其四子あり弟嘉勝(同二〇、二生)は小川家を續ぎ妹愛子(同二四、一二生)は埼玉縣人內野昇二に同洸子(同三三、一〇生)は茨城縣人柴山粂四郎に嫁せり(高田、西城町二ノ一五ノ三電高田七七二)

## 遠山健彥
從四位、子爵
舊濃州苗木藩

妻　賀壽子　明三五、六生、子爵日野西資博三女、京都府第一高女出身

當家は加藤次景廉の後裔にして景廉建久六年美濃國遠山莊を領し子孫分れて七流となる當家は其一にして世々苗木城に居り久兵衞尉友政に至る友政德川氏に仕へ軍功を以て舊領苗木一萬五百二十一石に封ぜらる夫より十二代を經て友悌に至り明治十七年子爵を授けらる君は友悌の男にして明治三十年七月を以て生れ先代兄友鄕の養子となり大正九年襲爵す同十年京都帝國大學法學部政治科を卒業す家族は倘養妹眞子(大五、九生)同和子(同八、二生)あり姉常子(明一七、二生)は福岡縣人別府三穗三郎に妹良子(同三二、一〇生)は工學博士妻木賴黃長男法學士二郎に嫁せり(岐阜、惠那、苗木町)
參照=子爵日野西資博※子爵北小路三郎※櫻井小太郎※廣瀨滿敏の項

## 遠山元一
川島屋商店㈱社長、中央證券、共同證券各㈱取締役、角七、東京株式取引所取引員、埼玉縣在籍

母　みい　明元、四生、埼玉、鈴木庸行三女
妻　愛　明三四、一生、東京、原一郎姉
男　一行　大一一、七生

君は埼玉縣人遠山義三の長男にして明治二十三年七月を以て生れ大正八年家督を相續す東京株式取引所一般短期實物國際各取引員にして現に前記各會社の重役たり家族は倘長女貞子(大九、一二生)二男信二(同一二、八生)三男直道(同一四、一二生)弟浩三(明三一、一一生)あり妹しず(同二六、一生)は東京府人山下經治に同てる(同三五、四生)は岡山縣人高橋五六に嫁し弟芳雄(同二九、一生)は同妻喜久子(同三八、一〇生、茨城、立川桓次郎長女)を伴ひ埼玉縣人遠山時次郎の養子となれりA一三九二四B二一七五(東京、日本橋、坂本町一七電茅場町二三三一)
參照=山下經治の項

## 遠山芳三
東京府多額納稅者、開運ビルデング㈱取締役、遠山商店、東京株式取引所取引員、東京府在籍

妻　キン　明二八、八生、東京、市川里吉三女
男　泰三　明四四、八生

君は埼玉縣人遠山近三の二男にして明治十八年一月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す東京株式取引所一般短期國債取引員にして遠山商店を主宰し傍ら前記會社の重役を兼ね東京府多額納稅者たり家族は倘二男雄三(大元、九生)六男靜(同九、四生)七男秀雄(同一二、六生)長女千惠子(同一四、四生)八男昭八(昭二、六生)ありA五三二一B一〇六九(東京、日本橋、坂本町五電茅場町二三一〇)

## 頭山滿
志士
東京府士族

妻　ミネ　明三、九生、福岡、士、頭山和中長女
男　立助　明二四、一一生
婦　ツル　明二九、一一生、長男立助妻、福岡、辯護士濱地八郎三女
男　泉　明三六、四生
男　秀三　明四〇、二生

君は福岡縣士族筒井龜策の二男にして安政二年四月を以て生れ明治六年先代源六郎の養子となり家督を相續す夙に玄洋社を組織し同十八年故福岡縣知事安場保和

古莊嘉門佐々友房を援け九州國權黨の統一を圖る後國陵新報を發刊し帝國主義を唱導し爾來政界に馳驅し國士を以て目せらる家族は倘五男乙次郎(大二、六生)あり長女タツ(明一九、一二生)は福井縣士族大藤直哉に二女トラキチ(同二二、四生)は祖父筒井龜策二男條之助に三女シヅカ(同三八、六生)は同縣人松原彥介に五女岩生(同三五、二生)は同縣人林秀親に嫁せり(東京市外澁谷町常磐松一二電靑山五三一七)

## 藤堂大藏

日之出汽船、相模鐵道、淺野石材工業、信越木材、千代田石油各㈱取締役、神奈川コークス、太平洋貿易、芳野浦鑛業、鐵筋コンクリート各㈱監査役、淺野同族㈱支配人兼總務部長、三重縣士族

妻　まさぢ　明二三、三生、靜岡、士、小橋光次郎五女
男　太郎　大五、三生
女　信　明四四、八生

君は三重縣士族藤堂八座の長男にして明治九年三月を以て生れ同三十四年家督を相續す同三十二年東京高等商業學校を卒業し現時淺野同族會社支配人兼總務部長にして傍ら前記各會社の重役たり家族は倘は三男三郎(大九、一〇生)四男八郎(同一二、五生)六女和子(同一五、六生)あり長女愛(明四一、六生、聖心女子學院出身)は山口縣人高羅芳光に三女貞(同四三、一生)は東京府人山本德助に妹ゆき(同一四、一一生)は三重縣士族北村鐵太郎に嫁し弟碩(同一一、一二生)同妻まさ(同一三、二生、三重、上田恒之進長女)は其子女を伴ひ分家せり(東京市外目黑町下目黑六五〇電高輪一四五六)

## 藤堂高紹

從三位、伯爵　舊津藩

妻　信子　明一七、七生、伯爵眞田幸治叔母
男　高延　大六、七生
女　本子　大三、六生
女　國子　大四、一〇生

當家は舍人親王の曾孫中原眞人長谷の末葉藤堂石見守友章より十二世和泉守高虎の後なり高虎豐臣氏に仕へ朝鮮の役拔群の功あり後德川氏に屬し家康の器重するところとなり勢州の地三十二萬石を領す夫より十代を經て先代高潔に至り明治十七年伯爵を授けらる君は其男にして明治十七年七月を以て生れ同二十三年襲爵仰付けらる夙に學習院を卒業し英國に航し劍橋大學に勉學する事三年同四十年歸朝し曩に式部官に任ぜらる書畫美術に趣味を有し襲藏多し家族は倘五女千賀子(大一〇、五生)二男高弘(同一二、六生)あり長女良子(明四四、七生、女子學習院高等科出身)は公爵岩倉具榮に姉鎭子(明一五、五生)は子爵牧野忠篤に嫁せり(東京市外中野町小瀧三五電四谷二二三七)

參照＝公爵岩倉具榮、伯爵眞田幸治、子爵牧野忠篤※伯爵大村純英※伯爵清棲幸保※伯爵島津久範※子爵本多忠昭の項

## 藤堂高伸

男爵　藤堂伯爵家分家

母　いく　明一五、一〇生、祖父高節二女

當家は藤堂和泉守高虎の義子宮內少輔高吉の後なり高吉實は丹羽長秀の三男にして高虎の養子となり後分れて一家を立て伊賀名張にて二萬石を領す相傳へて先代高成に至る高成竹內子爵家より入りて當家を繼ぎ明治三十九年祖先の功に依り特旨を以て華族に列し男爵を授けらる同四十四年以來貴族院議員に當選する事三回に及び又數銀行會社の重役たり君は其長男にして子爵竹內惟斌の從弟なり大正四年七月を以て生れ昭和五年十一月襲爵被仰付姉惇子(明四一、三生、女子學習院出身)は子爵酒井忠英に叔母斐(同一九、三生)は子爵加藤克明に嫁せり(東京市外中野町小瀧三五電中野二三二六)

參照＝子爵加藤克明、子爵酒井忠英、子爵竹內惟斌※公爵島津忠承※男爵本堂親雄の項

## 藤堂高寬

從四位、子爵　舊勢州久居藩

母　俊子　明二、一一生、子爵森俊成叔母、跡見女學校出身
妻　武子　明三二、三生、子爵小笠原長生長女、學習院女學部出身
男　高銳　大一一、一〇生

當家は伊賀少將藤堂高次の三男佐渡守高通の後なり高通宗家より勢州久居の地五萬三千石を分與せられ一家をなす夫より十六代を經て先代高義に至り明治十七年子爵を授けらる君は其長男にして明治二十七年七月を以て生れ同三十八年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は倘二女喜美子(大一〇、一〇生)あり姉芳子(明二六、五生、跡見女學校出身)は伯爵大原重明に妹鉦子(同二九、一〇生、出身校同上)は子爵大島陸太郎に從姉文子(同一一、九生、亡伯母すゞ子二女)は子爵青山幸直先代幸宜に嫁し從兄高亮(同一〇、八生、同長男)は分家せり(東京、本鄉、駒込林町一五三電小石川八三九)

參照＝伯爵大原重明、子爵青山幸直、子爵小笠原長生、子爵大島陸太郎、子爵森俊成※佐々木八十八※佐藤鐵太郎※名村泰一の項

## 藤堂良讓

旭電化工業、日本農藥各㈱取締役、高砂香料㈱監査役、三重縣士族

父　三省　安政四、八生、現戶主
妻　恭　明二八、一生、三重、士、新芳三郎長女
男　良知　大五、一〇生

君は三重縣士族藤堂三省の長男にして明治十六年八月を以て生る同四十二年京都帝國大學理工科大學化學科を卒業し現時旭電化工業會社取締役の他前記各會社の重役たり家族は倘長女妙(大六、一一生)二女光(同九、五生)三女順(同一一、一二生)あり姉かね(明九、一二生)は三重縣人井上義雄長男武次郎に同かず(同一一、七生)は大阪府人金谷力に同きみ(同一三、九生)は同府人窪田忠良に妹かゑ(同一八、一一生)は三重縣人今井順吉に同まち(同二九、一一生)は山口縣人岡藤敏雄に叔母こふ(同元、三生)は三重縣人吉村益三に嫁せり(埼玉北足立、浦和町)

## 堂本貞一

從五位、朝鮮總督府新義州稅關長、東京府在籍

父　源吉　慶應三、三生、兵庫、玉越佐治兵衞長男、現戶主
繼母　はつ　明一四、五生、東京、栗原勝之助長女
妻　多美　明二八、一生、埼玉、齋藤傳次郎三女

君は東京府人堂本源吉の長男にして明治二十六年十二月を以て生る大正五年東京外國語學校獨逸語學科を卒業し同八年高等試驗に合格す爾來遞信書記朝鮮總督府遞信副事務官同道事務官忠淸北道慶尙北道各財務部長を歷任し昭和四年同稅關長に任ぜられ仁川稅關長を命ぜられ同六年一月新義州稅關長に轉ず家族は倘長女さち子(大一〇、一二生)四女ふさ子(昭五、四生)弟享二(明三〇、七生)妹正枝(大二、九生)あり(朝鮮、新義州府稅關官舍)





## 道家齊次

北海道拓殖銀行㈱祕書課長、東京府在籍

妻　金榮　明二八、三生、京都、橫川政壽郎二女

君は東京府士族道家齊の二男にして明治二十五年四月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す父齊は夙に農商務省に出仕し內閣總理大臣祕書官兼內閣書記官樞密院書記官兼議長祕書官內閣法制局參事官農商務省水產局長農務局長等に歷任し後日本勸業銀行理事產業組合中央會理事副會頭に推され大正十二年貴族院議員に勅任せられ錦鷄間祗候仰付けらる君は大正十年京都帝國大學經濟學部經濟學科を卒業し同年北海道拓殖銀行に入り現時同行祕書課長たり妹梅子(明二九、三生、女子學習院出身)は實業家鈴鹿保家に同竹子(同三一、六生出身校同上)は工學士田島武夫に同鶴子(同三五、一生三輪田高女出身)は法學士永田忠太郎に同龜子(同三五一生、出身校同上)は法學士小濱八彌に同松子(同三六二生、出身校同上)は工學士水谷當起に嫁し弟齊四郎(同四二、一生)は兵庫縣人末高興次郎の養子となれり(札幌、北一條西十三丁目)

參照＝小濱八彌、末高興次郎、鈴鹿保家、田島武夫の項

## 道源權治

勳四等、衆議院議員(山口縣選出)、山口縣多額納稅者、防長林業㈱社長、百十銀行㈱監查役、農業、山口縣士族

養母　モト　嘉永四、一一生、道源常吉二女
妻　ウメ　明九、三生、養父岩太郎長女
男　秀輔　明二八、八生、農學士
婦　睦　明三二、一一生、長男秀輔妻、島根、堀藤十郎妹、縣立山口高女出身

當家は世々山口縣富田町に住し酒造業を營み維新前士分に列せる素封家なり君は同縣の舊家岩崎惣輔の二男にして明治二年一月を以て生れ先代岩太郎の養子となり同三十二年家督を相續す曩に傳來の酒造業を廢し專ら力を農林及鹽業に注ぎ貴族院議員に當選し又縣會議員に舉げられ公共事業に盡瘁せるところ尠からず現に農に從事し防長林業會社長たる外前記銀行の重役にして直接國稅三千二百五十二圓を納め山口縣多額納稅者たり昭和五年衆議院議員に推され立憲民政黨に屬す家族は倘孫松枝(大一四、二生、長男秀輔長女)同照子(昭三、七生、同二女)あり長女武子(明三五、五生)は山口縣人西元彥衞に二女京野(同四〇、一生)は同縣人松原仁彥に三女百枝(同四三、三生、東京女學館出身)は石川縣人牧逢夫に嫁せり(山口、都濃、富田町)

參照＝堀藤十郎※侯爵西鄉吉之助※阿部市郎兵衞※齋藤浩介※澤原俊雄※濱口儀兵衞の項

## 道免作郎

從五位勳六等、判事、佐賀區裁判所監督判事兼佐賀地方裁判所判事、大分縣在籍

妻　テン　明二三、一〇生、大分、諫山龜松三女
男　久士　大一三、三生
女　和子　大五、一一生

君は大分縣人道免由之助の長男にして明治十六年九月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十年明治大學を卒業し外務省囑託と爲り大正三年判檢事登用試驗に及第し大分區裁判所檢事代理豫備檢事となり後判事に轉じ爾來廣島地方兼同區三次區下關區兼山口地方下關支部鳥取地方兼同區佐世保區兼長崎地方佐世保支部鹿兒島地方各裁判所判事に歷補し昭和四年佐賀區裁判所監督判事兼佐賀地方裁判所判事に轉じ今日に至る家族は倘二女美代子(大一〇、七生)三女保子(同一五、一二生)あり(佐賀市區裁判所內)

## 峠延吉

大辻岩屋炭礦㈱專務取締役、貝島商業㈱監查役、貝島㈴理事、廣島縣在籍

妻　しのぶ　明二〇、一二生、男爵瓜生外吉二女
男　延雄　明四一、五生

君は廣島縣人峠伊兵衞の長男にして明治六年二月を以て生れ同三十年家督を相續す同二十九年東京高等商業學校を卒業し實業界に入り現時前記各會社の重役たり弟嘉一(明七、九生)同妻ステ(同一六、三生、佐賀、士中島宜作妹)は其子女を伴ひ分家せり(福岡、遠賀、香月村)

參照＝男爵瓜生外吉※內村直俊※森格の項

## 栂野勝治

三井生命保險㈱名古屋支店長、石川縣在籍

嫡母　まつ　安政五、一生、石川、山本太一妹
妻　嘉美　明二七、八生、石川、石田崇山二女
男　龍太郎　大五、二生

君は石川縣人栂野久五郎の男にして明治二十一年十一月を以て生れ大正七年家督を相續す夙に三井生命保險會社に入り金澤支店長を經て現時同社名古屋支店長たり家族は倘二男大二郎(大九、七生)長女美和子(同一三、八生)三男純三(昭四、一一生)あり(名古屋、中、笹島町三井生命保險會社支店內)

## 栂野明二郎

日本釀造工業㈱取締役社長、萬歲釀造㈱取締役、東京府在籍

妻　はつ　明一六、一生、東京、士、小西信八長女、東京女高師出身
男　豐明　明四五、四生
女　富美子　大三、一生、御茶の水高女在學
女　榮子　大五、三生

君は新潟縣人栂野喜代治の二男にして明治十五年十二月を以て生れ大正八年先代てる子の死跡を相續す明治四十二年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し釀造學を專攻す現時前記諸會社の重役たり(東京市外巢鴨町一六八六電大塚一一五八)

## 時岡正忠

東洋釦㈱常務取締役、兵庫縣在籍

養父　鶴吉　慶應二、八生、京都、大槻安兵衞三男、現戶主
養母　のぶ　明九、一〇生、大阪、戶田牛七二女
妻　繁子　明二八、一一生、養父鶴吉長女、第一神戶高女出身
男　鶴夫　大一一、三生
女　園子　大五、一生

君は愛媛縣人野瀨正貞の四男にして明治二十三年十月を以て生れ大正四年時岡鶴吉の養子となる同三年東京高等商業學校卒業後直に三菱合資會社東京本社に入社せしが同七年東洋釦會社創立せらるゝや入りて取締役となり現時常務取締役たり昭和三年社用を兼ね歐米を漫遊せりスポーツ及謠曲を趣味とす家族は倘二女道子(大六、一〇生)三女敏子(同八、九生)二男正治(同一二、一〇生)四女照子(同一四、一二生)あり(神戶、山本通四ノ二二電葺合三二七九)

## 時澤儀三郎

龍泉寺鐵道㈱監查役、生絲問屋業、神奈川縣在籍

妻　八重　明一一、二生、京都、島田彌三郎二女

男　陽一　明四一、一一生
女　糸子　明三八、三生
男　整二　明四三、三生
君は神奈川縣人時澤助治郎の長男にして明治七年六月を以て生れ同三十六年家督を相續す生絲問屋業を營み龍泉寺鐵道會社監査役たり長女とみ子(明三六、一一生)は群馬縣人新井庫太郎に嫁せりA五三四六B一二四六(横濱、中、辨天通一ノ一五電本局一九三〇)

## 時任一彦
従二位勲二等、農學博士、北海道帝國大學教授、農學部勤務
北海道士族
妻　ムメ　明二二、二生、鹿兒島、平川敬治長女
男　義昌　明四〇、三生
女　富士　明四二、八生
女　京　大三、四生
君は鹿兒島縣士族時任義當の長男にして明治四年五月を以て生れ同二十年家督を相續す同三十年札幌農學校本科を卒業し同校教授となり同三十四年農藝物理學研究の爲獨米兩國に留學し同十八年札幌農學校教授兼生徒監に任ぜられ次で東北帝國大學農科大學助教授に任じ同四十四年同大學教授に進み大正三年農學博士の學位を受く現時北海道帝國大學教授にして農學部に勤務す家族は尚二男正夫(明四五、二生)あり長女美知(同三四、五生)は茨城縣人廣瀬仲松長男圓一郎に嫁し三男逢彦(大六、二生)は東京府人邊見勇彦の養子となれり(札幌、北六條西十二丁目ノ一農學校番地內)

## 時野谷常三郎
正五位勲五等、奈良女子高等師範學校教授兼京都帝國大學助教授、文學部勤務、茨城縣在籍
妻　みつ　明二八、九生、茨城、小島角四郎三女
男　勝　明四四、五生
君は茨城縣人時野谷清一郎の四男にして明治十四年十二月を以て生れ大正五年兄角三郎方より分れて一家を創立す明治四十年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し同年陸軍教授に任じ大正七年支那に出張を命ぜらる歸朝後同八年奈良女子高等師範學校教授に轉じ同十四年京都帝國大學助教授を兼任し現在に至る曩に獨國に留學せり(奈良市東笹鉾町四三)

## 時乘壽
正五位勲三等功五級、陸軍少將、陸軍大學校兵學教官、東京府在籍
妻　治子　明二四、八生、侯爵木戸幸一妹
男　一雄　大三、四生
君は山口縣人時乘治三郎の二男にして明治十五年一月を以て生れ大正十四年兄虎之進方より分れて一家を創立す明治三十六年陸軍砲兵少尉に任じ昭和四年陸軍少將に累進す其間野戰重砲兵第六聯隊附陸軍大學校兵學教官野戰重砲兵第八聯隊長等に歷補し昭和四年現職に補せらる家族は尚二男武雄(大五、一生)長女靜子(同八、一〇生)あり(東京市外代々幡町代々木一三八九電四谷四〇九)
參照=侯爵木戸幸一※兒玉常雄※和田小六の項

## 時久龍太郎
日本海上保險(株)會計課長
高知縣在籍
父　慶太郎　慶應三、六生、現戸主
妻　たみ　明二七、四生、大阪、米倉善藏長女
男　雄二郎　昭三、一二生
女　ふさ　明四四、一生
女　晶子　大二、二生
君は高知縣人時久慶太郎の長男にして明治二十年二月を以て生る高知商業學校の出身にして日本海上保險會社に入り現時同社會計課長たり家族は尚五女澄子(大一一、一生)あり弟虎吉(明二三、九生)は高知縣人田中卷の養子となり叔母兼井(同四、四生)は同縣人橋本忠助に嫁せり(兵庫、川邊、伊丹町)

## 時政梅吉
山口縣多額納税者、製鹽業
山口縣在籍
妻　ウメ　明元、一生、山口、士、唐崎泰三妹
男　彌太郎　明三八、七生
婦　鶴子　明四二、四生、四男彌太郎妻、東京、榊保三郎長女、雙葉高女出身
男　鐵之助　明四一、九生
男　大八郎　明四三、七生
君は山口縣人時政寅之助の長男にして元治元年十二月を以て生れ明治十五年家督を相續す製鹽業を營み山口縣多額納税者にして直接國税三千八百八十二圓を納む家族は尚孫基賓(昭四、七生、四男彌太郎長男)あり長女キク(明二一、四生)は山口縣人大田常造に二女チヨ(同二四、四生)は同縣人小林房之助長男宗助に三女美知子(同二七、三生)は同縣士族山縣半長男修に四女安代(同三二、六生)は同縣人豐島專一に嫁せり(山口、佐波、防府町)
參照=※岡田和一郎※榊順郎の項

## 鴇澤林藏
長野縣多額納税者、上田商工會議所常議員、若林釀造(株)取締役、上田溫泉電氣、上田瓦斯各(株)監査役、乾物商、長野縣在籍
母　かつ　安政四、九生、長野、色部金作長女
妻　よし　明一六、七生、長野、今井新左衞門長女
養子　芳雄　明三二、四生、長女かつみ夫、長野、赤池重治弟
女　かつみ　明三九、四生、養子芳雄妻
君は長野縣人先代林藏の長男にして明治九年九月を以て生れ同三十一年家督を相續し前名金吾を改め襲名す乾物商を營み傍ら前記各會社の重役にして上田商工會議所常議員たり又縣下の多額納税者の列に在り家族は尚姉まき(明七、一〇生)あり妹とら(同一二、一生)は長野縣人鴇澤和助長男佐助に嫁し弟由藏(同一四、七生)は分家せり(上田、天神町)

## 鴇田政春
千葉縣多額納税者、東金銀行、大橋堂製菓各(株)取締役、農業
千葉縣在籍
養母　かつ　嘉永五、六生、鴇田健藏三女
妻　とく　明一二、六生、養父友七長女
男　義夫　明三七、一二生、明大出身
男　東海男　明四一、九生、慶大醫學部在學
君は千葉縣人十枝市仲の三男にして明治十五年二月を以て生れ先代友七の養子となり大正二年家督を相續す夙に東京に遊學し農業を營み又前記銀行會社の重役にして直接國税三千一百三十二圓を納め千葉縣多額納税者たり家族は尚長女睦子(大八、六生)二女早苗(同一二、六生)あり養妹とみ(明一九、一一生)は千葉縣多額納税者須田信夫に嫁せり(千葉、市原、菊間村)
參照=須田信夫の項

## 硎次一郎
熊本商工會議所顧問、安田銀行(株)熊本支店長、石川縣在籍
妻　勝摘　明二三、五生、石川、中屋米吉三女
男　琢光　大八、一生
君は石川縣人硎次右衞門の長男にして明治十七年十二







月を以て生れ大正七年家督を相續す明治二十九年明治商業銀行に入行し爾來桐生伊勢崎各支店長を經て大正十二年安田銀行伊勢崎支店長となり翌年熊本支店副長に同十五年現職熊本支店長に進む又推されて熊本商工會議所顧問たり家族は尚二男博光(大一二、七生)ありA二三七(熊本市內坪井町八七電八七〇)

## 常盤扇壽
粕川水電、苫前電氣各(株)取締役、常盤商會、土木電氣工事請負業
宮城縣士族
妻　ヨキ　明一七、二生、福井、佐野重助三女
養子　正弘　明三六、一生、養子常子夫、東京大內磯松二男
養子　常子　明四一、一二生、養子正弘妻、東京、吉良雅夫長女
君は宮城縣士族常盤竹之助の二男にして明治十二年七月を以て生る常盤商會と稱し土木電氣工事請負業を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尚兄亮助(明八、三生、現戸主)及其一男あり弟安三(同二〇、九生)は東京府人桐坂ヨシの入夫となり妹こたけ(同一五、四生)は宮城縣人柳襲治に嫁せりA一二三一B二九九(東京、下谷、金杉上町九一電下谷五一三一)

## 常盤大定
正五位、文學博士、東洋大學印度哲學倫理學科長、宮城縣在籍
妻　ちよゑ　明一二、二生、山形、本多藏思長女
男　義成　明四〇、三生
男　定麿　明四三、六生
女　たまえ　大五、九生
君は宮城縣人常盤大宣の二男にして明治三年四月を以て生れ先代伯父了然の養子となり同三十八年家督を相續す同三十一年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し同大學講師となり支那の佛敎史蹟を踏査する事五回大正十年文學博士の學位を授與され同大學敎授に任ぜられしが昭和六年官を退き現時東洋大學印度哲學倫理學科長たり馬鳴菩薩論釋迦牟尼傳支那佛敎史蹟佛性の研究佛敎と儒敎道敎等の著あり家族は尚三男信明(大二、九生)二女靜枝(同七、七生)あり(東京、小石川、指ヶ谷町一電小石川六七〇〇)

## 常盤秀治
日本紙業(株)代表取締役
東京府在籍
君は福島縣人常盤芳秀の四男にして明治二十四年四月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す現時日本紙業會社代表取締役たり(東京、本郷、向ヶ岡彌生町三電小石川二四七二)

## 常盤盛雄
日本勸業銀行(株)青森支店長
宮城縣在籍
父　榮　文久元、一二生、現戸主
母　ミツ　慶應三、一〇生、福島、士、春日郡吾四女
妻　千代　明二七、一一生、東京、宮本リヨウ二女
君は宮城縣士族常盤榮の長男にして明治十八年五月を以て生る大正二年東京帝國大學法科大學商學科を卒業し日本勸業銀行福井支店長たりしが現時同行青森支店長の職に在り家族は尚弟敬(明二一、九生)妹松枝(同二六、一一生)あり(青森市米町日本勸業銀行支店內)

## 常磐井堯猷
正四位、男爵、文學博士、眞宗高田派管長、京都帝國大學文學部講師、僧家
男　堯祺　明三八、一一生、従五位、文學士
女　敎子　明三七、六生、京都第一高女出身
當家は親鸞上人の弟子眞佛の系なり代々下野國高田專修寺の住職として第十世眞慧に至る眞慧寺基を伊勢國一身田に遷し專修念佛を紹隆し定規を制す之を中興の祖となす先代第二十一世堯熙は從一位近衞忠熙の七男にして入つて當家を繼ぐ明治五年華族に列し家號を常磐井と稱し同十七年高田派管長に任ぜられ同二十九年男爵を授けらる君其後を享く君實は近衞忠房の二男にして公爵近衞文麿子爵近衞秀麿男爵水谷川忠麿の叔父に當り明治五年三月を以て生れ堯熙の養子となり大正八年家督を相續し襲爵仰付けらる明治十九年獨英に留學しストラスブルヒ大學に入り梵文學を研究し同三十二年歸朝す大正二年眞宗高田派管長となり同九年文學博士の學位を受く本邦に於ける梵文學の權威にして現に京都帝國大學文學部講師たり家族は尚庶子禮子(大一二、三生、生母、三重、金丸まき)同祇子(同一五、八生、生母同上)あり(三重、河藝、一身田町)
參照=公爵近衞文麿、子爵近衞秀麿、男爵水谷川忠麿※公爵大山柏※公爵德川家達※床次竹二郎の項

## 得能文
正五位、文學博士、東京高等師範學校敎授、富山縣在籍
妻　クミ　明六、七生、石川、松田シン私生子
養子　次郎　明四一、三生、富山、柴太郎弟
君は富山縣人得能通孝の長男にして慶應二年八月を以て生れ先代伊兵衞の養子となり家督を相續す明治二十四年帝國大學文科大學選科を修業し第四高等學校日本豐山各大學東京高等工業學校東京帝國大學文科大學各講師淨土宗專門學校敎員東洋大學敎授等に歷任し大正十年文學博士の學位を受け同十一年東京高等師範學校敎授に任じ現に其職に在り哲學に關する著書あり長女佳(明二六、四生)は秋田縣人片野文吉に嫁せり(東京、本郷、駒込西片町一四)

## 德江治之助
従五位勲五等、檢事、名古屋地方裁判所檢事兼名古屋區裁判所檢事
群馬縣在籍
父　亥之助　文久三、一〇生、現戸主
母　たか　明元、七生、養曾祖父治平元養子安平長女
妻　さく　明二八、一〇生、群馬、宮田左京二女
男　孝之助　昭四、一一生
女　敏子　明四三、三生
君は群馬縣人德江亥之助の長男にして明治十九年二月を以て生る同四十三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し大正二年檢事に任じ爾來名古屋地方同區七尾區安濃津區同地方山田區各裁判所檢事同岡崎區裁判所檢事兼名古屋地方裁判所岡崎支部檢事等に歷補し同四年現職に轉ず家族は尚三女靜子(大七、一生)四女鈴子(同九、九生)弟淳之助(明二九、一生)及其子女同淑之助(同二六、七生)同妻はつ(同二七、一二生、群馬、淺川參四郎長女)及其子女あり姉しげ(同一六、六生)は其三子を伴ひ分家せり(名古屋、東、二葉一ノ二二電東五六)

## 德川家達
正二位勲一等、公爵、貴族院議長、麝香間祗候、東京府多額納税者、日本赤十字社長、華族會館長、學習院評議會議長、濟生會長、東京慈恵會々長、舊將軍家
妻　泰子　慶應三、九生、公爵近衞文麿叔母、勲四等

男　家正　明一七、三生

當家は鎭守府將軍源經基八代の孫徳川四郎義季より十六代贈正一位太政大臣徳川家康の後なり家康天下を一統し慶長八年征夷大將軍に任ぜられ三百年の大業を開けり十五代將軍慶喜に至り大政を奉還す君實は贈正二位田安慶賴の第三子にして伯爵徳川達孝の兄侯爵徳川賴貞の伯父なり文久三年七月を以て生れ幼名を龜之助と稱し明治元年入りて宗家を繼承するに及び家達と改名す同年駿遠三の地七十萬石を賜はり翌二年版籍を奉還して靜岡藩知事に任じ夫で華族に列せらる同十年英國に遊學し在留五年歸朝後直に麝香間祗候となり同十七年公爵を授けらる同二十三年貴族院議員に任じ同三十六年同議長に推され現に其任に在り其間同四十三年歐米を視察し大正十年日本全權委員として華府會議に參列す現時前記の外各種の顯職を兼ぬ相撲及旅行を趣味とす長女綾子(明三〇、四生、學習院女學部出身)は侯爵松平康昌に二女綏子(同三〇、一〇生、出身校同上)は公爵鷹司信輔に三女繁子(同三七、一生)は伯爵松平直亮二男直國に嫁せり(東京市外千駄ヶ谷町三三〇**電青山一〇〇一**)

參照＝公爵近衞文麿、公爵鷹司信輔、侯爵徳川賴貞
侯爵松平康昌、伯爵徳川達孝、伯爵松平直亮
男爵徳川喜翰、徳川家正※久邇宮家※山階宮家※公爵大山柏※伯爵島津久範※伯爵久松久謨※伯爵溝口直亮※子爵大久保立※子爵近衞秀麿※子爵土屋正直※子爵徳川武定※男爵島津齊視※男爵島津備愛※男爵常磐井堯猷※男爵水谷川忠麿の項

## 徳川家正

從三位勳三等、特命全權公使、カナダ國駐劄、東京府華族

父　家達　文久三、七生、現戸主
妻　正子　明一八、九生、公爵島津忠重姉
男　家英　明四五、一生
女　豐子　大二、一二生

君は公爵徳川家達の長男にして伯爵徳川達孝の甥侯爵徳川賴貞の從兄なり明治十七年三月を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し同年外交官及領事官試驗に合格し外交官補に任じ英國に在勤し爾來外務省參事官兼外務大臣秘書官外務書記官公使館二等書記官(支那駐在)同一等書記官(駐英)大使館參事官(駐英)總領事(シドニー在勤)等に歷任し昭和四年特命全權公使に進みカナダ國駐劄仰付けらる同年グロスター公殿下御來朝の節接伴員被仰付家族は倘二女敏子(大七、四生)三女順子(同八、一一生)あり(在加奈陀日本公使館)

參照＝公爵島津忠重、公爵徳川家達、侯爵徳川賴貞
伯爵徳川達孝※久邇宮家※山階宮家※公爵島津忠承※公爵鷹司信輔※侯爵松平康昌※伯爵島津久範※伯爵久松定謨※伯爵松平直亮※伯爵溝口直亮※子爵大久保立※子爵土屋正直※子爵徳川武定※男爵島津齊視※男爵島津備愛の項

## 徳川圀順

正三位勳三等、公爵、陸軍歩兵少尉、貴族院議員、日本赤十字社副社長、舊水戸家

母　總子　明二、一二生、伯爵松平賴壽姉
妻　彰子　明三三、一〇生、子爵石野基道四女
男　圀齊　明四五、三生、學習院在學
女　典子　大三、三生、女子學習院在學

當家は太政大臣徳川家康の第十一子中納言賴房の後にして徳川三家の一なり賴房二十五萬石に封ぜられ水戸に居城す後封を増して三十五萬石に至る其子贈正一位光圀家を繼ぐ世に黄門と稱す朝廷を尊び幕府を輔け鴻儒を聘して大日本史を編修し湊川に碑を建てゝ楠氏の忠節を表旌せる等功業偉勳擧げて數ふべからず義公と諡す五代を經て贈正一位齊昭に至る齊昭亦山陵を修し弘道館を起して文武の道を奬勵す水戸中興の主たり謚して烈公といふ其子慶篤の子篤敬を養ふて嗣となす篤敬明治十七年侯爵を授けられ伊國駐劄特命全權公使式部次長貴族院議員等に歷任す君は其長男にして明治十九年十二月を以て生れ同三十一年襲爵し昭和四年父祖の勳功に依り公爵に陞さる貴族院議員にして日本赤十字社副社長たり家族は倘二男圀禎(大四、五生、東京陸軍幼年學校在學)四男圀弘(同七、八生、學習院在學)あり三男圀秀(同五、八生、學習院在學)は子爵松平賴安の養嗣子となり弟敬信(明三〇、五生)は伯爵徳川達道の養子となり宗敬と改名し叔母昭子(同一六、一生)は伯爵松平賴壽に同政子(同一八、八生)は子爵毛利元雄に同直子(同三三、五生)は男爵松平齊光に同温子(同三四、九生)は子爵京極高修に嫁せり(東京市外澁谷町猿樂三四**電青山三・六五九〇**)

參照＝伯爵徳川達道、伯爵松平賴壽、子爵京極高修
子爵石野基通、子爵毛利元雄、男爵松平齊光
※子爵持明院基揚※子爵松平親義※子爵松平賴和※男爵松園信淳※本咲利之助の項

## 徳川達孝

從二位勳二等、伯爵、麝香間祗候、日本弘道會長、舊田安家

妻　知子　明八、八生、公爵島津忠重姉
男　達成　明三二、五生、正五位、海軍造兵大尉
婦　元子　明四〇、五生、長男達成妻、伯爵戸田氏共孫

當家は八代將軍徳川吉宗の二男權中納言宗武の後にして三卿の一たり宗武采邑十萬石を食み田安館に居りしを以て田安殿と稱す三代を經て贈正二位慶賴に至る君は其第四子にして侯爵徳川賴貞の伯父徳川家正の叔父なり慶應元年五月を以て生れ幼名を群之助と云ふ明治元年兄家達宗家たる慶喜の後嗣となりしを以て君其後を享け同二年家督を相續し同十七年伯爵を授けらる同二十二年歐米を漫遊し翌年歸朝貴族院議員に當選す侍從職幹事に任ぜられしにつき貴族院議員を辭し其後侍從次長を經て侍從長に進む昭和二年職を辭し現時麝香間祗候仰付けられ又日本弘道會長芝區教育會長華族會館評議員の職に在り讀書を好み詩歌謠曲園藝に趣味深し家族は倘孫雅子(昭二、一〇生、長男達成長女)同宗英(同四、一生、同長男)同宗賢(同五、一一生、同二男)あり長女須美子(明二一、七生、華族女學校出身)は伯爵溝口直亮に二女穀子(同二三、一生、出身校同上)は子爵土屋正直に三女艶子(同二四、三生、出身校同上)は伯爵立花鑑德に四女繍子(同二五、七生、出身校同上)は子爵徳川武定に五女惠子(同四二、二生、女子學習院出身)は子爵大久保立長男寛一に嫁せり(東京、芝、三田綱町一**電高輪五二五三**)

參照＝公爵島津忠重、公爵徳川家達、侯爵徳川賴貞
伯爵立花鑑德、伯爵戸田氏共、伯爵溝口直亮
子爵大久保立、子爵土屋正直、子爵徳川武定
徳川家正※久邇宮家※山階宮家※公爵島津忠承※侯爵細川護立※伯爵島津久範※伯爵久松定謨※伯爵松平直亮※子爵池田政保※子爵松平直平※男爵島津備愛※男爵島津齊視の項

(※印は姻族關係)





## 徳川達道

從二位、伯爵、舊一橋家

養子　宗敬　明三〇、五生、公爵徳川圀順弟、正五位
婦　幹子　明三五、一二生、養子宗敬妻、侯爵池田仲博長女

當家は徳川八代の將軍吉宗の三男權中納言宗尹より出づ宗尹封十萬石を食み所謂三卿の一にして一橋家と稱す八代を經て正二位茂榮に至る將軍家齊慶喜は實に當家の出なり君は茂榮の四男にして明治五年十一月を以て生れ幼名を英次郎といふ同十七年家督を相續し同年伯爵を授けらる家族は倘孫美代子(大一〇、三生、養子宗敬長女)同伊津子(同一一、五生、同二女)同宗信(昭四、一一生、同長男)あり(東京、小石川、林町九二**電小石川一一一四、一一一五**)

參照＝公爵徳川圀順、侯爵池田仲博※侯爵西鄕從德※伯爵大木喜福※伯爵勝精※伯爵南部利英※伯爵松平賴壽※子爵池田清就※子爵京極高修※子爵朽木綱博※子爵毛利元雄※男爵荒尾博正※男爵徳川誠※男爵徳川喜翰※男爵松平齊光の項

## 徳川武定

正四位勳四等、子爵、工學博士、海軍造船中佐、東京帝國大學工學部講師、帝國水難救濟會顧問、評議員、公爵徳川圀順分家

妻　繍子　明二五、七生、伯爵徳川達孝四女
女　宗子　大三、八生

君は公爵徳川圀順先々代故從一位徳川昭武の男にして明治二十一年十月を以て生れ同二十五年別に一家を立て父昭武の勳功に依り特旨を以て華族に列し子爵を授けらる大正五年東京帝國大學工科大學造船科を卒業して海軍に入り累進して昭和三年海軍造船中佐に陞る曩に海軍技術研究所員兼海軍艦政本部員海軍大學校敎官たりしが昭和六年待命仰付けらる現時東京帝國大學工學部講師の外前記の職にあり(東京市外大久保町西大久保三七八**電四谷一〇二四**)

參照＝伯爵徳川達孝※公爵徳川家達※侯爵徳川賴定※伯爵溝口直亮※子爵大久保立※子爵土屋正直の項

## 徳川喜翰

正五位、男爵、貴族院囑託、日本大學講師、日本電熱線製造(株)監査役、公爵徳川家達分家

母　里子　明一一、四生、侯爵松平康昌大叔母
妻　美代子　明四一、一生、白井新太郎長女

當家は先代厚の立つる所なり厚は故從一位公爵徳川慶喜の四男にして明治十五年宗家徳川家達方より分れて一家を創立し特旨を以て華族に列し同十七年男爵を授けられ貴族院議員に擧げらる君は其長男にして公爵徳川慶光の從兄侯爵池田仲博伯爵勝精男爵徳川誠の甥なり明治三十年一月を以て生れ昭和二年父厚の退隱に因り家督を相續し襲爵す大正十一年京都帝國大學法學部を卒業し現時貴族院囑託日本大學講師たり家族は倘弟喜堅(明四〇、一〇生、學習院高等科出身)あり弟喜福(同三一、四生、經濟學士)は故伯爵大木遠吉の養子となり當主にして妹喜和子(同四三、一〇生)は神戸市戸田豐太郎に嫁せり(東京、赤坂、青山高樹町一二ノ十五號**電青山二九二三**)

參照＝公爵徳川慶光、侯爵池田仲博、侯爵松平康昌
伯爵大木喜福、伯爵勝精、男爵徳川誠、白井新太郎※高松宮家※伏見宮家※公爵三條公輝※侯爵四條隆愛※侯爵徳川義親※子爵加藤泰通※子爵竹屋春光※子爵戸田康保※子爵鍋島直庸※子爵藤波茂時※子爵松平慶民※男爵三井八郎右衞門※男爵毛利元良※白井龍一郎の項

## 徳川誠

從四位、男爵、城東電氣軌道(株)監査役、公爵徳川慶光分家

妻　齊子　明二九、八生、男爵名和長憲長女、學習院女學部出身
男　熈　大五、二生

君は故從一位徳川慶喜の第九子にして公爵徳川慶光男爵徳川喜翰伯爵大木喜福の叔父なり侯爵池田仲博は其兄に伯爵勝精は其弟に當る明治二十年十月を以て生れ大正二年分れて一家を創立し父慶喜の勳功に依り特旨を以て華族に列し男爵を授けらる夙に學習院を卒業して米國に遊學し歸朝後横濱正金銀行に入り米國佛國の同行支店に勤務せしも現時城東電氣軌道會社監査役たり家族は倘二男脩(大九、八生)あり(東京市外代々幡町代々木初臺六三四**電四谷一五三**)

參照＝公爵徳川慶光、侯爵池田仲博、伯爵大木喜福
伯爵勝精、男爵徳川喜翰、男爵名和長憲※高松宮家※伏見宮家※侯爵西鄕從德※侯爵四條隆愛※伯爵徳川達道※伯爵南部利英※子爵池田清就※子爵大河内輝耕※子爵松平康莊※男爵松平春光※神野金之助の項

## 徳川好敏

正五位勳三等功四級、男爵、陸軍航空兵大佐、所澤陸軍飛行學校敎育部長兼同校研究部々員、舊清水家

妻　千枝子　明二九、七生、子爵松平忠諒姉、學習院女學部出身
男　豪英　大一一、五生

當家は清水家として徳川三卿の一たり君は先代篤守の長男にして公爵徳川圀順の從兄に當る昭和三年十一月特に男爵を授けられ華族に列す東京陸軍地方幼年學校中央幼年學校士官學校を卒業し明治三十七年陸軍工兵少尉に任じ日露戰役に從軍す後氣球隊に轉じ同四十三年佛國に派遣され飛行術を修得歸朝し大正十五年累進して航空兵大佐に任ず其間大正三四年戰役出征航空隊附航空隊中隊長航空部檢査官陸軍航空學校敎官兼大學校兵學敎官飛行第二大隊長所澤飛行學校研究部主事兼同校敎官飛行第一聯隊長等に歷補し昭和四年前記現職に補せらる趣味に釣魚あり家族は倘二女佐枝子(大八、九生)三女久美子(同一五、二生)四女華子(昭三、三生)二男輝尙(同六、二生)あり姉芳子(明一五年生)は子爵朽木綱博先代綱貞に妹貞子(明一八年生)は侯爵蜂須賀正韶先代茂韶の養子となり次で東京府人吉井信照に同保子(同二一、六生)は子爵森清弟明に同鈴子(同二四一二生)は小原十三司に同重子(同二六、六生)は福井縣士族坪田脩吉に嫁し弟守(同二三、九生)同妻裕香子(同三〇、一〇生、子爵松平忠諒姉、學習院女學部出身)は其子女を伴ひ分家し弟明(同二四、三生)は島根縣士族川上ハルに同光は松尾家に同雄吉は山田家に各養子となれり(東京市外落合町下落合四九〇**電大塚三九八四**)

參照＝侯爵蜂須賀正博、子爵朽木綱博、子爵松平忠諒、子爵森清、坪田脩吉の項

## 徳川義恕

從三位勳四等、男爵、陸軍歩兵少尉、侯爵徳川義親分家

妻　寛子　明一九、二生、伯爵津輕義孝先々代承昭女、東京女學館出身
男　義寛　明三九、一一生、從五位、文學士東大大學院在學
男　義忠　明四二、二生
女　祥子　大五、八生

君は故從一位徳川慶勝の十一男にして侯爵徳川義親先

(※印は姻族關係)

代義禮の養弟なり明治十一年十一月を以て生れ同二十一年分れて一家を創立し特旨を以て華族に列し男爵を授けらる同三十五年學習院中等科を卒業し陸軍歩兵少尉を以て日露の役に從軍す曩に侍從宮內省內匠寮御用掛仰付けらる家族は尙四男義恭(大一〇、一一生)あり二男義孝(明四〇、一二生)は伯爵津輕英麿の死跡を相續せり(東京、牛込、市ヶ谷河田町七電牛込五五五九)
參照＝侯爵徳川義親、伯爵津輕義孝※男爵津輕承靖の項

**徳川義親**　從三位勳三等、侯爵、東京府多額納稅者、八雲高等國民學校長　舊尾州家
妻　米子　明二五、三生、先代義禮長女
男　義知　明四四、五生
女　絹子　大二、一〇生
女　春子　大四、一生
當家は太政大臣徳川家康の第九子大納言義直の後なり義直六十一萬九千五百石に封ぜられ名古屋に在城し徳川宗家親藩の筆頭たり夫より十三世を經て從一位慶勝に至り王政復古に際し松平慶永等と共に王事に盡瘁す先代義禮其後を享け明治十七年侯爵を授けらる君實は故從一位松平慶永の五男にして侯爵松平康昌の大叔父なり明治十九年十月を以て生れ前名を錦之丞と稱し先代義禮の養子となり同四十一年家督を相續し襲爵す同四十四年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し次で大正三年同理科大學植物學科を卒業し海外に遊び歸朝後同九年學習院講師を囑託せられ同十年解囑同年主獵官に任ぜられ同十四年同官を辭す又自ら生物學研究所を設立して生家學の研究をなし傍ら史學の研鑽中にして現時公立八雲高等國民學校長たり昭年五年紺綬褒章に附すべき飾版を賜ふ家族は尙三男義龍(大五、一生)三女百合子(同六、八生)あり養叔父義恕(明一一、一一生)は分家して男爵を授けらる(東京、麻布、富士見町三三電高輪四八三四)
參照＝侯爵松平康昌、子爵松平慶民、男爵徳川義恕※公爵三條公輝※子爵竹屋春光※子爵戸田康保※子爵鍋島直庸※子爵藤波茂時※男爵徳川喜翰※男爵三井八郎右衞門※男爵毛利元良※藤波言忠の項

**徳川慶光**　公爵　舊將軍家別家
母　實枝子　明二二、四生、故有栖川宮威仁親王二女
當家は先々代從一位勳一等慶喜より創まる慶喜は水戸中納言齊昭の第七子にして初め一橋家を繼ぎ後慶應二年將軍家茂の後を襲ふて十五代將軍となり翌三年政權を奉還し將軍職を辭し明治元年家を田安龜之助に讓りて退隱す同三十五年公爵を授けられ別に一家を起す七男慶久其後を繼ぎ東京帝國大學法科大學を卒業し貴族院議員に列し華族世襲財產審議會議長に擧げらる君は其長男にして大正二年二月を以て生れ同十一年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尙妹喜佐子(大一〇、一〇生)同久美子(同一一、九生)あり伯父厚(明七、二生)は分家して男爵を授けられ其子喜翰當主にして叔父誠(同二〇、一〇生)も亦男爵を授けられて一家を創立し伯父仲博(同一〇、八生)は出でゝ侯爵池田家を繼ぎ叔父精(同二一、八生)も伯爵勝家を相續し姉喜久子(同四四、一二生)は高松宮宣仁親王殿下に伯母經子(同一五、九生)は伏見宮博恭王殿下に各妃とならせられ同濱子(同一三、九生)は男爵松平齊光先代齊に同國子(同一五、一一生)は子爵大河內輝耕に同糸子(同一六、九生)は侯爵四條隆愛に嫁せり(東京、小石川、第六天町五四電小石川一五七)
參照＝高松宮家、伏見宮家、侯爵池田博傳、侯爵四條隆愛、伯爵勝精、子爵大河內輝耕、男爵徳川喜翰、男爵徳川誠、男爵松平齊光の項

**徳川頼貞**　正四位、侯爵、貴族院議員　舊紀州家
母　久　明六、一一生、先々代茂承長女
妻　爲子　明三〇、五生、公爵島津忠重妹
男　頼韶　大六、一二生
當家は太政大臣徳川家康の第十子大納言頼宣の後なり頼宣五十五萬五千石に封ぜられ紀州和歌山に治す累世徳川宗家の親藩として重きをなし將軍吉宗家茂は實に當家の出なり十代を經て從一位茂承に至り明治十七年侯爵を授けらる先代頼倫田安家より入つて其後を繼ぎ宗秩寮總裁貴族院議員となり又力を教育に注ぎ南葵文庫を創設し南葵育英會々長日本圖書館協會總裁東京地學協會々長等に擧げらる君は其長男にして公爵徳川家達伯爵徳川達孝の甥徳川家正の從弟なり明治二十五年八月を以て生れ大正十四年家督を相續し襲爵仰付けらる明治四十五年學習院を卒業し大正二年英國劍橋大學に留學すること三年同十年再び夫妻にて歐米に遊學す歸朝後南葵樂堂南葵音樂圖書館等を經營し專ら音樂藝術普及事業並育英事業等に盡瘁す現時貴族院議員財團法人南葵育英會總裁及松阪德義社總裁日本浮世繪協會長たり家族は尙長女寶子(大一五、六生)あり養叔母孝子(明七、一一生)は侯爵伊達宗彰先代宗陳に同保子(同八、一〇生)は子爵松平頼和に嫁せり(東京市外大崎同上大崎三三一電高輪二四二二)
參照＝公爵島津忠重、公爵徳川家達、侯爵伊達宗彰、伯爵徳川達孝、子爵松平頼和、徳川家正※久邇宮家※山階宮家※公爵島津忠承※伯爵島津久範※伯爵久松定謨※伯爵松平直亮※伯爵溝口直亮※子爵大久保立※子爵徳川武定※子爵土屋正直※男爵島津備愛※男爵島津齊祀の項

**徳倉廣吉**　大成セルロイド㈱代表取締役、三河鐵道㈱取締役、天龍電氣、蒲郡臨港線各㈱監査役、愛知縣在籍
妻　とよ　明一二、一〇生、愛知、加藤牛六孫
男　鮮治　明四四、三生
女　いく　明四一、九生
女　加代　大三、八生
君は愛知縣人徳島仁助の長男にして明治七年十二月を以て生れ同三十一年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙四男修三(大元、一一生)五男正志(同八、五生)六男孝夫(同一〇、五生)あり長女美代(明三七、七生)は愛知縣人岡田厚に同菊江(同三九、一二生)は同縣人牧治に嫁し弟經治(同二二、一生)は分家せり(愛知、幡豆、一色町)

**徳倉伍介**　從五位勳六等、山口高等商業學校教授、福岡縣士族
妻　イソヱ　明三六、三生、福岡、楢橋種吉三女
君は福岡縣士族徳重義一の五男にして戸主耕太郎の弟なり明治二十一年十一月を以て生る同四十五年東京高等商業學校專攻部貿易科を卒業し大正二年大阪市立甲種商業學校教諭兼大阪高等商業學校講師に任じ同五年現職山口高等商業學校教授に轉ず同八年歐米各國に留學を命ぜらる(山口市中河原)

**徳重三郎**　帝國サルヴェージ㈱常務取締役、神戸塗料㈱取締役、山口縣在籍





妻　アキコ　明二四、三生、山口、武波延三姪
男　徹夫　大四、二生
君は山口縣人徳重伊作の二男にして同大十郎の弟なり明治十四年十二月を以て生れ同二十二年分れて一家を創立す同三十八年商船學校航海科を卒業し現に前記會社の重役にして曩に日本海事工業會社取締役たりし事あり家族は尙四男晴雄(大八、五生)長女美知子(同一〇、五生)あり A八五三(兵庫、武庫、精道村打出中野二九電芦屋一二二四)
參照＝徳重大十郎の項

**徳重大十郎**　鴻池銀行㈱庶務部主事　山口縣在籍
妻　タカコ　明二一、一二生、山口、有近隆次二女
男　就一　大七、八生
女　泰子　明四五、一生
女　壽美　大四、一〇生
君は山口縣人徳重伊作の長男同三郎の兄にして明治十二年一月を以て生れ大正五年家督を相續す現時鴻池銀行庶務部主事たり家族は尙二男成二(大一〇、九生)あり長女禮子(明四一、一一生)は山口縣人田村修に嫁せり A四〇五九(西宮、分銅二六電西宮一一七九)
參照＝徳重三郎の項

**徳島清松**　徳島商店㈱代表取締役、東京海運㈱常務取締役、小川商事㈱取締役　海運業、東京府在籍
妻　きぬ　明二四、一一生、養父豐太郎二女
女　千代子　大元、八生
女　八重子　大三、四生
君は千葉縣人遠藤金兵衛の二男にして明治十五年一月を以て生れ先代豐太郎の養子となり大正四年家督を相續す海運業を營み徳島商店代表取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙孫清雄(大一〇、七生、離緣養子キワ養子)あり(東京、麴町、三番町八三電九段八九七)

**徳田源一**　佐藤綿木工場㈱取締役、東京椰子製綱㈱監査役、農業、香川縣士族
母　タニ　文久三、八生、香川、向井又八郎二女
妻　峯　明三一、六生、香川、廣瀨淺太郎二女
男　種樹　大八、二生
君は香川縣人徳田長三の四男にして明治二十九年三月を以て生れ先代亮太の養子となり大正十五年家督を相續す農業を營み近時又果樹園を經營す傍ら前記各會社の重役を兼ぬ養叔母キク(明二三、一生)は香川縣人佐藤員善に嫁せり A五〇〇(香川、香川、上笠居村)
參照＝佐藤員善の項

**徳田昂平**　東京商工會議所議員、東京徳田銀行㈱頭取、徳田商會㈱社長、山梨證券、富士山麓土地、富士山麓電氣鐵道各㈱取締役、相模鐵道、鹽原電車各㈱監査役、東京株式取引所一般取引委員長　東京府在籍
妻　スヱ　明一六、四生、手塚伊八四女
養子　直惠　大二、一〇生、山梨、加賀美正明二女
君は山梨縣人加賀美角三郎の二男にして明治十一年五月を以て生れ先代孝平の養子となり大正十三年家督を相續す現に東京徳田銀行頭取徳田商會社長の外前掲諸會社の重役にして推されて東京株式取引所一般取引委員長東京商工會議所議員たり A三二五〇(東京、日本橋、坂本町九電茅場町二一一)

**徳田平市**　鳥取縣多額納稅者、角輪組㈱代表取締役、米子電氣軌道㈱監査役、漁業、鳥取縣在籍
養父　晋太郎　慶應元、三生、鳥取、奥田五市郎五男
養母　いせ　慶應三、一二生、徳田周次郎長女
妻　かれ　明二一、二生、養父晋太郎長女
男　隆一　明四四、五生
君は鳥取縣人奥田周藏の三男にして同龜造の弟なり明治十四年一月を以て生れ先代晋太郎の養子となり大正十一年家督を相續す漁業を營み鳥取縣多額納稅者にして現時前記會社の重役たり又曩に山陰銀行取締役に擧げらる家族は尙三男洋三(大五、六生)長女輝子(同八、一一生)四男弘道(同一〇、九生)二女淑子(同一三、一二生)三女敏子(昭三、三生)あり(鳥取、氣高、豐實村)
參照＝奥田龜藏の項

**徳田義信**　從五位勳六等、農學博士、畜產試驗場技師兼農林技師、鳥取縣在籍
妻　富　明二六、二生、鳥取、士、戸次秀章長女
女　信子　大三、八生
女　敦子　大五、一〇生
君は鳥取縣人徳田常三郎の二男にして明治十八年八月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す同四十二年東北帝國大學農科大學を卒業し同大學助手となる大正二年熊本縣立阿蘇農林學校教諭に任じ群馬縣立中之條農業學校長を經て同九年畜產試驗場技師に任ぜられ同十二年農學博士の學位を受く同十四年官命に依り歐米各國に出張視察す歸朝後現に前掲の職に在り家族は尙三女慶子(大一一、二生)あり(千葉、千葉、都村畜產試驗場內)

**徳大寺公弘**　從二位、公爵、貴族院議員　舊公卿家
妻　久子　慶應三、六生、伯爵松平直之先代基則姉
男　實厚　明二〇、一二生、從四位勳五等、陸軍騎兵中佐
婦　米子　明三二、八生、男實厚妻、伯爵松平直之二女、學習院女學部出身
當家は右大臣藤原師輔の十男閑院太政大臣公季より五世公實の五男左大臣實能の後なり世々徳大寺と稱し七清華の一たり夫より十六代を經て左大臣公信に至る更に三代を經て贈從一位公城に至り儒臣竹內式部を參謀とし王政復古の大業を企てしも中道にして事敗る夫より三代を經て從一位公純に至る先代實則は其長男にして明治元年以來參與職議定職內廷知事侍從長宮內卿華族局長官爵位局長貴族院議員侍從長兼內大臣等に歷任す同十七年侯爵を授けられ同四十年大勳位に敍し同四十四年多年の勳功に依り公爵に陞さる君は實則の長男にして公爵西園寺公望の甥伯爵中院亨男爵住友吉左衞門同寛一の從兄なり文久三年八月を以て生れ大正八年襲爵す外務省御用掛明宮勤務被仰付尋で英國に留學す現時貴族院議員にして火曜會に屬す家族は尙ほ孫嫡子(大七、五生、男實厚長女)同公英(同八、一一生、同長男)同齊定(同一〇、七生、同二男)同純明(同一二、九生、同三男)あり弟宜麿(元治元、一二生)は高千穗有綱の養子となり男爵を授けられ同則麿(明一一、一二生)は男爵を授けられ新に一家を創立し同彬麿(同一五、一二生)も亦其妻顯(同二二、一生、子爵北條雋八姉)を伴ひ分家し叔母中子(安政四、五生)は子爵相良頼綱先代頼紹に同照子(文久二、一生)は子爵阿部正一

先々代正功に妹順子(明四、五生)は公爵鷹司信輔先代熙通に同祥子(同五、一一生)は侯爵佐竹義春先代義生に同治子(同一四、四生)は子爵松平頼孝に同伊礎子(同二一、一生)は公爵島津忠重に嫁せり(東京市外澁谷町若木一五電青山八一三五)

參照＝公爵西園寺公望、公爵島津忠重、公爵鷹司信輔、侯爵佐竹義春、伯爵中院亨、伯爵松平直之、子爵阿部正一、子爵相良頼綱、子爵北條雋八、子爵松平頼孝、男爵住友吉左衞門、男爵高千穂宣麿、男爵徳大寺則麿、住友寛一※侯爵伊達宗彰※子爵池田仲誠※子爵小笠原長生※子爵交野政邁※男爵安藤直義※子爵堀田正路※大村銷次郎※三井守之助※渡邊直達の項

**徳大寺則麿**　從四位、男爵、三菱造船(株)取締役兼神戸造船所長　徳大寺公爵家分家

妻　亮子　明二〇、一〇生、子爵毛利元雄妹　學習院女學部出身
男　長麿　明四四、六生

君は故從一位大勳位公爵徳大寺實則の男にして公爵徳大寺公弘男爵高千穂宣麿の弟なり明治十一年十二月を以て生れ大正二年分家し父實則の勳功に依り特旨を以て華族に列し男爵を授けらる明治三十六年東京帝國大學工科大學造船科を卒業し三菱造船會社に入り神戸造船所造船部長を經て同所副長に昇進し大正十五年六月所長となる現時同社取締役兼神戸造船所長たり家族は倚二男元麿(大三、五生)三男三郎(同六、一二生)あり長女鶴子(明四〇、一二生、親和高女出身)は京都府人三井源右衞門三男高寔に嫁せり(神戸、和田宮通四ノ一電兵庫七〇七)

參照＝公爵徳大寺公弘、子爵毛利元雄、男爵高千穂宣麿、三井源右衞門※公爵西園寺公望※公爵島津忠重※公爵鷹司信輔※侯爵佐竹義春※伯爵中院亨※伯爵津輕義孝※伯爵乃木元智※伯爵松平頼壽※子爵阿部正一※子爵加藤泰通※子爵相良頼綱※子爵松平頼孝※男爵住友吉左衞門※武富時敏の項

**徳谷豊之助**　從五位勳五等、福島縣女子師範學校長、島根縣士族

妻　ケイ　明一八、七生、北海道、内山茂八妹
男　武夫　明三九、八生
婦　敏　明四三、一〇生、長男武夫妻、青森、引田雄輔二女
女　千代　明四三、八生

君は島根縣士族徳谷粂藏の長男にして明治九年五月を以て生れ同三十三年家督を相續す同三十七年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し新潟縣小千谷中學校長同縣糸魚川同村松各中學校長青森縣立青森高等女學校長同縣女子師範學校長等に歴任し現に福島縣女子師範學校長たり家族は倚三男義夫(大二、四生)二女君(同六、一一生)四男哲夫(同一三、五生)あり(福島市曾根田字田中七)

**徳富猪一郎**　正五位勳二等、貴族院議員、帝國學士院會員、大阪毎日新聞社(株)社賓、民友社(株)社長、著述家　熊本縣士族

妻　ツル　慶應三、一一生、熊本、士、倉岡又三長女
男　太多雄　明二三、三生
婦　美佐尾　明三一、四生、長男太多雄妻、東京、松室重剛四女
男　武雄　明四二、二生

君は熊本縣士族徳富一敬の長男にして蘇峯と號す文久三年一月を以て生れ明治十六年家督を相續す夙に京都同志社に學び「新日本の青年」を著して一躍文壇に名を成し次で民友社を起して共社長となり又國民新聞を發刊す同二十九年歐洲を漫遊し同三十年内務省勅任參事官に任ぜられ正五位に敍せらる同四十四年貴族院議員に勅選せられ大正四年勳三等に敍せらる同六年支那を漫遊し同七年以來「近世日本國民史」の大著に從事し同十二年共著に對し帝國學士院より恩賜賞を授與せられ同十四年帝國學士院會員仰付けられ昭和三年御大典に際し勳二等に敍せらる同四年國民新聞社々長を辭任し大每東日の社賓として現在に至る著書百數十卷皆廣く世に行はる家族は倚孫靜子(大九、一〇生、長男太多雄長女)同敬太郎(同一一、七生、同長男)同剛二郎(同一二、九生、同二男)同太三郎(同一四、九生、同三男)同久子(昭三、一生、同二女)あり長女逸(明二〇、九生)は東京府人三宅驥一に二女孝(同二八、九生)は同府人海老名光明に三女久(同三一、四生)は徳島縣人阿部猪馬三郎長男賢一に四女直(同三三、一二生)は兵庫縣人三宅駿二弟離七に五女盛子(同三八、一生)は男爵名和長憲二男長光に六女鶴子(同三九、七生)は兵庫縣人矢野國太郎に嫁せり明治文壇の耆宿故徳富蘆花は君の實弟なり(東京市外入新井町新井宿二八三二電高輪二)

參照＝三宅驥一※粕谷俊明※若杉三郎の項

**徳永格**(イタル)　從四位勳四等、遞信局技師、名古屋遞信局海事部長、福岡縣士族

妻　ヒデ　明二六、八生、佐賀、光安榮次妹
男　勝　明四二、七生
女　君子　明三八、一二生

君は福岡縣士族徳永勝藏の長男にして明治十三年一月を以て生れ同十六年家督を相續す同三十八年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し海事局技師遞信局技師遞信管理局技師戰事航海管理局技師兼遞信技師遞信技師兼遞信局技師等に歴任し現時前記の官職に在り曩に三回に渉り香港に出張し又大正十一年歐洲に出張を命ぜらる家族は倚四女節子(大一四、三生)あり(名古屋、中、御器所町北山前六一)

**徳永榮吉**　從五位勳五等、檢事、山口地方裁判所檢事正、福岡縣在籍

妻　ヒロ　明二〇、二生、福岡、士、竹迫ムメ二女

君は福岡縣人徳永末次郎の二男にして明治十八年三月を以て生れ同三十七年弟朝吉の後を相續す同四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大正元年判事に任じ熊本地方兼同區各裁判所判事を經て檢事に轉じ爾來名古屋區兼同地方金澤區兼同地方兼小松區旭川區兼同地方各裁判所檢事名古屋控訴院檢事東京控訴院檢事に歴補し昭和四年東京區裁判所檢事兼東京地方裁判所檢事となり同五年山口地方裁判所檢事正に補せられ現在に至る家族は倚姉キヨ(明九、三生)養妹サミ(同二〇、一〇生、福岡、江口喜代次二女)あり妹ハヤ(同二二、八生)は福岡縣人中野藏太郎に嫁し弟朝吉(同一九、一二生)同妻キク(同二七、一生、福岡、樽崎卯吉養子)は共に分家せり(山口市地方裁判所檢事局内)

**徳永勤美**　福岡市參事會員、博多商工會議所副會頭、博多自動車(株)取締役社長、博多株式取引所(株)監査役　福岡縣在籍

妻　きく　明八、二生、長野、有賀豊次郎長女
養子　勳雄　明三八、八生、福岡、日高甚吉弟

君は長野縣人徳永玄愼の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治十八年家督を相續す同四十年福岡縣第一次の商工課長として農商務省より轉じ同四十三年官を辭し實業界に入り現時博多自動車會社取締役社長博多株式取引所監査役にして福岡市參事會員博多商工會議所副會頭に推され外幾多の公職を帶ぶA一〇〇B三〇〇(福岡市御土居町電一八一六)

**徳永重康**　理學博士、工學博士、早稻田大學教授、理工學部勤務、早稻田工手學校長兼早稻田高等工學校長　東京府士族

妻　もと　明二〇、一二生、東京、柴田桂太妹
男　康元　明四五、四生

君は東京府士族吉原重隆の二男にして明治七年八月を以て生れ大正五年長女初子の後を承けて家督を相續す明治三十年東京帝國大學理科大學動物學科を卒業し現時早稻田大學教授にして同校理工學部に勤務し傍ら早稻田工手學校長兼早稻田高等工學校長たり家族は倚三男重元(大九、三生)あり長女初子(明三六、九生)は子爵高島友武の家籍に入れり(東京市外大久保町百人町三二〇電四谷一七四一)

參照＝柴田桂太※三浦鍋太郎の項

**徳永晉作**　從五位勳六等、鐵道局技師、東京鐵道局工作課機械掛長　山口縣士族

妻　ふさ　明三一、一一生、千葉、小河原七郎兵衞二女
男　正信　大一三、一生

君は山口縣士族徳永秀介の三男にして戸主政一の弟及石川次郎の弟なり明治二十三年二月を以て生る大正四年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し鐵道院雇となり同技手札幌鐵道管理局苗穂工場勤務鐵道局技師及び鐵道技師工作局車輛課勤務等を經て大正十三年在外研究員となり翌十四年倫敦第十回萬國鐵道會議に出席し同十五年英國駐在を命ぜらる昭和四年更に鐵道局技師に轉じ現に東京鐵道局工作課機械掛長たり家族は倚長女綾子(大九、八生)二女洋子(昭三、九生)二男秀夫(同五、一生)あり(東京市外千駄ヶ谷町新田裏鐵道官舍四號電四谷四〇四二)

參照＝石川次郎の項

**徳永芳治郎**　大阪府多額納税者、硝子商　大阪府在籍

母　きみ　文久二、三生、大阪、豐島嘉助長女
妻　マキエ　明二一、四生、大阪、山城七郎兵衞二女
男　道治　明三七、三生
婦　まち子　明四一、一二生、長男道治妻、大阪、小野孝治郎三女
男　敬仁　明四三、一生

君は大阪府人徳永玉吉の長男にして明治十四年十月を以て生れ同三十八年母きみの後を承け家督を相續す硝子商を營み現に大阪府多額納税者に列し直接國税一萬二千二十二圓を納む家族は倚三男健三(大三、一生)七男順次(同一〇、一二生)八男滿正(同一三、一〇生)孫喜志子(昭四、三生、長男道治長女)あり弟豐次郎(明一五、一〇生)は分家せり(大阪、東淀川、三國町七三三ノ一電北一六三〇)

**徳永若松**　廣島縣多額納税者、甲立木工(株)取締役、藝備鐵道(株)監査役、酒造業　廣島縣在籍

母　カヨ　嘉永四、八生、廣島、小早川孟藏女
妻　テル　明八、一生、廣島、徳永省三妹
男　一治　明二五、一〇生
婦　滿壽代　明二八、五生、長男一治妻、島根、戸谷玄吉二女
女　葭江　明三八、一一生
女　智英　大五、八生

君は廣島縣人徳永丈吉の長男にして明治四年五月を以て生れ同三十五年家督を相續す酒造業を營み傍ら甲立木工會社取締役たる外前記會社の重役にして廣島縣多額納税者に列し直接國税一千三百六十三圓を納む家族は倚妹ミキ(明八、一〇生)あり二男忠雄(同三〇、一二生)は分家し長女久子(同三一、九生)は廣島縣人石田勝太に妹キミ(同一八、八生)は同縣人拓植次右衞門養子卯太郎に同ハルヨ(同二一、二生)は同縣人中邑常太郎長男元に嫁し四男正海(同三七、七生)は亡兄忠雄の死跡を相續せり(廣島、高田、甲立町)

參照＝※山岡儀平の項

**徳成虎雄**　日本林産貿易(株)代表取締役、日本耐酸塗料、日清毛織各(株)專務取締役、東日本炭礦(株)取締役　鹿兒島縣在籍

妻　かよ　明二五、八生、靜岡、須賀恒太郎姉
男　武　大五、三生

君は鹿兒島縣人徳成菊壽の二男にして明治十九年一月を以て生れ大正二年兄義和方より分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は倚長女道子(大七、九生)二女正代(同一一、三生)二男三喜雄(同一二、一生)三女和子(同一三、九生)三男明夫(昭二、一〇生)養子宏(大二、三生、埼玉、井口六郎左衞門孫)あり(東京、本郷、駒込神明町四八電小石川二二七一)

**徳久次郎**　星野(資)代表社員　東京府在籍

妻　やす　明一二、七生、東京、棚橋友三郎養妹
男　寛　明四〇、一一生

君は佐賀縣人醫師徳久祐民の長男にして明治六年九月を以て生れ同二十五年家督を相續す夙に土木建築請負關係の會社に入り現時土木建築業星野合資會社代表社員たり家族は倚二男隆(大三、一一生)三男茂(同一〇、一二生)弟三郎(明一〇、七生、熊本醫專出身)あり長女榮子(同三八、三生、山脇高女出身)は男爵鍋島綱麿從弟茂麿に養子ツナ(同二四、一生、東京、棚橋友三郎二女)は東京府人田中次郎に嫁せり(東京、牛込、市谷甲良町一八電牛込二〇三一)

參照＝田中次郎の項

**徳久三種**　從五位勳六等、農林技師、水產局勤務、神奈川縣在籍

母　フサ　明元、一〇生、山口、岡田秋作長女
妻　タツ　明二三、四生、山口、竹内圭市妹

君は神奈川縣人徳久純一の長男にして明治十八年十二月を以て生れ同三十年家督を相續す同四十年水產講習所本科養殖科を卒業し島根縣立水產學校教諭石川愛知各縣水產試驗場技手愛知縣技師愛知縣水產試驗場長水產課長農商務技師等を經て大正十四年農林技師に任じ現時水產局勤務たり曩に米國に出張す(農林省水產局內)

**徳弘春美**　従五位勳六等、熊本高等工業學校教授、高知縣在籍
妻　リン　明三三、七生、長崎、辻國太郎二女
男　健二郎　大一二、三生
君は高知縣人徳弘鐵馬の二男にして明治二十四年三月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す明治四十四年熊本高等工業學校土木學科を卒業し同校助教授となり次いで同教授に進み同十年米英獨各國に留學を命ぜられ歸朝後引續き其職に在り家族は倘二女貴久（大七、八生）三男眞（昭五、一一生）あり（熊本市黒髪町坪井四七五）

**徳増英三郎**　松喜屋、牛島料理業　東京府在籍
妻　こま　明二〇、五生、養父角太郎長女
男　壽　明三九、一一生
婦　田鶴子　明四三、九生、長男壽妻、東京、森田金之助二女
男　豊次良　明四四、一一生
女　典子　大四、八生
君は千葉縣人大木長次郎の二男にして明治十三年七月を以て生れ先代こうの養子となり昭和三年家督を相續す松喜屋と號し牛島料理業を營む家族は倘ほ四女惠子（大六、一〇生）四男八郎（同八、一二生）五女二三子（同一一、五生）五男宏（同一三、九生）あり二女國子（明四三、六生）は東京府人佐久間金太郎四男勝四郎に嫁せり（東京、京橋、銀座七ノ一電銀座二二八二）

**徳光美福**　正五位、醫學博士、京城帝國大學教授、醫學部勤務、大分縣在籍
妻　サト　明二八、一生、大分、太田英一妹
男　増美　昭五、四生
君は大分縣人徳光遠の長男にして明治二十二年二月を以て生れ同二十七年先代顯の養子となり家督を相續す同四十三年長崎醫學專門學校を卒業し同校講師東北帝國大學醫科大學講師セブランス聯合醫學專門學校教授京城醫學專門學校講師同教授朝鮮總督府醫院技師等に歴任し大正十五年京城帝國大學教授に任ぜられ醫學部勤務たり同十年醫學博士の學位を受け同十二年病理學研究の爲獨佛米各國に留學を命ぜらる家族は倘二女朝子（大一二、一生）三女富美子（同一五、九生）の外叔母ユウ（明五、三生）亡叔父柳吾妻トメ（同五、三生、大分、相良寵平四女）及其子女あり（京城、帝國大學醫學部内）

**徳本寛三**　新潟臨港、新潟港灣倉庫各㈱取締役、辯護士、東京府在籍
庶子　愼一　大一〇、七生、生母、奈良、福田マスノ
君は奈良縣人徳本孝吉の弟にして明治十五年九月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す辯護士にして傍ら前記會社の重役たり家族は倘庶子伊左子（大八、九生、生母、奈良、福田マスノ）同英子（同一一、一〇生、生母、新潟、古川トネ）同左代子（同一三、一生、生母、奈良、福田マスノ）同彰三（同一五、一生、生母、新潟、古川トネ）あり（東京、麴町、飯田町六ノ一七電九段五八一）

**徳本孝也**　正五位勳五等、營林局技師、高知營林局長、山口縣士族
母　リツ　萬延元、八生、山口、鹽見仙藏二女
妻　トシコ　明二五、八生、山口、岸本貫一妹
男　孝彥　明四四、四生
女　タミ　大三、九生
君は山口縣士族徳本寀一の長男にして明治十六年四月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治三十九年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し山林技師林務技師業務課利用係長鹿兒島東京各大林區署林業課長青森大林區署長同營林局長等に歴任し大正十五年歐米各國に出張を命ぜられ昭和二年歸朝し秋田營林局長を經て現に高知營林局長たり家族は倘二男良孝（大二、八生）三男健輔（同六、七生）二女サトヨ（同一〇、二生）三女洋子（同一五、一〇生）あり（高知市營林局長官舍）

**徳本良一**　愛媛縣多額納税者、伊豫鐵道電氣、松山商事、藝陽興信各㈱取締役、農業、愛媛縣在籍
妻　イチ　明一四、一二生、愛媛、士、北尾正猷長女
養子　雄吉　明四四、九生、愛媛、淸水義彰四男
養子　幾子　大三、一二生、愛媛、河內照夫妹
君は愛媛縣人河內喜三郎の長男にして明治三年一月を以て生れ先代廣誠の養子となり同三十五年家督を相續す農業を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國税千二百四十七圓を納め縣下の多額納税者たり曩に伊豫農業銀行松山信託南海電氣各會社の重役たりし事あり叔母ヒサヱ（文久三、一二生）は分家せり（愛媛、北宇和雄群村）
參照＝淸水義彰※長井政光の項

**徳山武雄**　石川縣會議員、石川縣多額納税者、農業、石川縣在籍
母　みつ　安政四、八生、石川、松田惣左衞門養子
妻　はつい　明二三、三生、石川、石垣五左衞門長女
男　正雄　大六、三生
女　晴枝　大二、九生
君は石川縣人徳山十郎の二男にして明治二十三年三月を以て生れ同三十八年家督を相續す農業を營み石川縣多額納税者にして直接國税一千四十三圓を納む又推されて石川縣會議員にして曩に北陸企業銀行取締役たりし事あり家族は倘二男次四郎（大八、一生）三女花枝（同一一、二生）四女美代枝（同一五、一生）あり長女靜枝（明四二、六生）は石川縣人徳山隆に姉滿津井（同一九、五生）は同縣人堀河實圓に妹紀伊（同三一、一二生）は同縣人加藤卓三に嫁し弟孝雄（同二五、一生）は分家せり（石川、羽咋、下甘田村）

**床次竹二郎**　従三位勳一等、衆議院議員（鹿兒島縣選出）、鹿兒島縣士族
妻　恭子　明二三、七生、男爵水谷川忠麿姉
男　正一　明三四、三生、慶大出身、千代田火災保險會社員
婦　園子　明四一、一生、二男正一妻、埼玉、長島隆二長女
男　徳二　明三七、二生、従七位、法學士、地方事務官、千葉縣內務部地方課長
婦　八重子　明四二、三生、三男徳二妻、東京、伊東榮妹
君は鹿兒島縣士族床次正精の長男にして慶應二年十二月を以て生れ明治三十年家督を相續す同二十三年帝國大學法科大學政治學科を卒業し大藏書記官愛媛縣收税長宮城縣參事官山形新潟各縣書記官徳島秋田各縣知事內務省地方局長內務次官鐵道院總裁等に歴任し大正七年原內閣成立するや擧げられて內務大臣となり高橋內閣にも亦留任す衆議院議員に當選すること七回に及び現に其任に在り曩に政友本黨を組織して其總裁に擧げられ更に憲政會と合して立憲民政黨を作り其顧問たりしが後立憲政友會に復歸して其顧問に擧げらる家族は倘孫玲子（昭四、二生、二男正一長女）あり二女フユ（明三一、二生、御茶水高女出身）は衆議院議員佐藤重遠に三女夏（同三九、六生、府立第三高女出身）は鹿兒島縣人東京慈惠會醫院醫員醫學博士中村嘉藏に妹シゲ（同四、八生）は理學博士水野敏之丞に嫁し弟正廣（同二〇、二生、工學士、日立製作所勤務）同妻壽子（同二九、六生、男爵細川忠督姉）は其一子を伴ひ分家せり（東京、麻布、三河臺町一四電青山四九〇四）
參照＝男爵細川忠督、男爵水谷川忠麿、伊東榮、佐藤重遠、水野敏之丞※子爵近衞秀麿※男爵阿蘇惟孝※男爵澤村武雄※男爵常磐井堯猷※松岡由三郎の項

**所敬之**　應用電氣㈱專務取締役、東京府在籍
妻　秀　明三七、六生、岐阜、所喜之助長女
男　雄章　昭二、一二生
君は熊本縣人廣瀨敬作の二男にして明治三十三年十月を以て生れ昭和二年先代秀の入夫となり家督を相續す大正十四年京都帝國大學經濟學部を卒業し現時應用電氣會社專務取締役たり家族は倘長女報子（昭四、一生）あり（東京市外澁谷町緣岡四電青山九一一）

**歳川清**　門司市會議員、門司商工會議所議員、淸友商事㈱社長、門司合同運送㈱監査役、福岡縣在籍
妻　ケイ　明一六、一〇生、愛媛、津村悅次郎妹
男　滿雄　明四〇、四生
男　治　明四二、三生
男　隆三郎　明四四、七生
君は大阪府人歳川條助の三男にして明治九年一月を以て生れ同十九年家督を相續す現時前記諸會社の重役にして門司市會議員門司商工會議所議員に選ばる家族は倘四女喜代子（大一一、八生）あり父條助（天保一四、九生）母フサ（嘉永二、三生、楠本靜助長女）は兄瓶太郎（明二、六生）弟豐三（同一一、一一生）同季六（同一九、一二生）を伴ひ分家し長女鞠子（同三七、一一生）は岡山縣人陶英雄に嫁せりA四一九（門司、門司七七一電一三七九）

**栃木順作**　栃木商事㈱社長、栃木㈴社員、福岡縣在籍
妻　ヒテノ　慶應三、一〇生、岡山、柳瀨孫太郎妹
男　嘉郎　明二二、一一生
女　松子　明四〇、一生
庶子　乙女　大四、一生、生母、福岡、松隈トラ
君は福岡縣人栃木嘉平の長男にして明治三年二月を以て生れ大正四年家督を相續す現時栃木商事會社長の外栃木合名會社々員たり家族は倘庶子二郎（大二、三生、生母、福岡、松隈トラ）あり長女ミチコ（明二七、九生）は分家し二女チカコ（同三三、二生）は岡山縣人高階淳に三女壽美子（同三六、一二生）は同縣人林譽太長男正章に四女佐足子（同三八、三生）は北海道人佐藤一雄弟豐治に養子あい（同三三、三生、滋賀、早山宇三郎姉）は岡山縣人逸見陳平養子鄕藏に嫁せり（福岡縣若松市船頭町六五）
參照＝栃木嘉郎の項

**栃木嘉郎**　栃木商事㈱取締役、栃木㈴代表社員、福岡縣在籍
父　順作　明三、二生、現戶主
妻　梅子　明二八、三生、男爵野崎貞義叔從母
男　作彌　大六、四生
君は福岡縣人栃木順作の長男にして明治二十二年十一月を以て生る大正四年早稻田大學商科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は倘長女多計子（大九、七生）二男滋彌（同一四、四生）あり（福岡縣若松市船頭町六五）
參照＝男爵野崎貞義、栃木順作※鴻田秀二※芳賀榮次郎の項

**栃倉正一**　東京米穀商品取引所㈱理事兼支配人、日本倉庫、東京正米代行各㈱取締役、富士生命保險㈱監査役、新潟縣在籍
妻　淸　明三五、八生、東京、有松倘龍三女
男　收　大一五、三生
君は新潟縣人栃倉良三の長男にして明治二十七年六月を以て生れ同三十五年家督を相續す大正五年早稻田大學政治經濟科を卒業し現時東京米穀商品取引所理事兼支配人にして前記各會社の重役を兼ぬ家族は倘二男穰（昭三、一一生）亡弟正英妻ハナ（明三五、一〇生、北海道、生內元吉妹）及其子女ありA四〇一（東京市外巣鴨町上駒込九一〇電小石川三八三六）
參照＝有松倘龍の項

**栃內曾次郎**　正三位勳一等功四級、海軍大將、岩手縣在籍
妻　シゲ　明二、七生、栃木、阿部久次郎二女
男　吉彥　明二六、一二生
婦　いと　明三一、三生、長男吉彥妻、東京、上原多一郎妹
女　京　明二九、一一生
君は岩手縣士族栃內理平の二男同禮次の養叔父にして慶應二年六月を以て生れ大正二年兄元吉方より分れて一家を創立す明治二十一年海軍少尉に任じ大正九年海軍大將に累進す其間扶桑水雷長海軍省副官兼海軍大臣祕書官宮古武藏八幡吾妻各艦長英國大使館附武官海軍省軍務局長海軍技術本部長橫須賀海軍工廠長第一艦隊司令長官海軍次官臨時海軍建築部長兼海軍將官會議々員第一艦隊司令長官兼聯合艦隊司令長官軍事參議官等に歴補し現時豫備役たり日淸日露戰役に功あり功四級金鵄勳章を賜ふ家族は倘孫晃吉（大一〇、三生、長男吉彥長男）あり二女富士（明三〇、一一生、東京府立第三高女出身）は山口縣人內藤正太郎養子三郎に三女サメ（同三三、一二生、東京女學館出身）は男爵安場末喜二男海軍少佐保雄に姉キノ（安政六、三生）は北海道士族佐多忠麿に嫁せり（東京、芝、三田綱町一電高輪二四七四）
參照＝栃內禮次、內藤正太郎※増井峯次郎の項

**栃內禮次**　日本勸業銀行㈱債券課長、北海道在籍
養父　元吉　嘉永六、六生、現戶主
妻　マツエ　明二四、二生、養父元吉養子
男　一彥　大三、八生
君は北海道人橋仁の二男にして明治十九年十二月を以て生れ同四十三年栃內元吉の養子となる同年北海道帝國大學農學部を卒業し夙に日本勸業銀行に入り同行支店長課長兼鑑定課長を經て現時同行債券課長たり舊加賀藩田地割制度の著あり家族は倘長女民子（大八、一〇生）二女美穗子（同一二、四生）三女秋子（同一五、九生）あり養叔父曾次郎（慶應二、六生）は同妻シゲ（明二

七生、栃木、阿部久次郎二女)及其子女を伴ひ分家せり(東京、芝、高輪南町二八電高輪五三五七)
參照＝栃内曾次郎の項

## 轟　權內
玖珠製絲㈱常務取締役　大分縣在籍

妻　ムラ　明一二、二生、大分、奥村市平長女

君は大分縣人轟房平の二男にして明治十一年八月を以て生れ同三十年兄代市方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役たり弟卯市(明一五、三生)同妻ツノ(同二四、八生、大分、黑澤庄吉妹)は其一子を伴ひ同猛巖(同二六、四生)同妻チヨ(同三一、一一生、大分、西時公長女)は其二子を伴ひ各分家せり(大分、玖珠、萬年村)

## 轟　亭
長野農工銀行、安曇電氣、信濃鐵道各㈱取締役、長野縣在籍

男　英勇　明二七、三生
婦　米子　明三一、九生、三男英勇妻、長野士、高梨鈴次郎二女
男　侑　明三五、八生
婦　隆子　明四一、一生、四男侑妻、長野、永田五七五女
男　元彥　明三七、七生

君は長野縣人轟傳の長男にして安政六年五月を以て生れ明治十二年家督を相續す現に前記銀行會社の重役たり家族は倘孫至忠(大一〇、四生、三男英勇長男)同英一(同一四、四生、同三男)同智子(昭三、一生、同長女)同壽子(同五、一生、同二女)同辰三(同三、四生、四男侑長男)あり三女文子(明二三、三生)は東京府人永田虎尾弟鎌山に四女益江(同二九、八生)は長野縣人平林傳長男傳六に五女美男重(同三一、一一生)は同縣人轟士衞養子盛孝に六女佳子(同三三、一〇生)は同縣人小池新衞二男久雄に嫁せり(長野、南安曇、南穗高村)
參照＝小池新衞、轟盛孝の項

## 轟　盛孝
信濃鐵道、信陽酒造各㈱取締役、池田鐵道㈱監査役、長野縣在籍

妻　美男重　明三一、一一生、長野、轟亭五女
男　鐵美　明四〇、五生

君は長野縣人手塚義十郎の三男にして明治十年二月を以て生れ轟士衞の養子となり同四十三年家督を相續す現時前記諸會社の重役たり家族は倘二男正孝(大三、七生)四男良太(同八、八生)あり(長野、南安曇、西穗高村)
參照＝轟亭※小池新衞の項

## 殿木市太郎
殿木商店㈱社長　東京府在籍

母　テツ　明一四、六生、東京、河合茂助二女
妻　智惠子　明四二、二生、東京、星野四郎長女
男　敏達　昭二、九生

君は東京府人先代市太郎の長男にして同松造の甥なり明治三十七年四月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名泰一郎を改め襲名す現時殿木商店社長たり家族は倘二男泰造(昭四、一生)叔母カツ(明二一、六生)同夫豐次(同一五、七生、東京、鈴木豐吉二男)及其子女あり(東京、京橋、明石町五二電京橋三三五〇)
參照＝殿木松造の項

## 殿木三郎
野澤屋㈱專務取締役、福壽火災保險、十一屋各㈱取締役、帝國撚絲織物㈱監査役、東京府在籍

妻　ろく　明一八、七生、元衆議院議員首藤陸三四女
男　英二　明三七、四生

君は東京府人殿木龍伯の三男にして文久三年十一月を以て生れ明治十三年家督を相續す現時前記諸會社の重役たり長女雪(明三一、五生)は京都府人岡田茂次郎に嫁し四男義三(大一〇、一生)は外祖父首藤陸三の養子となれり(東京市外入新井町新井宿二七八一電大森二四八八)

## 殿木松造
東亞製粉㈱專務取締役、殿木商店、スマトラ農林各㈱取締役、大正製糖、硫黃島拓殖製糖、臺南農林、臺南製糖各㈱監査役、東京府在籍

妻　りん　明二三、四生、東京、谷本清兵衞養子
男　榮一郎　大七、一二生
女　千代子　大二、六生

君は東京府人殿木市太郎の叔父にして明治十八年五月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり嚢に推されて日本橋區會議員たり家族は倘三女京子(大一〇、一二生)あり(東京、日本橋、濱町二ノ一一電浪花四〇五八)
參照＝殿木市太郎の項

## 殿村箭之助
石崎㈱取締役、大日本紡績會社員　大阪府在籍

妻　辰子　明二九、五生、大阪、殿村平右衞門姉、京都府立第一高女出身

君は大阪府人逸身佐一郎の四男にして明治二十六年三月を以て生れ大正十一年先代辰子の入夫となり家督を相續す同七年京都帝國大學工科大學機械工學科を卒業し現時大日本紡績會社員にして石崎株式會社取締役たりA七八九(大阪、東、釣鐘町二丁目電東三七六三)
參照＝殿村平右衞門※北田彥三郎※佐野幸助の項

## 殿村平右衞門
三松㈾社員　大阪府在籍

妻　敏子　明三八、一二生、京都、三井源右衞門三女
男　茂元　大一五、一〇生

殿村家は大阪土着の素封家にして代々金融業を營み十代を經て先々代ゑつに至るゑつに嗣子無かりしを以て先代平右衞門三井家より迎へられて家督を繼ぐ君は其長男にして三井源右衞門の甥なり明治三十一年七月を以て生れ大正十年家督を相續し前名梅之助を改め襲名す同十一年慶應義塾理財科を卒業し三松合資會社員たり家族は倘長女和子(昭三、一生)弟明(大一〇、三生)あり姉辰子(明二九、五生、京都府立第一高女出身)は分家して逸身箭之助を迎へ妹岸子(同四五、三生)は實業家佐野幸助の養子となり弟孝三郎(大七、七生)妹節子(同四、五生)も亦共に東京府人北田彥三郎の養子となれり(大阪、東、内平野町二ノ二五電東三八)
參照＝北田彥三郎、佐野幸助、殿村箭之助、三井源右衞門※藤田德次郎※三井元之助※和田久左衞門の項

## 飛島文吉
福井縣多額納稅者、飛島組、沖繩電氣各㈱代表取締役、伏木埋立土地㈱常務取締役、森田貯蓄銀行、福井信託、熱海埋立、清水港土地各㈱取締役、土木建築請負業　福井縣在籍

妻　より　明一四、六生、福井、大橋辰次郎長女
男　繁　明四〇、一生
女　文　大四、四生





君は福井縣人飛島文次郎の長男にして明治九年十一月を以て生れ昭和四年家督を相續す土木建築請負業を營み飛島組社長の外前記銀行會社の重役にして直接國稅一萬八千百九十八圓を納め福井縣多額納稅者たり昭和六年紺綬褒章を授與せらる家族は倘三男齊(大元、一〇生)四男亮(同七、六生)四女愛子(同一四、三生)あり長女小久(明三六、三生)は福井縣人稻澤清起智に二女コヨキ(同三八、三生)は同縣人伊藤由太郎長男由彌に嫁せり(東京、小石川、水道町三六電小石川四六三五)
參照＝稻澤清起智の項

## 飛山昇治
正五位勳四等、遞信局技師、東京遞信局勤務、新潟縣在籍

妻　カウ　明二三、一〇生、新潟、山田隆太郎妹
男　春雄　明四四、三生
女　千代　大四、一〇生

君は新潟縣人飛山宇左衞門の二男にして明治十七年十一月を以て生れ大正十五年兄桂三郎方より分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し海軍技師となりしが大正六年退官して久原家に入り小倉築港の調查事務に當る同九年都市計畫地方委員會技師に任じ歐米各國に出張す歸朝後遞信局技師となり現時東京遞信局勤務たり家族は倘ほ三男恒雄(大七、一生)二女美癸(同一二、一生)四男泰雄(昭二、一生)あり(東京市外代々幡町幡ヶ谷一二〇一電四谷四五五)

## 苫米地義三
合同油脂グリセリン㈱常務取締役、大日本人造肥料㈱取締役兼關西部長、神島人造肥料、關西硫酸販賣、臺灣肥料、大阪アルカリ土地、日東硫肥各㈱取締役、丸十商會㈱監查役、東京府在籍

妻　せき　明二一、二生、青森、金澤治郎妹
男　敏雄　明四四、一一生
女　貞子　大三、一〇生

君は北海道人苫米地金次郎の三男にして明治十三年十二月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す現時合同油脂グリセリン會社常務取締役の外前記諸會社の重役たり家族は倘ほ四男和雄(大八、二生)五男正義(同一一、一生)六男孝之助(同一三、一二生)七男秀之助(昭二、一〇生)あり(兵庫、武庫、精道村蘆屋大桝八二二)

## 泊　宗一
鳳至銀行、能登銀行各㈱取締役　石川縣在籍

祖母　みか　文久三、一二生、石川、國分直次郎長女
妻　たか　明二二、二生、兵庫、小堀彌市長女
男　宗次郎　明四一、二生
男　甲一　明四四、四生
女　はな　大五、三生

君は石川縣人泊宗平の長男にして同武治西野勇喜智の兄なり明治十年九月を以て生れ大正十年家督を相續す現時前記各銀行の取締役たり家族は倘三男元治(大七、一〇生)四男良三(同一一、二生)あり叔父永松(明二五、五生)は石川縣人泊久一の家籍に入り姉はつ(同八、七生)は石川縣人佐藤亮太郎に嫁せり(石川、鳳至、兜村)
參照＝佐藤亮太郎、泊武治、西野勇喜智の項

## 泊　武治
從五位、京都府書記官、警察部長　石川縣在籍

妻　フサ　明三四、四生、佐賀、光行次郎長女
男　博　大六、五生

君は石川縣人泊宗平の五男にして現戶主宗一西野勇喜智の弟なり明治二十二年三月を以て生る大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し在學中文官高等試驗に合格し北海道廳屬となり爾來北海道廳警視警視廳警視同理事官島根德島長野各縣書記官警察部長等に歷任し昭和四年和歌山縣書記官內務部長となり同五年京都府書記官に任じ警察部長となり今日に至る家族は倘長女厚子(大九、六生)二女高子(昭二、四生)三女明子(同五、一生)あり(京都府警察部長官舍電五〇五)
參照＝泊宗一、西野勇喜智、光行次郎※田崎友吉の項

## 富井　周
從五位勳五等、大使館一等書記官　獨國在勤、東京府華族

父　政章　安政五、九生、現戶主
妻　秀　明三四、一〇生、故貴族院議員中村是公四女、中村博吉妹、學習院女學部出身
男　政英　大一五、一生

君は男爵富井政章の長男にして明治二十三年八月を以て生る大正四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年外交官及領事官試驗に合格し直に領事官補となり紐育に在勤し尋で大使館三等書記官に進み米國駐在仰付けらる同十年華盛頓會議參列の帝國全權委員隨員となり同十二年外務事務官に任ぜらる同十三年大使館二等書記官に陞り英國在勤を命ぜられ尋いで同一等書記官に進み昭和二年總領事に轉任しオッタワ在勤となり翌年公使館一等書記官に任じカナダに在勤し同四年大使館一等書記官となり獨國在勤を命ぜらる家族は倘女章(昭五、三生)あり(在獨國日本大使館內)
參照＝男爵富井政章、中村博吉※子爵上原勇作※山口張雄の項

## 富井政章
正三位勳一等、男爵、法學博士、樞密顧問官、帝國學士院會員第一部長、東京帝國大學名譽教授、常設仲裁々判所裁判官、東京府華族

妻　萬壽代　明二、五生、高知、士、澁谷寬長女
男　周　明二三、八生
男　雄吉　明二八、一〇生、目黑蒲田電鐵社員
男　恒雄　明三〇、一二生、法學士、日本銀行員
婦　春　明三五、五生、四男恒雄妻、東京士、故波多野承五郎三女、雙葉高女出身
女　久　明三六、五生

君は京都舊聖護院宮侍富井政恒の長男にして安政五年九月を以て生れ明治十八年家督を相續す同十年東京外國語學校に學び佛國里昂に渡航し同地の名望家ギーメ氏に雇はれ其餘暇を以て里昂大學に法律を學び同十六年全科を卒業してドクトール・アン・ドロアの學位を受く歸朝後東京帝國大學法科大學教授同教頭同學長に歷任し法典調查會主查委員を兼ぬ同三十六年本官を辭し爾後同大學名譽教授に舉げられ更に講師として大正七年まで教鞭を執る又帝國學士院會員帝室制度審議會委員仰付けられ法政大學教頭京都立命館大學長となる明治二十一年法學博士の學位を受け同二十四年貴族院議員に勅選せられ大正七年樞密顧問官に親任し現に其任に在り倘文政審議會委員法制審議會委員等に舉げらる嚢に佛國よりグランドフイシエ勳章を受く大正十五年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる我國民法の起草者にして法學界の耆宿たり家族は倘孫正文(大一五、一二

男　成夫　大一四、一一生
君は東京府人富岡保の二男にして嘉學博士同有象の弟なり明治二十四年士官學校を卒業して陸軍歩兵少尉に任官し大正十三年代々木練兵場に於て戰死せり(勳六等功五級)
妻　久子　明四四、二生
長女　美知　明四四、一生
君は奈良縣人富田佗市郎の三男にして明治九年父の家督を相續し以て現時に及ぶ
妻　花　明三七、一〇生、宮崎、菊池循一
長女　大一五、一二生
當家は先代宏恭より家名を掲ぐ定恭は舊松代藩士にして明治十一年海軍少尉に任じ累進して中將に陞る其間海軍大學校教官同教頭同校長巍島龍田八雲敷島各艦長海軍々令部第一局長練習艦隊司令官竹敷要港部司令官旅順鎭守府司令長官等に歷補し同四十年日露戰役の功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其二男にして明治三十年三月を以て生れ大正六年襲爵仰付けらる同七年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍少佐に累進す其間海軍砲術學校海軍水雷學校海軍大學校を卒業し松輸逐艦長兼艦逐艦長を經て現時海軍々令部參謀にして昭和五年國際聯盟海空軍間協議調委員會帝國代表者隨員仰付けらる家族は尙長女芙美子(昭四、三生)弟定親(明四〇、七生)あり同定幸(同三六、六生)は東京府人和田巳之吉長女好枝の婿養子となり姉直(同一六、七生)は故海軍大佐丸山壽美太郎に同嗣(同二六、六生)は故海軍大佐津留雄三に妹芳(同三二、六生)は大阪府人野元隆二男卓に同季子(同三四八生)は森村組名古屋支店員佐伯卯四郎に嫁し叔父延治郎(慶應元、二生)は分家せり(東京、小石川、竹早町一二菊池循一方)
參照＝菊池循一、佐伯卯四郎、和田巳之吉※津田弘親の項

富岡久次郎
父　久助　文久二、五生
妻　キツ　嘉永六、一一生、秋田、小西嘉兵衛妹
男　潤吉　明四三、一一生
女　エン　明四五、三生
女　郁子　大二、六生
君は秋田縣人富岡久助の長男にして明治九年一月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十四年大正八年材木問屋を開業し朝田材木部と稱す傍ら紀の川製絲所(株)監査役、朝田材木部、材木問屋業、大阪府在籍
明一二、二生、大阪、朝田喜三郎
長女　久　明四四、二生
男　誠一　明四二、一生
女　美知　明四二、一生
君は奈良縣人喜田佗市郎の三男にして明治九年一月を以て生れ同三十四年先代久の入夫となり家督を相續す明治四十四年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し直に東京瓦斯會社技師に就任同七年歐米各國に漫遊して生れ家督を相續し大正十五年退隱す現時東京米穀商品取引所第三部取引員たり三男寅三郎(明二三、九生)同妻トミ子(同二六、一〇生、靜岡、士、甲斐莊正顯妹)は其二子を伴ひ分家し五女サダ(同四〇、九生)は秋田縣人沓澤源一郎弟武三に六女キヱ(同四四、三生)は同縣人尾張武三に嫁せりA七六七B二七七(東京、日本橋、瓶殼町一ノ三電茅場町三三六〇)
參照＝甲斐莊正顯、沓澤源一郎、富岡久次郎の項

富岡定俊
正五位勳五等、男爵、海軍少佐、海軍々令部參謀、長野縣華族
妻　博　明三七、一〇生、宮崎、菊池循一
長女　大一五、一二生
當家は先代定恭より家名を掲ぐ定恭は舊松代藩士にして明治十一年海軍少尉に任じ累進して中將に陞る其間海軍大學校教官同教頭同校長巍島龍田八雲敷島各艦長海軍々令部第一局長練習艦隊司令官竹敷要港部司令官旅順鎭守府司令長官等に歷補し同四十年日露戰役の功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其二男にして明治三十年三月を以て生れ大正六年襲爵仰付けらる同七年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍少佐に累進す其間海軍砲術學校海軍水雷學校海軍大學校を卒業し松輸逐艦長兼艦逐艦長を經て現時海軍々令部參謀にして昭和五年國際聯盟海空軍間協議調委員會帝國代表者隨員仰付けらる家族は尙長女芙美子(昭四、三生)弟定親(明四〇、七生)あり同定幸(同三六、六生)は東京府人和田巳之吉長女好枝の婿養子となり姉直(同一六、七生)は故海軍大佐丸山壽美太郎に同嗣(同二六、六生)は大阪府人野元隆二男卓に同季子(同三四八生)は森村組名古屋支店員佐伯卯四郎に嫁し叔父延治郎(慶應元、二生)は分家せり(東京、小石川、竹早町一二菊池循一方)
參照＝菊池循一、佐伯卯四郎、和田巳之吉※津田弘親の項

(東京市外澁野川町西ヶ原八一五電小石川六二〇一)
參照＝富岡久助※沓澤源一郎の項

富岡久右衞門
紀の川製絲所(株)監査役、朝田材木部、材木問屋業、大阪府在籍
明一二、二生、大阪、朝田喜三郎
妻　久　明四四、二生
長女　誠一　明四四、一生
男　美知　明四二、一生
君は奈良縣人富岡佗市郎の三男にして明治九年一月を以て生れ同三十四年先代久の入夫となり家督を相續す同三十四年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し直に東京瓦斯會社技師に就任同七年歐米各國に漫遊して生れ家督を相續し大正十五年退隱す現時東京米穀商品取引所第三部取引員たり三男寅三郎(明二三、九生)同妻トミ子(同二六、一〇生、靜岡、士、甲斐莊正顯妹)は其二子を伴ひ分家し五女サダ(同四〇、九生)は秋田縣人沓澤源一郎弟武三に六女キヱ(同四四、三生)は同縣人尾張武三に嫁せりA七六七B二七七(東京、日本橋、瓶殼町一ノ三電茅場町三三六〇)
參照＝甲斐莊正顯、沓澤源一郎、富岡久次郎の項

富岡惟中
從五位、工學博士、商工技師、商工省工務局勤務、東京府在籍
妻　芳子　明四五、五生
男　成夫　大一四、一一生
君は東京府人富岡保の二男にして嘉學博士同有象の弟なり明治二十四年士官學校を卒業して陸軍歩兵少尉に任官し大正十三年代々木練兵場に於て戰死せり(勳六等功五級)
妻　久子　明四四、二生
長女　美知　明四二、一生
君は奈良縣人喜田佗市郎の三男にして明治九年一月を以て生れ同三十四年先代久の入夫となり家督を相續す同三十四年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し直に東京瓦斯會社技師に就任同七年歐米各國に漫遊して生れ家督を相續し大正十五年退隱す現時東京米穀商品取引所第三部取引員たり三男寅三郎(明二三、九生)同妻トミ子(同二六、一〇生、靜岡、士、甲斐莊正顯妹)は其二子を伴ひ分家し五女サダ(同四〇、九生)は秋田縣人沓澤源一郎弟武三に六女キヱ(同四四、三生)は同縣人尾張武三に嫁せりA七六七B二七七(東京、日本橋、瓶殼町一ノ三電茅場町三三六〇)
參照＝甲斐莊正顯、沓澤源一郎、富岡久次郎の項

富岡周藏
神奈川縣多額納稅者、鎌倉ハム富岡商會(株)代表取締役、東京石川島造船所(株)監査役、富岡名代表社員
神奈川縣在籍
明一二、一〇生、鹿兒島、士、相良長發長女
妻　キン　明一九、一一生
養子　貞吉　明一九、一一生
君は神奈川縣人富岡清五郎の弟にして文久二年七月を以て生れ明治二十六年分れて一家を創立す現時東京石川島造船所監査役鎌倉ハム富岡商會代表取締役富岡合名會社代表社員にして神奈川縣多額納稅者に列す二女靜子(明三五、二生)は分家し其夫法學士孝助は千葉縣人猿田寬の弟にして司法官たり(神奈川、鎌倉、玉繩村)
參照＝富岡貞吉の項

富岡俊次郎
彌富商會(株)取締役
東京府在籍
妻　かめ　慶應三、七生、東京、士、中村德修三女
男　清行　明二六、一〇生、慶大出身、彌富商會(株)會長
郷　喜代　明三二、一二生、長男清行妻、埼玉、瀧川林平二女
君は兵庫縣人富岡夫平の二男にして文久二年八月を以て生れ明治二十二年分れて一家を創立す同十八年商船學校を卒業し日ノ出丸其他に乘込み歐洲航路に勤務し船長たり後東洋汽船會社造船監督浦賀船渠會社東京港水會社各取締役たりしも現時彌富商會取締役たり家族は尙孫路子(大一〇、四生、長男清行長女)同朝太郎(同一三、七生、同長男)同昭二郎(昭二、九生、同二男)同孝三郎(同四、一〇生、同三男)ありA二〇〇〇(東京、芝、伊皿子町二六電高輪二二七八)

富岡貞吉
鎌倉ハム富岡商會(株)取締役、富岡名社員、神奈川縣在籍
養父　周藏　文久元、二生、現戸主
男　周吉郎　大四、一生
女　茂子　大元、一二生
君は東京府人富岡小太郎の弟にして明治十九年十一月を以て生れ現戸主周藏の養子となる現時前記會社の重役たり家族は尙二男淳(大五、一二生)二女尙子(同一一、四生)あり三男駿(同七、四生)は東京府人富岡正母美津の養子となれり(神奈川、鎌倉、鎌倉町大町)

富岡彌八郎
新潟市參事會員、新潟商工會議所常議員、新潟土地建物(株)取締役、酒類雜貨商、新潟縣在籍
養母　ハナ　明一二、四生、新潟、士、中村德修三女
妻　ミツ　明二六、五生、養父彌八郎長女
女　ユキ　明四五、四生
女　ヒロ　大四、五生
君は新潟縣人高橋忠太郎の二男にして明治十年二月を以て生れ先代彌八郎の養子となり大正十二年家督を相續し前名申次を改め襲名す酒類雜貨商を營み傍ら新潟十地建物會社取締役にして推されて新潟商工會議所常議員たり家族は尙四女ユミ(大一一、五生)は新潟縣人坂井義雄に嫁し養妹サク(明三四、一二生)は分家せり(新潟市上大川前通十番町)

富樫芳治郎
鹽野香料(株)代表取締役、ニーマシー(株)取締役、大阪府在籍
母　しん　文久三、一一生、士、中村德修三女
妻　富美　明三一、一〇生、宮城、安東理吉妹
男　英一　明三一、一二生
君は大阪府人富樫しんの私生子にして明治三十一年先代と共に大阪高等商業學校甲種科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙長女淑子(大一二、八生)二女和子(同一三、一一生)あり長女ミツ(明二〇、一一生、宮城、士、中村德修三女)は故法學士酒井晴雄に三女淑(同三二、一一生、出身校同上)は東京府士族槇村澄三郎長男法學士甲午郎に嫁し亡弟悌三郎妻イネ(同九、八生、群馬、田島倉吉妹)は其一子を伴ひ分家せり(東京、牛込市谷臺王寺町七一電牛込二一二)
參照＝槇村甲午郎、太刀川平治、富井周の項

富岡明雄
從四位、男爵
山梨縣華族
母　きん　嘉永六、一一生、東京、朝倉吉藏養子
妻　せい　明二〇、四生、千葉、秋葉良平妹
男　古明　大五、七生
女　淳　大三、九生
當家は先々代敬明より顯る敬明は舊佐賀藩士にして維新後同藩權大參事山梨縣參事熊本縣權令同縣令同知事に歷任し又貴族院議員に擧げられ明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる父復起は其後を享く君は復起の長男にして明治十三年九月を以て生れ後家督を相續し昭和二年一月襲爵仰付けらる家族は尙二女淑(大七、四生)三男將明(同九、五生)三女恭(同一一、六生)四女玲(同一四、二生)叔父泰雄(明九、二生、勳七等、東京農大出身)同妻順(同二二、九生、山梨、福島爲則四女)及其四男二女同九郎(同二一、三生)同妻ヒサエ(同三二、二生、熊本、小山正章姉)及其二男一女同末雄(同二三、一〇生)同妻はる(同二一、三生、滋賀、若林又右衞門四女)及其一女あり妹茂(同二三、一生)は山梨縣人土屋孝定長男定家に同慶(同二四、一生)は大分縣人高橋琢に叔母本(同一一、一生)は山梨縣人渡邊澤次郎に同夏(同一六、六生)は陸軍中將安滿欽一に同嘉壽(同三二、六生)は東京府人平田勳に嫁し伯父豐和(嘉永三、一〇生)は佐賀縣士族鍋岡愨助に叔父菊雄(明一八、一〇生)は同縣人神代英太に各養子となれり(山梨、西山梨、里垣村)
參照＝高橋琢、平田勳、安滿欽一、渡邊澤次郎※伊藤長兵衞※若林乙吉の項

富岡惟中
從五位、工學博士、商工技師、商工省工務局勤務、東京府在籍
妻　芳子　明四五、五生
男　成夫　大一四、一一生
君は東京府人富岡保の二男にして嘉學博士同有象の弟なり明治二十四年士官學校を卒業して陸軍歩兵少尉に任官し大正十三年代々木練兵場に於て戰死せり(勳六等功五級)
妻　久子　明四四、二生
長女　美知　明四二、一生
君は奈良縣人喜田佗市郎の三男にして明治九年一月を以て生れ同三十四年先代久の入夫となり家督を相續す同三十四年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し直に東京瓦斯會社技師に就任同七年歐米各國に漫遊して生れ家督を相續し大正十五年退隱す現時東京米穀商品取引所第三部取引員たり三男寅三郎(明二三、九生)同妻トミ子(同二六、一〇生、靜岡、士、甲斐莊正顯妹)は其二子を伴ひ分家し五女サダ(同四〇、九生)は秋田縣人沓澤源一郎弟武三に六女キヱ(同四四、三生)は同縣人尾張武三に嫁せりA七六七B二七七(東京、日本橋、瓶殼町一ノ三電茅場町三三六〇)
參照＝甲斐莊正顯、沓澤源一郎、富岡久次郎の項

富岡久右衞門
紀の川製絲所(株)監査役、朝田材木部、材木問屋業、大阪府在籍
明一二、二生、大阪、朝田喜三郎
妻　久　明四四、二生
長女　誠一　明四四、一生
男　美知　明四二、一生
君は奈良縣人喜田佗市郎の三男にして明治九年一月を以て生れ同三十四年先代久の入夫となり家督を相續す同三十四年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し直に東京瓦斯會社技師に就任同七年歐米各國に漫遊して生れ家督を相續し大正十五年退隱す現時東京米穀商品取引所第三部取引員たり三男寅三郎(明二三、九生)同妻トミ子(同二六、一〇生、靜岡、士、甲斐莊正顯妹)は其二子を伴ひ分家し五女サダ(同四〇、九生)は秋田縣人沓澤源一郎弟武三に六女キヱ(同四四、三生)は同縣人尾張武三に嫁せりA七六七B二七七(東京、日本橋、瓶殼町一ノ三電茅場町三三六〇)
參照＝甲斐莊正顯、沓澤源一郎、富岡久次郎の項

富岡定俊
正五位勳五等、男爵、海軍少佐、海軍々令部參謀、長野縣華族
妻　花　明三七、一〇生、宮崎、菊池循一
長女　大一五、一二生
當家は先代宏恭より家名を掲ぐ定恭は舊松代藩士にして明治十一年海軍少尉に任じ累進して中將に陞る其間海軍大學校教官同教頭同校長巍島龍田八雲敷島各艦長海軍々令部第一局長練習艦隊司令官竹敷要港部司令官旅順鎭守府司令長官等に歷補し同四十年日露戰役の功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其二男にして明治三十年三月を以て生れ大正六年襲爵仰付けらる同七年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍少佐に累進す其間海軍砲術學校海軍水雷學校海軍大學校を卒業し松輸逐艦長兼艦逐艦長を經て現時海軍々令部參謀にして昭和五年國際聯盟海空軍間協議調委員會帝國代表者隨員仰付けらる家族は尙長女芙美子(昭四、三生)弟定親(明四〇、七生)あり同定幸(同三六、六生)は東京府人和田巳之吉長女好枝の婿養子となり姉直(同一六、七生)は故海軍大佐丸山壽美太郎に同嗣(同二六、六生)は大阪府人野元隆二男卓に同季子(同三四八生)は森村組名古屋支店員佐伯卯四郎に嫁し叔父延治郎(慶應元、二生)は分家せり(東京、小石川、竹早町一二菊池循一方)
參照＝菊池循一、佐伯卯四郎、和田巳之吉※津田弘親の項

(東京市外澁野川町西ヶ原八一五電小石川六二〇一)
參照＝富岡久助※沓澤源一郎の項

富岡久右衞門
紀の川製絲所(株)監査役、朝田材木部、材木問屋業、大阪府在籍
明一二、二生、大阪、朝田喜三郎
妻　久　明四四、二生
長女　誠一　明四四、一生
男　美知　明四二、一生
君は奈良縣人喜田佗市郎の三男にして明治九年一月を以て生れ同三十四年先代久の入夫となり家督を相續す同三十四年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し直に東京瓦斯會社技師に就任同七年歐米各國に漫遊して生れ家督を相續し大正十五年退隱す現時東京米穀商品取引所第三部取引員たり三男寅三郎(明二三、九生)同妻トミ子(同二六、一〇生、靜岡、士、甲斐莊正顯妹)は其二子を伴ひ分家し五女サダ(同四〇、九生)は秋田縣人沓澤源一郎弟武三に六女キヱ(同四四、三生)は同縣人尾張武三に嫁せりA七六七B二七七(東京、日本橋、瓶殼町一ノ三電茅場町三三六〇)
參照＝甲斐莊正顯、沓澤源一郎、富岡久次郎の項

富岡惟中
從五位、工學博士、商工技師、商工省工務局勤務、東京府在籍
妻　芳子　明四五、五生
男　成夫　大一四、一一生
君は東京府人富岡保の二男にして嘉學博士同有象の弟なり明治二十四年士官學校を卒業して陸軍歩兵少尉に任官し大正十三年代々木練兵場に於て戰死せり(勳六等功五級)
妻　久子　明四四、二生
長女　美知　明四二、一生
君は奈良縣人喜田佗市郎の三男にして明治九年一月を以て生れ同三十四年先代久の入夫となり家督を相續す同三十四年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し直に東京瓦斯會社技師に就任同七年歐米各國に漫遊して生れ家督を相續し大正十五年退隱す現時東京米穀商品取引所第三部取引員たり三男寅三郎(明二三、九生)同妻トミ子(同二六、一〇生、靜岡、士、甲斐莊正顯妹)は其二子を伴ひ分家し五女サダ(同四〇、九生)は秋田縣人沓澤源一郎弟武三に六女キヱ(同四四、三生)は同縣人尾張武三に嫁せりA七六七B二七七(東京、日本橋、瓶殼町一ノ三電茅場町三三六〇)
參照＝甲斐莊正顯、沓澤源一郎、富岡久次郎の項

富岡周藏
神奈川縣多額納稅者、鎌倉ハム富岡商會(株)代表取締役、東京石川島造船所(株)監査役、富岡名代表社員
神奈川縣在籍
明一二、一〇生、鹿兒島、士、相良長發長女
妻　キン　明一九、一一生
養子　貞吉　明一九、一一生
君は神奈川縣人富岡清五郎の弟にして文久二年七月を以て生れ明治二十六年分れて一家を創立す現時東京石川島造船所監査役鎌倉ハム富岡商會代表取締役富岡合名會社代表社員にして神奈川縣多額納稅者に列す二女靜子(明三五、二生)は分家し其夫法學士孝助は千葉縣人猿田寬の弟にして司法官たり(神奈川、鎌倉、玉繩村)
參照＝富岡貞吉の項

富岡俊次郎
彌富商會(株)取締役
東京府在籍
妻　かめ　慶應三、七生、東京、士、中村德修三女
男　清行　明二六、一〇生、慶大出身、彌富商會(株)會長
郷　喜代　明三二、一二生、長男清行妻、埼玉、瀧川林平二女
君は兵庫縣人富岡夫平の二男にして文久二年八月を以て生れ明治二十二年分れて一家を創立す同十八年商船學校を卒業し日ノ出丸其他に乘込み歐洲航路に勤務し船長たり後東洋汽船會社造船監督浦賀船渠會社東京港水會社各取締役たりしも現時彌富商會取締役たり家族は尙孫路子(大一〇、四生、長男清行長女)同朝太郎(同一三、七生、同長男)同昭二郎(昭二、九生、同二男)同孝三郎(同四、一〇生、同三男)ありA二〇〇〇(東京、芝、伊皿子町二六電高輪二二七八)

富岡貞吉
鎌倉ハム富岡商會(株)取締役、富岡名社員、神奈川縣在籍
養父　周藏　文久元、二生、現戸主
男　周吉郎　大四、一生
女　茂子　大元、一二生
君は東京府人富岡小太郎の弟にして明治十九年十一月を以て生れ現戸主周藏の養子となる現時前記會社の重役たり家族は尙二男淳(大五、一二生)二女尙子(同一一、四生)あり三男駿(同七、四生)は東京府人富岡正母美津の養子となれり(神奈川、鎌倉、鎌倉町大町)

富岡彌八郎
新潟市參事會員、新潟商工會議所常議員、新潟土地建物(株)取締役、酒類雜貨商、新潟縣在籍
養母　ハナ　明一二、四生、新潟、士、中村德修三女
妻　ミツ　明二六、五生、養父彌八郎長女
女　ユキ　明四五、四生
女　ヒロ　大四、五生
君は新潟縣人高橋忠太郎の二男にして明治十年二月を以て生れ先代彌八郎の養子となり大正十二年家督を相續し前名申次を改め襲名す酒類雜貨商を營み傍ら新潟十地建物會社取締役にして推されて新潟商工會議所常議員たり家族は尙四女ユミ(大一一、五生)は新潟縣人坂井義雄に嫁し養妹サク(明三四、一二生)は分家せり(新潟市上大川前通十番町)

富樫芳治郎
鹽野香料(株)代表取締役、ニーマシー(株)取締役、大阪府在籍
母　しん　文久三、一一生、士、中村德修三女
妻　富美　明三一、一〇生、宮城、安東理吉妹
男　英一　明三一、一二生
君は大阪府人富樫しんの私生子にして明治三十一年先代と共に大阪高等商業學校甲種科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙長女淑子(大一二、八生)二女和子(同一三、一一生)あり長女ミツ(明二〇、一一生、宮城、士、中村德修三女)は故法學士酒井晴雄に三女淑(同三二、一一生、出身校同上)は東京府士族槇村澄三郎長男法學士甲午郎に嫁し亡弟悌三郎妻イネ(同九、八生、群馬、田島倉吉妹)は其一子を伴ひ分家せり(東京、牛込市谷臺王寺町七一電牛込二一二)
參照＝槇村甲午郎、太刀川平治、富井周の項

富岡明雄
從四位、男爵
山梨縣華族
母　きん　嘉永六、一一生、東京、朝倉吉藏養子
妻　せい　明二〇、四生、千葉、秋葉良平妹
男　古明　大五、七生
女　淳　大三、九生
當家は先々代敬明より顯る敬明は舊佐賀藩士にして維新後同藩權大參事山梨縣參事熊本縣權令同縣令同知事に歷任し又貴族院議員に擧げられ明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる父復起は其後を享く君は復起の長男にして明治十三年九月を以て生れ後家督を相續し昭和二年一月襲爵仰付けらる家族は尙二女淑(大七、四生)三男將明(同九、五生)三女恭(同一一、六生)四女玲(同一四、二生)叔父泰雄(明九、二生、勳七等、東京農大出身)同妻順(同二二、九生、山梨、福島爲則四女)及其四男二女同九郎(同二一、三生)同妻ヒサエ(同三二、二生、熊本、小山正章姉)及其二男一女同末雄(同二三、一〇生)同妻はる(同二一、三生、滋賀、若林又右衞門四女)及其一女あり妹茂(同二三、一生)は山梨縣人土屋孝定長男定家に同慶(同二四、一生)は大分縣人高橋琢に叔母本(同一一、一生)は山梨縣人渡邊澤次郎に同夏(同一六、六生)は陸軍中將安滿欽一に同嘉壽(同三二、六生)は東京府人平田勳に嫁し伯父豐和(嘉永三、一〇生)は佐賀縣士族鍋岡愨助に叔父菊雄(明一八、一〇生)は同縣人神代英太に各養子となれり(山梨、西山梨、里垣村)
參照＝高橋琢、平田勳、安滿欽一、渡邊澤次郎※伊藤長兵衞※若林乙吉の項

富岡惟中
從五位、工學博士、商工技師、商工省工務局勤務、東京府在籍
妻　芳子　明四五、五生
男　成夫　大一四、一一生
君は東京府人富岡保の二男にして嘉學博士同有象の弟なり明治二十四年士官學校を卒業して陸軍歩兵少尉に任官し大正十三年代々木練兵場に於て戰死せり(勳六等功五級)
妻　久子　明四四、二生
長女　美知　明四二、一生
君は奈良縣人喜田佗市郎の三男にして明治九年一月を以て生れ同三十四年先代久の入夫となり家督を相續す同三十四年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し直に東京瓦斯會社技師に就任同七年歐米各國に漫遊して生れ家督を相續し大正十五年退隱す現時東京米穀商品取引所第三部取引員たり三男寅三郎(明二三、九生)同妻トミ子(同二六、一〇生、靜岡、士、甲斐莊正顯妹)は其二子を伴ひ分家し五女サダ(同四〇、九生)は秋田縣人沓澤源一郎弟武三に六女キヱ(同四四、三生)は同縣人尾張武三に嫁せりA七六七B二七七(東京、日本橋、瓶殼町一ノ三電茅場町三三六〇)
參照＝甲斐莊正顯、沓澤源一郎、富岡久次郎の項

富岡久右衞門
紀の川製絲所(株)監査役、朝田材木部、材木問屋業、大阪府在籍
明一二、二生、大阪、朝田喜三郎
妻　久　明四四、二生
長女　誠一　明四四、一生
男　美知　明四二、一生
君は奈良縣人喜田佗市郎の三男にして明治九年一月を以て生れ同三十四年先代久の入夫となり家督を相續す同三十四年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し直に東京瓦斯會社技師に就任同七年歐米各國に漫遊して生れ家督を相續し大正十五年退隱す現時東京米穀商品取引所第三部取引員たり三男寅三郎(明二三、九生)同妻トミ子(同二六、一〇生、靜岡、士、甲斐莊正顯妹)は其二子を伴ひ分家し五女サダ(同四〇、九生)は秋田縣人沓澤源一郎弟武三に六女キヱ(同四四、三生)は同縣人尾張武三に嫁せりA七六七B二七七(東京、日本橋、瓶殼町一ノ三電茅場町三三六〇)
參照＝甲斐莊正顯、沓澤源一郎、富岡久次郎の項

富岡定俊
正五位勳五等、男爵、海軍少佐、海軍々令部參謀、長野縣華族
妻　花　明三七、一〇生、宮崎、菊池循一
長女　大一五、一二生
當家は先代宏恭より家名を掲ぐ定恭は舊松代藩士にして明治十一年海軍少尉に任じ累進して中將に陞る其間海軍大學校教官同教頭同校長巍島龍田八雲敷島各艦長海軍々令部第一局長練習艦隊司令官竹敷要港部司令官旅順鎭守府司令長官等に歷補し同四十年日露戰役の功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其二男にして明治三十年三月を以て生れ大正六年襲爵仰付けらる同七年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍少佐に累進す其間海軍砲術學校海軍水雷學校海軍大學校を卒業し松輸逐艦長兼艦逐艦長を經て現時海軍々令部參謀にして昭和五年國際聯盟海空軍間協議調委員會帝國代表者隨員仰付けらる家族は尙長女芙美子(昭四、三生)弟定親(明四〇、七生)あり同定幸(同三六、六生)は東京府人和田巳之吉長女好枝の婿養子となり姉直(同一六、七生)は故海軍大佐丸山壽美太郎に同嗣(同二六、六生)は大阪府人野元隆二男卓に同季子(同三四八生)は森村組名古屋支店員佐伯卯四郎に嫁し叔父延治郎(慶應元、二生)は分家せり(東京、小石川、竹早町一二菊池循一方)
參照＝菊池循一、佐伯卯四郎、和田巳之吉※津田弘親の項

富岡仲次郎
養子　榮三郎　明二三、九生、長野、鳥羽林太二女
妻　ふきよ　明三九、六生、子爵三室戸敬光二女
男　文光　明三六、四生、養子榮三郎妻
女　登美子　明四三、一生
女　たか子　明四四、一生
君は栃木縣人富岡文次郎の二男にして明治十六年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役にして推されて彌井商工會議所議員たり二女勝子(明三八、三生)は彌井縣人大久保與三郎の養子となり三女千代子(同四一、七生)は同縣人松井文雄に嫁せり(彌井市佐久良上町八)

富小路隆直
正四位、子爵
舊公卿家
妻　文光　明三九、六生、子爵三室戸敬光二男、從五位、大四、一生
當家は閥白左大臣二條道平の男左衞門佐道世の後なり道世分れて一家をなし其邸富小路に在るを以て家號とす夫より二十代を經て先代敬直に至り明治十七年子爵を授けらる君は敬直の孫にして治直の長男なり明治十八年六月を以て生れ同二十五年祖父の後を繼ぎ襲爵仰付けらる大正六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業す家族は尙二女順子(大一一、五生)あり(東京市外落合町上落合四六五)
參照＝子爵三室戸敬光※子爵松浦靖※男爵相樂公愛※男爵鷲尾光遍※阪正臣の項

富澤清明
古河銀行(株)監査役
新潟縣在籍
男　潤之助　大六、一一生
女　ヒサ　明四一、五生、東京女學館出身
女　允子　明四五、二生、東京女學館出身
女　雪　大四、一生
君は新潟縣人富澤八郎の二男にして明治十年二月を以て生れ大正二年兄不八郎方より分れて一家を創立す明治三十六年東京高等商業學校を卒業し同三十八年更に同校專攻部を卒へ日本銀行に入り大正六年辭す同年古河銀行設立と共に副支配人に聘せられ爾で營業部長調査部長を經て現時監査役たり四女清子(大九、一〇生)は廣島縣人堀岡利一の養子となれりA一二六(東京市外井荻町上荻窪本村三二七ノ五電荻窪一二二)

富澤半四郎
東京府多額納稅者、陸屋商店、敷物及室內裝飾織物商、東京府在籍
妻　きみ　明治一、一〇生、宮城、安東理吉妹
男　郎　明治三一、一二生
婿　みれ　明三一、六生、長男明治郎妻、宮城、遠藤源七妹
男　慎三　明三六、七生
男　康吉　明四三、七生
君は宮城縣人富澤半藏の長男にして明治五年五月を以

て生れ大正二年家督を相續す睦屋商店と稱し敷物及室內裝飾織物商を營み東京府多額納税者たり家族は尙六男滋(大二、一生)孫正一(同九、二生、長男明治郎長男)同健二(同一一、一二生、同二男)同英郎(同一五、九生、同四男)あり(東京、京橋、銀座一ノ四ノ五電京橋四九)

## 富澤充
從四位勳三等、專賣局理事、東京地方專賣局長、愛媛縣在籍

妻　とみ　明一七、二生、東京、永田甚之助妹、東京淑德女學校出身
男　龍雄　明四三、一〇生、新潟高校在學
女　瀧　明四一、八生、愛知縣立第一高女專攻科出身
女　元　大元、九生、日本女大在學

君は舊宇和島藩士富澤松澗の二男にして明治十二年四月を以て生れ大正十二年兄岩生方より分れて一家を創立す明治三十五年東京專門學校法學部行政科を卒業し文官高等試驗及辯護士試驗に合格す同三十八年鹽務局事務官となり專賣局主事仙臺味野各收納所長三田尻高崎名古屋各支局長名古屋地方專賣局長等に歷任し現時專賣局理事にして東京地方專賣局長たり家族は尙二男岳雄(大四、五生)あり長女萱野(明三九、一一生)は東京府人原誠長男法學士武に嫁せり(東京市外戸塚町諏訪一〇二電牛込三六五五)
參照＝永田甚之助の項

## 富島歌郎
廣島縣多額納税者、山陽土地(株)代表取締役、朝日興農、春日座劇場、藝南電氣軌道各(株)取締役、土木建築請負業、廣島縣在籍

男　惟一　明二七、一二生
婦　菊子　明三三、一二生、長男惟一妻、愛媛、武智太市郎二女

君は廣島縣人富島平助同暢夫の弟なり慶應三年十月を以て生れ明治二十九年分れて一家を創立す土木建築請負業を營み傍ら前記各會社の重役を兼ね廣島縣多額納税者たり曩に吳商工會議所議員たりし事あり家族は尙孫勉吉(大一〇、一二生、長男惟一長男)あり長女哲(明三〇、七生)は千葉縣人遠藤博明に嫁せり(吳、莊山田町三六)
參照＝※赤松東一郎の項

## 富島喜代藏
富屋、洋酒食料品並食器商　大阪府在籍

妻　安永　明一〇、一生、大阪、木積一路二女
養子　典子　大五、五生、大阪、木積一雄五女

君は大阪府人富島彌作の長男にして明治五年十一月を以て生れ同三十三年分れて一家を創立す富屋と稱し洋酒食料品並食器商を營む(大阪、東、高麗橋四ノ一二電本局八八九)

## 富島荘
伊賀農商銀行(株)常務取締役　三重縣在籍

妻　きくゑ　明一〇、九生、養父富治郎長女
男　茂義　明三四、五生
婦　たま子　明三七、三生、長男茂義妻、三重岡島五三郎二女
女　止江　明四二、一一生
女　了子　明四五、五生
女　悠紀子　大四、一一生

君は三重縣人山下末吉の長男にして明治十四年八月を以て生れ先代富治郎の養子となり同三十八年家督を相續す現時伊賀農商銀行常務取締役たり家族は尙四男茂利(大二、八生)孫志滿子(同一四、四生、長男茂義長女)同收(昭四、三生、同二男)あり長女千代子(明三一、四生)は三重縣人谷口千五郎に二女ミネ(同三六、一一生)は同縣人川端滿三に三女芳子(同三八、九生)は同縣人西尾又八に妹こきく(同一九、一〇生)は同縣人小澤吉治郎に嫁せり(三重、阿山、山田村)

## 富田愛次郎
正五位勳三等、內部省社會局勞働部長、愛知縣在籍

妻　花子　明二九、九生、東京、山本一郎妹　女子學習院出身

君は愛知縣人富田治郎右衞門の三男にして明治十八年十二月を以て生る大正元年文官高等試驗に合格し同二年京都帝國大學獨法科を卒業し京都府屬同警視警保局事務官兼內務書記官社會局第一課長等を經て同十一年歐米各國に同十三年南米に出張を命ぜられ歸朝後社會局書記官となり第一部第二部各課長社會部保護課長兼福利課長等を經て昭和四年社會局部長に任じ同五年四月第十四回國際勞働會議政府代表として壽府に赴き現時勞働部長たり家族は尙甥治郎右衞門(明三一、九生、現戸主)同母しま(同一二、九生、愛知、野田牛三郎長女)同妻しづゑ(同三六、四生、愛知、木下喜作二女)及其三子甥義治(同三三、三生)同妻しづ(同三九、二生、岐阜、村木久三郎長女)及其三子甥秋野(同四〇、一二生)あり(東京、麻布、霞町一電青山六一四五)

## 富田逸二郎
早稻田大學教授、早稻田第一高等學院勤務、東京府士族

妻　よう　明一四、五生、京都、西里了觀二女
女　冬子　大三、一一生

君は東京府士族富田冬三の二男にして明治九年三月を以て生れ大正三年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學理科大學數學科を卒業し現時早稻田大學教授たり妹綾(明二三、七生)は東京府人淺田德則二男振作に嫁し亡弟逢三妻歌廼(同二八、三生、群馬、關口勝藏二女)は其三男一女を伴ひ分家せりA六九一二(東京、本郷、龍岡町二三電小石川五七二九)
參照＝淺田德則※戸野周二郎の項

## 富田宇市良
奈良縣多額納税者、富田商店(株)取締役、村木商、奈良縣在籍

妻　マサ　明二一、五生、奈良、埜中彌藏二女
男　信一　大六、四生
養子　正信　明三四、九生、長女富美子夫、奈良、河合三治二男
女　富美子　明三九、一生、養子正信妻
女　濵江　明四四、一生

君は奈良縣人先代宇市良の長男にして明治十二年七月を以て生れ同四十四年家督を相續し前名松太郎を改め襲名す材木商を營み現に富田商店取締役にして直接國税一千八百七十三圓を納め奈良縣多額納税者たり家族は尙三男松三(大一五、五生)四男育良(昭四、五生)孫育宏(同三、一生、養子正信長男)あり二女千代子(明四二、一一生)は三重縣人小林春生に妹靜枝(同三五、六生)は奈良縣人中島嘉十郎に嫁し弟德太郎(同二六、一一生)同妻よしの(同三四、八生、奈良、德田逵長女)は其一子を伴ひ同正義(同三〇、五生)同妻とく(同三四、九生、大阪、安居佐七妹)は其子女を伴ひ各分家し四女燕子(同四五、六生)は大阪府人青山繁太郎に二男義次郎(大九、二生)は前記德太郎に各養子となれり(奈良、磯城、櫻井町)

## 富田勝次郎
博多株式取引所取引員、株式仲立業、福岡縣在籍

妻　トヨ　明一八、三生、養母マサ養子







養子　太良　明三四、七生、養子セツ夫、福岡、大塚儀平弟
養子　セツ　明四一、二生、養子太良妻、兄久太郎三女

君は福岡縣人船木久太郎の弟にして明治十二年五月を以て生れ先代マサの養子となり同三十五年家督を相續す株式仲立業を營み博多株式取引所取引員たり家族は尙孫ヨシ(昭三、三生、養子太良長女)同テイ(同五、四生、同二女)ありA五七九七B一二六〇(福岡市中洲町八七三電五〇三〇)
參照＝船木久太郎※田中實の項

## 富田久三郎
德島縣多額納税者、藤富製藥所(株)取締役、德島縣在籍

妻　きぬ　安政三、二生、德島、大村爲吉長女
男　鷹吉　明八、一生

君は福岡縣人富田勘七の長男にして嘉永五年二月を以て生れ明治十一年家督を相續す現時藤富製藥所取締役にして直接國税一千九百三十八圓を納め德島縣多額納税者たり(德島、板野、瀬戸村)
參照＝富田鷹吉の項

## 富田金三郎
近藤商店(株)常務取締役、日本住宅(株)取締役、關西製鐵(株)監査役　大阪府在籍

妻　たけ　明二〇、一二生、兵庫、岩本淺五郎三女

君は大阪府人富田金助の長男にして明治十八年一月を以て生れ大正十四年家督を相續す現時株式會社近藤商店常務取締役にして前記會社の重役を兼ぬ家族は尙弟甲子郎(明一九、一〇生)及其一女あり同喜一郎(同二三、九生)は大阪府人高橋ミサの養子となり妹キミ(同二一、一二生)は同府人近藤喜西養子喜祿の未亡人たり(大阪、西、立賣堀北通四ノ二七電新町八〇六)
參照＝近藤喜西の項

## 富田金七
三重縣多額納税者、津商工會議所議員、綿絲商、三重縣在籍

養母　しか　明六、四生、三重、伊藤文四郎長女
妻　よしえ　明三二、一一生、三重、家城良三郎長女
男　正一　明四三、三生
女　文子　明四五、三生

君は三重縣人中湖正信の弟にして明治二十二年五月を以て生れ先代金七の養子となり大正八年家督相續と共に襲名して前名明道を改む綿絲商を營み現に三重縣多額納税者に列し津商工會議所議員に擧げらる家族は尙三男正博(大七、三生)三女伊都子(同一〇、九生)四男正佳(同一二、七生)四女信子(同一五、四生)あり二男正年(同五、二生)は三重縣人森川市兵衞の養子となり養叔父民三郎(明一二、五生、岐阜、大橋要吉弟)は其妻きぬ(同一六、五生、富田祐金二女)及其子女を伴ひ分家せり(津、上濱町二〇〇ノ一)

## 富田孝造
三重琺瑯(株)常務取締役、神富殖產　便宜運漕各(株)監査役、愛知縣在籍

妻　てる　明三二、八生、養父重助二女
男　孝　大八、六生

君は愛知縣人淺野甚七の弟富田重郎の養兄にして明治二十七年一月を以て生れ紅葉屋富田重助の養子となり大正六年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙三男昭(昭二、八生)あり(名古屋、東、白壁町四ノ一五電東六三三一)
參照＝淺野甚七、富田重助、富田重郎※神野三郎の項

## 富田幸次郎
勳三等、衆議院議員(高知縣選出)、對馬天然スレート(株)社長、帝國紙器(株)取締役、高知縣在籍

妻　直　明一一、九生、高知、中內光俊姉
男　徹郎　明三五、一生、早大出身、滿鐵社員
男　毅郎　明三七、六生、早大理工科出身、東京瓦斯會社員
女　澄子　大三、七生、成女高女在學

君は高知縣人富田寅次の二男にして明治五年十月を以て生れ同三十三年兄幸太郎方より分れて一家を創立す夙に藝陽學舍に政治學を修め淸韓を遊歷す曾て土陽新聞に主筆となり後高知新聞を創刊し主筆兼社長に就任す現に前記各會社の重役にして明治四十一年以來衆議院議員に當選する事七回立憲民政黨所屬にして曩に幹事長を勸め同黨の重鎭たり日獨事件の功に依り勳三等に敍せらる長女瑞穗(明三二、一一生)は高知縣人島內志剛に二女朝子(同四〇、六生、第一高女出身)は早大商科出身古河電氣會社員市川隼人に嫁せり(東京市外澁谷町八幡通二ノ二二電青山五九五)

## 富田作市
北海道多額納税者、室蘭商工會議所議員、登別温泉軌道、室蘭產業商會、室蘭無盡各(株)監査役　北海道在籍

養父　嘉三次　安政四、一生、福井、富田圓右衞門弟
繼母　ツル　慶應二、一〇生、北海道、古村濟女
妻　トミ　明三一、七生、北海道、富山九十六孫
男　嘉市　大六、七生
女　マサエ　大五、一生

君は福井縣人五十嵐彌吉の三男にして明治二十二年八月を以て生れ先代嘉三次の養子となり大正十年家督を相續す現時前記各會社の重役にして北海道多額納税者に列し直接國税一千六百四圓を納め推されて室蘭商工會議所議員たり家族は尙二男彌市(昭三、九生)養子君代(大一二、八生、北海道、富山倉平孫)あり(室蘭、千歲町五九)

## 富田重助
名古屋商工會議所常議員、神富殖產、福壽生命保險、名岐鐵道各(株)社長、明治銀行、昭和毛絲紡績、東愛知時計電機、福壽火災保險、東陽倉庫各(株)取締役、日本貯蓄銀行、中央信託、名古屋製陶所、伊勢電氣鐵道各(株)監査役、瑞穗興業(株)相談役、日本放送協會東海支部理事　愛知縣在籍

妻　あさこ　明二三、四生、愛知、神野金之助姉
男　重郎　明三四、七生
男　勇造　明三七、一二生
男　喜四郎　明三九、四生
女　まつ　大元、一一生

君は愛知縣人紅葉屋富田重助の長男にして明治五年三月を以て生れ同九年家督を相續す現に前記銀行會社の重役にして名古屋商工會議所常議員たり昭和五年紺綬褒章を授與せらる家族は尙六男重典(大四、一一生)あり二女てる(明三二、八生)同夫孝造(同二七、一生、愛知、淺野甚七弟)は共に分家せりA一七四七二(名古屋、東、葵町四五電東三〇三)
參照＝神野金之助、富田孝造、富田重郎※男爵鍋島陸郎※神野三郎※北川重夫の項

## 富田重郎
神富殖產(株)取締役、十一屋(株)監査役、愛知縣在籍

父　重助　明五、三生、現戸主

妻　明子　明四二、一一生、愛知、瀧定助養子
男　和夫　昭四、三生
君は愛知縣人富田重助の長男同孝造の養弟にして明治三十四年七月を以て生る大正十五年慶應義塾大學經濟科を卒業し現時前記各會社の重役たりA一三三六（名古屋、東、葵町四五電東三〇三）
參照＝瀧定助、富田孝造、富田重助※小出庄兵衛※瀧廣三郎※瀧義郎※瀧六郎※中村與右衛門の項

**富田庄吉**　靜岡縣多額納税者、協和銀行、中遠鐵道各(株)取締役、農業　靜岡縣在籍
妻　きり　明四、五生、靜岡、松浦五雄妹
養子　照雄　明二八、四生、養子まさえ夫、靜岡、立石利榮叔父
養子　まさえ　明三七、一一生、養子照雄妻、靜岡、富田良太郎四女
君は靜岡縣人富田彦六の長男にして慶應元年十一月を以て生れ明治七年家督を相續す農業を營み直接國税一千二百八十六圓を納め縣下の多額納税者にして前記銀行會社の重役たり曩に大阪銀行頭取掛川商業銀行靜岡縣農工銀行各重役たりし事あり家族は尚孫幸枝（大一一、八生、養子照雄長女）同彥雄（同一三、一〇生、同長男）同稔（同一五、一二生、同二男）同嘉代子（昭三、一一生、同二女）あり（靜岡、小笠、大阪村電二）

**富田善作**　濱野商事(株)取締役　東京府在籍
妻　サト　明九、一生、栃木、落合林之助姉
養子　圭吉　明四、三生、東京、村上善太郎二男
女　春重　明三八、二生
君は栃木縣人富田滿造の二男にして慶應二年十一月を以て生れ明治三十一年兄幸八方より分れて一家を創立す現時濱野商事會社取締役たり長女眞壽美（明三二、三生）は東京府人村上善太郎に嫁せり（東京市外大久保町東大久保四三三）

**富田太郎**　三井鑛山(株)取締役兼山野鑛業所長　福岡縣士族
母　テル　安政二、一一生、福岡、富田熊雄母
妻　スミ　明一六、一一生、福岡、士、東野直倫三女
男　國重　明三九、一〇生
女　輝　明四一、一〇生
女　綾　明四三、一〇生
女　萬喜　大元、一一生
女　愛　大四、一生
君は福岡縣士族富田一郎の長男同勇太郎の兄にして明治六年四月を以て生れ同三十年家督を相續す同三十一年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業し現時三井鑛山會社取締役兼山野鑛業所長たり家族は尚二男明德（大六、二生）五女榮（同八、四生）六女壽惠（同一二、五生）三男武德（昭三、一一生）弟賢四郎（明二一、四生）同妻コウ（同二八、一二生、福岡、石田惣次郎長女）及其二子の外弟積（同二四、二生）同妻コト（同三六、六生、福岡、鍋山義雄妹）及弟熊雄（中央大學教授）あり（福岡、嘉穗、稻築村）
參照＝富田勇太郎の項

**富田鷹吉**　德島縣會議員、德島縣多額納税者　藤富製藥所(株)取締役、工業　德島縣在籍
父　久三郎　嘉永五、二生、現戶主
妻　しゅん　明一一、五生、德島、吉田太平二女
男　介一　明三〇、一一生
婦　靜子　明三四、八生、長男介一妻、德島　山本善七五女
女　ふみ　明三四、六生
男　三夫　明三九、三生
婦　みゑ　明四一、八生、三男三夫妻、香川　遲澤榮二長女
男　弘　明四一、六生
男　昌平　明四三、五生
女　登喜子　大三、三生
君は德島縣人富岡久三郎の長男にして明治八年一月を以て生る工業を營み傍ら前記會社の重役にして現に德島縣多額納税者に列し直接國税一千三百四十四圓を納め推されて德島縣會議員たり家族は尚六男陸郎（大六、一〇生）五女みち子（同九、三生）孫久子（同八、九生、長男介一長女）同耕作（同一〇、九生、同長男）同啓次（同一三、二生、同二男）同貞三郎（同一五、二生、同三男）同嘉代子（昭三、一生、同二女）同隆久（同四、七生、同四男）同正朗（同三、七生、三男三夫長男）同小百合（同五、七生、同長女）あり二女喜代（明三七、一生）は德島縣人大村佐雄に嫁せり（德島、板野、瀨戸村電三）
參照＝富田久三郎の項

**富田武彥**　住友倉庫(株)支配人　石川縣士族
妻　愛　明三一、二生、石川、士、野崎安近妹
男　秀雄　大七、四生
君は石川縣士族富田輝象の長男にして明治二十年五月を以て生れ大正十三年家督を相續す同三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時住友倉庫會社支配人たりA四三三八（大阪、天王寺、茶臼山町一一一電天王子四一七）
參照＝※堀朋近の項

**富田忠詮**　從四位勳三等、日本電氣(株)特許部長、東京府在籍
妻　京　明一六、一二生、東京、士、富田又錄二女
男　勇　明三七、九生
男　進　明四〇、一〇生
君は京都府士族富田直詮の弟にして明治五年六月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同年東京帝國大學工科大學電氣科を卒業し農商務省特許局審査官同技師旅順工科學堂教授特許局發明課長同特許品陳列所長同發明課長旅順工科學堂長等に歷任し又佛清兩國に差遣せらる退官後實業界に入り住友倉庫會社東京支店支配人たりしも現時日本電氣會社特許部長たり（東京市外大久保町百人町二〇〇電四谷二七四七）
參照＝※兒玉錦平※兒玉謙次※阪井德太郎※塚越卯太郎の項

**富田忠次郎**　惠美須織物(株)取締役、開雲堂、文房具商、大阪府在籍
妻　こう　明一一、九生、大阪、村田楢治姉
男　忠作　明三四、一〇生
婦　夏子　明三八、八生、二男忠作妻、大阪　森庄助二女
男　幸治郎　明四〇、九生
君は大阪府人富田伊三郎の長男にして明治十年二月を以て生れ同三十年家督を相續す開雲堂と稱し文房具商を營み傍ら惠美須織物會社取締役を兼ぬ家族は尚五男正治（大二、三生）あり三男富三郎（明三七、九生）は同妻しず子（同三八、二生、大阪、福知保孫）と共に分家し長女ことみ（同四一、一一生）は大阪府人吉崎善三郎長男幾藏に姉なを（同八、一二生）は同府人住川岩吉に嫁せり（大阪、東、南久寶寺町二ノ一〇電船場一九三四）
參照＝吉崎善三郎の項



**富田忠太郎**　從六位勳四等、醫學博士、富田病院長、醫師、愛知縣士族
妻　せい　明一〇、六生、茨城、須藤藤吾長女
男　忠一　明三四、一生、醫學士
婦　ゆき　明四二、八生、長男忠一妻、三重　中村藤助十二女、山脇高女出身
男　忠良　明四二、六生、慶大醫學部在學
男　忠三　明四四、一生、慶大經濟學部在學
君は金澤藩士富田貞良の長男にして明治二年四月を以て生れ同十六年家督を相續す同二十九年東京帝國大學醫科大學を卒業し職を官界に奉ぜしが後之を辭し大正三年名古屋市に富田病院を開き爾來同院長として外科診療に從事す明治四十二年醫學博士の學位を受く長女初子（明三二、三生）は京都府人澤田文二三男源一に二女フミ（同三五、八生）は岐阜縣人內田謙一郎弟內田小兒科醫院長醫學博士謙益に嫁し四男貞夫（同四五、二生）は外祖父須藤藤吾の養子となれり（名古屋、西、泥江町二ノ一電西一四六四）

**富田常三郎**　東洋帆布(株)監査役、綿及帆布商　京都府在籍
妻　富江　明二六、一一生、京都、廣瀨友次郎三女
君は京都府人富田祐壽の四男大川金七の養弟にして明治二十二年十一月を以て生れ大正六年養兄富太郎方より分れて一家を創立す綿並帆布商を營み傍ら東洋帆布會社監査役たりA二一九六B五九五（大阪、北、中之島五丁目電土佐堀二五七三）
參照＝大川金七、富田富太郎※竹尾治右衛門※八代祐太郎の項

**富田哲造**　從五位勳六等、朝鮮總督府鐵道局技師、清津出張所長、熊本縣士族
父　長藏　嘉永三、一〇生
妻　ウメ　明二四、一〇生、熊本、生田軍太長女
男　泰雄　大元、一二生
女　千鶴　大五、二生
君は熊本縣士族富田長藏の二男にして明治十三年四月を以て生れ大正十一年姪一枚の後を承け家督を相續す明治三十八年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し統監府鐵道管理局技手となり同四十三年朝鮮總督府鐵道技師に任ぜられ京城管理局龍山草梁釜山各工務事務所長を經て大正十四年同總督府鐵道局技師となり京城平壤各工務事務所長を經て現時清津出張所長たり家族は尙二女忠子（大七、一一生）三女信子（同一一、一生）三男尙雄（同一四、二生）四女和子（昭二、一生）四男實雄（同五、三生）亡兄弘毅妻多美（明一三、三生、熊本、小山範三二女）あり妹婦美子（同三五、三生）は熊本縣人吉田勇に姪一枝（同三四、四生、亡兄弘毅長女）は同縣人村上勝治に嫁せり（朝鮮、清津鐵道局官舍）

**富田等平**　長崎縣多額納税者、佐世保銀行、佐世保貯蓄銀行各(株)常務取締役　長崎縣在籍
妻　トシ　明一四、一生、長崎、中村禎三郎二女
養子　辰彥　明三七、六生、長女歌子夫、長崎　筬島桂太郎三男
女　歌子　明四一、一生、養子辰彥妻
君は長崎縣人富田六藏の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十三年家督を相續す現時前記各銀行の重役にして直接國税四千四百十八圓を納め縣下の多額納税者に列す曾て衆議院議員に擧げらる家族は尙孫宏（昭五、四生、養子辰彥長男）弟愼二郎（明一一、一二生）同妻シツ（同二二、五生、長崎、福田熊吉四女）及其二子弟保（同二〇、七生）同妻直（同三三、三生、長崎、濱崎悌二郎三女）及其二子弟七郎（同三一、一生）同妻喜美子（同四三、一生、福岡、中原潤二二女）及其一子弟八郎（同三三、四生）あり養妹カネ（同七、二生、長崎、中村幸七三女）は長崎縣人添島源藏に妹シク（同二四、一二生）は同縣人戶倉事一郎に同ミチ（同二七、四生）は同縣人齋藤源一に同クメ（同三六、四生）は同縣人安見輔に嫁し弟匡藏（同一八、一一生）同妻シツ（同一九、一二生、長崎、中村孫七郎妹）は共に分家せり（佐世保、元町）
參照＝齋藤源一、濱崎悌二郎※濱崎彌助の項

**富田富太郎**　京都府多額納税者、富彌商店(株)監査役、八富、縮緬商、京都府在籍
妻　こう　明一四、一一生、京都、小澤惣兵衛二女
男　清太郎　明三二、一〇生
婦　しづ　明三六、五生、長男清太郎妻、京都、野々口重太郎三女
當家は代々京都に住し縮緬商を營む君は京都府人富田富太郎の長男にして明治九年三月を以て生れ叔父勘兵衛の養子となり同二十二年家督を相續し前名富之助を改む八富と稱し祖業縮緬商を繼承し現に京都府多額納税者にして直接國税四千二百五十二圓を納め傍ら富彌商店監査役に擧げらる謠曲に堪能なり家族は尙四男慶三（明四五、五生）孫清一（大一四、二生、長男清太郎長男）あり二男幸次郎（明三五、八生）は大阪府人竹尾治右衛門に養弟嘉三郎（同二〇、三生）は京都府人大川金七に同鐵三郎（同三一、一〇生）は大阪府人八代祐太郎に各養子となり長女てい（同三八、七生）は岡山縣人小野善太郎に養妹チエ（同一四、七生）は前記八代祐太郎に同タマ（同二四、一一生）は京都府人細辻伊兵衛長男伊太郎に同たみ（同二八、八生）は大阪府人小澤新六二男新之助に嫁し養弟彌三郎（同一二、一生）同妻はつ（同一四、二生、京都、河本新兵衛姉）は其一子を伴ひ分家し養弟常三郎（同二二、一一生）も亦分家せり（京都、中京、室町蛸藥師下ル電本局七一五）
參照＝大川金七、竹尾治右衛門、富田常三郎、八代祐太郎※松井又兵衛の項

**富田浪**　ナンコク商事、荒川電力各(株)監査役、金原銀行(株)支配人　靜岡縣在籍
妻　登美子　明三三、一〇生、東京、金原巳三郎二女
男　善彥　大一三、三生
君は靜岡縣人富田鷹次郎の三男にして明治二十五年二月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す同五年東京高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙長女百代（大一一、五生）二男文彥（同一五、五生）ありA一一二二（東京、芝、高輪臺町三七電高輪四八七一）
參照＝金原巳三郎※金原金二※金原明德の項

**富田登**　但馬合同銀行(株)取締役　兵庫縣在籍

繼母　はつ　安政二、八生、京都、河田源七姉
妻　静江　明二三、一生、兵庫、佐藤繁二女
男　彥一　明三〇、九生
婦　茂野　明三七、一〇生、長男彥一妻、兵庫、松本與之助長女
男　新次　明三三、一〇生
婦　つる　明三九、一一生、二男新次妻、兵庫、國眠一郎妹

君は兵庫縣人富田治助の長男にして明治八年十一月を以て生れ同二十八年家督を相續す現時但馬合同銀行取締役たり家族は尙孫朝子(大一三、一〇生、長男彥一長女)同滋子(昭四、四生、二男新次長女)亡弟正長女道(大一四、六生)あり長女藤野(明三六、一生)は兵庫縣人小川哲造に妹ます(同一四、五生)は同縣人國眠幾太郎長男精一に同てつ(同二一、三生)は同縣人武村太右衞門叔父武二に嫁し弟頼次(同一九、一〇生)は分家し亡叔父品藏長男稻城(同三四、二生)は京都府士族磯巻助長男淸一に同二男修(同三六、九生)は東京府士族林文に各養子となれり(兵庫、城崎、豐岡町)
参照=武村武二の項

**富田八郎**　湖北銀行、滋賀合同貯蓄銀行各(株)取締役、滋賀縣農工銀行、松浦商店、近江信託各(株)監査役、酒造業　滋賀縣在籍

妻　しつを　明一三、七生、滋賀、山岡桃庵二女
男　國士　明三四、一生
男　忠之　明三七、七生
女　馨　明四四、六生

君は滋賀縣人松島眞敎の三男にして明治九年十月を以て生れ先代八郎の養子となり同三十三年家督を相續し前名八治郎を改め襲名す酒造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして曩に衆議院議員に當選す家族は尙三男憲之亮(大二、九生)四男武士(同五、一二生)あり二女翠(明三九、八生)は京都府人梁川小市二男吉孝に三女愛子(同四一、三生)は滋賀縣人山岡禮一に嫁せり(滋賀、伊香、木之本町)

**富田彦吉**　名古屋市會議員、名港土地(株)取締役、愛知縣農工銀行、新守座各(株)監査役　愛知縣在籍

妻　しげ子　明一四、九生、愛知、高羽新吾庶
男　潤太郎　明三六、九生
女　輝　明三八、七生

君は愛知縣人富田福翁の三男にして明治十年一月を以て生れ同二十九年兄彥吉の後を承け家督を相續し前名富太郎を改め襲名す現時前記銀行會社の重役にして推されて名古屋市會議員たり長女エイ(明三一、九生)は愛知縣人水野泰治に嫁し兄彥吉(文久三、八生)同妻たつ(明四、八生、愛知、坂野辰之助長女)は共に分家せり(名古屋、南、熱田新田東組乙一ノ割二六三電南九一一)

**富田秀三郎**　正五位勳五等、鐵道局技師、大阪鐵道局大阪運輸事務所長　德島縣在籍

妻　スマ　明八、一〇生、德島、士、喜多彌代藏妹
女　英子　明四三、六生
女　美子　大二、一〇生

君は德島縣士族富田鹿太郎の三男にして明治十年十二月を以て生れ大正十二年甥稔方より分れて一家を創立す明治三十一年東京高等工業學校機械科を卒業し關西鐵道會社に入り後奈良鐵道會社に轉す同四十一年帝國鐵道廳に入り同廳技師鐵道院技師鐵道技師神戸鐵道局湊町運輸事務所長を經て現時前記の官職に在り(大阪、住吉、天王寺町鐵道官舍電戎一〇六四)

**富田勇太郎**　從四位勳三等、大藏省理財局長兼預金部長、日本銀行監理官　福岡縣士族

妻　幸子　明三〇、八生、東京、三宅正太郎妹
女　朔子　大五、八生

君は福岡縣士族富田一郎の三男にして同太郎の弟なり明治十六年八月を以て生る同四十一年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し大藏屬となり文官高等試驗に合格す同四十二年歐洲に出張を命ぜられ大正二年大藏省專賣局主事補兼大藏書記官に任ぜられ理財局國債課長國庫課長となり同十年華府會議に參列の帝國全權委員隨員仰付られ同十三年理財局長に進み現時前記の職を兼ぬ家族は尙二女昭子(大七、二生)三女邦子(同九、二生)四文華子(同一一、一生)五女良子(同一三、三生)六女美智子(同一五、五生)あり(東京、麻布、本村町三九電高輪六〇四七)
参照=富田太郎、三宅正太郎※男爵伊集院虎一の項

**富田頼治**　名古屋ホテル、大阪ホテル各(株)取締役　滋賀縣在籍

養母　くの　安政五、七生、滋賀、富田林平二女
妻　鄉　明二八、七生、養母くの二女

君は福岡縣人相良順治の三男にして明治十三年十月を以て生れ大正五年先代鄉の入夫となり家督を相續す現時前記會社の重役たり(滋賀、坂田、長濱町)
参照=※下鄉傳平の項

**富谷銈太郎**　正三位勳一等、法學博士、貴族院議員　栃木縣士族

妻　ヤス　明三、七生、法學博士田部芳妹
男　泰一　明三三、七生、東京商大專門部出身、三井信託會社員
婦　玉　明四〇、一二生、長男泰一妻、陸軍大將大迫尙道二女、女子學習院高等科出身

君は栃木縣士族富谷豐義の長男にして安政三年十月を以て生れ明治十七年家督を相續す同年司法省法律學校を卒業し同十九年法律學研究及裁判事務視察の爲め獨逸に留學す同二十三年歸朝東京地方裁判所同控訴院各判事東京控訴院部長大審院判事同部長東京控訴院長大審院長に歷任す先是同三十二年法學博士の學位を授けらる刑事定年法施行に依り退職後貴族院議員に勅選せらる曾て和蘭海牙に於ける手形法統一國際會議委員として派遣せられ又明治大學長臨時法制審議會臨時委員たりし事あり長女トミ(明二六、一生)は三重縣人角利助長男法學士利一に四女ヨシ(同二九、一生)は山形縣士族法學士小林一郎に五女ツネ(同三七、五生)は東京府士族工學士笠原二郎に妹スヾ(同八、一二生)は栃木縣人田中敬次郎に嫁し弟金三郎(慶應二、八生)は分家せり(東京、牛込、北町一二電牛込二〇九一)
参照=大迫尙道、角利一の項

**富塚慶三**　大網町長、千葉縣多額納稅者　千葉縣在籍

妻　みれ　明九、七生、千葉、小川雄次郎妹
養子　武雄　明二一、三生、二女悅子夫、千葉、川奈部佐五右衞門弟
女　悅子　明二九、七生、養子武雄妻
孫　澄江　大五、六生、養子武雄長女

君は千葉縣人富塚新左衞門の二男にして慶應二年十一月を以て生れ明治二十年家督を相續す現時大網町長にして直接國稅千七百七十一圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫和夫(大七、一一生、養子武雄長男)同裕二(同一〇、三生)同良三(同一二、五生、同三男)同照代(同一五、二生、同二女)あり弟德行(明二、一二生)同妻ぬい(同一四、九生、滋賀、士、神谷文藏妹)は其一子を伴ひ分家せり(千葉、山武、大網町)
参照=川奈部佐五右衞門※吉川雄輔の項



**富次素平**　大連商工會議所常議員、南滿洲瓦斯(株)專務取締役、帝國瓦斯協會理事　山口縣在籍

君は山口縣人富次素一の長男にして明治十三年二月を以て生れ同三十九年家督を相續す同年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し大阪瓦斯會社技師同工場長となり同四十二年南滿洲鐵道會社に入り瓦斯作業所に勤務同四十四年外遊歸朝後同所長等を經て大正十四年南滿洲瓦斯會社專務取締役に就任し現在に至る傍ら帝國瓦斯協會理事を兼ね大連商工會議所議員に推さる長女滿壽子(明四四、七生)は東京府人小谷重長男重一に嫁せり(大連、文化臺八九)

**富中多一**　島谷汽船、島谷商船各(株)取締役　山口縣在籍

父　太三郎　安政三、七生
妻　トミ　明二四、一生、山口、中岡儀左衞門四女
男　弘　大二、一〇生
女　常代　大五、七生

君は山口縣人富中太三郎の長男にして明治十八年十一月を以て生れ大正八年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙二女友子(大七、九生)二男隆平(同一〇、六生)三男義人(同一三、九生)三女米子(同一五、九生)四男春幸(昭四、四生)あり(兵庫、武庫、魚崎町)

**富永倉平**　正五位勳四等、陸軍技師、陸軍造兵廠々員　宮崎縣在籍

妻　ヤスエ　明一二、一〇生、宮崎、服部幸助長女
養子　富平　明一九、二生、妹ヒサノ夫、宮崎、服部幸助三男
妹　ヒサノ　明一九、六生、養子富平妻

君は宮崎縣人富永作太郎の長男にして明治九年二月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十七年京都帝國大學理工科大學土木科を卒業し陸軍技師に任じ現時陸軍造兵廠々員たり(東京市外町千駄ヶ谷町八四四)

**富永源治郎**　富永商店(株)社長、綿布商　大阪府在籍

妻　安　明二三、四生、大阪、桂田丑之助二女
養子　源一郎　大五、八生、大阪、富永五郎三男

君は大阪府人富永元藏の弟にして明治十六年十月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す綿布商を營み富永商店社長たり(大阪、東、備後町二ノ四六電本局一二二四)

**富永孝太郎**　新潟縣多額納稅者、第百三十九銀行、新潟貯蓄銀行各(株)取締役、農業　新潟縣在籍

母　トフ　嘉永六、二生、新潟、石田源左衞門三女
妻　イト　明七、一生、新潟、川上善兵衞妹

君は新潟縣人富永仙八の長男にして同忠司の兄なり慶應二年十二月を以て生れ同三十七年家督を相續す夙に東京英和學校に學び後米國に航しイリノイ大學に農學を修む歸朝後農を營み現時前記各銀行の重役を兼ね縣下の多額納稅者にして直接國稅二千六百六十二圓を納む曩に衆議院議員に當選する事二回尙幾多の公共事業に盡瘁す妹ミチ(明二二、一生)は新潟縣人增村庚次養子精一に同ヤス(同二五、四生)は同縣人澁川通に嫁せり(新潟、中頸城、美守村)
参照=富永忠司の項

**富永鴻**　正四位勳三等、長崎市長、長崎商工會議所顧問　靜岡縣士族

妻　愛　明二二、九生、東京、馬島渡妹
女　眞榮　明四四、三生
女　倫代　大二、一生

君は故衆議院議員富永發叔の二男にして明治十三年十二月を以て生れ先代ひでの養子となり同三十一年家督を相續す同三十八年東京帝國大學法科大學を卒業し後文官高等試驗に合格し爾來鹿兒島兵庫神奈川各縣事務官神奈川縣港務部長德島宮城各縣警察部長石川山梨各縣內務部長佐賀長崎各縣知事に歷任し現時長崎市長に推されて長崎商工會議所顧問たり家族は尙三女晴江(大八、八生)あり姉銈(元治元、三生)は男爵園田武彥の同ヒデ(明一〇、九生)は東京府人藤瀬新一郎の各母たり(長崎市爐粕町四五電七七七)
参照=男爵園田武彥、藤瀬新一郎※青木楠男※朝倉虎治郎※有吉明※岸本壽太郎※崎川才四郎※崎川茂太郎※田島義士の項

**富永剛一郎**　茨城縣多額納稅者、內外酒食品、勸業各(株)取締役、酒造業　茨城縣在籍

母　まつの　慶應元、一生、祖父源次衞門長女
妻　きの　明一七、四生、茨城、和田善一郎二女
男　均　明四〇、一生
男　修　明四二、六生
男　豐三郎　明四四、一〇生

君は茨城縣人富永源次郎の長男にして明治十六年十月を以て生れ大正十一年家督を相續す酒造業を營み傍ら前記諸會社の重役にして直接國稅一千百二十六圓を納め茨城縣多額納稅者に列す家族は尙四男弘(大二、一一生)五男喜久男(同四、一一生)二女まき(同六、九生)六男健司(同八、九生)妹壽子(明四五、五生)亡弟强妻すく(同二四、四生、茨城、榊松之介妹)あり長女サト(同三八、一生)は茨城縣人平野信二に嫁せり(茨城、久慈、久米村)

**富永猿雄**　熊本縣多額納稅者、農業　熊本縣士族

妻　トミ　明一九、一一生、熊本、有吉虎若妹
男　彥十郎　明四一、二生
女　美喜　明三八、九生
女　富美子　大二、六生

君は熊本縣士族富永彌七郎の長男にして明治十二年三月を以て生れ大正元年家督を相續す農業を營み直接國稅一萬四千九百七十六圓を納め縣下の多額納稅者にして大正七年貴族院議員に擧げらる家族は尙四男希久男(大四、一二生)四女優美子(同一一、三生)五女玲子(同一五、一生)六女洋子(昭五、一生)弟源吾(明二二、五生)同妻ヌキ(同二七、五生、熊本、士、坂本元巳二女)及其三女あり(熊本、上益城、白旗村)
参照=※矢野成人の項

**富永重治郎**　米穀商　京都府在籍

男　重道　明四四、八生

女　エイ　明三六、九生
女　ノブ　明三八、五生
女　ヨシ　明三九、八生
女　リウ　明四一、五生
君は京都府人富永兵太郎の弟にして明治三年六月を以て生れ富永兵左衞門の養子となり同三十年分れて一家を創立す米穀商を營むA一五三四B九二(京都、葛野京極村**電下一五〇八**)

**富永眞造**　田端屋商店(株)專務取締役、田中(株)取締役、東京府在籍
妻　テイ　明三〇、九生、大阪、芝川照吉長女、お茶の水高女專攻科出身
男　映之助　大一二、一生
君は廣島縣人富永勝助の五男にして明治二十六年五月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す同年東京帝國大學法科大學を卒業し現時田端屋商店專務取締役たる外前記會社の重役たり(東京、芝、高輪南町三〇**電高輪五一九四**)

**富永種興**　東洋撚糸工業(株)社長、辛酉銀行、佐倉金庫店各(株)取締役、東京府士族
父　種實　安政五、一一生、現戶主、佐倉金庫店(株)取締役
母　トク　明四、九生、長崎、澤田關右衞門二女
君は東京府士族富永種實の長男にして明治十八年八月を以て生る同四十五年慶應義塾理財科を卒業し豐國銀行に入り大正四年橫濱實業貯著銀行に轉じ東京支店長に擧げらる同十年同銀行の豐山銀行と合併し辛酉銀行となるや拔擢せられて取締役兼支配人となり後監査役に轉じ現時同行取締役の外前記各會社の重役たり(東京、麻布、市兵衞町二ノ四二**電青山七五五〇**)

**富永忠司**　從四位勳三等、醫學博士、新潟醫科大學長兼教授、新潟縣在籍
妻　ノリ　明一九、一生、新潟、眞島桂次郎二女
男　良一　明四五、七生
女　なを　明四四、三生
女　敎子　大四、八生
君は新潟縣人富永仙八の二男にして現戶主孝太郎の弟なり明治十二年三月を以て生る同三十八年東京帝國大學醫科大學を卒業し更に大學院に學ぶ同四十三年朝鮮總督府醫院醫官となり大正二年自費を以て歐洲に留學し同六年新潟醫學專門學校教授に任ぜられ同十一年內科學研究の爲獨瑞米和四ケ國に留學し現時新潟醫科大學長兼教授たり曩に醫學博士の學位を授けらる家族は倘四男正泰(大七、一二生)三女ヒロ(同一〇、八生)六男文夫(同一四、一一生)七男武夫(昭三、一〇生)あり三男正謙(大六、一生)は新潟縣人山岸タイの養子となれり(新潟市白山浦一ノ三三八**電一七一**)
參照＝富永孝太郎、眞島桂次郎※白勢春三の項

**富永恒太郎**　兵庫縣多額納税者、富永商店、鐵類商、兵庫縣在籍
妻　チヨ　明二九、一生、兵庫、巽道郎妹
男　良三　明三九、九生、三高出身
女　輝子　大三、五生、兵庫縣立第一高女在學
君は滋賀縣人富永機輔の長男にして明治九年一月を以て生れ同四十三年家督を相續す父機輔夙に神戶に出で鐵類商を創め當家今日の基礎を築けり君は遺業を繼承し富永商店を經營し當地有數の鐵類商として知られ縣下の多額納税者に列し直接國税二千百七圓を納む家族は倘二男正太郎(昭二、七生)あり長女隆(明三二、九生、神戶第一高女出身)は元代議士辯護士中井一夫に二女邦(同三六、三生)は工學士松本七郎に三女道子(同四三、一生、兵庫縣立神戶第一高女出身)は京都府人木村泰雄に嫁せり(神戶、中山手通五ノ二二)
參照＝中井一夫の項

**富永福司**　正五位勳四等、鐵道書記官、經理局購買第二課長、千葉縣在籍
父　豐治郎　安政元、二生、現戶主
母　かね　安政六、一一生、千葉、白熊重藏二女
妻　たま　明二一、九生、千葉、椎津盛一姉
男　浩　大七、三生
女　澄　大五、一生
君は千葉縣人富永豐治郎の長男にして明治十六年九月を以て生る同四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格す鐵道院書記同副參事同參事鐵道局參事札幌門司神戶東京仙臺各鐵道局經理課長鐵道書記官經理局調查課長等に歷任し現時經理局購買第二課長たり昭和三年滿洲に出張す家族は倘三男利久(大九、一生)弟信司(明二四、一生)同妻貞(同三一、一生、千葉、岩崎巳之助長女)及其子女あり同富司(同二八、一〇生)は千葉縣人鈴木勝次郎の養子となり姉しま(同一二、三生)は東京府人杉田長次郎に嫁せり(東京、本鄕、駒込富士前町五五**電小石川四六八三**)
參照＝椎津盛一の項

**富永文一**　正五位勳六等、朝鮮總督府事務官、內務局地方課長、德島縣在籍
妻　千代　明二七、五生、福岡、末松茂長女
男　倘夫　大六、六生
君は德島縣人富永彌十郎の長男にして明治二十四年一月を以て生れ大正三年家督を相續す同四年高等文官試驗に合格同五年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し直ちに朝鮮總督府試補となり次いで同道事務官同事務官行政講習所長同兼總督府監察官全羅北道警察部長總督府事務官警保局保安課長等に歷任し昭和四年內務局地方課長に轉じ今日に至る家族は倘二男千文(大一二、二生)三女遠子(同一五、八生)四女勝子(昭四、一一生)弟貞夫(明三六、二生)妹文子(同三八、八生)同綾子(同四〇、七生)あり同テル(同二六、八生)は德島縣人福田定一に同ふじ(同二九、三生)は兵庫縣人富岡源吉長男貫一に同ヨシヱ(同三一、一一生)は德島縣人富永悅三に同千代三(同三四、二生)は同縣人竹內茂雄に嫁せり(京城、朝鮮總督府內務局地方課內)
參照＝※末松偕一郎の項

**富永茂吉**　大日本コール天紡織、鬼足袋工業各(株)專務取締役、寺田(名)代表社員、東京府在籍
妻　たゑ　明二六、一〇生、東京、寺田淳平妹
男　恒吉　大一五、一生
女　直子　大四、三生
君は靜岡縣人富永さとの庶子にして明治二十三年六月を以て生れ同二十八年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は倘二女康子(大七、一一生)三女良子(同九、一二生)四女茂子(同一一、九生)三男泰雄(昭二、八生)あり(東京市外大森町谷島八〇五**電大森二〇六六**)
參照＝寺田淳平の項

**富永元二**　熊本縣多額納税者、御船鐵道(株)取締役、農業、熊本縣士族







母　てつ　元治元、九生、熊本、上野平八二女
妻　ソメ　明一八、三生、熊本、國武靜二女
男　不二男　明四一、六生
女　濱子　明四三、五生
女　秀子　大二、一〇生
君は熊本縣士族富永登美雄の長男にして明治十三年九月を以て生れ大正十一年家督を相續す農業を營み直接國税二千五十二圓を納め縣下の多額納税者にして前記會社の重役たり家族は倘三男現(大五、三生)四女縫子(同七、九生)あり長女マス(明三八、一二生)は熊本縣人築瀨貞に妹信(同一九、七生)は同縣士族佐藤直に嫁せり(熊本、上益城、白旗村)

**富永元次郎**　玖島銀行(株)頭取、長崎縣在籍
妻　ヨネ　明五、一生、長崎、江村賢造妹
男　浩　明二四、一〇生
婦　シゲ　明三〇、九生、長男浩妻、長崎、田丸隆造長女
孫　照子　大五、八生、長男浩長女
君は長崎縣人富永斧吉の長男にして明治三年十一月を以て生れ同四十年家督を相續す現時玖島銀行頭取たり家族は倘孫夫規子(大七、三生、長男浩二女)同績一(同九、八生、同長男)同誠彌(同一二、二生、同二男)同多美子(昭二、一生、同三女)同知代子(同四、七生、同四女)あり養子コヒ(明二三、一生、長崎、江村賢造姪)は熊本縣士族豐田安之二男義人に妹カツ(同一〇、八生)は長崎縣人山添力太郎に嫁せり(長崎、東彼杵、大村町)

**富成彥一**　酒類商、山口縣在籍
妻　ヨシ　明一一、九生、養父虎太郎長女
男　正一　明三七、一生
男　俊二　明三九、一生
女　敏子　大四、九生
君は山口縣人刀禰廉造の長男にして明治十二年八月を以て生れ富成虎太郎の養子となり同三十六年分れて一家を創立す酒類商を營む家族は倘三男邦彥(大二、三生)あり長女隆子(明四三、七生)は山口縣人菊谷武治郎二男建太郎に嫁せりA一二六二B二五二(下關、豐前田町一七三)
參照＝菊谷武治郎の項

**富野繁市**　京城商工會議所評議員、京城窯業會社(株)專務取締役、京城護謨工業所(資)代表社員、長崎縣士族
妻　ミサチ　明一六、二生、福岡、長野宇作長女
男　由之　明四三、五生
君は長崎縣士族富野常四郎の二男にして明治三年九月を以て生る現時京城護謨工業所代表社員たる傍ら京城窯業會社專務取締役にして推されて京城商工會議所評議員たり曩に渡米し商業に從事せし事あり家族は倘亡兄義重妻テイ(慶應三、六生、長崎、士、長島鼎藏二女)甥壯子路(明二五、一生、福岡、現戶主)同妻敎子(同三一、一生、福岡、石野寬平孫)及其子女あり姪ミチ子(同三三、二生)は福岡縣人甲田茂に嫁せり(京城、三坂通一二三)
參照＝※熊谷石造の項

**富松浩一**　第一無盡(株)取締役社長、深川倉庫(株)常務取締役、內外毛織(株)監查役、和歌山縣士族
妻　ミネ　明六、四生、和歌山、中谷定之助妹
女　芳子　大二、三生
君は和歌山縣士族富松助八郎の長男にして慶應三年三月を以て生れ明治三十四年家督を相續す現時前記諸會社の重役たり長女綾子(明三二、一〇生)は和歌山縣人岩本宗次に嫁し二女繁子(同三七、三生)は大阪府人富松彥次郎の養子となり妹とも(同五、五生)弟佐次郎(同一〇、五生)は各分家せりA四六八(東京、深川、西大工町一二**電本所一四八二**)

**富松武助**　德島縣多額納税者、新藥及賣藥製造販賣業、德島縣在籍
妻　アサチ　明一五、一一生、德島、松本利八長女
男　芳夫　大二、七生
君は德島縣人先代武助の長男にして明治九年四月を以て生れ同四十年家督を相續し前名宜征を改め襲名す夙に東京藥學專門學校を卒業し享保以來の祖業賣藥商を營み五龍圓安神湯及オピールの本舖として知られ現時帝國女子藥學專門學校理事德島縣藥業同業組合顧問に擧げられ縣下の多額納税者に列し直接國税五千二百二十九圓を納む養子ヨシコ(明三三、五生、德島、松本一作長女)は德島縣人坂東熹三に嫁し妹ミネ(同二四、二生)は同縣人河野ヨシの養子となれり(德島、名東、國府町**電長一**)

**富安謙次**　正五位勳四等、遞信省電氣局長、愛知縣在籍
母　なか　嘉永二、一〇生、祖父九太夫三女
妻　敏子　明二九、五生、靜岡、太富部磐妹
君は愛知縣人富安三郎の四男にして現戶主鷹次の弟なり明治十八年四月を以て生る同四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同年文官高等試驗に合格す爾來遞信管理局事務官爲替貯金局事務官補同局副事務官貯金局事務官遞信書記官經理局需品課長大臣官房文書課長等に歷任し昭和四年遞信省電氣局長に任ぜられ今日に至る大正十二年歐米各國に出張す(東京市外西巢鴨町池袋一〇七〇**電大塚七七八**)
參照＝富安鷹次の項

**富安重行**　福岡縣多額納税者、富安本家酒造、大川鐵道、福岡縣釀造試驗所、筑前參宮鐵道各(株)取締役、富安(名)代表社員、酒造業、福岡縣士族
妻　シヅヨ　明三七、五生、福岡、永松啓祐妹
君は福岡縣士族先代重行の二男にして明治二十八年八月を以て生れ同四十五年家督を相續し襲名して前名甚一郎を改む大正十一年慶應義塾大學政治科を卒業し酒造業を營み花の露釀造元にして前記諸會社の重役として知られ直接國税五千百五十一圓を納めて福岡縣多額納税者たり家族は倘長女富美惠(大一一、六生)弟虎太(明四〇、七生)同靖雄(同四二、一二生)あり姉シツヨ(同二四、八生)は福岡縣士族荒卷義信に同マツノ(同二七、二生)は醫學博士久保猪之吉弟醫學博士久保護躬に妹トモ(同三六、三生)は福岡縣人法學士高松俊一に嫁し弟彌之助(同三〇、一二生、工學士)同行雄(同三四、二生、工學士)は各分家せり(福岡、三潴、城島町**電五〇**)
參照＝久保猪之吉の項

**富安鷹次**　豐橋商工會議所議員、豐綠周旋(株)專務取締役、豐橋合同運送(株)監查役、愛知縣在籍
母　なか　嘉永二、一〇生、祖父九太夫三女
妻　とみ　明八、一生、愛知、白井又俵四女

男　淳　大二、一生
養子　義雄　明二三、五生、亡長女しづ夫、愛知、稻垣竈二郎三男
女　千鶴　明四三、三生

君は愛知縣人富安三郎の長男にして同謙次の兄なり慶應三年三月を以て生れ明治二十三年家督を相續す現時前記各會社の重役にして推されて豐橋商工會議所議員たり家族は尚五女不二(大一一、三生)孫昌也(同七、一一生、養子義雄長男)同よし(同一〇、一〇生、同二女)あり二女すゞ(明三一、六生)は長野縣人小山九治に妹せい(同八、一二生)は愛知縣人瀧川源次に同もと(同一一、四生)は靜岡縣人縣才二男松太郎に嫁し弟勝治(同四、三生)は愛知縣人白井直次に同富(同七、四生)は同縣人杉田はつに各養子となれり(愛知、八名、金澤村)
參照＝富安謙次の項

## 富安保太郎
勳四等、貴族院議員、福岡縣多額納稅者、日本電報通信社、九州電氣軌道、筑豐電氣軌道、九州土地各(株)取締役、農業、福岡縣士族

妻　スマ　明二、一一生、福岡、士、大屋牧藏長女
男　三郎　明二六、六生
婦　ツヤ　明三五、六生、長男三郎妻、福岡士、中村敬止妹
男　昌作　明三〇、八生
婦　敏子　明三九、五生、三男昌作妻、福岡、森四郎二女

君は福岡縣士族富安昌太郎の長男にして元治元年五月を以て生れ明治九年家督を相續す夙に東京法學院を卒業し嚢に福岡縣會議員同正副議長に擧げられ衆議院議員に當選する事數回に及ぶ現時前記各會社の重役たり直接國稅千八百八十四圓を納め福岡縣多額納稅者として貴族院議員に互選せらる家族は尚孫裕子(大一〇、一一生、長男三郎長女)同彌太郎(昭四、九生、同長男)同昭彥(同二、三生、三男昌作長男)同壽々子(同五、三生、同長女)あり長女小富士(明二一、八生)は熊本縣士族松本遊龜五男重末に二女小春(同二四、三生)は福岡縣士族坂田闘次郎亡二男三郎に三女千代(同三三、二生)は同縣人中村敬止弟次郎に四女智惠子(同四一、三生)は廣島縣人大林協四男治男に嫁し四男融造(同三六、一生)は福岡縣人馬場達次郎の養子となれり(福岡、山門、三橋村)
參照＝※石橋襄※江崎一郎の項

## 富山喜八
コークス商　東京府在籍

妻　あい　明二八、一生、東京、澤田銀次郎長女

君は石川縣人森山幸作の二男にして明治十八年一月を以て生れ同四十三年家督を相續すコークス商を營む家族は尚長女久子(大一三、一一生)あり(東京、淺草、北三筋町六三　電淺草四四四〇)
參照＝※川井金太郎の項

## 富山保
理學博士、橫濱高等工業學校講師、東洋窯業工業(株)囑託、茨城縣士族

父　蘊　安政五、三生、島村亨四男、現戶主
母　きく　明元、九生、佐藤佐長女
妻　靜子　明二四、八生、堀井鐵三郎長女
男　正雄　大七、二生
女　知惠子　大五、一〇生

君は茨城縣士族富山蘊の長男にして明治二十一年四月を以て生る大正三年東京帝國大學理科大學を卒業し現時橫濱高等工業學校講師東洋窯業工業會社囑託松尾鑛業會社の顧問にして先是理學博士の學位を受く家族は尚二女彌生(大一〇、三生)二男昭(昭二、九生)三女園子(同五、一生)弟博(明四一、一〇生)あり(東京、市外目黑町中目黑一一三六)

## 友枝高彥
從四位勳三等、東京文理科大學教授兼高等師範學校教授、東京帝國大學講師、日本女子大學校教授　福岡縣在籍

妻　トミ　明二一、六生、宮崎、白高榮三郎妹
男　宗達　明四一、七生
男　宗和　明四二、一二生

君は福岡縣人友枝速水の長男にして明治九年十一月を以て生れ同十六年家督を相續す同三十四年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し更に大學院に入り夙に倫理學研究の爲英米獨各國に再度遊學す大正三年歸朝東京高等師範學校教授に任ぜられ同五年東京帝國大學教授を兼ねしも昭和四年前記の職に任ぜられ今日に至る家族は尚三男宗正(大四、三生)四男宗直(同五、九生)五男宗則(同七、一生)六男宗光(同一三、二生)あり(東京、本郷、駒込曙町二四　電小石川二三三五)

## 友岡新藏
杉浦商店(株)專務取締役　滋賀縣在籍

母　かた　嘉永四、一〇生、滋賀、水谷四郎右衞門長女
妻　志津　明二一、八生、滋賀、足立成基長女
養子　金藏　明二三、一二生、京都、三大寺正一郎弟
女　多加　大二、六生

君は滋賀縣人友岡竹次郎の長男にして明治十三年十月を以て生れ同四十四年家督を相續す現時杉浦商店專務取締役たり姉なる(明六、八生)は分家せりA六〇二(東京市外中野町氷川三　電中野四五〇一)
參照＝三大寺正一郎の項

## 友眞碩太郎
從五位勳五等、判事、神戶地方裁判所部長、石川縣在籍

妻　つれ　明二六、五生、石川、正門彌十郎四女
男　久衞　明四四、一二生
女　すが　大三、二生

君は石川縣人本間太郎右衞門の二男にして明治十三年十二月を以て生れ先代久作の養子となり同三十六年家督を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學を卒業し同四十四年判事に任じ爾來長崎地方同區大村區各裁判所判事函館控訴院判事宮城控訴院判事大阪控訴院判事に歷補し昭和二年現職神戶地方裁判所部長に補せらる家族は尚二女わか(大六、一生)三女りつ(同九、七生)四女さは(同一四、一一生)五女祐(昭五、四生)あり(神戶、地方裁判所內)

## 友田一太
德山鐵板(株)專務取締役　山口縣士族

妻　壽子　明三三、三生、山口、吉富寅太三女
男　一三　大一〇、七生

友田家は舊くより山口縣田布施村に住し醫を業とし數代の祖毛利家に召されて典醫となり士分を以て遇せらる君は先代盛登の長男にして明治十九年十二月を以て生れ大正十二年家督を相續す現に德山鐵板會社專務取締役にして嚢に大阪鐵板製造會社取締役たりし事あり家族は尚長女澄子(大八、九生)二男宏(昭二、一生)二女恭子(同四、四生)弟五三(明二七、六生)あり父盛登(文久三、六生)は分家せり(山口、佐波、牟禮村)
參照＝吉富寅太の項



## 友田一郎
兵庫縣會議員、甲子銀行、但馬銀行各(株)監査役、兵庫縣在籍

母　きぬ　慶應二、四生、兵庫、祖父勘右衞門長女
妻　のぶ　明二七、一一生、兵庫、佐々木莊太郎三女
男　壯一　大三、二生

君は兵庫縣人友田俊藏の長男にして明治二十一年十一月を以て生れ大正九年家督を相續す現時前記各銀行の重役にして推されて兵庫縣會議員たり家族は尚三男洋三(大八、二生)四男多可司(同一〇、一〇生)長女初野(同一三、一生)の外弟二郎(明二四、九生)同妻盛子(同三七、五生、子爵曾我祐邦二女)及其一女あり(兵庫、城崎、日高町)
參照＝子爵曾我祐邦※子爵谷儀一※男爵立花馨※男爵東三條實敏※金杉英五郎の項

## 友田喜代一
資產家　兵庫縣在籍

妻　しげ　明二四、四生、兵庫、山本勘藏三女
男　喜一郎　明四五、五生
女　ちよ　大四、二生

君は兵庫縣人友田喜左衞門の長男にして明治十七年一月を以て生れ大正十五年家督を相續す資產家たり家族は尚二女喜美子(大七、一生)三男喜雄(同一一、四生)ありA一七九七(神戶、熊內町五ノ四三)
參照＝山本勘藏の項

## 友田鎭三
正五位勳四等、明治專門學校長兼教授、福岡縣士族

妻　外喜　明一〇、六生、石川、久保百二長女
男　俊一　明三一、一一生
婦　あい子　明三七、三生、長男俊一妻、三重、和田晉五郎四女
女　信子　明三七、一一生

君は北海道士族友田清孝の長男にして明治五年六月を以て生れ同二十九年家督を相續す同年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し第五第一各高等學校教授に歷任し大正十年明治專門學校教授となり現時同校長兼教授にして嚢に獨國に留學せり家族は尚四女智子(大八、七生)孫昭德(昭三、八生、長男俊一長男)同晴(同五、二生、同長女)あり長女文子(明三三、一一生)は東京府人大塚明朗に二女禮子(同三六、一一生、御茶の水高女出身)は同府人辻新吾に嫁せり(戶畑、明治專門學校官舍)
參照＝※大島義弘※田丸卓郎の項

## 友田貞吉
旭倉庫(株)社長、大正製藥(株)取締役、友田(資)代表社員、藥種貿易及製造業、東京府在籍

妻　ひて　明一三、二生、大阪、谷山秀治郎妹
男　榮一　明三五、一〇生
男　巖　明三七、八生、立大出身
女　節子　明四〇、一生
男　實　明四四、一一生

君は新潟縣士族南部信近の三男にして片山徹吉の兄なり明治五年九月を以て生れ大阪府人友田嘉兵衞の養子となり同三十二年分れて一家を創立す同二十八年大阪高等商業學校別科を卒業し藥種貿易及製造業を營み旭倉庫會社長たる外前記會社の重役たり(東京、麴町、上六番町三〇　電九段一一八〇)
參照＝片山徹吉の項

## 友田政次郎
春元工業(株)常務取締役、春元商業(株)取締役、大阪府在籍

妻　まき　明一六、九生、三重、村田熊次郎長女
女　美代　明三四、一二生、大阪府立夕陽丘高女出身

君は兵庫縣人友田勘四郎の五男にして明治十年九月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す夙に大阪に出で藥品商春元竹三郎方に奉公し漸次重用せられ同商店組織變更に際し支配人に擧げられ後株式組織となるや其常務取締役に推され傍ら前記會社の重役を兼ね今日に至る(兵庫、武庫、精道村打出針木九)

## 友田元效
從四位勳三等功五級、陸軍騎兵少佐、宮內技師兼車馬監、主馬寮勤務、東京府在籍

父　效三　安政二、一二生
母　セツ　文久二、八生、大阪、藤原淺右衞門二女
妻　靜　明一九、一〇生、滋賀、七里定雄姉、大津高女出身
男　淑郎　大一一、七生

當家は元豐臣家の家臣なりしが豐家沒落後神官となり豐國廟に奉仕す君は大阪府人友田效三の長男にして明治十二年三月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十三年陸軍士官學校を卒業し翌年騎兵少尉に任じ大正五年同少佐に累進す其間日露戰役に從軍し騎兵學校を卒業し同校及陸軍大學校教官等に歷補し大正十年宮內技師に轉任す現時車馬監を兼ぬ(東京市外中野町本丁通五ノ三三ノ三　電中野五六六五)

## 友田宜剛
正五位勳三等、陸軍教授、陸軍士官學校教官、福井縣在籍

妻　多滿　明七、四生、丹羽宜篤長女
男　宜孝　明二八、一生、正六位、工學博士、東京帝國大學助教授
婦　みれ　明三〇、一二生、二男宜孝妻、愛知、橫幕淸太郎二女
男　剛士　明四二、四生

君は福井縣人友田西境の長男にして明治元年八月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す夙に東京高等師範學校に學び德島師範學校東京府尋常中學校各教諭女子高等師範學校講師となり明治三十五年陸軍教授に任じ仙臺地方並中央各幼年學校附を經て現時陸軍士官學校教官たり家族は尚五男啓四郎(大六、一〇生)孫孝子(同一〇、一生、二男宜孝長女)同宜忠(同一一、一生、同長男)あり二女愛(明三二、二生)は兵庫縣人森暉に三女嘗子(同三七、五生)は東京府人田口薰に四女小霜(同三八、一一生)は京都府人蘇理伊太郎に嫁せり(東京市外大久保町西大久保一五九)

## 友田芳太郎
子安製材(株)取締役、飛州木材、東京木材市場、平沼製材各(株)監査役、友田(資)代表社員、木材問屋　東京府在籍

妻　なか　明一八、一〇生、東京、猪場由右衞門長女
養子　健次郎　明三二、一生、長女照子夫、北海道、松家圓次郎弟、小樽高商出身
女　照子　明四一、八生、養子健次郎妻、東京女學館出身

君は東京府人友田幸三郎の弟にして明治十一年六月を以て生れ繼父芳太郎に從ひ分家し大正七年家督を相續し前名貞次郎を改め襲名す木材問屋を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙養子アサ(大一二、二生、亡弟榮之助長女)孫勝亮(昭四、一一生、養子健次郎長男)あり弟武三郎(明二五、三生)は絕家粟原氏を再興し亡弟榮之助妻とよ(同三五、一〇生、東京、數井七太郎妹)は東京府人西池正顯に嫁せり(東京、深川、三好町二電本所二六六七)

### 友常毅三郎　京和銀行(株)取締役　兵庫縣士族

男　次郎　明三四、一二生
婦　貞子　明四二、八生、二男次郎妻、東京　松岡俊三二女
養子　ふじの　明三、一二生、兵庫、大塚芳彰三女

君は舊唐津藩士友常典勝の二男にして文久二年七月を以て生れ明治二十二年家督を相續す夙に東京外國語學校大學豫備門に學び現時京和銀行取締役にして曾て明治法律學校講師日本英學館教頭フレーザー商會支配人友垣紡績會社長たり又衆議院議員に當選する事三回に及べり二女ひろ(明一六、八生)は岡山縣人龍野元四に嫁せり(東京、赤坂、表町三ノ三電青山五六五〇)
參照＝※山口固の項

### 友成四郎　東京府會議員、東京市會議員、大北炭礦、北海中央電鐵、帝國土地開墾各(株)取締役、東京府士族

妻　フミ　明三二、四生、東京、田中勝美庶子
養子　公臣　大八、三生、東京、友成保長男

君は東京府士族友成五百枝の長男にして明治十八年十月を以て生れ同三十六年家督を相續す現時前記諸會社の重役にして推されて東京府會議員東京市會議員たり曩に帝國化學製麻日本商事相互日本國債各會社取締役大日本蠶絲紡績會社監査役たりしことあり(東京、本鄕、駒込林町二六電小石川五一四四)

### 友野代三　養蠶家　岡山縣在籍

養母　やす　明一六、二生、東京、士、大河內安貞養子

君は群馬縣人平田篤次郎の三男にして明治四十四年八月を以て生れ先代欽一の養子となり昭和四年家督を相續す養蠶家たり養叔母羅久(明一三、五生)は同夫宇太郎(同一三、九生、岡山、千原勝衛弟)と共に養叔父祐三郎(同一六、四生)は同妻コウ(同二七、五生、東京、小峰孝容二女)と共に各其子女を伴ひ分家し養叔母仙(同九、八生)は廣島縣人三熊佐助弟庄吉に嫁せりA六七六四(東京、芝、高輪南町五三電高輪一二一〇)
參照＝平田篤次郎の項

### 友松喜平　高崎商工會議所副會頭、高崎倉庫(株)取締役、群馬縣在籍

妻　さく　明二六、二生、群馬、猪野三四郎二女
男　福太郎　明三二、一生
男　善三郎　明四一、一〇生

君は群馬縣人先代喜平の二男にして明治八年八月を以て生れ同三十年家督を相續し前名德次郎を改め襲名す現時高崎倉庫會社取締役にして高崎商工會議所副會頭に推さる家族は尙五男新五(大三、五生)三女きよ(同六、一生)六男六郎(同八、九生)七男勇夫(同一五、二生)あり姉きい(文久三、一一生)同きさ(明二、一〇生)同妻とよ(同一七、六生、群馬、大澤孝太郎妹)も亦其二男を伴ひ分家し二女幸(同四三、一二生)は群馬縣人山木宮治に姉きし(同六、六生)は東京府人井澤覺次郎に嫁し四女喜美子(大一〇、一一生)は麻生家を相續せり(高崎、旭町四五)

### 伴田六郎　日本纖維化工(株)社長、日本美術寫眞印刷所(株)取締役、日本製紐(株)監査役、伴田土地(資)代表社員　東京府在籍

母　フヂ　慶應二、八生、高知、士、弘田忠五郎二女
妻　佳子　明二九、九生、伯爵前田利男養叔母、女子學習院出身
男　六彌　昭五、一生

君は東京府人伴田六之助の長男にして大澤幸次郎の甥なり明治十九年五月を以て生れ昭和三年家督を相續す夙に東洋協會專門學校を卒業し高田商會に入り倫敦支店に勤務し大正三年歸朝後同社を退き伴田土地會社無限責任社員となり同八年更に日本纖維化工會社を設立し同社專務取締役に舉げられ後社長に就任し傍ら前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙長女園子(大一〇、六生)二女由利子(同一二、一〇生)三女敦子(同一五、八生)弟四郎(明二六、一二生、高級園藝市場組合理事長、伴田農園主)同妻梅子(同三三、五生、山口、津田又男從姪、實踐女學校出身)及其子女あり弟二郎(同二一、八生、中央家禽協會理事、伴田養鷄場主)は同妻花子(同二八、三生)及其子女を伴ひ分家し弟五郎(同三二、一〇生、號恭助、劇團新東京同人)は分家亡弟三郎の死跡を相續し妻秋子(同三八、一〇生、中央新聞社社會部長田村西男長女、神田高女出身)を娶り養子幸(同二七、一二生、神奈川、大澤周吉姉)は廣島縣人植木愨長男壽に嫁せり(東京、麴町、元園町一ノ六電九段二四七、二二七四)
參照＝伯爵前田利男、大澤幸次郎※公爵山縣有道※子爵岩倉具明※子爵內藤信利※子爵前田利功※男爵三井八郎右衞門の項

### 伴野乙彌　生氣嶺粘土石炭(株)取締役、西脇銀行、太陽生命保險各(株)監査役　東京府在籍

妻　ミサ　明七、五生、兵庫、士、八代則彥妹
男　清　明二九、五生、從六位、法學士、銀行檢查官
婦　トク　明三四、一生、二男清妻、栃木、植竹熊次郎二女

君は東京府士族伴野三司の二男にして慶應三年四月を以て生れ明治二十五年分れて一家を創立す同二十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業して實業界に入り曩に日本銀行小樽出張所長十五銀行支配人水戶鐵道會社長日本興業銀行理事等に就任し現時前揭銀行會社の重役たり家族は尙孫澄子(大一四、四生、二男清長女)あり養子ゑつ(明一九、三生、靜岡、伴野幸長女)は京都府人稻葉益太郎二男圓二郎に嫁せり(東京、牛込、市ケ谷加賀町二ノ三電牛込二五八)
參照＝植竹熊次郎、八代則彥※木村德衞※田邊隆二※吉川雄輔の項

### 伴野喜四郎　正五位勳四等、臺灣總督府判官、高等法院上告部判官、長野縣在籍

母　まつの　安政五、七生、長野、岩下文右衞門長女
妻　とま　明一九、一生、山形、鈴木善兵衞四女
男　太郎　大九、三生
女　喜代子　大二、七生



君は長野縣人伴野伊作の二男にして明治十五年二月を以て生れ昭和三年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し司法官試補となり同四十四年檢事に任ぜらる爾來水戶區兼同地方土浦區水戶地方兼同區東京區兼同地方甲府地方兼同區各裁判所檢事に歷補し大正七年臺灣總督府法院判官に轉じ高等法院覆審部々長高等法院上告部判官兼高等法院覆審部々長を經て昭和四年高等法院上告部判官となり今日に至る昭和六年中華民國に出張を命ぜらる家族は尙二女松枝(大一〇、一〇生)三女俊子(同一三、三生)四女昭子(昭二、七生)あり弟常作(明一七、五生)は分家し妹たれじ(同三〇、一生)は長野縣人大草大に嫁せり(臺北、書院町法院官舍)

### 伴野廣　從七位勳六等、在鄕陸軍二等軍醫、ドクトルメヂチーネ、靜岡醫師會評議員、靜岡市衞生組合第三部長、在鄕軍人分會理事、醫師　靜岡縣在籍

養父　秀堅　安政三、一生、從四位勳五等、在鄕海軍々醫大佐、醫學士
妻　榮子　明二二、六生、東京、士、矢野義弓妹
女　幸子　大三、三生、靜岡縣立高女出身、東京家政學院在學

君は靜岡縣人伴野貫の二男にして明治十年四月を以て生れ從兄伴野秀堅の養子となり後家督を相續す同三十四年千葉醫學專門學校を卒業同年一年志願兵役に服し除隊後北里傳染病研究所に學び次で永樂病院に勤務中日露戰役に召集せられ戰地に出征三十九年凱旋同四十一年二月獨逸に遊學專ら南獨に留まる事三年此間ウルツブルヒ及ミユンヘン大學に學びルツトゲ並にモロー教授に師事して血清學的業績を發表し同四十四年五月歸朝後父祖傳來の醫業に從事し內科專門醫にして傍ら前記の名譽職に推さる長女秀子(明四〇、一生、女子英學塾出身)は愛媛縣人續木篤次郎二男正大に嫁せり(靜岡市二番町電二三四)
參照＝續木篤次郎、矢野義弓※小田久太郎の項

### 伴野文三郎　貿易商　東京府在籍

妻　田鶴　明二七、一〇生、東京、河村驍妹
男　龍彌　昭三、三生

君は東京府人伴野福雄の三男にして明治十六年四月を以て生れ同三十年兄彌三郎方より分れて一家を創立す貿易商を營み佛國商事會社巴里伴野商店取締役會長たり佛國レジオン・ドノル勳章を受領すA四九〇八(東京市外澁谷町櫻ケ丘八一電青山一三六二)
參照＝河村驍※廣瀨瀧次の項

### 朝永三十郎　從三位勳二等、文學博士、京都帝國大學名譽教授、長崎縣在籍

妻　ひで　明一三、三生、埼玉、大枝美福長女、御茶水高女出身
男　振一郎　明三九、三生、理學士
男　陽二郎　明四一、二生
女　綏子　大四、一二生

君は長崎縣士族朝永甚次郎の三男にして同正三の弟なり明治四年二月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治三十一年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し東京高等師範學校講師となり同四十年京都帝國大學文科大學助教授に任じ同四十二年西洋哲學史研究の爲英獨佛各國に留學す大正二年京都帝國大學文科大學教授に任ぜられ昭和六年同大學名譽教授となる大正二年文學博士の學位を授けられ著書數種あり長女しづ(明三六、一生、京都府立第一高女出身)は理學博士堀健夫に嫁せり(京都、上京、吉田近衞町九)
參照＝朝永正三の項

### 朝永正三　正三位勳二等、工學博士、京都帝國大學名譽教授、長崎縣士族

妻　ハヌ　明五、一〇生、東京、士、瀧村竹男妹
男　研一郎　明二五、一生
婦　綱子　明三三、七生、長男研一郎妻、文學博士佐々木信綱長女

君は長崎縣士族朝永甚次郎の長男にして慶應元年十二月を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十年帝國大學工科大學を卒業し農商務省特許審査官京都帝國大學教授同工學部長に歷任し現時同大學名譽教授たり曩に機關工學研究の爲歐米に留學し工學博士の學位を受く母トモ(元治元、三生、長崎、朝永甚右衞門四女)は分家弟益三(明二一、八生)の家籍に入り弟五郎(同八、一一生、從五位勳四等功五級海軍機關大佐)同妻よね(同一九、四生、埼玉、神崎直藏二女)は其子女を伴ひ分家し弟彝三(同元、六生)同三十郎(同四、二生)も亦各分家し養子嘉代(同三六、八生、東京、士、織田信義姪)は京都府人菅原菅雄に嫁し妹エイ(同一八、一二生)は長崎縣士族高本武治に嫁せり(京都、上京、廣小路寺町東入電上一一三三)
參照＝佐々木信綱、朝永三十郎※小島誠の項

### 豐泉益三　二幸商會(株)常務取締役、三越(株)參事、販賣部長、東京府在籍

妻　すゞ　明一九、八生、愛知、服部實太郎妹
養子　隆吉　大四、一生、福井、佐々木哲太郎甥

君は東京府人田中增次郎の長男にして明治十二年一月を以て生れ後先代モトの養子となり家督を相續す現時三越參事にして同店販賣部長たる傍ら二幸商會常務取締役たり(東京、麴町、三番町六二電九段二二三六)
參照＝服部實太郎※佐溝明治郎の項

### 豐岡圭資　從三位勳三等、子爵、貴族院議員　舊公卿家

妻　スヘ　明二一、一二生、大阪、日野尊寶妹
男　烈養　明三八、五生、從五位
女　芳子　大三、五生

君は權大納言日野弘資の三男大藏大輔有尙の立つる所なり有尙別に一家を起し豐岡と稱す夫より七代を經て先代健資に至り明治十七年子爵を授けらる君は其四男にして明治十三年二月を以て生れ同二十五年家督を相續し襲爵し同三十三年前名道雄を改む同四十三年東京帝國大學文科大學東洋史學科を卒業す同四十四年以來貴族院議員に當選すること三回現に其任に在り研究會に屬す家族は尙四男宣麿(大元、九生)二女鈴子(同八、八生)五男博(同一〇、六生)三女晴子(同一二、一一生)弟寂靜(明一八、一〇生)姪慶子(同四五、一生、亡弟孝雄長女)甥元(大七、一生、同長男)あり二男英資(明四〇、一一生)は子爵外山光庸の養子となり當主にして三男基(同四三、二生)は滋賀縣人梶駒千代の養子となり姉昭子(同八、一生)は子爵藤谷爲寬に嫁せり(東京、赤坂、青山南町五ノ八七)
參照＝子爵外山英資、子爵藤谷爲寬の項

### 豐川順彌　白楊社主、自動車販賣業　東京府在籍

母　屋壽　慶應二、一〇生、高知、士、馬場辰猪姪
妻　孝　明三二、一二生、東京、神田金樹妹

男　良一　大一〇、九生

當家は先代良平より顯る良平は土佐出身にして明治十二年經濟新聞を興し又百十九國立銀行頭取に擧げられ尋で三菱合資會社銀行部長となり日露戰爭の功に依り勳三等に敍し後貴族院議員に勅選せらる其他銀行會社の重役として實業界に重きをなせり君は其長男にして明治十九年九月を以て生れ大正九年家督を相續す先是同元年白楊社を創立し工作機械及自動車製造販賣業を營む家族は尙二女松代(大一五、二生)あり弟良之助(明二八、四生)は分家し同齊(同三一、一二生、理學士)は子爵齋藤實に同良幸(同三七、七生)は實業家各務幸一郎に各養子となり妹靜惠(同二二、四生、御茶の水高女出身)は愛媛縣人鹽村美久に同三重(同三〇、三生、雙葉高女出身)は東京府人伊東愛吉に嫁せり(東京市外巢鴨町巢鴨一〇九一電大塚二七二)

參照＝子爵齋藤實、伊東愛吉、各務幸一郎、鹽村美久※男爵高木兼寬※河津暹の項

**豐崎昌三郎**　豐崎汽船(株)專務取締役、氷室食料(株)取締役、海運業、兵庫縣在籍

妻　ヨシ　明二二、九生、長崎、佐藤光重妹
男　光衞　明四一、六生

君は岡山縣人豐崎光太郎の二男にして明治九年十月を以て生れ同二十八年兄近禮方より分れて一家を創立す海運業を營み現時前記各會社の重役たり三男昌二(大一一、九生)は岡山縣人豐崎加女の養子となれり(神戶山本通三丁目電葺合三三五一)

**豐崎彥治郎**　岡山縣多額納稅者、豐崎商事(株)取締役、大阪製藥(株)監査役、綿糸商　岡山縣在籍

母　與志　明元、二生、祖父靜吉長女
妻　禧子　明二六、二生、岡山、井上桂叔母
男　平太郎　大二、一二生

君は岡山縣人豐崎伊三郎の長男にして明治二十三年三月を以て生れ大正十三年家督を相續す綿糸商を營み傍ら前記諸會社の重役にして現に岡山縣多額納稅者に列し直接國稅千三百五圓を納む(岡山市柿屋町一)

**豐澤儀三郎**　大阪商工會議所議員、豐澤儀三郎本店、酒造業、大阪府在籍

母　ムメ　萬延元、四生、大阪、太田友次郎長女
妻　チヱ　明一九、三生、奈良、谷信藏妹
男　義一郎　明四二、一生
婦　菊江　明四三、一生、長男義一郎妻、大阪、伊藤秀雄長女

君は大阪府人豐澤儀助の長男にして明治十七年八月を以て生れ大正元年家督を相續す豐澤儀三郎本店と稱し酒造業を營み現時大阪商工會議所議員に擧げらる家族は尙三男儀雄(大元、九生)長女ヨシ子(同八、五生)あり弟伴二(明三二、六生)は分家し妹千代子(同三四、四生)は大阪府人辻謙吉に同愛子(同三八、一〇生)は同府人豐澤熊太郎に嫁せりA一五〇八B四二三(大阪、東、東雲町一ノ一一一電東九八七)

**豐島久七**　大阪商工會議所議員、大阪モータース(株)社長、豐島商店(株)代表取締役、協同土地、堺大濱土地、山一商店、吳羽紡績各(株)取締役、漲速紡織、湖東紡織各(株)監査役、大阪三品取引所取引員、綿絲綿布人造絹絲商、愛知縣在籍

妻　きやう　明二八、三生、岐阜、田中欽之輔妹
男　久太郎　明四一、七生

君は愛知縣人先代久七の長男にして同半七の從弟なり明治十五年七月を以て生れ大正二年家督相續と共に前名民三郎を改む家業を繼ぎ綿絲商を營み大阪三品取引所第二部取引員にして傍ら前記各會社の重役たり大阪商工會議所議員に推され曩に大阪市會議員に擧げられし事あり家族は尙二男民三(大九、一一生)長女ひさ子(同一一、八生)二女けい子(同一三、二生)三男市三(同一五、三生)あり(大阪、東、南本町二ノ四〇電船場二七七二)

參照＝豐島半七の項

**豐島五六**　安田銀行(株)高松支店長　東京府在籍

妻　不二　明三一、一一生、高知、田中正身長女
男　莊一　大一二、七生

君は東京府人豐島有常の五男にして明治二十三年八月を以て生れ大正五年兄直通方より分れて一家を創立す夙に明治大學を卒業し安田保善社に入り後安田銀行詰となり同行下谷支店副長倉敷支店長を經て現時同行高松支店長たり家族は尙二男喬二(大一四、二生)長女陽子(昭二、八生)あり(高松、旅籠町四五)

**豐島庄十郎**　茨城縣多額納稅者、茨城縣是製絲(株)取締役、繭絲商、茨城縣在籍

養父　庄太郎　安政二、一二生
妻　みの　明一五、一生、養父庄太郎二女
養子　靜治　明二八、一二生、亡長女さた夫、茨城、飯田德太郎五男
養子　久助　明三〇、一生、二女まち夫、茨城、內田淸吉二男
女　まち　明三五、七生、養子久助妻

君は茨城縣人飯田作兵衞の四男にして明治七年十月を以て生れ先代庄太郎の養子となり大正七年家督相續と共に前名豐吉を改め襲名す繭絲商を營み前記會社の重役にして直接國稅二千九百三十四圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫芳子(大七、一一生、養子靜治長女)同綾子(同一二、七生、同二女)同ふみ(同一二、五生、養子久助長女)あり(茨城、新治、土浦町)

**豐島半七**　山一商店(株)社長、豐島商店、協同土地各(株)取締役、愛知縣在籍

母　はる　弘化四、一二生、愛知、小川又平長女
妻　ちか　明九、九生、岐阜、篠田祐八郎妹
養子　孝三　明三三、一一生、愛知、鈴木善七二男
婦　千重　明三八、一一生、養子孝三妻、愛知、千賀千太郎長女

君は愛知縣人先代半七の長男にして明治三年三月を以て生れ同十八年家督を相續し後襲名す現時山一商店社長にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙孫昭太郎(昭二、一一生、養子孝三長男)同恒二(同四、一二生、同二男)あり叔父久七(弘化四、七生)同妻むれ(安政二、三生、愛知、速水幸八長女)は共に分家し其子民三郎(明一五、七生)襲名し當主にして叔父宗孝(弘化二、五生)も亦分家せり(一宮、一宮)

參照＝篠田祐八郎、千賀千太郎、鈴木善七、豐島久七※千賀右次郎※千賀平四郎の項

**豐島恕清**　從五位勳五等、營林署技師兼林業試驗場技師、小笠原營林署長、東京府在籍

妻　フミ　明二三、六生、神奈川、宇佐美次郎八長女
男　芳朗　大五、三生
女　妙子　明四四、三生





女　都子　大二、一一生

君は鹿兒島縣人豐島恕榮碩の七男にして明治十八年一月を以て生れ昭和五年兄榮方より分れて一家を創立す明治四十二年盛岡高等農林學校林學科を卒業し爾來小笠原島廳技手東京府技師山林技師林業試驗場技師等に歷任し大正十二年前記の官職に轉ず家族は尙三女敎子(大八、三生)二男芳則(同一〇、一〇生)あり(東京府小笠原島大村番外四)

**豐島守三郎**　資產家　東京府在籍

妻　つれ　慶應三、五生、東京、野口久敬長女、女子學院出身
養子　正治　大元、九生、東京、士、豐島住作孫

君は東京府士族豐島住作の弟にして安政四年一月を以て生れ明治三十七年分れて一家を創立す同十年東京高等商業學校を卒業し同十七年橫濱正金銀行に入り同年倫敦支店に赴任す同二十四年上海支店同二十七年孟買支店同三十三年長崎支店等各支配人に歷任し同四十一年本店總務部詰となり大正四年退社し爾來閑地にありて自適す長女瓊江(明三四、二生)は醫學士竹內八和太に嫁し二女百合子(同四二、二生)は山口縣人千葉熊吉の養子となれり(東京市外落合町下落合五一〇電大塚三九七六)

**豐島與志雄**　法政大學敎授、東京帝國大學講師著述業、福岡縣士族

母　ヨネ　明元、一生、福岡、士、島田德作三女
男　澂　大九、八生

君は福岡縣士族豐島秀太郎の長男にして明治二十三年十二月を以て生れ大正五年家督を相續す夙に東京帝國大學文科大學佛文科を卒業し著述業を營む傍ら法政大學敎授にして東京帝國大學講師たり短篇小說集「理想の女」「未來の天才」「或る男の手記」長篇「反抗」等の外「レ・ミゼラブル」「ジャン・クリストフ」等の尨大なる全譯あり家族は尙長女邦(大六、一〇生)二女文(同七、一一生)あり叔父岩次郎(明一〇、三生)は同妻モヨ(同四、三生)と共に其子女を伴ひ分家し祖母シナ(弘化元、一〇生)は其家籍に入り從妹トヨ(大三、二生、叔父岩次郎三女)も亦福岡縣人友枝實郎の家籍に入り同キク(明四一、一二生、同二女)は同縣人飯田忠四郎に嫁せりA五一一(東京、本鄕、駒込千駄木町五七電小石川二六〇五)

**豐田著壽**　從五位勳五等、判事、西條區裁判所監督判事兼松山地方裁判所西條支部部長、香川縣在籍

妻　アイ　明二〇、一〇生、香川、龜井正太郎妹、丸龜高女出身
男　次郎　大三、一〇生

君は香川縣人豐田早苗の三男にして明治十五年九月を以て生る同四十二年京都帝國大學法科大學を卒業し大正二年判事に任じ爾來松山區兼同地方松山地方宇和島區岩國區下關區兼山口地方下關支部各裁判所判事三次區裁判所監督判事兼廣島地方裁判所三次支部々長等に歷補し昭和三年現職に轉じ今日に至る家族は尙三男敏夫(大五、五生)四男壽夫(同九、八生)長女壽美子(同一一、二生)亡兄則鎭妻ミト(明六、四生、香川、龜山桂吾妹)甥正則(同二九、一生、亡兄則鎭長男、現戶主)及其妻子あり同定雄(同三五、八生、同四男)は香川縣人宮本芳太郎の養子となれり(愛媛、新居、西條町區裁判所內)

**豐田伊太郎**　豐田石炭(株)社長、名古屋博愛、中央鐵工所各(株)取締役、石炭商　愛知縣在籍

妻　ちを　明五、七生、岐阜、加藤照時妹
孫　泰男　大一一、八生、離緣養子香作長男

君は愛知縣人豐田彌七の二男にして明治七年一月を以て生れ先代りようの養子となり同十八年家督を相續す石炭商を營み傍ら豐田石炭會社長の外前記會社の重役たり(名古屋、中、水主町二ノ九五電西六八八)

**豐田今吉**　從五位勳五等、桐生高等工業學校敎授、香川縣在籍

妻　カク　明二三、二生、香川、藤森和市二女
男　進一　明四一、七生

君は香川縣人豐田俊治の三男にして明治八年五月を以て生る同三十五年東京高等工業學校附設工業敎員養成所本科染織科を卒業し栃木縣立工業學校敎諭都留染織學校敎諭山梨縣工業試驗所技師等に歷任し大正六年東北帝國大學理化學科を卒業し大正七年桐生高等染織學校敎授色染科長に任じ同九年同高等工業學校敎授に任ぜられ同十年歐米各國に留學を命ぜられ染料製造及染織化學を專攻す同十二年歸朝し現時に至る家族は尙三男哲夫(大三、七生)四男正巳(同六、一生)五男信明(同九、六生)兄岩造(慶應三、七生、現戶主)同妻シマ(明一九、一二生、香川、須山市三郎妹)及其子女あり兄近太(同二、一〇生)同妻シナ(同一一、七生、香川、高岡鶴彥姉)は其三子を伴ひ分家せり(桐生、西久方町二ノ七七七)

**豐田宇左衞門**　大阪府多額納稅者、金融業　大阪府在籍

妻　似　明三四、三生、和歌山、八塚幸太郎長女

君は奈良縣人谷甚四郎の弟にして明治二十四年九月を以て生れ先代宇左衞門の養子となり大正十五年家督を相續し前名規矩治を改め襲名す金融業を營み現に大阪府多額納稅者たり養兄吉治郎(明七、九生、大阪、好田吉右衞門二男)は同妻たね(同一一、三生、大阪、豐田作治郎長女)と共に養兄省三(同一三、九生、大阪、鹿島彌兵衞六男)は同妻レイ(同二四、六生、大阪、平地敬夫妹)と共に各分家し養妹タツ(同二四、九生、大阪好田吉右衞門三女)養姉清(同一一、六生、東京、雀部市郎右衞門長女)同ヒテ(同二一、四生、大阪、鹿島清右衞門二女)も亦各分家せり(大阪、南、長堀橋筋一ノ四三ノ一電南五三三九)

參照＝雀部市郎右衞門、谷甚四郎の項

**豐田榮司**　正五位勳三等功五級、陸軍砲兵大佐、名古屋陸軍兵器支廠長　福岡縣在籍

母　タセ　文久二、一生、福岡、宮阪倚秀五女
妻　リウ　明二一、四生、佐賀、川浪忠三郎二女
男　吉忠　明四四、三生
女　篤子　大二、一二生

君は福岡縣人豐田吉太郎の三男にして明治十三年九月を以て生る同三十七年陸軍砲兵少尉に任じ昭和五年同大佐に累進す其間砲工學校及野戰砲兵射擊學校を卒業し野砲兵第六聯隊附陸軍工科學校敎官砲兵工廠々員野砲兵第二十四聯隊附佐賀高等學校配屬將校等に歷補し昭和五年現職に轉ず家族は尙三女和代(大九、九生)亡兄昇三妻イシ(明二〇、二生、椎野多吉五女)同長男昇(同三七、一生、現戶主)及其妻子あり長女豐子(同四一、二生)は佐賀縣人石橋德太郎二男勝次郎に嫁せり(名古

屋、東、大幸町一二〇二)

## 豐田收

從四位勳四等、衆議院議員(鳥取縣選出)、育英中學校長、辯護士　鳥取縣在籍

父　太藏　安政三、五科、現戶主
母　たか　安政五、六生、鳥取、福井重藏二女
妻　登美子　明三五、一二生、鳥取、市橋昌晴妹
男　成　昭五、七生

君は鳥取縣人豐田太藏の二男にして明治十五年十一月を以て生る同四十三年東京帝國大學獨法科を卒業し北海道鐵道管理局副參事鐵道省保健課長同監察官に歷任し後官を辭し辯護士を開業し今日に至り育英中學校長を兼ぬ昭和三年以來衆議院議員に當選する事二回現に立憲政友會に屬す曩に在官中歐米各國に派遣せらる家族は尙長女秀子(昭三、三生)弟保(明三五、五生)あり姉嘉女(同一〇、二生)は鳥取縣人石井文次郎に妹都留(同一八、七生)は同縣人池上百藏長男巍に同むめ(同二五、三生)は同縣人竹歲敏夫に同加津(同二八、一生)は同縣人藤田溫良に同まつ子(同三二、一〇生)は同縣人石井良三に叔母しな(慶應二、一一生)は同縣人竹歲元太に嫁し弟稔(明二〇、一二生)は同縣人福井まち二女種子の婿養子となれり(東京市外千駄ヶ谷町原宿二七一電青山二三五八)
參照=市橋昌晴、福井稔の項

## 豐田喜一郎

豐田自動織機製作所(株)常務取締役、豐田紡織、豐田押切紡織、中央紡織各(株)取締役、豐田紡織廠、庄內川染工所各(株)監査役、靜岡縣在籍

母　あさ　明一〇、一一生、靜岡、林長吉長女
妻　二十子　明三四、一一生、高島屋社長飯田新七三女、京都府立第一高女出身
男　章一郎　大一四、二生

君は靜岡縣人豐田佐吉の長男にして明治二十七年六月を以て生れ昭和六年家督を相續す先代佐吉夙に豐田式織機を完成し豐田紡織會社を興し更に支那上海に豐田紡績廠を經營し其社長となる先是藍綬褒章を授けらる君は其後を承け現時前記諸會社の重役たり家族は尙長女百合子(大一二、一〇生)二女和可子(昭二、三生)義兄利三郎(明一七、三生)あり叔父平吉(同九、五生)同佐助(同一五、四生)は各分家せりA五〇四三(名古屋、東、白壁町二ノ二電東一八四〇)

參照=飯田新七、豐田佐助、豐田平吉※飯田慶三※飯田新太郎※飯田直次郎※飯田政之助※田村駒太郎の項

## 豐田五郎

正五位勳五等、愛媛縣女子師範學校長、岩手縣在籍

男　藤一郎　明二八、一一生
婦　秋　明三六、五生、長男藤一郎妻、滋賀、九鬼秀治長女
女　安藝　明四四、三生
女　みよし　大元、一二生

君は山形縣士族豐田惣內の五男にして明治元年十二月を以て生れ大正三年甥春昌方より分れて一家を創立す明治二十五年東京高等師範學校を卒業し秋田縣師範學校教諭に任じ同三十九年より同四十二年まで淸國政府の招聘に應じ四川省夔州府中學堂敎習となる大分岩手各縣師範學校敎諭を經て現時愛媛縣女子師範學校長たり家族は尙四男藤四郎(大三、九生)四女伊勢(同六、四生)孫道(昭三、一二生、長男藤一郎長女)同澄(同五、四生、同二女)あり長女ヤシマ(明三一、七生)は岩手縣人久慈雅男に嫁し二男藤彥(同三三、一〇生)は分家せり(愛媛、溫泉、道後湯ノ町)

## 豐田佐助

愛知縣多額納稅者、菊井紡織(株)專務取締役、庄內川染工所、中央紡織各(株)取締役、豐田自動織機製作所、豐田押切紡織各(株)監査役、織物業、愛知縣在籍

妻　すが　明二六、一一生、靜岡、鈴木才次郎長女
男　稔　大五、八生
女　知江子　大二、一〇生
女　美枝子　大四、一生

君は靜岡縣人豐田伊吉の三男同平吉の弟喜一郎の叔父にして明治十五年四月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す織物業を營み現時菊井紡織會社專務取締役たる外前揭諸會社の重役を兼ね愛知縣多額納稅者たり家族は尙三女米子(大七、六生)四女敏子(同九、五生)五女久子(同一一、一〇生)二男富三(同一三、八生)ありA三〇〇五〇B一五〇〇(名古屋、西、西藪下町一ノ九電西二三九)
參照=豐田喜一郎、豐田平吉の項

## 豐田治助

邦樂器商　大阪府在籍

母　ヌイ　明五、一〇生、大阪、村上吉兵衞妹

君は大阪府人先代治助の長男にして明治三十八年十月を以て生れ大正五年家督を相續し前名治郎を改め襲名す昭和五年京都帝國大學經濟學部を卒業し邦樂器商を營む在學中和蘭アムステルダムに第九回萬國オリンピックの開催を期とし經濟學並にスポーツの研究に半ケ年間歐洲十數ヶ國を旅行せり家族は尙妹博江(大五、七生、大手前高女在學)あり姉千代子(明二八、九生)は大阪府人加賀正太郎に嫁せり(大阪、南、高津町二ノ三二電南二六)
參照=加賀正太郎の項

## 豐田善右衛門

豐田商店(株)取締役　大阪府在籍

母　エイ　明一〇、二生、祖父善右衛門長女
妻　八重子　明四四、一二生、菅原關次郎二女

君は大阪府人豐田隆吉の長男にして明治三十七年三月を以て生れ大正十一年先代祖父善右衛門の跡を承け家督を相續し前名棟吉を改め襲名す同十五年神戶高等商業學校を卒業し豐田商店に入り內外羅紗並に絲物類卸を營む家族は尙弟來吉(明四一、一〇生、慶大在學)あり叔母マス(同一三、一二生)は大阪府人豐田文三郎に同梅子(同二一、二生)は石川縣人廣海幾太郎に大叔母カウ(慶應元、四生)は大阪府人膳末次郎に嫁せりA三三三八(大阪、東、高麗橋一ノ一三電本局四六一四)
參照=膳末次郎、廣海幾太郎の項

## 豐田副武

正五位勳三等、海軍大佐、日向艦長、大分縣士族

妻　リト　明二九、一二生、佐賀、江口麟六長女
男　令一　大五、一〇生

君は大分縣士族豐田晉の四男佐藤須惠治の弟にして明治十八年五月を以て生る同三十八年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ大正十四年海軍大佐に陞進す其間海軍大學校を卒業し軍事參議官兼海軍省出仕橫須賀鎭守府附球磨副長軍務局々員兼艦政本部技術會議々員軍令部出仕兼海軍大學校敎官由良艦長第七潛水隊司令敎育局第一課長等に歷補し現時日向艦長たり曩に英國に駐在せし事あり家族は尙長女晴(大八、五生)二女夏子(同一二、八生)三女俊子(同一四、四生)亡兄鍇太郎妻貞(明一六、六生、大分、西貞治郎長女)同長男介二





(同三九、一〇生、現戶主)及其姉弟妹あり(東京市外駒澤町下馬五一八)
參照=江口麟六、佐藤須惠治の項

## 豐田太郎

從五位、關東廳醫院醫官、大連療病院長、愛媛縣士族

父　富三郎　萬延元、四生、愛媛、士、岡田正枝弟、現戶主
母　タケ　元治元、九生、愛媛、二宮仲衞長女
妻　シヅ　明二三、一一生、陸軍々醫監弘岡道明妹
男　正倫　大八、一生

君は愛媛縣士族豐田富三郎の長男にして明治二十年二月を以て生る大正三年東京帝國大學醫科大學を卒業し爾來傳染病研究所員鹿兒島境濱海兵院々長關東都督府醫務囑託關東廳療病院副院長關東廳醫院醫官大連療病院長に歷任し大正十一年歐米に留學を命ぜられ同十三年歸朝前記現職にあり同十二年醫學博士の學位を受く家族は尙三男正吾(大一一、三生)長女喜久子(同一四、一〇生)四男正治(昭四、一生)あり姉ミカチ(明一七、一〇生)は愛媛縣人澤井吉三郎に妹トキワ(同二二、七生)は同縣人玉木廣吉長男美壽衞に同チサト(同三三、八生)は同縣士族別宮正之に嫁し弟三郎(同二九、六生)は同縣人宇都宮萬の入夫となり同二郎(同二六、一一生)は分家せり(大連、松山町二官舍電七三六一)
參照=弘岡道明※二宮貞の項

## 豐田多三郎

正四位勳三等、檢事、大阪地方裁判所檢事正、新潟縣在籍

妻　トシ　明五、一一生、新潟、橫山長之助長女
男　穎二　明三八、一一生
女　文子　明四三、二生
養子　太郎　明二六、九生、新潟、橫山長之助二男、法學士、東京控訴院判事
婦　ちやう　明三四、三生、養子太郎妻、東京西澤喜太郎五女、日本女子大出身

君は新潟縣人豐田治三郎の三男にして明治五年十一月を以て生れ大正七年兄多一郎の後を承け家督を相續す明治二十九年明治法律學校を卒業し判檢事登用試驗並に辯護士試驗に合格同三十二年判事に任じ京都區裁判所判事を經て檢事に轉じ爾來神戶地方高松區同地方仙臺地方同區古川區山形地方福島地方小倉區各裁判所檢事大分高松和歌山高知千葉金澤各地方裁判所檢事正大阪控訴院檢事長野地方裁判所檢事正等に歷補し大正十四年仙臺地方裁判所檢事正となり昭和四年福岡地方裁判所檢事正に同五年大阪地方裁判所檢事正に轉じ現在に至る讀書及圍碁に趣味を有す家族は尙三男三郎(明四五、三生)孫守郎(大一四、三生、養子太郎長男)同利保(昭二、五生、同二男)同榮子(同四、一生、同長女)あり長女ノリ(明三二、六生)は長野縣人高野正保に嫁し弟治七郎は長野縣人島田一女の婿養子となれり(大阪地方裁判所檢事局內)
參照=西澤喜太郎※浦田和民の項

## 豐田富三郎

生石村長、今出銀行、松山無盡各(株)取締役、愛媛縣在籍

妻　幸江　明二七、八生、愛媛、德本林次郎長女
男　豐　明三九、三生
婦　三千代　明四五、一生、長男豐妻、愛媛、新野米太郎三女

君は愛媛縣人豐田淸作の長男にして明治十年八月を以て生れ同三十八年家督を相續す夙に農業に從ひ開墾用水築池等に力め功績尠からず賞勳局より大銀盃を賜はる又公共事業に盡し現時生石村長にして前記銀行會社の重役を兼ね曩に弓削石化工業會社取締役社長たりし事あり家族は尙長女富美惠(大七、四生)妹ヨネ(明一七、一生)あり弟雅孝(同三一、九生、法學士)は分家せり(愛媛、溫泉、生石村)
參照=新野米太郎の項

## 豐田虎次

從四位勳四等、農林技師、農務局勤務、熊本縣士族

妻　サダメ　明一七、一〇生、熊本、光永貞三三女
男　東太郎　明四一、三生

君は熊本縣士族豐田眞三の二男にして明治十一年六月を以て生る同三十五年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し岐阜岡山各縣立農學校敎諭岡山福岡各縣技師農商務技師等を經て大正十四年農林技師に任じ現に農務局勤務たり家族は尙兄重壽(明二、一〇生、現戶主)同妻キク(同一〇、七生、熊本、松村尙綱三女)及其子女並孫あり妹ミツ(同二五、七生)は熊本縣人秋岡三穗に姪キヨミ(同三一、八生、兄重壽二女)は同縣人岡崎忠八に嫁せり(東京市外澁谷町神山)

## 豐田秀次郎

吉野銀行(株)取締役　奈良縣在籍

妻　キク　明六、四生、奈良、中善次郎長女
養子　保雄　明二三、二生、二女愛夫、奈良、新野陳太郎三男
女　愛　明二八、一〇生、養子保雄妻

君は奈良縣人豐田牛三郎の長男にして明治四年四月を以て生れ同十六年家督を相續す現時吉野銀行取締役たり家族は尙孫堯(大三、五生、養子保雄長男)同弘雄(同五、二生、同二男)同忠作(同八、三生、同三男)同茂雄(同一三、一生、同四男)同順三(同一五、二生、同五男)あり四女クニ(明三五、一一生)は京都府人村岡淺右衞門長男直次に五女敏子(同四三、一一生)は大阪府人中林廉敏に嫁せり(奈良、高市、今井町)
參照=※片山太郎の項

## 豐田平吉

愛知縣多額納稅者、庄內川染工所、豐田押切紡織各(株)代表取締役、菊井紡織(株)取締役、織物業　愛知縣在籍

妻　てる　明一九、七生、愛知、三井傳太郎長女
男　英二　大二、九生

君は靜岡縣人豐田伊吉の二男にして同佐助の兄同喜一郎の叔父なり明治九年五月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す織物業を營み傍ら前記各會社の重役を兼ね愛知縣多額納稅者たり曩に歐米各國を視察す家族は尙三男俊彥(大六、六生)長女百子(同九、三生)二女靜子(同一一、八生)三女幸子(同一三、九生)四男芳年(同一四、八生)あり(名古屋、西、押切町下葭原一電西一一七七)
參照=豐田喜一郎、豐田佐助の項

## 豐田芳郎

備後銀行(株)取締役　廣島縣在籍

妻　マスノ　明二〇、一生、高橋義典妹
男　忠夫　明三一、一生
婦　茂子　明三九、六生、二男忠夫妻、東京、草場九十九長女
男　陸司　明三八、一生

君は廣島縣人豐田保太郎の長男にして明治二年十一月を以て生れ同三十七年家督を相續す現時備後銀行取締

役たり家族は倚孫瑞穗(昭二、一〇生、二男忠夫長男)同壽夫(同四、五生、同二男)叔母ヨキ(明六、九生)あり三女ハルエ(同二八、三生)は廣島縣人倉田岩太郎長男龍雄に四女ノリコ(同三五、一生)は岡山縣人岡虎太郎弟精二に叔母ミヤ(同九、二生)は廣島縣人平田壽一郎に同タツヨ(同一三、七生)は岡山縣人田中連に嫁せり(廣島、蘆品、國府村)
參照＝岡虎太郎の項

**豐永七藏**　下關商工會議所副會頭、大里製鹽所、下關商事、下關倉庫各㈱取締役、穀物肥料商、山口縣在籍
妻　トク　明一四、七生、山口、柳井彌生八四女
男　貞雄　明三八、一生
男　幸三　明四四、一生
君は山口縣人豐永嘉兵衛の長男にして明治七年八月を以て生れ先代七郎次の養子となり後家督を相續す同二十七年慶應義塾正科を卒業し穀物肥料商を營み傍ら前記各會社の重役にして推されて下關商工會議所副會頭たり家族は倚五男文三(大二、七生)六男圭三(同四、八生)三女富子(同六、六生)あり長女藤惠(明三〇、九生)同夫正介(同二六、四生、山口、小野清叔父)は共に山口縣人松尾由介の養子となり二女房代(同四一、二生)は同縣人豐永安二郎長男鐵雄に嫁せりA五七一B一六八(下關、觀音崎町一三**電三五九**)
參照＝豐永安二郎、松尾由介の項

**豐永達意**　湘南軌道㈱監査役　東京府在籍
妻　こと　明三二、四生、茨城、猪俣元次郎長女
男　茂實　大一〇、一一生
君は東京府人吉本天祥の三男同國太郎の弟にして明治二十六年一月を以て生れ先代由起の養子となり同四十三年家督を相續す現時湘南軌道會社監査役たり家族は倚二男茂中(大一三、一二生)長女秀(昭二、三生)あり(東京、京橋、銀座西八ノ三ノ二)
參照＝吉本國太郎※守屋千里の項

**豐永安二郎**　山口縣多額納税者、貸家業　山口縣在籍
妻　トヨ　慶應二、四生、山口、菊谷新七四女
男　鐵雄　明三七、五生、下關商業出身
婦　房代　明四一、二生、長男鐵雄妻、山口　豐永七藏二女、下關高女出身
男　誠藏　明四〇、七生、同志社大學出身
君は山口縣人豐永又二郎の四男にして慶應元年十一月を以て生れ明治十七年家督を相續す貸家業を營み直接國稅一千六百九十九圓を納め縣下の多額納税者たり家族は倚孫照代(昭四、九生、長男鐵雄長女)の外姉ヒサ(安政三、一二生)あり兄熊太郎(文久三、一二生)は山口縣人西岡キチの養子となり妹エイ(明三、一生)は同縣人菊谷茂吉に嫁し弟和三郎(同六、二生)は分家し妹トク(同一三、一生)同夫金次郎(同一〇、二生、山口、北島茂吉長男、船具商)も亦分家せり(下關、竹崎町九二**電國八七**)
參照＝菊谷茂吉、豐永七藏※菊谷晋藏※松尾由介の項

**豐原馬吉**　豐原本店㈴代表社員、酒造業　福岡縣在籍
妻　ツノ　明三七、三生、福岡、有田伊太郎四女
男　重馬　大九、一一生
君は福岡縣多額納税者先代馬吉の長男にして明治二十四年八月を以て生れ昭和四年家督を相續し前名八右衛門を改め襲名す酒造業を營み豐原本店代表社員たり家族は倚長女ミチヨ(大七、九生)二女キヨ代(昭三、一生)三女友江(同五、三生)弟宗義(明三三、三生)同秀義(同三五、一一生)同妻千代江(同四五、一生、福岡、水崎惣太郎二女)あり妹キサ(同三八、三生)は福岡縣人瀨戸慶助に嫁せり(福岡、糟屋、仲原村原町)

**豐原清作**　極東運輸㈱取締役、辯護士、辨理士、東京府在籍
妻　ノリ子　明一九、一〇生、東京、上野陽一妹
女　園子　大四、六生、お茶の水高女在學
君は島根縣人豐原爲藏の長男にして明治八年一月を以て生れ昭和三年家督を相續す明治二十九年島根師範學校を卒業し更に同三十六年日本大學法科卒業翌三十八年判檢事登用試驗に合格後裁判所を辭して現に辯護士辨理士たりA一一八〇(東京市外杉並町高圓寺八八七**電中野三五七五**事務所丸ビル六階**電九ノ内二六三九**)

**豐原雄太郎**　土肥金山㈱專務取締役、長慶商會㈱監査役、北九州鐵道㈱技術顧問　東京府在籍
妻　わかな　明二〇、二生、東京商大教授杉山令吉三女
男　清太郎　明四二、六生、東大法學部在學
女　百子　明四四、六生、小林聖心女學院出身
女　道子　大二、一〇生、小林聖心女學院在學
君は肥前唐津藩士豐原百太郎の長男にして明治十三年十一月を以て生れ同十七年家督を相續す同三十八年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し直ちに九州鐵道會社に入り後鐵道國有に當り鐵道院技師となりしも大正六年之を辭し土肥金山會社の創立より拮据經營今日に至る傍ら北九州鐵道會社技術顧問たり家族は倚二男廉次郎(大四、六生)三男久三郎(同六、三生)三女綠(同八、五生)四男令雄(同一〇、一生)あり(兵庫、武庫、精道村打出字濱與川一二**電蘆屋二七一七**)

**豐原芳藏**　洛東再整㈱取締役、綿商　大阪府在籍
妻　よし　明一七、一〇生、大阪、白水正次郎姉
男　義一　明二八、八生
婦　菊枝　明三〇、五生、長男義一妻、三重　長谷川吉雄姉
君は大阪府人飯島清次郎の四男にして慶應元年六月を以て生れ明治十四年先代キミヱの養子となり同二十五年家督を相續す夙に兄飯島清助と船場に於て綿屑商を營みしも後獨立して綿商を始め今日に至る傍ら前記會社の重役たり家族は倚孫義澄(大五、七生、長男義一長男)同義昭(同七、一生、同二男)同芳枝(同一二、三生、同長女)同義正(同一四、八生、同三男)あり長女富美子(明三四、九生、相愛高女出身)は大阪府人杉山喜三郎長男嘉一に嫁せり(大阪、西、南堀江町六ノ三**電櫻川四三三六**)

**豐福兼助**　豐福㈴代表社員　大阪府在籍
妻　エイ　明一五、五生、大阪、喜田ハル妹
養子　房代　明三二、一生、岡山、久山知之從妹
君は岡山縣人豐福俊雄の弟にして安政五年十二月を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す夙に實業界に入り嘗て大阪鐵業會社取締役神藤ポンプ製造會社關西鑄鐵所監査役に擧げらる現時豐福合名會社代表社員たり家族は倚孫光子(大九、四生、養子房代長女)あり(大阪、西、立賣堀北通六ノ一六)
參照＝久山知之※高田信一郎の項



**豐福寬**　豐福商店㈱專務取締役、津山砂糖㈱取締役、岡山縣士族
父　恒寬　嘉永元、三生、津山市會議員
妻　あさの　明二三、三生、岡山、佐々木與一郎長女
君は岡山縣人豐福恒寬の二男にして明治十三年二月を以て生れ同四十五年家督を相續す現時前記各會社の重役たり父恒寬は曩に町會議員郡會議員等に選出せられ現に津山市會議員たり(津山、鐵砲町**電三九**)

**豐間根繁直**　横濱正金銀行員　東京府士族
母　エミ　明元、六生、岩手、川井明妹
妻　清子　明三二、四生、東京、八田裕二郎五女
男　繁哉　大一三、一生
當家は舊盛岡藩主南部家の世臣なり君は先代繁吉の長男にして明治二十一年十月を以て生れ大正十五年家督を相續す同三年慶應義塾理財科を卒業し横濱正金銀行に入り牛莊大連各支店詰を經て現時同行本店に勤務す家族は倚長女邦子(大一五、一生)二女周子(昭三、一〇生)弟直成(明二六、一〇生、築地工手學校出身)同博之(同三三、一二生、中大出身)妹カツ(同三七、一一生、香蘭女學校出身)弟篤行(同四三、四生)あり妹千代子(同三一、三生、横濱高女出身)は茨城縣人益子逞輔に同アイ(同四〇、三生、九段精華高女出身)は東京府人豐間根弘に嫁し叔父貞吉(同元、三生、醫師)は分家せりA四三〇(東京市外大井町四三七三**電大森一七七五**)
參照＝益子逞輔※田中銀之助※田中實※野村傘吉※深田謙介の項

**豐水道雲**　正五位勳四等、判事、大審院判事　廣島縣在籍
妻　ウメヨ　明二一、五生、廣島、藤田清吉妹
男　道紹　大四、二生
女　たへ　明四四、一二生
君は廣島縣人豐水製綱の二男にして明治十四年二月を以て生れ大正十五年兄樂勝方より分れて一家を創立す明治四十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同四十二年判事に任じ爾來新潟地方裁判所東京區横濱區同地方裁判所判事横濱東京各地方裁判所部長東京控訴院判事同部長等に歷補し昭和四年大審院判事に轉じ現在に至る曩に大正十三年歐米に出張を命ぜらる家族は倚二男孝二(大五、一一生)四男正道(同九、八生)二女好子(同一五、九生)あり(東京、小石川、大塚坂下町八三**電大塚六一三三**)

**豐村喜三郎**　福岡縣多額納税者、福岡縣釀造試驗所㈱取締役、酒釀造業　福岡縣在籍
母　ジウ　明四、九生、祖父喜三郎長女
妻　ヒサ　明二一、一一生、福岡、林德兵衛妹
女　サク子　明四三、九生
男　喜七郎　明四五、二生
君は福岡縣人豐村伊之吉の長男にして明治二十二年五月を以て生れ大正十二年祖父喜三郎の後を承け家督を相續し前名喜一郎を改め襲名す豐賀屋と稱し酒造業を營み直接國稅二千三百九十圓を納め縣下の多額納税者に列し傍ら前記會社の重役たり家族は倚ほ二男喜久郎(大三、一二生)二女登志(同六、二生)三男宏平(同七、一二生)三女壽賀子(同一〇、一生)五女喜久枝(同一三、二生)弟喜八郎(明三三、四生)同妻ヤスノ(同三八、二生、福岡、近藤武平姉)及其子女弟喜十郎(同三八、一生)あり同伊三郎(同三五、一生)は福岡縣人萩尾善太郎の養子となれり(福岡、宗像、津屋崎町**電一**)
參照＝※井上清次郎の項

**豐村八太郎**　佐世保銀行、佐世保貯蓄銀行各㈱取締役、長崎縣在籍
男　政四郎　明一七、八生
婦　フジ　明二〇、一〇生、長男政四郎妻、長崎、野田周吉二女
孫　成一　明三六、一一生、長男政四郎長男
孫妻　繁野　明三九、九生、孫成一妻、長崎、永谷半治四女
孫　謙治　明四〇、四生、長男政四郎四男
孫　フサ子　大五、九生、長男政四郎二女
君は長崎縣人豐村竹治の長男にして嘉永二年八月を以て生れ後家督を相續す現時前記各銀行の重役たり家族は倚孫八八人(大一三、一〇生、長男政四郎五男)同一子(昭二、二生、同五女)同悟郎(大九、一生、長男政四郎庶子、生母、長崎、高田エン)及曾孫學(昭二、九生、孫成一長男)あり二男繁二(明二一、一一生)は分家し三男治左衛門(同二六、一一生)は長崎縣人永谷半治の養子となれり(長崎、東彼杵、早岐町)

**鳥合幸德**　正八位勳七等、諫早無盡㈱取締役社長、諫早銀行㈱取締役、長崎製絲㈱監査役、長崎縣士族
妻　ナチ　明二、四生、長崎、士、森滋長女
養子　末次　明一〇、七生、父矢柄五男
婦　マツ　明二〇、四生、養子末次妻、長崎士、森滋四女
孫　正元　明四〇、一生、養子末次長男
君は長崎縣士族鳥合矢柄の長男にして元治元年六月を以て生れ明治十五年家督を相續し後前名勝次郎を改む曾て二十一年間郡書記を務め現時前記銀行會社の重役たり家族は倚孫正(大三、五生、養子末次四男)あり同武(明四一、八生、同二男)同正人(同四五、一生、同三男)は共に長崎縣人森卉六に養子となり弟乙造(同五、二生)も亦同縣人山口多喜太の養子となり同辰之進(同元、六生)同八十二(同八、一〇生)は同妻チヨ(同二六、八生、長崎、土橋繁太三女)及其一男を伴ひ各分家せり(長崎、北高來、諫早町)

**鳥井俊三郎**　正七位勳七等、掛川郵便局長、掛川銀行、笠井屋吳服店各㈱取締役、小野江社團㈴代表社員、靜岡縣在籍
妻　いく　明一一、一〇生、靜岡、古澤五郎長女
男　三一　明三三、五生、早大商科出身、山口銀行員
男　秀次　明三六、二生
男　陸八　明四四、四生
女　せな　大三、五生
君は靜岡縣人島井半次郎の長男にして明治九年五月を以て生れ同三十年家督を相續す現時小野江團合名會社代表社員にして前記銀行會社の重役にして掛川郵便局長たり曩に天龍委託會社監査役たりし事あり家族は倚六男全(大五、九生)孫平八郎(同一五、四生、長男三一長男)あり長女光(明四〇、一〇生)は靜岡縣人竹島藤一養子秋三郎に妹れい(同二二、五生)は同縣人山崎鉄郎二男好知に嫁し孫純(昭四、一〇生、長男三一長女)

は同縣人大野晴雄に弟福三(明一三、四生)は同縣人塚本良一郎に同喜三(同一五、一一生)は東京府人寺島市右衞に各養子となれり(靜岡、小笠、掛川町)
參照＝塚本良一郎の項

**鳥居榮太郎**　西陣學區學務委員、西陣織物(株)監査役、西陣織物業、京都府在籍
妻　イト　明八、九生、京都、伊達彌助三女
男　喜一郎　明二八、三生、京都高等工藝學校出身
婦　カツ　明三一、一一生、長男喜一郎妻、京都、高橋吉兵衞長女
君は京都府人鳥居喜兵衞の長男同繁治郎の兄にして明治三年九月を以て生れ同四十三年家督を相續す西陣織物業を營み傍ら西陣織物會社監査役たり家族は尙孫富子(大一一、八生、長男喜一郎長女)同てる子(同一四、一一生、同二女)同義男(同一五、一一生、同長男)あり長女綾子(明四〇、五生、京都、家政女學校出身)同夫良治(同三五、一一生、愛知、細井文次郎弟)は共に分家せりA二〇〇〇B一〇〇〇(京都、上京、大宮五辻上ル西入ル紋屋町三二八電西陣七一〇)
參照＝鳥居繁治郎の項

**鳥居清志**　鳥居商店(株)取締役、藥種商　東京府在籍
妻　榮女　明二〇、一二生、養父德兵衞長女
君は長野縣人川久保清一の二男にして鳥居孝一郎の養兄なり明治十五年三月を以て生れ鳥居德兵衞の養子となり大正二年分れて一家を創立す藥種商を營み鳥居商店取締役たり(東京、日本橋、岩附町三電日本橋一二一六)
參照＝鳥居孝一郎の項

**鳥居孝一郎**　鳥居商店(株)社長　東京府在籍
男　孝　大一二、四生
君は神奈川縣人鳥居德兵衞の長男にして明治二十三年三月を以て生れ大正十一年家督を相續す夙に慶應義塾に學び後米國に渡航し藥品其他の營業狀態を研究する事六年大正九年歸朝し祖業の藥種問屋鳥居商店を經營し現時其社長たり家族は尙二男宏(大一五、一〇生)あり姉榮(明二〇、一二生)同夫清志(同一五、一〇生)は共に分家し妹隆(同三四、六生)は東京府人小林敏行に嫁せりA三一〇五(東京市外中野町氷川一三電中野一五)
參照＝鳥居清志の項

**鳥居繁治郎**　丸居商店(株)專務取締役、實商事(株)取締役、京都府在籍
妻　トメ　明二三、七生、京都、山田カツ私生子
男　慶太郎　大三、一〇生
女　美智子　明四五、五生
君は京都府人鳥居喜兵衞の六男同榮太郎の弟にして明治十八年三月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙二男貞一(大五、一一生)三男勇三郎(同七、一〇生)ありA一〇六七B三二二(京都、上京、北猪熊今出川上ル電西陣一四二九)
參照＝鳥居榮太郎の項

**鳥居武雄**　醫學博士、明治病院副院長、醫師　山形縣士族
繼母　シゲ　明九、五生、東京、士、內村良藏長女、お茶の水高女出身
妻　邦子　明三九、一二生、大分、西野三二郎妹、大分縣立中津高女出身
君は舊山形藩士鳥居春洋の長男にして明治二十二年五月を以て生れ大正十一年家督を相續す同五年九州帝國大學醫科大學を卒業し三宅外科助手を拜命大正十一年歐米漫遊後亡父の遺業を繼承して現時明治病院副院長たり大正十一年醫學博士の學位を授けらる家族は尙長女洋子(昭三、六生)二女聖子(同五、二生)弟文雄(明三一、二生、醫學士)あり妹スガ(同三〇、二生)は東京府人高松豐吉長男誠に同治(同四二、三生、お茶の水高女出身)は同府人堀內勝雄に嫁せり(東京、淺草、須賀町二電淺草一五七〇)
參照＝高松豐吉※內村達次郎の項

**鳥居忠一**　正四位、子爵、三井(名)戶越農園主任、舊野州壬生藩
母　嶺子　文久三、七生、子爵藪篤麿叔母
妻　寛子　明二七、一一生、男爵三井壽太郎妹、學習院女學部出身
養子　忠博　明三〇、一一生、先代忠文五男、從五位、商學士、三井物產會社員
婦　小松　明三九、一生、養子忠博妻、男爵本田不二麿妹、學習院女學部出身
當家は右中將藤原實方の長男陸奥守朝元の後胤伊賀守重政の後なり重政初めて鳥居氏と稱し數世を經て彥右衞門元忠に至り元忠德川家康に仕へ關ヶ原の役伏見に忠死す故を以て其子忠政羽州最上二十四萬石に封ぜられしも其子忠恒に至り嗣なく後絕ふ更に其弟主膳正忠春に信州高遠三萬三千石を賜ひ後野州壬生に移封せらる夫より十一代を經て先代忠文に至り明治十七年子爵を授けらる外務省御用掛副領事公使館書記官外務省書記官等に歷任し貴族院議員に選ばる君は其長男にして明治十四年七月を以て生れ大正三年襲爵す明治四十四年東京農業大學を卒業し現時三井合名會社山林課に勤務し戶越農園主任にして大日本園藝組合顧問マスクメロン協會々長華道池之坊昭和會總裁に擧げらる家族は尙孫泰子(大一四、一二生、養子忠博長女)同節子(昭二、八生、同二女)同幹子(同五、一二生、同三女)あり弟忠强(明一六、六生)は故子爵三宅康寧長女幾子の入夫となり襲爵し同忠治(同二五、四生)は分家せり(東京、麴町、中六番町一一電九段三六八)
參照＝子爵三宅忠强、子爵藪篤麿、男爵本田不二麿、男爵三井壽太郎※子爵牧野忠良※子爵錦織保親※男爵三井高精※大村彥一郎※皿井立三郎※土居高禮※三井高袒の項

**鳥居虎藏**　京都運送事業(株)社長、相互運輸倉庫(株)專務取締役、帝國運送計算保險(株)相談役、京都府在籍
妻　リヨ　明一九、一二生、京都、多田粲三郎二女
男　長太郎　明三二、六生
男　悅二　明三七、一〇生
君は京都府人戶田忠平の三男にして明治七年五月を以て生れ鳥居長左衞門の養子となり同四十四年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時京都運送事業會社長たる外前記諸會社の重役たり家族は尙長女淑子(大一三、三生)ありA三八三(京都、下京、西洞院北小路上ル鍛治屋町四四三電下四七九)

**鳥居百三**　正四位勳二等、陸軍軍醫總監　岐阜縣士族
妻　ツル　明二〇、一生、岐阜、江馬春齡長女
男　習吉　明三七、八生
男　貞吉　明四〇、九生
女　タカ　明四五、四生





君は岐阜縣士族鳥居斷三の庶子にして明治六年五月を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十六年東京帝國大學醫科大學を卒業し同年陸軍二等軍醫に任じ昭和三年陸々軍醫總監に累進す其間臨時陸軍檢疫所所員陸軍軍醫學校敎官久留米廣島各衞戍病院長朝鮮師團軍醫部長東京第一衞戍病院長朝鮮軍軍醫部長等に歷補し昭和三年豫備役に入る家族は尙二女カズ(大七、八生)三女トミ(同一三、七生)あり弟斷三(明一六、一一生)は分家せり(岐阜市中新町二四)

**鳥居龍藏**　文學博士、國學院大學、上智大學各教授、世界聯盟人類學院會員　東京府在籍
妻　キミ　明一四、二生、德島、士、市原弘之姉
男　龍次郎　大五、七生
女　幸子　明四〇、三生
女　綠子　明四三、五生
君は東京府人鳥居新次郎の二男にして明治三年四月を以て生れ同三十六年家督を相續す夙に人類學の研究に沒頭し斯學界の權威として知られ曩に東京帝國大學助教授に任じ同校文學部及理學部に人類學講座を擔當す大正十年文學博士の學位を授けらる現時前記各大學教授にして世界聯盟人類學院會員に推さる長女初音(明三七、一〇生)は神奈川縣人大塚彌市の養子となれり(東京、麻布、霞町二二電青山六〇四五)

**鳥尾敬光**　從五位、子爵　東京府華族
祖母　たい　安政三、五生、大阪、山村吉兵衞長女
母　知勢　明一六、一〇生、埼玉、酒卷景一妹、跡見女學校出身
當家は先々代小彌太より顯る小彌太は舊山口藩士にして本姓中村後自ら鳥尾と改む維新の際國事に奔走し明治三年兵部省出仕を命ぜられ陸軍中將に陞る大阪鎭臺司令長官近衞都督等の要職に就き同十七年華族に列し子爵を授けらる後元老院議員貴族院議員樞密顧問官に歷任す參禪して得庵と號す君は其嫡孫にして先代光の長男なり明治四十三年七月を以て生れ同四十四年家督を相續し襲爵仰付けらる姉孝子(明三五、七生)は東京府人三井辨藏實弟井原高親に伯母廣子(同六、一生)は子爵日野西資博に嫁せり(東京、小石川、關口町一九二電牛込七〇九)
參照＝子爵日野西資博、酒卷景一、三井辨藏の項

**鳥養利三郎**　從四位勳三等、工學博士、京都帝國大學教授、工學部勤務　德島縣在籍
妻　昭　明三四、一二生、工學博士小倉公平長女
君は德島縣人鳥養八郎の長男にして明治二十年二月を以て生れ大正十三年家督を相續す同元年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し同大學助教授に任じ同九年電氣學研究の爲め歐米に留學し歸朝後同大學教授に任じ工學博士の學位を受く家族は尙長女みよ(昭五、五生)妹リキノ(明二五、九生)及其子女あり姉イワノ(同一六、三生)は德島縣人齋藤淸五郎に嫁せり(京都上京、一條新町西入電西陣二二三)
參照＝小倉公平の項

**鳥潟隆三**　正五位勳四等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勤務　秋田縣在籍
妻　エイ　明一七、三生、和歌山、松木甚之助二女
男　高城　明四〇、一〇生
女　靜　明四三、一〇生
女　愛美　大二、六生
養子　與吉　明三三、八生、養子ヨヱ夫、秋田、山內德太郎二男
養子　ヨヱ　明三五、一生、養子與吉妻、秋田、鳥潟政治妹
君は秋田縣人鳥潟精一の長男にして明治十一年八月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十七年京都帝國大學醫科大學を卒業し後同大學助手となり同助教授日本赤十字社大阪支部病院外科醫長大阪府立高等醫學校敎諭等に歷任し一時官を辭せしも現時又復して京都帝國大學教授に任じ醫學部に勤務す曩に醫學博士の學位を授けらる家族は尙四女須美(大九、一〇生)五女綾子(同一二、九生)孫與一(同一〇、一生、養子與吉長男)同與次郎(同一四、一生、同二男)同春(昭四三生、同三女)あり長女フミ(明三六、一〇生)は秋田縣人清水富之助の養子となれり(京都、左京、岡崎入江町八二電上五〇八)

**鳥越密三郎**　浮羽水力電氣(株)取締役、吉井產業銀行(株)監査役、福岡縣在籍
妻　マキノ　元治元、六生、養父貞藏長女
孫　康夫　大一〇、七生、亡長男誠之助養子三男和夫三男
君は福岡縣士族田代耕吾の三男にして文久三年一月を以て生れ鳥越貞藏の養子となり明治十三年分れて一家を創立す現時前記銀行會社の重役にして曩に九州電氣酸素筑豐製絲筑後軌道各會社吉井銀行等の重役に就任す三男和夫(明二〇、六生)同妻テルヨ(同二三、五生、福岡、高橋正照長女)は其子女を伴ひ分家し庶子淸一(同四五、一生)も亦分家し長女馨(同二六、七生)は福岡縣士族尾關定四男孝に二女美喜乃(同三一、一〇生)は同縣人大野良藏に養子ウノ(同八、一〇生、福岡、野田甚七長女)は同縣人石井仲次郎長男仙市に亡長男誠之助妻トキヱ(同二八、一生、福岡、高木良友三女)は山口縣人進登庫光に嫁し五男哲五郎(同二九、七生)は福岡縣人古賀實藏に六男寧(同三四、九生)は同縣人鳥越貞敏に各養子となれり(福岡、浮羽、吉井町)
參照＝大野良藏の項

**鳥巢玉樹**　從三位勳二等功五級、海軍中將　佐賀縣士族
母　シケ　安政二、六生、佐賀、牟田次郎兵衞二女
妻　すみ　明一六、四生、靜岡、士、山本豐朝四女
養子　ミヨ子　大三、一二生、佐賀、小柳亮一四女
君は佐賀縣士族鳥巢秀名の長男にして明治十年十二月を以て生れ後家督を相續す同三十年海軍兵學校を卒業し同三十二年海軍少尉に任じ大正十四年海軍中將に累進す其間英國に出張を命ぜられ同四十二年海軍大學校を卒業後海軍省出仕兼海軍大學校教官第一艦隊參謀英國駐在武官八雲艦長兼第一特務艦隊參謀長軍令部參謀海軍省人事局第一課長橫須賀鎭守府參謀長英國大使館附武官兼造船造兵監督長軍令部參謀兼海軍大學校教官海軍艦政本部技術會議々員東宮職御用掛第五戰隊司令官海軍々令部出仕海軍兵學校長舞鶴要港部司令官佐世保鎭守府司令長官海軍々令部出仕等に歷補し昭和六年豫備役に編入せらる明治三十七八年戰役に春日丸航海長第一艦隊參謀として出征し功を樹て功五級金鵄勳章を賜ふ妹沖見(明二〇、一生)は佐賀縣人小柳亮一に嫁せり(東京市外代々幡町代々木四七六電四谷二一一二)
參照＝※男爵三須精一の項

**鳥取治郎八**　香川縣多額納稅者、農業　香川縣在籍

男　爲三郎　明二一、二生

君は香川縣人鳥取爲三郎の長男にして嘉永六年四月を以て生れ明治十九年家督を相續す農業を營み香川縣多額納稅者にして直接國稅六千三百十四圓を納む長女マサ(明一〇、九生)は香川縣人浪越鷹太郎に三女フサ(同一七、一一生)は愛媛縣人鈴木澤之助長男富士太郎に四女マツ(同三一、一生)は香川縣人森光に養子コイソ(同一四、一生、香川、長尾諦順二女)は同縣人荻田延治郎に嫁せり(香川、三豐、笠田村)

參照＝荻田延治郎、鳥取爲三郎、浪越鷹太郎の項

**鳥取爲三郎**　仁尾鹽田整取締役　香川縣在籍

父　治郎八　嘉永六、四生、現戶主

妻　久嘉　明三一、一生、香川、岩井德一妹

男　綱太郎　大八、一二生

女　マス　大三、四生

君は香川縣人鳥取治郎八の二男にして明治二十一年二月を以て生る同四十四年早稻田大學商科を卒業し現時仁尾鹽田會社取締役たり家族は尙二女アキ(大六、一〇生)三女ミチ(同一〇、一一生)二男猛治郎(同一三、二生)四女ノブ(同一五、二生)あり(香川、三豐、笠田村)

參照＝鳥取治郎八の項

**鳥野幸次**　從四位勳四等、御歌所寄人　東京府士族

妻　カネ　明一六、七生、宮崎、士、落合藤次長女

女　千枝　明四一、二生

女　文枝　明四三、四生

女　八枝子　明四四、八生

女　三枝子　大三、一生

君は鳳井縣士族鳥野龜吉の弟にして明治六年八月を以て生れ同十七年家督を相續す同二十八年國學院大學を卒業し學習院教授となり敎鞭を執ること多年後宮內省御歌所寄人仰付けられ今日に至る家族は尙亡兄龜吉妻ゆき(嘉永五、七生、鳳井、士、岩佐賢妹)あり姉とし(同六、八生)は鳳井縣士族西岡善吉に嫁せり(東京市外目黑町上目黑一四四〇)

**鳥羽總治**　三機工業務取締役會長、東洋バアコック商務取締役、三重縣士族　養母　みれ　明二、八生

女　正　大四、六生

君は三重縣士族伊藤秀實の二男にして明治十年四月を以て生れ先代重固の婿となり明治三十一年大阪高等商業學校會社に入社し大阪橫濱紐育倫敦名古屋支店長本店機械部長たりしが現時前記諸會社の重役たり養に名古屋商業會議所特別議員たり家族は尙三女宮(大九、五生)養弟治(明三一、三生)養妹かす(同三九、一二生)同勉(同四三、三生)同三郎(同四四、一生)は東京府人櫻井信二郎長男遼に嫁せりA三五〇〇(東京市外入新井町新井宿一七八〇電大森四七九)

**鳥原英治**　從五位勳六等、檢事、京都區裁判所檢事兼京都地方裁判所檢事　鹿兒島縣在籍

母　サタ　明一二、一生　若姉

妻　テイ　明一七、一　郎二女

養子　チエ　大二、一生

君は鹿兒島縣人鳥原助太郎の長二月を以て生れ大正九年家督を大學法科大學獨法科を卒業し同倉區中津區裏日區大分區裏同山區高松區兼同地方奈良地方兼補し大阪地方裁判所檢事大阪控都區裁判所檢事兼同地方裁判春子(大八、二生、鹿兒島、石曜花喜之助妻テラ(明一一、一生、鹿は其子女を伴ひ分家せり(京都市

**鳥海榮助**　家主　東京府在籍

母　てる　明三〇、一

妻　八重　郎姪

君は東京府人先代榮助の長男にして明治三年十月を以て生れ大正二年家督を相續し前名幸治郎を改む高津黑燒屋と稱し黑燒寶藥商を營む家族は尙孫正雄(大一五、一二生、養子英雄長男)同寬(昭五、九生、同二男)あり(大阪、南、瓦屋町五番丁二電南二四八)

參照＝高小川嘉兵衞の項

**鳥原才平**　千葉縣多額納稅者、上總銀行取締役、鳥海名代表社員、千葉縣在籍　慶應三、三生、千葉、平野和平二女

母　りの　京　大二、一生

君は千葉縣人先代才平の長男にして平野清の兄なり明治二十年八月を以て生れ大正八年家督を相續し前名才兵衞を改め襲名す現に千葉縣多額納稅者に列し直接國稅千六百十三圓を納め傍ら前記銀行會社の重役たり姉きよ(明一八、一二生)は長崎縣人石崎芳吉に嫁し弟清(同二四、五生)は外祖父平野和平の養子となり叔父與三郎(同三一、一生)は分家せり(千葉、君津、飯野村)

參照＝石崎芳吉、平野清の項

**鳥海宗三郎**　大信貯蓄銀行株常務取締役　千葉縣在籍

妻　とし　明二三、一〇生、千葉、平田龜太郎三女

養子　龜造　大五、二生、千葉、杉山榮助二男

君は千葉縣人鳥海敬五郎の長男にして明治十六年九月を以て生れ大正四年家督を相續す現時大信貯蓄銀行常務取締役たり(東京、麹町、元園町一ノ一九)

**鳥谷市兵衞**　高津黑燒屋、黑燒寶藥商　大阪府在籍

妻　幾登　明三、三生、大阪、荒井長賢長女

養子　英雄　明三五、一一生、大阪、荒井九兵衞二男、金澤醫大附屬藥專出身

婦　秀子　明四一、九生、養子英雄妻、岐阜中島朝衞二女

君は大阪府人先代市兵衞の二男にして明治三年十月を以て生れ同三十一年家督を相續し前名幸治郎を改む高津黑燒屋と稱し黑燒寶藥商を營む家族は尙孫正雄(大一五、一二生、養子英雄長男)同寬(昭五、九生、同二男)あり(大阪、南、瓦屋町五番丁二電南二四八)

參照＝高小川嘉兵衞の項



**鳥山喜一**　從五位、京城帝國大學敎授、法文學部勤務、東京府士族　妻　きく　明二七、一〇生、靜岡、板倉良吉長女

男　新一　大八、一一生

女　克子　大五、八生

君は東京府士族鳥山保清の長男にして明治二十年七月を以て生れ同年家督を相續す同四十四年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し中央大學郁文館中學校橫濱英和女學校京華中學校各講師を經て大正八年新潟高等學校敎授に任ぜられ昭和三年京城帝國大學敎授となり法文學部に勤務す同年東洋史研究の爲め支那及歐米各國に在留を命ぜらる家族は尙二男等一(大一五、一一生)二女りう子(昭二、一一生)あり伯母たか(安政三、一二生)は東京府士族堺井多七に嫁せり(京城帝國大學法文學部內)

**鳥山貞雄**　鳥山同族名社員　東京府在籍

養子　申六　明二六、二生、長女董夫、東京、仙波正太郎弟

女　董　明三二、七生、養子申六妻

女　愛　明三四、一生

君は東京府人鳥山悌次郎の長男にして明治六年十月を以て生れ大正九年家督を相續す現時鳥山同族合名會社社員たり家族は尙孫朧子(大一三、二生、養子申六長女)同國士(昭二、三生、同長男)あり母千賀(安政元、四生、鳥山貞利長女)弟利孫(明一二、五生)は各分家せり(東京市外品川町北品川宿六五電高輪三〇六)

參照＝鳥山利孫の項

**鳥山壯吉**　東洋製革毯取締役、裝飾用織物敷物商、東京府在籍

妻　とみ　明一四、九生、埼玉、菅沼友吉二女

男　靖　郎　大五、一生

君は東京府人鳥山仙五郎の長男にして明治九年九月を以て生れ大正十一年家督を相續す裝飾用織物敷物商を營み傍れて東洋製革會社取締役たり家族は尙三女雅子(大六、八生)四女綾子(同八、一生)五女恒子(同一〇七生)庶子敏郎(同四、三生、生母、東京、吉岡かめ)あり二女稔美(明三五、一二生)は東京府人菅野當二妹はま(同三〇、七生)は同府人沼田穣に嫁し弟貞三(同二四、六生)同妻泰(同三三、一生、東京、國友誠長女)は其子を伴ひ分家せりA一三四三二(東京、京橋、銀座西八ノ三電銀座四三一)

**鳥山利孫**　東亞興業毯取締役、鳥山同族名代表社員、東京府士族　妻　せい　明一九、一生、東京、原田守三長女

男　直　大九、九生

君は東京府人鳥山悌次郎の二男にして明治十二年五月を以て生れ昭和五年兄貞雄方より分れて一家を創立す現時鳥山同族會社代表社員たる外前記會社の重役たり家族は尙長女利子(大一二、二生)あり(東京市外品川町二日市二四四電高輪三五〇)

參照＝鳥山貞雄の項

**鳥山福五郎**　三河屋、蠟燭製造業　東京府在籍

妻　ふく　明一一、七生、養父福五郎長女

男　昇二　明三七、一一生

明四二、一一生、二男昇二妻、東京菊地平吉長女

婦　節子　明四〇、八生

女　ます子　明四〇、九生、東京、原田守三長女

君は栃木縣人坂本辰三郎の弟にして明治七年十二月を以て生れ先代福五郎の養子となり同三十六年家督相續と共に襲名して前名松太郎を改む三河屋と稱し蠟燭製造業を營む家族は尙三男實(大五、三生)五男卓三(同八、一生)四女壽惠子(同一〇、四生)あり養妹千枝(明二九、七生)は東京府人坂本堅治郎に嫁せり(東京、芝金杉町三ノ二電三田三六五八)

參照＝菊地平吉の項

**鳥山嶺男**　從四位勳三等、北海道帝國大學附屬水產專門部敎授兼北海道帝國大學敎授、農學部勤務　和歌山縣在籍

妻　壽須代　明一七、一二生、和歌山、士、片男　克巳　明三八、二生

男　羊二　明四〇、一二生

君は和歌山縣士族鳥山啓の三男にして明治十年七月を以て生れ同三十四年兄讓方より分れて一家を創立す同年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し大阪高等工業學校敎授因島船渠會社技師となり同四十一年北海道帝國大學附屬水產專門部敎授兼北海道帝國大學勤敎

(※印は姻族關係)　ト六三

# 十之部

**名川卯之介**　兵庫縣多額納稅者、宮水販賣業　兵庫縣在籍

妻　みき　明一一、七生、兵庫、山口德藏長女
男　吉雄　明三九、四生
婿　やよい　明四三、六生、長男吉雄妻、兵庫大垣伊市二女
女　榮美子　明四三、一〇生

君は兵庫縣人先代卯之介の長男にして明治十二年四月を以て生れ同二十六年家督を相續し前名卯三郎を改め襲名す宮水販賣業を營み同縣多額納稅者たり家族は尙二女義子(大一一、八生)姪孝榮(明四四、三生、亡弟信三郎二女)甥精一(大三、六生、同長男)あり妹ふく(明二六、二生)は三重縣人高田嘉藏に姪喜代子(同四二、一〇生、亡弟信三郎長女)は兵庫縣人湯淺丁一に嫁し妹いそ(同一五、三生)同夫寅吉(同八、一一生、兵庫、松原榮吉弟)は分家せり(西宮、濱町八一 電西宮二八九)

**名川倭市**　正六位、衆議院議員(廣島縣選出)　松竹興業(株)監査役、辯護士　廣島縣在籍

母　ミヨ　安政元、三生、名川廣平二女
妻　シヅ　明二六、一生、神奈川、鈴木易三長女
男　敎太郎　大三、八生

君は廣島縣人名川炎郎平の長男にして明治十六年六月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十六年明治大學法科を同三十九年法政大學を各卒業し辯護士を開業し傍ら前記會社の重役たり昭和二年以來衆議院議員に當選する事三回現に政友會所屬たり家族は尙二男順次郎(大五、六生)三男良三(同七、九生)長女田鶴子(同一〇、三生)五男龍六郎(同一五、一一生)六男清七郎(昭四、二生)あり四男正五(大一二、四生)は神奈川縣人鈴木ミツの養子となり弟保男(明二九、三生)は分家せり(東京市外大井町三〇一五 電大森一〇七六)

**名倉喜作**　臺灣銀行(株)香港支店支配人　靜岡縣在籍

妻　きよ　文久三、二生、靜岡、鈴木長七二女
女　砂　明二八、二生、靜岡、川島平次郎長女

君は靜岡縣人名倉庄作の二男にして明治二十三年五月を以て生れ大正三年立敎大學を卒業し臺灣銀行に入り累進して現時同行香港支店支配人たり家族は尙長女正子(昭三、九生)兄清作(明一四、一二生、現戶主)弟與作(同二八、四生)及其一女あり(香港、臺灣銀行支店內)

**名倉謙藏**　有(株)名代表社員、接骨醫　東京府在籍

妻　あい　明六、一生、東京、横山佐助姉
男　重雄　明二七、二生、現戶主、醫學博士
婿　恭　明三五、九生、長男重雄妻、東京高橋是福長女
女　英二　明四二、九生、二男英二妻、石川小原喜三郎長女
婿　みさ子　明四四、四生、二男英二妻、石川小原喜三郎長女
男　讓　明三六、八生
男　厚　明四一、八生
女　たよ　大二、六生

君は東京府人名倉彌一の長男にして慶應二年七月を以て生れ後家督を相續し昭和三年退隱す東京帝國大學醫科大學別科の出身にして現に醫術を開業し接骨の名手として知らる傍ら有(株)名代表社員たり家族は尙ほ孫靜(大一四、七生、長男重雄長男)同弓雄(昭二、一〇生、二男英二長男)同延子(同四、六生、同長女)あり長女ケイ(明二二、八生、東京女學館出身)は熊本縣人田中唯雄に二女リツ(同二五、二生)は埼玉縣人野口秀に三女淳(同三一、一〇生)は東京府人法學士磯貝惟一に嫁し三男順三(同三四、六生)は同府人松原カクに五男正(同四〇、六生)は同府人大村リキに各養子となれり(東京市外千住町五ノ七二九 電淺草二六六)

**名倉周藏**　東京土木建築(株)代表取締役、東京紙絲紡績(株)取締役、神戶宅地經營(株)監査役、兵庫縣在籍　明一四、八生、兵庫、綢廣正之助妹

妻　さと　明一、八生、兵庫、紙谷勘兵衛二女
男　周雄　明三六、一二生
女　つゆ子　明三八、六生
女　まさよ　明四三、三生

君は兵庫縣人名倉仁左衛門の二男にして明治十年十一月を以て生れ大正三年家督を相續す現時前記各會社の重役にして嚴に日本炭業會社取締役たり父仁左衛門(弘化元、五生)は弟伊三郎(明二五、三生)と共に分家し二男義男(大九、一生)は兵庫縣人伊賀とらの養子となれり(神戶、東須磨辰巳一一)

**名島嘉吉郎**　鳥取縣多額納稅者、米子銀行、山陰貯蓄銀行、博愛病院各(株)取締役　鳥取縣在籍

妻　なを　明一四、三生、鳥取、後藤市右衛門叔母
養子　桓夫　明三一、一生、長女喜久子夫、鳥取、後藤市右衛門弟
女　喜久子　明三八、一生、養子桓夫妻
養子　五郎　明三九、八生、二女美子夫、鳥取佐藤幸太郎五男
女　美子　明四〇、七生、養子五郎妻

君は鳥取縣人先代嘉吉郎の長男にして砂田竹太郎の兄なり明治十年七月を以て生れ同四十二年家督を相續し前名庄三郎を改め襲名す同縣多額納稅者にして前記各銀行會社の重役たり家族は尙孫彰一(大一四、九生、養子桓夫長男)同和男(昭五、五生、養子五郎長男)弟恒(明三〇、一一生)あり同善(同一七、三生)同妻ヨネ(同二四、三生、島根、岡崎捨太郎長女)は其子女を伴ひ分家し弟親(同二六、七生)も亦分家し妹リツ(同一一、八生)は鳥取縣人木村吉兵衛に同たれ(同二〇、八生)は同縣人小川貞一に同ずる(同二一、一二生)は同縣人後藤市右衛門に嫁せり(米子、博勞町一ノ三一 電三三一)

參照‖木村吉兵衛、後藤市右衛門、米石原以波保、高田博愛の項

**名手源兵衛**　和歌山縣多額納稅者、釀造業　和歌山縣在籍

妻　ヒテ　明元、一〇生、和歌山、名手由兵衛姉
男　喜太郎　明二八、三生
婿　コマ　明三二、一生、長男喜太郎妻、大阪、岸村德平長女

君は和歌山縣人先代源兵衛の長男にして明治二年十二月を以て生れ同三十四年家督を相續し前名政吉を改め

襲名す釀造業を營み縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千七百四十五圓を納む曩に御代正酒造會社取締役たり家族は倚孫久雄(大一三、七生、長男喜太郎長男)同美井子(昭二、二生、同長女)同昭太(同四、一生、同二男)あり弟莊一(明九、四生)同妻ルイ(同一五、五生和歌山、山中又七郎長女)は其子女を伴ひ分家せり(和歌山、海草、黑江町)
參照=岸村德平、名手由兵衞※澤田鎗之助※島本安兵衞の項

## 名手由兵衞

和歌山縣多額納稅者、黑江漆器㈱社長、和歌山毛織、和歌浦土地各㈱取締役、南海倉庫、南海晒粉各㈱監査役、肥料商、和歌山縣在籍

妻　ヌイ　明一三、五生、和歌山、岩本惣兵衞三女
養子　重男　明三六、九生、三女佳子夫、和歌山、迫間房太郎三男
女　佳子　明三九、一〇生、養子重男妻

君は和歌山縣人先代由兵衞の長男にして明治四年一月を以て生れ同二十四年家督を相續し前名直松を改め襲名す肥料商を營み現時前記各會社の重役にして和歌山縣多額納稅者に列す長女晴子(明三〇、四生)同夫峰四郎(同二八、一〇生、和歌山、近藤新十郎四男)は其一女を伴ひ妹ます(同八、一〇生)は同夫德三郎(同一一、四生、和歌山、岸本恆太郎弟)と共に弟利三郎(同一二、九生)は同妻コヤス(同一八、一〇生、和歌山、的場孫右衞門三女)を伴ひ各分家し姉ヒデ(同元、一〇生)は和歌山縣人名手源兵衞に妹よね(同一五、五生)は同縣人島本安兵衞に同もと(同一八、三生)は同縣人岩橋新三郎に嫁せり(和歌山、海草、黑江町)
參照=近藤新十郎、迫間房太郎、島本安兵衞、名手源兵衞の項

## 名取高三郎

北海道多額納稅者、小樽集鱗㈱取締役、銅鐵商、北海道在籍

妻　あい　元治元、二生、山梨、小林誠明二女
養子　章賀　明一三、一一生、長女ひさ夫、山梨、島口李太郎弟
女　ひさ　明一七、一一生、養子章賀妻
孫夫　秀三　明三二、一生、孫きよ夫、山梨、山田啓次郎三男
孫　きよ　明三四、一〇生、孫秀三妻、養子章賀長女
孫　まつ　明四一、四生、養子章賀三女
孫　ちよ　明四四、六生、養子章賀四女
孫　秀子　大二、三生、養子章賀五女

君は山梨縣人名取員保の長男にして安政五年十月を以て生れ明治二十三年家督を相續す銅鐵商を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅千七百十三圓を納め北海道多額納稅者たり家族は倚孫博(大七、八生、養子章賀長男)同富美子(同一三、九生、同六女)曾孫明子(同一三、六生、孫秀三長女)同哲(同一五、一二生、同長男)あり妹あさの(明二、三生)は山梨縣人淺川浩に同三八代(同八、七生)は同縣人丸茂彥作に嫁し弟政信(同一〇、八生)は分家し同靜信(同一三、一二生)も亦其妻くろゑ(同一八、一一生、山梨、今井喜七妹)と共に分家せり(小樽、色內町八ノ一七電一)
參照=淺川浩の項

## 名取爲吉

正七位勳四等功五級、富士見高原療養所㈱代表取締役、富士見倉庫㈱取締役、寶冠コルク、諏訪興業各㈱監査役、長野縣在籍

妻　みよ　明九、二生、長野、功力市四郎姉、甲府玉屛社出身
男　義雄　明一七、八生、大阪高工出身、內外綿㈱技師長、上海支店詰
婦　つれ　明二五、四生、長男義雄妻、長野、矢島作治三女
男　信雄　明二四、五生、從六位勳五等、陸軍步兵少佐、陸軍步兵學校敎官
婦　加壽枝　明三〇、一生、二男信雄妻、愛知、小出秀政妹、名古屋第一高女出身
男　一英　明三五、八生、陸軍步兵少尉、明治藥專出身、大阪鹽野義商店員
女　富美子　明四四、三生、實踐女學校專門部在學
女　貴美子　大二、七生、實踐女學校專門部在學
孫　雄子　明四五、二生、長男義雄長女、大阪城南高女出身

君は長野縣人名取悅治郎の長男にして慶應元年三月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時富士見高原療養所代表取締役の外前記各會社の重役及幾多の公職を帶ぶ家族は倚孫健(大七、六生、長男義雄二男)同康(同九、一生、同三男)同哲子(同一〇、九生、同二女)同雅子(同九、二生、二男信雄長女)同等(同一〇、八生、同長男)同眞(同一二、三生、同二男)あり三女俊子(明三六、八生)は愛知縣人梅村萬藏に妹すゑの(同一二、九生)は長野縣人名取まつに各養子となり同きよ(同五、一生)は同縣人名取房吉に同さくの(同一〇、二生)は同縣人名取三九郎に嫁し弟金治郎(同七、八生)は同縣人日野芳重姉ふじの入夫となれり(長野、諏訪、富士見村)
參照=梅村萬藏の項

## 名取忠愛

貴族院議員、山梨縣多額納稅者、第十銀行、山梨貯蓄銀行各㈱取締役、山梨縣在籍

妻　まさよ　明五、二生、山梨、坂田與一郎三女
養子　繁　明三一、一一生、二女淑夫、山梨、廣瀨久忠弟
女　淑　明三七、三生、養子繁妻、御茶の水高女專攻部出身

君は山梨縣人名取忠文の長男にして慶應二年十月を以て生れ同三十八年家督を相續す甲府市の素封家にして久しく市參事會員其他幾多の公職を帶び又選ばれて甲府市長たる事二回に及ぶ現時前記各銀行の重役にして直接國稅二千五百十三圓を納め縣下の多額納稅者に列し昭和四年貴族院議員に互選せらる居常和歌を嗜み鶯蛙會を主宰し又有望なる學生に學費を支給し市內の貧者を賑はす等隱れたる慈善家を以て知らる家族は倚孫忠信(昭三、一二生、養子繁長男)妹きよ(明五、一一生)あり姉つれ(文久二、八生)は分家し弟辰造(明一三、六生)同妻すみよ(同二一、二生、山梨、樋口繁太郎妹)は共に妹佐代(同一八、一〇生)同夫龍次(同一三、一〇生、山梨、士、青島貞眞二男)は其一子を伴ひ亦各分家せり(甲府、山田町八)
參照=廣瀨久忠※網野善右衞門※神戶久誠※川村貞次郎※內藤章※廣瀨猛※廣瀨爲久※若尾璋八の項

## 名取夏司

帝國生命保險㈱專務取締役、旭電化工業㈱取締役、東京硬脂販賣㈱監査役、長野縣在籍

妻　ちか　明一九、四生、山梨、小林完一妹
男　信策　大一二、八生





君は長野縣人名取和三郎の三男にして明治十一年四月を以て生れ昭和三年兄和作方より分れて一家を創立す明治三十八年早稻田大學政治經濟科を卒業し古河合名會社に入り阿仁銅山經理課長同太良支山主任となり後旭電化工業會社取締役支配人を經て現時前記諸會社の重役たりA二二九三(東京市外巢鴨町宮下一五五九電大塚九三三)
參照=小林完一、名取和作※星野惠助の項

## 名取和作

富士電機製造、時事新報社各㈱社長、東邦電力、鐘淵紡績、池田農園各㈱取締役、梓川電力㈱監査役、長野縣在籍

母　さく　弘化三、三生、長野、有賀源右衞門長女
妻　フク　明一六、五生、東京、朝吹常吉妹
男　木之助　明三九、九生
男　洋之助　明四三、九生

君は長野縣人名取和三郎の長男にして同夏司の兄なり明治五年四月を以て生れ同三十年家督を相續す同二十九年慶應義塾理財科を卒業し更に米國コロンビヤ大學に經濟學を究め歸朝後慶應義塾敎授となりしが後實業界に入り現時前記諸會社の重役たり家族は倚四男壤之助(大二、三生)あり姉ひさ(慶應三、二生)は山梨縣人矢崎亮造に妹芳枝(同一五、四生)は群馬縣人星野惠助に嫁し弟源一(同八、一生)同妻澄代(同一二、四生、長野、清水治長女)は其子女を伴ひ分家せりA六六〇九(東京、芝、三田一ノ三五電高輪一五一)
參照=朝吹常吉、名取夏司、星野惠助※清水幸重の項

## 名波義三郎

相良銀行、藤相鐵道各㈱取締役、靜岡縣在籍

妻　けん　慶應二、一〇生、養父佐一郎長女
養子　登　明二〇、一一生、養子千代夫、靜岡、水野春雄叔父、盛岡高農出身、相良高女家政女學校長
養子　千代　明二八、九生、養子登妻、靜岡、名波修二養妹

君は靜岡縣人板倉市十郎の弟にして安政五年七月を以て生れ先代佐一郎の養子となり明治十四年家督を相續す現時相良銀行藤相鐵道各會社取締役にして曩に相良銀行頭取たり家族は倚孫義篤(大六、六生、養子登長男)同佐智夫(同八、八生、同二男)同笑子(同一一、五生、同長女)同登雄(同一四、九生、同三男)同澄子(昭四、九生、同二女)あり(靜岡、榛原、相良町電一四)
參照=※天野廉の項。

## 名村泰一

資產家、東京府在籍

君は東京府人名村壬午郎の長男にして子爵小笠原長生の甥なり明治四十二年一月を以て生れ同四十三年家督を相續す資產家たり祖父泰藏は大審院檢事長となり貴族院議員に擧げらる祖母トモ(嘉永四、一二生、長崎、北村元助長女)母くま(明二四、五生、祖父泰藏長女、學習院女學部出身)は共に分家せり(東京、麴町、富士見町四ノ八電九段八二)
參照=子爵小笠原長生※子爵藤堂高寬※佐々木八十八※佐藤鐵太郎の項

## 名村豐太郎

住友銀行㈱神戶支店長、兵庫縣在籍

妻　靜子　明二五、二生、兵庫、士、眞野鷹一長女
男　洋一　明四四、五生
女　郁子　大三、二生
女　美英子　大四、六生

君は兵庫縣人名村仲兵衞の長男にして明治十九年三月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十一年神戶高等商業學校を卒業し住友家に入り神戶桑港沙市漢口各支店に勤務し住友銀行上海支店支配人同行外國課長を經て現時同行神戶支店長たり家族は倚二男富二夫(明四五、五生)あり姉こふ(同九、四生)同夫榮太郎(同七一生、兵庫、大藤宗左衞門二男)は其子女を伴ひ分家せりA四六七(神戶、中山手通五ノ一三ノ一電元町一一二二)

## 名和助市

京都府多額納稅者、京都取引所取引員、京都府在籍

妻　やゑ　明一六、八生、滋賀、井上文治郎妹
女　祐　明三六、三生、離緣養子信吉妻

君は岐阜縣人戶崎多平治の四男にして慶應三年三月を以て生れ先代かつの養子となり明治三十五年家督を相續す京都取引所證券米取引員にして直接國稅五千二百三圓を納め京都府多額納稅者たり家族は倚孫和子(大一四、三生、離緣養子信吉長女)同祐郎(昭二、一〇生、同長男)あり(京都、東山、東洞院錦小路下ル電本局六七〇)

## 名和長憲

正三位勳三等功四級、男爵、陸軍少將、大井町長、東京府華族

男　長臣　明二二、九生、正五位
男　長元　明三四、二生

當家は南朝の忠臣名和長年の後胤なり十數世を經て顯興に至り柳川藩主立花宗茂の客分となり夫より世々同家々臣として先代長恭に至る長恭明治十一年名和神社の宮司となり同十六年華族に列し同十七年男爵を授けらる君實は同藩士友淸貞治の二男にして元海軍敎授田中西熊の實兄なり元治元年二月を以て生れ先代長恭の養子となり明治三十一年家督を相續し襲爵仰付けらる同二十一年陸軍士官學校を卒業し騎兵少尉に任じ大正三年陸軍少將に累進す其間東宮武官東宮御用掛陸軍士官學校騎兵實施學校各敎官騎兵第一聯隊長近衞騎兵聯隊長等に歷補し豫備役に入る日露役に騎兵第一聯隊長として各地に轉戰し勳三等功四級を賜ふ大正六年以來貴族院議員に當選すること二回現時東京府荏原郡大井町長同郡町村長會々長たり家族は倚庶子榮子(大一一、一二生、生母、東京、江口都)あり長女舞子(明二九、八生、學習院女學部出身)は男爵德川誠に二女睦子(同四四、一生、女子學習院出身)は子爵松平康春弟文友に嫁し養妹和倭子(同三、三生)同夫顯義(慶應三、五生、福岡、士、草野村翁四男)は共に分家し五男長敏(明三七、二生、醫學士、赤十字社病院勤務)は鳥取縣人米村敏郎に六男長明(同三九、一一生、美術學校出身)は佐賀縣人安住省一に七男長博(同四一、九生)は東京府人山志田普照に各養子となれり(東京市外大井町一一三五電大森一一〇一)
參照=子爵松平康春、男爵德川誠の項

## 名和田正

山口自動車商會、宇部鐵道、西沖之山製材各㈱取締役、宇部銀行、宇部セメント、沖ノ山炭鑛各㈱監査役、山口縣在籍

母　ユキ　嘉永六、二生、山口、前田梅治郎二女
妻　リツ　明二四、二生、山口、國司小一郎二女、縣立山口高女出身
男　元雄　大二、一〇生
女　喜美子　明四四、四生、縣立厚狹高女出身
女　壽美子　大五、七生、縣立宇部高女在學

君は山口縣人名和田元之助の長男にして明治十二年二月を以て生れ同四十年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尚三男壽雄(大九、二生)四男治雄(同一二、一〇生)五男實(同一四、一二生)あり長女千代子(明四一、一〇生、縣立厚狹高女出身)は山口縣人工學士伊藤文一に嫁し弟靜治(同二四、一生、法學士、橫濱正金銀行スマラン支店在勤)同妻正子(同三三、八生、山口、佐貫三四郎長女)は其子女を伴ひ分家せり A三二五〇(山口、厚狹、藤山村電二五五)

**名和田哲郎**　沖ノ山炭鑛、宇部電氣鐵道各㈱取締役、山口縣在籍
養母　サツ　明一〇、二生、山口、竹山助七郎長女
妻　倭子　明三四、三生、養父一平二女
男　左右平　大一〇、八生
君は山口縣士族渡邊祐策の三男にして明治二十二年四月を以て生れ先代一平の養子となり同三十四年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尚ほ二女中子(大一二、八生)二男素平(同一五、四生)あり(宇部、小串一六五七)
參照＝渡邊祐策の項

**那須吉兵衛**　福井縣多額納稅者、敦賀商工會議所議員、敦賀二十五銀行、敦賀築港倉庫各㈱取締役、福井信託㈱監查役、酒造業、福井縣在籍
妻　たれ　明一三、六生、福井、萩原ひさ姊
男　伸一郎　大四、八生
女　和　大元、八生
君は福井縣人伊東吉兵衛の二男にして明治八年十月を以て生れ同三十一年先代英の入夫となり家督を相續し前名謙次郎を改む酒造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして同縣多額納稅者に列し推されて敦賀商工會議所議員たり曩に同會頭たりしことあり二女精(明三五、五生)は福井縣人尾中竹三郎に三女悅(同三七、一〇生)は滋賀縣人辻村健夫に四女文(同四二、八生)は同縣人小林庄次郎に嫁せり(福井、敦賀、敦賀町)

**那須省吾**　從五位勳六等、第二高等學校生徒主事兼教授、山形縣士族
妻　てい　明二一、五生、山形、山下千代雄長女
男　秀夫　大三、一生
女　美佐子　明四四、四生
君は山形縣士族那須玄東の二男にして明治十三年八月を以て生る同三十九年東京帝國大學文科大學倫理科を卒業し同四十年清國湖南省西路優級師範學校に赴任し後市立仙臺商業學校教諭となり大正九年東北帝國大學附屬工學專門部教授に任ぜられ同十年仙臺高等工業學校教授となり同校生徒監を兼ね昭和四年第二高等學校生徒主事兼教授に任ぜられ今日に至る家族は尚兄周太郎(慶應元、二生、現戶主)同妻つれ(明三、二生、山形、井上悌長女)及其子女並孫あり長女淸子(同四一、七生)は宮城縣人上田耕作に姪つや(同二六、八生、兄周太郎長女)は岩手縣人二村成雄に同トシ(同三二、六生、同二女)は東京府人橋爪靜男に同イチ(同三六、一生、同四女)は山形縣人齋藤忠三に嫁し大叔母のふ(天保三、一〇生)は分家せり(仙臺、角五郎丁一三)

**那須省三郎**　從五位、東北帝國大學教授兼學生主事、醫學部勤務、和歌山縣在籍
妻　榮　明三三、七生、和歌山、松居善助長女
男　翔　大一三、九生
君は和歌山縣人那須保次郎の三男にして明治二十四年三月を以て生れ大正二年兄種造の跡を承け家督を相續す同四年京都帝國大學醫科大學を卒業し翌五年東北帝國大學醫科大學助手となり同七年助教授に任じ同九年英米佛獨等に留學し歸朝後同十二年同校教授に任ぜられ現時學生主事を兼ぬ家族は尚二男洋(昭二、三生)長女令(同四、一〇生)あり姊鄕(明二二、四生)は和歌山縣人鵜澤武三郎に妹賤子(同三四、一生)は同縣人安井庄次郎長男玄一に嫁せり(仙臺、北八番丁六七電三六五九)
參照＝松居善助※園部一郎※那須孫次郎の項

**那須長藏**　安田銀行㈱神田支店長、東京府在籍
妻　かめ　明二六、九生、東京、古川國太郎長女
男　博　大七、六生
女　富　大四、六生
君は東京府人那須與三郎の長男にして明治二十年三月を以て生れ同四十三年家督を相續す安田銀行牛込支店長を經て現時同行神田支店長たり家族は尚ほ二女婦美(大六、一一生)二男芳夫(同一一、七生)三女キク(同一二、一〇生)四男亮一(昭二、一一生)四女千代(同四、一生)あり A一二〇(東京、牛込、横寺町四九)

**那須孫次郎**　和歌山縣會議員、紀州砥石材、熊野自動車各㈱代表取締役、秋津川水電、紀州物產各㈱取締役、和歌山縣在籍
妻　順枝　明一四、一〇生、和歌山、原秀次郎姊
男　要太郎　明三七、九生
男　岩次郎　明三九、三生
男　甚三郎　明四〇、五生
男　友四郎　明四三、七生
君は和歌山縣人那須小八郎の二男にして明治十二年五月を以て生れ同四十二年家督を相續す現時前記諸會社の重役にして和歌山縣會議員に推さる妹近(明二一、二生)同夫信三(同一八、七生、和歌山、那須種道弟)は分家し妹麻(同二三、四生)は和歌山縣人海瀨定一に嫁し同はま(同二七、三生)は同縣人田中かなの養子となれり(和歌山、西牟婁、田邊町)
參照＝原秀次郎※那須省三郎の項

**那須森太郎**　岡山縣會副議長、岡山縣在籍
妻　梅代　明一〇、五生、岡山、萩原恭齋二女
女　操　大二、一二生
君は岡山縣人那須伊久治の長男にして慶應三年八月を以て生れ明治三十八年家督を相續す夙に神戶乾行義塾を卒業し郡會議員大賀村長に擧げられ現に推されて岡山縣會副議長たり家族は尚亡弟虎總妻タマヱ(明一三、四生、廣島、門田新六三女)あり二女萬龜(同三一、一生)は岡山縣人笹部秀太郎二男茂平に三女淸子(同三五、六生)は同縣人猪木初吉二男千十市に四女光子(同三八、五生)は同縣人高本玉太長男懇に五女恒子(同四一、二生)は同縣人岡山芳樹に姪幸子(同三四、四生、亡弟虎總長女)は高知縣人西谷辰雄長男宗雄に同威子(同三七、一一生、同二女)は東京府人福井弘一に嫁せり(岡山、川上、大賀村)

**那波三郎右衛門**　秋田縣多額納稅者、那波商店㈱取締役、質商並酒造業、秋田縣在籍
養母　アイ　明一四、二生、秋田、石田貞之輔長女





妻　マツ　明三二、一生、那波慶藏長女
男　祐太郎　大六、一二生
君は秋田縣人那波亥之助の二男にして明治二十二年十二月を以て生れ同三十七年先代マツの入夫となり家督を相續し前名愼治を改む質商並酒造業を營み直接國稅五千九百四十七圓を納め秋田縣多額納稅者にして傍ら前記會社の重役たり家族は尚二男愼二郎(大八、一二生)長女仲(同一四、六生)あり(秋田市川反町三ノ一)
參照＝※片野重脩の項

**那波光雄**　從三位勳三等、工學博士、東京帝國大學工學部講師、岐阜縣士族
妻　かつ　明一二、四生、男爵岩村博叔母、京都府立第一高女出身
男　光正　明三二、一一生、法學士、東京電燈會社員
婦　宜子　明三九、一〇生、長男光正妻、東京、士、有吉忠一二女
君は舊美濃國大垣藩士那波光儀の長男にして明治二年八月を以て生れ大正九年家督を相續す明治二十六年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し同年關西鐵道會社技師となり同三十二年京都帝國大學助教授に任じ翌三十三年土木工學研究の爲め歐米各國に留學す歸朝後京都帝國大學理工科大學教授に任ぜられ同三十七年工學博士の學位を受く同四十一年鐵道院技師に轉じ大正六年東京帝國大學工科大學教授を兼ね同九年鐵道技師に任じ大臣官房研究所長に補せらる同十年支那に出張し同十一年ローマに於ける第九回萬國鐵道會議委員として參列せり現時東京帝國大學工學部講師たり家族は尚孫迪子(昭二、九生、長男光正長女)同惇子(同四、七生、同二女)弟齊治(明七、九生、東京高商出身)同妻くら(同八、二生、東京、荒井智源長女)及其一子あり長女絢(同三六、一一生、東京府立第三高女出身)は宮城縣人坂本助太郎長男雅雄に姪登貴(同三三、四生、弟齊治長女)は熊本縣人農學士橋本驥一に嫁せり(東京市外碑衾町碑文谷一四七二電高輪五六〇八)
參照＝男爵岩村博、有吉忠一、坂本助太郎※白石多士良※竹腰健造※平井金三郎※山崎逵之輔の項

**奈倉次郎**　正五位勳三等、山口高等商業學校教授、靜岡縣在籍
妻　たけ　明一三、五生、靜岡、臼井房次郎長女
男　實郎　明三四、一一生
女　元子　明四一、一〇生
女　周子　明四五、七生
君は靜岡縣人奈倉忠兵衛の二男にして明治五年八月を以て生れ同三十七年兄新一郎方より分れて一家を創立す夙に英人アーサーロイド米人ジェーキンボル兩氏に就き英語及英文學を修め同二十四年私立錦城學校英語專攻科を卒業し山口高等商業學校講師を經て現に同校教授たり曩に生徒監を兼ね大正元年淸國に出張を命ぜられ同十一年英語及英語教授法研究の爲め英米に留學す長女萬里子(明三六、四生)は群馬縣人森高次郎に二女幸子(同三九、九生)は山口縣人三坂圭治に嫁し二男仁郎(同四三、八生)は外祖母臼井いしの養子となれり(山口市高等商業學校香山園官舍)

**奈佐忠行**　從三位勳二等、東京商科大學名譽教授、靜岡縣在籍
妻　政　明九、五生、石川、士、早川元次郎妹
男　忠一　明三五、八生、慶大出身
女　千代　明四四、一〇生、御茶の水高女出身
君は靜岡縣士族奈佐政和の三男にして桐淵鏡次の兄なり元治元年一月を以て生れ明治十一年分れて一家を創立す同十八年東京大學理學部地質學科を卒業し福岡中學校教諭農商務技師東京高等商業學校教授東京商科大學附屬商學專門部教授兼東京高等商業學校教授等に歷任し獨佛兩國に留學す昭和三年東京商科大學名譽教授に擧げられ曩に商品陳列所幹事たり家族は尚二男孝次(大四、二生)あり(東京市外杉並町天沼一四六電荻窪九四三)
參照＝桐淵鏡次※渡邊省二の項

**奈良磐松**　秋田縣多額納稅者、秋田銀行、秋田信託各㈱取締役、農業、秋田縣士族
妻　セイ　明二、五生、秋田、大島榮太郎妹
男　淳一郎　明四〇、三生
男　悌二郎　明四四、二生
君は秋田縣士族奈良茂の長男にして明治十二年八月を以て生れ同三十四年家督を相續す同三十三年早稻田大學邦語政治科を卒業し農業を營み直接國稅一萬七千二百二十三圓を納め秋田縣多額納稅者に列し現に前記銀行會社の重役に擧げらる昭和六年紺綬褒章を授與せらる家族は尚三男恭三郎(大元、一〇生)四男修介(同三、三生)五男讓介(生年月同上)あり長女トシ(明三七、五生)は秋田縣人大井五郎に嫁せり(秋田、南秋田、金足村)

**奈良右左衛門**　四十八銀行㈱監查役、秋田縣在籍
妻　ハル　明一七、四生、秋田、石井猪之助孫
男　晉藏　明四〇、三生
男　順治　明四二、五生
君は秋田縣人先代右左衛門の長男にして明治十五年九月を以て生れ同三十四年家督を相續し前名貞治を改め襲名す現時四十八銀行監查役たり家族は尚三男喜三郎(大二、八生)四男雄治(同四、八生)四女八重子(同八、七生)五女テル(同一二、二生)五男勇(昭二、一一生)あり長女テイ子(明三九、二生)は秋田縣人笹木節雄に妹ソノ(同一九、一一生)は同縣人片野重脩叔父祐吉に同セキ(同二九、一〇生)は同縣人古川泰藏長男圭藏に嫁し弟周治郎(同二五、四生)は其一子を伴ひ分家し同慶治(同三二、六生)も亦分家せり(秋田市保戶野表諏訪町)
參照＝片野重脩の項

**奈良重威**　山梨縣會議員、都留電燈㈱常務取締役、山梨縣在籍
妻　よれ　明元、七生、山梨、大野武右衛門妹
女　まさよ　明二一、三生、亡養子金語妻
孫　三郎　明四三、三生、亡養子金語長男
孫　壽美子　明四一、三生、亡養子金語長女
孫　美枝　大四、一〇生、亡養子金語二女
君は山梨縣人奈良五次右衛門の長男にして慶應二年二月を以て生れ明治三十年家督を相續す夙に都留電燈會社に入り支配人に任じ後常務取締役に擧げられ今日に至る家族は尚孫孝次(明四五、二生、亡養子金語二男)同龜子(大六、六生、同三女)同さき子(同八、二生、同四女)同あき子(同一〇、一生、同五女)同壽惠子(同一三、二生、同六女)あり(山梨、北都留、大原村)

**奈良武次**　正三位勳一等功三級、陸軍大將、侍從武官長、議定官、栃木縣在籍
妻　ミツ　明六、七生、東京、士、梅田義信長女

養子　武康　昭三、一生、東京、楠瀨康雄二男

君は栃木縣人奈良彥一郎の二男にして明治元年四月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同十九年陸軍士官學校に入り同二十二年砲兵少尉に任じ後陸軍砲工學校及陸軍大學校に學び大正十三年陸軍大將に陞る其間陸軍省軍務局課員參謀本部附鳴門要塞司令官攻城砲兵司令部々員軍務局砲兵課長陸軍技術審査部議員陸軍省副官支那駐屯軍司令官靑島守備軍參謀長陸軍省軍務局長等に歷補し昭和五年議定官となり現時侍從武官長の要職にあり曩に獨逸に駐在する事二回日清日露の兩役に出征し歐洲大戰後佛國に於ける媾和會議に陸軍代表として派遣せられ歸朝後大正九年東宮武官長に任じ今上陛下の御渡歐に隨從す長女梅子（明三六、五生、女子學習院出身）は元陸軍大臣楠瀨幸彥長男康雄に嫁せり（東京市外淀橋町柏木一六〇電四谷二〇八〇）

## 奈良井多一郎
正五位勳四等、朝鮮總督府檢事、光州地方法院檢事正、富山縣在籍

妻　フテ　明一二、八生、養父仁十郎長女
養子　巖　明三三、七生、長女ふき夫、山形士、渡邊讓二男
女　ふき　明三八、一生、養子巖妻、東京女高師文科出身

君は東京府人齋藤松次郎の長男にして明治八年十一月を以て生れ先代仁十郎の養子となり大正十三年家督を相續す明治三十三年日本法律學校を卒業し判檢事登用試驗に合格同三十八年檢事に任じ古川區湯澤區橫手區盛岡地方同區福島地方東京區同地方宇都宮地方同區各裁判所檢事を經て大正九年朝鮮總督府檢事に轉じ爾來大邱京城各地方法院檢事咸興地方法院檢事正に歷補し昭和二年現職光州地方法院檢事正に補せらる家族は尙養姉キヨ（明三、六生、石川、士、田畑正定長女）あり（朝鮮、光州地方法院官舍內）

## 奈良橋茂三郎
大阪商船(株)調度課長、大阪商船購買組合長、新潟縣在籍

妻　壽々女　明二五、一〇生、東京、堀忠裔三
男　一郎　明四四、八生

君は新潟縣人奈良橋保太郎の二男にして明治十六年四月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す商船學校を卒業し明治四十三年大阪商船會社に入り一等運轉手基隆丸船長監督等を經て現時同社調度課長にして大阪商船購買組合長たり家族は尙二男茂之（大一〇、一二生）三男保夫（同一三、一一生）長女千壽子（同一四、一一生）ありＡ二三三（兵庫、武庫、精道村蘆屋山角一〇八電芦屋二五〇八）

## 奈良原三次
正四位、男爵、海軍造兵大尉　鹿兒島縣華族

女　綠子　明四二、七生

當家は先代繁より顯る繁は舊鹿兒島藩士にして明治十二年內務省御用掛となり後省同權大書記官農商務省大書記官靜岡縣令工部大書記官等となり日本鐵道會社々長に擧げられ後元老院議官貴族院議員宮中顧問官沖繩縣知事等に歷任し同二十九年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其二男にして明治十年二月を以て生れ大正七年家督を繼ぎ襲爵す同四十一年東京帝國大學工科大學造兵科を卒業し海軍に入り累進して海軍造兵大尉に陞る我國航空界の先覺者にして純日本式飛行機の發明者なり現時軍職を退き民間航空界に活躍しつゝあり（千葉、東葛飾、市川町新田二四六）

## 奈良部都義
從五位勳六等、樺太廳中央試驗所技師、畜產部長、兼畜產部第二科長、福島縣士族

妻　ハル　明三〇、三生、北海道、宇都野勳長女
男　理　大六、六生

君は福島縣士族奈良部善藏の二男にして明治十九年十月を以て生る大正二年東北帝國大學農科大學畜產學科を卒業し秋田農業學校教諭樺太廳農事試驗場技手同技師に歷任し樺太廳農事試驗場長となり昭和四年樺太廳中央試驗所技師に任じ現時畜產部長兼畜產部第二科長たり家族は尙長女昭子（大八、七生）兄勝吉（明一四、七生、現戶主）同妻ムメ（同一七、一二生、北海道、鈴木寧妹）及其子女あり姉イシ（同一三、八生）は福島縣人永山仁左衞門弟二三郎に嫁せり（樺太、豐原、豐北村中央試驗所內）

## 內木清三郎
正七位勳六等、新潟縣多額納稅者卷銀行(株)頭取、卷郵便局長　新潟縣在籍

妻　ツネ　明一二、二生、新潟、長谷川喜久枝大叔母

君は新潟縣人內木金七の長男にして明治五年一月を以て生れ同三十一年祖父清吉の跡を承け家督を相續す現時卷郵便局長卷銀行頭取にして直接國稅二千八百六十四圓を納め新潟縣多額納稅者たり家族は尙弟清作（明一三、一一生）同妻ノイ（同二〇、二生、新潟、星井重三郎妹）あり養叔父鐵三郎（同三、三生、新潟、田邊半四郎弟）同妻キタ（同九、六生、父金七長女）は共に分家せり（新潟、西蒲原、卷町）

## 內貴清兵衞
京都府多額納稅者、京都瓦斯、島津製作所、日本電池、京都織物、鉛粉塗料、日本共立生命保險各(株)取締役、京都中央市場倉庫(株)監査役、絹織物商、京都府在籍

母　ひさ　安政四、五生、滋賀、宇野保太郎長女
妻　ナヲ　明一九、一生、京都、大橋孝七二女
男　清太郎　明三八、一二生
女　千代子　明四二、六生、第一高女出身
女　靜子　大三、一一生
女　君子　大五、六生

內貴家は京都土著の商家にして代々吳服卸賣を渡世とせしが先代に至り大いに盛名を馳す君は先代清兵衞の孫にして明治十一年五月を以て生れ同三十一年家督相續と共に襲名して前名清之助を改む夙に市立第一商業學校を卒業し祖業を承けて一般の絹織物商を營む傍ら前記各會社の重役にして直接國稅一萬三千百八十三圓を納め京都府多額納稅者たり家族は尙二男元次郎（大元、一二生）二男泰三（同六、一一生）の外弟富三郎（明二四、四生）同妻房（同三一、九生、京都、鹽見清右衞門三女）及其子女弟平三郎（同二八、一〇生、京大經濟學部出身）同妻イク（同三七、九生、京都、芝原貞吉妹）及其一女あり妹ゑん（同一五、七生）は京都府人田中源太郎長男一馬に同ゑい（同一九、一〇生）は大阪府人小西平兵衞に嫁せり（京都、中京、東洞院押小路下ル電本局三一）
參照＝鹽見清右衞門、田中一馬※田附政治郎※西村總太郎の項

## 內藤章
正五位勳四等、東京商科大學教授兼附屬商學專門部教授　山梨縣在籍

繼母　能婦子　明一四、一二生、長野、牧內周右衞門長女






妻　婦美　明二四、八生、山梨、廣瀨久忠妹三輪田高女出身
男　誠夫　大三、一一生、成蹊高校在學
女　和　明四五、二生、成蹊高女出身

君は山梨縣人內藤宇兵衞の長男にして根津啓吉の甥なり明治十六年七月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十年東京高等商業學校專攻部銀行科を卒業し大正五年同校教授となり同九年英獨佛米に留學し東京商科大學附屬專門部教授を經て現時東京商科大學教授兼附屬商學專門部教授たり家族は尙二女貞（大六、二生）二男薰（同九、二生）三男謙（同一二、九生）三女孝（昭二、五生）弟敬（明二四、七生、東京農業大學出身）同妻仙子（同四一、七生、東京、士、井上俊雄七女）弟實（同四四、一〇生、廣島高校在學）妹治（大八、九生）あり同芳（明三〇、一二生）は工學博士飯島一郎に同光は東京電燈會社員神田正義に嫁せり（東京市外中野町住吉二一四電四谷三八二四）
參照＝根津啓吉、廣瀨久忠※綱野善右衞門※神戶久誠※川村貞次郎※名取忠愛※廣瀨爲久※若尾璋八の項

## 內藤宇三郎
山梨縣多額納稅者、峽西銀行(株)頭取、農業、山梨縣在籍

母　あさ　文久三、一二生、山梨、上野金藏妹
妻　たみ　明二五、五生、山梨、長谷川苗實妹
男　俊一　大三、九生

君は山梨縣人內藤辰二郎の長男にして明治十七年十二月を以て生れ大正六年家督を相續す農業を營み傍ら峽西銀行頭取にして直接國稅七百八十五圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙長女さち子（大六、三生）二男好雄（同七、八生）二女さだ子（同九、六生）三女俊子（同一一、五生）三男仁（同一二、一二生）四女ハル子（同一四、一〇生）四男公雄（昭三、一〇生）叔父善十郎（明九、三生）同妻いは（同一三、一〇生、山梨、伊藤巳三郎二女）及其子女あり妹ふさじ（同二四、七生）は山梨縣人三澤彌太郎三男等に同きよじ（同二六、八生）は同縣人都築照松長男邦太郎に從妹マツジ（同三六、四生、叔父善十郎長女）は同縣人澤登太造三男運に嫁せり（山梨、中巨摩、明穗村）
參照＝長谷川苗實※石原光三の項

## 內藤勝造
正五位勳三等、通信事務官、東京中央郵便局長、兵庫縣士族

妻　スヽ　明二一、五生、廣島、士、神川登妹
男　健　明四三、四生

君は兵庫縣士族內藤誠一郎の長男にして明治八年七月を以て生れ同二十八年家督を相續す同二十七年東京郵便電信學校甲科を卒業し遞信屬通信事務官補鹿兒島廣島各郵便局管理課長神戶東京各鐵道郵便局長野戰郵便長通信副事務官大阪中央郵便局長東京中央電話局長等を經て大正九年通信事務官に任ぜられ現時東京中央郵便局長たり曩に歐洲各國に出張す家族は尙二男俊（大元、一一生）三男英（同六、三生）あり妹小竹（明一一、一生）は兵庫縣人桂集之助の養子となり同治江（同二一、二生）は京都府人森九一に同千賀（同二三、九生）は兵庫縣人田中信太郎に嫁し弟春次郎（同一六、三生）同妻よしの（同二六、五生、兵庫、近藤秀四郎長女）は其子女を伴ひ分家せり（東京市外目黑町下目黑四五八電高輪七〇〇）

## 內藤勝之助
資產家　大阪府在籍

養母　ムメ　慶應元、一生、兵庫、栗龜助長女
妻　おちゑ　明三五、五生、養父爲三郎三女

君は大阪府人末野五兵衞の五男同齋兵衞生駒齋吉の弟にして明治二十八年一月を以て生れ大正九年內藤爲三郎の養子となる資產家として知らる家族は尙長女泰子（大一一、八生）二女節子（昭四、九生）亡養兄宗之助妻あい（明二八、六生、大阪、中島安兵衞二女）甥宗晴（大四、三生、亡養兄宗之助長男、現戶主）養妹壽惠（明四二、二生）同夫一老（同三五、四生、大阪、山谷吉藏二男）及其二子ありＡ一一六七（兵庫、武庫、精道村蘆屋九ノ坪）
參照＝生駒齋吉、末野齋兵衞の項

## 內藤官太
從五位勳四等功五級、奉天石灰セメント(株)常務取締役、熊本縣在籍

繼母　ノジュ　文久二、三生、熊本、豐永角次姉
妻　はる子　明一九、一二生、東京、黑澤新癸

君は熊本縣人內藤丈平の長男にして同熊喜の兄なり明治八年十二月を以て生れ大正五年家督を相續す現時奉天石灰セメント會社常務取締役たり長女靖（明三九、一〇生）は男爵山澤靜一に妹シズコ（同三三、七生）は熊本縣人井上又次郎弟權藏に同マサエ（同三五、七生）は廣島縣人堀井勇に嫁せり（奉天、淀町四）
參照＝男爵山澤靜一、內藤熊喜の項

## 內藤寬
從五位勳四等、陸軍一等獸醫、朝鮮總督府獸疫血清製造所技師　靜岡縣在籍

父　武雄　安政六、六生、靜岡、山本金木二男
母　うら　慶應元、二生、伊藤吉五郎長女

君は靜岡縣人內藤武雄の三男にして明治二十一年三月を以て生る同四十五年東京帝國大學農科大學獸醫學科本科を大正三年陸軍獸醫學校を各卒業し同六年東京帝國大學大學院に入る明治四十五年見習獸醫官となり大正二年陸軍二等獸醫軍馬補充部萩野支部附を經て同七年陸軍一等獸醫に昇任陸軍騎兵學校附兼教官たりしが同十一年朝鮮總督府獸疫血清製造所技師に轉じ今日に至る家族は尙兄鼎（明一七、四生、現戶主）同妻みゑ（同二八、一二生、靜岡、幡鎌駿三郎長女）及其二男四女妹花香（同二三、四生）同のぶ（同三三、四生）あり弟英雄（同三〇、一〇生）は同縣人塚本至作に同倫（同四〇、五生）は愛知縣人瀧崎やすに各養子となれり（朝鮮、釜山府外松島）

## 內藤金一
共同商事(株)社長、日本蘭土金山(株)取締役、ゴ式燒却爐(株)監査役　山口縣在籍

妻　ミス　明二一、四生、山口、二階廚藏長女
男　一雄　大三、九生
女　由惠　明四一、三生
女　まつえ　明四四、五生

君は山口縣人內藤鎌藏の長男にして明治十四年三月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十八年京都帝國大學法科大學を卒へ現時共同商事會社長の外前記會社の重役たり家族は尙二男信雄（大六、七生）ありＡ二〇七（兵庫、武庫、精道村蘆屋一五三六電芦屋二〇六二）

## 內藤熊喜
日電證券(株)代表取締役、日本電力(株)專務取締役、東邦電力、東邦證券、東邦電機工作所、名古屋棧橋倉庫、稻澤電燈、關西電力、庄川水力電氣、永樂殖產、長良川電化各(株)取締役、大同電氣製鋼所(株)監査役、熊本縣在籍

妻　松壽　明二七、七生、熊本、伊藤モシュ養子
女　章　大四、二生
君は熊本縣人内藤丈平の二男にして現戸主官太の弟なり明治十四年四月を以て生る同三十七年東亞同文書院商務科を卒業し實業界に入り日電證券會社代表取締役たる外前記諸會社の重役たりA一七四六（兵庫、武庫精道村蘆屋井ノ尻一〇七七電芦屋二九三二）
參照＝内藤官太※男爵山澤靜一の項

**内藤小四郎**　京洛土地(株)專務取締役　京都府在籍
妻　ぢう　明二六、五生、滋賀、野田六左衞門姉
男　桂一　大九、一一生
君は京都府人先代小四郎の長男にして明治十二年四月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名太四郎を改め襲名す現時京洛土地會社專務取締役たり家族は尚長女美津子(大七、七生)二男薰男(同一一、一生)二女昭子(同一四、一〇生)ありA二四〇（京都、上京、中立賣堀川西入ル役人町二五七電西陣六一八）
參照＝野田六左衞門の項

**内藤齋平**　愛知縣多額納税者、豐橋商工會議所議員、豐橋魚市場、東三委託各(株)取締役、豐橋電氣軌道(株)監査役　味噌溜釀造業、愛知縣在籍
妻　ちよ　明一八、一二生、愛知、小出齋吉妹
男　要　明三八、九生
君は愛知縣人先代齋平の長男にして明治十一年四月を以て生れ大正七年家督を相續し前名清次郎を改め襲名す味噌溜釀造業を營み傍ら前記各會社の重役を兼ね縣下の多額納税者にして直接國税三千四百四圓を納む又推されて豐橋商工會議所議員たり家族は尚ほ二男二郎(大元、一〇生)三男良造(同七、三生)三女とよ(同一一、一二生)あり長女幾代(明四〇、一二生)は愛知縣人新美俊一に二女いと(同四三、一生)は靜岡縣人金原吉市郎弟淳に嫁せり(豐橋、新錢町三一)
參照＝金原吉市郎の項

**内藤作藏**　十五銀行(株)神田支店長　東京府在籍
妻　幾代　明二一、一一生、茨城、水谷德太郎四女
男　義人　明四一、一〇生、慶大經濟科在學
女　撫子　明三九、五生、お茶の水高女出身
君は愛知縣士族内藤功重の弟にして明治十一年八月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す現時十五銀行神田支店長たり（東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇ノ一七電青山六七一〇）
參照＝※白井敬次郎の項

**内藤三介**　從五位、東京商科大學附屬商學專門部教授兼東京商科大學豫科教授　東京府在籍
妻　きく　明二一、八生、埼玉、植田行忠二女
男　信介　大四、九生
君は東京府人内藤魯の長男にして明治八年九月を以て生れ後家督を相續す同三十五年東京專門學校英語政治科を卒業し石川縣立金澤第一中學校教諭となり同四十二年米國に留學し同四十四年エール大學を卒業歸朝す大正二年明倫中學校教諭となり同九年現職に轉じ今日に至る昭和四年歐米各國に留學す（東京市外中野町驛前一）

**内藤仲**　帝國美術院會員、彫刻家　島根縣在籍
妻　コウ　明一八、二生、西崎豐次郎二女
男　仲吉　大六、四生
女　彌生　明四五、三生
君は島根縣人渡部嘉市の二男にして明治十五年十月を以て生れ先代金助の養子となり同三十八年家督を相續す夙に彫刻家として盛名あり現に帝國美術院會員に擧げらる家族は尚三女南穗（大八、三生）五女綠（同一一、六生）あり（東京市外戸塚町諏訪二三〇電牛込五六一七）

**内藤愼二**　下黑川村長、新潟縣會議員、新潟縣多額納税者、農業、新潟縣在籍
養母　ヨシ　文久三、一一生、新潟、市川治郎右衞門二女
妻　フユ　明二二、一二生、新潟、市川記間太養子
男　正義　大三、一〇生
君は新潟縣人山崎多次郎の二男にして明治十五年八月を以て生れ先代正氣の養子となり大正十一年家督を相續す明治四十年東京高等工業學校機械科を卒業し農業を營み新潟縣多額納税者にして直接國税二千三十三圓を納め推されて下黑川村長新潟縣會議員たり家族は倚二男定雄(大五、九生)三男靖三(同一四、一〇生)四男秀雄(昭二、七生)二女百合子(同四、一一生)あり長女喜久榮(明四四、二生)は新潟縣人宮川謙治二男辰一に嫁せり(新潟、中頸城、下黑川村)

**内藤宗七**　埼玉縣多額納税者、砂糖商　埼玉縣在籍
妻　トヨ　明七、八生、愛媛、樋口林八長女
養子　文作　明一三、四生、長女かれ夫、埼玉山本梅作弟
女　かれ　明一六、八生、養子文作妻
女　トク　明二四、五生
孫　千春子　明四二、九生、養子文作長女
孫　三千　大二、一〇生、養子文作二女
君は埼玉縣人大塚吉五郎の弟にして文久三年十二月を以て生れ先代宗右衞門の養子となり明治十六年家督を相續し前名萬吉を改む砂糖商を營み縣下の多額納税者に列し直接國税二千五百五十九圓を納む家族は倚孫洋(大一一、一生、養子文作長男)同茂(同一三、二生、同二男)同和子(同一四、二生、同三女)あり養子たか(明七、七生、埼玉、市川平兵衞二女)は埼玉縣人市川吉五郎に妹いし(同三、一一生)は東京府人山口藤次郎に嫁せり(埼玉、北足立、桶川町電三)

**内藤多仲**　工學博士、早稻田大學教授、理工學部勤務、山梨縣在籍
妻　いと　明二九、二生、山梨、中澤仁兵衞叔母
男　多門　大一四、二生
女　みえ　大五、一二生
君は山梨縣人内藤小四郎の長男にして明治十九年六月を以て生れ大正九年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學工科大學建築科を卒業し大正六年米國に留學す現時早稻田大學教授にして理工學部勤務たり曩に工學博士の學位を受く耐震構造論其他の著あり家族は倚二女ちえ(大八、四生)二女たき子(同一一、五生)四女わか(昭二、一生)五女まつ(同四、一一生)妹かつじ(明二七、三生)同夫正貴(同二四、二生、山梨、樫山執吉三男)及其子女ありA一四一九(東京、牛込、若松町七六電牛込一三七三)





**内藤濯**　從五位勳五等、東京商科大學豫科教授兼東京商科大學助教授　東京府在籍
妻　優子　明三〇、五生、熊本、澤村正勝姪
男　初穗　大一〇、一生
君は熊本縣人内藤泰吉の四男にして明治十六年七月を以て生れ昭和五年兄游方より分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學文科大學佛蘭西文學科を卒業し陸軍教授に任じ大正九年第一高等學校教授に轉じ同十一年佛國に留學を命ぜられ同十三年歸朝す昭和三年東京商科大學豫科教授兼東京商科大學助教授となり倚第一高等學校講師を兼ね今日に至るラシイヌ、モリエール等の譯著あり家族は倚長女彌生(大一二、三生)二男幸穗(同一三、一二生)あり（東京市外入新井町不入斗二六七）

**内藤種太郎**　第一銀行(株)新宿支店長　東京府在籍
妻　ことじ　明一七、二生、滋賀、富士岡三子雄妹
女　倹子　明四四、一二生
女　邦子　大三、七生
君は東京府人内藤幸助の長男にして明治十八年九月を以て生れ同三十三年家督を相續す現時第一銀行新宿支店長たり（東京市外代々幡町幡ヶ谷八〇〇）

**内藤傳祿**　中央製絲、東亞キネマ各(株)取締役　東京府在籍
妻　しげ　明二二、六生、愛知、山田太藏長女
男　彥祿　大二、五生
君は愛知縣人内藤彥次郎の長男にして明治十六年八月を以て生れ大正十年家督を相續す現時中央製絲會社取締役たる外前記會社の重役にして夙に尾三農工銀行尾三銀行愛知實業銀行各頭取たり又推されて愛知縣會議員衆議院議員名古屋商業會議所議員等に擧げらる家族は倚庶子恒一(大五、一一生、生母、愛知、永谷造)養子千世子(同一一、一〇生、分家弟鍛藏三女)あり弟鍛藏(明二四、九生)は分家し姉始子は岐阜縣人永田吉左衞門に妹なつ(同二〇、七生)は愛知縣人千賀千太郎に同ふゆ(同二二、一生)は同縣人千賀右次郎に嫁せり（名古屋、東、板屋町三二）
參照＝千賀千太郎、千賀右次郎※河田倭男の項

**内藤虎次郎**　正四位勳三等、文學博士、帝國學士院會員、京都帝國大學名譽教授　秋田縣士族
妻　イク　明一二、九生、秋田、田口太郎妹
男　乾吉　明三二、四生
男　耕次郎　明三四、五生
男　戊申　明四一、四生
男　茂彥　明四三、七生
君は秋田縣士族内藤調一の二男にして慶應二年七月を以て生れ明治十八年秋田縣師範學校高等師範科を卒業し更に米人イーストレーキ等に就き語學を學ぶ湖南と號し日本人大阪朝日新聞臺灣日報萬朝報各記者外務省囑託等を經て同四十年京都帝國大學講師に擧げられ同四十二年同文科大學教授に任ぜられ支那に歷遊し又差遣せられし事前後九回又歐洲に差遣されし事あり同四十三年文學博士の學位を受く本邦支那學者の重鎭にして帝國學士院會員に推さる家族は倚五男夏五(大二、五生)四女祥子(同九、一〇生)あり長女百合子(明三六、一〇生)は大谷大學教授鷲淵一に嫁し二女ヒナ子(同三九、三生)は醫學博士遠藤仁郎に嫁せり（京都、相樂、瓶原村電上二二〇）

**内藤信利**　正五位勳五等、子爵、海軍主計少佐、技術研究所員、會計課勤務　舊越後村上藩
養母　璦子　明九、七生、伯爵酒井忠良大叔母
妻　彌榮子　明三二、三生、養父信任長女
男　信篤　大一四、五生
當家は藤原秀鄕の後胤内藤右京進義淸の男彌次右衞門淸長の二男豐前守信成の後なり信成德川家康に仕へ軍功あり相州韮山に封ぜらる後江州長濱五萬石を領し更に陸奧棚倉に移り又越後村上に轉ず夫より十六世を經て先代信任に至り明治十七年子爵を授けらる君其後を享く君實は從二位前田利嗣の男にして男爵前田利功の弟伯爵前田利爲の養叔父なり明治二十五年一月を以て生れ先代信任の養子となり大正十四年家督を相續し襲爵仰付けられ前名春原を改む軍籍に入り現時海軍主計少佐にして技術研究所員に任じ會計課勤務たり（東京市外中野町上ノ原七八一電中野三二四四）
參照＝伯爵酒井忠良、伯爵前田利爲、男爵前田利功※公爵山縣有道※子爵板倉勝豪※子爵稻葉順通※子爵岩倉具明※子爵大給近孝※男爵三井八郎右衞門※酒井忠純※酒井忠孝※伴田六郎※西脇健治※安田善次郎の項

**内藤晴三郎**　從五位勳五等、北海道廳部長、產業部長、廣島縣在籍
養父　淸太郎　安政四、九生、現戸主
養母　ミヤコ　明一一、一二生、廣島、山内鐵嶺叔母
妻　龜代　明一五、八生、養父淸太郎養子
男　淸明　明三九、八生
君は廣島縣人内藤淸太郎の養子にして明治十年三月を以て生る同二十八年廣島縣師範學校簡易科を卒業し同三十七年中學教員國語漢文科に合格し廣島縣豐田郡立女子技藝學校教諭同校長を經て大正七年高等試驗行政科に合格廣島縣屬となり爾來同縣神石郡長島根縣理事官同視學官內務部學務課長庶務課長兼會計課長を經て都市計畫地方委員會事務官兼大阪府理事官に任ぜられ大阪府都市計畫課長兼議事課長地方課長等に歷補し昭和二年前記現職に轉ず家族は倚二男瑞正（大二、一二生）養弟勝虎(同三、一一生)あり長女紋子(明三二、一二生)は廣島縣人梅津重雄に嫁し養兄殖(文久二、一〇生)同妻ヤツ(明二四、二生、廣島、士、田中贇三從姉)は其子女を伴ひ分家せり（札幌、北二條西七丁目）

**内藤半二郎**　勳七等、山梨縣多額納税者、甲府商工會議所議員、甲府材木商組合長、内藤工業所、土木建築請負業製材及家具製作販賣業　山梨縣在籍
妻　うめ　明二一、一一生、靜岡、金田宗七妹、日本女大家政科出身
女　芳子　大二、一生、甲府高女出身、家政學院修業
君は山梨縣人内藤熊藏の長男にして明治六年五月を以て生れ同四十年家督を相續す内藤工業所と稱し土木建築請負業を營み又南都留郡東桂村に山梨縣恩賜林材製材所を兼營し甲府市に於て家具商を經營す直接國税千二百十八圓を納め縣下の多額納税者に列し推されて甲府商工會議所議員たり弟松次郎(明九、一二生)同德二郎(同一二、三生)同平治郎(同一七、三生)同淸作(同二五、一一生)は各分家せり（甲府、深町二一六電五三七）

### 内藤彦一
日本化工ペンキ、東京染織各㈱社長、松屋㈱常務取締役、小武川電力、小武川電器、東洋モスリン、昭和土地各㈱監査役、日本織物用品㈱相談役、菊水、煙草商
山梨縣在籍

妻　しん　明五、一一生、神奈川、古屋德兵衞姉
養子　長一　明三四、一二生、神奈川、神谷金之助三男
婦　恒子　明四四、七生、養子長一妻、東京牛山武兵衞三女
養子　丈夫　明一九、九生、養子滿壽子夫、山梨、小澤文平五男、法學士、札幌地方裁判所判事
養子　滿壽子　明二九、四生、養子丈夫妻、姉かつ三女

君は山梨縣人内藤朝政の長男にして慶應元年七月を以て生れ明治十六年家督を相續す菊水と號し煙草商を營み傍ら前記諸會社の重役に擧げらる曾て東京商業會議所議員に推さる家族は尙孫喜代子(大七、三生、養子丈夫長女)同幾子(同一〇、一生、同二女)同慶子(同一三、一生、同三女)同昭一(昭二、九生、同長男)姉かつ(文久三、一生)あり姪たけ(明二四、一一生、姉かつ長女)は神奈川縣人金子泰次郎に同はつ(同二七、一生、同二女)は東京府人大澤藤八に嫁せりA七三二〇(東京、京橋、銀座六ノ二電銀座一〇)
参照＝古屋德兵衞※青地伊一※高碕逢之助※古屋榮一の項

### 内藤久寛
正六位、貴族院議員、社會局參與理化學研究所、日本工業倶樂部各理事、新潟縣在籍

妻　サカ　文久二、一二生、新潟、廣川莊二妹
孫　久一郎　明三八、三生、亡養嗣子鷲郎長男
孫妻　京子　明四三、四生、孫久一郎妻、新潟村山龜一郎長女
孫　孝三郎　明四三、一一生、亡養嗣子鷲郎三男
孫　比呂子　大四、四生、亡養嗣子鷲郎二女

君は新潟縣人内藤久之の長男にして安政六年七月を以て生れ明治十二年家督を相續す同二十一年日本石油會社を創立し爾來同社社長として拮据經營する事多年能く同社今日の隆盛を見るに至る又同十八年新潟縣會議員に當選し同二十七年衆議院議員に擧げられ同三十年以降農商務省の囑託に依り石油事業視察の爲め歐米に渡航すること二回同四十一年日本大博覽會評議員被仰付同四十二年綠綬褒章を下賜せられ大正四年特旨を以て正六位に敍せられ後貴族院議員に勅選せらる家族は尙孫禮吉(大二、二生、亡養嗣子鷲郎四男)あり孫道子(明四〇、一生、同長女)は新潟縣人岎田克治に嫁せり(東京、麻布、材木町三六電青山六五六五)
参照＝村山龜一郎の項

### 内藤熙
從五位勳六等、會計檢査院書記官院長官房調査科長、愛媛縣在籍

父　克家　安政五、一生、現戶主
妻　ミチ　明三〇、五生、福島、森惣兵衞妹
男　克一郎　昭元、一二生

君は愛媛縣人内藤克家の二男にして明治二十二年九月を以て生る同四十五年東京外國語學校佛蘭西語科を卒業し大正七年文官高等試驗に合格し爾來大藏屬司稅官帝都復興院事務官復興局書記官等に歷任し昭和四年現職に轉ず家族は尙長女昭(大一〇、八生)二女淑(同一二、一生)二男彥四郎(昭三、八生)同綾(同五、八生)あり(東京市外目黑町中目黑八幡五二七電高輪二八七五)
参照＝内藤克家の項

### 内藤正陽
正五位、子爵
舊信州岩村田藩

妻　英子　明三九、一〇生、愛媛、白石昌壽長女
男　正裕　昭五、一一生

當家は内藤右京進義清の孫仁兵衞忠政の四男式部少輔正次の後なり正次將軍秀忠に仕へ別に封ぜられて一家をなす夫より九世を經て先代正縈に至る代々信州岩村田一萬五千石を領す正縈實は子爵山内豐英の兄にして先々代鋠子の入夫となり明治十七年子爵を授けらる君は正縈の男にして明治三十三年八月を以て生れ大正十一年家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尙妹綾子(明三七、六生)弟正暉(同四一、五生)あり姉恒(同三一、四生)は熊本縣人友添保に嫁せり(東京、麻布、廣尾町一七)
参照＝子爵山内豐英※子爵松平忠正の項

### 内藤正太郎
尼崎築港㈱專務取締役、山下汽船、空中電氣鐵道各㈱取締役、昭和興業、浦賀船渠、關東鋼索鐵道各㈱監査役、山口縣士族

妻　こせい　明二四、一一生、東京、菅野秀麿妹
養子　三郎　明二四、七生、父正明三男、栃木縣警視
婦　富士　明三〇、一一生、養子三郎妻、海軍大將栃内曾次郎二女、東京府立第三高女出身
養子　治子　明四五、四生、聖心女子學院出身

君は山口縣士族内藤正明の長男にして明治十六年十二月を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十五年京都帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時前記諸會社の重役たり父祖の遺志を嗣ぎ鄕黨を厚く鄕里に盡す處多し大正十一年紺綬褒章を賜はる家族は尙孫正之助(大一一、四生、養子三郎長男)同曾吉(同一二、八生、同二男)同明(同一四、八生、同長女)ありA八六四(東京赤坂、青山北町五ノ四八電青山三六七八)
参照＝栃内曾次郎の項

### 内藤正義
熊本縣多額納稅者、農業
熊本縣士族

妻　ジユキ　慶應元、一〇生、熊本、士、友枝義高四女
男　暐義　明一八、九生
婦　ダク　明二七、一生、長男暐義妻、熊本德富登也妹

君は熊本縣士族内藤定義の長男にして文久三年十月を以て生れ明治十二年家督を相續す農業を營み直接國稅二千八十圓を納め熊本縣多額納稅者たり曩に飽託銀行頭取帝國セメント會社取締役たりし事あり家族は尙孫隆義(明四五、五生、長男暐義長男)同睦義(大三、三生、同二男)同治義(同五、七生、同三男)同守義(同八、三生、同四男)同みゑ(同一一、一〇生、同長女)同和義(同一四、九生、同五男)同みち(昭二、八生、同二女)あり從妹シカ(明一四、二生、亡叔父範義長女)は熊本縣人竹田眞次に同カヾ(同一六、四生、同二女)は同縣士族志柿繁糺に嫁し從弟辰義(同一九、八生、同二男)は分家し同親義(同二二、一二生、同三男)は其妻と共に同重義(同二五、五生、同四男)は其妻子と共に各分家し亡從弟本義妻ミサホ(同二〇、五生、熊本横中藤喜養子)も亦其子女を伴ひ分家し叔母チマ(安政三、三生)は其家籍に入れり(熊本、飽託、力合村)

### 内藤政潔
正三位、子爵
舊磐城湯長谷藩

祖母　杰子　文久二、四生、子爵阿部正一八代前正備八女
妻　のぶ　明一三、七生、子爵本多忠晃姉
男　政憙　明四一、三生、從五位
女　都子　明四三、一一生
女　文子　大元、一二生

當家は内藤彌次右衞門家長の孫帶刀忠興の三男主殿頭政亮の後なり政亮分れて一家をなし磐城湯長谷一萬五千石を領す夫より十二世を經て先代政憲に至る君は其長男にして明治五年三月を以て生れ同十四年家督を相續し同十七年子爵を授けらる大正十三年神職講習科を終了す家族は尙二男政彥(大四、六生)七女庫子(同七、四生)あり長女愛子(明二九、一一生)は子爵毛利元恒に叔母董子(同一三、七生)は福島縣人白井新太郎に同房子(同一七、五生)は山梨縣人堀内宗平に嫁し二女壽子(同三七、一生)は分家し六女金子(大七、四生)は栃木縣人大岡春雄の養子となれり(福島、石城、磐崎村)
参照＝子爵阿部正一、子爵本多忠晃、子爵毛利元恒、白井新太郎、堀内宗平※伯爵島津久範※子爵土井利美の項

### 内藤政道
正五位、子爵
舊日向延岡藩

妻　華子　明四〇、三生、男爵山内豐政二女
女子學習院出身

當家は鎭守府將軍藤原秀鄕より出づ八世の孫行俊初て内藤と稱す夫より十世を經て家清に至り德川氏に仕へ上野の城に在り義清清長を經て彌次右衞門家長に至り上總國佐貫二萬石に封ぜられ伏見の城に死す長男左馬助政長嗣ぎ磐城平七萬石に加增せらる其子帶刀忠興より三代備後守政樹の時日向國延岡に移り更に數世を經て先代政擧に至る政擧は子爵太田資業の大叔父にして入りて當家を嗣ぎ明治十七年子爵を授けられ種々の育英事業に盡瘁し藍綬褒章を賜はる君は其四男にして明治三十六年十月を以て生れ昭和二年五月家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尙長女惠子(昭四、九生)あり兄政邇(明二六、七生)は子爵交野家を繼ぎ姉珠子(同二一、四生)は伯爵室町公藤叔父滿三郎に同房子(同三一、六生、學習院女學部出身)は東京府人栗山茂に嫁し弟政恒(同四〇、七生)は子爵内藤政光の養子となれり(東京、赤坂、氷川町二六電青山二一一五)
参照＝伯爵室町公藤、子爵太田資業、子爵交野政邇、子爵内藤政光、男爵山内豐政、栗山茂※子爵成瀨正雄※楠田秀夫※鶴田乙丑の項

### 内藤政光
正四位、子爵
舊三州擧母藩

妻　道　明三二、三生、子爵松平秋雄姉
養子　政恒　明四〇、七生、子爵内藤政道弟

當家は内藤彌次右衞門家長の男左馬之助政長の次男兵部少輔政晴の後なり政晴兄忠興の所領中二萬石を分與せられ別に一家をなす夫より十世を經て世々三河國擧母藩主として先代政共に至り明治十七年子爵を授けらる政共夙に英國に留學し歸朝後海軍省御用掛主船局海軍匠司補海軍大技師海軍造船大技師等に歷任し二回貴族院議員に當選す君は其長男にして明治二十四年三月を以て生れ同三十五年家督を相續し襲爵仰付けらる大正十一年東京帝國大學文學部國史科を卒業し帝室博物館歷史課に勤務し傍ら國士館專門學校實踐女學校專門部講師たり叔母操(明二四、一一生)は子爵一柳直德に嫁せり(東京市外世田ヶ谷町若林一一電世田谷一三一三)
参照＝子爵内藤政道、子爵一柳直德、子爵松平秋雄※伯爵室町公藤※子爵交野政邇※栗山茂の項

### 内藤克家
伯爵久松家々令、五十二銀行㈱監査役、愛媛縣在籍

男　熙　明二二、九生、東京外國語學校出身、會計檢査院書記官兼副檢査官
婦　ミチ　明三〇、五生、二男熙妻、福島、森惣兵衞妹
男　安　明二五、四生、中大商科出身

君は舊松山藩士内藤同人の三男にして安政五年一月を以て生れ内藤素行の養子となり明治四十三年分れて一家を創立す夙に伯爵久松家々令となる現時五十二銀行監査役たり長女良(明一九、八生)は愛知縣人市橋俊之助に二女正(同二一、一生)は愛媛縣人天岸敏介に三女榮(同三三、四生)は同縣人原信正二男英吉に嫁せり(松山、三番町)
参照＝原信正の項

### 内藤賴輔
從三位、子爵
舊信州高遠藩

養父　彌三郎　明五、八生、亡父賴直長男、從四位
妻　桂　明一六、四生、子爵大河内輝耕妹
御茶の水高女出身
男　賴博　明四一、三生、從五位、法學士
男　賴武　明四二、六生、陸軍騎兵少尉
女　和子　明四四、七生、女子學習院出身

當家は藤原秀鄕の後胤内藤右京進義清の男甚五左衞門忠郷の四男仁兵衞忠政の子修理亮清成の後なり清成將軍秀忠に仕へ相州當麻二萬六千石に封ぜらる後世信州高遠三萬三千石に移封し十一世を經て先々代賴直に至る長男彌三郎其後を享け明治十七年子爵を授けらる君は賴直の二男にして明治十年十一月を以て生れ同三十三年先代兄彌三郎の養子となり同四十年家督を相續し襲爵す學習院卒業の後理科大學選科に入りて地質學を研究す標本蒐集に趣味を有し又謠曲及能を習得す長女要子(明三九、一〇生)は子爵堤雄長長男經長に嫁せり(東京、四谷、内藤町一電四谷四一四〇)
参照＝子爵大河内輝耕、子爵堤雄長の項

### 内藤諒太郎
正五位勳三等、判事、福井地方裁判所長、福島縣在籍

男　由巳　明四〇、五生
男　省三　明四四、三生

君は福島縣人内藤東の長男にして明治七年二月を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十三年東京法學院を卒業し判檢事登用試驗及辯護士試驗に合格し同三十五年判事に任じ山形區裁判所判事に補せらる爾來山形地方長井區仙臺地方福島區平區各裁判所判事宮城控訴院判事札幌控訴院部長青森地方裁判所長等に歷補し大正十五年福井地方裁判所長に轉じ今日にいたる長女勝子(明三七、五生)は宮城縣人菅湯軍藏に嫁し弟隆次(同一九、三生)同妻ミネ(同二三、五生、福島、佐々木龜太郎妹)は共に其子女を伴ひ分家せり(福井市寶永中町官舍)

### 苗村清
苗村商事㈱取締役
東京府在籍

祖父　又右衞門　嘉永三、三生、現戶主

君は東京府人苗村又右衞門の孫にして明治三十九年十月を以て生る昭和四年青山學院高等學部商科を卒業し現時苗村商事會社取締役たり寫眞を趣味とすA二〇八九(東京、赤坂、田町二ノ一一電青山四〇九九)

參照＝苗村又右衛門※小林藤右衛門※久田謚太郎※松田登三郎の項

## 苗村又右衛門

東京商工會議所議員、苗村商事㈱取締役、きん藤ビルヂング㈱監査役、歌舞伎座㈱相談役　東京府在籍

妻　チヨ　明三、六生、埼玉、諸星新助叔母
養子　とみ　明一〇、七生、亡養子正五郎妻、東京、小林藤右衛門叔母
孫　清　明三九、一〇生、亡養子正五郎長男
孫　篤二　明四一、四生、亡養子正五郎二男

君は東京府人先代又右衛門の二男にして嘉永三年三月を以て生れ明治九年家督を相續し前名爲松を改め襲名す現に苗村商事會社取締役の外前記各會社の重役にして東京商工會議所議員に推さる曩に東海銀行取締役たりし事あり養子イト（明一六、三生、東京、八田道忠姉）は分家し孫キミ（同三六、五生、亡養子正五郎二女）は東京府人松田登三郎長男定信に同ユキ（同三七、七生、同三女）は同府士族久田謚太郎長男鐵夫に嫁し妹やそ（安政元、一二生）は同府人小林藤右衛門の祖母たりA八七九六B一三一六（東京、赤坂、田町二ノ一一電青山四〇九九）
參照＝小林藤右衛門、苗村清、久田謚太郎、松田登三郎※大角岑生の項

## 直井藤左衛門

須磨信託㈱取締役　兵庫縣在籍

妻　ツル　明六、二生、兵庫、藏田芳次郎長女
男　正一　明二三、六生
婦　きぬ　明二七、七生、長男正一妻、兵庫滑川貞次四女
男　久雄　明二九、一一生
男　藤太郎　明三二、一一生
女　保子　明四二、八生

君は兵庫縣人先代藤左衛門の長男にして明治元年二月を以て生れ同三十二年家督を相續し前名駒之介を改め襲名す現時須磨信託會社取締役たり家族は尚孫美代子（大七、四生、長男正一長女）同京子（同一一、一〇生、同二女）同茂子（同九、一〇生、同三女）あり長女繁代（明二五、八生）は長崎縣士族大曲通介四男廉介に二女ハルエ（同三七、一二生）は大阪府人西村豊次郎二男彌之助に三女芳子（同四〇、八生）は兵庫縣人前田利一郎に嫁し二男廉（同二七、一二生）弟末太郎（同一〇、一一生）同信太郎（同一三、一一生）妹トキ（同一五、一一生）は各分家し六男悅雄（同三五、一一生）は分家弟末太郎の養子となれりA一〇〇五（神戸、西須磨東町一五電須磨二三一）
參照＝滑川貞次、西村豊次郎の項

## 直江新太郎

藤屋、呉服商　新潟縣在籍

養父　文吉　安政四、八生、新潟、堀猪吉二男
養母　トノ　文久三、八生、先々代文吉二女
妻　サダ　明一八、七生、新潟、小林良平妹
男　新一　明四三、一生

君は新潟縣人星野理太の長男にして明治十五年四月を以て生れ先代文吉の養子となり昭和五年家督を相續す藤屋と稱し呉服商を營む曩に今井商店藤武良商店の重役たりし事あり家族は尚二男榮造（大五、五生）ありA一六三四B五四八（東京市外巣鴨町一三三一電大塚一三六四）
參照＝※今井又平の項

## 直川安次郎

直川商店㈾無限責任社員、綿布製造業、大阪府在籍

妻　リウ　明八、五生、滋賀、士、小島宗次郎養子
男　秀次郎　明二六、三生
婦　宇野　明二九、一一生、長男秀次郎妻、大阪、松井貞治郎二女
男　省三　明三三、九生
男　光四郎　明三六、六生
女　千代　明四四、一〇生

君は大阪府人直川庄七の長男にして慶應元年十月を以て生れ明治二十四年分れて一家を創立す綿布製造業を營み現に直川商店無限責任社員たり曩に關西紡績會社長丸今綿布會社取締役共立紡績會社常務取締役東洋製綱會社監査役たりし事あり家族は尚孫悅子（大八、二生、長男秀次郎長女）同好一（同九、一一生、同長男）同廣子（同一二、一生、同二女）同隆次（同一四、七生、同二男）あり二男健一（明三〇、一〇生）は分家し長女百世（同四〇、九生）は大阪府人文箭郡次郎長男英俊に嫁せりA一五〇〇（大阪、東、北久寶寺町一ノ二一電船場一二七）
參照＝文箭郡次郎の項

## 直木久兵衛

兵庫縣多額納税者、米穀肥料商　兵庫縣在籍

妻　あい　明九、八生、兵庫、渡邊源三郎長女
男　太一郎　明三二、一生
男　富二郎　明四〇、二生

君は兵庫縣人梶龜之助の弟にして同久次郎の叔父なり明治四年九月を以て生れ先代久兵衛の養子となり同二十八年家督を相續し前名由三郎を改め襲名す米穀肥料商を營み縣下の多額納税者たり長女きみ（明三四、九生）は同夫一二三（同二九、二生、兵庫、今井善右衛門三男）と共に分家し二女かれ（同三七、九生）は兵庫縣人多木千吉四男文衛に嫁せり（神戸、兵庫島上町一電兵庫二四七二）
參照＝今井善右衛門、多木文衛、直木太一郎※有馬順二※今井悅太郎※布井良太郎の項

## 直木三十五（植村宗一）

著述業　大阪府在籍

父　惣八　嘉永三、一生
母　しつ　文久二、八生、大阪、安本又治郎長女
妻　壽滿　明一八、四生、大阪、佛子玄耀三女
男　昴生　大九、一〇生
女　木ノ實　大五、三生

君は大阪府人直木惣八の長男にして明治二十四年二月を以て生れ後家督を繼ぐ直木三十五と稱し大衆創作家として知られ諸物文藝集「仇討十種」其他多くの科學小說隨筆等あり現に大阪每日東京日々兩新聞に「南國太平記」執筆中なり弟清二（明三四、一生）は分家せり（東京、麴町、紀尾井町三電九段二二一九）

## 直木三郎

神戸電機製作所㈱常務取締役、小林燐寸製造所、神戸弘業各㈱監査役、直木㈾業務執行社員　兵庫縣在籍

父　政之介　嘉永四、一生、現戸主
妻　きぬ　明一八、七生、兵庫、士、堀江金二郎姉
男　潤一　明三五、四生
婦　松子　明四二、七生、長男潤一妻、東京大石七郎二女
男　修　明四一、八生
女　正子　明四三、六生
女　典子　大四、六生

君は兵庫縣人直木政之介の長男にして工學博士直木倫太郎の養弟なり明治十四年六月を以て生る夙に神戸商業學校を卒業し現時直木合資會社業務執行社員にして前記各會社の重役たり家族は尚三男三雄（大二、三生）四男和（同七、三生）五女三枝子（同八、九生）六女英子（同一四、六生）孫田鶴（昭四、九生、長男潤一長女）あり長女茂子（明三七、一生）は神奈川縣人荒井雄吉に嫁し二女悅子（同三八、一一生）は兵庫縣人重名信子の養子となれり（神戸、中山手通七ノ一〇九電元町二三三四）
參照＝大石七郎、直木政之介、直木倫太郎※谷口茂雄※錦織宗※野村清臣の項

## 直木太一郎

向島土地、神戸米肥市場日報社、合同土地各㈱取締役、直木商店㈾代表社員、兵庫縣在籍

父　久兵衛　明四、九生、現戸主
妻　禎　明三六、五生、兵庫、大江市松二女

君は兵庫縣人直木久兵衛の長男にして明治三十五年一月を以て生る現に直木商店代表社員にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尚長女寛（昭二、四生）二女照（同四、二生）あり（神戸、兵庫島上町一電兵庫四七〇）
參照＝大江市松、直木久兵衛※多木文衛の項

## 直木政之介

勳六等、日本燐寸製造、湊川土地建物各㈱社長、阪神石材工業㈱取締役、大同燐寸㈱相談役　兵庫縣在籍

妻　かう　文久二、五生、兵庫、直木傳兵衛長女
男　三郎　明一四、六生

君は兵庫縣人神田勝次郎の長男にして嘉永四年一月を以て生れ明治十一年先代かうの入夫となり家督を相續す同二十年初めて燐寸製造業を開始し現時前記諸會社の重役として令名あり曩に町會議員兵庫縣會議員同常置委員神戸市參事會員神戸商業會議所副會頭其他種々の名譽職に舉げらる同四十二年勳六等に敍せられ大正十年紺綬褒章を賜ふ三女協（明一九、九生）は兵庫縣人谷口茂雄に四女信子（同二三、三生）は島根縣人錦織宗に五女靜枝（同三〇、一一生）は東京府人濱田葆光に庶子りく（同二一、七生、生母、兵庫、横山ゑみ）は奈良縣人禪智院孝德に嫁し二男楠三（同一六、七生）は兵庫縣人柴田保造養子に六男準（同三五、一生）は右柴田保造養子とよゑいに各養子となり三男憲一（同二二、一生）同妻とよ（同二七、一二生、兵庫、松下豐吉二女）は其一子を伴ひ五男榮（同三三、三生）は同妻こと（同三七、一生、兵庫、大庭竹四郎五女）と共に長女りう（同一三、八生）同夫倫太郎（同九、一二生）も亦其子女を伴ひ各分家せり（神戸、中山手通七ノ三一電元町二三三四）
參照＝谷口茂雄、直木三郎、直木倫太郎、錦織宗※豐田喜三の項

## 直木倫太郎

正五位、工學博士、大林組㈱取締役兼技師長、日本アスファルト工業㈱取締役、兵庫縣在籍

妻　りう　明一三、八生、養父政之介長女
男　茂　明三三、三生
婦　道子　明三七、一一生、長男茂妻、大阪加輪上勢七二女、プール高女出身
男　博　明三五、五生
婦　節　明四〇、一〇生、二男博妻、兵庫柴田楠三長女
男　咲　明三九、二生
男　惇　明四一、一〇生
女　素枝　明四五、一生

君は兵庫縣人眞島顯藏の長男にして直木三郎の義兄なり明治九年十二月を以て生れ同縣人直木政之介の養子となり昭和二年分れて一家を創立す明治三十二年東京帝國大學工科大學を卒業し東京市技師となり次で大藏省臨時建築部技師大阪市港灣部長兼都市計畫部長復興局長官等に歷任し其間東京市並に大阪市より築港及都市計畫調査の爲海外に派遣せらる大正三年工學博士の學位を受く現時大林組取締役兼技師長にして都市計畫大阪地方委員會委員及兵庫縣地方委員會委員たり家族は尚五男正（大二、八生）六男力（同四、一生）七男平（同七、三生）孫玲子（昭四、一〇生、二男博長女）あり長女美代（明三八、一生）は兵庫縣人丹波辰藏長男孝三に嫁せりA一八二一（神戸、野崎通三ノ五電葺合一七三五）
參照＝加輪上勢七、丹波辰藏、直木三郎、直木政之介※川岸愛三郎※坂堪※谷口茂雄※錦織宗の項

## 中亥歳男

衆議院議員（兵庫縣選出）、神戸市會議員、貿易商、徳島縣士族

妻　コハル　明一九、八生、西田與三吉長女
庶子　一男　明三七、一生、生母、兵庫、山田はる

君は徳島縣士族中精一の長男にして明治八年三月を以て生れ同二十七年家督を相續す貿易商を營み神戸市會議員にして昭和五年兵庫縣より推されて衆議院議員に當選し現に立憲民政黨所屬たり曩に神戸商工會議所副會頭に舉げらる妹ツヤ（明一二、八生）は岡山縣人槇尾傳之助二男次郎に同ハル（同一七、八生）は栃木縣人增田多郎弟朝男に同ツネ（同二一、九生）は福岡縣人渡邊岩多郎弟登美次に嫁せり（神戸、八幡通五ノ一二〇電葺合二三三七）

## 中辰之助

大阪農工銀行、和泉紡績、泉陽紡績、大阪窯業セメント各㈱取締役、岸和田貯蓄銀行、岸和田銀行、大阪窯業、大濱土地各㈱監査役　大阪府在籍

妻　スミ　明三、一〇生、養父克巳長女
婦　シン　明二一、一二生、亡長男左近妻、大阪、好田吉右衛門妹
孫　克人　大六、一二生、亡長男左近長男

君は大阪府に於て千餘年以前より連綿たる舊家にして代々庄屋役を勤めし家柄なり君實は大阪府人原文平の叔父にして明治元年四月を以て生れ先代エミの養子となり同十二年家督を相續す現時前記銀行會社の重役として知らる家族は尚孫サチ（大九、二生、亡長男左近長女）あり二男小左次（明二四、八生、法學士）は兵庫縣人川口平三郎の養子となり三男泰三（同二九、一二生）は分家し長女ヨネ（同二八、二生）は大阪府人信貴英藏に二女ヨシ（同三五、五生、堺高女出身）は同府人原イマ三男三郎に嫁せり（大阪、泉南、熊取村）
參照＝川口平三郎、信貴英藏※宇野亮一の項

## 中彌兵衛

大島織布㈱監査役、家主　大阪府在籍

養母　奈良江　文久三、六生、大阪、稻垣富藏長女
妻　トラ　明一〇、八生、大阪、島田德之助妹
養子　貞太郎　明二五、一〇生、養父彌兵衛庶子
婦　あさ　明三〇、三生、養子貞太郎妻、大阪、上林治三郎四女

君は滋賀縣人辻九兵衛の二男にして明治八年一月を以て生れ同三十一年先代彌兵衛の養子となり家督を相續

し前名留吉を改め襲名す家主にして傍ら前記會社の重役を兼ね曩に大阪金網會社代表社員たりし事あり家族は倘孫寅藏(大三、一二生、養子貞太郎二男)同房藏(同九、五生、同三男)あり(大阪、西、立賣堀北通四ノ五)

### 中井卯之助　三谷伸銅(株)取締役、十五銀行(株)玉造支店長、大阪府在籍

妻　ナカ　明二四、九生、大阪、藤本勘兵衞五女
男　正夫　大八、一〇生
女　千代子　大元、九生
女　俊子　大三、三生

君は大阪府人中井善右衞門の三男にして明治十八年九月を以て生れ同四十四年兄善之助方より分れて一家を創立す十五銀行に入り現時同行玉造支店長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙三女治子(大六、一二生)あり(大阪、住吉、北田邊町二六三電天王寺一六八八)

### 中井永一　東京中野銀行(株)頭取　東京府在籍

妻　ヒサ　明二二、一生、東京、須田鐵次郎妹
男　孝二　大五、三生

君は東京府人中井新右門の叔父にして明治十四年四月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す現に東京中野銀行頭取たり家族は倘長女登志子(大一一、一二生)あり(東京市外中野町三六三七電中野四二二八)
參照＝中井新右門※梅岡忠之助※高津伊兵衞の項

### 中井嘉市　千代田生命保險(互)廣島支部長　京都府在籍

妻　すゑ　明一五、一二生、東京、布施要藏養子
男　千代太郎　明三七、一二生

君は京都府人中井政之助の長男にして明治七年十一月を以て生れ同四十四年家督を相續す同二十九年關西大學法科を同三十一年明治大學法科を各卒業し千代田生命保險會社に入り現時廣島支部長たり長女沍子(明三五、一二生)は京都府人關目成道に妹ナミ(同二六、八生)は同府人尾崎汎太郎弟才市郎に嫁せり(廣島市大手町一ノ六電七四五)

### 中井一夫　従七位、辯護士　大阪府在籍

父　一馬　嘉永六、四生、現戶主
妻　隆　明三二、九生、兵庫、宮永恒太郎長女、神戶第一高女出身
男　國政　大一一、一一生

君は大阪府人中井一馬の五男にして明治二十二年十一月を以て生る大正六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し司法官試補に任じ次で判事に任ぜられ京都及神戶地方裁判所判事たりしが後官を辭し辯護士を開業し今日に至る曩に兵庫縣會議員同參事會員同市部會副議長に推され昭和三年兵庫縣より選ばれて衆議院議員に當選す家族は尙二男一(大一五、一生)兄一郎(明一一、八生、醫師)同妻喜美(同一四、一〇生、兵庫、本城眞治姉)及其子女あり兄一三郎(同一三、一一生)は其一子を伴ひ養兄四郎(同三、一〇生、大阪、士、杉田宜喜四男)は其二男五女を伴ひ各分家し兄義道(同一四、七生)も亦分家せり(神戶、中山手通四ノ一三電元町二一六〇)
參照＝富永恒太郎、中井四郎の項

### 中井一夫　第一銀行(株)深川支店支配人　島根縣士族

母　ミネ　嘉永六、四生、島根、松崎緣長女
妻　シヅ女　明一三、六生、島根、河野彌吉長女
男　猛夫　明三七、八生

君は島根縣士族中井千壽の長男にして明治六年八月を以て生れ大正六年家督を相續す先是明治三十一年第三高等學校法科を卒業し住友銀行に入り淺草支店長に累進す後東海銀行に轉じ第一銀行と合併後も引續き勤務し現時第一銀行深川支店支配人たり長女瑳知子(明三三、二生)は大阪府人福定與四郎に二女栲子(同三五、一〇生)は島根縣人齋藤暢夫に三女千枝子(同四一、四生)は東京府人岩崎良夫に嫁せり A三八八(東京市外井荻町下荻窪六三一電荻窪一四二一)

### 中井菊松　家主　大阪府在籍

妻　クラ　慶應二、一二生、京都、大島喜左衞門二女
男　菊太郎　明三七、二生
婦　繁　明三九、三生、二男菊太郎妻、滋賀、稻垣捨次郎二女
養子　定吉　明一七、一二生、長女ナカ夫、滋賀、善住善兵衞二男
女　ナカ　明二〇、九生、養子定吉妻

君は大阪府人中井元右衞門の長男にして安政七年八月を以て生れ明治九年家督を相續す家主たり家族は倘孫定夫(大元、一二生、養子定吉長男)同次郎(同三、一〇生、同二男)同廣子(昭三、三生、二男菊太郎長女)あり七女イト(明三五、三生)は大阪府人太田宗兵衞に嫁せり A五六八(大阪、東淀川、本庄西通二ノ九電北四九二三)
參照＝太田宗兵衞の項

### 中井國太郎　滿洲製粉(株)專務取締役、朝鮮製粉(株)取締役、鐵嶺取引所信託(株)監査役、東京府在籍

妻　重代　明一九、四生、高橋有方長女

君は愛媛縣人中井長作の二男にして明治九年六月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す同三十四年水産講習所を卒業し現時前記各會社の重役にして朝鮮製函木材會社監査役たりし事あり曩に農商務省海外貿易研究生として淸國に派遣せらる(東京、麻布、櫻田町四四電青山六二二八)

### 中井源左衞門　生絲商　滋賀縣在籍

妻　ちへ　明一九、一二生、京都、柳澤平五郎二女
養子　政文　明三三、一二生、長女みれ夫、京都、松阪廣政弟
女　みれ　明四〇、三生、養子政文妻

中井家は滋賀縣日野町に於ける草分けにして明治維新前迄は奧州仙臺に店舗を有し古着商を營み傍ら仙臺藩主伊達家の御金御用を勤め廢藩と共に京都市に轉じ生絲商を營み今日に至る君は先代源左衞門の長男にして明治七年七月を以て生れ同二十一年家督を相續し襲名して前名源吉郎を改む祖業を承けて生絲商を營み市內一流の店舗たり趣味として謠曲あり家族は倘孫脩太郎(昭五、九生、養子政文長男)あり姉ゑい(明五、一一生)は滋賀縣人守村儀一郎に妹しつ(同一〇、二生)は三重縣人川喜田里次郎に嫁し弟四郎(同一六、一一生)は同妻千枝(同二五、一生、滋賀、吉村儀兵衞長女)と共に分家せり A三二九三 B六〇二(京都、上京、今出川大宮西入ル電西陣三三五)
參照＝松阪廣政の項

### 中井光次　従五位、新潟縣書記官、警察部長　靜岡縣在籍

妻　みち　明三〇、六生、靜岡、黑田重兵衞二女
男　和彥　大一一、一生

君は靜岡縣人中井牛十郎の二男にして明治二十五年十月を以て生れ大正十四年家督を相續す同六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し福井縣屬となり爾來和歌山縣贊視同縣那賀西牟婁各郡長栃木縣理事官復興局事務官兼都市計畫兵庫地方委員會事務官岡山縣書記官學務部長鳥取千葉各縣書記官警察部長等に歷任し昭和五年前記現職に轉ず家族は倘二男晃(大一二、五生)四男恭正(同一五、二生)五男貞彥(昭三、五生)長女禮子(同五、四生)六男宗夫(生年月同上)あり(新潟市縣警察部內)
參照＝黑田重兵衞※黑田敬の項

### 中井三之助　従七位勳六等、中井商店、洋紙合同販賣各(株)取締役社長、王子製紙(株)監査役、越後屋、紙商　京都府在籍

父　三郎兵衞　嘉永四、一二生
繼母　ツタ　安政三、八生、京都、中木與右衞門二女
妻　ツル　明一四、三生、京都、木本茂兵衞妹
養子　庸三　大一二、一生、弟誠三郎長男

中井家は京都土着の商家にして往時は兩替商を營み同市屈指の資産家たりき中代に至り一時絕家せしが先々代三平乾家より入りて再興し三井吳服店に勤め功勞年あり後ち獨立して越後屋と稱し紙商を營み當家今日の礎を爲せり君は先代三郎兵衞の長男にして明治八年七月を以て生れ大正十一年家督を相續す中井一門の中樞人物にして現に中井商店社長たる外前記各會社の重役として知らる弟誠三郎(明二六、三生)同妻とく(同三四、一〇生、大阪、小原榮一郎姉)は其一子を伴ひ分家し同巳治郎(同一一、一生)も亦分家し妹きん(同一四、二生)は京都府人乾茂に嫁せり A八七一五(京都、中京、三條烏丸東入ル)
參照＝乾茂の項

### 中井四郎　工學博士、北海曹達(株)取締役會長、三井鑛山(株)取締役、東洋窯業工業彥島製煉所各(株)監査役　東京府在籍

妻　ヒテ　明一九、一生、奈良、平野話一郎長女
男　三郎　明三三、三生
婦　きみ　明三八、一〇生、三男三郎妻、山梨、松浦儀兵衞妹、甲府高女出身
女　雅枝　明四二、三生
女　妙子　明四四、三生
女　文子　大四、三生

君は大阪府士族杉田宜喜の四男中井一夫の養兄にして明治三年十月を以て生れ同府人中井一馬の養子となり大正八年分れて一家を創立す明治二十八年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し現時北海曹達會社取締役會長にして前記各會社の重役たり大正四年工學博士の學位を受く家族は倘七女喜久江(大七、一二生)孫令子(昭二、一一生、三男三郎長女)同三千子(同四、一生、同二女)あり A一四五七六(東京市外澁谷町金王二八電青山七三三六)
參照＝中井一夫、松浦儀兵衞※奧村正右衞門※平原重吉の項

### 中井正造　曾野商店(株)常務取締役　京都府在籍

父　庄左衞門　安政四、四生、京都、濱上庄兵衞長男
母　ノブ女　明三、七生、京都、小川市太郎二女
妻　清乃　明三〇、一二生、京都、武田ヌミ長女
男　光一　昭三、一〇生

君は京都府人中井庄左衞門の長男にして明治二十五年三月を以て生れ同三十六年家督を相續す現時有價證券賣買業曾野商店常務取締役たり家族は倘長女美惠子(大一五、三生)弟幸三(同元、一〇生)あり同恒三(明三〇、二生)同四郎(同三三、八生)は各分家せり(京都、左京、岡崎圓勝寺町九一ノ四五電上五一二二)

### 中井新右門　酒問屋業　東京府在籍

母　かれ　慶應三、一〇生、東京、小栗兆兵衞叔母

當家は其祖江州より出づ二百年來江戶に住し各藩御金御用達を勤め舊家として知られ歷代新右門を襲名す君は先代新右門の長男にして明治二十三年十月を以て生れ大正九年家督を相續し前名喜三郎を改む同四年慶應義塾理財科を卒業し祖業を繼ぎ酒問屋業を營む家族は倘妹鏡子(明三一、四生、跡見女學校出身)あり同幸(同二七、二生、出身校同上)は東京府人梅岡正吉三男忠之助に嫁し叔父永一(同一四、四生)弟貞三(同三三、九生)は各分家し叔母しん(同四、三生)は東京府人高津伊兵衞の母たり(東京、牛込、市谷田町二ノ三二電牛込一八〇二)
參照＝梅岡忠之助、小栗兆兵衞、高津伊兵衞、中井永一※梅岡正吉※玉塚榮次郎※星野友七の項

### 中井關藏　日ノ出金屬(株)社長、黑崎電機製作所(株)代表取締役、明石商工(株)取締役、電氣諸工事請負業　兵庫縣在籍

妻　キクヨ　明六、八生、兵庫、角口重吉二女
養子　關次郎　明三二、一〇生、兵庫、中井榮太郎二男
婦　品子　明三八、四生、養子關次妻、兵庫、伊藤研次長女

君は兵庫縣人中井忠兵衞の二男にして明治元年十月を以て生れ大正三年兄榮太郎より分れて一家を創立す電氣諸工事請負業を營み傍ら前記各會社の重役たり(神戶、北長狹通八ノ五一電元町一四二〇)

### 中井辰之助　中井鐵道機械製作所(資)代表社員、鐵道保安裝置請負業、東京府在籍

妻　チヨ　明一三、一生、神奈川、鈴木正男妹
男　辰三　大二、七生

君は東京府人中井八郎助の二男にして明治十一年四月を以て生れ同二十七年家督を相續す鐵道保安裝置請負業を營み現時中井鐵道機械製作所代表社員たり A三二〇(東京市外品川町北品川宿四八〇電高輪四一四六八)

### 中井長三郎　橫濱正金銀行(株)調査課長　和歌山縣士族

妻　ヒテ　明一九、九生、東京、多田忠兵衞二女
男　芳一　大六、九生
女　靜　大二、四生
女　政　大三、一一生
女　光　大五、三生

君は和歌山縣人中井新次郎の二男にして明治十一年一月を以て生れ先代芳楠の養子となり同三十六年家督を

相續す同三十二年東京高等商業學校に學び獨國民顯大學を出で横濱正金銀行に入り其後同行に在職のまゝ共益不動産會社取締役たりしも現時横濱正金銀行調査課長たり家族は尚ほ二男楠夫(大一一、五生)五女花(同一五、四生)ありA三三四六(東京、本鄕、駒込千駄木町五七電小石川三三六六)

**中井德太郎**　共信商事㈱取締役、中井德商會㈴代表社員、大阪府在籍
母　ノ　ブ　安政三、四生、和歌山、川口清兵衞二女
妻　千　代　明三六、八生、大阪、東代清次郎妹
君は大阪府人中井德次郎の長男にして明治三十一年八月を以て生れ大正三年家督を相續す同十一年慶應義塾大學理財科を卒業し中井德商會代表社員にして傍ら現時前記會社の重役たり姉きみ(明二二、八生)は其夫利正(同一六、三生、大阪、秋山利平二男)と共に其子女を伴ひ分家せり(大阪、東、博勞町二ノ六七電船場二五七〇)
參照＝中井利正の項

**中井利正**　日本印刷材料、共信商事各㈱代表取締役、日本エッチピー特許製版、關西鑄造所、精版印刷、東洋錫紙各㈱取締役、中井德商會㈴代表社員、大阪府在籍
妻　き　み　明二二、八生、中井德太郎姉
男　正太郎　大二、一二生
女　ま　さ　大五、八生
君は奈良縣人秋山利平の二男にして明治十六年三月を以て生れ後中井德太郎の養子となり大正十三年分れて一家を創立す明治四十年東京高等工業學校紡織科を卒業し現時前記諸會社の重役たり家族は尚二男寛三(大八、九生)二女よし(同一〇、一二生)三男道夫(同一二、七生)あり(大阪、天王寺、眞法院町七一電南三一二五)
參照＝中井德太郎の項

**中井豐一**　大豐、島料理業、大阪府在籍
養母　ろ　く　文久三、一〇生、大阪、木田山三郎妹
妻　ケ　イ　明三三、七生、大阪、岡村庄兵衞養子
男　秀　夫　大一三、一二生
君は大阪府人中井米次郎の長男にして明治三十一年十一月を以て生れ大正六年先代弟政平の後を承け家督を相續す大豐と稱し島料理業を營む家族は尚ほ長女佳子(大一四、一二生)二男昭(昭二、三生)ありA四八四〇(大阪、南、南炭屋町二二電南三八一)

**中井虎六郎**　海外興業㈱取締役、海南産業㈱監査役、熊本縣在籍
妻　ミチヨ　明一五、三生、熊本、長島德次郎長女
養子　亮　作　明一八、三生、父郡吉四男
婦　ヨシエ　明二四、一一生、養子亮作妻、熊本、長島賢政妹
庶子　秀　雄　明四三、一〇生、生母、熊本、木原ツヤ
君は熊本縣人中井郡吉の長男にして明治五年十月を以て生れ大正五年家督を相續す明治二十五年早稻田大學邦語政治科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尚孫國臣(大二、一〇生、養子亮作長男)同武臣(同一四、三生、同二男)甥大四郎(同三、一〇生、分家弟勵作四男)あり弟勵作(明一二、一生)同妻秋(同二〇、一〇生、東京、神山國次妹)は其子女を伴ひ分家せりA二二三(東京市外碑衾町碑文谷一四四七ノ七電荏原八三五)
參照＝中井勵作※田淵敬治※久島精一の項

**中井半三郎**　醬油醸造業　東京府在籍
母　ツ　ネ　明一四、五生、千葉、高梨兵左衞門伯母
妻　龜　人　明三八、三生、東京、木村源兵衞孫
中井家は代々京橋に住し森田屋と稱し酒醬油問屋業を營みし舊家にして先代半三郎に至り東京醬油問屋組合を設立し奮闘努力今日の大をなせり君は其孫にして菊太郎の長男なり明治三十五年四月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名太一郎を改め襲名す慶應義塾大學政治科を卒業し家業醬油醸造業を營み又嚢に東京府醬油問屋組合會頭に擧げらる和歌を嗜み三田歌抄編纂の任に在り家族は尚長女道(昭三、五生)ありA三四七三(東京、麻布、笄町一四五電青山四八〇七)
參照＝高梨兵左衞門の項

**中井利兵衞**　中井利兵衞商店㈱代表取締役、天王寺信託㈱取締役、船舶運送業　兵庫縣在籍
妻　千　榮　明二四、三生、京都、田丸市次郎妹
男　利太郎　大二、三生
女　悦　子　大五、一生
君は兵庫縣人先代利兵衞の二男にして明治二十年一月を以て生れ同三十八年家督を相續し襲名す船舶運送業を營み中井利兵衞商店代表取締役にして前記會社の重役たり嚢に和氣鐵線工場取締役稗島土地會社監査役たりし事あり家族は尚三女秀子(大一一、一一生)三男善次郎(同一五、五生)あり弟清次郎(明二三、一一生)同妻つれ(同二八、二生、東京、伊東勝三郎妹)は其三子を伴ひ分家せり(兵庫、武庫、住吉村濱新田九三四ノ一)
參照＝田丸市次郎の項

**中井陸雄**　朝鮮電氣興業㈱取締役兼炭鑛部長　和歌山縣在籍
妻　千　代　明三六、九生、兵庫、石川環二女
男　一　几　大一二、九生
君は和歌山縣士族中井參裕の六男にして明治十九年二月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す同四十四年京都帝國大學理工科大學土木科を卒業し現時朝鮮電氣興業會社取締役兼炭鑛部長たり嚢に朝鮮無煙炭鑛會社技師長たりし事あり家族は尚長女久代(大一四、三生)二女三代(同一五、八生)三女經子(昭三、一生)あり(朝鮮平壤府外船橋里社宅)

**中井勵作**　正四位勳二等、製鐵所長官　東京府在籍
妻　ツ　ネ　明二一、三生、佐賀、古賀甲三妹
男　敏　夫　明四二、一〇生
君は熊本縣人中井郡吉の二男にして明治十二年一月を以て生れ大正九年兄虎六郎方より分れて一家を創立す先是明治三十六年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し同年文官高等試驗に合格す爾來農商務省試補山林事務官大林區署長大臣官房文書課長同會計課長特許局長山林局長農商務次官等に歴任し現時製鐵所長官たり家族は尚二男文夫(明四五、七生)三男武夫(生年月同上)五男五郎(大一一、九生)二女てつ子(同一四、六生)六男陽作(昭三、三生)あり長女春子(明四〇、一生、聖心女子學院出身)は東京府人石井萬次郎長男英之





助に嫁せり(八幡、高見町一丁目製鐵所長官々舍電四三〇)
參照＝中井虎六郎の項

**中居篤次郎**　日本絹織㈱取締役、日本土地商事北海道土地各㈱監査役　滋賀縣在籍
妻　辰　江　明二六、二生、東京、多忠久三女
養子　經太郎　明三〇、六生、五女浪子夫、滋賀大橋太一郎四男
女　浪　子　明四一、二生、養子經太郎妻、京都府立第一高女出身
中居家は舊くより滋賀縣下長濱町に定住し代々酒造業を營み庄屋役を勤めたる家柄なり君は先代與平の長男にして明治八年十月を以て生れ同十六年家督を相續す夙に實業界に入り同二十九年琵琶製絲會社を興し推されて社長となり其間美濱縮緬の製法を工夫し專賣特許を受く同四十二年日本生命保險會社近江總代理店の囑託を受け我國生命保險代理店中の首位を占む現時前記各會社の重役として知らる謠曲に趣味を有す二女喜美子(明三五、四生、長濱高女出身)は京都府人山田末造に三女一子(同三六、六生、京都府立第一高女出身)は滋賀縣人奥井金治郎に嫁し四女京子(同三九、三生、京都高女出身)は同縣人馬場すゑの養子となり妹智(同一三、三生)は分家せり(滋賀、坂田、長濱町)

**中居豐三郎**　池田商店㈱取締役　兵庫縣在籍
妻　シュン　明九、五生、德島、澤田初次郎養子
男　富太郎　明三一、八生
婦　ツ　ネ　明三六、七生、二男富太郎妻、兵庫、相羽恒次長女
女　みすゑ　明二八、一一生
君は兵庫縣人中居淨畝の二男にして文久元年九月を以て生れ明治二十一年家督を相續す現時池田商店取締役にして嚢に伊豫陶器會社取締役たりしことあり家族は尚六男篤郎(大五、八生)孫哲(昭二、三生、二男富太郎長男)あり長女みち(明二七、二生)は熊本縣人吉村瀧藏弟鮫に三女その(同三五、八生)は山梨縣人鮎川善哉に五女タヘ(同三八、九生)は滋賀縣人木原喜代藏に嫁し三男松郎(同三三、八生)は兵庫縣人大路環に六女さよ(同四二、九生)は廣島縣人野田文一郎に四男三郎(同四四、一二生)は愛媛縣人曾根忠雄に五男逢三(大三、一二生)は京都府人三上ゑいに各養子となれり(神戸、中山手通六ノ八四)
參照＝大路環、野田文一郎の項

**中内久太郎**　日本紙業㈱副社長　高知縣在籍
妻　丑　衞　明三、八生、高知、中田相次長女
男　忠一郎　明三四、一生
婦　千鶴子　明四二、三生、長男忠一郎妻、高知、弘田耕禧姉
養子　鹿　吉　明二一、一生、長女藤雄夫、高知毛利虎三郎二男
女　藤　雄　明二二、一二生、養子鹿吉妻
養子　朝　吉　明二六、八生、二女秀夫、高知、岡田慶次四男
女　秀　明二六、一二生、養子朝吉妻
男　宗　輔　明四〇、一二生
男　幸　治　明四四、一〇生
君は高知縣人中内重吉の長男にして慶應三年四月を以て生れ明治三十七年家督を相續す現時日本紙業會社副社長たり嚢に土佐紙會社社長たり家族は尚孫正憲(大六、一二生、養子鹿吉二女)同富子(同九、七生、養子朝吉長女)同茂樹(同一一、一生、同二男)同淸子(同一二、一生、同二女)同敏子(昭四、一一生、同四女)あり三女英子(明三〇、五生)は高知縣人高根權三郎に嫁し弟彌三郎(同二、九生)同妻玉(同七、四生、高知、澤本嘉吉郎姉)は其一女を伴ひ弟松次(同一〇、四生)同妻駒(同一六、一生、高知、横川常太郎長女)は其三女を伴ひ各分家せり(高知、吾川、伊野町)
參照＝中内松次の項

**中内鉉一郎**　藤倉工業㈱取締役、巴川製紙所㈱監査役、藤倉學園理事長　東京府在籍
母　さ　だ　明四、四生、東京、士、矢澤長次長女
君は東京府人中内春吉の長男にして松本留吉の甥同新太岡田顯三の從弟なり明治二十七年七月を以て生れ大正九年家督を相續す現時藤倉工業會社取締役の外前記會社の重役たり尚祖母藤倉ミヨは慈悲善根を以て知られ藤倉一家亦其遺志を繼ぎて藤倉學園を經營し君は其理事長として社會育英の事に盡瘁す家族は尚長女慶子(大一〇、一一生)二女千賀子(同一二、一一生)三女鈴(同一四、一〇生)弟德司(明三四、八生)同桂二(同三九、三生、明大商學部出身)同妻佐喜子(同四一、三生、栃木、關口茂三治三女、三輪田高女出身)及其一女ありA六二六五(東京、麹町、下二番町四八電九段六二二五)
參照＝岡田顯三、關口茂三治、松本新太、松本留吉※高橋武美の項

**中内彦兵衞**　丸見屋、大阪壽司商　東京府在籍
妻　江　伊　明二三、一〇生、愛媛、則包茂治郎長女
養子　茂　喜　大五、三生、高知、中内淸三男
養子　きみ子　大四、二生、高知、中内淸長女
君は高知縣人中内茂次郎の二男にして明治十八年十二月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す丸見屋と稱し大阪壽司商を營むA三四六二B八八二(東京、京橋、銀座四ノ一ノ三電京橋一六七〇)

**中内松次**　日本紙業㈱常務取締役、大海堂㈱取締役、高知縣在籍
妻　辰　衞　明一八、九生、高知、安岡茂種妹
男　一　雄　大六、六生
女　韻　子　明四〇、八生
女　當　子　明四一、一一生
女　君　子　大二、五生
君は高知縣人中内重吉の三男にして明治十年四月を以て生れ同四十四年兄久太郎方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役たり家族は尚二男勉(大九、九生)あり長女久子(明三七、一一生)は高知縣人上田藤十郎に嫁せり(高知市鷹匠町)
參照＝中内久太郎の項

**中江勝治郎**　三中井呉服店㈱取締役　滋賀縣在籍
妻　き　み　明一三、四生、滋賀、奥井和平長女
養子　修　吾　明三九、一二生、滋賀、河井粂治郎四男
婦　美　代　明四三、七生、養子修吾妻、滋賀福永太良左衞門長女
君は滋賀縣人先代勝治郎の長男にして明治五年一月を以て生れ同三十年家督を相續し前名善藏を改め襲名す呉服商を營み現時三中井呉服店取締役たり大正十三年北米を視察す家族は尚孫巖(昭五、七生、養子修吾長男)あり弟富十郎(明一一、七生)同妻しを(同二三、一生、滋賀、坪田隆一姉)は其子女を伴ひ同準五郎(同一

九、一生)同妻タネ(同二三、一〇生、滋賀、村田佐太郞姉)は共に各分家せり(滋賀、神崎、南五ケ莊村)

## 中江種一

中江產業(資)社員　京都府士族

父　種造　弘化三、二生、現戶主
妻　ゆり　明二五、一一生、貴族院議員渡邊暢三女
男　種臣　明四四、一生
女　妍子　明四三、一一生、東京府立第二高女出身

君は京都府士族中江種造の長男同龍二同盛三の兄にして明治十四年十一月を以て生る同四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現に父を輔けて中江產業合資會社員たり家族は尙ほ二男孝男(大二、四生)三男昭男(同四、三生)四男幸男(同一五、一生)ありA五三八(京都、中京、富小路夷川上ル大炊町三四八電上七三八)
參照＝中江種造、中江盛三、中江龍二、渡邊暢※石川千代松※立花貫一郞の項

## 中江種造

京都府多額納稅者、但馬合同銀行(株)取締役、中江產業(資)社員、鑛山業、京都府士族

妻　ハル　明七、二生、京都、二木芳泰長女
男　種一　明一四、一一生
男　盛三　明二二、五生
男　贇市　明二四、一生、早大政治經濟科出身
婦　しづ　明三六、二生、四男贇市妻、兵庫佐伯元三長女
男　蕃夫　明四二、四生
庶子　二三雄　明三二、九生、生母、吉峯コマ、工學士、中江產業(資)社員
婦　和子　明四三、三生、庶子二三雄妻、東京、南一長女
養子　志女子　大二、五生、東京、佐藤信侚養子

中江家は元豐岡藩士なり君亦同藩士河本統右衞門の三男にして弘化三年二月を以て生れ幼にして先代農吉の養子となり家督を相續す藩主に仕へ多く京都御所の守護に當り維新後造幣局に勤務し次で生野鑛山局詰を命ぜられ當時外人に就き專ら採掘其他に關する智識を養ひ後官途を辭して鑛業に志し幾多の障碍を排して遂に今日の富を築けり中江產業合資會社は特に中江家一族の爲に設立したるものなり現時家業鑛山業の傍ら前記會社の重役を兼ね同府多額納稅者にして直接國稅五千六百十五圓を納む曩に寶林銀行頭取に擧げられし事あり長女光(明九、九生)は廣島縣士族福田祿太郞弟祐二に二女線(同一三、二生)は熊本縣士族宮川直哉弟清に三女直(同一八、六生)は長崎縣人田川大吉郞に四女豐子(同二二、一生、京都府立第一高女出身)は東京府人宮崎勝太郞に五女道子(同三三、三生、出身校同上)は同府人齋藤直一に六女幸子(同三六、五生)は同府士族船尾榮太郞長男桂一に庶子博子(同三六、八生、生母、吉峯コマ)は同府人本野亨三に養子あし(同二六、六生、兵庫、水垣儀三郞長女)は同府士族關正雄に嫁し二男龍二(同一六、一二生)は其妻子を伴ひ分家せり(京都、中京、富小路夷川上ル大炊町三四八電上七三八)
參照＝關正雄、田川大吉郞、中江種一、中江盛三、中江龍二、船尾桂一、宮崎勝太郞※小熊捍の項

## 中江忠兵衞

兵庫縣多額納稅者、大神土地建物、帝國信榮、湊川溫泉各(株)取締役、家主、兵庫縣在籍

妻　ヱン　明一七、六生、大阪、細井與三郞姪
男　忠藏　明四四、一〇生
女　雪枝　明四〇、七生

君は兵庫縣人中江忠右衞門の長男にして明治十五年十二月を以て生れ同三十六年家督を相續す家主にして傍ら前記各會社の重役を兼ね縣下の多額納稅者たり家族は尙四男丈祐(大八、七生)四女千代子(同一〇、七生)五女富子(同一三、九生)あり長女喜美枝(明三六、一二生)は分家せり(神戶、塚本通五ノ一〇七電湊川四一七五)

## 中江利郞

從五位勳五等、畜產試驗場技師兼種羊場技師、畜產試驗場第三部主任、京都府在籍

妻　靜枝　明二九、三生、福井、藤井清作四女
男　淳一　大一〇、八生

君は京都府人中江磯次郞の四男にして植垣彌一郞の弟なり明治二十二年九月を以て生れ後前名米次を改め昭和五年分れて一家を創立す大正四年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し畜產試驗場技手を經て同八年同技師に任じ同十二年種羊場技師を兼ね今日に至る曩に歐米各國に出張す家族は尙長女美穗子(大七、五生)二女千枝子(同一四、三生)二男利昭(昭三、三生)三男利忠(同四、一〇生)四男利孝(生年月同上)あり(千葉市畜產試驗場官舍)
參照＝植垣彌一郞の項

## 中江信彥

丸十商會(株)取締役、大阪レコード石鹼(株)監査役、大日本人造肥料(株)大阪支店會計課長、大阪府士族

妻　セツ　明八、三生、福岡、矢野彝太郞二女
男　司郞　大一三、二生
養子　俊一郞　明二七、三生、長女佐代子夫、大分、古殿卯市甥
女　佐代子　明三四、八生、養子俊一郞妻
女　路子　明三八、六生
女　貞子　明四二、一一生

君は大阪府士族中江正直の二男にして明治五年八月を以て生れ同二十三年家督を相續す現時大日本人造肥料會社大阪支店會計課長にして前記各會社の重役たり家族は尙五女正子(大六、二生)孫安正(同一五、六生、養子俊一郞長男)同義人(昭三、六生、同二男)あり(大阪、天王寺、上之宮町五一電南三九二〇)

## 中江盛三

但馬合同銀行、梅田製銅所各(株)監査役、中江產業(資)社員、京都府士族

父　種造　弘化三、二生、現戶主
妻　辰　明二九、三生、山形、石原重臣妹
男　正典　大一四、二生

君は京都府士族中江種造の三男同種一同龍二の弟にして明治二十二年五月を以て生る大正三年明治專門學校冶金科を卒業し現に父を輔けて中江產業合資會社員にして外前記銀行會社の重役たり家族は尙ほ長女佐和子(大一一、八生)ありA八四一三(京都、中京、富小路竹屋町下ル電上七三八)
參照＝中江種一、中江種造、中江龍二の項

## 中江龍二

日高紡績、高砂香料各(株)取締役、中江產業(資)代表社員、鑛山業、京都府士族

妻　富子　明二七、八生、子爵京極高篠妹
男　龍夫　大元、一〇生

君は京都府士族中江種造の二男同種一の弟同盛三の兄にして明治十六年十二月を以て生れ昭和五年分れて一家を創立す明治四十四年北海道帝國大學農科大學を卒業し更に京都帝國大學工科大學に學び後家業を擔任し現に中江產業合資會社代表社員たる外前記各會社の重役たり家族は尙長女淳子(大一一、六生)ありA三一四九五(京都、中京、富小路竹屋町下ル)
參照＝子爵京極高篠、中江種一、中江種造、中江盛三※子爵有馬聰頼※子爵池田政時※子爵入江爲守※子爵京極高備※子爵本多忠鋒※京極俊次郞※川口義久※關正雄※船尾桂一の項





## 中尾篤

資產家、大阪府在籍

妻　幸子　明三一、五生、兵庫、紅野太郞二女
男　友次　大八、二生

君は兵庫縣人紅野善一の二男同善三郞の弟にして明治二十一年十一月を以て生れ先代かつの養子となり大正七年家督を相續す資產家たり家族は尙二女千佐子(大一三、二生)三女伊津子(同一五、六生)あり長女恒子(同六、三生)は養母かつの死跡を相續せりA一八八三(大阪、天王寺、眞法院町五三電南二八六八)
參照＝紅野善一、紅野善三郞、紅野太郞の項

## 中尾卯作

福岡縣多額納稅者、成巳屋本家、酒造業、福岡縣在籍

妻　キクヱ　明三二、一〇生、福岡、平島覺之助長女
男　榮三郞　大一一、九生
女　久　大五、一二生

君は福岡縣人先代卯作の長男にして明治二十四年十月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名卯一郞を改め襲名す酒造業を營み成巳屋本家と稱し縣下の多額納稅者にして直接國稅一千八百二十二圓を納む家族は尙姉タケ(明一五、三生)及其一子同リヨウ(同二一、一生)あり同ジツ(同二三、八生)は福岡縣人小藤壯三郞長男平太郞に妹ツヨ(同二九、一生)は同縣人石井眞雄に叔母ミツ(同二六、三生)は同縣人木原武三郞に嫁せり(福岡市博多橋口町八三電二一五)

## 中尾義三郞

大分縣多額納稅者、大分貯蓄銀行南洋護謨各(株)取締役、大分縣在籍

妻　チヨ　文久二、八生、大分、山田善七郞二女
男　十三郞　明一三、八生
男　清　明二七、四生
婦　貞子　明三八、三生、四男清妻、大分、渡邊正一郞妹
男　四郞　明三四、二生

君は大分縣人辛島友八郞の長男にして嘉永六年七月を以て生れ先代喜平の養子となり明治十三年家督を相續す現時前記銀行會社の重役にして直接國稅二千三百三十四圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫千枝子(昭二、一生、四男清長女)あり三女ムツ(明一六、二生)は大分縣人守田貞三に四女イチ(同二一、九生)は同縣人有永義孝に五女タツ(同二五、九生)は同縣人宇佐美力に六女園子(同三一、六生)は北海道人箕浦多一に嫁し三男安吉(同二三、五生)は大分縣人山田チヨの養子となれり(大分市大分九七七)

## 中尾藏之助

常磐銀行、下館銀行、茨城貯蓄銀行、茨城製氷各(株)取締役、久下田銀行(株)監査役、茨城縣在籍

養父　信一郞　弘化元、一〇生
妻　ゑう　明一二、一生、茨城、秋葉李之助四女
男　彥三郞　明三〇、五生
婦　シマ　明三四、三生、四男彥三郞妻、茨城、鹽谷助三郞二女
男　好夫　明三六、一生
婦　てふ　明四一、九生、五男好夫妻、茨城中尾市次郞四女
男　仲　明四二、四生

君は栃木縣人持田泉の二男にして文久二年六月を以て生れ先代信一郞の養子となり明治十六年家督を相續す現時前記各銀行會社の重役たり家族は尙七男喜久(明四五、一生)八男正(大四、七生)孫よし子(同一〇、一〇生、四男彥三郞長女)同光(同一二、一〇生、同二女)同富子(同一四、八生、同三女)同元一(昭二、一〇生、同長男)同武二(同四、一二生、同二男)あり二男彌四郞(明二三、三生)養叔父若三郞(嘉永五、七生)は各分家し長女つれ(明一五、一生)は茨城縣人小野村角兵衞長男繁之助に二女まさ(同一九、七生)は栃木縣人古島庄助三男三郞に三女きく(同二一、六生)は同縣人金田安之丞長男英敏に四女たけ(同三一、七生)は同縣人角田光一に養妹もと(慶應三、六生)は茨城縣士族太田誼正長男寧に同かつ(明一三、二生)は栃木縣人古島歌之助に嫁せり(茨城、眞壁、竹島村)

## 中尾十郞

愛知縣多額納稅者、名古屋循環自動車、愛知產業各(株)取締役、東三委託(株)監査役、鍋釜製造業、愛知縣在籍

妻　里喜　明二二、一一生、愛知、植田七三郞四女
男　福三　明三七、四生
女　みな　大三、六生

君は愛知縣人竹內傳八郞の三男にして明治十四年七月を以て生れ先代房の養子となり大正五年家督を相續し前名三次を改む鍋釜製造業を營み傍ら前記會社の重役にして縣下の多額納稅者たり家族は尙二男佐助(大五、八生)五女きよ(同七、三生)六女ふき(同八、五生)三男武平(同一〇、四生)あり長女かれ(明四〇、一生)は栃木縣人岩崎清七長男清一郞に二女まさ(同四二、六生)は東京府人辻山治平に嫁せり(愛知、寶飯、豐川町)
參照＝岩崎清七の項

## 中尾眞吉

東洋工業社(株)專務取締役、日本セメント(株)取締役、神奈川縣在籍

妻　はる　明一二、一生、養父安五郞養子、東京、岩崎牛藏長女
女　吟子　明四三、九生

君は神奈川縣人前川文平の長男にして明治十二年八月を以て生れ先代安五郞の養子となり大正五年家督を相續す夙にアメリカン・トレーディング・カンパニーに入り東京支店機械部主任に擧げらる現時東洋工業社專務取締役の外前記會社の重役たり演劇音樂等を趣味として特に撞球に於ては名手として知らる長女明(明四〇、一二生)は群馬縣人若林秀一に嫁し三男治郞(大三、一生)は神奈川縣人前川知二の死跡を相續し三女靜子(同七、四生)は東京府人青木マサの養子となれりA二八〇(東京市外千駄ケ谷町八六六電四谷五八三六)

## 中尾友三郞

從五位勳五等、檢事、船木區裁判所檢事、愛知縣在籍

母　さし　安政五、八生、愛知、西山坂藏二女
妻　豐子　明二四、五生、兵庫、士、塚本篤妹
男　新一　大五、二生
女　弘子　明四三、六生
女　すみ　大三、三生

君は愛知縣人中尾新吉の長男にして明治十四年十月を以て生れ同三十七年家督を相續す同三十九年明治大學を卒業し同四十年判檢事登用試驗に及第し同四十二年檢事に任じ爾來弘前區青森區兼同地方八戶區札幌區兼同地方兼室蘭區同區木本區御高區高梁區兼岡山地方高梁支部松山地方兼同區今治區各裁判所檢事に歷補し昭和三年船木區裁判所檢事に轉じ今日に至る家族は尙三女三重子(大七、五生)二男吉二(同一〇、一生)弟愛治(明二〇、七生)同妻れい(同二九、一二生、愛知、市川金藏長女)及其三子弟八郎(同二〇、八生)同妻他枝(同三四、四生、石川、由比周吉長女)及其二女あり(山口、厚狹、船木町區裁判所檢事局內)

**中尾滿三郎**　大村銀行、波佐見銀行各(株)監查役　長崎縣士族

妻　セイ　明一一、一生、長崎、士、內山忠左衞門二女
男　忠市　明四四、一〇生
女　テイ　大三、九生

君は長崎縣士族中尾市藏の二男にして明治八年十一月を以て生れ同三十二年家督を相續す現時前記各銀行の重役たり家族は尙三男義市(大九、七生)あり二女イチ(明四〇、一二生)は長崎縣人田崎重郎二男太助に嫁せり(長崎、東彼杵、川棚村)
參照＝田崎重郎の項

**中尾芳助**　從四位勳三等、判事、大審院判事　靜岡縣在籍

妻　ロク　明一一、七生、東京、士、橫井太郎妹
孫　博　昭二、九生、亡長男秀雄長男
男　雄吉　明三六、三生
婦　靜枝　明三八、一一生、二男雄吉妻、東京、鈴木金五郎長女
男　久雄　明三八、四生
男　貞雄　明四二、六生
男　恒雄　明四四、一〇生

君は山口縣士族中尾山助の二男にして明治五年四月を以て生れ先代治良の養子となり同二十四年家督を相續す同二十六年獨逸學協會學校專修科を卒業し同三十一年判檢事登用試驗及辯護士試驗に及第し同三十三年判事となり東京區同地方浦和地方各裁判所判事東京控訴院判事に歷補し大正八年大審院判事に轉じ現在に至る刑事訴訟法指掛評釋新民事訴訟法等の著書あり家族は尙六男俊雄(大九、八生)孫絢子(昭五、八生、二男雄吉長女)あり七男政雄(大一一、一生)は大阪府人齋藤喜市の養子となれり(東京市外大久保町百人町二五九)

**中尾琳三**(都山)　都山流尺八宗家　大阪府在籍

男　治正　大二、三生
女　鏧子　大四、八生

君は大阪府人中尾治郎平の二男にして明治九年十月を以て生れ昭和二年兄寅吉方より分れて一家を創立す都山流尺八宗家として知られ大正四年露國傷病兵慰問の爲モスコー及レニングラードに赴く都山流尺八樂譜二百數十種を著はす家族は尙四男琇三(大一〇、二生)三女東海惠(同一二、二生)ありA六一三(東京、赤坂、表町三ノ三一電青山一七六)

**中岡喜助**　和歌山縣多額納稅者、和歌山銀行(株)常務取締役、紀伊貯蓄銀行、和歌山瓦斯、和歌山紀三井寺土地各(株)監查役、綿布商、和歌山縣士族

妻　ツルヱ　明三〇、八生、和歌山、中岡喜助四女
男　德次郎　明四一、四生、京都帝大在學
男　喜代造　明四三、五生、和歌山高商在學

君は和歌山縣人岩崎卯吉の長男にして明治十四年十二月を以て生れ先代かめの養子となり大正十年家督を相續し前名隆三を改む綿布商を營み現時前記銀行會社の重役にして直接國稅一千五百八十圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙三男善三郎(大二、七生)四男正幸(同八、二生)二女貞子(同一五、五生)あり養母かめ(明一〇、六生、和歌山、中岡喜助二女)は分家し養妹玉枝(同三七、一生)は奈良縣人上西源一郎二男龍之助に嫁せり(和歌山市北新金屋町一九)

**中岡俊男**　昭和電力(株)取締役、大同電力(株)理事、奈良縣在籍

母　ナオ　元治元、九生、奈良、井岡喜太郎二女
庶子　尹之助　大六、三生、生母、奈良、飯降キヌヱ

君は奈良縣人中岡利平の長男にして明治十六年十一月を以て生れ大正五年家督を相續す同三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時大同電力會社理事にして兼ねて昭和電力會社取締役たり弟利一(明二三、一二生)同妻マツヱ(同二七、七生、奈良、今窪幸太郎長女)は其一子を伴ひ分家し妹ミツヱ(同二七、四生)は奈良縣人德西義輝に同梅枝(同三五、一一生)は同縣人勝井周藏孫忠信に嫁せりA一〇〇七(名古屋、東、白壁町二ノ六電東七一二五)

**中岡孫一郎**　日本興業銀行(株)神戶支店支配人　和歌山縣在籍

父　幸太郎　元治元、一生、現戶主

君は和歌山縣人中岡幸太郎の長男にして明治十八年六月を以て生る大正二年東京高等商業學校專攻科を卒業し日本興業銀行に入り貸付割引係主任祕書役日本橋支店支配人等を經て同十二年神戶支店支配人となり現在に及ぶ家族は尙弟徹三(明三五、一〇生)同妻タミヱ(同三六、二生、和歌山、庄路應藏長女)及其三子あり同憲之助(同二一、一二生)は和歌山縣士族厚田松太郎の養子となり妹ひろ(同二八、一生)は奈良縣人松下仙太郎に嫁せりA一八四(神戶、上筒井通六ノ三七電葺合四七〇)

**中岡義隆**　三菱銀行(株)京都支店副長　東京府士族

妻　晴　明二七、四生、島根、士、中隈輝武妹
男　健一　大四、三生

君は東京府士族中岡義道の二男にして明治十九年八月を以て生れ同二十一年家督を相續す同四十三年慶應義塾理財科を卒業し現時三菱銀行京都支店副長たり家族は尙二男泰二(大六、一二生)二女英子(同九、一生)三男榮三(同一一、一二生)三女美代子(同一四、六生)ありA一七八(京都、上京、小山中溝町一六電西二二四三)

**中垣竹之助**　三幸商會(株)取締役社長、石炭商　東京府在籍

君は和歌山縣人中垣保の長男にして明治四十年一月を以て生れ大正十三年家督を相續す石炭商を營み曩に三幸商店を經營せしが後組織を株式に改め三幸商會を設立し現に同社取締役社長たり家族は尙妹昌子(明四一、一〇生)同幸子(大三、六生)あり姉俊子(明三七、八生)は他に嫁せり(東京、京橋、本湊町一ノ一四ノ一電京橋九六二)

**中金鍋三**　正五位勳五等、農林技師、山林局勤務、東京府士族





養母　みつ　慶應元、一一生、東京、士、仲又七郎姉
妻　三枝子　明一九、一生、東京、小山田銓太郎三女
男　正彥　大七、一一生
女　照子　明四二、五生
女　晴子　明四三、一〇生
女　廣子　大二、三生

君は栃木縣士族本多鐐吉の三男にして明治十八年一月を以て生れ先代政二郎の養子となり大正二年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し山林技手林務技手同技師山林技師愛知縣技師農商務技師農林技師等に歷任し其間宮城大林區仙臺小林區各署長愛知縣產業部林務課長等を經て現に山林局勤務たり昭和四年歐米各國へ出張し同五年歸朝す家族は尙二男武彥(大九、四生)三男吉彥(同一〇、五生)四男英彥(同一四、六生)あり(東京、牛込、二十騎町一一)

**中上友三郎**　正五位勳五等、判事、熊本區裁判所監督判事、福岡縣士族

妻　ハルコ　明二〇、一生、愛媛、士、大西克孝長女
男　克巳　明四四、四生
女　ハナ子　明四二、四生
女　さき子　大四、九生

君は福岡縣士族中上代八郎の三男にして明治十四年二月を以て生れ大正四年家督を相續す明治四十年京都帝國大學法科大學を卒業し同四十二年判事に任じ佐世保區長崎地方各裁判所判事を經て臺灣總督府法院判官に轉じ臺北地方法院覆審法院臺中地方法院臺北地方法院各判官高等法院覆審判官等に歷補し更に長崎控訴院判事に轉じ次で小倉區裁判所判事兼福岡地方裁判所小倉支部判事宮崎區裁判所監督判事那覇地方裁判所部長川內區兼鹿兒島地方裁判所川內支部判事に歷補し昭和六年現職に轉す家族は尙弟善之進(明一七、三生)同妻エン(同二六、二生、京都、橋本平三郎妹)及其子女あり(熊本市區裁判所內)

**中上豐吉**　從五位勳六等、遞信技師、工務局勤務、東京府在籍

妻　たま子　明二九、二生、東京、福井定吉庶子
男　一雄　大一五、一生

君は三重縣人中上庄次郎の弟にして明治二十四年一月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す同三年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し遞信局技手同技師遞信技師兼遞信局技師等に歷任し現時遞信技師にして工務局勤務たり大正十三年歐米各國に出張し昭和二年華府に於ける國際無線電信會議に同四年ヘーグに於ける國際無線技術諮問委員會に參列す著書に無線電信電話等あり又家族は尙二女ウメ子(大一一、二生)四女モト子(昭四、二生)あり(東京市外中野町住吉四)
參照＝※長谷川重太郎の項

**中上川三郎治**　千代田生命保險(互)取締役兼大阪支部長、南米拓殖(株)取締役、鐘淵紡績、池田農園各(株)監查役　東京府在籍

妻　蝶　明二九、七生、衆議院議員武藤山治長女
男　健一郎　大一〇、一二生

君は神奈川縣士族中上川次郎吉の弟にして明治十九年八月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す先是明治四十五年慶應義塾理財科を卒業し次で歐米に留學す現時千代田生命保險會社取締役兼大阪支部長にして又前記諸會社の重役たり家族は尙長女靜子(大六、四生)二男勝二郎(同一三、三生)ありA四〇〇〇(東京、芝、三田臺町一ノ二八電高輪七四七一)
參照＝中上川次郎吉、武藤山治※池田成彬※八木幸吉※吉澤清次郎の項

**中上川次郎吉**　千代田信託(株)取締役、電氣化學工業(株)監查役、神奈川縣士族

妻　愛　明二七、九生、東京、士、福島行信妹、香蘭女學校出身
男　彥一郎　大六、七生

當家は舊中津藩士にして先代彥次郎より顯る彥次郎幼にして福澤諭吉の薰陶を受け宇和島藩立洋學校に聘せられて教鞭を執る後慶應義塾に轉じ明治七年星亨等と共に英國に遊學す歸朝後外務省に出仕し外務書記官に任じ公信局長となり後官を辭し同十五年時事新報社を創業し社長となる次で山陽鐵道會社を創立し同社長に擧げられ更に三井家に入り多年同家の柱石として大に經營する所あり君は其二男にして明治十七年八月を以て生れ同三十四年兄太郎一の後を承け家督を相續す夙に慶應義塾に學び王子製紙會社に入り幾何もなく之を辭し現時千代田信託會社の外前記會社の重役たり家族は尙二男浪吉(大一三、八生)あり姉艷(明一五、四生)は山形縣士族池田成彬に妹ギン(同三二、一〇生)は東京府士族山尾忠治に嫁し弟三郎治(同一九、八生)同鐵四郎(同二〇、八生)同勇五郎(同二三、二生)は各分家し同小六郎(同二七、七生)も亦同妻富子(同三六、八生、東京、士、松方正雄長女、三輪田高女出身)を伴ひ分家せり(神奈川、鎌倉、鎌倉町三五九電鎌倉九三一)
參照＝池田成彬、中上川三郎治、福島行信、松方正雄※山田爲榮の項

**中川朝三郎**　藏備日日新聞社、大崎電氣各(株)取締役、廣島縣在籍

妻　トヨ　明一六、二生、廣島、木村猪三郎二女

君は廣島縣人小川松次郎の長男にして明治二年十一月を以て生れ同四十二年家督を相續す同二十三年早稻田大學邦語政治科を卒業し現時前記會社の重役たり曩に北備電氣會社取締役に擧げらる長女春海(明三〇、二生)は廣島縣人山口儀三郎に嫁し弟良作(同一一、一一生)は同妻タツコ(同二〇、二生、廣島、士、三上主一長女)を伴ひ分家せり(廣島、佐伯、古田町)

**中川伊作**　莫大小商　大阪府在籍

妻　つる　明一二、一一生、大阪、松本善助六女
男　清一　明三六、一一生、神戶高商出身
男　秀次　明四〇、九生、神戶高商出身
女　花子　明四三、九生、樟蔭高女出身
女　靜子　大三、一一生、淸水谷高女在學
女　君子　大四、一一生、淸水谷高女在學

君は兵庫縣人中川孫兵衞の長男にして明治八年十一月を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十二年メリヤス製造販賣を始め現今卸賣を以て三十年を貫く曩に大阪市聯盟理事在職中市長囑託明治神宮御造營奉仕大阪青年團長たり又同業組長たりし事あり現時商事調停委員たり臨濟禪宗を遵奉す弟孫市は別家せりA一八二三B四七六(大阪、東、南本町四ノ甲五一電船場二六〇五)

**中川榮一**　大阪三品取引所取引員　大阪府在籍

嫡母　とよ　明二一、四生、大阪、木村清彦四女
妻　千代子　明四〇、一生、兵庫、石黒行平長女
男　健一　昭二、九生
君は大阪府人中川正三郎の庶子にして明治三十四年三月を以て生れ昭和四年家督を相續す夙に中央大學商科を卒業し大阪合同紡績會社に入りしも現時家業を繼ぎ大阪三品取引所第一部第二部取引員たり家族は倚長女文(昭四、八生)叔母アサ(明一六、二生)あり同タミ(同一三、七生)は德島縣人田原兵次郎に嫁せりA二二〇二B五五二(大阪、東、北久寶寺町三ノ一三)
參照＝石黑行平の項

**中川喜義**　大東漁業(株)社長、合同電氣(株)監査役、高知縣在籍
妻　佐代　明二三、一生、養父治平長女
男　義隆　明四二、二生
君は高知縣人和田義倚の二男にして明治十三年七月を以て生れ同縣人中川治平の養子となり大正四年分れて一家を創立す明治四十年早稻田大學高等師範部を卒業し曩に土佐帆船土佐運輸德島水力電氣小濱電燈愛媛鐵道土佐セメント各會社の重役たりしが現時大東漁業會社長の外前記各會社の重役たり家族は倚四男義臣(大八、六生)長女喜佐(同一二、三生)五男義祐(同一五、四生)あり姉秀(明六、七生)は高知縣士族西本直太郎に嫁せり(高知市升形町四〇九)

**中川喜四郎**　ビロード商　東京府在籍
母　のふ　明一三、一一生、東京、大塚喜一郎妹
君は東京府人中川喜三郎の二男にして大正元年八月を以て生れ昭和二年家督を相續すビロード商を營む家族は倚姉ちゑ子(明四四、一生)あり同ゑい(同三八、五生)は分家せり(東京、日本橋、村松町一七電浪花七八五)
參照＝大塚喜一郎※坊野宗兵衞※山口吉兵衞の項

**中川吉造**　從三位勳三等、工學博士、內務技監、奈良縣在籍
妻　チツル　明八、九生、山口、士、飯田俊德長女、華族女學校出身
男　可久郎　明三三、六生、經濟學士、藤田銀行員
君は奈良縣人中川吉太郎の弟にして明治四年四月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治二十九年帝國大學工科大學を卒業し同三十年土木監督署技師に任ぜられ同三十八年內務技師となり大正八年東京土木出張所長に補せられ昭和三年內務技監に任ぜらる曩に土木事業視察の爲め歐米各國に差遣せられ又工學博士の學位を受く(東京、牛込、若松町一二一電牛込一八〇一)

**中川清**　大同電氣(株)監査役、東京電燈(株)技師、東京中部營業所長　山梨縣在籍
妻　總　明二四、二生、東京、吉田貞次郎長女
男　菊夫　昭二、一一生
女　多保　明四四、一生
君は山梨縣人中川亨の長男にして明治十四年一月を以て生れ同四十二年家督を相續す夙に東京高等工業學校を卒業し現時東京電燈會社技師にして東京中部營業所長たり又前記會社の重役を兼ぬ家族は倚弟豐(明二七、六生)あり姉きん(同一二、一二生)は山梨縣人鈴木吉右衞門長男利平に妹ともゑ(同二四、一〇生)は德島縣人山本三郎次二男文作に嫁せりA四三六(東京市外大久保町百人町二八五電四谷一四二〇)

**中川金藏**　從五位勳三等、陸軍少將、步兵第三旅團長、東京府在籍
妻　キン　明二四、七生、鹿兒島、士、河內禮藏長女
男　赳　明四四、二生
君は東京府人中川喜三郎の三男にして明治十四年五月を以て生れ大正七年甥喜久雄方より分れて一家を創立す夙に陸軍士官學校を卒業し明治三十五年陸軍少尉に任じ昭和二年陸軍少將に累進す現時步兵第三旅團長たり家族は倚二男彰(大二、一〇生)長女喜美子(同一〇、七生)三男朝孝(同一四、八生)あり(仙臺、東四番丁二一電三四四)

**中川國之助**　大倉商事(株)大阪支店營業部長　兵庫縣在籍
妻　レン　明二六、一生、大阪、西井猪之助三女
男　國夫　大一一、三生
君は大阪府人中川貞之助の弟にして明治八年六月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す現に大倉商事會社大阪支店營業部長たり家族は倚長女紀代子(大一三、二生)二男經治(昭二、七生)養子謹吾(大三、一生、愛媛、谷口龜治郎八男)あり(西宮、川尻町二六四〇ノ二電西宮八〇六)

**中川健二**　正五位勳五等、三菱航空機(株)參事名古屋製作所副長、東京府在籍
妻　光　明二一、三生、東京、小宮彝老長女
男　博夫　大一一、五生
君は東京府人中川眞節の二男にして明治十六年一月を以て生れ同十七年家督を相續す同四十一年東京帝國大學工科大學船用機關科を卒業し遞信省管船局橫須賀海軍工廠海軍艦政本部及東京帝國大學等に勤務し大正十年三菱航空機會社に入り現時同社參事にして名古屋製作所副長たり家族は倚二女淑子(大一五、八生)三女毬子(昭三、九生)ありA五一二(名古屋、南、熱田東町字外土居一二電南三四一三)

**中川健藏**　正四位勳三等、文部次官　新潟縣在籍
養母　マキ　安政五、九生、新潟、佐藤清見長女
妻　キヨ　明八、三生、養母マキ長女
男　清吾　明二七、一生、法學士、日本郵船會社員
婦　藏子　明三七、三生、長男清吾妻、海軍大佐川合昌吾二女、實踐女學校出身
男　整　明三〇、三生、早大出身、南滿洲鐵道會社員
婦　房江　明三二、三生、二男整妻、高知、大里熊次郎養子
男　晃成　明三八、八生、法學士
男　哲郎　明四二、一生、東京帝大在學
男　融　明四四、三生、東京帝大在學
女　壽子　大三、二生、聖心女子學院在學
君は新潟縣人山本傳十郎の二男にして明治八年七月を以て生れ先代マキの養子となり同三十七年家督を相續す同年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文官高等試驗に合格內務屬北海道廳法制局拓殖局各參事官遞信書記官兼高等海員審判所審判官遞信局長遞信省通信局長南滿洲鐵道會社理事香川熊本各縣知事北海道廳長官東京府知事等に歷任し昭和四年文部次官に任ぜらる



家族は倚三女田鶴子(大六、一生、御茶水高女在學)孫二三子(同一二、一一生、二男整長女)あり(東京、赤坂、青山南町五ノ四五電青山二三一)
參照＝※男爵大藏公望の項

**中川謙**　三井生命保險(株)廣島支店長　廣島縣在籍
男　惠一　大四、七生
女　愛子　大三、六生
君は東京府人中川藤四郎の二男にして明治十八年五月を以て生れ昭和五年兄愼方より分れて一家を創立す明治四十三年慶應義塾理財科卒業多年三井銀行に勤務し昭和二年三井生命保險會社に入り名古屋支店長を經て同四年廣島支店長となり現在に至る家族は倚二女德子(大一〇、三生)三女恭子(同一二、七生)あり(廣島市大手町八ノ二電三六六三)

**中川謙三**　萬年社(株)代表取締役　兵庫縣在籍
父　小重郎　安政二、三生
妻　こりん　明二〇、六生、兵庫、鈴木晉吉長女
男　敏雄　明四〇、六生、京都帝大在學
女　照子　明四四、四生
女　キミヨ　大二、三生
女　ミヤ子　大五、一生
君は兵庫縣人中川小重郎の長男にして明治十三年四月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治三十九年萬年社に入り爾來累進して現時同社代表取締役たり家族は倚三男勝(大八、二生)四男明(同一〇、九生)五女裕子(同一二、三生)ありA一〇〇七(大阪、天王寺、烏ヶ辻町一九電南七一一七)

**中川小十郎**　從四位勳三等、貴族院議員、立命館大學館長、京都商工會議所顧問、東洋製鐵、東京山手急行電鐵各(株)取締役、京都府在籍
妻　好榮　明六、一二生、京都、草木邦彥姉
養子　重一　大一二、五生、分家庶子幹太長男
君は京都府人中川祿左衞門の長男にして慶應二年一月を以て生れ先代武平太の養子となり明治十六年家督を相續す同二十六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文部大臣秘書官文部省參事官京都帝國大學書記官文部書記官文部大臣秘書官內閣總理大臣秘書官兼內閣書記官樺太廳書記官等に歷任し曩に貴族院議員に勅選せられ倚前記の職に在り庶子幹太(明一七、一一生、生母、京都、中澤かめ)は分家せり(東京市外戶塚町諏訪一九電牛込二二七七)

**中川孝太郎**　正五位勳四等、法學博士、辯護士　京都府士族
妻　疊　明一四、一生、東京、長持明德長女
男　倚　明四一、五生
中川家は代々京都に住し醫業を以て宮家に仕へたる家柄なるも先代恭雄市井に醫を開業す君は其長男にして明治六年十月を以て生れ同二十八年家督を相續す同三十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し更に大學院に學び同三十三年檢事に任じ東京區裁判所檢事に補す同年東京帝國大學法科大學助教授に任じ同年刑事訴訟法研究のため獨佛英各國に留學し歸朝後同大學教授に進み同三十七年法學博士の學位を授けらる同四十五年退官し辯護士となり現に其業務に從事す家族は倚弟稿次(明一二、六生)あり長女春(同三八、四生、東京女學館出身)は東京府人德田敬二郎に嫁せりA五四四(東京市外品川町北品川宿御殿山七一八電高輪六二五)

**中川維則**　正五位、陸軍工兵少尉、明治專門學校教授、九州帝國大學工學部講師、福岡縣在籍
母　ツネ　安政元、二生、神奈川、出繩泰藏姉
妻　末　明二九、三生、長野、中川孫一姉
男　中夫　大三、三生
君は神奈川縣人出繩善太郎の二男にして明治十四年六月を以て生れ後中川隣之輔の養子となり同四十一年分れて一家を創立す同三十七年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業し直ちに農商務省及東京鑛務署に奉職し同四十一年獨逸に留學し同四十三年私立明治專門學校教授囑託となり大正十年同校文部省に移管と共に引續き教授に任ぜられ現に其職に在り家族は倚二男和夫(大五、一生)三男文夫(同七、三生)四男芳夫(同一一、五生)五男正夫(同一五、一生)六男忠夫(昭三、八生)あり(戶畑、明治專門學校內官舍電三)

**中川定二郎**　森永製品關西販賣(株)專務取締役、山城製茶、森永煉乳各(株)監査役　大阪府在籍
妻　サク　明一七、九生、養父定二郎三女
男　米太郎　明三六、四生
男　要三　明四四、七生
中川家は古くより大阪に定住し代々飴商を營みたる舊家なり君は石川縣士族西阪滕美の弟にして明治十六年二月を以て生れ同三十六年先代定二郎の養子となり同年家督を相續し前名次松を改め襲名す祖業を廢し和洋菓子卸業を始め森永製品會社の興るや其製品販賣の特約店となり大正十年市內同業者を糾合して森友商會を創立し是が事務取締役に就任せしが現時前記會社の重役たり家族は倚四男彥四郎(大元、九生)五男德次(同五、二生)あり長女ツヤ(明三八、二生)同夫元(同二九、一〇生、鳥取、安田敎信二男)は其一子を伴ひ分家せりA二二六(大阪、東、內本町橋詰三九電東二四八〇)

**中川三右衞門**　岐阜商工會議所議員、岐阜木材、谷汲鐵道、岐阜土地興業各(株)取締役、材木商、岐阜縣在籍
妻　はま　明六、二生、岐阜、西村吉三郎三女
男　森夫　明三四、四生
婦　ひで　明三七、二生、長男森夫妻、岐阜毛利永吉四女
君は福井縣人中川榮吉の長男にして明治元年十二月を以て生れ同十六年家督を相續す材木商を營み現時前記各會社の重役にして推されて岐阜商工會議所議員たり家族は倚庶子三代子(大九、八生、生母、岐阜、大野たきの)同幸一(同一一、一〇生、生母同上)孫隆太郎(同一三、四生、長男森夫長男)同菊子(同一四、一〇生、同長女)同千榮子(昭三、八生、同二女)あり二女たけ(明三一、八生)は愛知縣人紳谷小一に嫁し弟作松(同一〇、五生)同妻きみ(同七、一二生、富永錄吉三女)は共に分家せり(岐阜市住之江町一ノ二七四九ノ四)

**中川茂次**　帝國護謨電線(株)取締役、高橋製帽所(株)監査役、大阪府在籍
妻　美旗　明一三、一一生、大阪、榊原信長女
男　茂一　明三一、九生
婦　升　明三九、一〇生、長男茂一妻、奈良、藤山一雅長女
男　次郎　明三五、一一生